

Syllabus2017

シラバス (教授要目)

北陸学院大学

Realize Your Mission

あなたの使命を実現しよう

学 事 曆

4月 (APR)						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

10月 (OCT)						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

5月 (MAY)						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11月 (NOV)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

6月 (JUN)						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12月 (DEC)						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

7月 (JUL)						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

1月 (JAN)						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月 (AUG)						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2月 (FEB)						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

9月 (SEP)						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

3月 (MAR)						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

- 3月22日(水)～24日(金) 前期第1次履修登録期間
- 3月30日(木)～3月31日(金) 前期第2次履修登録期間
- 3月30日(木)～4月6日(木) オリエンテーション期間
- 4月3日(月) 入学式(午後)
- 4月7日(金) 前期授業開始
- 4月13日(木)～14日(金) 前期履修登録変更期間

- 5月6日(土) Enjoy!ミッション
- 5月16日(火) 金曜代替講義日
- 5月19日(金)～20日(土) 北陸学院セミナーⅠ(1年)
- 5月19日(金) 2～4年全学休講
- 6月14日(水) 特別伝道礼拝(1・3年)

- 7月27日(木) 前期授業終了
- 7月28日(金)～8月3日(木) 前期試験期間
- 8月4日(金)～9月18日(月) 夏期休業期間(補講・集中講義・学外実習)

- 9月6日(水)～8日(金) 後期第1次履修登録期間
- 9月9日(土) 北陸学院創立記念日
- 9月13日(水)～15日(金) 後期第2次履修登録期間
- 9月19日(火) 後期授業開始
- 9月28日(木)～29日(金) 後期履修登録変更期間
- 10月4日(水) 特別伝道礼拝(2・4年)
- 10月17日(火) 木曜代替講義日
- 10月18日(水) 金曜代替講義日
- 10月19日(木) 大学祭準備(休講)
- 10月20日(金)～21日(土) 大学祭(栄光祭)

- 11月3日(金) 通常授業の日
- 11月7日(火) 金曜代替講義日
- 11月10日(金)～11日(土) 北陸学院セミナーⅡ(2年)
- 11月10日(金) 1・3～4年全学休講
- 11月29日(水) クリスマス・ツリー点灯式(5限振替)
- 12月22日(金) クリスマス礼拝(休講)
- 12月26日(火) 全学休校予備日
- 12月28日(木)～1月8日(月) 冬期休業期間(補講・集中講義)

- 1月23日(火) 後期授業終了
- 1月24日(水) 全学休校予備日
- 1月25日(木)～26日(金) 補講日
- 1月29日(月)～2月3日(土) 後期試験期間
- 2月4日(日)～3月31日(土) 春期休業期間(補講・集中講義・学外実習)

- 2月23日(金) 卒業者発表
- 3月12日(月) 卒業感謝礼拝
- 3月13日(火) 卒業証書・学位記授与式

まえがき

この「教授要目」は、2017年度に開講する学科目の授業計画を記載したものです。

「教授要目」は、Syllabus（シラバス）と呼ばれ、各学科目の授業内容を授業時間毎に紹介しているものです。

したがって、それぞれの学科目の具体的内容を表しているものとして、大変重要な資料です。

授業はここに示された計画に従って進められますが、進行状況によっては一部内容が変更される場合もあります。

みなさんは、各授業の履修に先立って、「教授要目」をよく読んで、授業のねらいや内容をよく把握しておいてください。予習や復習はもちろん、学科目の選択に際しても、参考になります。

「教授要目」は、在学中および卒業後も大切に保管してください。他大学や公的教育機関へ編入学をする際にも必要な資料として用いられます。

この「教授要目」を大いに活用して、学修の一層の活性化を図ってください。

子ども教育学科

1. 教育について（教育理念、AP・CP・DP）

（1）教育理念、AP・CP・DP

教育理念

北陸学院大学は、キリスト教精神に基づいて人間についての理解と学びを教育や社会の視点から総合的にとらえ、知識を統合していくことを教育及び研究上の目的とし、その達成を通じて専門的知識とともに幅広い教養に裏打ちされた心の豊かさや人間的資質を備えた人材の育成を目指します。

アドミッションポリシー（AP）

北陸学院大学では、聖書に示された愛の精神に基づき、人と地域社会に貢献できる人材の育成を目指し、以下の入学生を受け入れます。

- ① 専門的な知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している者（*）
- ② 物事を多面的かつ論理的に考察することができる者
- ③ 自己の考えを的確に表現し、伝えることができる者
- ④ 北陸学院のスクールモットーである「Realize Your Mission（あなたの使命を実現しよう）」という精神に賛同する者
- ⑤ 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭（英語）を目指し、学業に意欲的に取り組むことができる者
- ⑥ 人間の発達や成長に関心のある者

*入学に際し基礎学力テストを実施して、英語・日本語の基礎学力が不足している場合には、「英語基礎」、「日本語基礎」の学びを義務づけます。

カリキュラムポリシー（CP）

北陸学院大学では、教育理念に掲げた人材を育成するために、人間総合学部には社会学科と子ども教育学科を置き、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成します。

- ① 学部の掲げるディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を達成するために、4つの科目群を配置し、系統的な履修を促す。「全学共通科目」群（「北陸学院科目」、「総合教養科目」、「言語教育科目」、「スポーツ・健康科目」、「キャリア教育科目」）、「基幹科目」群、「学科専門科目」群、「資格科目」群
- ② 学生の学修能力の発達状況に合わせた段階的な科目配置を行う。大学での学びに必要なスタディスキルズから始まり、主体的な学びに必要な課題探究能力、批判的分析思考能力、情報リテラシー、コミュニケーション能力など、社会において欠くことのできない能力の育成を達成するために、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」（1年次）、「プロゼミA・B」（2年次）、「専門ゼミⅠ」（3年次）、「専門ゼミⅡ」（4年次）などを配置する。
- ③ 学生が自ら目指す進路・資格取得に必要な学習を支援するための学科別教育課程を

配置する。

- ④ 専門的な知識と方法論を系統立てて学ぶために「小学校・中学校教育コース」、「幼児・児童教育コース」、「幼児教育・保育コース」を置く。
- ⑤ 1年次より現場体験学習を重視し、理論的学びと連動させる。
- ⑥ 人格形成や教育科学の視点から、子どもの育ちや発達に関する学科専門科目を配置する。
- ⑦ 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭（英語）の資格科目を配置する。

ディプロマポリシー（DP）

北陸学院大学では、以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

（知識・理解）

- ① 全学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養を身につけている。

（関心・意欲）

- ② 学科での学びを通して、自ら課題を設定して探究することができる。

（技能・態度）

- ③ 4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によつて的確に他者に伝えることができる。

（知識・理解）

- ④ 幼児教育及び初等・中等教育において、保育者・教育者の役割や職務内容をよく理解している。

（思考・判断）

- ⑤ 子どもの育ちや発達、英語・英語教育に関する専門的知識に基づき、幼・小・中の教育連携、自らの教育観並びに保育観、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。

（態度）

- ⑥ 子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子どもや保護者に寄り添って自らの教育観並びに保育観、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。

2. カリキュラム体系

（科目のナンバリングについて）

（1）全学共通科目

H G：北陸学院科目

G E：総合教養

L J：言語教育（日本語）

L E：言語教育（英語）

L C：言語教育（中国語）

L F：言語教育（フランス語）

P E：スポーツ・健康

H C : キャリア教育

(2) 学科科目 (基幹科目・学科専門科目・資格科目)

E 子ども教育

E K 基幹科目 *Key

E L 英会話 *Language

E S 「中学校教諭」科目 *Secondary

E E 「小学校教諭」科目 *Elementary

E C 「幼児・児童教育」科目 *Childhood

E N 「保育教諭」科目 *Nursing

E D 心理学・教育科学科目 *Education

E T 資格科目 (実習関係科目) *Teacher Certificate

注1) 基礎科目を100番台 (主として1年次)、学科専門200番台 (主として2年次)、300番台 (主として3、4年次)

注2) 開講学年にはこだわらず、その科目の難易度、専門的位置づけによる。

子ども教育学科（カリキュラム体系図）

E K：基幹科目

E L：英会話

E S：「中学校教諭」科目

E E：「小学校教諭」科目

<300番台>

EK360U 卒業研究			EE362U 教育相談（小・中）
EK350U キリスト教と教育			EE350U 小学校英語科教育法Ⅲ
EK340U 教育学理論研究			EE345U 小学校英語科教育法Ⅱ
EK335U 教育学文献講読B3			EE340U 体育科教育法
EK330U 教育学文献講読B2		ES355U 英語科教育法Ⅳ	EE335U 家庭科教育法
EK325U 教育学文献講読B1		ES350U 英語科教育法Ⅲ	EE330U 音楽科教育法
EK320U 教育学文献講読A3		ES340U コミュニティ・イングリッシュB	EE325U 図画工作教育法
EK315U 教育学文献講読A2		ES330U 英米文学Ⅱ	EE320U 生活科教育法
EK310U 教育学文献講読A1		ES320U 言語教育のための英文法Ⅱ	EE315U 理科教育法
EK305U 専門ゼミⅡ	EL320U ムービー・イングリッシュB	ES310U 英語音声学Ⅱ	EE310U 算数科教育法
EK300U 専門ゼミⅠ	EL310U ムービー・イングリッシュA	ES300U 英語学概論Ⅱ	EE305U 国語科教育法（書写を含む）
			EE300U 社会科教育法

<200番台>

EK260U 比較教育学		ES265U 英語科教育法Ⅱ	EE242U 生徒・進路指導論（小・中）
EK250U 教育史		ES260U 英語科教育法Ⅰ	EE237U 教育課程編成論（小・中）
EK240U 初歩文献講読		ES250U コミュニティ・イングリッシュA	EE232U 特別活動指導論（小・中）
EK230U 教育心理学	EL240U ビジネス・イングリッシュB	ES240U 欧米の児童文学	EE227U 道德教育指導論（小・中）
EK220U 発達心理学	EL230U ビジネス・イングリッシュA	ES230U 英米文学Ⅰ	EE220U 小学校英語科教育法Ⅰ
EK210U プロゼミB	EL220U トラベル・イングリッシュB	ES220U 言語教育のための英文法Ⅰ	EE215U 家庭
EK200U プロゼミA	EL210U トラベル・イングリッシュA	ES210U 英語音声学Ⅰ	EE210U 理科
		ES200U 英語学概論Ⅰ	EE200U 社会

<100番台>

EK150U 発達支援論		
EK140U 教職論		
EK130U 教育学概論		
EK120U 地域社会と子ども		
EK110U 基礎ゼミⅡ	EL110U プラクティカル・イングリッシュ	
EK100U 基礎ゼミⅠ	EL100U コミュニケーション・イングリッシュ	

<090番台>

EC：「幼児・児童教育」科目

EN：「保育教諭」科目

ED：心理学・教育科学科目

ET：資格科目（実習関係科目）

<300番台>

EC345U 幼児理解				ET385U 教職実践演習(幼・小・中)
EC340U 保育内容・表現Ⅱ				ET380U 教職実践演習(幼・保)
EC335U 保育内容・人間関係Ⅱ	EN330U 保育カウンセリング	ED335U 発達臨床心理学		ET370U 中学校教育実習Ⅱ
EC330U 保育内容・言葉Ⅱ	EN325U 乳児保育Ⅱ	ED330U 心理面接技法		ET365U 中学校教育実習Ⅰ
EC325U 保育内容・健康Ⅱ	EN320U 家庭支援論	ED325U 心理療法		ET360U 中学校教育実習指導
EC320U 保育内容・環境Ⅱ	EN315U 子どもの食と栄養	ED320U 感情心理学		ET340U 介護等体験
EC310U 教育実践研究B	EN310U 子どもの保健Ⅱ	ED315U 認知心理学		ET335U 保育実習Ⅲ(施設)
EC305U 教育実践研究A	EN305U 相談援助技術	ED310U 社会心理学B		ET330U 保育実習指導Ⅲ
EC300U 選択音楽	EN300U 児童家庭福祉論Ⅱ	ED305U 社会心理学A		ET325U 保育実習Ⅱ(保育所)
		ED300U 心理学研究法B		ET320U 保育実習指導Ⅱ
				ET315U 小学校教育実習Ⅱ
				ET310U 小学校教育実習指導Ⅱ
				ET305U 幼稚園教育実習Ⅱ
				ET300U 幼稚園教育実習指導Ⅱ

<200番台>

EC280U 保育内容・表現Ⅰ				
EC275U 保育内容・人間関係Ⅰ				
EC270U 保育内容・言葉Ⅰ				
EC265U 保育内容・健康Ⅰ				
EC260U 保育内容・環境Ⅰ		ED260U 臨床心理学		
EC255U 保育内容総論		ED255U 人格心理学		
EC250U 保育課程論		ED250U 心理学実験実習Ⅱ		
EC245U 器楽Ⅱ		ED245U 心理検査法		
EC240U 子どもと法	EN290U 身体表現	ED240U 心理統計学Ⅱ		
EC237U 教育方法論(幼・小・中)	EN285U 児童文化	ED235U 人間関係論		ET235U 保育実習Ⅰ(保育所)
EC230U 教育社会学	EN280U 障がい児保育	ED230U 心理学実験実習Ⅰ		ET230U 保育実習指導Ⅰ(保育所)
EC225U 体育	EN275U 乳児保育Ⅰ	ED225U 心理学研究法A		ET225U 保育実習Ⅰ(施設)
EC220U 音楽	EN270U 子どもの保健ⅠB	ED220U 心理統計学Ⅰ		ET220U 保育実習指導Ⅰ(施設)
EC215U 図画工作	EN265U 子どもの保健ⅠA	ED215U 郷土の文学を楽しむ		ET215U 小学校教育実習Ⅰ
EC210U 生活	EN260U 社会的養護内容	ED210U 絵本論		ET210U 小学校教育実習指導Ⅰ
EC205U 算数	EN255U 社会的養護	ED205U 児童文学		ET205U 幼稚園教育実習Ⅰ
EC200U 国語	EN250U 児童家庭福祉論Ⅰ	ED200U 異文化間コミュニケーション論		ET200U 幼稚園教育実習指導Ⅰ

<100番台>

	EN165U 音楽表現Ⅱ	
	EN160U 音楽表現Ⅰ	
EC110U 器楽Ⅰ	EN155U 社会福祉	ED105U 心理学概論B
EC100U 日本国憲法	EN150U 保育原理	ED100U 心理学概論A

<090番台>

EC090U 器楽入門◆

社会学科

1. 教育について（教育理念、AP・CP・DP）

教育理念

北陸学院大学は、キリスト教精神に基づいて人間についての理解と学びを教育や社会の視点から総合的にとらえ、知識を統合していくことを教育及び研究上の目的とし、その達成を通じて専門的知識とともに幅広い教養に裏打ちされた心の豊かさや人間的資質を備えた人材の育成を目指します。

アドミッションポリシー（AP）

北陸学院大学では、聖書に示された愛の精神に基づき、人と地域社会に貢献できる人材の育成を目指し、以下の入学生を受け入れます。

- ① 専門的な知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している者（*）
- ② 物事を多面的かつ論理的に考察することができる者
- ③ 自己の考えを的確に表現し、伝えることができる者
- ④ 北陸学院のスクールモットーである「Realize Your Mission（あなたの使命を実現しよう）」という精神に賛同する者
- ⑤ 社会のさまざまな課題に意欲的に取り組むことができる者

*入学時に基礎学力テストを実施して、英語・日本語の基礎学力が不足している場合には、「英語基礎」、「日本語基礎」の学びを義務づけます。

カリキュラムポリシー（CP）

北陸学院大学では、教育理念に掲げた人材を育成するために、人間総合学部には社会学科と子ども教育学科を置き、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成します。

- ① 学部の掲げるディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を達成するために、4つの科目群を配置し、系統的な履修を促す。「全学共通科目」群（「北陸学院科目」、「総合教養科目」、「言語教育科目」、「スポーツ・健康科目」、「キャリア教育科目」）、「基幹科目」群、「学科専門科目」群、「資格科目」群
- ② 学生の学修能力の発達状況に合わせた段階的な科目配置を行う。大学での学びに必要なスタディスキルズから始まり、主体的な学びに必要な課題探究能力、批判的分析思考能力、情報リテラシー、コミュニケーション能力など、社会において欠くことのできない能力の育成を達成するために、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」（1年次）、「プロゼミA・B」（2年次）、「専門ゼミⅠ」（3年次）、「専門ゼミⅡ」（4年次）などを配置する。
- ③ 学生が自ら目指す進路・資格取得に必要な学習を支援するための学科別教育課程を配置する。

- ④ 社会への理解を深めるために、データに基づき社会の様々な現象を検証する技能を理論的に身につけることを重視する。
- ⑤ 1年次では、社会学とその関連領域および社会調査に関する基礎的な知識・技能を学び、2年次からの専門的な学びにつなげる。2年次以降に、学科専門科目の基礎となる科目群として「基本科目」、より専門性の高い「応用領域」として「文化と共生」、「くらしと政策」、「心理と社会」の科目群を配置する。
- ⑥ 自らの専門性と学習目標を認識し、系統的に履修できるよう、上記の科目の組み合わせより「現代社会・国際理解コース」、「心理・カウンセリングコース」、「環境福祉マネジメントコース」、「政治経済・経営コース」、「情報・図書館司書コース」の履修モデルコースを示す。
- ⑦ 社会福祉士、スクールソーシャルワーカー、認定心理士、社会調査士および司書に関連する資格科目を配置する。

ディプロマポリシー（DP）

北陸学院大学では、以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

(知識・理解)

- ① 全学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養を身につけている。

(関心・意欲)

- ② 学科での学びを通して、自ら課題を設定して探究することができる。

(技能・態度)

- ③ 4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によつて的確に他者に伝えることができる。

(知識・理解)

- ④ 現代社会が直面する問題を、社会学を中心に心理学・社会福祉学などのその他関連領域の理論と実証的データに基づいて理解できる。

(態度)

- ⑤ 現代社会が直面する問題の解決のために、自ら設定した課題を探究し、貢献できる。

(技能)

- ⑥ 現代社会が直面する問題の解明のために、実験・社会調査・フィールドワークができる。

2. カリキュラム体系

(科目のナンバリングについて)

(1) 全学共通科目

H G : 北陸学院科目

G E : 総合教養

L J : 言語教育 (日本語)

LE：言語教育（英語）
LC：言語教育（中国語）
LF：言語教育（フランス語）
PE：スポーツ・健康
HC：キャリア教育

(2) 学科科目（基幹科目・学科専門科目・資格科目）

S 社会学
SK 基幹科目 *Key
SO 基本・共通科目 *Sociology
SC 「文化と共生」科目 *Culture, Congruity
SL 「くらしと政策」科目 *Living
SP 「心理と社会」科目 *Psychology
SW 「社会福祉士国家試験受験資格」科目 *Welfare
SS 「スクールソーシャルワーク」科目 *School
SB 「司書資格」科目 *Books

注1) 基礎科目を100番台（主として1年次）、学科専門200番台（主として2年次）、300番台（主として3、4年次）

注2) 開講学年にはこだわらず、その科目の難易度、専門的位置づけによる。

社会学科（カリキュラム体系図）

E K：基幹科目

S O：基本・共通科目

S C：「文化と共生」科目

S L：「くらしと政策」科目

<300番台>

SK310U 卒業研究				SL345U 経済学Ⅳ
SK305U 専門ゼミⅡ				SL340U 経済学Ⅲ
SK300U 専門ゼミⅠ				SL335U マーケティング論
				SL330U 地域環境マネジメント論
			SC320U メディア文化論	SL325U 社会貢献実習
			SC315U 社会病理学	SL320U 地域社会政策論
			SC310U 犯罪社会学	SL315U 政治学
			SC305U 教育社会学	SL310U 法律学
			SC300U 石川の伝統文化と産業	SL300U 地域行政入門
	SO305U 社会調査実習			
	SO300U 応用心理社会統計法			

<200番台>

				SL235U 環境と開発
				SL230U 経済学Ⅱ
				SL225U 経済学Ⅰ
				SL220U 情報技術論
				SL215U 障害者スポーツ
				SL210U 障害者福祉論
				SL205U 高齢者福祉論
				SL200U 社会貢献論
SK210U 質的研究法	SO225U 心理統計学Ⅱ		SC220U グローバル社会論	
SK205U プロゼミB	SO220U 環境社会学		SC215U 多文化共生論	
SK200U プロゼミA	SO215U 都市社会学		SC210U 社会と言語	
	SO210U 家族社会学		SC205U 若者文化論	
	SO205U 社会学理論		SC200U 宗教と社会	
	SO200U 心理統計学Ⅰ			

<100番台>

SK135U 統計データの読み方				
SK130U 社会調査法				
SK125U 社会調査論				
SK120U 社会学概論B	SO125U 心理学概論B			
SK115U 社会学概論A	SO120U 心理学概論A			
SK110U 社会学リレー講義	SO115U 現代社会と福祉Ⅱ			
SK105U 基礎ゼミⅡ	SO110U 現代社会と福祉Ⅰ			
SK100U 基礎ゼミⅠ	SO105U 文化人類学			SL105U 経営学入門
	SO100U データ処理基礎			SL100U 図書館概論

<090番台>

SP：「心理と社会」科目

SW：「社会福祉士国家試験
受験資格」科目

SS：「スクールソーシャル
ワーク」科目

SB：「司書資格」科目

<300番台>

	SW370U 相談援助実習Ⅱ		
	SW365U 相談援助実習Ⅰ		
	SW360U 相談援助実習指導Ⅲ		
	SW355U 相談援助実習指導Ⅱ		
	SW350U 相談援助実習指導Ⅰ		
	SW345U 相談援助演習Ⅴ		
	SW340U 相談援助演習Ⅳ		
	SW335U 相談援助演習Ⅲ		
	SW330U 就労支援サービス		
	SW325U 保健医療サービス		
	SW320U 公的扶助論	SS320U スクールソーシャルワーク実習	
	SW315U 福祉サービスの組織と経営	SS315U スクールソーシャルワーク実習指導	
	SW310U 福祉行政と福祉計画	SS310U スクールソーシャルワーク演習	
	SW305U 相談援助の理論と方法Ⅳ	SS305U スクールソーシャルワーク論	
	SW300U 相談援助の理論と方法Ⅲ	SS300U 精神保健学	
SP335U 発達臨床心理学			SB340U 図書館実習
SP330U 心理面接技法			SB335U 図書・図書館史
SP325U 心理療法			SB330U 図書館情報資源概論
SP320U 感情心理学			SB325U 情報資源組織演習Ⅱ
SP315U 認知心理学			SB320U 情報資源組織演習Ⅰ
SP310U 社会心理学B			SB315U 情報サービス演習Ⅱ
SP305U 社会心理学A			SB310U 情報サービス演習Ⅰ
SP300U 心理学研究法B			SB305U 図書館制度・経営論
			SB300U 児童サービス論

<200番台>

SP240U 臨床心理学			
SP235U 人格心理学			
SP230U 教育心理学			
SP225U 発達心理学	SW225U 相談援助演習Ⅱ		
SP220U 人間関係論	SW220U 相談援助演習Ⅰ		
SP215U 心理検査法	SW215U 社会保障論		
SP210U 心理学研究法A	SW210U 相談援助の理論と方法Ⅱ		SB210U 情報資源組織論
SP205U 心理学実験実習Ⅱ	SW205U 相談援助の理論と方法Ⅰ		SB205U 情報サービス論
SP200U 心理学実験実習Ⅰ	SW200U 相談援助の基盤と専門職		SB200U 図書館サービス概論

<100番台>

SW105U 児童福祉論		
SW100U 地域福祉論		SB100U 生涯学習概論

<090番台>

全学共通科目	
1～2年次	1～58
子ども教育学科	
1年次	59～87
幼児児童教育学科	
2年次	89～144
3～4年次	145～208
社会学科	
1年次	209～228
2年次	229～270
3～4年次	271～314
教職員録	315～316
案内図	317～320

カリキュラム 目次

※頁番号が一の科目は、2017年度開講せず

全学共通科目 (1～2年次)

〔北陸学院科目〕

HG100U	北陸学院セミナー I	3
HG200U	北陸学院セミナー II	4
HG110U	キリスト教概論 I	5
HG120U	キリスト教概論 II	6
HG130U	キリスト教人間論 I	7
HG140U	キリスト教人間論 II	8

〔総合教養科目〕

GE100U	総合教養 A I	9
GE110U	総合教養 A II	10
GE120U	総合教養 B I	11
GE130U	総合教養 B II	12
GE140U	総合教養 C I	13
GE150U	総合教養 C II	14
GE160U	総合教養 D I	15
GE170U	総合教養 D II	16

〔言語教育科目〕

LJ090U	日本語基礎	17
LJ110U	日本語表現法 I	18
LJ120U	日本語表現法 II	19
LE090U	英語基礎	20
LE155U	英語 A I	21
LE160U	英語 A II	22
LE145U	英語 B I	23
LE150U	英語 B II	24
LE135U	英語 C I	25
LE140U	英語 C II	26
LE125U	英語 D I	27
LE130U	英語 D II	28
LE115U	英語 E I	29
LE120U	英語 E II	30
LE105U	英語 F I	31
LE110U	英語 F II	32
LE165U	アクティブ・イングリッシュ A	33
LE170U	アクティブ・イングリッシュ B	34
LE175U	アクティブ・イングリッシュ C	35
LC100U	中国語 I	36
LC110U	中国語 II	37
LF100U	フランス語 I	38
LF110U	フランス語 II	39

〔スポーツ・健康科目〕

PE100U	生涯スポーツ A	40～42
PE110U	生涯スポーツ B	43～45
PE120U	健康科学	46

〔キャリア教育科目〕

HC100U	キャリアデザイン I	47～48
HC110U	キャリアデザイン II	49～50
HC200U	キャリアデザイン III	51～52
HC210U	キャリアデザイン IV	53～54
HC160U	情報機器演習 A	55～56
HC170U	情報機器演習 B	57～58

子ども教育学科 (1年次)

〔基幹科目〕

EK100U	基礎ゼミ I	61
EK110U	基礎ゼミ II	62
EK120U	地域社会と子ども	63
EK130U	教育学概論	64
EK140U	教職論	65
EK150U	発達支援論	66

〔学科専門科目〕

ES200U	英語学概論 I	67
ES300U	英語学概論 II	68
ES210U	英語音声学 I	69
ES310U	英語音声学 II	70
ES220U	言語教育のための英文法 I	71
ES320U	言語教育のための英文法 II	72
EL100U	コミュニケーション・イングリッシュ	73
EL110U	プラクティカル・イングリッシュ	74
EE200U	社会	75
EC100U	日本国憲法	76
EC210U	生活	77
EC215U	図画工作	78
EC090U	器楽入門	79
EC110U	器楽 I	80
EC260U	保育内容・環境 I	81
EN150U	保育原理	82
EN155U	社会福祉	83
EN160U	音楽表現 I	84
EN165U	音楽表現 II	85
ED100U	心理学概論 A	86
ED105U	心理学概論 B	87

幼児児童教育学科 (2年次)

〔基幹科目〕

EK100U	基礎ゼミⅠ	—
EK110U	基礎ゼミⅡ	—
EK200U	プロゼミA	91
EK210U	プロゼミB	92
EK120U	地域社会と子ども	—
EK130U	教育学概論	—
EK140U	教職論	—
EK150U	発達支援論	—
EK220U	発達心理学	93
EK230U	教育心理学	94
EK240U	初歩文献講読	95

〔学科専門科目〕

EE210U	理科	96
EE200U	社会	97
EE215U	家庭	98
EE310U	算数科教育法	99
EE315U	理科教育法	100
EE300U	社会科教育法	101
EE320U	生活科教育法	102
EE325U	図画工作教育法	103
EE330U	音楽科教育法	104
EE335U	家庭科教育法	105
EE235U	教育課程編成論	106
EE225U	道徳教育指導論	107
EE230U	特別活動指導論	108
EC100U	日本国憲法	—
EC200U	国語	109
EC205U	算数	110～111
EC210U	生活	—
EC215U	図画工作	—
EC220U	音楽	112
EC090U	器楽入門	—
EC110U	器楽Ⅰ	—
EC245U	器楽Ⅱ	113
EC250U	保育課程論	114
EC255U	保育内容総論	115
EC260U	保育内容・環境Ⅰ	—
EC265U	保育内容・健康Ⅰ	116
EC270U	保育内容・言葉Ⅰ	117
EC275U	保育内容・人間関係Ⅰ	118
EC280U	保育内容・表現Ⅰ	119
EN150U	保育原理	—
EN250U	児童家庭福祉論Ⅰ	120
EN155U	社会福祉	—

EN255U	社会的養護	121
EN260U	社会的養護内容	122
EN265U	子どもの保健ⅠA	123
EN270U	子どもの保健ⅠB	124
EN280U	障がい児保育	125
EN160U	音楽表現Ⅰ	—
EN165U	音楽表現Ⅱ	—
EN285U	児童文化	126
ED200U	異文化間コミュニケーション論	127
ED205U	児童文学	128
ED215U	郷土の文学を楽しむ	129
ED100U	心理学概論A	—
ED105U	心理学概論B	—
ED220U	心理統計学Ⅰ	130
ED240U	心理統計学Ⅱ	131
ED225U	心理学研究法A	132
ED245U	心理検査法	133
ED230U	心理学実験実習Ⅰ	134
ED250U	心理学実験実習Ⅱ	135
ED235U	人間関係論	136
ED255U	人格心理学	137
ED260U	臨床心理学	138

〔学科専門科目〕

ET200U	幼稚園教育実習指導Ⅰ	139
ET205U	幼稚園教育実習Ⅰ	140
ET210U	小学校教育実習指導Ⅰ	141
ET215U	小学校教育実習Ⅰ	142
ET220U	保育実習指導Ⅰ(施設)	143
ET225U	保育実習Ⅰ(施設)	144

幼児児童教育学科 (3～4年次)

〔基幹科目〕

基礎ゼミⅠ	—
基礎ゼミⅡ	—
プロゼミA	—
プロゼミB	—
専門ゼミⅠ	147～148
専門ゼミⅡ	149～150
卒業研究	151～152
教育学概論	—
地域社会と子ども	—
発達支援論	—
教職論	—
教育史	153
発達心理学	—
教育心理学	—

比較発達教育学	—
教育学文献講読Ⅰ	154～155
教育学文献講読Ⅱ	156～157
〔学科専門科目〕	
日本国憲法	—
国語	—
算数	—
生活	—
音楽	—
図画工作	—
児童体育	158
教育社会学	159
教育方法論	160
保育課程論	—
保育内容総論	—
保育内容・健康Ⅰ	—
保育内容・人間関係Ⅰ	—
保育内容・環境Ⅰ	—
保育内容・言葉Ⅰ	—
保育内容・表現Ⅰ	—
保育内容・健康Ⅱ	161
保育内容・人間関係Ⅱ	162
保育内容・環境Ⅱ	163
保育内容・言葉Ⅱ	164
保育内容・表現Ⅱ	165
幼児理解	166
教職実践演習（幼・小・保）	167
器楽Ⅰ	—
器楽Ⅱ	—
児童文学	—
異文化コミュニケーション論	—
郷土の文学を楽しむ	—
絵本論	168
人間関係論	—
心理学概論Ⅰ	—
心理学概論Ⅱ	—
心理統計学Ⅰ	—
心理統計学Ⅱ	—
心理学実験実習Ⅰ	—
心理学実験実習Ⅱ	—
心理学研究法Ⅰ	—
心理学研究法Ⅱ	169
社会心理学Ⅰ	170
社会心理学Ⅱ	171
認知心理学Ⅰ	172
認知心理学Ⅱ	173
人格心理学	174

心理療法	175
臨床心理学	176
社会	—
理科	—
家庭	—
子ども英語	177
子ども英語教育法	178
教育相談	179
教育課程編成論	180
国語科教育法（書写を含む）	181
社会科教育法	182
算数科教育法	—
理科教育法	—
生活科教育法	—
音楽科教育法	—
図画工作教育法	—
家庭科教育法	—
体育科教育法	183
道德教育の研究	184
特別活動の研究	185
生徒・進路指導論	186
保育原理	—
児童家庭福祉論Ⅰ	—
児童家庭福祉論Ⅱ	187
社会福祉	—
相談援助技術	188
社会的養護	—
子どもの保健ⅠA	—
子どもの保健ⅠB	—
子どもの保健Ⅱ	189
子どもの食と栄養	190
家庭支援論	191
乳児保育Ⅰ	192
乳児保育Ⅱ	193
障がい児保育	—
保育カウンセリング	194
社会的養護内容	195
音楽表現Ⅰ	—
音楽表現Ⅱ	—
身体表現	—
児童文化	—
〔資格科目〕	
幼稚園教育実習指導Ⅰ	—
幼稚園教育実習Ⅰ	—
幼稚園教育実習指導Ⅱ	196
幼稚園教育実習Ⅱ	197
保育実習指導Ⅰ	198～199

保育実習Ⅰ（保育所）	200
保育実習Ⅰ（施設）	201
保育実習指導Ⅱ	202
保育実習Ⅱ（保育所）	203
保育実習指導Ⅲ	204
保育実習Ⅲ（施設）	205
小学校教育実習指導	206
小学校教育実習	207
介護等体験	208

〔2017年度開講せず〕

教育実践研究A	—
教育実践研究B	—

社会学科（1年次）

〔基幹科目〕

SK100U 基礎ゼミⅠ	211
SK105U 基礎ゼミⅡ	212
SK110U 社会学リレー講義	213
SK115U 社会学概論A	214
SK120U 社会学概論B	215
SK125U 社会調査論	216
SK130U 社会調査法	217
SK135U 統計データの読み方	218

〔学科専門科目〕

SO100U データ処理基礎	219
SO105U 文化人類学	220
SO110U 現代社会と福祉Ⅰ	221
SO115U 現代社会と福祉Ⅱ	222
SO120U 心理学概論A	223
SO125U 心理学概論B	224
SL105U 経営学入門	225

〔資格科目〕

SW100U 地域福祉論	226
SW105U 児童福祉論	227
SB100U 生涯学習概論	228

社会学科（2年次）

〔基幹科目〕

SK100U 基礎ゼミⅠ	—
SK105U 基礎ゼミⅡ	—
SK200U プロゼミA	231
SK205U プロゼミB	232
SK110U 社会学リレー講義	—

SK115U 社会学概論A	—
SK120U 社会学概論B	—
SK125U 社会調査論	—
SK130U 社会調査法	—
SK135U 統計データの読み方	—
SK210U 質的研究法	233

〔学科専門科目〕

SO100U データ処理基礎	—
SO200U 心理統計学Ⅰ	234
SO205U 社会学理論	235
SO210U 家族社会学	236
SO215U 都市社会学	237
SO220U 環境社会学	238
SO105U 文化人類学	—
SO110U 現代社会と福祉Ⅰ	—
SO115U 現代社会と福祉Ⅱ	—
SO120U 心理学概論A	—
SO125U 心理学概論B	—
SO225U 心理統計学Ⅱ	239
SC200U 宗教と社会	240
SC205U 若者文化論	241
SC215U 多文化共生論	242
SC310U 犯罪社会学	243
SC315U 社会病理学	244
SL315U 政治学	245
SL320U 地域社会政策論	246
SL200U 社会貢献論	247
SL205U 高齢者福祉論	248
SL210U 障害者福祉論	249
SL215U 障害者スポーツ	250
SL100U 図書館概論	251
SL220U 情報技術論	252
SP200U 心理学実験実習Ⅰ	253
SP205U 心理学実験実習Ⅱ	254
SP210U 心理学研究法A	255
SP215U 心理検査法	256
SP220U 人間関係論	257
SP225U 発達心理学	258
SP230U 教育心理学	259
SP235U 人格心理学	260
SP240U 臨床心理学	261

〔資格科目〕

SW200U 相談援助の基盤と専門職	262
SW205U 相談援助の理論と方法Ⅰ	263
SW210U 相談援助の理論と方法Ⅱ	264
SW100U 地域福祉論	—

SW215U	社会保障論	265
SW105U	児童福祉論	—
SW220U	相談援助演習Ⅰ	266
SW225U	相談援助演習Ⅱ	267
SB100U	生涯学習概論	—
SB200U	図書館サービス概論	268
SB205U	情報サービス論	269
SB210U	情報資源組織論	270

[2017年度開講せず]

SC210U	社会と言語	—
SC220U	グローバル社会論	—

社会学科 (3～4年次)

[基幹科目]

基礎ゼミⅠ	—
基礎ゼミⅡ	—
プロゼミA	—
プロゼミB	—
専門ゼミⅠ	273～274
専門ゼミⅡ	275～276
卒業研究	277～278
社会学概論	—
社会学リレー講義	—
社会調査論	—
社会調査法	—
統計データの読み方	—
質的研究法	—
社会調査実習A	279～280
社会学理論	281
心理学概論Ⅰ	—
心理学概論Ⅱ	—
心理統計学Ⅰ	—
心理統計学Ⅱ	—
文献講読Ⅰ (社会学・政治学・心理学)	282～284
文献講読Ⅱ (社会学・政治学・心理学)	285～287
認知情報学	—

[学科専門科目]

多文化社会論	—
政治行動論	—
比較政治学	—
社会政策論	—
公的扶助論	288
社会保障論	—
法律学 (国際法を含む)	289
権利擁護と成年後見制度	290

経済学 (国際経済を含む)	291
宗教と社会	—
都市社会学	292
教育社会学	—
福祉行財政と福祉計画	293
文化人類学	—
障害者スポーツ	—
環境社会学	294
地域社会学	—
NPO/NGOの社会学	295
社会と言語	—
海外から見た日本	—
石川の伝統文化と産業	—
エコツーリズム論	—
エコツーリズム実習	—
地域福祉論	296
現代社会と福祉Ⅰ	—
現代社会と福祉Ⅱ	—
福祉サービスの組織と経営	—
社会心理学Ⅰ	297
社会心理学Ⅱ	298
人間関係論	—
認知心理学Ⅰ	299
認知心理学Ⅱ	300
発達心理学	—
臨床心理学	—
人格心理学	—
心理学研究法Ⅰ	—
心理学研究法Ⅱ	301
心理学実験実習Ⅰ	—
心理学実験実習Ⅱ	—
心理療法	302
家族社会学	—
若者文化論	—

[社会福祉士・受験資格科目]

医学一般	—
高齢者福祉論	—
障害者福祉論	—
児童福祉論	—
相談援助の基盤と専門職	—
保健医療サービス	303
就労支援サービス	—
相談援助の理論と方法Ⅰ	—
相談援助の理論と方法Ⅱ	—
相談援助の理論と方法Ⅲ	304
相談援助の理論と方法Ⅳ	305
相談援助演習Ⅰ	—

相談援助演習Ⅱ	—
相談援助演習Ⅲ	—
相談援助演習Ⅳ	306
相談援助演習Ⅴ	307
相談援助実習指導Ⅰ	—
相談援助実習指導Ⅱ	308
相談援助実習指導Ⅲ	309
相談援助実習Ⅰ	—
相談援助実習Ⅱ	310

〔高等学校教諭免許状（公民）資格科目〕

日本国憲法	—
哲学	—
倫理学	—
教職概論	—
教育原理	—
教育心理学	—
教育課程論	—
公民科教育法Ⅰ	—
公民科教育法Ⅱ	—
教育相談	311
中等教育実習指導	312
中等教育実習	313
教職実践演習（高）	314

〔2017年度開講せず〕

社会調査実習B	—
特別活動論	—
教育方法論	—
生徒・進路指導論	—

**全学共通科目
(1～2年次)**

授業科目名		HG110U キリスト教概論 I		開講学科		人間総合学部		必修・選択		必修			
担当教員名		楠本 史郎											
標準履修年次		1年		開講時期		前期		単位		1単位			
他学科の履修		不可		関連資格		保育士							
授業の概要						授業の到達目標							
<p>本科目は全学生必修科目であり、北陸学院の基本精神である旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。聖書はその基準であり、現在でもっとも広く読まれている。</p> <p>本講義では、担当教員を紹介し、心の根幹に関わる信仰及び宗教とは何かを知ることから始める。続いて、キリスト教について、聖書に基づき概要を話し、他の宗教との違い、とくに各々の人間観・世界観・歴史観の相違を学ぶ。次に、新約聖書の記述に直接触れつつ、イエス・キリストの生涯について学び、新約聖書を聞き取るためのガイダンスで本講義を終わる。</p>						<p>学院の建学の精神である「キリスト教に基づく人間教育」の根幹をなすキリスト教の思想を、聖書の学びによって知り、人間観、世界観を広げることを目的とする。</p> <p>具体的には、聖書を学ぶことによって、</p> <p>①聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。</p> <p>②聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を養う。</p> <p>③世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。</p> <p>④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身につける。</p> <p>⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。</p> <p>⑥学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身につける。</p>							
教授方法		講義と応答レポート作成・提出を組み合わせて行う。											
履修条件		なし											
授 業 計 画													
実施回		授業内容・目標								担当教員			
1		自分を見つめる。担当者の紹介と礼拝の守り方、聖書の開き方、賛美歌の歌い方を学ぶ（大学礼拝の守り方を知る） 信じることと生きることについて考え、宗教とは何かを学ぶ（信じることの意味を知る）											
2		諸宗教のなかのキリスト教の位置、および聖書の背景について学ぶ（日本と世界の宗教理解の相違を知る） 新約の時代と歴史について学び、旧約と新約の継続性と相違を知る（新約の構成と背景にあるイエスの生涯の概略を理解する）											
3		時の基準について学び、旧約と新約の違いを知る。また宗派・教派による「聖書」の相違について基本的知識を持つ（旧約と新約の違いおよび諸宗派の「聖書」観の相違を理解する） /イエスの生涯① マルコ福音書1：9-14により、神が人となる受肉の意味を学ぶ（キリストの両性の意味を理解する）											
4		イエスの生涯② マルコ福音書5：1-20により、真の自分を取り戻し、真の自己となることの意味を学ぶ（真の自己の存在を知る） /イエスの生涯③ マルコ福音書8：27-9：1により、疎外からの解放がどのように行われるのかを学ぶ（真の自己となることの意味を知る）											
5		イエスの生涯④ マルコ福音書10：1-12により聖書の夫婦観・家族観を学ぶ（イエスの夫婦観を知る） キリスト教の結婚観、夫婦観、家族観を学ぶ（聖書の結婚観を知り自己の結婚観を養う）											
6		イエスの生涯⑤存在の意味 マルコ福音書10：35-45により、人間の存在について意味を学ぶ（自己の生の意味を他者との関係でとらえる） /イエスの生涯⑥ マルコ福音書12：28-34により神への愛と他者への愛、真の自己愛とは何かを学ぶ（愛の構造について理解する）											
7		小テスト①、およびイエスの生涯⑦受難（マルコ福音書14：1-11）の社会的構造を学ぶ（イエスの死の経緯と、そこに示された救済史的な意味を理解する） /イエスの生涯⑧最後の晩餐（マルコ福音書14：22-26）が示すイエスの死の贖罪の意味を知る（イエスの死の意味を理解する）											
8		小テスト②および新約の中心的使信について説明し、それを聞きとるためのガイダンスを行う（新約の中心的メッセージを理解する）											
成績評価方法と基準													
評価項目		割合		評価基準				評価項目		割合		評価基準	
授業参加度・理解度		20		毎回の内容をミニレポートにまとめ提出。 ①授業内容を理解している。 ②それを自分の言葉で掘って表現している。 ③疑問や質問など、問題意識を持っている。				新約聖書の目次を覚える小テスト		20		新約27書の正式書名を覚え、正典の順序で正しく書き記す。	
新約等前期授業の内容について小テスト		30		新約関連の重要語、思想、その理解とそれに対する自己の考えを問う。				レポート		30		①教会の主日（日曜）礼拝への参加態度。 ②そこでの説教内容のまとめ。 ③それに対する自己の意見によって評価。	
授業外における学習（事前・事後学習等）						課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>①聖書およびそれに立つ学院の基本姿勢を理解するため、大学礼拝および特別な礼拝への主体的参加を求める。[20分]</p> <p>②さらに、地域諸教会における主日礼拝への参加を勧める。[60分]</p> <p>③北陸学院セミナーへの積極的参加を求める。[28時間]</p> <p>④日頃より聖書に親しみ、学院宗教諸行事への積極的参加を求める。</p>						毎回の授業で、前回のミニレポートについて、また小試験やレポートについても、必要なコメントをする。							
受講生に望むこと		①受け身ではなく、主体的に授業に参加し、自分のメモをとること。 ②聖書を必ず持参すること。 ③遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。				教科書・テキスト		『新共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会 毎回授業に持参する					
指定図書参考書等		なし				その他・特記事項		①原則として1回90分に、45分授業2コマ分を行うので、1回欠席すると2コマの欠席となる。 ②毎回の授業レポートを丁寧に記し、提出すること。提出しないと欠席扱いとする。 ③小テストを授業時間のなかで行うので、必ず受験すること。 ④レポートは必ず指定された期限内に提出すること。					

授業科目名	HG120U キリスト教概論Ⅱ		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修	
担当教員名	楠本 史郎						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は全学生必修科目であり、北陸学院の基本精神である旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。聖書はその基準であり、現在でもっとも広く読まれている。キリスト教概論Ⅰで学んだ新約聖書の歴史と背景、その内容を前提として、おもに旧約聖書について学ぶ。旧約の背景となったイスラエル史は、他民族による侵略と支配を受け、民が自身の罪の現実と向かい合いながら、なお神の守りと救いを信じ、共同体を形成・維持し続けた苦難の歴史でもある。これを学ぶことによって、自己と社会を形づくる基盤は何かを問う。具体的には旧約聖書の歴史と背景、および内容を学び、人間と世界の存在の意味、それに対する人間の責任と現実、契約と共同体倫理としての法の概念、歴史観と希望の概念等を課題とする。それに対する各自の主観的応答を、発表、レポート等の形で表現し、論議を深める。</p>			<p>学院の建学の精神である「キリスト教に基づく人間教育」の根幹をなすキリスト教の思想を、聖書の学びによって知り、人間観、世界観を広げることを目的とする。</p> <p>具体的には、聖書を学ぶことによって、</p> <p>①聖書について、キリスト教について、旧約の内容とイスラエル史について、概略を理解することができる。</p> <p>②実際に聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現することができる。</p> <p>③世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。</p> <p>④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身につける。</p> <p>⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。</p> <p>⑥学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身につける。</p>				
教授方法	講義と応答レポート作成・提出を組み合わせて行う。						
履修条件	キリスト教概論Ⅰをすでに受講していることが望ましい。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イエスの生涯① マルコ福音書15:6-41により、イエスの十字架の死について学び、後期授業について概略を知る(イエスの十字架の意味を理解する)/イエスの生涯② マルコ福音書16:1-8により、イエスの復活について知り、その意味を学ぶ(イエスの復活の意味を理解する)						
2	旧約を概念的に見て、その区分を学び、旧約全体の意味を学ぶ(旧約39書とその区分、本質を知る)イスラエル史の概略を知り、そのなかで生まれた旧約の全体を知る(旧約各書とイスラエル史との関連を理解する)						
3	天地創造物語を読む。聖書の人間理解① 創世記1章の祭司資料から、人間を「神のかたち」ととらえる人間観を学ぶ(祭司資料の歴史的背景から聖書の使信を聞き取る)/聖書の人間理解② 創世記2章により、人間を土のちりと理解し、その命の根源は何か、学ぶ(資料の歴史的背景から聖書の生命観を理解する)						
4	墮罪物語。創世記3章により神の前での罪と救いを学ぶ(聖書の罪理解と救いを知る)/族長史。創世記12章以下よりアブラハム・ヤコブ・ヨセフの物語を学び、その意味を知る(族長史を知り、唯一神信仰の背景を理解する)						
5	十戒①神の恵みと人間の責任。出エジプト記20章から十戒の前半の5つの戒めを学び、それが神の恵みとして与えられたことを学ぶ(十戒前半を学び、旧約における法の意味を知る)/十戒②法と社会。出エジプト記20章から、十戒の後半5つの戒めを学び、イスラエルが目指した共同体形成を学ぶ(十戒後半を学び、共同体形成原理を知る)						
6	イスラエル王国史について学び、その中でダビデ王の生涯とその功罪を知る(ダビデ王朝史を知り、歴史に対する聖書の見方を知る)/ダビデを通して旧約における指導者像について学ぶ(イスラエル王国史から聖書における指導者の姿を理解する)						
7	旧約預言者の分類について、また代表的な使信を学ぶ(旧約預言者の区分とその使信の相違を理解する)/キリスト教の職業観を歴史的に振り返り、それぞれの人生形成を考える。および小テスト①(聖書の職業観を知り、自らの使命を考える)						
8	小テスト②および旧約の中心的使信について説明し、それを聞きとるためのガイダンスを行う(新約の中心的メッセージを理解する)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加度・理解度	20	毎回の内容をミニレポートにまとめ提出。 ①授業内容を理解している。 ②それを自分の言葉で掘込んで表現している。 ③疑問や質問など、問題意識を持っている。		旧約聖書の目次を覚える小テスト	20	旧約39書の正式書名を覚え、正典の順序で正しく書き記す。	
旧約等後期授業の内容について小テスト	30	旧約関連の重要語、思想、その理解と、それに対する自己の考えを問う。		地域諸教会の主日(日曜日)礼拝レポート	30	①教会の主日(日曜)礼拝への参加態度。 ②そこでの説教内容のまとめ。 ③それに対する自己の意見によって評価。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
<p>①聖書およびそれに立つ学院の基本姿勢を理解するため、大学礼拝および特別な礼拝への主体的参加を求める。[20分]</p> <p>②さらに、地域諸教会における主日礼拝への参加を求める。[60分]</p> <p>③北陸学院セミナーへの積極的参加を求める。[28時間]</p> <p>④日頃より聖書に親しみ、学院宗教諸行事への積極的参加を求める。</p>			毎回の授業で、前回のミニレポートについて、また小試験やレポートについても、必要なコメントをする				
受講生に望むこと	①受け身ではなく、主体的に授業に参加し、自分のメモを取る。 ②聖書を必ず持参すること。 ③遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。		教科書・テキスト	『新共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会 毎回授業に持参する			
指定図書参考書等	なし		その他・特記事項	①原則として1回90分に、45分授業2コマ分を行うので、1回欠席すると2コマの欠席となる。 ②毎回の授業レポートを丁寧に記し、提出すること。提出しないと欠席扱いとする。 ③小テストを授業時間のなかで行うので、必ず受験すること ④レポートは必ず指定された期限内に提出すること			

授業科目名	HG140U 初教人間論Ⅱ		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修	
担当教員名	野崎 卓道						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
キリスト教概論Ⅰ及びⅡで得たキリスト教についての基礎知識を前提に、さらに聖書が人生を導く書であることに対する理解を深める。特にキリスト教の三要素の一つである「十戒」を手がかりに、私たちが人生において直面するさまざまな問題にどのように対処したらよいかを考える。そして、旧約聖書の「十戒」にこそ、困難な時代を生き抜くための明確な指針が示されていることを学ぶ。後期は十戒の第六戒から第十戒までを学ぶ。授業では、学生が積極的に発言し、対話することを通して、さまざまな価値観や考え方を共有し、その上で、聖書の「十戒」が示す生き方や考え方の指針を理解する。毎回指定されたテキスト（ヴァルター・リュティ著『十戒』）の該当箇所を読んで授業に出席すること。			①「十戒」が人間を縛るものではなく、人間を生かし、本当の自由を与えてくださる神の愛に満ちた御言葉であることを理解する。 ②「十戒」が人生全般について、明確な指針を与えてくれることを学ぶ。 ③「十戒」を手がかりに、聖書が全巻を通して伝えようとしているメッセージを読み取る。				
教授方法	レジュメによる講義、キリスト教に関するDVD観賞、レポートのための教会出席						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	第六戒（テキスト134-149頁）を通して、命の尊さ、特に神の似姿として造られた人間の命の尊さを知り、人間が生きることを神がどれほど望んでおられるかを理解する。						
2	第六戒（テキスト150-164頁）を通して、戦争と平和の問題について考え、国際平和のために、どのような貢献ができるかを考える。						
3	第七戒（テキスト165-204頁）を通して、聖書に基づいた結婚と結婚生活の意味、また不倫の問題について考える。						
4	第七戒（テキスト205-226頁）を通して、独身であることの意義について、聖書がどのように語っているかを理解する。						
5	第八戒（テキスト227-243頁）を通して、「盗む」とは何を意味するかを考え、そこから職業倫理や財産管理のあり方についても考える。						
6	第九戒（テキスト244-261頁）を通して、「人間の尊厳」とは何か、神が人間の尊厳をどれほど重んじてくださるかを理解する。また、私たちが偽証や中傷によって人の尊厳を傷つけることがどれほど重大な問題を引き起すかを考える。						
7	第十戒（テキスト262-278頁）を通して、人間の心の一番奥深くに潜む欲望の問題を取り上げ、人をうらやむ気持ちや妬む気持ちとどのように向き合ったら良いのかについて考える。						
8	小テストにより、十戒の第六戒から第十戒までの記述、テキストの重要センテンスに関する問題、及び第六戒から第十戒の中から一つの戒めを取り上げ、その理解とそれに対する自分の考えを問う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加度・理解度	20	毎回の内容をミニレポートにまとめ提出。授業態度を評価の対象とする。 ①授業内容を理解している。 ②それを自分の言葉で掘んで表現している。 ③疑問や質問など、問題意識を持っている。		十戒を覚える小テスト	20	十戒（出エジプト記20章13-17節）を覚え、正しく書き記す	
後期授業の内容について的小テスト	30	十戒について学んだ事柄（重要センテンス）の理解とそれに対する自己の考えを問う		レポート	30	①教会の主日（日曜）礼拝への参加態度 ②そこでの説教内容のまとめ ③それに対する自己の意見によって評価	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①毎回指定されたテキストをあらかじめ読んで授業に出席することを求める。[30分] ②聖書およびそれに立つ学院の基本姿勢を理解するため、大学礼拝への主体的参加を求める。[30分] ③さらに、地域諸教会における主日礼拝への参加を求める。[70分] ④日頃より聖書に親しみ、学院宗教諸行事への積極的参加を求める。[15分]				①毎回のミニレポートの質問等に関しては、次回の授業の冒頭でまとめて返答します。 ②礼拝出席レポートと期末小テストについては、採点およびコメントを付けて返却します。			
受講生に望むこと	①積極的に発言し、共に授業を作り上げるため姿勢を大切にすること ②聖書・テキストを必ず持参すること ③遅刻をしないこと、無断で途中退席しないこと			教科書・テキスト	①『新共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会 ②ヴァルター・リュティ著『十戒』（野崎卓道訳）、新教出版社、2011年、ISBN:978-4400521068		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE100U 総合教養A I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	辻 直人・伊藤 雄二・大井 佳子・下村 岳人・福江 厚啓 (代表教員 辻 直人)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進行する現代にあって、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める。オムニバス方式の本講義は幼、保、小、中それぞれの現場の様子や、それら教育実践を貫く教育思想について5人の教員がリレー形式で、各担当の専門分野を活かしながら3回ずつ講義を担当する。</p>			<p>①それぞれの授業内容を的確に把握し理解することができる。 ②授業内容を的確にまとめ、そこから学んだ自分の考えを書くことができる。</p>				
教授方法	5名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：担当教員紹介、科目を学ぶ意義、レポートの書き方、TV番組「涙と笑いのハッピークラス」の視聴を通して、子どもの成長と教師の役割を理解する。					辻	
2	「内なる声」を育てる：子どもたちを取り巻く環境は様々である中、どのような教育が今後求められるのか、検討する。					辻	
3	食卓の向こう側と教育：人同士のつながりが見えにくい現代社会において、食に連なる人たちとのつながりを見いだしていくことの意味を考え、食育の広がる可能性について検討する。					辻	
4	子どもの世界は「物語」：子どもの姿から、一人ひとりをみてみよう					福江	
5	幼保から小学校へ：就学期に子どもが感じるエトセトラ					福江	
6	小学校の特別支援教育：一人ひとりに応じること、協働すること					福江	
7	生活のなかの算数：生活のなかに潜む算数の場面や考え方を、事例的に紹介する。その後、自分の生活のなかの算数についても振り返りながら考える。					下村	
8	グラフのよみ方：普段の生活において、グラフは多くの情報を与えてくれる。ここでは、グラフが人に与える印象や影響、その効果について検討する。					下村	
9	教育現場とICT：ICT機器の導入で、学校における子どもの学びが変わりつつある。その実際を知り、教育における不易と流行について考える。					下村	
10	英語学習再検討：小・中学校からの英語学習歴を振り返り、外国語学習における自分のスタイルを再認識し、文字やアルファベットの新しい世界を知る。					伊藤	
11	英語授業再評価：小・中学校からの英語授業を振り返り、そこから得られたものを整理し、自分の将来とどのようにかかわるかを考える。					伊藤	
12	英語学習再出発：今までの英語学習や英語の授業を振り返り、英語学習への自分のmissionsを模索し、実現するための具体的な方策を考えてみる。					伊藤	
13	子どもは遊んで賢くなる：赤ちゃんがもって生まれてくる力					大井	
14	子どもは遊んで賢くなる：ごっこ遊びのこと					大井	
15	子どもは遊んで賢くなる：1枚の紙から					大井	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
担当者ごとの授業後の課題レポート	100 (20×5)	授業内容の把握とそれに対する自分の考えを的確に表現している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
今、いじめ問題を始めとして子ども・教育問題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で論議されている。普段からそれらの論議に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]				各教員ごとに対応する。			
受講生に望むこと	子ども教育学科生以外はそれぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのように学び、育つかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE110U 総合教養AII		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	辻 直人・伊藤 雄二・田邊 圭子・下村 岳人・福江 厚啓 (代表教員 辻 直人)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進行する現代にあって、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める。オムニバス方式の本講義は幼、保、小、中それぞれの現場の様子や、それら教育実践を貫く教育思想について5人の教員がリレー形式で、各担当の専門分野を活かしながら3回ずつ講義を担当する。</p>			<p>①それぞれの授業内容を的確に把握し理解することができる。 ②授業内容を的確にまとめ、そこから学んだ自分の考えを書くことができる。</p>				
教授方法	5名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：担当教員紹介、科目を学ぶ意義、レポートの書き方、TV番組「涙と笑いのハッピークラス」の視聴を通して、子どもの成長と教師の役割を理解する。					辻	
2	「内なる声」を育てる：子どもたちを取り巻く環境は様々である中、どのような教育が今後求められるのか、検討する。					辻	
3	食卓の向こう側と教育：人同士のつながりが見えにくい現代社会において、食に連なる人たちとのつながりを見いだしていくことの意味を考え、食育の広がる可能性について検討する。					辻	
4	子どもの世界は「物語」：子どもの姿から、一人ひとりを見てみよう					福江	
5	幼保から小学校へ：就学期に子どもが感じるエトセトラ					福江	
6	小学校の特別支援教育：一人ひとりに応じること、協働すること					福江	
7	生活のなかの算数：生活のなかに潜む算数の場面や考え方を、事例的に紹介する。その後、自分の生活のなかの算数についても振り返りながら考える。					下村	
8	グラフのよみ方：普段の生活において、グラフは多くの情報を与えてくれる。ここでは、グラフが人に与える印象や影響、その効果について検討する。					下村	
9	教育現場とICT：ICT機器の導入で、学校における子どもの学びが変わりつつある。その実際を知り、教育における不易と流行について考える。					下村	
10	英語学習再検討：小・中学校からの英語学習歴を振り返り、外国語学習における自分のスタイルを再認識し、文字やアルファベットの新しい世界を知る。					伊藤	
11	英語授業再評価：小・中学校からの英語授業を振り返り、そこから得られたものを整理し、自分の将来とどのようにかかわるかを考える。					伊藤	
12	英語学習再出発：今までの英語学習や英語の授業を振り返り、英語学習への自分のmissionsを模索し、実現するための具体的な方策を考えてみる。					伊藤	
13	子どもとスポーツ：子どもにとってスポーツはどのような意味をもつのか考える。					田邊	
14	学校とスポーツ：「体育」や「部活動」など、学校教育の中で行われているスポーツ活動全般の現状と課題について考える。					田邊	
15	これからのスポーツ：これからのスポーツのあり方について、様々な角度から考える。					田邊	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
担当者ごとの授業後の課題レポート	100 (20×5)	授業内容の把握とそれに対する自分の考えを的確に表現している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
今、いじめ問題を始めとして子ども・教育問題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で論議されている。普段からそれらの論議に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]				各教員ごとに対応する。			
受講生に望むこと	子ども教育学科生以外はそれぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのように学び、育つかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE120U 総合教養B I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	田中 純一・小林 正史・田引 俊和 (代表教員 田中 純一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は、社会学、比較文化、社会福祉といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会との関係に焦点をあて、社会における人間のありようを抱える課題について考える。			<ul style="list-style-type: none"> ・災害が炙り出す社会システムの脆弱性と諸課題について理解する。(田中) ・超少子高齢社会におけるボランティア、地域社会の役割について理解する(田中) ・食器などの比較を通して、伝統的(手作り)技術の優れた面を理解できるようになる(小林) ・こころの不調や発達障害などを含め、障害等について正しく理解する。また、現代社会における社会福祉の動向、支援制度等を正しく理解し、日常生活においても興味関心を持てるようにする。(田引) 			
教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項について理解する。復旧・復興過程と諸課題：東日本大震災および過去の災害事例から、復旧→復興の各プロセスにおける被災生活支援のあり方について理解する。					田中
2	災害と地域防災：超少子高齢社会における自助・共助・公助のあり方について理解する。					田中
3	災害ボランティア：過去の災害事例から、ボランティアの役割と課題について理解する。					田中
4	防災教育：国内・海外の実践事例から、防災教育の意義について理解する。					田中
5	住み続けられる地域とは：災害多発国である我が国において、万が一被災しても暮らし続けられるために地域社会はどうあるべきなのか について、減災という観点から理解する。					田中
6	食器の作り分け：日本の飯碗と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。					小林
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する					小林
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。					小林
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。					小林
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較をとおして、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。					小林
11	私たちの暮らしと社会福祉：障害の概念および障害の基礎的理解、社会との関係					田引
12	私たちの暮らしと社会福祉：こころと社会の関係を考える					田引
13	私たちの暮らしと社会福祉：だれもが住みやすい街づくり					田引
14	私たちの暮らしと社会福祉：障害がある人たちの就労やスポーツ					田引
15	私たちの暮らしと社会福祉：ニーズ把握と権利擁護、多様な人たちの存在を認め合う					田引
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加態度および意欲	30	授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況		レポート提出	50	各担当者の講義終了時(5回講義1セット)にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。
小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと [30分] その日のうちに学んだことを復習すること [30分]				個々の教員の指導に従うこと。		
受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。			教科書・テキスト	なし	
指定図書参考書等	共通フォルダーに保存された課題文献を読むように指示されることがある。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	GE130U 総合教養BII		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	田中 純一・小林 正史・田引 俊和 (代表教員 田中 純一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は、社会学、比較文化、社会福祉といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会との関係に焦点をあて、社会における人間のありようを抱える課題について考える。			<ul style="list-style-type: none"> ・災害が炙り出す社会システムの脆弱性と諸課題について理解する。(田中) ・超少子高齢社会におけるボランティア、地域社会の役割について理解する(田中) ・食器などの比較を通して、伝統的(手作り)技術の優れた面を理解できるようになる(小林) ・こころの不調や発達障害などを含め、障害等について正しく理解する。また、現代社会における社会福祉の動向、支援制度等を正しく理解し、日常生活においても興味関心を持てるようにする。(田引) 			
教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項について理解する。復旧・復興過程と諸課題：東日本大震災および過去の災害事例から、復旧→復興の各プロセスにおける被災生活支援のあり方について理解する。					田中
2	災害と地域防災：超少子高齢社会における自助・共助・公助のあり方について理解する。					田中
3	災害ボランティア：過去の災害事例から、ボランティアの役割と課題について理解する。					田中
4	防災教育：国内・海外の実践事例から、防災教育の意義について理解する。					田中
5	住み続けられる地域とは：災害多発国である我が国において、万が一被災しても暮らし続けられるために地域社会はどうあるべきなのか について、減災という観点から理解する。					田中
6	食器の作り分け：日本の飯碗と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。					小林
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する					小林
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。					小林
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。					小林
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較をとおして、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。					小林
11	私たちの暮らしと社会福祉：障害の概念および障害の基礎的理解、社会との関係					田引
12	私たちの暮らしと社会福祉：こころと社会の関係を考える					田引
13	私たちの暮らしと社会福祉：だれもが住みやすい街づくり					田引
14	私たちの暮らしと社会福祉：障害がある人たちの就労やスポーツ					田引
15	私たちの暮らしと社会福祉：ニーズ把握と権利擁護、多様な人たちの存在を認め合う社会福祉の実施体制と担い手：福祉の法律や制度、福祉を支える担い手について理解する。					田引
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
授業への参加態度および意欲	30	授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況	レポート提出	50	各担当者の講義終了時(5回講義1セット)にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。	
小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと [30分] その日のうちに学んだことを復習すること [30分]			個々の教員の指導に従うこと。			
受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。		教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	共通フォルダーに保存された課題文献を読むように指示されることがある。		その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE140U 総合教養C I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	新澤 祥恵・坂井 良輔・中谷 智一・村上 吉春・田中 弘美・三田 陽子 (代表教員 新澤 祥恵)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されています。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の3つのバランスが大切ですが、中でも、栄養（食生活）が基本的な問題といえます。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安心・安全」といった視点も踏まえ、次のテーマをおとして、これからの食生活の在り方を考えていきます。</p>			<p>①食物と健康の関連を理解する。 ②栄養素と健康の関連を理解する。 ③正しい食生活のあり方を理解する。 ④食と心理の関係を理解する。 ⑤食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。</p>				
教授方法	6名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。					新澤	
2	食品の一次、二次、三次機能とは何かについて学ぶ					坂井	
3	食品の一次機能について学ぶ -タンパク質、脂質、糖質-					坂井	
4	食品の一次機能について学ぶ -味成分、香り成分、色素成分-					坂井	
5	日本人の食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、行事食や郷土食の継承について考える。					三田	
6	食に関する情報と健康：食を取り巻く様々な情報の取捨選択の仕方について考える。					三田	
7	日本人の食生活の変化と問題点：自分の食生活を見直し、問題点を解決できるように考える。					田中	
8	献立作成の基本を学ぶ。（食事摂取基準、食事バランスガイドの理解を含む）					田中	
9	食物摂取と健康の概念：私たちはなぜ食べるのか？健康とはなにか？を考える。					三田	
10	食事と環境：人間と食べ物と環境のつながりから、環境調和型食生活の意義を考える。					三田	
11	食と心理：食べ物によって精神的にどのような影響を受けるのか？について考察する（総論）					中谷	
12	食と心理：具体的にはどのような問題が生じてきているのかを紹介する。（各論）					中谷	
13	現代の食環境における諸問題① 主食の米を中心として、わが国の食料需給の現状について考える。					村上	
14	現代の食環境における諸問題② T P P交渉妥結を受け、主食の確保は今後どうあるべきかを考える。					村上	
15	21世紀の国民健康づくり運動：「健康日本21」が策定されたことを踏まえ、国民一人ひとりがどうあるべきかを考える。					田中	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
担当者毎のレポート	90	①授業内容と課題に応じて論理的に考察されている ②質的量的に適切である ③指定期日までの提出		受講態度	10	授業参加意欲	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むようにして下さい。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
				毎回の授業ごとに対応は異なるが、課題の記載内容について講評することもある。			
受講生に望むこと	①各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること ②授業中の私語を慎み、遅刻をしない			教科書・テキスト	授業ごとに担当者の配布する資料		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE150U 総合教養CII		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	新澤 祥恵・中谷 智一・村上 吉春・西 正人・俵 万里子（代表教員 新澤 祥恵）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されています。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の3つのバランスが大切ですが、中でも、栄養（食生活）が基本的な問題といえます。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安心・安全」といった視点も踏まえ、次のテーマをとおして、これからの食生活の在り方を考えていきます。</p>			<p>①食物と健康の関連を理解する。 ②栄養素と健康の関連を理解する。 ③正しい食生活のあり方を理解する。 ④食と心理の関係を理解する。 ⑤食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。</p>				
教授方法	5名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。					新澤	
2	ライフステージに応じた食育（胎児期・乳児期）：健康な心身の基礎を作るための望ましい食生活のあり方について考える。					俵	
3	ライフステージに応じた食育（成長期）：心身の健全な成長・発達のための食生活のあり方について考える。					俵	
4	ライフステージに応じた食育（成人期）：生活習慣病予防のための食生活のあり方を考える。					俵	
5	運動・スポーツと栄養：運動・スポーツ時の身体変化とそのために必要な栄養摂取について理解する。					俵	
6	食品と薬剤1：ヒトの消化器系の構造と機能、生体内に薬剤が吸収される仕組みを理解する。					西	
7	食品と薬剤2：薬剤の服用方法や食品の薬効に及ぼす影響とその仕組みについて学ぶ。					西	
8	食品と薬剤3：食品中の特定成分（カフェイン、色素、食品群別）が薬効に及ぼす影響について学ぶ。					西	
9	食と心理：食べ物によって精神的にどのような影響を受けるのか？について考察する（総論）					中谷	
10	食と心理：具体的にはどのような問題が生じてきているのかを紹介する。（各論）					中谷	
11	現代の食環境における諸問題① 主食の米を中心として、わが国の食料需給の現状について考える。					村上	
12	現代の食環境における諸問題② TPP交渉妥結を受け、主食の確保は今後どうあるべきかを考える。					村上	
13	健康と食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、健康との関連を考える。					新澤	
14	環境と食：環境負荷の少ない調理など、環境調査型食生活の意義を考える					新澤	
15	食の安全安心：食の安全安心をハザードとリスクや食育の視点から理解する					新澤	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
担当者毎のレポート	90	①授業内容と課題に応じて論理的に考察されている ②質的量的に適切である ③指定期日までの提出		受講態度	10	授業参加意欲	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むようにして下さい。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
				毎回の授業ごとに対応は異なるが、課題の記載内容について講評することもある。			
受講生に望むこと	①各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること ②授業中の私語を慎み、遅刻をしない			教科書・テキスト	授業ごとに担当者の配布する資料		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE160U 総合教養D I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	富岡 和久・林 剛司 (代表教員 富岡 和久)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>コミュニケーションとは、情報（メッセージ）の授受により相互に影響しあう過程（プロセス）である。特に多様な価値観が存在する中で、互いを認め合うことは大切な事である。本講義では円滑なコミュニケーションに求められるテクニックについて学び、実践することで理解を深める。</p> <p>具体的には大学生活においてコミュニケーションが重要な役割を果たす場面の一つを想定して、私たちを取りまく家庭を中心とした「日常生活」を題材に用いて課題探求型のグループ学習を体験する。</p> <p>さらに多様性の理解についても知識を深める。</p> <p>この科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられた科目である。</p>			<p>①プレゼンテーションの基本について学ぶ。</p> <p>②コミュニケーション能力としての「相手に伝える力」や「相手から読み取る力」を身につける。</p> <p>③協調性（チームワーク力）、主体性・積極性、リーダーシップあるいは論理的思考を身につける。</p> <p>④「日常生活」情報の中から自身に役立つものを適切に抽出・整理し、応用する力を身につける。</p> <p>⑤人種やジェンダーなど、現代アメリカ社会のキーワードを理解する。</p>				
教授方法	グループワーク形式で行う（1回～8回）。講義形式で行う（9～15回）						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	15回の流れについての説明を聞き、全体の流れを理解する。富岡担当授業内容とグループワークの進め方の説明。グループ分け。テーマの設定及び資料収集方法の決定をする。					富岡	
2	グループワークの知識と実践形式での学びをおこなう。 目標：グループ学習に必要な技術や知識などを実際の体験から習得する。					富岡	
3	プレゼンテーションの基本；コミュニケーションツールの一つとしてのプレゼンテーションを行う上で必要な基本的要素を学ぶ。「紹介・説明・説得」の違いについて事例を通して学習する。					富岡	
4	聞いてもらえるプレゼンテーション：論理的な文章の組み立て方と心に届く内容に、我々が何気なく用いている「パラランゲージ」を加えることで聞き手に届くプレゼンテーションをする。そのための技術について学ぶ。					富岡	
5	テーマ1に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備－話し合い－行動までを体験して、理解する。					富岡	
6	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、テーマ2の設定 目標：プレゼンテーション法の実践と理解。一連のプロセスの最終段階の成果の評価を行い、課題を見つける。					富岡	
7	テーマ2に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備－話し合い－行動までを体験して、理解を深める。					富岡	
8	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、本シリーズ全体の振り返りと共有 目標：2回のグループワークを通して、コミュニケーションの意義を理解するとともに、私たちにとっての「生活」の意味を理解する。					富岡	
9	「マイノリティ」から見るアメリカ多民族国家、多文化主義を理解する。					林	
10	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『ドゥ・ザ・ライト・シング』 アメリカにおける人種間の衝突について、理解を深める。					林	
11	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『ドゥ・ザ・ライト・シング』 ブルックリンの人種構成について理解する。					林	
12	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『ブロックバック・マウンテン』 アメリカにおけるジェンダーとLGBTについて理解する					林	
13	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『ブロックバック・マウンテン』 アメリカにおけるジェンダーと職業観について理解する					林	
14	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『人生は小説よりも奇なり』 アメリカにおける同性婚の合法化について、理解を深める。					林	
15	まとめ アメリカにおける多文化主義、人種間衝突、異文化コミュニケーション、ジェンダーについてまとめ、理解する。					林	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	・指定の書式に従ってレポートを作成している。 ・感想文ではなく、客観的に記述し自分の考察を加えている。		毎回のフィードバック	30	講義で学んだことを自分の言葉でフィードバックし、理解を深める。	
授業への参加態度	20	講義の到達目標をふまえて、授業に参加している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回学んだ内容をまとめ、配付された資料と共に整理しておくこと。事前・事後の学習はグループワークを効果的に進めるために、指示に従って各回毎に指定された時間数を自主的に行ってください。（総計60時間相当分）				授業内で随時行う			
受講生に望むこと	日常、何気なく使用するコミュニケーションを深く追及することによって、自分自身の行動がより円滑に有意義になるような目標を持って毎回の授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	プリントを配布し、パワーポイントを適宜使用する。		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE170U 総合教養DII		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	富岡 和久・林 剛司 (代表教員 富岡 和久)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>コミュニケーションとは、情報（メッセージ）の授受により相互に影響しあう過程（プロセス）である。特に多様な価値観が存在する中で、互いを認め合うことは大切な事である。本講義では円滑なコミュニケーションに求められるテクニックについて学び、実践することで理解を深める。</p> <p>具体的には大学生活においてコミュニケーションが重要な役割を果たす場面の一つを想定して、私たちを取りまく家庭を中心とした「日常生活」を題材に用いて課題探求型のグループ学習を体験する。</p> <p>さらに多様性の理解についても知識を深める。</p> <p>この科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられた科目である。</p>			<p>①プレゼンテーションの基本について学ぶ。</p> <p>②コミュニケーション能力としての「相手に伝える力」や「相手から読み取る力」を身につける。</p> <p>③協調性（チームワーク力）、主体性・積極性、リーダーシップあるいは論理的思考を身につける。</p> <p>④「日常生活」情報の中から自身に役立つものを適切に抽出・整理し、応用する力を身につける。</p> <p>⑤人種やジェンダーなど、現代アメリカ社会のキーワードを理解する。</p>				
教授方法	グループワーク形式で行う（1回～8回）。講義形式で行う（9～15回）						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	15回の流れについての説明を聞き、全体の流れを理解する。富岡担当授業内容とグループワークの進め方の説明。グループ分け。テーマの設定及び資料収集方法の決定をする。					富岡	
2	グループワークの知識と実践形式での学びをおこなう。 目標：グループ学習に必要な技術や知識などを実際の体験から習得する。					富岡	
3	プレゼンテーションの基本；コミュニケーションツールの一つとしてのプレゼンテーションを行う上で必要な基本的要素を学ぶ。「紹介・説明・説得」の違いについて事例を通して学習する。					富岡	
4	聞いてもらえるプレゼンテーション：論理的な文章の組み立て方と心に届く内容に、我々が何気なく用いている「パラランゲージ」を加えることで聞き手に届くプレゼンテーションをする。そのための技術について学ぶ。					富岡	
5	テーマ1に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備－話し合い－行動までを体験して、理解する。					富岡	
6	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、テーマ2の設定 目標：プレゼンテーション法の実践と理解。一連のプロセスの最終段階の成果の評価を行い、課題を見つける。					富岡	
7	テーマ2に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備－話し合い－行動までを体験して、理解を深める。					富岡	
8	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、本シリーズ全体の振り返りと共有 目標：2回のグループワークを通して、コミュニケーションの意義を理解するとともに、私たちにとっての「生活」の意味を理解する。					富岡	
9	「マイノリティ」から見るアメリカ多民族国家、多文化主義を理解する。					林	
10	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『ドゥ・ザ・ライト・シング』 アメリカにおける人種間の衝突について、理解を深める。					林	
11	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『ドゥ・ザ・ライト・シング』 ブルックリンの人種構成について理解する。					林	
12	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『ブロークバック・マウンテン』 アメリカにおけるジェンダーとLGBTについて理解する					林	
13	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『ブロークバック・マウンテン』 アメリカにおけるジェンダーと職業観について理解する					林	
14	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『人生は小説よりも奇なり』 アメリカにおける同性婚の合法化について、理解を深める。					林	
15	まとめ アメリカにおける多文化主義、人種間衝突、異文化コミュニケーション、ジェンダーについてまとめ、理解する。					林	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	・指定の書式に従ってレポートを作成している。 ・感想文ではなく、客観的に記述し自分の考察を加えている。		毎回のフィードバック	30	講義で学んだことを自分の言葉でフィードバックし、理解を深める。	
授業への参加態度	20	講義の到達目標をふまえて、授業に参加している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回学んだ内容をまとめ、配付された資料と共に整理しておくこと。事前・事後の学習はグループワークを効果的に進めるために、指示に従って各回毎に指定された時間数を自主的に行ってください。（総計60時間相当分）				授業内で随時行う			
受講生に望むこと	日常、何気なく使用するコミュニケーションを深く追及することによって、自分自身の行動がより円滑に有意義になるような目標を持って毎回の授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	プリントを配布し、パワーポイントを適宜使用する。		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	LJ090U 日本語基礎		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択	
担当教員名	竹下 正弘						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は大学での講義受講やレポート作成に必要なとされる日本語表現の基礎力養成を目的としている。「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を充実させ、大学生活で必要な「文章表現」「口頭表現」の力を伸ばす。また、大学生活を豊かにする「文学作品」「日本の美しいことば」等に触れる。			①辞書に親しみ、使いこなすことができる ②決められた「テーマ」「時間」で文章表現ができる ③表現力を豊かにするために「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を伸ばす ④口頭表現に慣れ親しむ				
教授方法	演習と講義。						
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：「日本語基礎力」とはどのようなものかを理解する。「自己紹介文」を書く。						
2	①前回の「自己紹介文」を「口頭表現」「文章表現」として発表し、「すばらしい点」「直したい点」を考える。 ②辞書を使い慣れる（漢字の「読み」と「意味」）						
3	①表現力を豊かにする語彙（対義語） ②辞書を使い慣れる（「対義語」）						
4	①文章表現の基礎（「構成」を考える） ②表現力を豊かにする語彙（同義語） ③辞書を使い慣れる（「同義語」）						
5	①文章表現の基礎（「構成」「起承転結」を考える） ②表現力を豊かにする語彙（四字熟語） ③辞書を使い慣れる（「四字熟語」）						
6	①文章表現の実践（「エッセイ」を書く） ②表現力を豊かにする語彙（三字熟語） ③辞書を使い慣れる（「三字熟語」）						
7	①口頭表現の実践（「詩」の朗読） ②表現力を豊かにする語彙（故事成語） ③辞書を使い慣れる（「故事成語」）						
8	①口頭表現の実践（「詩」「散文」の朗読） ②表現力を豊かにするために（仮名遣い） ③辞書を使い慣れる（仮名遣いに注意して） ④到達確認テスト						
9	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を豊かにするために（言葉の意味を知る）						
10	①口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） ②表現力を豊かにするために（「ことわざ」を使いこなす）						
11	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を確実にするために（教育漢字の確認）						
12	①口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） ②表現力を確実にするために（常用漢字の確認）						
13	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を確実にするために（表外漢字の確認）						
14	①文章表現の実践（小論文）を書く） ②表現力を確実にするために（日本語の乱れ・文法）						
15	①文章表現の実践（「小論文」を書く） ②表現力を確実にするために（まとめ）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期テスト (16回目)	50	各回の講義内容・演習内容を理解しているか		到達確認テスト (8回目)	20	各回の講義内容・演習内容を理解しているか	
各回の課題 提出	20	定められた書式・時間に従って提出しているか。さらに、「文章表現」においては自分の考え・意見を表現しているか		授業参加 態度	10	課題に取り組み、弱点を克服しているか	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
テキストの復習及び発展課題の学習 [50分]				・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。			
受講生に 望むこと	授業を通して、大学生活に必要なマスメディア・文学・辞書などに触れる習慣を身に付けよう。			教科書・ テキスト	『みがこう、あなたの日本語力』川本信幹 著 (東京書籍) 2008年 ISBN : 978-4-487-80295-1		
指定図書 参考書等	なし			その他・ 特記事項	①辞書（電子辞書が望ましい）を持参すること		

授業科目名	LJ110U 日本語表現法 I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	幸 聖二郎・清水 實・竹下 正弘・松岡 香 (代表教員 幸 聖二郎)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、全学共通科目のうち学部の言語教育科目に位置付けられている。受講生は本授業内の演習や課題作成を通して、大学における授業理解の土台となる文章表現力と口頭表現力の基礎を培う。文章表現においては、問題演習を通して語彙を増やし、具体的かつ適切に言葉を用いる技術を学ぶ。口頭表現においては、敬語の理解を通してまとまった内容を人前で話すことについての基本を学ぶ。また、さまざまな場面を想定した会話を練習することによって、正しい敬語を使用することに慣れる。			①言葉で伝えるための基本的な姿勢を習得する。(聞き方、話し方、読み方、書き方) ②敬語の基本を理解し、敬語を適切に用いた表現ができる。 ③問題演習などを通して、大学生・社会人レベルの語彙を身につけ、適切な漢字表記ができる。 ④基本的な文章作成のルールを身につけ、読み手にわかりやすい文章を作成することができる。 ⑤総合的な日本語表現力(日本語検定2級を目指す実力)を身につけている。			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。随時ディスカッションを行う。					
履修条件	「日本語基礎」履修者は、単位修得後に「日本語表現法 I」を履修することができる。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の位置づけ、授業の進め方について理解する。グループ内で自己紹介する。 テキスト①：この授業で何を学ぶかを知る。					全員
2	テキスト②：話の聞き方について学ぶ、相手に理解してもらうための自己紹介を行う。 テキスト③：敬語の種類と使い分けについて理解する。					全員
3	テキスト②：発声・発音の基本。 テキスト③：敬語の使い分けを復習する、注意すべき敬語について理解する。					全員
4	テキスト②：朗読について学ぶ。 テキスト③：配慮を示す言葉について理解する。					全員
5	テキスト③：品詞・活用の種類について理解する、ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉について理解する。					全員
6	テキスト①：レポートの形を知り、アイデアを練る。					全員
7	テキスト①：構想を練り、情報を調べる。 テキスト③：文のねじれと言葉の係り受け、あいまい文について理解する。					全員
8	テキスト①：テーマを絞り込み、目標を規程する。 テキスト③：接続語・指示語と文章について理解する。					全員
9	テキスト①：文章を組み立てる。 テキスト③：類義語・対義語について理解する。					全員
10	テキスト①：組み立てを再検討する。 テキスト③：動詞の自他・視点について理解する。					全員
11	テキスト①：パラグラフを考える。 テキスト③：文体、話し言葉、書き言葉について理解する。					全員
12	テキスト①：本文を書きこんでいく。 テキスト②：コロケーションについて理解する。					全員
13	テキスト①：引用しながら書く。 テキスト③：部首・音訓・熟語について理解する。					全員
14	テキスト②：資料の作り方を学ぶ。 テキスト③：仮名遣い・送り仮名について理解する。					全員
15	テキスト③：総合問題に挑戦する。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加状況	20	①必要な準備をして参加している。 ②毎回の学習事項について予習復習をしている。 ③積極的にディスカッションに参加している。		提出課題	30	①授業時に指示する課題について、学習した事項を踏まえて表現し、提出している。 ②日本語検定・領域別問題集について、指示された書式・期日を守り、自己採点を行った上で提出している。
単位認定試験	50	①授業で取り組んだ各分野の内容を概ね習得している。 ②得意な分野を伸ばし、苦手な分野を克服している。 ③日本語検定3級以上の実力が付いている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①毎回指定された課題・問題に取り組む。[40分] ②苦手な分野の克服に向けて努力する。具体的には、苦手とする領域の問題集(指定図書)に取り組む。[40分] ③前期の授業で学んだ内容をもとに、夏季休業中にレポートを作成して、後期の授業に持参すること。[夏期休業中に10日～14日間程度]				・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。		
受講生に望むこと	①毎回、必ず国語辞典を持参すること。(電子辞書可) ②主体的に課題やディスカッションに取り組むこと。 ③各自の学習成果を確認するため、日本語検定を受験すること。			教科書・テキスト	①『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版 プロセス重視のレポート作成』大島弥生他 ひつじ書房 2014 ISBN: 978-4-89476-709-6 ②『Practical 日本語 口頭表現編 自己表現の型』福沢健輔 おうふう 5刷 2011 ISBN: 978-4-273-03339-2 ③『スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会GK7 東京書籍 2014 ISBN: 978-4-487-80364-4	
指定図書参考書等	日本語検定委員会(東京書籍 2008)発行の以下のテキストより1冊を選んで問題を解く。 ①日本語検定公式テキスト『日本語中級3・4級』ISBN 978-4487802906 ②日本語検定領域別問題集『敬語』ISBN 978-4487802760 ③日本語検定領域別問題集『語彙・言葉の意味』ISBN 978-4487802784 ④日本語検定領域別問題集『文法』ISBN 978-4487802777 ⑤日本語検定領域別問題集『漢字・表記』ISBN 978-4487802971			その他・特記事項	①基礎学力テストで一定の基準に達しなかった学生は「日本語基礎」の授業を履修し、単位取得した後で履修すること。 ②日本語表現法Ⅱにおいてもテキストを継続して使用する。	

授業科目名	LJ120U 日本語表現法Ⅱ		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修	
担当教員名	幸 聖二郎・清水 實・松岡 香 (代表教員 幸 聖二郎)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち、言語教育科目に位置付けられている。受講生は、日本語表現法Ⅰで学んだことを基礎として、大学生活から社会生活におけるさらに高度な文章表現力と口頭表現力を培う。文章表現においては、レポート作成を通して形式に則った作成方法を学ぶ。口頭表現においては、相手の話の要点を的確に把握し、論理的で説得力のある話し方について考え、スピーチやディベートなどの体験を通して実践的に学ぶ。			①言葉で伝えるための実践的な知識・技能を身につけている。 ②敬語の知識を身につけ、場に応じて相手に配慮した適切な敬語を使うことができる。 ③定型文章表現(主としてレポート作成)に必要な知識やルールを理解して、適切に表現することができる。 ④人前で改まった内容のスピーチを行うことができる。 ⑤資料に基づいて論理的に物事を説明することができる。 ⑥グループで協力してディベートを行うことができる。				
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件	「日本語表現法Ⅰ」の単位を修得済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：日本語表現法Ⅱで学ぶ文章表現、口頭表現について概要を説明する。					全員	
2	テキスト①：文章・表現・形式を点検する。 テキスト②：プレゼンテーション・内容の構成について学ぶ。テキスト③：重要語句を確認する。					全員	
3	テキスト①：発表を準備する。 テキスト②：プレゼンテーションについて考える。テキスト③：重要語句を確認する。					全員	
4	テキスト①：口頭発表をする。 テキスト②：話し方の技術について学ぶ。テキスト③：重要語句を確認する。					全員	
5	テキスト①：口頭発表をする。テキスト③：重要語句を確認する。					全員	
6	テキスト①：学んだことを振り返る。テキスト③：重要語句を確認する。					全員	
7	テキスト①：スピーチ原稿、手元資料(メモカード)を作成する。 テキスト③：重要語句を確認する。					全員	
8	テキスト①：発表資料(レジュメなど)を作成する。 テキスト③：重要語句を確認する。					全員	
9	スピーチの実践(前半グループ)。					全員	
10	スピーチの実践(後半グループ)。					全員	
11	ディベートについて理解し、論題についてディスカッションを行う。					全員	
12	テキスト②：ディベートの技術(準備を行う)。					全員	
13	テキスト②：ディベートの実践(前半グループ)。					全員	
14	テキスト②：ディベートの実践(後半グループ)。					全員	
15	後期の授業で学んだことを振り返り、グループで話し合う。自己の課題を取り上げ、ミニレポートを作成する。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	20	①必要な授業準備をして参加している。 ②与えられた役割・課題を果たして、ディスカッションやディベートに参加している。 ③毎回学習する事項について予習復習をしている。		課題レポート	40	①形式・内容の両面において、学習内容が反映されている。 ②計画通りにレポートが作成できている。 ③大学生レベルの語彙力・表現となっている。	
口頭表現発表態度	40	①学習内容を理解して発表を行っている。 ②ディベートやディスカッションのルールを理解し実践している。 ③相手の意見をしっかりと聞き、積極的に発言している。					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①日本語表現法Ⅰで課されたレポートを夏季休業期間を利用して作成し、初回の授業で提出すること。[夏期休業中に10日～14日間] ②ディベートはグループごとに役割分担をして、資料収集・論点組立の準備をする。[120分] ③レポート発表は、各自が自分に最適と思われる方法を考え準備する。			・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。				
受講生に望むこと	①「日本語表現法Ⅰ」で学んだ内容を踏まえた上で授業を行うため、必要に応じて復習しておくこと。 ②毎回辞書を持参し、分からない単語や表現などはその都度調べるなどして語句の理解に努めること。 ③授業時はもちろん相当量の事前事後学習が求められるため、学習する時間を確保して、集中して取り組むこと。		教科書・テキスト	①『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版 プロセス重視のレポート作成』大島弥生他 ひつじ書房 2014 ISBN: 978-4-89476-709-6 ②『Practical 日本語 口頭表現編 自己表現の型』福沢健編 おうふう 5刷 2011 ISBN: 978-4-273-03339-9 ③『スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会GK7 東京書籍 2014 ISBN: 978-4-487-80364-4			
指定図書/参考書等	なし		その他・特記事項	日本語表現法Ⅰで使用したテキストを継続して用いる。			

授業科目名	LE090U 英語基礎		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「基礎力強化科目」に位置付けられている。本授業では英語学習の仕方や中学校程度の基礎知識（文法的知識や語彙・発音）の定着をすることを目標に、「予習⇒授業での理解確認⇒テスト⇒復習・予習」サイクルで授業を行う。具体的には、毎回テキストに従って、基本的文法事項の理解確認と同時に、練習問題やペアワークを通じて大学生の日常生活に必要な語彙を使って発信できる力を養う。</p>			<p>学生は大学で学ぶために必要な基本的語彙・文型等を確認しながら、シンプルな文を自分で組み立てて発信できるような基本的な英語力を身につける。同時に、自律的に学ぶ姿勢を獲得することを目標とする。</p>			
教授方法	演習（予習⇒授業での理解確認⇒テスト⇒復習・予習）の形式で行う。					
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、クラスルール、ノートの作り方、テキストの使い方等について学ぶ。英語での自己紹介をする。					
2	Lesson 1: This is my everyday life. 一般動詞(1) 現在形の肯定文、否定文、疑問文を学ぶ					
3	前回の授業で学んだ文型を用いて、日常生活の表現を実際に聞き、読み、話し、書く。					
4	Lesson 2: Do you keep a diary? 一般動詞(2) 一般動詞のWh-疑問文と答え方。人称代名詞の使い方を学ぶ。日常生活について、質問の仕方、答え方を実際に使えるようにする。					
5	Lesson 3: These are my family photos. be動詞(1) be動詞現在形を使い、家族についての紹介の仕方を学ぶ。					
6	Lesson 4: Where are you from? be動詞(2) be動詞のwh-疑問文を使って、相手の状態や持ち物についての質問の仕方と答え方を学ぶ。予習					
7	Lesson 5: We love our town, Sakura-Yokocho. 場所の表現 基本的な前置詞を用いて、街の紹介文を理解し、発信できるようにする。					
8	Lesson 6: I'm so busy this month! 時の表現 時点、期間、回数など様々な時の表現を用いて過去の行為や予定についての表現を学ぶ。					
9	Lesson 7: Are you enjoying the Autumn Festival? 進行形 進行形を用いて目の前の出来事の記述や過去のある時点での行為の説明の仕方を学ぶ。					
10	Lesson 8: How was the job interview? 助動詞 面接試験の場面を題材に義務・可能・許可などの表現の仕方を学ぶ。					
11	Lesson 9: What does he look like? Wh-疑問文 wh疑問文を用いて相手から情報を得たり、答えたりする表現を学ぶ。					
12	Lesson 10: Can you come to our Christmas Concert? 基本動詞 get, have, come, go等の基本動詞の用法を学美、発信に使う。					
13	Lesson 11: Santa Claus is coming. 基本動詞の前置詞 put, take等基本動詞の句動詞としての用法を学び、発信に使う。					
14	Lesson 12: Let's take a trip. 英語で自分を表現するために 英語で発信する際の文の組み立て方を確認する。					
15	文法事項を復習し、まとめとして自分の日常生活またはこれからの予定など、自分についての短いスピーチ原稿を書き、発信する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	40	授業に取り組む姿勢(発音、ペアワーク、質問等)		ノートづくり・課題への取り組み	50	①予習：指定された範囲の課題（ノートづくり）ができているか。②質問して分かったことがノートにメモされているか。③復習：本時の学習事項を定着すべく練習しているか。
スピーチ原稿と発信	10	学んだことをいかして自分についてのスピーチ原稿を作り、発信する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習型で進められる。単語や文の意味（発音・ストレスは音声データを用いて練習）を調べ、練習問題の答を書いてくる[40分]。不明な点等があれば授業で質問すること。 ②授業後は内容を確認しながら音読するなど復習をして定着を図ること[20分]。 ③目安として毎日30分程度の学習を行うよう課題が出される。計画的に取り組むこと。				随時行う		
受講生に望むこと	①1時間目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『Communication in Simple English発信型シンプル・イングリッシュ』三修社 2007年 ISBN:978-4-384-33378-7 C1082	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	入学時基礎学力テストで「英語基礎」に該当した者は、「英語基礎」の単位を修得しなければ、「英語F1」を履修できない。本科目を1年次に2回履修し、単位修得できなかった場合には進級基準により3年次への進級できないことが確定する。	

授業科目名	LE155U 英語A I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	アンソニー ダガン					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実現場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのC1（学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができ、明確で文章構成がしっかりとした文章を作ることができる）レベルの英語力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。 Unit1 Achieving goals; Lesson 1 動詞/形容詞+前置詞を用いて言語学習経験について討論することができるようになる。					
2	Unit1 Lessons 1-2 ①動詞/形容詞+前置詞を用いて言語学習経験について討論することができるようになる。（復習）②受動態を用いて自分の知っている事/知らないことについて述べるようになる。					
3	Unit 1 Lessons 3-4 ①現在完了を用いて、自分がなし得た事柄について話すことができるようになる。②本課のまとめ。					
4	Unit 2 Places and communities; Lessons 1-2 ①動名詞/不定詞を用いて、訪問すべき場所についての助言ができるようになる。②比較級を用いて、公式/非公式の言語の特徴が使いこなせるようになる。					
5	Unit 2 Lessons 3-4 ①形容詞を用いて、土地についての描写ができるようになる。②本課のまとめ。					
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト					
7	Unit 3 Stories; Lessons 1-2 ①動詞の過去形を用いて逸話を話すことができるようになる。②複合形容詞を用いて人物を詳細に描写することができるようになる。					
8	Unit 3 Lessons 3-4 ①動名詞句、過去分詞、現在分詞を用いて、冗談を言えるようになる。②本課のまとめ。					
9	Unit 4 Moving forward; Lessons 1-2 ①未来形を用いて物事が起こる確率について描写することができるようになる。②未来形を用いて計画や調整について話すことができるようになる。					
10	Unit 4 Lessons 3-4 ①主語と動詞の倒置表現を用いて、広範囲にわたる議論を理解することができるようになる。②本課のまとめ。					
11	Unit 5 Making money; Lessons 1-2 ①強調表現を用いて、仕事関係について話すことができるようになる。②条件節を用いて、金融に関する決定や後悔について討論することができるようになる。					
12	Unit 5 Lesson 3 文を修飾する副詞を用い優先順位を表すことができるようになる。					
13	Unit 5 Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認					
14	Units 3-5の単元テスト、外部テスト（㊟特記事項参照）によるレベル到達度確認					
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。 ②内容把握・理解ができているか。 ③運用力が身につけているか。 ④指示通りの取り組み・発表（協力）になっているか。		単元テスト・期末テスト	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[50分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 6』 Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627313 『English in Common with Workbook 6』 Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132678964	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE160U 英語AⅡ		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	アンソニー ダガン					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのC1(学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができ、明確で文章構成がしっかりとした文章を作ることができる)レベルの英語力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト等)。					
履修条件	「英語AⅠ」を履修した者(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、Unit 6 Understanding power; Lesson 1 冠詞を用いて貴重な建物や建造物について描写できるようになる。					
2	Unit 6 Lessons 2-3 ① whatever, whoever, whenever節を用いて流暢に話されるスピーチのメモを取ることができるようになる。②時間と対比を論理的に繋げて自伝的文章が書けるようになる。					
3	Unit 6 Lesson 4 本課のまとめ Unit 7 The natural world; Lesson 1 形容詞節を用いて手順を説明することができるようになる。					
4	Unit 7 Lessons 2-3 ①不定詞/動名詞が続く動詞を用いて広範囲にわたる散文に基づき推測ができるようになる。②as...as表現や量を表す表現を用いて、広告が書けるようになる。					
5	Unit 7 Lesson 4 本課のまとめ。					
6	Units 6-7の理解確認とテスト					
7	Unit 8 Problems and issues; Lessons 1-2 ①伝達動詞を用いて違う質問をされた際に引き伸ばし戦術をとることができるようになる。②継続表現を用いてライフスタイルについて討論することができるようになる。					
8	Unit 8 Lessons 3-4 ① 話題化(文の先頭に移動)する方法を用いて、日々の問題を説明することができるようになる。②本課のまとめ。					
9	Unit 9 People with vision; Lessons 1-2 ①動詞句など前置詞との連語を用いて、物事の確からしさの程度を表すことができるようになる。②談話標識を用いて自分の好みを説明するために口頭表現を用いることができるようになる。					
10	Unit 9 Lessons 3-4 ①仮定法過去を用いて仮定的な質問に答えることができるようになる。②本課のまとめ。					
11	Unit 10 Expressing feelings; Lessons 1-2 ①助動詞を用いて感情がいかに自分に影響を与えるか討論することができるようになる。②推量の助動詞を用いて非現実的な状況について考え、述べることができるようになる。					
12	Unit 10 Lesson 3 wouldを用いて子どもの頃の思い出を描写することができるようになる。					
13	Unit 10 Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の復習					
14	Unit 10単元テスト、外部テスト(㊸特記事項参照)による到達度確認					
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。 ②内容把握・理解ができているか。 ③運用力が身についているか。 ④指示通りの取り組み・発表(協力)になっているか。		単元テスト・期末テスト	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと(40分)。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること(20分)。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること(50分)。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627313 『English in Common with Workbook 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132678964	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE145U 英語B I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	キャサリン シュリーブズ					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実現場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのB2（留学や仕事で求められる抽象的な話題や専門的な議論で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる）レベルの英語力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。Unit1 Making connections; Lesson 1付加疑問文を用いて、情報を確認することができるようになる。					
2	Unit 1 Lessons 1-2 ①付加疑問文を用いて、情報を確認することができるようになる。（復習）②any/every/no/someを伴う代名詞を用いて、賛成・反対を表明することができるようになる。					
3	Unit 1 Lessons 3-4 ①could/might/must/mayなどの助動詞を用いて、推測を表すことができるようになる。②本課のまとめ。					
4	Unit 2 Making a living; Lessons 1-2 ①will/be going toを用いて、将来の計画や予測を表現することができるようになる。②未来進行形や未来完了形を用いて、調査結果を報告することができるようになる。					
5	Unit 2 Lessons 3-4 ①just in caseを用いて、就職採用試験申込書の添え状が書けるようになる。②本課のまとめ。					
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト					
7	Unit 3 Lessons from history; Lessons 1-2 ①動詞の過去形を用いて短編物語を書くことができるようになる。②a/an/the/（なし）を用いて、材料、所有物、発明品について話すことができるようになる。					
8	Unit 3 Lessons 3-4 ①形容詞、副詞、位置を表す表現を用いて、ある場所についてプレゼンテーションをすることができるようになる。②本課のまとめ。					
9	Unit 4 Taking risks; Lessons 1-2 ①if節を用いて日記やブログの書き込みができるようになる。②義務を表す助動詞を用いてスポーツなどのやり方を説明することができるようになる。					
10	Unit 4 Lessons 3-4 ①強調表現を用いて、写真を比較し、違いを述べたり意見を述べたりすることができるようになる。②本課のまとめ。					
11	Unit 5 Looking back; Lessons 1-2 ①used to/would/get used toを用いて、過去の外見を描写することができるようになる。②能力の程度を表す表現を用いて、思い出について語るすることができるようになる。					
12	Unit 5 Lesson 3 although/however/neverthelessを用いて本について話すことができるようになる。					
13	Unit 5 Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認					
14	Units 3-5の単元テスト、外部テスト（㊟特記事項参照）によるレベル到達度確認					
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。 ②内容把握・理解ができているか。 ③運用力が身につけているか。 ④指示通りの取り組み・発表（協力）になっているか。		単元テスト・期末テスト	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[50分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627290 『English in Common with Workbook 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132629027	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE150U 英語BII		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	キャサリン シュリーブズ					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのB2(留学や仕事で求められる抽象的な話題や専門的な議論で扱われる語彙や表現を理解し使用することができるレベル)の英語力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	「英語BI」を履修した者(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、Unit 6 Exploring the world; Lesson 1 現在完了形と現在完了進行形の用法の違いを理解し、それを用いてくれた電子メールを書くことができるようになる。					
2	Unit 6 Lessons 2-3 ①直接・間接話法の疑問文を用いて見知らぬ土地について質問をしたり答えたりすることができるようになる。②比較級を用いて土地や人々について比較し、表現できるようになる。					
3	Unit 6 Lesson 4 本課のまとめ Unit 7 Indulging yourself; Lesson 1 加算・不加算名詞を用いて、食事の料理や用意の仕方を描写することができるようになる。					
4	Unit 7 Lessons 2-3 ①受動態を用いて正式なクレーム書面を作成することができるようになる。②使役動詞のhave/get something doneを用いて、サービスについて話すことができるようになる。					
5	Unit 7 Lesson 4 本課のまとめ					
6	Units 6-7 まとめと理解確認、Units 6-7 単元テスト					
7	Unit 8 Aiming for success; Lessons 1-2 ①It's time/I'd rather/I'd betterの表現を用いて様々なタイプの人間について描写することができるようになる。②間接話法を用いて人が言ったことを伝えたり描写したりすることができるようになる。					
8	Unit 8 Lessons 3-4 ①hard/hardlyを用いて調査から分かったことについて報告書を書くことができるようになる。②本課のまとめ。					
9	Unit 9 Crime solvers; Lessons 1-2 ①原因を表す従属節を用いて、面白い物語を作ることができるようになる。②must/might/can't haveなどの助動詞を用いて過去の出来事について推測したことを表現できるようになる。					
10	Unit 9 Lessons 3-4 ①関係代名詞を用いて記事が書けるようになる。②本課のまとめ。					
11	Unit 10 Mind matters; Lessons 1-2 ①再帰代名詞を用いて、自分の信条や意見について議論できるようになる。②動名詞や不定詞を用いて、人の見解に対する賛成・反対意見を書くことができるようになる。					
12	Unit 10 Lesson 3 様々な条件節を用いて、後悔や決意を話すことができるようになる。					
13	Unit 10 Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の復習					
14	Unit 10単元テスト、外部テスト(㊸特記事項参照)による到達度確認					
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。 ②内容把握・理解ができているか。 ③運用力が身についているか。 ④指示通りの取り組み・発表(協力)になっているか。		単元テスト・期末テスト	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[50分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627290 『English in Common with Workbook 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132629027	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Iの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語IIの授業を履修し、翌年英語Iを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE135U 英語C I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	クリスタル ランキート					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのB1+B2（職場・学校・余暇に加え抽象的な話題で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。Unit1 Relationships; Lesson 1 助動詞を用い一般化した物事を理解したり述べたりすることができるようになる。					
2	Unit1 Lessons 1-2 ①助動詞を用い一般化した物事を理解したり述べたりすることができるようになる。（復習）②単純現在と現在進行形を用いて、くだけた電子メールを書くことができるようになる。					
3	Unit 1 Lessons 3-4 ①現在完了と単純現在を用いて、読んだり聞いたりしたことを自分の言葉で言い換えることができるようになる。②本課のまとめ。					
4	Unit 2 In the media; Lessons 1-2 ①受動態を用いて賛成・反対意見を述べるようになる。②関係代名詞節を用いて問題解決場面の質問や助言ができるようになる。					
5	Unit 2 Lessons 3-4 ①単純過去と過去進行形を用いて、自分の人生で大切な出来事について描写することができるようになる。②本課のまとめ。					
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト					
7	Unit 3 Home sweet home; Lessons 1-2 ①現在進行形、be going to、willを用いて、未来の事を話したり、Home Exchangeで借りた家について、クレームの手紙を書いたりすることができるようになる。②比較級や最上級を用いて、都市の比較をすることができるようになる。					
8	Unit 3 Lessons 3-4 ①未来形を用いて、形式ばった電話をかけることができるようになる。②本課のまとめ。					
9	Unit 4 Wealth; Lessons 1-2 ①付加疑問文を用いておしゃべりすることができるようになる。②義務や禁止を表す助動詞を用いて、招待したり招待への返答ができるようになる。					
10	Unit 4 Lessons 3-4 ①if/when/unless/as soon asから始まる節を含む文を用いて、広告を書くことができるようになる。②本課のまとめ。					
11	Unit 5 Spare time; Lessons 1-2 ①現在完了形と現在完了進行形を用いて、自分の考えを提案したり他人の考えに返答したりすることができるようになる。②動名詞/不定詞を目的語にする動詞を用いて映画や本の描写をすることができるようになる。					
12	Unit 5 Lesson 3 加算名詞・不加算名詞を用いて、レストランを推薦することができるようになる。					
13	Unit 5 Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認					
14	Units 3-5の単元テスト、外部テスト（㊟特記事項参照）によるレベル到達度確認					
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。 ②内容把握・理解ができているか。 ③運用力が身につけているか。 ④指示通りの取り組み・発表（協力）になっているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		単元テスト・期末ト	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627283 『English in Common with Workbook 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132628945	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE140U 英語CII		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	クリスタル ランキート					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのB1+B2（職場・学校・余暇に加え抽象的な話題で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。					
履修条件	「英語C I」を履修した者（単位未修得可）。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション Unit 6 Travel tales; Lesson 1 過去完了形を用いて思い出深い写真を描写できるようになる。					
2	Unit 6 Lessons 2-3 ①likeの様々な用法を用いて、行ったことのない場所に行くために、読んだり話したりすることができるようになる。②冠詞を用いて、自分の興味や驚いたことについて、読んだり話したりすることができるようになる。					
3	Unit 6 Lesson 4 本課のまとめ Unit 7 Lifelong learning; Lesson 1 疑問詞が主語/目的語の疑問文を用いて、学習経験について読んだり話したりできるようになる。					
4	Unit 7 Lessons 2-3 ①used to/wouldを用いて、昔習った先生について描写することができるようになる。②能力を表す助動詞を用いて過去から現在に至るまでの能力について読んだり話したりできるようになる。					
5	Unit 7 Lesson 4 本課のまとめ					
6	Units 6-7 理解確認と単元テスト					
7	Unit 8 Making changes; Lessons 1-2 ①仮定法過去を用いて原因と結果を述べるようになる。②副詞を用いて世界的課題について話すことができるようになる。					
8	Unit 8 Lessons 3-4①仮定法過去完了を用いて重大な決断による効果について描写することができるようになる。②本課のまとめ。					
9	Unit 9 On the job; Lessons 1-2 ①make/let/allowを用いて自分の意見をグループメンバーに伝えることができるようになる。②間接話法を用いて情報を伝達することができるようになる。					
10	Unit 9 Lessons 3-4 ①過去の義務/許可を表す表現を用いて、仕事に必要な日課をこなすために何を学ばねばならなかったのか表現することができるようになる。②本課のまとめ。					
11	Unit 10 Memories of you; Lessons 1-2 ①I wish/if onlyの表現を用いて願いを言うことができるようになる。②過去時制を用いて過去の出来事や人物について討論することができるようになる。					
12	Unit 10 Lesson 3 句動詞を用いて別れを告げる表現を学び適切に使えるようになる。					
13	Unit 10 Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の復習					
14	Unit 10単元テスト、外部テスト（㊸特記事項参照）による到達度確認					
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。 ②内容把握・理解ができているか。 ③運用力が身についているか。 ④指示通りの取り組み・発表（協力）になっているか。		外部テスト	20	目標レベルに達しているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		単元テスト・期末テスト	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627283 『English in Common with Workbook 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132628945	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE125U 英語D I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	カーラ カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実現場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>入学以前に学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA2+~B1（身近な話題・外国の行事や習慣・新聞記事等で扱われる語彙や表現を理解使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>				
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。						
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。Unit 1 Lesson 1 likes, dislikesの構文を用いて個人の好みについて話すことができるようになる。						
2	Unit 1 Lessons 1-2 ①likes, dislikesの構文を用いて個人の好みについて話すことができるようになる。（復習）②単純現在と頻度を表す副詞を用いて日々の決まった行動について尋ねたり応えたりできるようになる。						
3	Unit 1 Lessons 3-4 ①現在進行形を用いて自分の最近の生活についてメールを書いて知らせることができるようになる。②本課のまとめと理解確認。						
4	Unit 2 Musical Tastes Lessons 1-2 ①単純現在を用いて個人の過去の出来事について述べるようになる。②他人と自分を比較し、soとneitherを用いて相手の意見に同意したり反対したりすることができるようになる。						
5	Unit 2 Lessons 3-4 ①現在完了形と単純過去を用いて、経験や達成したことについて述べるようになる。②本課のまとめと理解確認。						
6	Unit 3 Fine cuisine; Lessons 1-2 ①be going toを用いて自分の将来の計画について友人に伝えることができるようになる。②関係代名詞を用いて親しい人に招待状を書くことができるようになる。						
7	Unit 3 Lessons 3-4 ①友人と計画を立て現在進行形を用いて必ず実行するということを述べるようになる。②本課のまとめと理解確認。						
8	Units 1-3の理解確認および単元テスト						
9	Unit 4 Survival; Lesson 1-2 ①比較級を使って人を比較することができるようになる。②最上級を使って感謝状を書くことができるようになる。						
10	Unit 4 Lessons 3-4 ①間接疑問文を用いて丁寧な質問をすることができるようになる。 ②本課のまとめと理解確認。						
11	Unit 5 Life events; Lessons 1-2 ①should, can, have toを用いて友人と意見を交わすことができるようになる。②for/sinceを伴う現在完了形を用いて個人のプロフィールを書くことができるようになる。						
12	Unit 5 Life events; Lessons 3-4 ①used toを用いて今より若かったころの自分について描写することができるようになる。②本課のまとめと理解確認。						
13	Unit 6 Destinations; Lessons 1-2 ①willを用いて将来について予測を述べるようになる。②too, too much/many, enoughを用いて何かを選んだ時の理由を述べるようになる。						
14	Unit 6 Lessos 3-4 ①likeの様々な用法を用いて好きな場所の描写ができるようになる。②本課のまとめと理解確認。						
15	Units 4-6の単元テストおよび外部テスト（㊟特記事項参照）による到達度確認、まとめ、リフレクション提出						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。 ②内容把握・理解ができているか。 ③運用力が身につけているか。 ④指示通りの取り組み・発表（協力）になっているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。	
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		単元テスト・期末テスト	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う			
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 3』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627276 『English in Common with Workbook 3』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132628808		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。		

授業科目名	LE130U 英語DII		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	カーラ カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>前期に引き続き、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA2+B1（身近な話題・外国の行事や習慣・新聞記事等で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>				
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。						
履修条件	「英語D I」を履修した者（単位未修得可）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	クラスオリエンテーション Unit 7 Mind and body ; Lessons 1-2①if節を用いて身体的な様子を描写することができるようになる。②動名詞と不定詞を用いて人の性格について描写することができるようになる。						
2	Unit 7 Lessons 3-4 ①because/so that/in order toを用いて病気について述べたり助言をしたりできるようになる。②本課のまとめと理解確認。						
3	Unit 8 Life in the fast lane; Lessons 1-2 ①受動態の現在時制を用いて、変化を描写することができるようになる。②様々な疑問文を駆使して、個人情報を探し出すことができるようになる。						
4	Unit 8 Lessons 3-4 ①過去進行形と単純過去を用いて、過去の行動について尋ねたり答えたりできるようになる。②本課のまとめと理解確認。						
5	Unit 9 Careers; Lessons 1-2 ①英語による就職面接における平易な質問に答えることができるようになる。②can, could, be able toを用いて自分の能力を伝えることができるようになる。						
6	Unit 9 Lessons 3-4 ①受動態の過去形を用いて短い記事を書くことができるようになる。②本課のまとめと理解確認。						
7	Units 7-9 理解確認と単元テスト						
8	Unit 10 Animal planet ; Lessons 1-2 ①自分に影響を与えた人物について述べるようになる。②加算・不加算名詞を用いてブログに対する短いコメントが書けるようになる。						
9	Unit 10 Lessons 3-4 ①定冠詞theを用いて音や絵について推測し、その内容を表現できるようになる。②本課のまとめと理解確認。						
10	Unit 11 Lessons 1-2 ①just, yet, alreadyを伴う現在完了形を用いて、一緒に旅行したら楽しい人を見つけることができるようになる。②直接目的語・間接目的語を取る動詞を用いて、習慣について一般化して述べるようになる。						
11	Unit 11 Lessons 3-4 ①過去完了を用いて旅行したい場所について書くことができるようになる。②本課のまとめと理解確認。						
12	Unit 12 Money matters ; Lesson 1 仮定法過去を用いて、仮想した状況に自分がいたらどうするかを言うことができるようになる。						
13	Unit 12 Lessons 2-3 ①間接話法を用いて人が自分に話したことを伝えることができるようになる。②both, neither, eitherを用いて相違点や類似点について描写することができるようになる。						
14	Unit 12 Lesson 4本課のまとめと理解確認						
15	Units 10-12の単元テスト、外部テスト（㊟特記事項参照）による到達度確認、後期の学習のまとめリフレクション最終提出。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。 ②内容把握・理解ができているか。 ③運用力が身についているか。 ④指示通りの取り組み・発表（協力）になっているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。	
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		単元テスト・期末テスト	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う			
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 3』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627276 『English in Common with Workbook 3』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132628808		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語 I の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語 II の授業を履修し、翌年英語 I を再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルの I・II の2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。		

授業科目名	LE115U 英語E I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦 国江・伊藤 雄二・林 剛司 (代表教員 宮浦 国江)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実現場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>入学以前に学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA2(旅行や公共の乗り物などで使用される表現を理解し使用することができる)レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。Unit 1 Introductions; Lesson 1 be動詞と人称代名詞の主格(肯定文)を用いて出身地について述べるようになる。					
2	Unit 1 Lessons 1-2 ①be動詞と人称代名詞の主格(肯定文)を用いて出身地について述べるようになる。(復習) ②所有を表す'sや所有形容詞、be動詞のyes/no疑問文を用いて自分の家族についての情報をやりとりできるようになる。					
3	Unit 1 Lessons 3-4 ①冠詞a/anとbe動詞(否定文)を用い平易な文を理解でき、自分でも作ることができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
4	Unit 2 Work and leisure; Lessons 1-2 ①I/you/weを主語とした単純現在を用いて自分の日課について述べるようになる。②he/she/itを主語とした単純現在を用いて他人の日課について述べるようになる。					
5	Unit 2 Lessons 3-4 ①this/that/these/thoseなどの指示代名詞や名詞の複数形を用いて、日常的に使用する品物が何か英語で伝えることができる。②本課のまとめと理解確認。					
6	Unit 3 Lessons 1-2 ①単純現在の否定文を用いて自分のフリータイムについて述べるようになる。②can/can'tを用いて自分のできることとできないことについて述べるようになる。					
7	Unit 3 Lessons 3-4 ①How about...?/Let's.../Why don't we...?などの表現を用いて電話でメッセージを残したり、聞き取って理解することができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
8	Units 1-3のまとめと理解確認、Units 1-3の単元テスト					
9	Unit 4 Food; Lessons 1-2 ①How much/many?や可算・不可算名詞を用いて、数量について述べるようになる。②a/an/some/anyを用いて自分の食事やライフスタイルについて述べるようになる。					
10	Unit 4 Lessons 3-4 ①代名詞の目的格を用いてカフェで食事を注文することができるようになる。②本課のまとめと理解確認					
11	Unit 5 Around the house; Lessons 1-2 ①there is/areの構文(肯定文と疑問文)を用いて自分の家について話すことができるようになる。②have/hasを用いて大切な持ち物について尋ねたり話したりすることができるようになる。					
12	Unit 5 Lesson 3-4 ①very/pretty/reallyなどの修飾語を用いて自分の国について略式の(打ち解けた)メールを書くことができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
13	Unit 6 Around town; Lessons 1-2 ①be動詞や規則動詞の過去形を用いて、自分の過去について話すことができるようになる。②規則・不規則動詞の単純過去を用いて、簡単な道順を教えたり理解したりすることができるようになる。					
14	Unit 6 Lessons 3-4 ①単純過去の否定文を使って一番最近の旅行について描写できるようになる。②本課のまとめ。					
15	Units 4-6の単元テストおよび外部テストによる到達度確認(㊦特記事項参照)、まとめ、リフレクション最終提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。 ②内容把握・理解ができているか。 ③運用力が身についているか。 ④指示通りの取り組み・発表(協力)になっているか。		単元テスト・期末テスト	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出される期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 2』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627252 『English in Common with Workbook 2』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132628716	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE120U 英語EⅡ		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦 国江・伊藤 雄二・林 剛司（代表教員 宮浦 国江）					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>前期に引き続き、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA2（旅行や公共の乗り物などで使用される表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。					
履修条件	「英語EⅠ」を履修した者（単位未修得可）。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、Unit 7 Describing people; Lessons 1-2 ① 代名詞one/onesを用いて家族について打ち解けた手紙を書くことができるようになる。②所有代名詞を用いて品物が誰のものか伝えることができる。					
2	Unit 7 Lessons 3-4 ①不規則動詞の単純過去を用いて書かれた記事を理解することができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
3	Unit 8 Dressing right; Lessons 1-2 ①頻度を表す副詞を用いて同僚に助言のお願いの手紙を書くことができる。②様子を表す副詞を伴った現在進行形を用いて自分が何をしているのか述べるができる。					
4	Unit 8 Lessons 3-4 ①単純現在と現在進行形を用いて天気等事実に関する会話に参加することができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
5	Unit 9 Entertainment; Lessons 1-2 ①比較級を用いて情報を得る手段を速度・手軽さ・値段等を比較することができるようになる。②最上級を用いて短い映画の批評を書くことができるようになる。					
6	Unit 9 Lessons 3-4 ①like+名詞/動名詞を用いて好みについて読んで理解したり話したりすることができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
7	Units 7-9のまとめと理解確認、Units 7-9のテスト					
8	Unit 10 Going places; Lessons 1-2 ①I/you/we/theyを主語とした現在完了形+ever/neverを用いて経験したことについて話したり聞いたりすることができるようになる。②he/she/itを主語とした現在完了形を用いて読み物のポイントを把握したり、絵葉書を書いたりすることができるようになる。					
9	Unit 10 Lessons 3-4 ①主語としての動名詞を用いて旅行チケットの予約をすることができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
10	Unit 11 Education Lessons 1-2 ①許可を表すcan/can'tや義務を表すhave to/don't have toを用いて標識や規則を理解することができるようになる。②wh-疑問文を用いて簡単な説明文を理解したり自分で作成したりすることができるようになる。					
11	Unit 11 Lessons 3-4 ①未来を表す現在進行形を用いて未来の計画について話すことができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
12	Unit 12 Your goals; Lessons 1-2 ①意志を表すbe going toを用いて決めたことを話すことができるようになる。②目的を表す不定詞を用いて、くだけた手紙を書くことができるようになる。					
13	Unit 12 Lessons 3-4 ①動詞+動名詞/不定詞を用いて好みや目標を話すことができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
14	Unit 12 Lesson 4本課のまとめと理解確認					
15	Units 10-12の単元テスト、外部テストによる到達度確認（※特記事項参照）、後期の学習のまとめ、リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。 ②内容把握・理解ができているか。 ③運用力が身についているか。 ④指示通りの取り組み・発表（協力）になっているか。		単元テスト・期末テスト	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 2』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627252 『English in Common with Workbook 2』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132628716	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE105U 英語F I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	伊藤 雄二・須田 久美子（代表教員 伊藤 雄二）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>入学以前に学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA1（日常生活で使用する身近な表現や、簡単な語彙や基礎的な表現を理解使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>				
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。						
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。または「英語基礎」の単位を修得済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。Unit 1 Introductions; Lesson 1 be動詞を用いて、ホテルへのチェックインができるようになる。						
2	Unit 1 Lessons 2-3 ①be動詞の短縮形を用いて空港でのあいさつができるようになる。②be動詞を用いたwhereから始まる疑問文を使って、人を紹介したり、会話を始めたりすることができるようになる。（導入）						
3	Unit 1 Lessons 3-4 ①be動詞を用いたwhereから始まる疑問文を使って、人を紹介したり、会話を始めたりすることができるようになる。（展開）②本課のまとめと理解確認						
4	Unit 2 Family and friends; Lessons 1-2 ①whoから始まる疑問文や所有形容詞myを用いて、自分の家族について基本的情報を提供することができるようになる。②whatから始まる疑問文や所有形容詞youを用いて、個人情報について尋ねたり応えたりできるようになる。（導入）						
5	Unit 2 Lessons 2-3 ①whatから始まる疑問文や所有形容詞yourを用いて、個人情報について尋ねたり応えたりできるようになる。（展開）②所有形容詞his/her、冠詞a/anを用いて他人についての情報を伝えたり短いプロフィールを書くことができるようになる。						
6	Unit 2 Lessons 3-4 ①所有形容詞his/her、冠詞a/anを用いて他人についての情報を伝えたり短いプロフィールを書くことができるようになる。②本課のまとめ						
7	Units 1-2の理解確認と単元テスト、Unit 3 Traveling; Lessons 1 we/they areや所有形容詞our/theirを用いて簡単な旅行のメールを書くことができるようになる。						
8	Unit 3 Lessons 2-3 ①名詞の複数形やbe動詞の否定形を用いて自分のスーツケースの中身について話せるようになる。②be動詞のyes/no疑問文を用いて観光スポットについて尋ねることができるようになる。（導入）						
9	Unit 3 Lessons 3-4 ①be動詞のyes/no疑問文を用いて観光スポットについて尋ねることができるようになる。（展開）②本課のまとめと理解確認。						
10	Unit 4 Stores and restaurants; Lessons 1-2 ①依頼を表すcanを用いて、コーヒーショップで食べ物や飲み物を注文することができるようになる。②this/that/these/thoseなどの指示代名詞を用いて、値段をたずねたり理解したりできるようになる。（導入）						
11	Unit 4 Lessons 2-3 ①this/that/these/thoseなどの指示代名詞を用いて、値段をたずねたり理解したりできるようになる。（展開）②所有格の'sを用いてもものについてたずねたり簡単なやり取りをしたりすることができるようになる。						
12	Unit 4 Lesson 4 本課のまとめと理解確認、Unit 5 Things to see and do; Lesson 1 there is/areの肯定文を用いて場所の描写をすることができるようになる。						
13	Unit 5 Lessons 2-3 ②there is/areの否定文を用いて新しい土地についての情報を求めたり理解したりすることができるようになる。①能力を表すcan/can'tを用いて一般的な能力について話すことができるようになる。						
14	Unit 5 Lesson 4本課のまとめ、理解確認と単元テスト						
15	テスト返却等前期の学習まとめ、リフレクション提出、外部テスト（㊟特記事項参照）による到達度確認と振り返り						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。 ②内容把握・理解ができているか。 ③運用力が身についているか。 ④指示通りの取り組み・発表（協力）になっているか。		単元テスト・期末テスト	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。	
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクションへの記入；毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進捗と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う			
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出される期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 1』 Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN:9780132470032 『English in Common Workbook 1』 Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132628648		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。		

授業科目名	LE110U 英語F II		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	伊藤 雄二・須田 久美子 (代表教員 伊藤 雄二)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>前期に引き続き、実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA1(日常生活で使用できる身近な表現や、簡単な語彙や基礎的な表現を理解し使用することができる)レベルの力をつけることを目指す。</p>				
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト等)。						
履修条件	「英語F I」を履修した者(単位未修得可)。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	クラスオリエンテーション、Unit 6 All about you ; Lesson 1 ①I/you+単純現在形+代名詞目的格の文型を用いて自分の好き嫌いを表すことができるようになる。						
2	Unit 6 Lessons 2-3 ①we/theyを主語としたWH疑問文を用いて知らない人と会話することができるようになる。②3人称単数現在形を用いて知人の日常的な行動について表すことができるようになる。(導入)						
3	Unit 6 Lessons 3-4 ①3人称単数現在形を用いて知人の日常的な行動について表すことができるようになる。(展開) ④本課のまとめ						
4	Unit 7 A day at work; Lessons 1-2 ①命令文を用いた文を聞いたり読んだりして簡単な指示を理解することができるようになる。②頻度を表す副詞を用いて自分の行動がどのくらい頻繁に行われるか表すことができるようになる。(導入)						
5	Unit 7 A day at work; Lessons 2-3 ①頻度を表す副詞を用いて自分の行動がどのくらい頻繁に行われるか表すことができるようになる。(展開) ②好みや申し出を表すwould likeを用いて仕事場で客を歓待することができるようになる。						
6	Units 7 Lesson 4本課のまとめ、Units 6-7の理解確認と単元テスト						
7	Unit 8 Your likes and dislikes ; Lessons 1-2 ①like/want+動名詞/不定詞の文型を用いて自分がなぜある行動をしたのか説明することができるようになる。②have/hasを用いて自分の所有物について表すことができるようになる。(導入)						
8	Unit 8 Lessons 2-3 ①have/hasを用いて自分の所有物について表すことができるようになる。(展開) ②which/howを用いた疑問文を用いてレストランの予約をしたり注文をしたりできるようになる。						
9	Unit 8 Lesson 4 本課のまとめ、Unit 9 Your life ; Lessons 1-2 ①be動詞の単純過去(肯定文)を用いて歴史上の人物について簡単な文を作ることができるようになる。(導入)						
10	Unit 9 Lessons 2-3 ①be動詞の単純過去(否定文・疑問文)を用いて過去の経験について短く描写することができるようになる。(展開) ②can/could 1を用いて簡単な依頼や許可を求めることができるようになる。						
11	Unit 9 Lesson 4 本課のまとめ、Unit 10 Past and future events; Lesson 1 ①過去形(規則動詞)を用いて、過去の出来事について書かれた文を理解できるようになる。(導入)						
12	Unit 10 Past and future events; Lessons 1-2 ①過去形(規則動詞)を用いて、過去の出来事について書かれた文を理解できるようになる。(展開) ②過去形(不規則動詞)を用いて、世間を騒がすような出来事についてまとめることができるようになる。						
13	Units 10 Lessons 3-4 ①be going toの文型を用いて短期的・長期的計画について表すことができるようになる。②本課のまとめ						
14	Units 8-10の理解確認と単元テスト						
15	外部テストによる到達度チェックと振り返り(㊟特記事項参照)、テスト返却と後期の学習のまとめ、リフレクション最終提出、						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。 ②内容把握・理解ができているか。 ③運用力が身についているか。 ④指示通りの取り組み・発表(協力)になっているか。		単元テスト・期末テスト	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。	
提出物(宿題、リフレクション等)	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う			
受講生に望むこと	①時間目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出される期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 1』 Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著、ピアソン・ジャパン株式会社、2012年、ISBN:9780132470032 『English in Common Workbook 1』 Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著、ピアソン・ジャパン株式会社、2012年、ISBN: 9780132628648		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語 I の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語 II の授業を履修し、翌年英語 I を再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルの I ・ II の2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。		

授業科目名	LE165U アクティブ・イングリッシュA		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江・林 剛司 (代表教員 宮浦 国江)					
標準履修年次	1・2・3・4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。本授業では、まず英語に浸ることで自分のこれまでの学びが現実のものであることを認識し、その中から伝えたいことを探し、まとめ、最終的に伝えたいことを効果的に述べるができるプレゼンテーションスキルを身に付ける。事前授業では英語でのプレゼンテーションに必要な知識・技能を学び、British Hills (福島県)では英語漬けの生活を送る中で体験的学びをしつつ、プレゼンテーションの仕上げ・発表を行う。研修中は毎日英文日誌を書く。事後学習で、学内での成果発表会でプレゼンテーションを行う。</p>			<p>①自分の言いたいことを効果的に述べるができるようになる。 ②英語によるプレゼンテーションスキルを身に付ける。 ③英語がコミュニケーションのツールである体験を積み重要性に気付く。 ④英語運用能力を現在のレベルよりも向上させる。 ⑤異文化・異言語間のコミュニケーションとはどのようなものかを知る。 ⑥異文化・異言語の壁を越えるためのスキルを身に付ける。 ⑦異文化コミュニケーションの楽しさを体験的に学び楽しさを知る。</p>			
教授方法	講義と演習：ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト。					
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、また3泊4日の宿泊研修(福島県)に参加できる者。大学および施設でのルールが守れる者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等) ※参加希望者は必ず出席すること。					
2	事前学習(2):英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。British Hillsでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。					
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。					
4	British Hills (以下BH) (1) Interview Orientation: BHスタッフに英語でインタビューをしつつBHについて学ぶ。					
5	BH(2) Skills for presentation: 効果的なプレゼンテーションとは何かを学ぶ。					
6	BH(3) Travel in UK (the United Kindom): 英国の主要都市、観光スポット、食事などを通して、それぞれの国の知識を深める。最後には実際にその国へ旅行するための計画を立てる。					
7	BH(4) British Wedding: イギリスで行われている、伝統的な結婚式の流れや習慣について学ぶ。後半、花嫁・花婿・参列者となり、実際にチャペルで模擬結婚式を行う。					
8	BH(5) Culture and Manners: 挨拶の仕方など、日本と海外の文化・慣習の違いを学ぶことを通して異文化を感じとる。世界の文化や考え方の違いからどのような問題があるのかを認識して知識を広げる。					
9	BH(6) 事前学習してきた事例について改良し、プレゼンテーションをする。自己評価、相互評価、BHスタッフ・教員評価を行う。					
10	BH(7) World of Music: 世界の様々なジャンルの音楽を知り、同時に音楽に関する表現・フレーズ・楽器について学ぶ。コミュニケーションのやりとりや、リスニングを組み合わせた、音楽を楽しく学ぶ。					
11	BH(8) Dance: 英国に伝わる伝統的な、様々なスタイルのダンスを覚える。体育館に設置されている、大きなダンススタジオのような鏡を使って、ステップの練習する。(※受講者が8名に満たない場合には別のテーマになる)					
12	BH(9)最終プレゼンに向けて、自分のプレゼンテーションを仕上げ、練習する。					
13	BH(10)最終プレゼン 自己評価、相互評価のほか、BHスタッフ・教員が評価を行う。					
14	BH(11)まとめ プレゼンおよびBHでの英語漬け+英語プレゼンについて学んだことや今後の課題・抱負などについて発表する。					
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、BH(10),BH(11)に基づきプレゼンテーションを行う。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
事前学習	20	①ミニ・プレゼンテーション積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げる。 ②ミニ・プレゼンテーションで聞き手に分かりやすく発表する。 ③必要な英語表現を身に付ける。		BH研修参加態度	50	①British Hillsで規律を守り、かつ協力的な態度で研修に取り組んでいる。 ②多くの人と積極的にコミュニケーションをとる。
英文日誌	10	①授業(活動)の概要について具体的に記載できている。 ②自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 ③指示された文字数等分量を書いている。		事後学習	20	①学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 ②事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①与えられた課題に対し、単語や文型を下調べして臨むこと。[40分] ②授業で学んだことや指摘事項を次回に活かすべくメモをとり、改善し、定着・反映させるようにすること。[20分] ③イギリスの文化や福島県のBritish Hillsとはどのようなものなのか、自分はそのようなテーマで取り組むのか、書籍や新聞、ネットなど様々な方法を駆使して調べておくこと。[60分]				随時行う		
受講生に望むこと	①英語を積極的に学び、使う姿勢を持つこと。 ②会話だけでなく、読んだり書いたりすることでより英会話力が上がる。そのサイクルを大切にすること。 ③集団生活なので、個人差はあるがストレスを生じることがある。健康管理に気を付けること。			教科書・テキスト	『Presentations to Go』 Noboru Matsuoka, Hiroko Miyake, Takashi Tachino著 センゲージ ラーニング株式会社 2013年 ISBN: 978-4-86312-264-2	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①履修登録変更期間締切時点で登録が5名に満たない場合には未開講となる。 ②団体研修であるため、人数によって参加費用は変動する。1時間目のオリエンテーションに募集要項を用いて説明を行う。必ず参加し、よく内容を理解すること。③新白河駅集合・解散。④団体生活であるため、学生生活上問題があると判断された学生については参加を許可しないことがある。⑤事後学習の学内発表会の他にも、研修について発表する可能性がある。	

授業科目名	LE170U アクティブ・イングリッシュB		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二・須田 久美子 (代表教員 伊藤 雄二)					
標準履修年次	1・2・3・4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
2017年9月に14日間の予定でカナダ・オンタリオ州ソーセントマリー市アルゴマ大学(Algoma University)での語学研修・地域でのボランティア活動・ホームステイを通して、カナダの文化と社会について学ぶ。海外研修中は毎日、英文日誌をつける。 事前学習で、海外渡航・生活面・日本文化紹介・プレゼンテーションについて学び準備を整える。帰国に事後学習としてレポートを提出するとともに、成果発表会でプレゼンテーションを行う。 本科目は、「全学共通科目」のうち「言語教育科目」に位置づけられている。			①海外語学研修の準備を通じて、グローバル社会の一員として必要な基礎知識を体験的に学ぶ。 ②英語で積極的にコミュニケーションがとれる。 ③異文化理解への開かれた態度を持つとともに、日本文化にも目を向け英語で紹介する。 ④ホームステイを通じてホスピタリティを体験し、理解する。 ⑤語学研修・ボランティア活動を通じて、カナダの社会・文化の側面を理解するとともに、英語力を向上させる。 ⑥語学研修の経験を英語によるプレゼンテーションで報告する。			
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、研修先での諸活動					
履修条件	「異文化コミュニケーション論」を履修する(している)ことが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	【事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等) ※参加希望者は必ず出席すること。					
2	事前学習(2):英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。カナダでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。					
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。					
4	アルゴマ大学での英語研修・自己紹介を含む、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
5	アルゴマ大学での英語研修・日本文化紹介プレゼンテーション、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
6	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
7	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
8	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
9	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
10	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
11	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
12	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
13	アルゴマ大学での英語研修・研修成果についてのプレゼンテーション、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
14	アルゴマ大学での英語研修・修了式、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、研修先での発表に基づきプレゼンテーションを行う。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
事前学習	20	①ミニ・プレゼンテーション積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げる。 ②ミニ・プレゼンテーションで聞き手に分かりやすく発表する。 ③必要な英語表現を身につける。		カナダ研修参加態度	50	①カナダ・アルゴマ大学、ホームステイ先で規律を守り、かつ協力的な態度で研修に取り組んでいる。 ②多くの人と英語やジェスチャーを用いて交わろうとしている。
英文日誌	10	①授業(活動)の概要について具体的に記載できている。 ②自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 ③指示された文字数等分量を書いている。		事後学習	20	①学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 ②事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
・渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。[30分] ・どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、英語学習を含め積極的に取り組むこと。[毎日60分] ・集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験することも多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。				随時行う		
受講生に望むこと	・渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。 ・どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、積極的に取り組むこと。 ・集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験することも多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。			教科書・テキスト	『Presentations to Go』 Noboru Matsuoka, Hiroko Miyake, Takashi Tachino著 センテージ ラーニング株式会社 2013年 ISBN: 978-4-86312-264-2	
指定図書参考書等	【参考書】 『今日から使える!留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、パーウィック妙子・著、アルク、2016年 (ISBN: 978-4757426658)			その他・特記事項	・履修登録者が10名に満たない場合、実施しない。また、学生生活や学業等において問題があると判断した場合、参加を認めないこともある。 ・事前学習以外にも、必要に応じてオリエンテーションが行われることがあるので、必ず参加すること。 ・事後学習としての成果発表会以外にも、研修について発表する可能性がある。	

授業科目名	LE175U アクティブ・イングリッシュC		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1・2・3・4年	開講時期	後期	単位	3単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
英語力向上または自分の研究課題の調査を目的とした3週間(授業時数にして45コマ分)以上の海外留学を対象とする。本学の提携大学との正規留学もしくはESLプログラムへの参加、現地における調査などを行う。現地における英語研修、寮滞在、アドバイザーの指導の下に行う調査などを通して、現地の人びとや国際色豊かな人々と交流し、国際的な視野を広げ、学びを深める。			①英語力をワンランク上げる。 ②自立した学び(目的に沿って計画・立案・実施・評価)ができる。 ③国際的な視点を持ち日本の常識とは異なるものがあることを知る。 ④異文化理解への態度・スキルを身に付ける。			
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、現地における正規留学/英語研修/調査研究					
履修条件	学科指定の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	渡航に関するオリエンテーション①: 計画書含む諸書類のファイル作成、現地に関する事前学習					
2	渡航に関するオリエンテーション②: 計画書含む諸書類のファイル提出、課題の確認					
3	現地における英語学習/調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
4	現地における英語学習/調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
5	現地における英語学習/調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
6	現地における英語学習/調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
7	現地における英語学習/調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
8	現地における英語学習/調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
9	現地における英語学習/調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
10	現地における英語学習/調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
11	現地における英語学習/調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
12	現地における英語学習/調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
13	現地における英語学習/調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
14	事後学習①: レポート等の作成・提出					
15	事後学習②: 海外留学報告(プレゼンテーション)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
留学への取り組み	10	出発前の準備(計画書含む諸書類ファイル作成)に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する		留学先での英語研修・調査に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する
留学中の報告書	10	定期的(目安は2週間ごと)に留学に関する報告書(1000文字程度)が提出されているかどうかを評価する		留学後報告(レポート&プレゼンテーション)	20	帰国後にレポート(5000文字程度)を提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。[毎日40分]英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。[毎日30分]				適宜行う		
受講生に望むこと	現地では独力で問題解決する必要性に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	【参考書】『今日から使える!留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、パーウィック妙子・著、アルク、2016年(ISBN: 978-4757426658)			その他・特記事項	英検2級程度以上の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。	

授業科目名	LC100U 中国語 I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択	
担当教員名	張 榮眉						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>基礎的、実用的な中国語の表現能力を習得する。また辞書の使い方を始め、自ら学ぶ意欲や力を養うとともに積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。中国の言語や文化に対する関心を深めるとともに日本語や日本文化を比較する上での国際理解の基礎を培う。具体的には、発音記号ピンインを習いながら、基本的な単語を教え、詩の朗読や簡単な挨拶、会話の練習によって発音に慣れる。日本人が持っている能力（漢字、辞書調べ）を最大に生かし、習う意欲を高め、日本人にとって難しく弱い部分（発音）を重点において色々な角度から多く繰り返して練習する。</p>			<p>①中国語の発音記号ピンインを習得する。 ②中国語の特有な発音に慣れ、挨拶ことば、自己紹介及びそれに関する会話をできるようにする。 ③中日、日中辞書の使い方を習得し、自分で予習・学習ができるようにする。</p>				
教授方法	講義とペアワーク等による会話練習。						
履修条件	なし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	簡単挨拶と発音記号ピンイン（声調）の習得（声調）。						
2	簡単挨拶と発音記号ピンイン（単母音）の習得とそれの発音練習。						
3	発音記号ピンイン（複母音）の習得とそれの発音練習を中心とする簡単な会話。						
4	発音記号ピンイン（子音）の習得と親族呼称の発音練習。						
5	発音記号ピンイン（鼻音）の習得とそれの発音練習を中心とする簡単な会話。						
6	発音記号ピンイン（規則と注意点）の習得とそれの発音練習を中心とする簡単な会話。						
7	発音総合練習—発音記号の習得と辞書の使い方をまとめ。						
8	「形容詞述語文」の習得と以上の挨拶と会話の復習。						
9	「形容詞述語文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話。						
10	「形容詞述語文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と練習。						
11	「動詞述語文」の習得と以上習った挨拶と会話の復習。						
12	「動詞述語文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話。						
13	「動詞述語文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と練習。						
14	自己紹介文を中心とする総合練習と復習。						
15	口頭で中国語で自己紹介とその関する教師の質問を答え。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢。 授業の内容を予習する。 宿題の完成度。		挨拶・自己紹介の表現と発音	70	文の表現の正確さ。 発音の正確さ。 教員から質問に対する理解と答えの正確さ。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
授業前に次回の授業の内容を予習する。[45分] 授業後の宿題の完成。[30分]			前期に発表した自己紹介文について、次学期初めに直して配布します。				
受講生に望むこと	テキストを買う必要がなく、辞書が必要である。 授業する時に必ず辞書を携帯すること。			教科書・テキスト	自編集『中国語入門教案』（印刷物 2016年修訂） 杉本達夫ら『中日日中ディクショナリーコンサイス辞書』第3版 （三省堂）ISBN978-4-385-12168-0		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	LC110U 中国語Ⅱ		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択	
担当教員名	張 榮眉						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>前期で習った基礎的、実用的な表現を復習しながら、新しい単語や文法を加え、文章の解説を重点に置いて翻訳する能力を養う。中級レベルの中国事情に関する文章を独り自立的に翻訳することによって、解説する能力や辞書の使い方をより上手にする。自分翻訳してから得られた中国事情や日本事情を比較して感想文を書く、それを発表することによって、クラスの皆と共有し、中国の言語や文化に対する関心を深めるとともに日本語や日本文化を比較する上での国際理解の基礎を培う。前期のように演習する。翻訳については一人ひとり個別テーマにして翻訳を試み、教師は個別に対応して、指導する。資料を探す方法を説明し、比較感想文の書き方を例によって、明らかにし、纏めた比較感想文を発表によって自分の考えをハッキリし、また皆さんに共有する。</p>			<p>①中日、日中辞書を実用的に引くことができるようにする。 ②習った単語や文法を応用する力を身につける。 ③辞書を利用しながら、中級レベルの文章を自力で翻訳する能力を身につける。 ④自分のテーマに相関する資料を探す能力、纏める能力をアップする。 また、自分の考え方を述べる能力もアップする。</p>				
教授方法	講義とペアワーク等による会話練習。						
履修条件	「中国語Ⅰ」の単位を修得済みの者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	前期で習ったものの復習＋「助教詞」の習得。						
2	「助教詞」と「存在の表現」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解説の練習。						
3	「存在の表現」と「選択疑問文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解説の練習。						
4	「助教詞」と「存在の表現」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解説練習。						
5	「助教詞」、「存在の表現」と「選択疑問文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解説練習。						
6	「存在の表現」や「年齢の言い方」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解説の練習。						
7	「存在の表現」と「疑問代詞」の習得とそれらを中心とする簡単な会話。						
8	「存在の表現」と「年齢の言い方」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解説の練習。						
9	「存在の表現」と「疑問代詞」の習得とそれらを中心とする簡単な会話。						
10	「存在の表現」、「年齢の言い方」、「疑問代詞」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解説練習。						
11	学んだ内容を復習する上で各自が興味ある文を選んで翻訳する。						
12	各自の翻訳しつ、コンピュータで翻訳した文を仕上げする。						
13	各自の翻訳した文に基づいて、自分テーマの相関する資料を探し、「比較感想文」を書く。						
14	「比較感想文」を書いて、コンピュータで「比較感想文」を仕上げする。						
15	再び口頭で自己紹介（中国語）をし、「比較感想文」を口頭で（日本語）述べる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢。 授業の内容を予習する。 宿題の完成度。		翻訳文	20	原文に対する理解度、表現の正確さ。	
比較感想文	30	自分のテーマに相関する資料を見つけているか、比較が妥当か、自分の観点があるかとその新鮮さ。		口頭で発表	20	自己紹介がより流暢か、印象深い文を中国語で読めるか、「比較感想文」が分かり易いか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業前に次回授業の内容を予習する。[15分] 授業後の宿題の完成。[20～30分]				メールのアドレスを教えてくれた学生に対して、「比較感想文」を後期末（3月末）までに、評価とコメントをつけてメールで送ります。			
受講生に望むこと	テキストを買う必要がなく、辞書が必要である。 授業する時に必ず辞書を携帯すること。			教科書・テキスト	自編集『中国語入門教案』（印刷物） 杉本達夫ら『中日日中ディクショナリーコンサイス辞書』第3版 （三省堂）ISBN978-4-385-12168-0		
指定図書参考書等	なし/荒原勲他『中国と日本』（朝日出版社、2000年改訂版） 荒原勲他『中国人暮らしのステップ』（朝日出版社、1998年） 布目朝風『中国現代文化史』（岩波書店、1995年） 中尾善博『中国文化伝承事典』（川出版社、1999年） 年島敏次他『言語』『中国文化叢書』第1巻（大修館、1967年） 広澤正隆『日本文化と中国』『中国語文化叢書』第5巻（大修館、1968年） 實感ら『虎ももって笑と泣く・現代中国の食』（平凡社、2000年） 島尾伸三『中国庶民生活図引*9』（弘文堂、2001年） 島尾伸三『中国庶民生活図引*9』（弘文堂、2001年）など			その他・特記事項	なし		

授業科目名	LF100U フランス語 I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	濱西 和子					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
フランス語を初めて学ぶ学生を対象にアルファベットの読み方から始め、発音の基礎やフランス語のルール、また文法を一通り解説します。口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学んでいきます。また言葉だけでなく、言葉の背景となるフランスの文化について、様々な角度から知り、体験していきたいと思ひます。フランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学びましょう。			①フランス語の基礎を固めると同時に、日常会話に必要な基本的なフランス語表現を理解し習得する。 ②言葉だけでなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することは、その国の文化を深く知り、また世界的な視野が拓がることです。フランス語という言語を通してその実感を体験しましょう。			
教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	フランス語の基礎・発音・挨拶 Eléments de base, prononciation, salutations, tu/vous					
2	自己紹介・国籍・名前 Est-ce que tu es japonais? Moi aussi. Moi non plus.					
3	国籍・職業・形容詞の女性形・男性形 masculin / féminin					
4	規則動詞 -er の活用 verbes réguliers, habiter, travailler					
5	住んでいるところや出身地について話す。疑問文や否定文の作り方。 Tu es de Tokyo?					
6	交通手段について話す。動詞venir, 疑問詞を使った疑問文 Questions ouvertes. Tu viens ici comment?					
7	定冠詞と不定冠詞 article, verbe parler					
8	アルバイトについて話す。 Parler des petits boulots.					
9	願望の表現 C'est +adjectif, expression de la volonté					
10	ペットなどについて話す。 Est-ce que tu as un chien?					
11	動詞avoir . 不定冠詞 article indéfini. Parler de ses animaux domestiques.					
12	科目・先生について話す。数学の先生は好きですか? Est-ce que tu aimes bien le prof de maths?					
13	科目の名称・定冠詞・形容詞の性数の一致 Parler des matières et des profs.					
14	食べ物について話す・部分冠詞 Parler de ce qu'on mange. article partitif					
15	家事について話す。 Qui fait la cuisine chez toi? C'est moi qui fait la cuisine.					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	学習内容をきちんと習得しているか。		受講態度	30	講義に積極的に参加しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]				付属ブックレットの問題を自分で練習して、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。		
受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを開き口に出して練習してください。予習してくると余裕を持って学び、理解することが容易になります。			教科書・テキスト	『Moi, je . . . コミュニケーション』 Bruno Vannieuwenhuysse 他著 (アルマ出版) 2015年 ISBN 978-4-905343-03-5	
指定図書参考書等	授業中に随時紹介します。プリントや資料等は随時配布します。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	LF110U フランス語 II		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択	
担当教員名	濱西 和子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明します。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学んでいきます。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していきたいと思えます。フランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学びましょう。</p>			<p>①フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス後表現を理解できるようにする。 ②言葉だけではなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が広がることです。言語を通してその実感を体験しましょう。</p>				
教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。						
履修条件	『フランス語 I』の単位を修得済みの者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	家族について話す・所有形容詞 mon / ton について Parler de sa famille.						
2	数字 1-6 9・3人称単数形、複数形 Ton frère a quel âge?						
3	クラブ活動について話す・課外活動はしていますか? 動詞faire Parler des loisirs.						
4	習慣について話す・よく肉を食べますか? 頻度を表す語彙・否定疑問文 Parler de ses habitudes.						
5	週末の過ごし方について話す・近接未来形・動詞aller Parler du week-end.						
6	時間について話す・何時ですか? 曜日・代名動詞 Parler de l'heure. Il est quelle heure?						
7	休暇中の活動について話す・複合過去形について Parler des vacances. Passé composé.						
8	経験について話す・外国へ行ったことがありますか? Il y a〜の使い方、Tu es déjà allé à l'étranger?						
9	地理について話す・場所を表わす前置詞・地方について話す Tu connais Lille? Localisation						
10	天気について話す・天気を表す語彙 Parler du temps. Il fait quel temps à Paris?						
11	過去について話す・半過去形 Est-ce que tu faisais du sport au lycée? Imparfait						
12	道を尋ねる・パリの観光名所 Demander son chemin. Découvrir Paris.						
13	レストランで注文する・メニューの見方 Commander au restaurant. Une carte.						
14	カフェで飲み物を注文する Un café, s'il vous plaît.						
15	買い物をする・数量と値段・店員との会話 Faire les courses. Acheter dans un magasin.						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	学習内容をきちんと習得しているか。		受講態度	30	講義に積極的に参加しているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>講義内容に関して指示されたことに基き予習、復習をきちんと行う。自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習・復習をして下さい。[120分]</p>				<p>付属ブックレットの問題を自分で練習して、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。</p>			
受講生に望むこと	<p>語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを開き口に出して練習してください。予習してくると余裕を持って学び理解することが容易になります。</p>			教科書・テキスト	『Moi, je・・・コミュニケーション』 Bruno Vannieuwenhuysse 他著 (アルマ出版) ISBN 978-4-905343-03-5		
指定図書参考書等	<p>授業中に随時紹介します。プリントや資料等は随時配布します。</p>			その他・特記事項	なし		

授業科目名	PE100U 生涯スポーツA (ゴルフ)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。</p> <p>健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。</p> <p>ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的な生活を営む能力と習慣を獲得する。</p>			<p>① ゴルフの競技特性を理解する。</p> <p>② ゴルフの基本的技術を習得する。</p> <p>③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。</p> <p>④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。</p> <p>⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。					永山
2	バッティングゲーム：バッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。					永山
3	ショットの基礎①：グリップ、ボスチャー、エイミング～ショートスイング 正しいグリップ、ボスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。					永山
4	ショットの基礎②：グリップ、ボスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、ハーフショットまでの技術を習得する。					永山
5	ショットの基本③：グリップ、ボスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング～フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、フルショットまでの技術を習得する。					永山
6	ショットの基本④：ボール弾道の法則とフェースコントロール…スイング及びフェースの向きによって生じる9種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。					永山
7	ショットの基本⑤：VTRによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ること、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに結びつける。					永山
8	ショットの基本⑥：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術を習得する。					永山
9	ショットの基本⑦：グリーン周りの技術～バッティング グリーン周りの各種ショット技術及びバッティングの基礎技術を習得する。					永山
10	ショットの基本⑧：ショートアイアンとミドルアイアン ショートアイアンとミドルアイアンを使い分け、クラブによって距離をコントロールすることを理解する。					永山
11	ショットの基本⑨：ウッドクラブ これまで学習してきた内容を元に、ウッドクラブのスウィング技術を習得する。					永山
12	ターゲットバードゴルフ① ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。					永山
13	ターゲットバードゴルフ② ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習する。 一回目のスコアを元に個人的な目標を立ててラウンドする。					永山
14	ターゲットバードゴルフ③ これまでのスコアを元に個人的な目標を立ててラウンドし、ゲームを楽しむ。					永山
15	ショートゲームテストとまとめ。					永山
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し、実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主にグラウンドで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書参考書等	US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1 ～ 7 MICO ケンメディア			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	PE100U 生涯スポーツA (テニス)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子・芝口 翼 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。</p> <p>健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。</p> <p>ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「テニス」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、スポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的な生活を営む能力と習慣を獲得する。</p>			<p>① テニスの競技特性を理解する。</p> <p>② テニスの基本的技術を習得する。</p> <p>③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。</p> <p>④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。</p> <p>⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明。					田邊・芝口
2	グリップング、ラケットワーク。					田邊・芝口
3	基本ストローク（フォア） 1：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊・芝口
4	基本ストローク（フォア） 2：フォアハンドストロークの打ち方の習熟を目指す。					田邊・芝口
5	基本ストローク（バック）：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊・芝口
6	簡易ゲーム（フォア・バック）：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。					田邊・芝口
7	基本ストローク（ボレー）：ボレーの打ち方を理解し、習得する。					田邊・芝口
8	基本ストローク（サーブ）：サーブの打ち方を理解し、習得する。					田邊・芝口
9	簡易ゲーム（フォア・バック・ボレー・サーブ）：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。					田邊・芝口
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。					田邊・芝口
11	ゲーム 1：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。					田邊・芝口
12	ゲーム 2：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。					田邊・芝口
13	ゲーム 3：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う。					田邊・芝口
14	ゲーム 4：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う。					田邊・芝口
15	ゲーム 5：クラス内でリーグ戦の続きを行う。結果を集計し、その結果を踏まえこれまでの授業での学びを各自で振り返る。					田邊・芝口
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。〔準備体操を含め 60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に屋外テニスコートで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子などを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）	

授業科目名	PE100U 生涯スポーツA (ダンス)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・木藤 由麻 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。</p> <p>健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。</p> <p>ここでは生涯スポーツとして近年学校体育にも導入されている「ダンス」を実技種目として選択し、ダンスを楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、スポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的な生活を営む能力と習慣を獲得する。</p>			<p>① ダンスの特性を理解する。</p> <p>② ダンスの基本的技術を習得する。</p> <p>③ 習得した技能を生かし、ダンスを表現・創作することを楽しむ。</p> <p>④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。</p> <p>⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ダンスを理解する。					木藤
2	リズムの基礎：リズムの考え方、アイソレーションを理解し習得する。					木藤
3	伝統的なダンス(フォークダンス)：フォークダンスを通して踊りの特性に触れる。					木藤
4	基本のステップ 1：ダウン・アップのリズムを理解し、習得する。					木藤
5	基本のステップ 2：サイドステップ・スリーステップターン・ボックスステップのリズムを理解し、習得する。					木藤
6	基本のステップ 3：クロスステップ・サイドランジ・ランニングマンのリズムを理解し習得する。					木藤
7	簡易創作 1：習得したステップをグループ内で組合せ、発表を楽しむ。					木藤
8	基本のステップ 4：ニュージャックスイング・クラブステップのリズムを理解し、習得する。					木藤
9	簡易創作 2：簡単なルーティーンのアレンジ・フォーメーション作品を創作する。					木藤
10	創作活動 1：グループ内で、これまでに習得した技術を組合せ、ダンス作品を創作する。					木藤
11	創作活動 2：グループ内で作品創作を継続して行う。					木藤
12	創作活動 3：グループ内で作品創作を継続して行い、作品を完成させる。					木藤
13	作品発表 1：グループ内で創作した作品を発表しあう。 相互評価ならびにVTRによるフィードバックを行い、作品の修正・発展に結びつける。					木藤
14	創作活動 4：フィードバックを通して作品の修正を行い、最終発表に向け作品を完成させる。					木藤
15	作品発表 2：グループ内で創作した作品を発表しあう。 相互評価を行い、その結果を踏まえこれまでの学びを各自で振り返る。					木藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。【準備運動を含め 60分程度】ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館で実技を行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じてタオルなどを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	PE110U 生涯スポーツB (集中講義: スキーセナー)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本野外活動プログラムは冬期休業期間に長野県梅池高原スキー場にて3泊4日の合宿形式にて行う。スキーはウィンタースポーツの代表格ともいえるスポーツである。遊びの要素をふんだんに含み、自然環境と相まって素晴らしい満足感・達成感を与えてくれることから、生涯スポーツとして最も親しまれているものの一つである。本授業では、スキー技術について基礎から応用まで各々のレベルに応じて身に付けることをねがうが、単にスキーの技術を学ぶだけでなく、健康管理、安全管理、リスクマネジメント、社会スキルの醸成なども合宿を通して学習し、「スキーヤー」としての基本を身につけることを目的とする。さらに、技術レベルに応じた班別での実習を行うため、チームワークを重視し仲間を思いやる気持ちも学んでいく。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「スキーセナー(本頁)」の他に「後期開講する授業」及び「ゴルフセナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)</p> <p>※ 各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。</p> <p>※ 各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。</p>			<p>① スキーの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。</p> <p>② スキーに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。</p> <p>③ スキーの技能改善のための知識批判力と方法論的能力を修得する。</p> <p>④ ウィンタースポーツを通じた人間関係能力を養う。</p> <p>⑤ ウィンタースポーツを通じた環境への感受性や認識力を高める。</p> <p>⑥ 合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。</p> <p>⑦ 合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スキー実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前オリエンテーション: ガイダンス、合宿に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握 用具の準備(用具とその使用法の説明、パッキング)					永山、田邊
2	【実習 1 日目 午後 I】 開講式/クラス編成確認(技術レベル別に編成)					各班担当者
3	【実習 1 日目 午後 II】 クラス別レッスン①					各班担当者
4	【実習 1 日目 夜】 講義: スキー技術の変遷/スキー用具のメンテナンス					永山、田邊
5	【実習 2 日目 午前 I】 VTR 撮影/クラス別レッスン②					各班担当者
6	【実習 2 日目 午前 II】 クラス別レッスン③					各班担当者
7	【実習 2 日目 午後 I】 クラス別レッスン④					各班担当者
8	【実習 2 日目 午後 II】 クラス別レッスン⑤/ VTR 撮影					各班担当者
9	【実習 2 日目 夜】 VTR によるフィードバック/クラス別ミーティング/スキーのメンテナンス					永山、田邊
10	【実習 3 日目 午前 I】 VTR 撮影/クラス再編成/クラス別レッスン⑥					各班担当者
11	【実習 3 日目 午前 II】 クラス別レッスン⑦					各班担当者
12	【実習 3 日目 午後 I】 クラス別レッスン⑧					各班担当者
13	【実習 3 日目 午後 II】 クラス別レッスン⑨/ VTR 撮影					各班担当者
14	【実習 3 日目 夜】 VTR によるフィードバック/クラス別ミーティング/スキー用具のメンテナンス					永山、田邊
15	【実習 3 日目 午前】 クラス別レッスン⑩/開講式					各班担当者
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		実習終了後のレポート評価	20	1. 指定されたフォーマットに準じて記載されているか。 2. 本セミナーの経験を、生涯にわたりスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。実習前に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。【最低1日】ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。3泊4日の合宿になりますので体調を整えて参加して下さい。詳しくは初回のガイダンスにて説明いたします。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。(事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	PE110U 生涯スポーツB (集中講義：ゴルフセミナー)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本野外活動プログラムは4日間にわたる集中講義にて行う。ゴルフは広く社会に普及しており、年齢や性別に関わらず誰にでも出来ることから生涯スポーツの主流になりつつある。これは昨今のプレーヤーの格安化に加え、ジュニア期から世界的に活躍し、話題性の多い若手選手の活躍が一般に知れ渡ったことも関連していると考えられる。また、自分の健康や楽しみのためのプライベートなプレーもさることながら、職域や地域の人々とのコミュニケーションの場としてゴルフが活用されるケースが多岐からではないかと考える。従って、本講義の開設は将来を見据えたものであり、前期授業において習得したゴルフの基礎技術を確認し、最終日のラウンド実習につなげることで、ゴルフの楽しさをより深く体感することができ、生涯を通してスポーツに親しむ態度の育成に寄与するものと期待する。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「ゴルフセミナー(本頁)」の他に「後期開講の授業」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)</p> <p>※ 各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する</p> <p>※ 各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。</p>			<p>① ゴルフの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。</p> <p>② ゴルフに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。</p> <p>③ グリップ、ボスチャー、エイミングなどアドレスの基本技術を修得する。</p> <p>④ ショートスイングからフルスイングまで段階的にスイングの基本技術を身につける。</p> <p>⑤ 距離感や方向性などボールコントロールの理論及び方法を理解する。</p> <p>⑥ 基本的なルールやマナーを理解し、安全なプレー・ラウンドが出来るようになる。</p> <p>⑦ ゴルフを通じた人間関係能力を養う。</p>			
教授方法	ゴルフ実技 (大学グラウンド及びゴルフ練習場における練習とラウンド実習)。					
履修条件	前期「生涯スポーツA」の単位を修得済みの者の内「ゴルフ」を選択した者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前オリエンテーション：ガイダンス、屋外実習に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握/用具の準備。					永山、田邊
2	【実習 1 日目 午前Ⅰ】 開講式/レッスン①：スタンスの確認(グリップ、ボスチャー、エイミング) ショートスイング～スリークォータースイング(9I)					永山、田邊
3	【実習 1 日目 午前Ⅱ】 レッスン②：スリークォータースイング～ハーフスイング(9I)					永山、田邊
4	【実習 1 日目 午後Ⅰ】 レッスン③：ハーフスイング～フルスイング(9I)					永山、田邊
5	【実習 1 日目 午後Ⅱ】 レッスン④：ハーフスイング～フルスイング(9I、7I、5I)					永山、田邊
6	【実習 2 日目 午前Ⅰ】 レッスン⑤：9I、7I、5Iまでを利用して段階的にスイング技術を習得する。また、距離の打ち分けに関する理論及び技術を習得する。/VTR撮影					永山、田邊
7	【実習 2 日目 午前Ⅱ】 レッスン⑥：「ボール弾道の法則」を理解する。また、その理論により各自のスイング及び弾道をセルフチェックし、修正に結びつけられるようにする。/VTR撮影					永山、田邊
8	【実習 2 日目 午後Ⅰ】 レッスン⑦：ウッドクラブによるスイング(ゴルフ練習場)。					永山、田邊
9	【実習 2 日目 午後Ⅱ】 レッスン⑧：パッティング及びグリーン周りのアプローチショット技術を習得する。					永山、田邊
10	【実習 3 日目 午前Ⅰ】 レッスン⑨：VTRによるフィードバック/クラブ選択を行いながらの打ち込みを行う。					永山、田邊
11	【実習 3 日目 午前Ⅱ】 レッスン⑩：ルール解説、ラウンド方法及びラウンドマナーの講習/グルーピング/打ち込み。					永山、田邊
12	【実習 3 日目 午後Ⅰ】 レッスン⑪：グラウンド仮設コースによるラウンド練習を行う。					永山、田邊
13	【実習 3 日目 午後Ⅱ】 レッスン⑫：グラウンド仮設コースによるラウンド練習を行う。ラウンド方法に慣れ、コースマネージメントの考え方を学習する。					永山、田邊
14	【実習 4 日目 午前】 レッスン⑬：民間練習場にてウッド・アイアンショットの確認を行う。					永山、田邊
15	【実習 4 日目 午後】 ラウンド実習⑭：本コース9ホールの中ホール体験を行う。/閉講式					各担当者
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		実習終了後のレポート評価	20	1. 指定されたフォーマットに準じて記載されているか。 2. 本セミナーの経験を、生涯にわたるスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。前期の授業中に学んだことを夏期休業中に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。[1回60分程度]ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。4日間の集中講義になりますので体調を整えて参加して下さい。詳しくは事前オリエンテーションにて説明いたします。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。(事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	PE110U 生涯スポーツB		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修	
担当教員名	永山 亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実践人口も多く、社会体育としても積極的に導入されている「ニュースポーツ」を実技科目として採用する。</p> <p>ニュースポーツは軽度な運動量に加え、初歩的な技術レベル及び筋力が低い者でも十分に楽しむ事ができるスポーツ群であると考えられ、スポーツに対して苦手意識を持つ者でも参加しやすく、スポーツの楽しみや喜びを感じやすいカテゴリーであると考えられる。そこからスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的な生活を営む能力と習慣の獲得につなげる。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「毎週開講する授業(本頁)」の他に「ゴルフセミナー」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)</p>			<p>① 各種ニュースポーツの競技特性を理解する。</p> <p>② 各種ニュースポーツの基本的技術を習得する。</p> <p>③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。</p> <p>④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。</p> <p>⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>				
教授方法	スポーツ実技。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス：ニュースポーツというスポーツカテゴリーを理解する。						
2	フライングディスク①：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。						
3	フライングディスク②：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 前回習得した技術を基に、ドッチビーなどのゲームを楽しむ。						
4	ソフトバレーボール①：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 オーバーパス、アンダーパスなどの基礎技術を習得する。						
5	ソフトバレーボール②：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基に簡易ゲームを行い、ルールを覚える。						
6	ソフトバレーボール③：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 リーグ戦形式で複数のゲームを楽しむ。						
7	インディアカ①：インディアカという競技を理解し、実践する。 インディアカボールを扱う基本的技術を習得する。						
8	インディアカ②：インディアカという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。						
9	フレッシュテニス①：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 フレッシュテニスの基礎的技術を習得する。(ラケットワーク、フォアストローク、バックストローク)						
10	フレッシュテニス②：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。						
11	ユニホック①：ユニホックという競技を理解し、実践する。 ユニホックの基礎的技術を習得する。(スティックワーク、パス、ショット)						
12	ユニホック②：ユニホックという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。						
13	タグラグビー①：タグラグビーという競技を理解し、実践する。 タグラグビーの基礎的技術を習得する。						
14	タグラグビー②：タグラグビーという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。						
15	まとめ：小・中・高と体験してきた学校体育とは違ったスポーツの体験をまとめ、今後、生涯スポーツとしてスポーツに親しむ礎とする。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加しているか。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		授業中に実施するミニスキルテスト	20	スポーツ技術の習熟度をスキルテストによって確認する。 ・詳細は各種目毎に説明する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。〔準備体操を含め 60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館にて行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)		

授業科目名	PE120U 健康科学		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修	
担当教員名	永山 亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。現在我々を取りまく生活環境は刻々と変化し、少子・高齢化社会・労働内容の合理化・自由時間の増大・食生活環境の変化といった様々な変化に適応・対処して行かなければならない。その中で健康的な生活を営んでいくためには、個人が自立して体力や健康の維持増進を図ることができる知識・能力を身につけること、各種スポーツの特徴を理解し積極的に余暇時間にスポーツ活動を取り入れていくこと、バランスのとれた運動と休養のタイミングを理解すること、肥満の解消に有効な運動の内容を理解し実践することなど、様々な事柄に対する理解を深める必要がある。本講義において、これらの基礎的な知識を学習することで、様々な環境に適応し、健康的で豊かな生活を送って行くための自己管理能力を身につける。</p>			<p>① 健康的な生活の意義を理解する。 ② 健康的な生活を営むために必要な事柄を理解する。 ③ 健康的な生活を自らデザインし、実践していく態度を身につける。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	健康の意義：健康的な生活の意義について理解を深める。						
2	健康的な生活①：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「栄養（食生活）」についての理解を深める。						
3	健康的な生活②：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「運動」についての理解を深める。						
4	健康的な生活③：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「休養」についての理解を深め、三大要素のバランスについて考える。						
5	健康を脅かすもの①：健康を脅かすものとして、「飲酒」「喫煙」に対する理解を深める。						
6	健康を脅かすもの②：健康を脅かすものとして、「薬害」「アレルギー」に対する理解を深める。						
7	健康を脅かすもの③：健康を脅かすものとして、「感染症」に対する理解を深める。						
8	健康を脅かすもの④：健康を脅かすものとして、「性感染症」について学ぶとともに「免疫機能」に関して理解を深める。						
9	健康を脅かすもの⑤：健康を脅かすものとして「生活習慣病」について理解を深める。 「肥満」「糖尿病」「高脂血症」「高血圧」						
10	健康を脅かすもの⑥：生活習慣病の理解とともに、代表的な死因との関係を学ぶ。 「虚血性心疾患」「脳血管障害」「悪性腫瘍」						
11	運動習慣と疾病の関係①：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。						
12	運動習慣と疾病の関係②：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。 「生活習慣病」と「肥満」の関連性を理解し、疾病予防についての運動習慣の有効性を学ぶ。						
13	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方①：健康を目的とした運動プログラミングの基本理論を理解する。						
14	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方②：健康を目的とした運動プログラミングの内容を考え、自分に合ったプログラムを作成できるようになる。						
15	まとめ：これまでに学習してきた内容をまとめ、各自において健康的な生活を営む計画を立案する。 また、その計画を実践できるような心構え・態度を獲得する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	60	受講態度を重視する。・学んだ内容を基に自分自身の生活を振り返り、健康的なモノへと変化させているか。		学期末試験	40	講義内容に関する筆記テストを行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>①各講義を振り返り、分からなかった用語などを調べ、理解を深める。[30分] ②各講義の内容を自分の生活と結びつけ、健康的な生活へと改善を図る。[30分] なお、事前事後学習内容の詳細に関しては授業内で説明する。</p>				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	本講義で学ぶ内容を各々の生活に還元し、健康的な生活を営む礎として下さい。			教科書・テキスト	教員が作成するプリントを使用する。		
指定図書参考書等	「現代人のための健康づくり」 石川県大学健康教育研究会編著 北國新聞社 2014年 ISBN：978-4-8330-1972-9			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC100U キャリアデザイン I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	朝倉 秀之・高村 真希 (代表教員 朝倉 秀之)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置づけられている。キャリアデザインとは、自分の人生の中で職業を主体的に構想したり、設計したり、実現することである。そのために自分の適性と、社会の現状を知り、将来を見通すことが求められる。働く意味や職業観を学び、今後のキャリアデザインの基礎を培う。「つくるたのしみ」講座の実践と共に学ぶ授業である。			①職業観、キャリア形成について学び、働く意味を探究する。②キャリアデザインの授業の中から情報を得て自分で考えを持つ。③「つくるたのしみ」講座への参加が義務づけられている。				
教授方法	講義、演習、体験学習						
履修条件	なし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要の説明：到達目標、成績評価と基準、心理テスト、授業外における学習など。					朝倉・高村	
2	マナー講座第1回：挨拶について					学生支援課	
3	「つくるたのしみ」講座の内容説明とグループ分け、自己紹介、役割分担、連絡方法の確認					朝倉・高村	
4	現代社会とキャリアデザイン：キャリアデザインとは何か、キャリアデザインの基本と方法					朝倉・高村	
5	キャリアデザインと人生設計(1)：現代人のライフサイクルと職業について					朝倉・高村	
6	「つくるたのしみ」講座の第1回事前学習					朝倉・高村	
7	キャリアデザインと人生設計(2)：現代人の生涯収支と職業について					朝倉・高村	
8	「つくるたのしみ」講座の第1回事後学習と第2回事前学習					朝倉・高村	
9	マナー講座第2回：立ち方、歩き方					学生支援課	
10	キャリアデザインと人生設計(3)：キャリアの広がりや生涯との関係					朝倉・高村	
11	「つくるたのしみ」講座の第2回事後学習と第3回事前学習					朝倉・高村	
12	キャリアデザインのための自己理解(1)：働く意味と自分の職業観					朝倉・高村	
13	「つくるたのしみ」講座の第3回事後学習と全体報告会の準備					朝倉・高村	
14	キャリアデザインのための自己理解(2)：相互インタビューによる自己分析と全体報告会の準備					朝倉・高村	
15	「つくるたのしみ」講座の全体報告会					朝倉・高村	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
毎授業でのコメント	40	①講義内容についての理解ができていくか②問題提起が身についているか③新しい発見ができていくか		報告書	50	「つくるたのしみ」講座の最終報告	
提出物	10	①自己紹介と他の人の自己紹介報告②マナー講座の報告					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
授業時間外で、「つくるたのしみ」講座の中から一つを選択し、3回の体験学習を行います。[100時間×2回]				グループ単位で事前事後のディスカッションを行うことでPDCAサイクルを体験します。			
受講生に望むこと	①キャリアデザインは、自分の人生についての設計を考える大切な科目ですので自分自身と真摯に向き合う事が望まれます。②理論だけでなく、実際に行動することで自分の位置を知る体験学習があります。③各自スケジュールは異なりますので各自が手帳を用意し、記録して下さい。			教科書・テキスト	『キャリア基礎講座テキスト』荒井明著、日経BP社、ISBN978-4-8222-9563-9, 2014		
指定図書参考書等	参考書として、①『理論と実践で自己決定力を伸ばす』キャリアデザイン講座 第2版、大宮登著、日経BP社、ISBN978-4-8222-9573-8, 2014 ②『リンゴが教えてくれたこと』木村秋則著、日経プレミアシリーズ社、ISBN978-4-532-24046-, 2009			その他・特記事項	「つくるたのしみ」講座では、参加費、材料費、心理テストなどの費用が各自負担でかかります。		

授業科目名	HC100U キャリアデザイン I		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	松下 健・小林 正史・竹中 祐二 (代表教員 松下 健)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>授業の目的は2つある。1つ目は、社会で必要な力に気づき、その運用法を知ることである。もう1つは、その社会で必要な力を身につけるために、大学でいかに学ぶかを自ら考え、行動することである。これらの目的に従って、授業では、実際の社会が抱える課題を知り、チームで課題解決に取り組む。具体的には、2つの企業の担当者から実際に企業が社会で直面している課題を受け取り、その課題を解決するためにチームで取り組む。そして、その成果について中間プレゼン・最終プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。</p>			<p>①社会で必要な力に気づく。 ②自分に足りない能力や知識、自分の興味、性格、能力の強みに気づく。 ③社会に出るまでにつけなければならない能力や知識を残りの大学生活の中でどのように習得していくのかを考えることができるようになる。</p>				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス：授業の目的、流れ、方針と評価方法、チームに貢献するためのルールについて理解する。					全教員	
2	課題とは何か？：「課題」とは何かを理解し、「課題」に取り組むために必要なディスカッションの基本的な手法を学ぶ。					全教員	
3	Missionを受け取る：企業Aの担当者からMissionを受け取る。課題や目標となるゴールを正しく理解する。					全教員	
4	中間プレゼンに向けて：チーム活動。中間プレゼンの目的や心構え、準備について理解し、どのように議論を進めるべきかをチームで検討する。					全教員	
5	中間プレゼン：企業担当者の前で中間プレゼンを行う。企業担当者からのフィードバック、他のチームのプレゼンなどから議論を再構築する。					全教員	
6	最終プレゼンに向けて：チーム活動。簡潔にわかりやすく伝えるプレゼンをするための注意事項を理解し、準備を整える。					全教員	
7	最終プレゼン：最終プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで、自分たちの議論および活動をふりかえる。					全教員	
8	課題解決に必要なスキルを知る：クリティカルシンキングの大まかな概要をつかむ。					全教員	
9	Missionを受け取る：企業Bの担当者からMissionを受け取る。課題や目標となるゴールを正しく理解する。					全教員	
10	中間プレゼンに向けて：チーム活動。企業担当者からどのようなアドバイスをもらえば議論が進むのかを整理する。					全教員	
11	中間プレゼン：企業担当者の前で中間プレゼンを行う。企業担当者からのフィードバック、他のチームのプレゼンなどから議論を再構築する。					全教員	
12	最終プレゼンに向けて：チーム活動。簡潔にわかりやすく伝えるプレゼンをするための注意事項をチェックし、準備を整える。					全教員	
13	最終プレゼン：最終プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで、自分たちの議論および活動をふりかえる。					全教員	
14	全体のふりかえり：授業での経験をもとに、残りの大学生活をどのように過ごすかをまとめる。					全教員	
15	前期の初めに各自が設定した中期目標と長期目標がどの程度達成されたか、今後の大学生活と授業にどのように臨むかについての「自分宣言」を行う。					全教員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	30	積極的に授業およびグループワークに参加しているか。		提出物	50	①期限内に提出しているか。 ②課題に即した内容となっているか（例えば、毎回提出するリアクションシートの場合は、振り返りが記されているか、規定字数を満たしているか、で評価）。	
発表	20	①発表内容 ②発表態度 ③質疑への応答					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
課題解決のための資料探しや企業研究、社会調査やディスカッションなど、中間プレゼンおよび最終プレゼンの準備を進めてください。準備はほぼ授業時間外で進めることとなります。[120分]				プレゼンテーションや提出物などの課題について、次学期のキャリアデザインIIにおいてコメントします。			
受講生に望むこと	常に主体的に考え、責任を持って動くように心がけましょう。			教科書・テキスト	『PROJECT SUPPORT NOTEBOOK』Ver1 ベネッセコーポレーション 2014 ISBN：なし		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC110U キャリアデザインII		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	朝倉 秀之・高村 真希 (代表教員 朝倉 秀之)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置づけられている。キャリアデザインIに引き続き、自分の人生の中で職業を主体的に構想したり、設計したり、実現することである。この授業では、社会から求められている事柄が何であるのかを知り、自己課題を明確にすることである。			①キャリアラーニング能力、②専門的な職業能力、③自己管理能力、④政治的能力を身につける。				
教授方法	講義、演習、体験学習						
履修条件	なし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要の説明：到達目標、成績評価と基準、「キャリア体験学習」など。					朝倉・高村	
2	マナー講座第1回：言葉遣いについて					学生支援課	
3	「キャリア体験学習」の内容説明とグループ分け、自己紹介、役割分担、連絡方法の確認					朝倉・高村	
4	キャリアデザインと仕事理解（1）：学生生活で得るキャリア意識の明確化					朝倉・高村	
5	キャリアデザインと仕事理解（2）：経済・雇用環境に応じた働き方の理解					朝倉・高村	
6	「キャリア体験学習」の第1回事前学習					朝倉・高村	
7	キャリアデザインと職場理解（1）：インターンシップやプレ実習を活用したキャリア考察について					朝倉・高村	
8	「キャリア体験学習」の第1回事後学習と第2回事前学習					朝倉・高村	
9	キャリアデザインと職場理解（2）：キャリア形成と求められる基礎能力					学生支援課	
10	企業の魅力					学生支援課	
11	「キャリア体験学習」の第2回事後学習と第3回事前学習					朝倉・高村	
12	キャリアデザインと職場理解（3）：多彩な職種や業種と自分の適性					朝倉・高村	
13	マナー講座第2回：報告、連絡、相談について					学生支援課	
14	「キャリア体験学習」の第3回事後学習と全体報告会準備					朝倉・高村	
15	「キャリア体験学習」の全体報告会					朝倉・高村	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
毎授業でのコメント	40	①講義内容についての理解ができているか②問題提起が身につけているか③新しい発見ができていないか		報告書	50	「体験学習」の最終報告	
提出物	10	①言葉遣いのレポート②報告、連絡、相談のレポート					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業外では専門的な職業能力に直結する「キャリア体験学習」に取り組みます。その体験学習に際しては事前の準備と事後の学習が大切であり、それに要する時間はそれぞれに3時間、合計6時間以上を必要とする。				グループごとに学習計画を立て、役割分担、調査を行い、記録することでフィードバックする。			
受講生に望むこと	①積極的に参加すること。②理論だけでなく、実際に行動すること。③各自スケジュールは異なるので各自が手帳を用意し、記録して下さい。			教科書・テキスト	『学生のためのキャリアデザイン入門 生き方・働き方の設計と就活準備 第3版』渡辺峻・伊藤健市著、中央経済社、渡辺峻・伊藤健市著		
指定図書参考書等	参考書として、①『理論と実践で自己決定力を伸ばす』キャリアデザイン講座 第2版、大宮登著、日経BP社、ISBN978-4-8222-9573-8、2014 ②『今までにない職業をつくる』甲野善紀著、ミシマ社、ISBN978-4-903908-59-5、2015			その他・特記事項	「キャリア体験学習については、参加費、材料費などの費用が各自負担でかかります。		

授業科目名	HC110U キャリアデザインII		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	小林 正史・西村 洋一（代表教員 小林 正史）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
前半（1～9回）は、1年前期に行った「キャリアデザインI」（MIP I）のグループワークを振り返り、さらに深く調べることにより改訂版を作製する。後半では、2年前期に受講するMIP 2の事前学習としての「日本と海外の働き方の違い」を検討した後、自己分析、学生時代にすべきこと、などについて考える。			第一に、MIP Iの振り返りを通して、現在の自分に不足している力と得意な部分を把握する。第二に、MIP Iの振り返りを通して「論理的な説明ができる力」を身につける。第三に、働く際に必要とされるが、現在は不足している力について、学生時代にどのようにして身につけるかの具体的プランを立てる。				
教授方法	各回の授業は、①教員からの情報提供、②グループワーク、③グループワークの内容をグループごとに発表、という構成をとる。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の全体説明の後MIP前半のビデオを見て、プレゼンの話の仕方を振り返る					全員	
2	MIP前半のプレゼンでの話し方の振り返り（前回の続き）					全員	
3	MIP前半のプレゼン内容の振り返り					全員	
4	MIP前半のプレゼン内容の振り返り（続き）					全員	
5	MIP後半のプレゼンの振り返り（内容と話し方）					全員	
6	MIP後半のプレゼンの振り返り（内容と話し方）の続き					全員	
7	MIP後半のプレゼンの振り返りをA4紙1枚にまとめる					全員	
8	MIP後半プレゼンの改訂版の発表					全員	
9	会社の仕組み、仕事の仕組み					全員	
10	外国人と共に働くとは：日本の海外での働き方の違いを考えるための情報提供（講義）。					全員	
11	日本の海外での働き方の違いについてのグループ討論と発表					全員	
12	就職活動とは：4年生と卒業生の話聞く					全員	
13	自分を振り返る（自分史を作る自己分析）					全員	
14	地域を元気にする活動事例に学ぶ					全員	
15	エントリーシートの書き方					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	授業中のワークの達成度、および講義・演習（グループワークを含む）に対する参加態度		リアクションシートの記入	40	毎回提出するリアクションシートが具体的に記されているか。	
グループ発表	30	グループ発表が論理的に構成されているか。分かりやすい話し方か。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
1. MIP Iの振り返りと改訂版の作成、グループ発表の準備は授業時間外にグループごとに行う。毎週2時間を目安とする。 2. 日頃から新聞等を読み、社会の事象等に関心を持つ。毎週最低1時間を目安。				6回以上行うグループ発表において、学生と教員がコメントする。			
受講生に望むこと	グループワークを中心とした授業なので、学生の活発な参加が求められる。また、MIP課題について起案・発表するためには、社会学科の他の科目の学習とともに、社会の事象について関心を持つ（新聞などを読む）ことが求められる。			教科書・テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	必要に応じて資料を配布する。		

授業科目名	HC200U キャリアデザインⅢ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	下村 岳人・朝倉 秀之（代表教員 下村 岳人）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち学部キャリア教育科目に位置付けられている。この授業を通して、社会の一員としての自分を見つめ直し、知る機会としたい。そのために、自分の能力や適性について分析する手法について学ぶ。具体的には、SPI模擬試験を受験して、能力や適性に関する客観的な資料を確認し、自己理解を深める。また本講義では、様々な体験活動の機会を設ける。そこから、人の想いや知恵に触れ、社会の一員として自分がどのように在りたいのかを検討する。			①SPI模擬試験受験を通して、自分の能力や適性について理解し、自己課題を明確にしている。 ②体験学習を通して、人の想いに触れ、自分を振り返ることができる。 ③社会情勢に興味関心を持ち、そこに生きる自分自身についてまとめることができる。				
教授方法	講義、演習、体験学習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、成績評価の方法等を知る。					下村・朝倉	
2	「つくるたのしみ講座」の分担配置、SPI模擬試験に関する諸注意。					下村・朝倉	
3	SPI模擬試験（言語分野、非言語分野、性格）の受検。					学生支援課	
4	「つくるたのしみ講座」の事前準備、「加賀百万石ウォーク」の役割確認					下村・朝倉	
5	「加賀百万石ウォーク」の体験①					下村	
6	「加賀百万石ウォーク」の体験②					下村	
7	「つくるたのしみ講座」①					下村	
8	SPI模擬試験結果の返却及び、学生支援課より、結果の見方についての解説。					学生支援課	
9	「つくるたのしみ講座」①の振り返りと②に向けての事前学習					下村・朝倉	
10	「つくるたのしみ講座」②					下村	
11	自分を伝える（発表の決まり）。					朝倉	
12	「つくるたのしみ講座」②の振り返りと③に向けての事前学習					下村・朝倉	
13	「つくるたのしみ講座」③					下村・朝倉	
14	「社会のなかの私」に関する発表に向けての議論と準備。					下村・朝倉	
15	まとめ：「社会のなかの私」に関する発表。					下村・朝倉	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
最終課題	40	「社会のなかの私」をテーマにしたレポートを作成することができているか(2000字)。		ミニレポート	30	①学んできたことの分析が行われているか。 ②読み手にわかりやすく作成されているか。	
授業参加態度	30	①事前準備、事後の振り返りを含めて、主体的に体験学習に参加できたか。 ②講義及びグループでの授業に積極的に取り組むことができていたか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①体験学習に向けた準備と体験学習を通しての学びをレポートにまとめる[60分] ②毎日、新聞やニュースに目を通す[30分]				毎回のレポートは、採点及びコメントを付けて返却する。			
受講生に望むこと	毎日、新聞やニュースに目を通すことから、社会の状況や流れに敏感に感じてください。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし / 『キャリア教育のウソ』 児美川孝一郎 筑摩書房 2013年 ISBN 978-4480688996、『ノンデザイナーズ・デザインブック(第4版)』 Robin Williams著 小原司 訳 マイナビ出版 ISBN 978-4839955557			その他・特記事項	体験学習にかかる費用は、各自実費で行います。		

授業科目名	HC200U キャリアデザインⅢ		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	若山 将実・小林 正史・俵 希實 (代表教員 若山 将実)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
近年、日本の産業界はさまざまな課題を抱えているが、この課題を解決するにはグローバル社会に対応できる人材育成が鍵となっている。そこで、授業では、文化的背景の異なる人々にもわかりやすく、きちんと伝える「力」を身につけることを目的とする。具体的には、グローバル企業と連携し、「キャリアデザインⅠ(MIP1)」で学んだことを基礎としながら、ICT (Information and Communication Technology) を用いて授業を進める。グローバル企業が抱える課題を知り、チームで課題解決に取り組む。その成果について、第1次提案・最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。			①グローバル企業で働くために必要な知識・グローバルコミュニケーション力とはどのようなものかを認識できるようになる。 ②グローバル企業とのコミュニケーションを通じて、実務に対する意識や必要とされる力と現在の自分の持つ意識や力のギャップに気づく。 ③ICTを用いて多文化共生の実践的経験を学び、海外業務に必要な表現形式を習得する。 ④異文化的背景を持つ相手へのプレゼンは、単一文化内でのプレゼンとは異なることを知り、必要な言語能力・プレゼンテーション能力を身につける。				
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーションと課題提示：授業の目的、流れ、方針と評価方法、チームに貢献するためのルールについて学ぶ。最後に、第一の企業担当者から課題を受け取る。					全員	
2	課題理解確認：前回の課題提示を受けて、各グループが課題についてどのように理解しているかディスカッションを通じて確認する。					全員	
3	リハーサル：チーム活動。異文化的背景を持つ相手に対して、簡潔にわかりやすく自分の意図を伝えるための注意事項を確認し、最終提案に向けての準備を整える。					全員	
4	最終提案：ICT技術を通じた最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで、自分たちの活動（文献調査、社会調査、議論など）をふりかえる。					全員	
5	課題提示：第一クールでのグループ活動への反省・ふりかえりを全体で共有した後、第二の企業担当者から課題を受け取る。					全員	
6	課題理解確認：前回の課題提示を受けて、各グループが課題についてどのように理解しているかディスカッションを通じて確認する。					全員	
7	第一次提案に向けての進捗状況の報告：第一次提案の目的や心構えを確認し、さらに異文化的背景を持つ相手と働くとはどのようなものか学んだ上で、どのように議論を進めるべきかをチームで検討する。					全員	
8	ICT技術を用いた企業担当者に対する質問：グループワークを進めていくなかで出てきた課題に対する疑問・質問を企業担当者へ聞く。質疑応答を通じ、課題への理解をさらに深めていく。					全員	
9	リハーサル：チーム活動。異文化的背景を持つ相手に対して、簡潔にわかりやすく自分の意図を伝えるための注意事項を確認し、第一次提案に向けての準備を整える。					全員	
10	第一次提案：企業担当者に対して第一次提案を行う。企業担当者からのフィードバックや、他のチームのプレゼンなどから自分たちのチームの改良すべき点について気づく。					全員	
11	最終提案に向けての再構築：第一次提案における企業担当者からのフィードバックを受けて、各グループで振り返りを行うことを通じて、最終提案に向けて課題に対するアプローチを再構築する。					全員	
12	グループワーク：課題解決のためのグループワークを行う。また、各グループの進捗状況を全体で共有することで自グループの置かれた状況を把握する。					全員	
13	リハーサル：チーム活動。異文化的背景を持つ相手に対して、簡潔にわかりやすく自分の意図を伝えるための注意事項を確認し、最終提案に向けての準備を整える。					全員	
14	最終提案：ICT技術を通じた最終プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで、自分たちの活動（文献調査、社会調査、議論など）をふりかえる。					全員	
15	全体のふりかえり：授業での経験をもとに、文化的背景の異なる人々にもわかりやすく、きちんと伝える「力」を身につけることとは何かをまとめ、それをどうすれば身につけるのかを考え、発表する。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	30	①授業に参加し、チームに貢献しているか。		提出物	50	①期限内に提出しているか ②課題に即した内容となっているか ③指定された分量が書けているか ④指定された形式になっているか ⑤ふりかえりができているか	
発表	20	①発表内容：課題に即した内容となっているか/指定された様式・時間を守っているか ②発表態度 ③質疑への応答					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
第一次提案および最終提案の準備を進める。準備はほぼ授業時間外で進めることになる。必要に応じて調査を行う場合も課外で進める。[90分]				発表に対するフィードバックを企業担当者および教員によってコメント等を通じて毎回の発表後に行います。			
受講生に望むこと	チームワークをうまく進めていくために、一人一人が常に主体的に考え、動くように心がける。			教科書・テキスト	『PROJECT SUPPORT NOTEBOOK』ベネッセコーポレーション		
指定図書参考書等	なし。			その他・特記事項	詳細はオリエンテーション等で説明する。協力企業の都合により、回によっては開講曜日が変わる場合もある。		

授業科目名	HC210U キャリアデザインⅣ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	向出 圭吾・高村 真希（代表教員 向出 圭吾）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置付けられている。この授業では、実際の就職活動について実践的な技術を学ぶ。具体的には、就職活動の流れを確認し、求人先に提出する書類（履歴書、エントリーシートなど）の作成方法を実践する。そして一般職においては、会社説明会参加の留意点、面接やグループディスカッションの対策、専門職においては、面接や実技試験、模擬保育の実際を考える。また就職内定者やインターンシップでの就活体験談などを聞き、様々な職場で「働く」ということについての実際を学ぶ。その上で、今後の就活スケジュールを確認し、計画的に就職活動が行えるように準備する。			①就職活動の流れを把握し、目的意識をもって自分なりの就活スケジュールを立てることができる。 ②就職活動に必要な書類の作成や面接準備、資料作成などを通して、自己理解を深める。 ③自己の進路と関連させながら就職内定者の体験報告やインターンシップの説明を聞き、働くことの実際を理解してレポートにまとめることができる。 ④今日のキャリア教育のあり方について自分なりに課題を発見し、自己のキャリア形成に主体的に取り組むことができる。				
教授方法	講義・演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要に関する説明、履修カルテの作成					向出・高村	
2	就職までの一般的なスケジュールを確認し、自分の目指す職業に向けてのスケジュールを作成する。					向出・高村	
3	作成した就活スケジュールをもとにグループワークを行い、内容を具体化していく。					向出・高村	
4	エントリーシート、履歴書の書き方のポイントについて学ぶ。					向出・高村	
5	エントリーシート、履歴書の自己紹介欄の書き方を学ぶ。					向出・高村	
6	エントリーシート、履歴書の書き方について見直し、改善を行う。					向出・高村	
7	痴呆症養成講座：痴呆症について理解し、その対応を学ぶ。					金沢市長寿福祉課職員	
8	インターンシップとはどのようなものか、進め方・体験内容について理解する。					学生支援課	
9	インターンシップに参加した3、4年生の体験談を聞いて、具体的なインターンシップの内容を理解する。					学生支援課	
10	会社説明会や専門職の合同説明会についての説明と留意点					学生支援課	
11	面接（個人面接、グループ面接）について学ぶ。					学生支援課	
12	面接を体験することで自己課題を明らかにし、今後の就職活動に活かす。（1）					向出・高村	
13	面接を体験することで自己課題を明らかにし、今後の就職活動に活かす。（2）					向出・高村	
14	ビジネスマナーについて考える。（身だしなみ、電話応対、手紙、メールなど）					向出・高村	
15	これまでの授業を通して、キャリア形成について得られた学びをまとめる。					向出・高村	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	・課題に対する意欲的な取り組み		履歴書の作成	30	・丁寧な字体であるか。 ・自分の思い、考えを伝えているか。 ・わかりやすくまとめているか。	
インターンシップの理解	20	・学生支援課の説明と3、4年生の体験談を聞き、学んだこととインターンシップに向けての自己の思いをレポートにまとめているか。		最終レポート	20	・自身の就活スケジュールを含め、授業で学んだキャリア形成について自分の考えをまとめる。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①就活スケジュールを作成する。[30分] ②自分の履歴書の見直し改善を行い、追記しながら具体的に作成していく。[60分] ③インターンシップに関する説明、参加者の体験談を聞き、レポートを作成する。[60分] ④面接の練習を各自行う。[30分] ⑤授業での学びを最終レポートにまとめる。[60分]				作成した履歴書をもとに面接を行い、自己課題を明らかにしていく。			
受講生に望むこと	・専門職希望の学生も一般職の就職活動のしくみや流れを理解し、就職意識を高めてください。 ・履歴書等の作成に際しては、短時間で仕上げるのではなく、時間をかけて納得のいくまで推敲を重ねてください。		教科書・テキスト	なし			
指定図書参考書等	なし／「キャリアデザインⅢ」に準じる。		その他・特記事項	外部講師の都合により、日程が変更になる場合があります。			

授業科目名	HC210U キャリアデザインⅣ		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	小林 正史・田引 俊和・若山 将実 (代表教員 小林 正史)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>金沢市との包括協定に基づき、「金沢の女性活躍人材像」について、女性が活躍している企業などへの取材・調査を行い、その調査成果を発表会と冊子により広く一般に発信する。学期の前半は男女共同参画社会についての先行研究の学習と聞き取り調査のための準備を行う。学期の後半は、企業への聞き取り調査の結果について、整理、分析、レポート作成、広く一般に向けた発表会、などを行う。</p>			<p>1. 男女共同参画社会において働くことの意義について、調査データを踏まえて、各自の意見をまとめる。2. 聞き取り調査の方法を習得する。</p>				
教授方法	各時間のテーマについて教員から情報提供を行った後、グループワーク（ディスカッション）を行い、その結果をグループごとに発表する。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
第1回	授業概要と男女共同参画社会の概要についての説明					全員	
第2回	男女共同参画社会についての先行研究の学習： 男女共同参画社会の視点から、日本の企業での科たらしき方に実態を理解する。					全員	
第3回	男女共同参画社会についての先行研究の学習： 男女共同参画社会を実現するに際しての課題を理解する					全員	
第4回	聞き取り調査の方法： 調査方法について理解する					全員	
第5回	金沢の企業の事前調査： webなどで調査対象企業の概要を調べ、特徴を理解する。					全員	
第6回	聞き取り項目作り					全員	
第7回	聞き取り調査の練習： ロールプレイを通して聞き取り調査の仕方を検討する。					全員	
第8回	企業への聞き取り調査					全員	
第9回	企業への聞き取り調査					全員	
第10回	聞き取り結果のまとめ					全員	
第11回	聞き取り結果の分析					全員	
第12回	中間発表会					全員	
第13回	聞き取り調査レポートの作成					全員	
第14回	聞き取り調査のレポート作成					全員	
第15回	広く一般に向けた成果発表会					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
調査レポートの作成	40	調査の方法、結果、分析が論理的に記述されているかどうかを重視する。		調査結果の発表	30	分かりやすいプレゼンテーションになっているか、を重視する。	
小課題	30	各回に課される小課題の提出状況					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各時間に課される小課題と、企業への聞き取り調査の結果の整理・分析はグループごとに授業外で行う。（毎週2時間を目安） 企業への聞き取り調査と成果発表会は授業時間外に行う必要があるため、授業時間を振り替える。				グループ発表に対して、学生と教員がコメントする。			
受講生に望むこと	グループワークを基本とした学習なので、学生一人一人が活発にディスカッションに参加することが望まれる。			教科書・テキスト	なし		
指定図書／参考書等	参考資料を配布するか、共通フォルダーに保存する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC160U 情報機器演習A		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	富岡 和久					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義の目的は2つある。第1は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションであるワープロ、表計算、電子メールの操作方法を習得する。第2は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようにすることを目指す。</p>			<p>①学内の情報環境を知り、Windowsの基本操作を習得する。 ②電子メールの送受信ができるようになる。 ③情報倫理に関する基本的な知識を身につける。 ④Excelの基本操作を習得し、データを加工し適切なグラフ作成ができるようになる。 ⑤Wordの基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。</p>			
教授方法	演習形式					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	学内の情報環境を知る。さまざまな文字の入力方法と電子メールの送受信の正しい知識を身につける。					
2	Windows7の基礎操作を習得する。情報倫理に関する知識を身につける。					
3	Excel基本操作：データ入力、オートフィル、数式入力、基本的な関数の操作方法を習得する。					
4	Excel関数①：相対参照と絶対参照との違いを理解し、ランク付け関数の操作方法を習得する。					
5	Excel関数②：条件分岐関数の操作方法を習得する。					
6	Excel関数③：表引き関数の操作方法を習得する。					
7	Excel小テスト：以後のデータ加工に進むために、これまで学習した関数について小テストで習得の確認を行う。					
8	Excelデータ加工①：データの加工・並べ替え方法を習得する。					
9	Excelデータ加工②：基本的なグラフの作成方法を習得する。					
10	Excel課題：与えられたデータを加工し、適切なグラフ作成を行う。					
11	Word文書作成①：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。					
12	Word文書作成②：レポートの構成・形式を理解し、Excelで作成した表・グラフの挿入などレポート作成に必要な操作方法を習得する。					
13	Word文書作成③：図形・ワードアート・画像などを使ったちらしの作成方法を習得する。					
14	総合課題①：与えられた課題に対し、Wordでレポートを作成する。					
15	総合課題②：レポートを完成させ、提出する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
電子メール・情報倫理	10	授業で学んだ知識を習得しているか。		Excel関数小テスト／課題	35	授業で学んだ関数が正しく利用できるか。(30%)／適切なデータの加工・グラフ作成ができるか。(5%)
総合課題	25	序論・本論・結論で構成されているか。わかりやすい文章で表現し、Wordで体裁を整えることができるか。		授業参加態度	30	提出物などにより授業への取組み姿勢を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。 ②14回目の授業で、総合課題の説明を行う。15回目の授業を提出期限とする。授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外の時間も利用してしっかり取り組むこと。上記について、合計30時間分の授業外学習として随時指示するのでそれにしたがうこと。</p>				<p>原則、課題を提出したよく週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。</p>		
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2010対応』 第1版 noa出版 2010年出版 『2017年度版 情報倫理ハンドブック』 noa出版 2017年出版	
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	HC160U 情報機器演習A		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	木島 恒一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義の目的は2つある。第1は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションであるワープロ、表計算、電子メールの操作方法を習得する。第2は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようにすることを目指す。</p>			<p>①Excelの基本操作を習得し、データを加工し適切なグラフ作成ができるようになる。 ②Excelで複合グラフが作成できる。 ③Wordの基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。</p>				
教授方法	演習形式						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	Excel基本操作：データ入力、オートフィル、数式入力、基本的な関数の操作方法を習得する。						
2	Excel関数①：相対参照と絶対参照との違いを理解し、ランク付け関数の操作方法を習得する。						
3	Excel関数②：条件分岐関数の操作方法を習得する。						
4	Excel関数③：表引き関数の操作方法を習得する。						
5	Excel小テスト：以後のデータ加工に進むために、これまで学習した関数について小テストで習得の確認を行う。						
6	Excelデータ加工①：データの加工・並べ替え方法を習得する。						
7	Excelデータ加工②：基本的なグラフの作成方法を習得する。						
8	Excel課題：与えられたデータを加工し、適切なグラフ作成を行う。						
9	Excel関数の応用：実用的な表を作成し、情報機器演習Aで学んだ関数の振り返りを行う。						
10	Excelグラフ：グラフの編集と複合グラフの作成方法を習得する。						
11	Word文書作成①：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。						
12	Word文書作成②：レポートの構成・形式を理解し、Excelで作成した表・グラフの挿入などレポート作成に必要な操作方法を習得する。						
13	Word文書作成③：図形・ワードアート・画像などを使ったちらしの作成方法を習得する。						
14	総合課題①：与えられた課題に対し、Excelでデータ分析を行いWordでレポートを作成する。						
15	総合課題②：レポートを完成させ、提出する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Excel関数小テスト／課題	35	授業で学んだ関数が正しく利用できるか。(30%)/ 適切なデータの加工・グラフ作成ができるか。(5%)		Excel関数の応用とグラフ作成	10	関数を利用した実用的な表が作成できるか。複合グラフが作成できるか。	
総合課題	25	序論・本論・結論で構成されているか。わかりやすい文章で表現し、Wordで体裁を整えることができるか。		授業参加態度	30	提出物などにより授業への取組み姿勢を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。 ②14回目の授業で、総合課題の説明を行う。15回目の授業を提出期限とする。授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外の時間も利用してしっかり取り組むこと。上記について、合計30時間分の授業外学習として随時指示するのでそれにしたがうこと。</p>				<p>原則、課題を提出したよく週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。</p>			
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶ Office活用術2010対応』 第1版 noa出版 2015年		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC170U 情報機器演習B		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状（英語）				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業は、全学共通科目であるキャリア教育科目の1つである。現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で、自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション力が不可欠である。「情報機器演習A」に引き続き、代表的なアプリケーションであるプレゼンテーションや画像・音声・動画編集加工ソフトの基本的操作を習得する。さらに、Excelで作成したグラフを活用したプレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し向上させることを目的とする。			①PowerPointの基本操作を習得する。 ②プレゼンテーションにおける効果的な資料について理解し、そのような資料を作成して発表できるようになる。 ③どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 ④簡単なマルチメディア作品の制作ができるようになる。				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	プレゼンテーションとは：プレゼンテーションとは何かを知り、その必要性を理解する。						
2	PowerPoint基本操作（1）：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。						
3	PowerPoint基本操作（2）：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。						
4	簡単なプレゼン資料を作る：自己紹介用資料を実際に作成してみる。						
5	PowerPointプレゼンの内容と流れ：目的・聞き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。						
6	PowerPointプレゼン資料作成：ストーリーに合わせた効果的なスライドを作成する。						
7	PowerPoint発表原稿準備：ノート機能を利用して発表用の原稿を作成する。						
8	PowerPointリハーサル：グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認し、人前での発表に慣れる。						
9	PowerPointプレゼンの実施と相互評価①：他の受講者のプレゼン（Aグループ）から、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。						
10	PowerPointプレゼンの実施と相互評価②：他の受講者のプレゼン（Bグループ）から、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。						
11	PowerPointプレゼンの実施と相互評価③：他の受講者のプレゼン（Cグループ）から、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。						
12	画像・音声・動画ファイルの編集加工：画像・音声・動画ファイルについて、基本的な編集加工方法を習得する。						
13	マルチメディア作品の制作①：オリジナルのテーマを設定し、素材となる画像・音声・動画ファイルの編集加工を行う。						
14	マルチメディア作品の制作②：マルチメディア作品を作る。						
15	マルチメディア作品の相互評価：他の受講者の作品から、多様な工夫の仕方を知る。相互評価によって、自分の作品の改善点を発見する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度・理解度	20	講義で学んだ技術等を理解し、使いこなせるか。グループワークへの積極的参加。		プレゼンテーション	40	伝えたい内容が明確で、分かりやすいストーリーか。スライドが分かりやすい表現で、効果的な使用か。はっきりと大きな声で、聴き手を見て、発表したか。	
マルチメディア作品	40	テーマに沿った作品であるか。音声や画像・動画ファイルの切替えのタイミングに合っているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①6回目に発表用のスライドを作成する。7回目の授業までに完成させること。 ②7回目に発表用の原稿を作成する。8回目の授業までに、作成した発表用原稿で練習を行うこと。 ③8回目のリハーサルで指摘されたこと、気づいたことに対して、発表用スライドの修正を行い、9回目の授業の前までに提出する。 ④9-11回目のプレゼンでは、発表用原稿を読み上げるのではなく、聴き手を見て発表できるように、十分な練習をする。 ⑤パソコンの操作は慣れることが重要である。授業で学んだ内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。 事前にレジュメを配布する場合があるので、必ず目を通しておくこと[30分]				講義の進捗に合わせて適宜課題を課し、技術的習熟度を確認する。			
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなす、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶ Office活用術』 noa出版 2015年出版		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC170U 情報機器演習B		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業は、全学共通科目であるキャリア教育科目の1つである。現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で、自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション力が不可欠である。代表的なアプリケーションであるプレゼンテーションや画像・音声・動画編集加工ソフトの基本的操作を習得する。さらに、プレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し向上させることを目的とする。また、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力、情報モラルについて学ぶ。			①学内の情報環境を知り、Windowsの基本操作を習得する。 ②電子メールの送受信ができるようになる。 ③情報倫理に関する基本的な知識を身につける。 ④PowerPointの基本操作を習得する。 ⑤プレゼンテーションにおける効果的な資料について理解し、そのような資料を作成して発表できるようになる。 ⑥どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 ⑦簡単なマルチメディア作品の制作ができるようになる。				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	学内の情報環境を知る。さまざまな文字の入力方法と電子メールの送受信の正しい知識を身につける。						
2	Windows7の基礎操作を習得する。情報倫理に関する知識を身につける。						
3	プレゼンテーションとは：プレゼンテーションとは何かを知り、その必要性を理解する。						
4	PowerPoint基本操作：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。						
5	PowerPointプレゼンの内容と流れ：目的・聞き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。						
6	PowerPointプレゼン資料作成：ストーリーに合わせた効果的なスライドを作成する。						
7	PowerPoint発表原稿準備：ノート機能を利用して発表用の原稿を作成する。						
8	PowerPointリハーサル：グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認し、人前での発表に慣れる。						
9	画像・音声・動画ファイルの編集加工：画像・音声・動画ファイルについて、基本的な編集加工方法を習得する。						
10	マルチメディア作品の制作①：オリジナルのテーマを設定し、素材となる画像・音声・動画ファイルの編集加工を行う。						
11	マルチメディア作品の制作②：マルチメディア作品を作る。						
12	マルチメディア作品の相互評価：他の受講者の作品から、多様な工夫の仕方を知る。相互評価によって、自分の作品の改善点を発見する。						
13	PowerPointプレゼンの実施と相互評価①：他の受講者のプレゼン（Aグループ）から、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。						
14	PowerPointプレゼンの実施と相互評価②：他の受講者のプレゼン（Bグループ）から、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。						
15	PowerPointプレゼンの実施と相互評価③：他の受講者のプレゼン（Cグループ）から、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度・理解度	20	講義で学んだ技術等を理解し、使いこなせるか。グループワークへの積極的参加。		プレゼンテーション	40	伝えたい内容が明確で、分かりやすいストーリーか。スライドが分かりやすい表現で、効果的な使用か。はっきりと大きな声で、聴き手を見て、発表したか。	
マルチメディア作品	40	テーマに沿った作品であるか。音声画像・動画ファイルの切替えのタイミングに合っているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①6回目に発表用のスライドを作成する。7回目の授業までに完成させること。 ②7回目に発表用の原稿を作成する。8回目の授業までに、作成した発表用原稿で練習を行うこと。 ③8回目のリハーサルで指摘されたこと、気づいたことに対して、発表用スライドの修正を行い、9回目の授業の前までに提出する。 ④9-11回目のプレゼンでは、発表用原稿を読み上げるのではなく、聴き手を見て発表できるように、十分な練習をする。 ⑤パソコンの操作は慣れることが重要である。授業で学んだ内容について、次の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。				適宜、技術的習熟度を確認する。			
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。		教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶ Office活用術』 noa出版 2010年出版 『2017年度版 情報倫理ハンドブック』 noa出版 2017年出版			
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			

子ども教育学科
(1年次)

授業科目名	EK100U 基礎ゼミⅠ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	幸 聖二郎・伊藤 雄二・向出 圭吾・高村 真希・福江 厚啓 (代表教員 幸 聖二郎)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
1年次の基礎ゼミでは、大学での基本的な学びの姿勢、知的探究の方法の習得を目指す。具体的には、基礎ゼミⅠにおいては、テキストを参考にしながら、ノートテイキング、レポート作成、文献の調べ方や要約といったスタディスキルを学び、大学での授業内容の理解に必要な力を身につける。大学では「自らが学ぶ」という自主的、主体的姿勢が求められる。ゼミでの学びを通し、大学生として学びを主体的に進めていく姿勢を体感し習得していく。また、ゼミ内でのディスカッションなどを通して、コミュニケーション能力を磨くことも目指す。「地域社会と子ども」の授業での学外参観後に、ゼミ内でも関連したディスカッションを行う。			①大学での学び方について理解している。 ②図書館やインターネットの利用など、情報収集の方法を知っている。 ③ゼミの運営や参加方法を理解し、積極的に関わろうとする。 ④レポートの書き方を理解している。				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ゼミ内自己紹介、ゼミの進め方や履修登録内容の確認などを行う。					各担当教員	
2	図書館利用オリエンテーション：情報収集の仕方を具体的に学ぶ。(テキスト第5章に該当)					各担当教員	
3	スタディ・スキルズとは？(テキスト第1章) 自己の目標の設定・確認をする。					各担当教員	
4	大学での学びについて考える：高校との違い・主体的に学ぶとは。					各担当教員	
5	ノートテイキングの方法について理解する。(テキスト第2章)					各担当教員	
6	リーディングの基本スキルを学び、実際に文章を意識して読んでみる。(テキスト第3章)					各担当教員	
7	より深いリーディングのために(1) 要約する 基本編(テキスト第4章)					各担当教員	
8	より深いリーディングのために(2) 要約する 実践編(テキスト第4章)					各担当教員	
9	より深いリーディングのために(3) 意見を書く (テキスト第4章)					各担当教員	
10	リーディングの実践 本の紹介(1) (要約を書く)					各担当教員	
11	リーディングの実践 本の紹介(2) (感想を書く)					各担当教員	
12	アカデミック・ライティングの基本スキル レポートの書き方を知る。(テキスト第8章)					各担当教員	
13	効果的なアカデミック・ライティングのために わかりやすい文や効果的な表現方法を知る。(テキスト第9章)					各担当教員	
14	ディスカッションを行う。(テーマは各ゼミで設定する)					各担当教員	
15	合同：前期のまとめ 後期の履修登録、履修モデルの選択などの説明を行う。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加姿勢	50	意欲的に参加・発言 50点、概ね参加 30点、無関心・意欲的ではない 10点を目安に、積極的な姿勢を評価する。		レポート提出	50	テーマと内容が適切かどうか、ゼミで指導されたアカデミック・ライティングの基本スキルを用いているかどうかを基準とする。	
授業外における学習(事前・事後学習等)							
①大学での自主的・主体的学びを習得するため、各教員から提出される課題遂行の際は、積極的に図書館やインターネットなどを利用し、情報収集とスタディ・スキルズにのっとりたまとめ方を目指す。(60分) ②授業の各回に示されているテキストの章を予め読んで、ゼミに臨むこと。(20分) ③各教員から紹介された文献等に関しても、図書館等において大いに検索閲覧すること。(30分)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
受講生に望むこと	少人数のゼミ形式で行うため、ゼミの時間は遅刻せずに、積極的に仲間のお話を聞き、かつ自分も意見を必ず述べるよう努めて欲しい。また、出された課題に対しては責任を持って期日まで仕上げる。ゼミ運営上妨げになるような行為は慎むこと。			教科書・テキスト	『知へのステップ』第4版 学習技術研究会編著 くろしお出版 2015年 ISBN:978-4874246501		
指定図書参考書等	指定図書) 担当教員の指示に従うこと／(参考図書) 『子どもにかかわる仕事』汐見稔幸編 岩波ジュニア新書(岩波書店) 2011年 ISBN 978-4005006830。その他、担当教員の指示に従うこと。			その他・特記事項	テキストの進め方については担当教員の指示に従う(必要に応じて使用する)。合同で実施することがあり、日程が前後する場合がある。「地域社会と子ども」と連動して、授業を行う。		

授業科目名	EK110U 基礎ゼミⅡ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	向出 圭吾・伊藤 雄二・下村 岳人・高村 真希・福江 厚啓（代表教員 向出 圭吾）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
基礎ゼミⅡでは、基礎ゼミⅠで会得した主体的、自主的な学びの姿勢を土台に、より実践的に学習し、考える力やディスカッション能力を深め、プレゼンテーション能力の向上を図る。具体的には、各ゼミ内で決めたテーマに沿ってディスカッションを行い、各自が発表することで、お互いの知恵や知識を共有すると共に、多面的な捉え方を身につける。また、事故の学習目的、将来設計の明確化を目指し、プロゼミへの学びに繋げていく。			①ゼミ運営に積極的に協力し、話し合いによって学びを作り上げていくことができる。 ②研究のための文献や資料を自分なりに収集することができるようになる。 ③プレゼンテーションによって自分の研究課題と考察結果を発表できるようになる。 ④大学で学ぶ姿勢を身につける。				
教授方法	演習						
履修条件	「基礎ゼミⅠ」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	(合同)：成績に関する指導、履修の確認、及び履修カルテの作成などを行う。						
2	レポートテーマの設定と指導(1)〔テキスト第8章〕：課題の立て方について						
3	レポートテーマの設定と指導(2)〔テキスト第8章〕：分析方法について						
4	レポートテーマの設定と指導(3)〔テキスト第8章〕：先行研究などの検討						
5	(合同)：プレゼンテーション方法についての理解〔テキスト第11章〕 本学のクリスマスについて説明を聞く。						
6	各自研究計画の発表・質疑・検討(1)：各ゼミで分担を設定し進める。						
7	各自研究計画の発表・質疑・検討(2)：各ゼミで分担を設定し進める。						
8	各自研究計画の発表・質疑・検討(3)：各ゼミで分担を設定し進める。						
9	(合同)：クリスマスカードについて説明を聞く。ゼミ内で協力して役割を果たす。						
10	ゼミ内におけるプレゼンテーション発表(1)：一人10分の持ち時間で質疑応答を含む。						
11	ゼミ内におけるプレゼンテーション発表(2)：一人10分の持ち時間で質疑応答を含む。						
12	ゼミ内におけるプレゼンテーション発表(3)：一人10分の持ち時間で質疑応答を含む。						
13	(合同)：全体会において、ゼミ代表者のプレゼンテーション発表を行う。(各ゼミ1名)						
14	(合同)：2年次コース履修に関する説明と希望調査を行う。						
15	前半(合同)：2年次の履修登録の説明と確認を行う。 後半：各ゼミで学びの振り返りを行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	50	意欲的に参加・発言 50 点 概ね参加 30 点 無関心・意欲がない 10 点 を目安に、積極的な姿勢を評価する。		プレゼンテーション	30	①内容はオリジナルなものか。 ②参考文献の選定や引用は適切か。 ③時間内に収まる構成だったか。 ④他者に伝わるような話し方、内容だったか。	
最終レポート	20	①発表者の内容を理解し、自分の言葉で要約できているか。 ②ゼミ内での学習をしっかり振り返っているか。 ③今後の学習課題を自分なりに把握できているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①各自プレゼンテーションのためのテーマを選定し研究計画を立て準備を進めていくので、授業外において積極的に図書館やインターネットなどを利用して、オリジナルな報告を目指す。そのためには目頃から「子ども」や「教育」への関心を持ってニュースなどに触れること。〔各30分〕 ②プレゼンテーションのためのパワーポイント作成や資料の準備など、発表期日まで余裕をもって取り組む。〔120分〕 ③学内の環境（ILCやLLCなど）を有効に活用し、効果的なプレゼンテーションができるように準備する。〔60分〕				その都度、ゼミ内で研究の進行状況把握し、他者の研究の進め方等も参考に自分の学びを深めていく。			
受講生に望むこと	自主的、主体的な学びを実践するために、情報の活用はもちろんのこと、オフィスアワーなどを利用して教員からアドバイスを受けるようにしてほしい。ゼミ中は、メンバーの報告や発言に対して積極的に応答することを望む。受け身的な態度は評価されない。			教科書・テキスト	『知へのステップ』（第4版）学習技術研究会編著 くろしお出版 2015年 ISBN978-4-87424-650-4		
指定図書／参考書等	担当教員の指示に従うこと。／担当教員の指示に従うこと。			その他・特記事項	テキスト及び各回のゼミの進め方については担当教員の指示に従うこと。 合同で実施する時の授業内容は、日程によって前後する場合があります。		

授業科目名	EK120U 地域社会と子ども		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	向出 圭吾・伊藤 雄二・幸 聖二郎・高村 真希・福江 厚啓 (代表教員 向出 圭吾)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は学科必修科目であり、各免許資格取得に必要な学びを行うための入門科目である。学生は教育者・保育者としての実践力の基礎を身につけるために、地域の子どものかかわり(小学校参観・幼稚園参観・保育所参観・認定こども園を含む)を体験する。各体験の前には、子どもの発達とそれにかかわる今日的テーマでの概説を行い、学生は課題意識をもってそれぞれの参観に臨む。参観後は2回のディスカッションを通して新たな気づきや課題を得る。参観後は2回のディスカッションを通して新たな気づきや課題を得る。参観後は2回のディスカッションを通して新たな気づきや課題を得る。参観後は2回のディスカッションを通して新たな気づきや課題を得る。			①講義と参観事前レポートを通して参観先の概要を把握し、ねらいをもって参観に臨むことができる。 ②参観した内容を客観的に記録し、そこからの見えてくるものを順序立てて記述することができる。 ③参観での子どもの成長や子育て支援の現状等を文章にまとめ、グループで発表することができる。 ④2回のディスカッションやその都度のレポート作成を通して、地域の小学校・幼稚園・保育所(認定こども園を含む)の今日的課題を発見し、対処方法について自分なりに考えることができる。 ⑤グループディスカッションを通してコミュニケーション能力を養い、他者の気づきから自己の学びを深めることができる。 ⑥まとめたレポートを、他者にわかりやすく、自分の言葉で発表することができる。				
教授方法	講義と参観・協議(グループディスカッション)を併用して行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション:科目を学ぶ意義、到達目標、学内外の体験活動時の諸注意、参観マナーを理解する。					向出・全員	
2	各実習制度・ボランティア活動について:各免許資格取得に必要な実習制度について事前事後体験学習、履修条件等を含めて参加心得を理解する。また年間を通したボランティア活動の説明も合わせて行う。					向出・全員	
3	児童期の子どもの理解:児童期の発達の特徴、小学校の学習課程を理解し、模擬授業を通して教師と子どものかかわり方を考える。事前レポートを作成する。					幸・全員	
4	学外体験活動① 小学校参観:各自のねらいに添ってゼミ単位で指定の小学校の参観を行う。事後レポートを作成する。					全員	
5	グループディスカッション:各自作成したレポートをもとに、参観先小学校の特徴や気づきについて話し合う。事後レポートに新たに学びを追記する。					全員	
6	幼児期の子どもの理解:幼稚園や幼稚園教諭の役割、年齢ごとの発達や遊びの特性について理解する。事前レポートを作成する。					向出・全員	
7	学外体験活動② 幼稚園参観(認定こども園を含む):各自のねらいに沿って、幼稚園での参観、かかわりの活動を行う。事後レポートを作成する。					全員	
8	グループディスカッション:各自作成したレポートをもとに、参観先幼稚園や幼児期の特徴、気づきについて話し合う。事後レポートに新たに学びを追記する。					全員	
9	乳児期の子どもの理解:0歳から小学校入学までの子どもと保育所の果たす役割について理解する。事前レポートを作成する。					高村・全員	
10	学外体験学習③ 保育所参観(認定こども園を含む):各自のねらいに沿って、保育所での参観、かかわりの活動を行う。事後レポートを作成する。					全員	
11	グループディスカッション:各自作成したレポートをもとに、参観先保育所や乳幼児期の特徴、気づきについて話し合う。事後レポートに新たに学びを追記する。					全員	
12	3回の参観・体験活動からの学びを振り返る:これまでの体験やレポート、ディスカッションを総合して、子どもの発達とそこに携わる教育者・保育者の役割や資質、そこから見えてきた自己課題等について考察する。最終レポートを作成する。					全員	
13	グループ内にてレポート発表:最終レポートから発表原稿をまとめ、自分の思いや考えを発表という形で他者に伝える。					全員	
14	全体レポート発表:各ゼミ代表者によるレポート発表を行い、質疑応答を交えて子どもにかかわる学びを総合的に把握する。発表を聞いて学んだことを最終レポートに追記して提出する。					福江・全員	
15	3回の参観、それに続くディスカッションそして発表を終えて、これから教育者・保育者を目指すために必要な自己課題について、それぞれが今後どう向き合っていくべきかを考える。					伊藤・全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	50	講義・協議・参観時の態度を重視。 ①事前の協議を踏まえ、ねらいをもって参観している。 ②参観による学びを、協議において自分の言葉で表現している。 ③他者の考えを踏まえ、自分の考えを述べようとしている。		各レポート及び発表	50	各レポートの詳細は初回授業で説明する。 ①指定の書式で作成している。 ②自分の気づき、考えを記述している。 ③各参観を通して気づいたこと、考えたことを発表という形で表現できる。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①児童期・幼児期・乳児期の各講義終了後、それぞれ指定された期日までに必ず事前レポートを作成する。[60分×3] ②学外体験活動①～③終了後、それぞれ指定された期日までに必ず事後レポートを作成する。[60分×3] ③学外体験の前に、教科書『子どもにかかわる仕事』を各自読み進め、専門職に対するイメージをつかんでおく。[30分×3]			①事前レポートをもとに、ねらいをもって参観やかかわりの活動を行う。 ②参観後の事後レポートをもとに、ゼミ内でのディスカッションにおいて得られた気づきを追記する。 ③ゼミ内でのディスカッション後に追記した事後レポートをもとに、グループディスカッションにおいて得られた気づきを追記する。 ④さらにその理解度を自分自身が確かめるために、グループ内発表を通して、他者からの思いを聞き、自分の学びを深める。				
受講生に望むこと	①傍観者的な態度ではなく、参観施設ごとのねらいを明確をもって学外体験活動に参加すること。 ②表面的な観察や記録ではなく、その根拠となる自分の思いを常に考える姿勢をもつこと。		教科書・テキスト	『子どもにかかわる仕事』 汐見稔幸編 岩波ジュニア新書(岩波書店)2011年 ISBN:978-4-00-500683-0			
指定図書参考書等	なし/ 『小学校学習指導要領』文部科学省 東京書籍 2009年 ISBN978-4-487-28695-9 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008年 ISBN978-4-577-81245-7 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 2008年 ISBN978-4-577-81242-6		その他・特記事項	①ゼミ単位で学外体験活動を行う。 ②受け入れ側の事情で、参観の日程を変更する可能性がある。 ③体験活動は、通常の時間割に加えて2コマ連続して行うので注意すること。 ④学外活動は、教育・保育活動の妨げにならないよう配慮し、マナーを守り服装にも十分注意すること。			

授業科目名	EK130U 教育学概論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	辻 直人					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>教育学とは、歴史的にどのような課題を追及してきた学問なのだろうか。「教育」は誰もが主体的経験を持っている行為である。そのため、自らの経験から教育をイメージしやすい。しかし教育は時代と共に様々な要求を受け、また課題に応じて変化してきた側面がある。一方で、本質的に時代を超えて受け継ぐべき課題もあると考えられる。本講義では、これまでの教育学が射程としてきた課題を整理し、受講者各自の持つ教育観を自覚的に反省しながら、教育的行為の本質を考察していく。この授業を通して得た知見をもとに、現代の教育問題を読み解く視座の習得を目指す。</p>			<p>①いくつかの教育観の違いについて説明できる。 ②現代社会の教育に求められている傾向に対して、授業内容を参考にして自分なりの意見を述べられる。 ③自らの教育観を絶えず問い直す姿勢を持つ。</p>			
教授方法	講義中心だが、グループディスカッションや報告の場も作る。また、毎回授業終了時に、授業にまつわる課題について用紙に記入し提出すること。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、「教育」は誰のためのものか？ 教育の目的は何か？					
2	教育的行為の本質① 飼育者と動物の関わりから教育の本質を探る					
3	教育的行為の本質② 「Education＝教育」？言葉の意味を探る					
4	教育的行為の本質③ 教育から学びへ 学びが深まる時とは（学びの必然性、当事者性について）					
5	教育的行為の本質④ 学ぶこと、わかること、変わること					
6	教育制度・場所・環境① 古代の教育思想：大学教育の目的					
7	教育制度・場所・環境② ルソー『エミール』の教育史的意義：「子ども」の誕生とライフサイクル論					
8	教育制度・場所・環境③ ペスタロッチ、フレーベル：庶民の教育、幼児教育の発展					
9	教育制度・場所・環境④ 公教育制度（学校制度）の確立、拡大と限界					
10	教育制度・場所・環境⑤ 新教育運動の登場と意義					
11	教育制度・場所・環境⑥ 家庭と地域：教育環境について					
12	教育問題・逸脱行動は何故起こるのか：学校制度の行き詰まりと今後のあり方について					
13	教師の役割について					
14	キリスト教と教育					
15	教育に希望は語れるのか：教育の語る「希望」とは何か					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
中間試験	30	①授業内容について、正確に理解している。 ②授業であつた様々な教育観に対して、自分なりの見解を言うことができる。		定期試験	50	①授業内容について、正確に理解している。 ②授業であつた様々な教育観に対して、自分なりの見解を言うことができる。
リアクション・ペーパー	10	①授業を自分の言葉として捉えることができる。 ②与えられた質問や課題に即して回答している。		授業態度	10	①積極的に授業に参加している。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業中指示した教科書の該当箇所を、予習復習としてよく読み理解すること。分からない語句は各自調べておくこと[20分]。毎回の授業終了時に課題を出すので、期日までに自分の考えをまとめて提出すること[30分]。				リアクション・ペーパーは毎回コメントを入れて返却する。また、代表的な内容に対しては授業で触れる。中間試験は返却の上解説する。その他、授業への質問はいつでも受け付ける。		
受講生に望むこと	毎回授業終了時に渡す小課題用紙の記入や、授業中にもグループワークなどを取り入れるので、積極的な参加態度を求める。常に自らの教育観を問い直す姿勢を持って、授業に臨んで欲しい。自らの言葉で教育を語れるようになって欲しい。			教科書・テキスト	『新・教育課程シリーズ 教育理念・歴史』田中智志・橋本美保編、一藝社、2013年、ISBN:978-4-86359-057-1	
指定図書参考書等	なし／『人間と教育を考える－教育人間学入門－』田井康雄編 学術図書出版社 2003年 ISBN:4-87361-767-7、『教育学入門』藤田英典他 岩波書店 1997年 ISBN:4-00-003959-8			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EK140U 教職論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	大井 佳子・幸 聖二郎 (代表教員 大井 佳子)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
幼稚園教諭、小学校教諭及び中学校教諭免許状取得にかかわる教職に関する科目で、教師という仕事の概観をつかみ、自らの適性を問う。教職の意義及び教員の今日的役割、それを実現するための職務内容の実際を知り、教職に対する自らの適性を問う、教師としての意識と自覚の形成を目指す。子どもとして体験して得た、あるいはメディアを通じて形成された自身の教職観を、他科目での授業参観で得た体験、本科目での講義ならびに幼・小・中の各学校現場の教員(教職体験者を含む)との協議によって見直し、教師に求められる資質能力、社会性・人間性、指導力、職務内容、家庭や地域との連携の在り方、学校間連携によって一人一人の学びと育ちをつなぐこと等について学び、教師としてとしての意識と自覚の形成を目指す。			①幼・小・中の校種を超えた教職の意義と専門性について理解する。 ②教員の職務と服務について理解する。 ③教師をめぐる現状と課題について知る。 ④教師に求められる資質能力について理解し、自らの進路として教職を選択することの可否を考える。				
教授方法	各回の授業を幼児期(幼稚園教諭・保育士・保育教諭)を中心に大井、小学校を中心に幸、中学校を中心に伊藤が担当し講義形式で適宜グループ討議。現場の教師を交えて、あるいは大井・幸・伊藤が対談・鼎談形式で行う場合がある。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	教職とは何か：グループワークによる学生自らの体験からの考察・講義「教職の歴史の変遷」から教職が専門職である意味を理解する。					幸聖二郎	
2	専門職としての教師：幼・小・中各校種間の共通性と独自性					大井・幸	
3	幼児期の学びの特性と保育者の役割					大井佳子	
4	指導の方法：子どもの主体的な学びを引き出す保育者・教師のあり様					大井佳子	
5	学びと育ちの接続を支える：幼稚園教諭・小学校教諭を含むパネルディスカッション					大井佳子	
6	保護者との連携：子育てを支援するという保育者・教師の役割					大井佳子	
7	倫理綱領と使命感					幸聖二郎	
8	教員の職務・任用と服務・身分保障：校務分掌から見る教師の仕事の実際					幸聖二郎	
9	現場教師から聞く校務の実際：小学校教諭・中学校教諭を含むパネルディスカッション					幸聖二郎	
10	公務員としての教師：一般公務員との共通性と教育職としての独自性					幸聖二郎	
11	教育実践を通して自らの資質を向上させる：自己評価・研修と研究・協働					幸聖二郎	
12	事例から考える：教員に求められる資質能力					幸聖二郎	
13	事例から考える：教職に対する情熱・子ども(園児・児童・生徒)に対する責任感					大井・幸	
14	現場教師と語る 教育職の魅力：子ども(園児・児童・生徒)との関係性・教師集団					大井・幸	
15	まとめ：学校教育の今日的課題と教師の役割：校種を超えて					幸聖二郎	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
ミニレポート	45	法令等教職にかかわる事項についての事前調べ・授業における討議のまとめと考察(授業内ワークを含む。自分に対する省察を含む)		定期試験	55	教職にかかわる今日的テーマについての概要理解と考察	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
各授業回での理解に必要な用語・法令等についての事前調べ・事後確認をミニレポートにまとめる。[30分～1時間程度]				ミニレポートとして提出された履修者の興味・関心・疑問を次回の授業に反映させる。提出課題を定期試験の持ち込み資料とし、試験課題とリンクさせる。			
受講生に望むこと	*自身が取得を希望する資格・免許に対応する年齢の子どもだけでなく、乳児から青年までの幅広い年齢層の生活と環境について興味をもつこと。 *保育原理を履修していること、夏休みの現場体験(幼稚園・放課後等児童クラブ 他)を経験していることが望ましい。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館2008年 ISBN:978-4-577-81245-7 『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 東洋館出版社 2008年 ISBN:978-4-491-03189-7 『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 ぎょうせい 2008年 ISBN:978-4-324-90002-4 (学習指導要領、幼稚園教育要領等の改訂に伴って発行が予定されている各『解説』が追加される。)		
指定図書参考書等	『園教諭 はじめの3年間QA事典』 竹井 史編者 明治図書 2008年 ISBN:978-4-18-923037-3 『保育者論[第2版](最新保育講座)』沙見 稔幸・大豆生田 啓友編集 ミネルヴァ書房 2016年 ISBN:978-4-623-07638-3 『教職の意義と職務』 森 秀夫著 学芸図書株式会社 2012年 ISBN: 978-4-761-60339-7 『教師になるということ』 池田 修著 学陽書房 2013年 ISBN: 978-4-313-65236-1			その他・特記事項	授業外課題として現場訪問や子どもとのかかわりが課せられる場合がある。		

授業科目名	EK150U 発達支援論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	大井 佳子・田中 早苗 (代表教員 大井 佳子)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	保育士・中学校教諭一種免許状 (英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>教職をめざす学生は、実践的学びとして保育・教育の現場で多様な子どもたちとかわる。不適切なかわりについての知識と、多様な子どもたちから学び取る姿勢を培う科目である。講義、ワーク (グループディスカッションを含む) によって、ビデオ映像を含む資料の事例、またボランティアやプレ実習で学生自身が体験したエピソードに対して「なぜ?」と考えることを積み重ね、発達障害という見えにくい障害について理解していく。事例を通して、発達障害という見えにくい障害を理解するには乳幼児期から成人までの長いスパンで見ること、及び、園・学校という集団生活の場での姿だけでなく家庭での姿、地域での姿を合わせることが重要であることに気づき、目の前の子どもの問題を接続と連携という視点でとらえようとする志向性を育む。</p>			<p>①発達障害者支援法によって国が障害として支援の対象とするに至った発達障害をめぐる今目的状況を知り、専門家だけでなく全ての人が支援の担い手であることを理解する。 ②自閉症スペクトラム・注意欠陥多動性障害・学習障害の概要と必要な配慮について知る。 ③発達障害児・者が乳幼児期から成人までの成長の過程で体験する生き辛さと支援の方法について知る。 ④親 (家族) ・保育者・教師が発達障害児にかかわる中で陥りやすい心情について知り、家族に対する支援の必要性を理解する。 ⑤特別支援教育の制度と実際を理解し、幼小あるいは小中の引き継ぎ等、理解と育ちをつなぐ方法を考える。</p>				
教授方法	講義・ワーク (グループ・個人)						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	発達障害という概念：発達障害者支援法誕生までの経緯					大井	
2	発達障害に起因する生き辛さ：感覚過敏の事例から					大井	
3	自閉症スペクトラム①：コミュニケーションの障害					大井	
4	自閉症スペクトラム②：興味の偏り					大井	
5	発達障害をもつ子どもの集団性勝と家庭生活					大井	
6	発達障害をもつ子の親が陥りやすい心情・保育者や教師が陥りやすい心情					大井	
7	支援の手がかりとしてのノンバーバルコミュニケーション					大井	
8	発達障害児とのコミュニケーション場面の分析：子どもについての発見・かわり手についての発見から考える個別支援計画					大井	
9	支援しているつもりのことを見直す：本当に当事者の育ちを援ける支援					大井	
10	学習障害 (学齢期に見えやすくなる障害)：事例から支援の方法を考える					田中	
11	注意欠陥多動性障害：当該児・者自身の学習に及ぼす影響・クラスに及ぼす影響					田中	
12	特別支援教育：歴史と現状					田中	
13	二次障害：過剰適応からのウツと不登校					田中	
14	乳幼児期・学齢期・思春期以降に必要な支援の特性と支援の接続					田中	
15	インクルーシブ教育：多様性を認める園生活・学校生活の実例から異なるものが共にあることで生まれる豊かさについて考える					大井	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
ミニレポート	30	次回の授業テーマについての調べ学習・配布資料からの考察等のために参考資料にあたる		授業内ワーク	15	グループ討議のための発言メモ・グループ討議を経ての自分の考え等をていねいに記述	
定期試験	55	①関連する用語・基本的概念の理解②保育・教育現場におけるエピソードからの読み取り③事例から支援について考える					
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
障害や発達、コミュニケーションにかかわる概念、制度等について調べる。事例やエピソードからの読み取り。[毎回ミニレポート課題を提示。30分～60分程度]				提出物に記された関心・疑問を次回以降の授業内容に反映させる。ミニレポート綴りを定期試験持ち込み資料とし最終評価に反映させる。			
受講生に望むこと	障害をもつ子どもやその家族の個人情報を扱う授業となる。授業で得た情報の取り扱いには十分に注意すること。			教科書・テキスト	適宜、資料を配布		
指定図書参考書等	なし/『DSM-5対応 最新 子どもの発達障害事典』原 仁編 合同出版株式会社 2014年 ISBN: 978-4-772-61065-0 『よくわかる発達障害 第2版 LD・ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群』小野・上野・藤田編 ミネルヴァ書房 2010年 ISBN: 978-4-623-05736-8			その他・特記事項	授業外課題であるミニレポート綴りが試験の持ち込み資料となるため、返却後の管理、欠席時の補充に留意のこと。		

授業科目名	ES200U 英語学概論 I			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要				授業の到達目標			
この講義は中学校教諭一種免許状(英語)の「教科に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。言語を学ぶとはどういうことか、英語ということばの輪郭と背景を身近なところから考え、ことばのもつさまざまな側面のうち、ことばの変化、音、語彙についての基礎を学ぶ。				英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語学についての基本的知識を身につける。			
教授方法	講義						
履修条件	①中学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション: 「英語学」を学ぶとはどういうことかを知る						
2	ことばの起源と語族について概観する						
3	人間のことばと言語研究の概要を学ぶ						
4	さまざまな言語研究の方法を知り、分析的観点で英語を捉える						
5	英語の発音とスペリングの仕組み、記述方法、法則性を理解する						
6	英語の語彙の多様性について理解する						
7	標準英語の成立について知る						
8	英語のバリエーション、世界の英語について知る						
9	第二言語としての英語、外国語としての英語について知る						
10	ことばの変化について概観する						
11	英語の歴史的変化を概観する						
12	ことばと音声の関係を理解する						
13	音の組み合わせとアクセントの仕組みや法則性を理解する						
14	単語ができるしくみを理解する						
15	形態論と形態素、語形成の概念を知り、理解を深める						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加度・理解度	30	質問をする、言語資料を示す等、講義内容に対して積極的に取り組んでいるか。開会、講義終了時に書いて提出するリフレクションの内容。			定期試験	70	講義内容の理解度
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> 日常的に英語学習を行い、さまざまな英語の実例に触れておくこと。 テキストの該当部分を予習する。同様の実例を収集しておく(50分)。 講義内容に照らし、日本語と対照してみる。また関連する英語学関係の書籍を読む(40分)。 				返却時に行う			
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に英語に触れ(聞く・話す・読む・書く)、英語に親しむ。 日頃から英語・日本語を問わず「ことば」に関心を持つと良い。 			教科書・テキスト	『はじめての英語学<改訂版>』 長谷川瑞徳編著 大井京子他著 2014年 研究社 ISBN: 978-4327401658		
指定図書参考書等	開講時に指示する			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ES300U 英語学概論Ⅱ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
この講義は中学校教諭一種免許状(英語)の「教科に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。 英語学概論Ⅰをふまえて、英語ということばの文、意味、まとめ、言語使用、社会との関係について学ぶ。			英語学概論Ⅰに引き続き、英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語学についての基本的知識を身につける。				
教授方法	講義						
履修条件	①中学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい、④「英語学概論Ⅰ」を履修していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	文の構造を理解する						
2	ことばの意味とはどういうことかを理解する						
3	語と語の関係について、学ぶ						
4	意味拡張とはどのようなことかを理解する						
5	ことばの意味に見られる主観性について、理解する						
6	ことばの意味とコンテキストについて考える						
7	まとまりのある文章とはどのようなものか、理解する						
8	文章中の情報構造を理解する						
9	ことばのやりとりにおけるルールがあることを理解し、使ってみる						
10	協調の原理と関連性理論とはどのようなものか理解する						
11	コミュニケーションの民俗誌を概観する						
12	英語と文化の関係について考える						
13	ことばと社会の関係について、具体例を挙げながら考える						
14	ことばと国家の関係について、具体例を挙げながら考える						
15	日本の英語教育と今日の英語について理解し、課題意識を持つ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業参加度・理解度	30	質問をする、言語資料を示す等、講義内容に対して積極的に取り組んでいるか。開会、講義終了時に書いて提出するリフレクションの内容。	定期試験	70	講義内容の理解度		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<ul style="list-style-type: none"> 日常的に英語学習を行い、さまざまな英語の実例に触れておくこと。 テキストの該当部分を予習する。同様の実例を収集しておく（50分）。 講義内容に照らし、日本語と対照してみる。また関連する英語学関係の書籍を読む（40分）。 			返却時に行う				
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に英語に触れ(聞く・話す・読む・書く)、英語に親しむ。 日頃から英語・日本語を問わず「ことば」に関心を持つと良い。 		教科書・テキスト	『はじめての英語学<改訂版>』 長谷川瑞徳編著 大井京子他著 2014年 研究社 ISBN: 978-4327401658			
指定図書参考書等	開講時に指示する		その他・特記事項	なし			

授業科目名	ES210U 英語音声学 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義は中学校教諭一種免許状(英語)の「教科に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。 音声言語としての英語の特徴を理解し、コミュニケーションに必要な英語音声の基礎を理論と実践で学ぶ。			英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語音声学についての基本的知識を身につける。			
教授方法	講義と演習					
履修条件	①中学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション: 「音声学」とは何かを概観する					
2	英語のリズムと日本語のリズムを比較しながら理解する					
3	調音器官とは何かを知り、体験的に理解する					
4	調音点とは何かを知り、体験的に理解する					
5	調音法とは何かを知り、体験的に理解する					
6	破裂音(1) /p/ /b/ とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
7	破裂音(2) /t/ /d/ /k/ /g/とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
8	摩擦音(1) /f/ /v/ /θ/ /ð/ とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
9	摩擦音(2) /s/ /z/ /ʃ/ /ʒ/ /h/とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
10	破裂音とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
11	鼻音とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
12	側音とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
13	接近音(1) /r/ とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
14	接近音(2) /j/ /w/とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
15	まとめ これまで学んだことを振り返り、コンテキストの中で英語らしい発音ができるようにまとまった英文を読む					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト	20	単元の理解度		録音音声実技	20	講義で学んだことが実際の英語発音として実現できているか
定期試験	60	講義内容の理解度				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
・テキスト該当箇所を予習してくる。その課に出てくる語句で未知語があれば、辞書で調べ、意味を理解しておく(40分)。 ・付属CDで何度も練習し、モデル音声に近づける努力をする。その際、最後にはテキストを見ないで、聞いた音声をシャドウイングできるようにする(50分)。				返却時に行う		
受講生に望むこと	・常日頃から英語に接し(聞く・話す・読む・書く)、英語力の維持・向上に努める。			教科書・テキスト	①『アメリカ英語の発音教本三訂版』 津田塾大学英文学科編 2012年 研究社 ISBN: 978-4-327-40161-0 ②他に必要な教材は適宜配布する	
指定図書参考書等	なし/『A Course in Phonetics 6版』 Peter Ladefoged, Keith Johnson著. 2010年. センゲージ ISBN: 978-1428231276			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ES310U 英語音声学Ⅱ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義は中学校教諭一種免許状(英語)の「教科に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。英語音声学Iに引き続き、コミュニケーションに必要な英語音声の基礎を理論と実践で学ぶ。			英語音声学Iに引き続き、英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語音声学についての基本的知識を身につける。			
教授方法	講義と演習					
履修条件	①中学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい、④「英語音声学」を履修していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	「英語音声学I」で学んだ子音、接近音の復習					
2	母音体系について学ぶ					
3	前母音とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
4	後母音とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
5	中母音とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
6	二重母音とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
7	語強勢と句強勢とは何かを知り、コンテキストの中で発音する					
8	シラブルとは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
9	機能語と内容語とは何かを知り、コンテキストの中で発音する					
10	強形と弱形とは何かを知り、コンテキストの中で発音する					
11	連結とは何かを知り、コンテキストの中で発音する					
12	脱落とは何かを知り、コンテキストの中で発音する					
13	同化とは何かを知り、コンテキストの中で発音する					
14	イントネーションとは何かを知り、コンテキストの中で発音する					
15	まとめ これまで学んだことを振り返り、コンテキストの中で英語らしい発音ができるようにまとまった英文を読む					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト	20	単元の理解度		録音音声実技	20	講義で学んだことが実際の英語発音として実現できているか
定期試験	60	講義内容の理解度				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
・テキスト該当箇所を予習してくる。その課に出てくる語句で未知語があれば、辞書で調べ、意味を理解しておく（40分）。 ・付属CDで何度も練習し、モデル音声に近づける努力をする。その際、最後にはテキストを見ないで、聞いた音声をシャドウイングできるようにする（50分）。				返却時に行う		
受講生に望むこと	・平日頃から英語に接し(聞く・話す・読む・書く)、英語力の維持・向上に努める。			教科書・テキスト	①『アメリカ英語の発音教本三訂版』 津田塾大学英文学科編 2012年 研究社 ISBN: 978-4-327-40161-0 ②他に必要な教材は適宜配布する	
指定図書参考書等	なし/『A Course in Phonetics 6版』 Peter Ladefoged, Keith Johnson著. 2010年. センゲージ ISBN: 978-1428231276			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ES220U 言語教育のための英文法 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>文法とはコミュニケーションを取るために、当該言語使用者間で共有されている言語の規則である。授業では、ねらいとする文法項目を特定の場面で情報を正しく理解・発信するためにどのように用いるべきか学ぶ。</p>			<p>英語科教員が英語指導で必要とされる文法事項を単なる知識ではなく自然な文脈の中で使用できることを目指す。(具体的にはCEFR B1~B2(実用英語技能検定2級~1級)程度の力をつけることを目標とする。)</p>			
教授方法	受講者の中学・高校での学習歴を確認しながら未習得な項目に焦点を当て、口頭作業を取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	現在形と単純現在形の文型と用いる場面・機能について学ぶ					
2	単純過去形、過去進行形、現在完了形の文型と用いる場面・機能について学ぶ					
3	現在完了形と過去形の文型と用いる場面・機能について学ぶ					
4	過去完了進行形、未来を表す現在時制について、文型と用いる場面・機能について学ぶ					
5	willとbe going toの相違点と共通点について学ぶ					
6	法助動詞とは何か can, could, be able to等、形式と機能・使用場面を学ぶ					
7	法助動詞 should; I suggest you do; would等が持つ機能(依頼・要求・許可等)を学ぶ					
8	理解確認・質疑応答後、理解度確認テスト					
9	ifとwish; 受動態の作り方と使い方を学ぶ					
10	間接話法、疑問文と繰り返しを避ける助動詞の使い方を学ぶ					
11	動名詞と不定詞の使い方を学ぶ					
12	動名詞(like/would likeなど)+ing と 動詞+to不定詞などを理解する					
13	動名詞(後ろにingを伴う様々な表現)などを理解する					
14	冠詞と名詞(可算名詞と不可算名詞)について学ぶ					
15	a, an, theの用法を学ぶ					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
毎回の小テスト	30	毎回の授業内容を理解できているか。		試験	50	基本的な英文法の知識を習得しているか。
授業参加状況	20	出席状況・受講態度				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>①毎回の授業内容に該当する、教科書の関連ページに目を通してから授業に望んで下さい。[30分]</p> <p>②授業後に練習問題を配付します。次回の授業開始時に提出して下さい。[50分]</p>				<p>小テストや試験の結果については、問題ごとにその出題の意図や定着度について授業中にコメントする。</p>		
受講生に望むこと	教科書の例文や、授業中に提示した例文は少なくとも5回は声に出して繰り返しましょう。最後は、英文を見ないでボソボソとでもよいので言ってみましょう。			教科書・テキスト	『マーフィのケンブリッジ英文法(中級編)』 Raymond Murphy著 ケンブリッジ大学出版 2010 ISBN-13: 978-4902290233	
指定図書参考書等	『中学校学習指導要領解説 外国語編』『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』文部科学省 東洋館出版社 2008 ISBN-13: 978-4491023779			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ES320U 言語教育のための英文法Ⅱ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
前期に引き続き、文法とはコミュニケーションを取るために、当該言語使用者間で共有されている言語の規則である。授業では、ねらいとする文法項目を特定の場面で情報を正しく理解・発信するためにどのように用いるべきか学ぶ。			前期に引き続き、英語科教員が英語指導が必要とされる文法事項を単なる知識ではなく自然な文脈の中で使用できることを目指す。(具体的にはCEFR B1～B2(実用英語技能検定2級～1級)程度の力をつけることを目標とする。			
教授方法	受講者の中学・高校での学習歴を確認しながら未習得な項目に焦点を当て、口頭作業を取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	冠詞と名詞 the のつく固有名詞、つかない固有名詞について学ぶ					
2	代名詞と限定詞(1) 再帰代名詞、a friend of mineなどについて学ぶ					
3	代名詞と限定詞(2) much, many, little, few, a lot, plentyなどについて学ぶ					
4	関係詞節 主格、目的格、所有格とは何か、どのように用いるか学ぶ					
5	形容詞と副詞(1) -ingや-edの語尾を持つ形容詞、形容詞と副詞(quick/quicklyなど)について学ぶ					
6	形容詞と副詞(2) enough, tooや 比較の文型・用い方について学ぶ					
7	形容詞と副詞(3) 最上級や副詞を用いた文型・用い方について学ぶ					
8	理解確認と理解確認テスト					
9	接続詞と前置詞(1) although, though, even though, inspite of などについて学ぶ					
10	接続詞と前置詞(2) like, as if, as though, for, during, whileなどについて学ぶ					
11	前置詞(1) at, on, in (時、場所を表す前置詞)について学ぶ					
12	前置詞(2) その他の用法、reason forなど前置詞とよく結びつく名詞について学ぶ					
13	前置詞(3) 動詞+toとat、動詞+about/for/of/afterについて学ぶ					
14	句動詞(1) 句動詞とは何か、どのような意味を持つか学ぶ					
15	句動詞(2) in, out, on, off, up, down, away, back等を用いた句動詞について学ぶ					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
毎回の小テスト	30	毎回の授業内容を理解できているか。		試験	50	基本的な英文法の知識を習得しているか。
授業参加状況	20	出席状況・受講態度				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①毎回の授業内容に該当する、教科書の関連ページに目を通してから授業に望んで下さい。[30分] ②授業後に練習問題を配付します。次回の授業開始時に提出して下さい。[50分]				小テストや試験の結果については、問題ごとにその出題の意図や定着度について授業中にコメントする。		
受講生に望むこと	教科書の例文や、授業中に提示した例文は少なくとも5回は声に出して繰り返しましょう。最後は、英文を見ないでボソボソとでもよいので言ってみましょう。			教科書・テキスト	『マーフィのケンブリッジ英文法(中級編)』 Raymond Murphy著 ケンブリッジ大学出版 2010 ISBN-13: 978-4902290233	
指定図書参考書等	『中学校学習指導要領解説 外国語編』『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』文部科学省 東洋館出版社 2008 ISBN-13: 978-4491023779			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EL100U コミュニケーション・イングリッシュ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	朝倉 秀之						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>コミュニケーション・イングリッシュは、どのように効果的に英語で伝達するかを学ぶ科目である。文化的背景の異なる人々が交流し合う機会が多くなるに従って、相手の立場を理解し、自分の立場を説明するコミュニケーション能力が要求される。情報の伝達、連絡、通信の意味だけではなく、意思の疎通、心の通い合いという意味でも使われるコミュニケーションをpresentationの技法を使って学んでゆく。4つの側面 (①physical aspects ②oral aspects ③visual aspects ④organization aspect)に分けて学習していくのがこの授業の概要である。</p>			<p>1. 4つの側面に含まれているものを表現できる。2. 情報伝達型プレゼンと説得型プレゼンの違いを表現できる。3. 導入部、本題部、結論部を箇条書きに表現できる。4. すべてを英語で表現できる。</p>				
教授方法	演習 (ペア、グループワーク、プレゼンテーション)						
履修条件	英語を学びたいという強い意志があること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	CASEC Test						
2	Physical Aspects 1. In groups, stand up and explain one of the topics using only gestures. Do not speak! 2. In groups, stand up and explain the same topic chosen using only English and gesture.						
3	Oral Aspects How to read the sentences aloud with appropriate stresses according to the occasion requested.						
4	Visual Aspects (1) Let's Choose the Media!						
5	Vidual Aspects (2) Let's Process Data!						
6	Vidual Aspects (3) Let's Design Visual Aids!						
7	Organizational Aspects (1) Learn Presentation Formats!						
8	Organizational Aspects (2) Learn Presentation Structure!						
9	Presentation Performance (1) Make a Demonstration Speech!						
10	Presentation Performance (2) Make a Demonstration Speech!						
11	Integrated Presentation (1) Summarize a Text!						
12	Integrated Presentation (2) Research and Deliver a Presentation!						
13	How to Collect Materials and Plagiarism and Citation						
14	CASEC Test						
15	Presentation Performance (3) Make a Demonstration Speec						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト・発表等	30	①語彙や文法が定着しているか②内容を理解しているか③表現が身についているか④新しい言葉の運用ができているか		単元テスト	30	内容を理解し、表現発表が出来るか	
提出物	20	①課題を適切に提出しているか		CASEC Test	20	レベルで評価	
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
①授業での資料は、メソフィアを通じて授業前日までに配付するので必ず読んでおくこと。[30分] ②毎回の資料の他に小テストがある場合には完成さ、授業の時に提出すること。[50分]				①課題の解答に対してコメントをつけて返却します。②発表している姿を録画して評価する。			
受講生に望むこと	意欲を持って授業に臨むこと。			教科書・テキスト	『Powere Presentation』 JACET Group, Sanshusha, ISBN978-4-384-3352-7		
指定図書参考書等	授業の中で知らせる。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EL110U プラクティカル・イングリッシュ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	朝倉 秀之					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>プラクティカル・イングリッシュは、実践に役立つ英語を学ぶ科目である。地図を教材として、英語を使って、世界の事情を学び、考え、話し合うのを目的としている。</p>			<p>1. 地図を通して世界の地理や歴史を英語で理解する。2. 様々な地域の事情について英語で話し合う。3. ペアでグループで自律して学ぶ力を培う。</p>			
教授方法	演習（ペア、グループワーク、プレゼンテーション）					
履修条件	英語を学びたいという強い意志があること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Introduction: Glossary and Geography words and CASEC Test					
2	Area 1: Europe ①The Mediterranean ②The Danube River ③The Matterhorn ④The Atlantic Ocean					
3	Area 2: Africa ①The Sahara Desert ②The Nile River ③The Mediterranean Sea ④The Red Sea ⑤Mount Kilimanjaro					
4	Area 3: The Middle East ①The Arabian ②The Sinai Peninsula ③The Persian Gulf ④The Strait of Hormuz ⑤the Golan Heights ⑥The Red Sea					
5	Area 4: South Asia ①The Indian Ocean ②Mt. Everest/Mt. Chomolungma ③The Ganges (river) ④The Indus (river) ⑤Kashmir					
6	Area 5: Russia and Its Neighboring Countries ①The Caspian Sea ②The Black Sea ③The Kamchatka Peninsula ④Siberia					
7	Listening Test					
8	Area 6: East Asia ①Beijing ②Shanghai ③Chengdu ④Tibet/Xizang ⑤Chang Jiang ⑥Yellow River/Huang He ⑦Xin Jiang					
9	Area 7: Southeast Asia ①The Malacca Strait ②The Island of Borneo ③Bali ④pattaya ⑤ayutthaya ⑥Chiang Mai					
10	Area 8: North America ①Ottawa ②New York ③Los Angeles ④Toronto ⑤Washington, D.C. ⑥Mexico City ⑦San Francisco					
11	Area 9: Central America and the Caribbean ①The Gulf of Mexico ②The Panama Canal ③The Caribbean Sea ④The Cayman Islands ⑤The ABC islands (Aruba, Bonaire, and Curacao)					
12	Area 10: South Ameica ①The Amazon rainforest ②The Amazon River ③The Andes ④Patagonia ⑤Mount Aconcagua					
13	Area 11: The South Pacific and the Antarctic ①Fiji ②The Cook Islands ③The Solomon Islands ④Tonga ⑤Tuvalu ⑥Samoa ⑦The Marshall Islands					
14	Area 12: Australia and New Zealand ①Darwin ②Auckland ③Perth ④Canberra ⑤Sydney ⑥Christchurch ⑦Aoraki (Mt. Cook)					
15	CASEC Test					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	30	小テスト、発表内容		単元テスト	30	実際にどのように説明できるか
提出物	20	課題を適切に提出しているか		CASEC Test	20	レベルで評価
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①授業での資料は、メソフィアを通じて授業前日までに配付するので必ず読んでおくこと。[30分] ②毎回の資料の他に小テストがある場合には完成さ、授業の時に提出すること。[50分]</p>				<p>①課題の解答に対してコメントをつけて返却します。 ②発表している姿を録画して評価する。</p>		
受講生に望むこと	意欲を持って授業に臨むこと。			教科書・テキスト	CLIL Seeing the World through Maps 三修社ISBN978-4-384-33447	
指定図書参考書等	授業の中で知らせる。			その他・特記事項	コミュニケーション・イングリッシュを履修していること。	

授業科目名	EE200U 社会		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>自分が学習者として受けてきた社会科の授業を振り返ることに始まり、小学校社会科についての基礎的な知識と認識を身につける。 「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質を養う」とは、具体的にどうということかについて、知識と理解を深める。</p>			<p>①小学校における社会科教育の目標と内容を理解している。 ②子どもたちが教科内容を理解、習得する授業のあり方を自ら授業づくりやグループ協議に参加することを通し、理解している。 ③社会科授業をつくっていく上で必要な事柄を自分の言葉でまとめることができる。</p>				
教授方法	講義・演習、グループ協議						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	社会科って何だろう？：「学びの履歴」の振り返りから、小学校社会科の内容と課題について理解する。						
3	社会系教科の成立と歴史の変遷について理解する。						
4	社会科と生活科・総合的な学習等との関連について理解する。						
5	社会科を取り巻く現代の諸課題について理解する。						
6	小学校社会科の授業構成と展開例 3学年①「地域の生産や販売に携わっている人々」から						
7	小学校社会科の授業構成と展開例 3学年②「古くから続くくらし（道具・年中行事・先人）」から						
8	小学校社会科の授業構成と展開例 4学年①「地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動」から						
9	小学校社会科の授業構成と展開例 4学年②「地域の人々の安全を守るための諸活動」から						
10	小学校社会科の授業構成と展開例 5学年①「我が国の国土の様子と国民生活」から						
11	小学校社会科の授業構成と展開例 5学年②「我が国の食料生産・工業・情報産業などの様子と国民生活」から						
12	小学校社会科の授業構成と展開例 6学年①「我が国の歴史上の主な事象」から						
13	小学校社会科の授業構成と展開例 6学年②「我が国の政治の働き、憲法の考え方、国際社会における役割」から						
14	社会科における子どもの内面理解のあり方について理解する。						
15	まとめ：「子どもが主体的に学ぶ社会科学習の創造」について話し合う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート1 (中間)	30	講義1～5までの授業から、社会科授業をつくっていく上で必要な事柄をまとめることができる。		レポート2 (最終)	30	講義全体を通し、社会科授業をつくっていく上で必要な事柄をまとめることができる。	
協議への参加	20	担当教員による模擬授業やグループディスカッションに積極的に参加している。		講義ごとの 対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
現場における社会科の実践（研究授業、実践記録）から、積極的に学んでほしい。 【60分】				対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。 レポートは、2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。			
受講生に望むこと	普段から社会の動向や時事問題、歴史等の社会事象に関心をもち、問題意識をもって学ぶ姿勢を大切にほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説社会科編』文科省、東洋館出版社、2008年、978-4-491-02372-4		
指定図書参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC100U 日本国憲法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	今井 竜也						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
憲法、および人権の基本原則を理解し、人権の中でも特に自由権と呼ばれる権利の性質について、並びに国会、内閣、裁判所という統治機構の仕組みについて、学説や判例等を交えながら解説する。			憲法で保障されている基本的人権が、いかなる理論を基礎として形作られているのか、それが私たちの社会生活といかに関係しているのか、統治機構が国民の人権を保障するためにどのような働きをしているのかを知ることで、憲法に対する理解と見識を深めるとともに、「国のかたち」を示す憲法の重要性を理解し、私たちの国や社会がどうあるべきかについて改めて考えなおすきっかけを提供する。				
教授方法	レジュメ、資料集を配布し、講義形式で行う。重要な論点については適宜板書を交えて説明するので、各自、必要に応じ板書を取る。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	憲法とは何か — 「憲法」のおおまかなイメージをつかむ (イントロダクション、憲法を学ぶことの意義、憲法概念の意味、規範としての特質と分類)						
2	人権の設計図① — 人権の概念と種類 (人権を生み出した自然権という概念とはどのようなものであり、人権はその性質にあわせてどのような分類が出来るのかについて学ぶ)						
3	人権の設計図② — 人権の主体と範囲 (人権とはどのような人がそれを享有し、行使することが出来、その効力はどの範囲にまで及ぶものなのかについて学ぶ)						
4	法の下での平等① — 「平等」の持つ意味 (憲法上の権利と平等とはどのような関係性を持つのか、現代社会における平等のあり方を正義の実現という観点から学ぶ)						
5	法の下での平等② — 平等原則と差別の禁止 (憲法14条に規定されている法の下での平等の意味について、家族、教育に関する事件の判例から法の下での平等が何を要求しているのかを学ぶ)						
6	精神的自由権① — 思想・良心の自由 (人間の精神活動の中で最も基本的・かつ絶対的なものとして位置づけられる思想・良心の自由の内容について学ぶ)						
7	精神的自由権② — 信教の自由、学問の自由 (近代自由主義の礎として意味づけられる信教の自由、真理探求という営みにおける学問の自由のあり方について学ぶ)						
8	経済的自由権① — 職業選択の自由、居住・移転の自由 (特権から人権となった経済活動の自由を保障するものとしての職業選択、居住・移転の自由について学ぶ)						
9	経済的自由権② — 財産権の保障 (自由権から社会権への流れとともに変容する財産権の性質と保障のあり方について学ぶ)						
10	人身の自由① — 奴隷的拘束および苦役からの自由、適性手続の保障 (権力者による恣意的な処罰、身体に対する不当な拘束、威嚇に対抗する権利としての人身の自由について学ぶ)						
11	人身の自由② — 被疑者の権利と被告人の権利 (不当な逮捕、抑留や拘留に対抗する権利、公正で迅速な公開裁判を受ける権利という、被疑者、被告人が有する権利の内容について学ぶ)						
12	国会 — 立法を司る機関の仕組み (国民の代表で構成され、法律を制定する権限である立法権を有する統治機構である国会の地位、権能、活動について学ぶ)						
13	内閣 — 行政を司る機関の仕組み (国家における行政を担い、国政の中心的役割を果たす内閣の組織と権限、立法府である国会との関係、行政の意義について学ぶ)						
14	裁判所① — 司法権の意味と司法権の独立 (裁判所が有する司法権の概念、裁判所の組織構成と権能、および司法権の独立がどのような意義や内容を有しているのかについて学ぶ)						
15	裁判所② — 違憲審査制、国民の司法参加と裁判員制度 (憲法81条に規定されている違憲審査制の法的性質とその対象、方法と効力、ならびに国民の司法参加を目的として創設された裁判員制度について学ぶ)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
筆記試験	80	授業内容の基本的な理解と、身につけた知識を応用する能力を見る。筆記試験の詳細については、授業内で指示する。		出席状況および授業アンケート記載内容	20	毎時間、出欠状況と授業の理解度確認のため行う授業アンケートに記載されている内容(授業内容についての意見、感想、質問等)で評価する。	
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
・ 予習は余力のある場合のみで良いので、とくに復習に力を入れること。その週の授業内容については、理解の不十分な箇所については各自、参考書なども参照しながらレジュメや板書を読み返しておくこと。[30分] ・ 憲法改正議論など、今後、社会においてタイムリーな話題として憲法問題が扱われることが多くなると思われるので、可能な限り新聞やテレビのニュース等に目を通して、社会で起きている出来事についても、アンテナを張りめぐらせること。[30分]			毎時間行う授業アンケートに記載されている疑問、質問等の内容から、特に補足が必要と思われるトピックスについては、次週の冒頭において適宜、復習を行います。				
受講生に望むこと	一見すると、日常生活からは遠い存在のように見える憲法は、実は私たちの社会生活と密接な関わりを持っています。特に、憲法改正が現実味を帯びてきている昨今、私達1人1人も、国や社会のあり方について、相応の見識を持つことが必要になります。授業を通じ、憲法を始めとする法の役割を知るだけでなく、広く社会に対し興味関心をもって欲しいと思います。		教科書・テキスト	使用しない			
指定図書参考書等	なし/特に指定はしないが、予習復習のため、初学者用の日本国憲法概説書(2000年前後で、出版年の新しいもの)を各自一冊、手元に用意しておくことが望ましい。最近出たものとして、『教職教養憲法15話 改訂2版』加藤一彦著 北樹出版 2014年、定評のある入門書として『憲法1 人権 第5版』渋谷秀樹・赤坂正浩著 有斐閣アルマ 2013年を紹介しておく。		その他・特記事項	各週の授業内容については、出席と授業内容の理解度確認のために毎時間行う授業アンケートを元に、次回の授業冒頭で補足を加える。受講者の疑問や質問、意見、感想などはなるべく全体で共有し、各自の授業内容理解に役立てたいと考えています。			

授業科目名	EC210U 生活		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
講義および体験的な活動を通し、生活科の特性・目標・内容等についての基礎的な理解と認識を身に付ける。 また、幼児教育から連なる環境を通した学び、子どもの文脈に沿った学びの重要性について理解を深め、豊かな生活科の授業づくりをするうえで必要な感覚と技能を養う。			①幼児～初期学童期の子どものもとで、生活・環境が大きな学びの可能性をもっていることを理解する。 ②生活科の特性・目標・内容等について理解する。 ③体験と振り返りを通し、子どもが夢中になれる材や学習環境、支援の在り方について、実感をもって理解する。				
教授方法	講義・演習、グループ協議						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	生活科って何だろう？：「学びの履歴」の振り返りから、生活科の意義と特色について理解する。						
3	生活科における学びとは：子どもの文脈と遊び・暮らしについて理解する。						
4	体験編「秋の野山へ出かけよう」①：秋見つけから広がる学びの可能性を考えよう。						
5	体験編「秋の野山へ出かけよう」②：繰り返し活動することの意義を考えよう。						
6	体験編「秋の野山へ出かけよう」③：秋の素材を使っておもちゃ作りをしよう。						
7	体験編「秋の野山へ出かけよう」④：秋の素材を使ったおもちゃで交流しよう。						
8	生活科の実践から①：スタートカリキュラムと幼保小連携の実践例						
9	生活科の実践から②：学校生活に関する実践例						
10	生活科の実践から③：地域生活に関する実践例						
11	生活科の実践から④：飼育・栽培・いのちに関する実践例						
12	生活科の実践から⑤：自分の成長に関する実践例						
13	体験編「自分物語を創ろう」①：自分自身を見つめ、物語を作ろう。						
14	体験編「自分物語を創ろう」②：互いの物語から学ぼう。						
15	まとめ：講義全体を振り返り、まとめをする。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
おもちゃ作り	20	秋の素材を利用して、創意工夫のあるおもちゃを作ることができる。	自分物語	30	自分の幼少期を振り返り、物語に簡潔に表すことができる。		
レポート	30	講義の内容を理解し、簡潔にまとめることができる。	講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①祖父母から衣食住の暮らしの知恵を学んだり、子どもの遊びやおもちゃ作り等について書籍で学んだりする。【20分】 ②多様な絵本を読み、子どもの世界に対する理解を深める。【20分】 ③三小牛周辺の四季折々の動植物への興味関心を豊かにする。【20分】			対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。 おもちゃ、自分物語については、講義の中で学生同士の交流の中での相互評価も加味する。 レポートは、2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。				
受講生に望むこと	生活科は、子ども自身の思いや願いを大切に学習である。子ども文化を含め、身の回りの様々な事象に興味関心をもち、好奇心を豊かにしてほしい。		教科書・テキスト	『小学校学習指導要領生活科』文部科学省、日本文教出版、2008年、978-4-536-59002-0			
指定図書参考書等	授業の中で適宜紹介する。		その他・特記事項	なし			

授業科目名	EC215U 図画工作		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	鷲山 靖						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>1. カリキュラムにおける位置付け</p> <p>①この科目は資格取得に必要な科目である。</p> <p>②この科目は「図画工作科教育法」に接続する科目である。</p> <p>③この科目は保育内容の表現に関する科目と関連がある。</p> <p>2. 授業のねらい</p> <p>①造形作品の制作に必要な基礎知識を習得する。</p> <p>②造形作品の制作に必要な基礎技能を習得する。</p> <p>3. 授業の進め方</p> <p>①テーマごとに講義・作品制作・評価・鑑賞・ノート作成をおこなう。</p> <p>②期末に基礎知識・技能に関する試験をおこなう。</p>			<p>①基本的な画材・素材・工具の特性を理解している。</p> <p>②基本的な画材・素材・工具を用いた基礎的な造形技法を習熟している。</p> <p>③自分の感覚や活動を通して、造形要素を捉えることができる。</p> <p>④造形要素を基に、自分のイメージをもつことができる。</p> <p>⑤図画工作科における造形作品の評価規準・評価基準を理解している。</p>				
教授方法	講義後、作品制作・評価・鑑賞による演習をおこない、期末の試験により基礎知識・技能を確認する。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の計画、到達目標、成績評価の方法、事前・事後学習を理解する。 えがいて遊ぶ活動_えがいて遊ぶ活動を通じて、描く楽しみ・面白さの原点を探る。						
2	つくって遊ぶ活動_つくって遊ぶ活動を通じて、つくる楽しみ・面白さの原点を探る。						
3	絵に表す活動A_オイルパステルの基本知識を学ぶとともにその基礎的技法を習得する。						
4	絵に表す活動B_絵の具の基礎知識を学ぶとともにその基礎的技法を習得する。						
5	絵に表す活動C_発想の能力を育成する紙版フロッターージュの基礎的技法を習得する。						
6	絵に表す活動D-1_発想の能力を育成する組合せ消しゴムはんこの基礎的技法を習得するとともに、制作作品の相互評価を楽しむ。						
7	絵に表す活動D-2_発想の能力を育成する組合せ消しゴムはんこの基礎的技法を習得するとともに、制作作品の相互評価を楽しむ。						
8	絵・工作に表す活動A-1_発想の能力を育成する造形作品の制作を通じて、基礎的な造形技法を習得する。						
9	絵・工作に表す活動A-2_発想の能力を育成する造形作品の制作を通じて、基礎的な造形技法を習得する。						
10	立体・工作に表す活動A-1_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。						
11	立体・工作に表す活動A-2_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。						
12	立体・工作に表す活動A-3_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。						
13	立体・工作に表す活動B-1_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。レベル1作品制作						
14	立体・工作に表す活動B-2_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。レベル2作品制作						
15	立体・工作に表す活動B-3_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。レベル3作品制作						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講姿勢	30	①指定ノートへの講義記録、作品制作、スケッチ、クロッキー、お絵かきをおこなっている。②美術室の清掃・整備に取り組んでいる。③授業に集中している。		作品制作	30	①課題作品を完成させ、指定ノートに作品もしくは作品画像を記録している。 ②課題作品は作品条件を満たしている。	
期末試験	40	制作作品を事前に通知・説明する機能（性能）レベルによって試験をおこない評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①毎回、授業開始前に指定ノートブックにスケッチ、クロッキー、お絵かきを描く。[10分] ②指定ノートブックに授業内容の他、授業外の学習内容をノートし、自分専用の図画工作ノートブックを作成する。[30分]				①作品条件にもとづく評価を作品制作中におこなう。 ②期末試験時間の前半に作品の可否判定をおこない、試験時間の後半において不合格者に対して試験合格者・担当教員が合格にむけた作品改良の支援・指導をおこなう。			
受講生に望むこと	①身の回りの物事を「造形要素を意識して」捉えてみましょう。 ②身の回りの全ての物事に必ずある「何らかの美しさ」を発見することを楽しみましょう。			教科書・テキスト	「トラベラーズノートリフィル無罪」ミドリ		
指定図書参考書等	なし/授業時に随時紹介する			その他・特記事項	作品の材料費を別途、集金する場合があります。		

授業科目名	EC090U 器楽入門		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	自由	
担当教員名	多保田 治江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>保育・教育現場では、「子どもたちと音楽活動をするために」、また「子どもたちの表現力の成長をサポートするために」身に付けておきたい多くの事柄がある。この科目は、旋律楽器（ピアノ）入門のための科目である。授業は、グループレッスンで行う。ピアノ演奏のための基礎知識を習得することをねらいとし、課題プリントやピアノ作品を通して学ぶ。</p>			<p>①ピアノ演奏のための基礎知識を習得することによって、読譜することができる。 ②両手で弾けるようになる。 ③発表をする機会を持つことによって、演奏のための準備について考えることができる。</p>				
教授方法	実技指導						
履修条件	ピアノ初心者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価方法を理解する。 ピアノを弾く前に						
2	リズムのトレーニング 音符と休符						
3	指のトレーニングⅠ：エチュード1～3						
4	指のトレーニングⅡ：エチュード4～5						
5	ピアノ作品Ⅰ：「かえるの合唱」						
6	ピアノ作品Ⅱ：「ちょうちょう」						
7	ピアノ作品Ⅲ：「ロンドン橋」						
8	ピアノ作品Ⅳ：「バイエル19番」						
9	ピアノ作品Ⅴ：「フレール・ジャック」						
10	ピアノ作品Ⅵ：「バイエル46番」						
11	音階：ハ長調・ト長調						
12	ピアノ作品Ⅶ：「みつばちのマーチ」						
13	ピアノ作品Ⅷ：「バイエル48番」						
14	ピアノ作品Ⅸ：「バイエル55番」						
15	発表						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	70	受講態度、課題への取り組み。		発表	30	発表への取り組み姿勢・内容	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
毎回の授業で出される課題を演奏できるように練習して下さい。[90分]				課題は、次回に個人指導します。			
受講生に望むこと	毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。			教科書・テキスト	プリント 『BEYER 標準版バイエル・ピアノ教則本』ドレミ楽譜出版社 2007年 ISBN978-4-285-11543-7		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC110U 器楽 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	多保田 治江・加藤 雅子・種池 有美子・土屋 尚子・南部 順子・福田 真紀 (代表教員 多保田 治江)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>保育・教育現場で必要とされる音楽表現の中で、旋律楽器（ピアノ）を中心に演奏の基礎知識や技能を学ぶ。授業は、グループレッスンと個人レッスンを並行して行う。グループレッスンではピアノ演奏のための基礎知識を習得することをねらいとし、課題プリントを通して学ぶ。個人レッスンではピアノ演奏に関して個々の技能の向上を目指すことをねらいとし、各自に応じたピアノ作品、リズム曲集、子どものうたをテキストとして学ぶ。様々な音楽に触れ、演奏のための豊かな表現力を養う。</p>			<p>①ピアノ演奏のための基礎知識を習得することによって、読譜することができる。 ②様々な音楽に触れて、演奏のための表現力を豊かにすることができる。 ③コードネームを見て伴奏づけをすることができる。 ④発表をする機会を持つことによって、演奏のための準備について考えることができる。</p>				
教授方法	実技指導						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価の方法を理解する。 音楽調査を行う。					多保田	
2	演奏の基礎知識 (1) 音名 (楽譜の読み方について理解する。)					多保田	
3	グループレッスン：演奏の基礎知識 (2) 音階 (子どものための音楽で最も多く使用される長音階について理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 I リズム曲 I 子どものうた I					各担当教員	
4	グループレッスン：コードネーム I (C・Gを用いた楽曲の伴奏方法を理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 II リズム曲 II 子どものうた II					各担当教員	
5	グループレッスン：コードネーム II (C・G ₇ を用いた楽曲の伴奏方法を理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 III リズム曲 III 子どものうた III					各担当教員	
6	グループレッスン：コードネーム III (C・G ₇ を用いた楽曲の伴奏パターンを理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 IV リズム曲 IV 子どものうた IV					各担当教員	
7	グループレッスン：コードネーム IV (C・G ₇ を用いた楽曲の伴奏パターンを理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 V リズム曲 V 子どものうた V					各担当教員	
8	発表 I					全員	
9	グループレッスン：コードネーム V (C・F・G ₇ を用いた楽曲の伴奏パターンを理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 VI リズム曲 VI 子どものうた VI					各担当教員	
10	グループレッスン：キーボードを用いたアンサンブル 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 VII リズム曲 VII 子どものうた VII					各担当教員	
11	グループレッスン：リズム曲「走る」の演奏方法 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 VIII リズム曲 VIII 子どものうた VIII					各担当教員	
12	グループレッスン：リズム曲「ジャンプ」の演奏方法 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 IX リズム曲 IX 子どものうた IX					各担当教員	
13	グループレッスン：リズム曲「スキップ」の演奏方法 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 X リズム曲 X 子どものうた X					各担当教員	
14	発表 II					全員	
15	グループレッスン：伴奏のアレンジ方法 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 XI リズム曲 XI 子どものうた XI					各担当教員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	40	受講態度、課題への取り組み。(「受講生に望むこと」欄を参照)		発表 I	30	発表への取り組み姿勢・内容	
発表 II	30	発表への取り組み姿勢・内容					
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
<p>①グループレッスンでは、毎回の授業で出される課題を演奏できるように毎日練習して下さい。[30分] ②個人レッスンでは、各自に応じたピアノ作品、リズム曲、子どものうたの弾き歌いを毎日練習して下さい。[60分] ③個人レッスンの履修曲数は、各自に応じたピアノ作品 (グレード1-3曲・グレード2-3曲・グレード3-2曲)、リズム曲 (5曲)、子どものうたの弾き歌い (7曲) をベースとするので、プランを立てて授業の準備をして下さい。</p>				課題は、次回に個人指導します。			
受講生に望むこと	<p>①毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②単にピアノを練習するだけではなく、ピアノ作品をCDなどで聞いてみることや楽語で分からない用語や記号は調べて下さい。</p>			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』東京書籍 2014年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『RHYTHMS for CHILDREN』北陸学院大学編集 2015年 / バロックから現代までのピアノ作品 / プリント		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC260U 保育内容・環境 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	向出 圭吾						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>一口に「環境」と行っても、それは広範囲に存在するものです。その中でも身近に存在する直接的環境は、幼児期の子どもの育ちに強い影響を与えます。</p> <p>この授業では、子どもの育ちに重要な身近な環境について共に考え、また実際にそれにかかわる過程の中で、学生自身が試行錯誤を繰り返しながら「生きる力の基礎を培う」という観点での領域「環境」について自分なりの考えを身につけることを目指します。</p>			<p>①幼児教育の基本的な考え方、5領域を理解している。</p> <p>②子どもの育ちに身近な環境がどう影響しているかについて考察できる洞察力を習得する。</p> <p>③個人、またはグループで遊びのプランを作成するための教材研究ができるようになる。</p> <p>④グループディスカッションを通して、様々な事例をいろいろな観点から読み取る力、他者に伝える力、他者の気づきを自分にフィードバックさせる力を身につける。</p> <p>⑤生きる力を基礎としての領域「環境」について、自分なりの考えをもつことができるようになる。</p>				
教授方法	講義・演習・グループディスカッション・発表						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	幼児教育の基本（1）：幼児教育の基本的な考え方について考えます。						
2	幼児教育の基本（2）：幼児教育の5つの領域について考えます。						
3	子どもの育ちと領域「環境」：幼児期の発達の観点から、子どもと環境とのかかわりについて考えます。						
4	子どもにとっての身近な環境とは（1）：子どもがかかわるであろう身近な環境について話し合い、それが育ちにどのような影響を与えているのかを考えます。						
5	子どもにとっての身近な環境とは（2）：事例を通して、身近な環境と子どもの育ちとの因果関係を様々な観点から考察していきます。（個人）						
6	子どもにとっての身近な環境とは（3）：事例を通して、身近な環境と子どもの育ちとの因果関係を様々な観点から考察していきます。（グループ）						
7	自然に親しみ、植物や生き物に触れる：事例を通して、命あるもののかかわりにおける子どもの育ちを考えます。						
8	身近な自然にかかわる実践（1）：三小牛の自然を散策し、実際の身近な環境について考えます。						
9	身近な自然にかかわる実践（2）：自分なりに「自然マップ」を作成し、自分らしい遊びのプランを考えます。						
10	身近な自然にかかわる実践（3）：各自考えた遊びのプランを発表し、他者からの助言を自分の学びとします。						
11	文字・標識・数量・図形への関心：事例を通して文字・標識・数量・図形への興味と認識について考えます。						
12	もの作りにかかわる実践（1）：水遊びをテーマにした教材で遊びにプランを考えます。						
13	もの作りにかかわる実践（2）：考えた遊びのプランで模擬保育をします。						
14	子どもと環境のかかわりを捉える視点：ここで改めて身近な環境について考えます。そして子どもの育ちとのかかわりを捉えるポイントを整理し、グループディスカッションの中で、他者の意見を踏まえながら自分の考えを明確にしていきます。						
15	「生きる力の基礎を培う」という観点での領域「環境」：これまでの実践や事例の考察を踏まえて、それぞれが考える生きる力の基礎としての「環境」について発表という形で自分なりの考えをわかりやすく他者に伝えることができる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	20	各回のテーマに対して様々な観点から取り組む積極的な態度		課題への取り組み	40	課題の提出状況と内容	
筆記試験	40	この授業を通して「保育内容・環境 I」に関して、どれだけ自分の学びになり、理解したかを確認する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>①各回の授業の最後に、その授業での学習到達度を確認するための課題を与えますので、各自取り組んでください。</p> <p>②実践の授業では、遊びのプランの作成に必要な素材や使った教材作りを事前学習とします。</p> <p>③各回のテーマに沿った教科書『事例で学ぶ保育内容・環境』の該当箇所を読んで自分なりに理解しておいてください。</p>			<p>①この授業は、前回の課題等を使用して、前回の確認を行います。</p> <p>②常に前回の学習の上に成り立つ授業であるから、その都度フィードバックを行い、自分にフィードバックさせる力を身につけます。</p> <p>③遊びのプランを見直し、修正、改善するなど、学習が一過性に終わらないようにする。</p>				
受講生に望むこと	自分たちがこれまでもっていた幼児期の遊びに対する概念を一度リセットして、一つの遊びの事象にも様々な見方、考え方があるということを意識しながら授業に臨んでください。		教科書・テキスト	『事例で学ぶ保育内容 環境』無藤隆監修 福元真由美 編者代表 萌文書林 2007年 ISBN978-4-89347-098-0			
指定図書参考書等	なし／『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008年 ISBN978-4-577-81245-7		その他・特記事項	なし			

授業科目名	EN150U 保育原理		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	大井 佳子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>保育」については、知っているつもりになりやすい。自身が経験しているからである。しかし、今という時代に日本の社会が求める「保育」は、世間でイメージされているものとはかなり違っている。専門職を担うだけの「保育を見る目」を錬磨していくのが本学科の学びであるが、そのスタートをきるのが本科目となる。保育所が支援の対象とするのは自園の子どもだけでなく地域の子育て家庭すべてであること、小学校以降とは異なる幼児期の学びの組み立て方・遊びのとらえ方があることなどを知り、幼児一元化や幼小接続などの今日的な話題についても検討しながら、保育という営みの全体像に迫る。</p>			<p>①保育所保育の目的を理解している。 ②「環境を構成することによって」「生活や遊びを通して総合的に」という幼児期の学びの援助の方法を理解できている。 ③子どもの発達を「心情・意欲・態度」で、子どもの学びを「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域で見ることを知っている。 ④保育をめぐる今日的課題とその背景について理解している。</p>				
教授方法	講義・体験（遊び・製作・パフォーマンス）・ワーク（個人・グループ）・発表（展示を含む）・討議						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：実際に遊んでみて自身の心の動きを知り、周りの人たちの動きを見て、「遊びを通じて学ぶ」という学び方について理解する。自身の体験から持っている小学校以降の学び方のイメージから離れる。						
2	「遊びを通して学ぶ」「環境の構成によって指導する」という保育における指導のとらえ方を知る。						
3	保育の歴史と現状を概観し、保育所が「***園」という名称を用いることの意味を考える。「園」に込められた願いと、子ども観・保育観を理解する。						
4	保育所保育指針を開いてみよう。養護と教育が一体として展開するという意味を考える。						
5	Enjoy! ミッションの子どもの遊びの姿から、子どもが主体的であるためには、環境の構成と指導計画があることを理解する。						
6	心情・意欲・態度という保育における発達の見方を知る。保育者には、子どもの姿からその心の動きをとらえ、子どもに育ちつつあるものを読み取る力が求められることを知る。						
7	保育所保育指針の「発達の過程」に基づいて、乳幼児の発達の姿を概観し、「・・・できるようになる」ことが発達ではなく、「・・・できるようにさせる」ことが指導ではないことを理解する。						
8	子どものモノとかかわる力、人とかかわる力がどのように発揮され、発達の過程を開いていくのかを知る。発達の最近接領域というとらえ方を知る。						
9	近年の乳幼児の生活、育ちの環境を見てみよう。子どもを育む環境の豊かさについて考える。とについて考える。						
10	「子育て支援」という保育所に求められる機能と、その背景を知る。						
11	親子や家族とは異なる、園における人間関係について考える。保育者の役割と子ども集団の役割について考える。						
12	遊びによって提供される5領域での学びについて知る。						
13	遊びがもたらす自己肯定感から、安心・安全・安定と遊びの関係について考える。						
14	遊具・オモチャの意味を考える。例：フレーベルの恩物から始まった積木のこと						
15	「子どもの最善の利益」について考え、その追求には家庭との連携や地域との連携が必須であることを理解する。子育てを支援することの意味を再考する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	①保育のキーワードの意味がわかる。②体験における自らの行動と心情を振り返ることができる。③保育をめぐる今日的課題について知っている。		提出課題①	30	毎回のミニレポートが求められる内容で書かれているか。	
提出課題②	20	遊びに関する製作物の工夫とていねいさ					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①用語や制度についての調べる。ネット検索に頼らずに本を活用することを習慣化する。[30～1時間程度]②子どもの遊び体験につながる実体験[長時間を要する]				授業を通じてフィードバックする。			
受講生に望むこと	①授業中の突然の遊び、製作に対応できるよう、服装、靴、髪型など、その場で遊びに入れるスタイルで、保育者が常時携帯しているようなグッズを用意して参加すること。②課題として与えられるものに留まらず、子どもの遊ぶ姿を見かけたら、なぞって同じように動いてみる。③保育に関連する日本・世界、そして地域のニュースに敏感であること。			教科書・テキスト	『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 2008年 ISBN:978-4-577-81242-6 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008年 ISBN:978-4-577-81245-7 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2015年 ISBN:978-4-577-81373-7 (要領・指針の改訂に伴って発行が予定されている各『解説』が追加される)		
指定図書参考書等	なし/『保育原理(新保育ライブラリ)』民秋言他/編著 北大路書房 2014年 ISBN:978-4-762-82844-7 『保育原理(最新保育講座)』森上史朗他編 ミネルヴァ書房 2013年 ISBN:978-4-623-06548-6 『2015年版保育白書』全国保育団体連絡会 編 ちいさいなかも社 2015年 ISBN:978-4-894-64227-0 『最新保育資料集2015』森上史朗 監修 ミネルヴァ書房 2015年 ISBN:978-4-623-07241-5			その他・特記事項	①教員免許状(幼稚園・小学校)取得希望者には履修を強く勧める。保育士資格だけでなく教育実習(幼稚園・小学校)のプレ実習に向かうために必要な幼児教育と児童福祉の入門科目となる。 ②毎回のミニレポートの綴りが定期試験の持ち込み資料となるので、欠席の場合にもミニレポートを提出できるようにすること。		

授業科目名	EN155U 社会福祉		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	上野 千恵						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>保育・幼児教育場面において、子どもとその家庭の暮らしを支える福祉制度の基礎知識を学びます。具体的には、①社会福祉の意義と歴史の変遷②社会福祉と保育との関連性③社会福祉制度や実施主体④援助者として必要とされる対人援助の原則や援助観などについて、身近な話題も取り入れながら学んでいきます。</p>			<p>(1)私たちの暮らしを社会福祉が支えているということを、身近に理解できる。 (2)社会状況が変化の中で、私たちはどのように生活を守っていけるのかについて、現実問題に即して考えることができるようになる。</p>				
教授方法	講義 グループ討論						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業目標や評価方法の確認。受講の際の注意点。保育士を目指す学生が、社会福祉を学ぶ意義を説明する。						
2	社会保障制度体系を知る。私たちが暮らす現代社会の変化を解説し、日本国憲法に基づく社会保障制度の体系について学ぶ（保育相談支援の際、社会福祉の知識が様々な場面で必要となることを具体的に理解する。）						
3	イギリスの社会福祉の歴史について解説する。（国民の貧困に対して福祉国家という形態がどのように創設されていったかを理解する。）						
4	アメリカ、スウェーデン、イギリス、日本それぞれの福祉体制をグループ討議を通して理解する。その上で、日本の社会福祉の今後の姿について解説する。（社会福祉の様々な形を理解する。）						
5	民間保険と社会保険との違いを知る。国民のセフティネットとしての社会保険の重要性を解説し、社会保険と私たちの生活との関係について学ぶ。（5つの社会保険についてその概要を理解する。）						
6	日本の貧困① 貧困の概念・私たちの身近に存在する貧困の形・日本の貧困の特徴・貧乏でも頑張れる人と貧困に陥ちていく人との境界線等々、様々な角度から日本の貧困を学ぶ。（“見えない貧困”を理解する。）						
7	日本の貧困② 保育者と貧困家庭支援との関連性について学ぶ。（貧困家庭支援として保育者に何ができるかを理解する。）						
8	生活保護① 社会保険や他のサービスとの違いを知る。また、学生の家庭の生活保護基準額を算定してみる。（生活保護が、国民にとって最後のセフティネットであることを理解する。）						
9	生活保護② 生活保護の原理・原則について、身近なトピックスも取り入れて解説する。（生活保護が厳しい原理原則に基づいて運用されていることを理解する。）						
10	高齢者福祉① 保護者における介護問題について触れた上で、高齢者理解の方法や介護保険について学ぶ。（高齢者理解の方法や介護保険について理解する。）						
11	高齢者福祉② 成年後見制度・福祉サービス利用支援事業・高齢者虐待防止法、高齢者福祉の今後について解説する。（高齢者を含む社会的弱者の、生活・財産を守る福祉制度を理解する。）						
12	障害者福祉 日本における障害者の定義や法制度を解説する。障害者権利条約・合理的配慮・障害者差別解消法等、障害者に関する新しい動向について学ぶ。（障害の捉え方と、障害者福祉の動向について理解する。）						
13	社会福祉サービスの相談窓口について。公的機関（福祉事務所・児童相談所・保健所）や民間機関（社会福祉協議会・民生委員・NPO法人）について学ぶ。（社会福祉の相談窓口を理解する。）						
14	全国保育士倫理綱領や社会福祉の専門資格を解説する。（保育士を目指す学生の学びは、今後様々な仕事や社会福祉援助職にも活用出来ることを理解する。）						
15	相談援助（ソーシャルワーク）の方法や理念を解説する。（保育相談支援では、ソーシャルワークの視点が活用できることを理解する。）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	60	社会福祉の大切な用語、考え方を理解できているか。		大レポート	20	授業内容を踏まえて考察されている内容を評価する。授業内容に触れず持論の展開されたレポートは評価が低くなる。	
小レポート	20	毎回の授業内容を理解できているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①授業の中でわからない専門用語や、興味を持った内容に関して、自分で調べる。[20分] ②目ごろから暮らしの問題に関心を持って、新聞・ニュースに触れる。[30分] ③授業終了後関連部分の教科書を読み、毎回の学びを整理する[20分]</p>				<p>①毎回の小レポートは原則返却はしない。質問や意見に関しては次の授業に反映させる。 ②大レポートの課題は授業期間の中頃に案内する。 ③期末試験は、毎回授業の中で講師が伝える学びのポイントや小レポートの課題の中から出題する。</p>			
受講生に望むこと	授業では、身近な暮らしの問題について詳しく触れていきます。自分に関連する出来事としてとらえ、自分が何ができるのかを問いかけながら授業に参加することを望みます。			教科書・テキスト	『シリーズ保育と現代社会 学ぶ・わかる・みえる 保育と社会福祉』 橋本好市 宮田徹 編 (株)みらい 2012年 ISBN：978-4-86015-247-5		
指定図書参考書等	配布資料にて授業中に適宜学生に伝える。			その他・特記事項	ほぼ毎回資料を配布する。試験や大レポートを書く際に必ず必要になるため、資料は各自で整理しておくこと。		

授業科目名	EN160U 音楽表現 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	多保田 治江・福田 真紀 (代表教員 多保田 治江)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
子どもたちが発達段階に応じて音や音楽に親しみ関心を持つ環境を設定できるように、保育者として必要な基本的知識と技能を身に付ける。特に、子どもの生活や遊びと密接に関わる歌やリズム遊びを取り入れ、保育者自身が音や表現活動を楽しみ、保育現場で実践できるようにする。また、様々な楽器に触れて演奏するほか、鑑賞を通して豊かな感性を養う。			①楽譜を見て歌うことができる。 ②範唱を聴いて歌うことができる。 ③「表現する」とは何か、具体的に考えることができる。 ④乳幼児期の発達と音楽表現について理解する。 ⑤音楽と身体表現について実践を通して理解する。 ⑥課題を発表する機会を持つことによって、歌うことや演奏のための準備について考えることができる。			
教授方法	講義と実技の他にテーマに沿ってグループ活動を行う。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価の方法を理解する。 読譜のトレーニングⅠ：楽譜の読み方について習得する。					多保田
2	「表現」って何だろう？Ⅰ：表現するとは何か理解を深める。音楽コミュニケーションⅠ：「まねること・歌うこと」について実践を通して考える。読譜のトレーニングⅡ：楽譜の読み方について習得する。					多保田
3	「表現」って何だろう？Ⅱ：総合的な視点で表現活動を捉える意義について理解を深める。音楽コミュニケーションⅡ：「まねること・歌うこと」について実践を通して考える。読譜のトレーニングⅢ：楽譜の読み方について習得する。					多保田
4	「表現」って何だろう？Ⅲ：保育における領域「表現」について理解を深める。音楽コミュニケーションⅢ：「一緒に動くこと・歌うこと」について実践を通して考える。読譜のトレーニングⅣ：楽譜の読み方について習得する。					多保田
5	歌うことを中心とした表現活動Ⅰ：生活・遊びの子どものうたを通して、歌唱表現について考える。					福田
6	歌うことを中心とした表現活動Ⅱ：季節・行事・自然の子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。					福田
7	歌うことを中心とした表現活動Ⅲ：動物・植物等の子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。課題発表					福田
8	歌うことを中心とした表現活動Ⅳ：遊ぶうたを通して、歌唱表現について考える。					多保田
9	楽器を用いた表現活動Ⅰ：パンプドラムやリズム楽器を用いた合奏を通して、打楽器の特徴と奏法について考える。					多保田
10	楽器を用いた表現活動Ⅱ：パンプドラムやリズム楽器を用いた合奏を通して、子どもと楽器について考える。					多保田
11	子どもの発達と音楽表現Ⅰ：乳幼児期の発達の特性（0歳児・1歳児・2歳児）について理解を深める。 さあ はじめよう！：音を聴くことについて考える。					多保田
12	子どもの発達と音楽表現Ⅱ：乳幼児期の表現の特性（3歳児・4歳児・5歳児）について理解を深める。 移動する動き：音楽と身体の動きについて実践を通して考える。					多保田
13	子どもの発達と音楽表現Ⅲ：聴く力の発達について理解を深める。 移動しない動き：音楽と身体の動きについて実践を通して考える。					多保田
14	子どもの発達と音楽表現Ⅳ：歌唱表現の始まりについて理解を深める。 音楽と身体表現Ⅰ：音楽から生まれる身体の動きについてグループで話し合い、身体表現を考える。					多保田
15	音楽と身体表現Ⅱ：課題の発表（課題の発表を通して、様々な身体表現方法について考える。）					多保田
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	30	受講態度、課題への取り組み。（「受講生に望むこと」欄を参照）		試験	40	各回の講義内容についての理解度。試験形式等の詳細は授業内に提示する。
小レポート	30	提出状況と内容（①毎回の授業ポイントを押さえまとめられている。②感想だけに終わらない自らの意見が述べられている。③自らの課題が設定されている。）				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べて下さい。[60分] ②次回授業のための課題について準備して下さい。[30分]				①毎回の小レポートは、次回冒頭にコメントを付けて返却します。 ②試験については、次学期初めに採点し、コメントを付けて返却します。		
受講生に望むこと	①毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②個人で行う課題とグループで行う課題があるので、グループワークはチームワークよく課題に臨んで下さい。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』東京書籍 2014年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『小学校音楽科教育法』教育芸術社 2015年 ISBN978-4-87788-491-8 / 『RHYTHMS for CHILDREN』北陸学院大学編集 2015年 / 『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』保育出版 2014年 ISBN978-4-938795-78-8 / プリント / 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2011年 ISBN978-4-577-81245-7 / 『保育所保育指針解説』フレーベル館 2011年 ISBN978-4-577-81242-6	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EN165U 音楽表現Ⅱ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	多保田 治江・福田 真紀（代表教員 多保田 治江）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「音楽表現Ⅰ」で学んだ内容を踏まえ、打楽器や旋律楽器などの演奏も取り入れた様々な表現技能を身に付ける。特に、体験したことを表現したいという子どもたちの思いを取り上げ、音楽表現を通して発表したり遊びに生かしたりできるように、音を通した様々な表現方法を学ぶ。</p>			<p>①楽譜を見て歌うことができる。 ②範唱を聴いて歌うことができる。 ③歌うことや演奏のための様々な表現技術を身に付ける。 ④音楽からイメージしたことを身体表現することができる。 ⑤課題を発表する機会を持つことによって、歌うことや演奏のための準備について考えることができる。</p>				
教授方法	講義と実技の他にテーマに沿ってグループ活動を行う。						
履修条件	「音楽表現Ⅰ」の単位を修得済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価の方法を理解する。 子どものうたの変遷Ⅰ：明治期に作られた子どものうたを通して子どものうたについて理解を深める。					多保田	
2	子どものうたの変遷Ⅱ：大正期から現代に作られた子どものうたを通して子どものうたについて理解を深める。					多保田	
3	生活や遊びの中での歌唱表現について考える。					多保田	
4	子どものうたの分類方法について考える。					多保田	
5	保育者としての表現力Ⅰ：歌声で表現することについて実践を通して考える。					多保田	
6	歌うことを中心とした表現活動Ⅰ：様々な生活・遊びの子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。					福田	
7	歌うことを中心とした表現活動Ⅱ：季節・行事・自然の子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。					福田	
8	歌うことを中心とした表現活動Ⅲ：動物・植物等の子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。 課題発表					福田	
9	保育者としての表現力Ⅱ：歌声で表現することについて実践を通して考える。 様々な楽器と奏法についてⅠ：保育で用いられる楽器の奏法を身に付ける。 「音のアンサンブル」Ⅰ：打楽器を用いてアンサンブルをつくる。					多保田	
10	保育者としての表現力Ⅲ：保育場におけるピアノの役割について実践を通して考える。 様々な楽器と奏法についてⅡ：保育で用いられる楽器の奏法を身に付ける。					多保田	
11	保育者としての表現力Ⅳ：保育場におけるピアノの役割について実践を通して考える。子どものうたの選曲ポイントについて考える。					多保田	
12	保育者としての表現力Ⅴ：歌唱表現の進め方について考える。 音楽と身体表現Ⅰ：リズムカルに反応する基礎的な身体・技能の育て方について考える。					多保田	
13	保育者としての表現力Ⅵ：歌唱表現の導入について考える。 音楽と身体表現Ⅱ：作品づくりのグループワークを通して身体表現について考える。					多保田	
14	保育者としての表現力Ⅶ：教材選択における留意点について考える。 音楽と身体表現Ⅲ：グループの作品発表と鑑賞を通して、様々な身体表現方法について考える。					多保田	
15	保育者としての表現力Ⅷ：子どもの動きに合わせた即興演奏の方法について考える。					多保田	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	受講態度、課題への取り組み。（「受講生に望むこと」欄を参照）		試験	40	各回の講義内容についての理解度。試験形式等の詳細は授業内に提示する。	
小レポート	30	提出状況と内容（①毎回の授業ポイントを押さえまとめられている。②感想だけに終わらない自らの意見が述べられている。③自らの課題が設定されている。）					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べて下さい。[60分] ②次回授業のための課題について準備して下さい。[30分]				①毎回の小レポートは、次回冒頭にコメントを付けて返却します。 ②試験については、次学期初めに採点し、コメントを付けて返却します。			
受講生に望むこと	①毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②個人で行う課題とグループで行う課題があるので、グループワークはチームワークよく課題に臨んで下さい。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』東京書籍 2014年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『小学校音楽科教育法』教育芸術社 2015年 ISBN978-4-87789-491-8 / 『RHYTHMS for CHILDREN』北陸学院大学編集 2015年 / 『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』保育出版 2014年 ISBN978-4-938795-78-8 / プリント / 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2011年 ISBN978-4-577-81245-7 / 『保育所保育指針解説』フレーベル館 2011年 ISBN978-4-577-81242-6		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED100U 心理学概論A		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	木島 恒一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
心理学は「こころ」を科学的に解明することを目指す学問です。その領域は多岐にわたっており、またそれぞれがさらに専門化されています。この講義では、心理学の基礎的な領域を取り上げて、その領域の基本概念と理論、研究を学びます。具体的には、私たちがどのように世界を受けとめるかを理解するために感覚・知覚、感情について学びます。そして心理学から見た自己理論とパーソナリティ(性格)を学びます。また、私たちの行動、人となりなどがどのように形成されるかを理解するために学習、発達を学びます。			①科学的心理学の考え方、研究方法、研究分野について理解している。 ②視知覚を中心に、私たちの知覚のメカニズム、認知のメカニズムに習熟している。 ③心理学における自己理論を理解し習熟している。 ④性格と知能についての理論を理解している。また、個人の性格特徴を測定する方法を習得している。 ⑤古典的条件づけとオペラント条件づけを理解し、これらの学習理論に基づいて自分自身や他者の行動を説明できるようになる。 ⑥感情が生じる起源、感情と表情の関係を習得する。 ⑦人の発達についての代表的な理論を習得し、理論間の違いを深く考察できるようになる。				
教授方法	教科書、参考図書、プリントを用いた講義形式による。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：心理学という学問の概要（歴史、分野、研究方法）を学ぶ。						
2	感覚・知覚(1)：視知覚を中心に、感覚・知覚がどのように成立するのかを考える。						
3	感覚・知覚(2)：錯覚という現象をとおして知覚の働きについて考察する。						
4	心理学的自己理論①：ジェームズとミードの自己理論をとおして心理学からみた「自己」について考察する。						
5	心理学的自己理論②：最近の自己研究について学ぶ。						
6	パーソナリティ①：性格の類型論について学ぶ。						
7	パーソナリティ②：性格特性論と知能について学ぶ。						
8	パーソナリティ③：性格検査と知能検査を学ぶ。						
9	学習①：古典的条件づけについて学ぶ。						
10	学習②：オペラント条件づけについて学ぶ。						
11	学習③：社会的学習について学ぶ。						
12	感情①：感情の生まれる心理的メカニズムについての理論を学ぶ。						
13	感情②：感情の過程について考察する。						
14	発達①：発達の要因について学ぶ。そしてピアジェの発達理論を学ぶ。						
15	発達②：人の一生を通じての発達を取り上げたエリクソンの発達理論を学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	70	授業で学んだことをどのくらい身につけたかを重視する。		小レポート(3回くらい)	30	教科書の指定箇所の要約が求められる。インターネットからのコピー&ペーストは0点とする。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①心理学に限らず、どの学問にも専門用語があります。授業中に定義などを明記しますが、皆さんも心理学辞典などを使って積極的に復習して、専門用語の意味を理解するように努めてください。 ②授業の終わりでは、次回の講義テーマとそれに該当するテキストの箇所を提示しますので、事前に読んで、予習しておいて下さい。【①②合わせて30分】 ③3回ほど小レポートを提出してもらいますが、これは自分ではいろいろ調べて予習する、という意味があります。必ず小レポートを書いて下さい。【30分】			小レポートの内容については、提出後の講義の中で解説します。				
受講生に望むこと	大学の授業は、受動的に聞いていればよい、というものではありません。自分から専門用語の意味を再確認し、基礎的な知識を広げておく必要があります。予習が難しかったら、せめて復習だけでもいいですから、取り組んでいただきたいと思います。			教科書・テキスト	『誤解から学ぶ心理学』 木島恒一・野瀬 出・山下 雅子(共編) 勁草書房 2013年 ISBN 978-4-3262-5086-8		
指定図書参考書等	なし/『はじめてまなぶ心理学(第二版)』 木村 裕 編著 アートアンドブレイン 2000年 ISBN978-4-901016-15-5			その他・特記事項	授業中の私語を禁止します。携帯電話・スマートフォンもマナーモードにしてカバンにしまってください。		

授業科目名	ED105U 心理学概論B		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	木島 恒一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
心理学は「こころ」を科学的に解明することを目指す学問です。その領域は多岐にわたっており、またそれぞれがさらに専門化されています。この講義では、まず、人を行動へと駆り立てる欲求と動機づけについて学び、次いで社会との関わりの中での対人認知、対人行動について学びます。また、思考（特に創造的思考）について学んだ後、記憶のメカニズムについて考察します。最後に臨床心理の基本的知識を学び、また応用心理学が扱うテーマの代表的なものを考察します。			①欲求・動機づけについて習得し、人の行動を説明できる。 ②社会的認知（対人知覚、帰属理論、認知的斉合性理論など）の諸理論を習得し、自分や他者の行動を説明できる。 ③対人行動、集団の中での行動の特徴について習熟する。 ④思考の種類、創造的思考、記憶について習得する。 ⑤臨床心理の基本的知識を習得する。 ⑥心理学の知見を現実社会の諸現象に適用し、分析できるようになる。				
教授方法	教科書、参考図書、プリントを用いた講義形式による。						
履修条件	「心理学概論A」の履修済みが望ましい。（単位未修得可）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	欲求と動機づけ①：一次的欲求と二次的欲求について学ぶ。次に欲求階層説について考察する。						
2	欲求と動機づけ②：動機づけの種類、特徴について学ぶ。また、フラストレーションと葛藤について学ぶ。						
3	社会的認知①：他者についての知覚（対人認知）について学ぶ。						
4	社会的認知②：他者の行動の原因、出来事の生じた原因についての帰属理論を学ぶ。						
5	社会的認知③：対象に対する認知に矛盾が生じると、人はその矛盾をなくして、認知が整合したものとなるようにする傾向がある。認知的不協和理論を中心に、この問題について考察する。						
6	社会的認知④：社会的態度と態度変化について学ぶ。						
7	社会的行動①：他者が側にいることの効果として社会的促進、同調行動を学ぶ。						
8	社会的行動②：他者との関係の中で私たちがとる行動について学ぶ。						
9	思考①：問題解決と創造的思考について考える。						
10	思考②：集団での意思決定について学ぶ。						
11	記憶：記憶がどのような種類に分類されるかを学ぶ。また、記憶が歪曲されるメカニズムについても考察する。						
12	臨床心理①：カウンセリング・心理療法の基本的な考え方について学ぶ。						
13	臨床心理②：精神分析理論について考察する。						
14	応用心理①：心理学の理論や方法、知見を応用した諸分野の研究について考察する。						
15	応用心理②：心理学の理論や方法、知見を応用した諸分野の研究について考察する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	70	授業で学んだことをどのくらい身につけたかを重視する。		小レポート (3回くらい)	30	教科書の指定箇所の要約が求められる。インターネットからのコピー&ペーストは0点とする。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①心理学に限らず、どの学問にも専門用語があります。授業中に定義などを明記しますが、皆さんも心理学辞典などを使って積極的に復習して、専門用語の意味を理解するように努めてください。 ②授業の終わりでは、次回の講義テーマとそれに該当するテキストの箇所を提示しますので、事前に読んで、予習しておいて下さい。【①②合わせて30分】 ③3回ほど小レポートを提出してもらいますが、これは自分でいろいろ調べて予習する、という意味があります。必ず小レポートを書いて下さい。【30分】			小レポートの内容については、提出後の講義の中で解説します。				
受講生に望むこと	大学の授業は、受動的に聞いていればよい、というものではありません。自分から専門用語の意味を再確認し、基礎的な知識を広げておく必要があります。予習が難しかったら、せめて復習だけでもいいですから、取り組んでいただきたいと思います。		教科書・テキスト	『誤解から学ぶ心理学』 木島恒一・野瀬 出・山下 雅子（編） 勁草書房 2013年 ISBN 978-4-3262-5086-8			
指定図書参考書等	なし／『はじめてまなぶ心理学（第二版）』 木村 裕 編著 アートアンドブレイン 2000年 ISBN978-4-901016-15-5		その他・特記事項	授業中の私語を禁止します。また、携帯電話・スマートフォンはマナーモードにしてカバン等にしまってください。			

**幼児児童教育学科
(2年次)**

授業科目名	EK200U プロゼミA		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	下村 岳人・朝倉 秀之・田邊 圭子・齊藤 英俊・高村 真希 (代表教員 下村 岳人)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
プロゼミは、3年次から始まる専門ゼミの前段階として位置づけている。基礎ゼミで培ったレポート作成やディスカッション能力等の技能を高め、より専門性を志向した展開を行っていく。			①ゼミ運営に積極的に協力し、学びを深めていくことができる。②専門ゼミで必要とされる、議論する力、分析する力、文脈を読み解く力、自分なりの意見をまとめる力を身につける。				
教授方法	各ゼミごとによる演習						
履修条件	「基礎ゼミ」を履修済みの者または「基礎ゼミ」を履修中の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	前半：オリエンテーション（合同） 後半：ゼミ内での自己紹介 各ゼミ運営についての説明 成績指導					全員	
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
3	論文作成のポイント（合同）					下村、齊藤	
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
12	ゼミ内における発表Ⅰ					各担当教員	
13	ゼミ内における発表Ⅱ					各担当教員	
14	プロゼミA発表会（合同）					全員	
15	前半：2年次後期の履修登録（合同） 後半：各ゼミでのまとめ					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	意欲的に参加30点 概ね参加15点 意欲的でない5点 欠席1回ごと3点減点 公欠2点減点 遅刻1回ごとに1点減点（30分を超える遅刻は2点）		レポート	40	ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文になっているか。	
レジュメの作成と発表	30	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など。②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、オリジナルなレポートを準備すること。[60分]				テーマ設定やレポート作成等についての疑問は、質問の申し出にはいつでも対応する。			
受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミへとつながっていくので、自ら学ぶ姿勢をもって参加すること。			教科書・テキスト	各ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。		
指定図書参考書等	各ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。／各ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。			その他・特記事項	ゼミ単位で指導を行うので、不明な点は自分の所属するゼミ教員に問い合わせること。		

授業科目名	EK210U プロゼミB		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	下村 岳人・田邊 圭子・齊藤 英俊・福江 厚啓・高村 真希 (代表教員 下村 岳人)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
プロゼミAに引き続き、自己課題を明確に持って自分の興味関心のある分野を深めていくなかで、専門ゼミでのテーマを絞りこめるよう専門性を追求していく。			①ゼミ運営に協力的にかかわることができる。②専門ゼミで必要とされる、課題を設定する力、討論する力、分析する力、文脈を読み解く力、自分なりの意見をまとめる力が身につく。				
教授方法	各ゼミごとによる演習						
履修条件	「プロゼミ A」を履修した者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	前半：実習にかかわる成績についての指導（合同） 後半：ゼミ内での自己紹介 各ゼミ運営についての説明 成績指導					全員	
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
12	ゼミ内における発表 I					各担当教員	
13	ゼミ内における発表 II					各担当教員	
14	プロゼミ B 発表会（合同）					全員	
15	前半：3年次の履修登録、専門ゼミ・卒業研究についての説明（合同） 後半：各ゼミのまとめ					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	①研究テーマに熱心に取り組んでいる。 ②ディスカッション等では、人の意見を聞きつつ、自分の意見をしっかりと述べるができる。		レポート	40	①文章構成が適切か。 ②事実と自分の考えを区別して書いているか。 ③意見の根拠が明示されているか。 ④分かりやすい文章であるか。	
レジュメの作成と発表	30	①分かりやすくポイントをまとめた資料を作成している。 ②時間内で聞き手に分かりやすく発表している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など。 ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、オリジナルなレポートの準備をする。[60分]			テーマ設定やレポート作成等についての疑問は・質問の申し出にはいつでも対応する。				
受講生に望むこと	ゼミ内で各自の研究計画に関する情報交換を積極的に行い、視野を広めつつ自分が興味関心をもつ分野についての専門性を深めて、3年次から始まる専門ゼミに臨む。		教科書・テキスト	各ゼミごとに教員の指示に従うこと。			
指定図書参考書等	各ゼミごとに教員の指示に従うこと。／各ゼミごとに教員の指示に従うこと。		その他・特記事項	ゼミ単位で指導を行うので、不明な点は自分の所属するゼミ教員に問い合わせること。			

授業科目名	EK220U 発達心理学		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学研究の具体的な成果をもとに、乳幼児期および児童期を中心に、人間の発達のしくみについて学ぶ。			①発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。 ②各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。 ③発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期および児童期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。				
教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解する。						
2	「発達」を考える①：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。						
3	「発達」を考える②：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。						
4	胎児期～乳児期①：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。						
5	胎児期～乳児期②：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。						
6	胎児期～乳児期③：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着（アタッチメント）」について考える。						
7	幼児期①：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。						
8	幼児期②：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して、子どもにおける遊びの重要性について考える。						
9	幼児期③：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。						
10	児童期①：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に、学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。						
11	児童期②：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子どもの「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。						
12	青年期①：「人は二度生まれる」の二度目の誕生とは。青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。						
13	青年期②：「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性（アイデンティティ）」について考える。						
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。						
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害を正しく理解し、適切な関わりを考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
各回のミニ・レポート	30	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。		定期試験	70	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の当該箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③発達心理学の下位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。			①毎回のレポートについては、次回の授業のときに内容に関する振り返りを行います。 ②試験については、次学期初めに解答や内容に関するコメントを配布します。				
受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望みます。			教科書・テキスト	『問いからはじめる発達心理学』坂上裕子・山口智子・林 創・中間玲子 有斐閣 2014年 ISBN:978-4641150133		
指定図書参考書等	なし/『保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』本郷一夫編 建帛社 2015年 ISBN:978-4767950358、『発達心理学で読み解く保育エピソード』若尾良徳・岡部康成 北樹出版 2010年 ISBN:978-4779302510、『エピソードでつかむ生涯発達心理学』岡本 祐子・深瀬 裕子編 ミネルヴァ書房 2013年 ISBN:978-4623065318、『エピソードでつかむ児童心理学』伊藤亜矢子編 ミネルヴァ書房 2011年 ISBN:978-4623058259			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EK230U 教育心理学		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤 英俊					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
教育心理学における主要な領域（発達、学習、評価、集団・適応）について講義する。本講義では、教育活動について心理学の視点から理解を深め、効果的な学びを促すにはどうすればよいかについて考える。			①子どもの心身の発達過程を答えられる。 ②学習過程で生じる心理学的法則について答えられる。 ③集団の心理と集団への適応に関して正しい知識を答えられる。 ④教育活動の評価の意義および役割を答えられる。			
教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション：教育心理学は、どのような学問なのか。教育心理学の主な領域である「発達」「学習」「評価」「集団・適応」の枠組みと、教育心理学の研究法を理解する。					
2	発達と教育①「発達の要因」：人間の発達と教育の関連について、遺伝環境論争を通して学ぶ。人間の発達に影響を及ぼす要因について考える。					
3	発達と教育②「発達における教育の役割」：ピアジェやヴィゴツキーの発達理論を通して、発達における教育の役割を考える。					
4	学習①「学習理論①」：学びはどのようにして生じるか。条件づけ理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。					
5	学習②「学習理論②」：学びはどのようにして生じるか。学習に関する様々な理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。					
6	学習③「学習と教授理論」：どのような教え方が効果的だろうか。さまざまな教授理論を比較しながら各教授法の特徴を考える。					
7	学習④「動機づけ」：やる気はどこから生じるか。動機づけに関する研究を通して、学ぶ意欲について考える。					
8	学習⑤「記憶」：学びの基礎になる記憶の理論を学ぶ。記憶に関する研究成果を紹介し、学習においてどのように活用できるか考える。					
9	学習⑥「学習指導と個人差」：すべての子どもに同じ教え方でよいだろうか。教授方法と個人差との関係を通して、学習指導について考える。					
10	評価①「知能」：知能とは何だろうか、どのように測定できるだろうか。知能に関する様々な理論と測定方法を学び、「知能が高い（低い）」とはどのようなことか考える。					
11	評価②「教育評価」：教育評価とは何か、誰が誰の何を評価するのだろうか。教育評価の意義を理解し、教育における評価の役割を考える。					
12	集団・適応①「学級集団」：学級は単なる個人の集まりだろうか。集団心理や成員間の相互作用などを通して、学級集団について考える。					
13	集団・適応②「不登校・いじめ」：不登校やいじめの問題を通して、学校や学級集団への適応を考える。					
14	集団・適応③「発達障害・精神障害」：発達障害や精神障害を抱えた子どもの学校や学級集団への適応を考える。					
15	集団・適応④「学校カウンセリング」：学校や家庭において、子どもの心の問題にどのように取り組んでいくことができるだろうか。学校現場での心理支援活動について考える。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
各回のミニ・レポート	30	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。		定期試験	70	教育心理学の主要な内容（発達、学習、評価、集団・適応）に関する基礎知識が獲得されていることが評価基準。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の当該箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、教育心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③教育心理学と関連の深い「発達心理学」「学習心理学」「認知心理学」「学校心理学」などの関連書籍にあたり、知識を深める。				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック ①毎回のレポートについては、次回の授業のときに内容に関する振り返りを行います。 ②試験については、次学期初めに解答や内容に関するコメントを配布します。		
受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望みます。			教科書・テキスト	『教育心理学』 服部環・外山美樹編 サイエンス社 2013年 ISBN: 4781913253	
指定図書参考書等	なし/『教育心理学Ⅰ』 大村彰道編 東京大学出版会 1996年 ISBN: 978-4130520720、『教育心理学Ⅱ』 下山晴彦編 東京大学出版会 1998年 ISBN: 978-4130520744			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EK240U 初歩文献講読		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	辻 直人						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本科目は2年生を対象とした初歩的文献の講読とその内容をめぐる議論を中心に展開する。大学での基本的学びである文献読解方法、レジュメのまとめ方、議論の仕方などを身に付けることを第一の目的とする。また、教育学や教育実態の理解を深めることを第二の目的とする。今年度は秋山千佳『ルポ 保健室 子どもの貧困・虐待・性のリアル』をテキストとして、保健室での様子を通して見えてくる学校、子ども、家庭などの実態を考察する。</p>				<p>①文献を的確に要約し、報告できる。 ②文献に登場した概念や実態について理解を深め、説明できる。 ③文献で紹介された実態を参考にしながら、現代の教育問題を多角的に考察することができる。</p>			
教授方法	演習、担当者による報告と受講生による討論						
履修条件	なし（ただし、2年生以上の受講については事前相談のこと）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション、授業の進め方、成績評価方法について、分担決め						
2	レジュメのまとめ方、具体的事例に基づき考える						
3	第1章1の検討						
4	第1章2の検討						
5	第1章3の検討						
6	第2章の検討 (1)						
7	第2章の検討 (2)						
8	第3章の検討 (1)						
9	第3章の検討 (2)						
10	第4章の検討 (1)						
11	第4章の検討 (2)						
12	第5章の検討 (1)						
13	第5章の検討 (2)						
14	文献に関係する教育問題についてより深く考察するテーマの設定と発表 (1) Aグループ						
15	文献に関係する教育問題についてより深く考察するテーマの設定と発表 (2) Bグループ、総括討議						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業態度	30	事前に文献を読んできたか。議論に参加していたか。積極的に自分の意見を述べたか。		報告内容	30	割り当てられた箇所について、適切なレジュメを作成し、議論をするための的確な報告と論点の提示をすることができたか。	
レポート	40	文献の内容を踏まえて、自らのテーマ設定し、現代の教育問題を考察することができたか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>報告者はレジュメを準備する[90分]。報告者以外は、毎回決められた箇所について事前に読み、議論に参加できるように分からない語句の確認などテキストの理解を深めること[90分]。</p>				<p>報告や質問に対しては、その都度対応する。最終レポートは、希望者に返却する。</p>			
受講生に望むこと	大学での基本的学びである文献読解とその理解・解釈をめぐる議論に積極的に取り組める姿勢を望む。本科目は2年生を対象とした科目であって、それ以外の学年の学生の受講については、担当教員と相談すること。			教科書・テキスト	『ルポ 保健室 子どもの貧困・虐待・性のリアル』秋山千佳 朝日新書 2016年 ISBN:978-4-02-273676-5		
指定図書参考書等	授業中に適宜紹介する。（テキストの巻末参考文献も参照）			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE210U 理科			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	下村 岳人						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
小学校理科の内容の基本となる実験を実際に体験したり、演示実験を見たりして、小学校理科の内容を理解し、自分たちが教師となった際の児童たちへの授業の取組に関する指導方法を習得する。				①小学校理科の内容を説明することができる。②単元で指導すべき実験・観察の方法や注意点について説明することができる。③どの学年でどのような実験・観察を行うのかを説明することができる。			
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：なぜ理科を学ぶのか、到達目標、授業の進め方、成績評価の方法等を知る。理科の教科の目標及び各学年の目標を理解する。						
2	問題解決の能力と科学的な見方や考え方						
3	エネルギー分野①の内容を理解し、そこで育てたい見方、考え方を理解する。						
4	エネルギー分野②の内容を理解し、そこで育てたい見方、考え方を理解する。						
5	エネルギー分野③の内容を理解し、そこで育てたい見方、考え方を理解する。						
6	粒子分野①の内容を理解し、そこで育てたい見方、考え方を理解する。						
7	粒子分野②の内容を理解し、そこで育てたい見方、考え方を理解する。						
8	粒子分野③の内容を理解し、そこで育てたい見方、考え方を理解する。						
9	生命分野①の内容を理解し、そこで育てたい見方、考え方を理解する。						
10	生命分野②の内容を理解し、そこで育てたい見方、考え方を理解する。						
11	生命分野③の内容を理解し、そこで育てたい見方、考え方を理解する。						
12	地球分野①の内容を理解し、そこで育てたい見方、考え方を理解する。						
13	地球分野②の内容を理解し、そこで育てたい見方、考え方を理解する。						
14	地球分野③の内容を理解し、そこで育てたい見方、考え方を理解する。						
15	ふれあい昆虫館を見学し、多様な中の生態に驚くとともにそれを維持するスタッフの努力を知る						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
テスト	40	小学校理科の目標及び内容について、キーワードを中心に記述形式で理解度を評価する。			レポート	50	課題内容に対応したレポートを書くことができるか。
授業参加態度	10	毎回の授業内容についての感想・質問等の記述内容、講義及びグループでの授業への取り組み姿勢を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①毎回の授業で出される課題に取り組み、次回の授業開始時に提出すること。[60分] ②授業の感想と振り返りを記入し、次回の授業開始時に提出すること。[20分]				毎回のレポートは、採点及びコメントを付けて返却する。			
受講生に望むこと	自然現象を観察する中で、「なぜ」という疑問を見だし、自らそれを探究し、解決していこうとする態度を養ってもらいたい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説理科編』 文部科学省 大日本図書 2008年 ISBN 978-4477019499		
指定図書参考書等	なし/ 『わくわく理科 3～6（文部科学省指定教科書）』 啓林館 2014年 ISBN 978-4-402-06750-2			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE200U 社会		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>自分が学習者として受けてきた社会科の授業を振り返ることに始まり、小学校社会科についての基礎的な知識と認識を身につける。 「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質を養う」とは、具体的にどうということかについて、知識と理解を深める。</p>			<p>①小学校における社会科教育の目標と内容を理解している。 ②子どもたちが教科内容を理解、習得する授業のあり方を自ら授業づくりやグループ協議に参加することを通し、理解している。 ③社会科授業をつくっていく上で必要な事柄を自分の言葉でまとめることができる。</p>				
教授方法	講義・演習、グループ協議						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	社会科って何だろう？：「学びの履歴」の振り返りから、小学校社会科の内容と課題について理解する。						
3	社会系教科の成立と歴史の変遷について理解する。						
4	社会科と生活科・総合的な学習等との関連について理解する。						
5	社会科を取り巻く現代の諸課題について理解する。						
6	小学校社会科の授業構成と展開例 3学年①「地域の生産や販売に携わっている人々」から						
7	小学校社会科の授業構成と展開例 3学年②「古くから続くくらし（道具・年中行事・先人）」から						
8	小学校社会科の授業構成と展開例 4学年①「地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動」から						
9	小学校社会科の授業構成と展開例 4学年②「地域の人々の安全を守るための諸活動」から						
10	小学校社会科の授業構成と展開例 5学年①「我が国の国土の様子と国民生活」から						
11	小学校社会科の授業構成と展開例 5学年②「我が国の食料生産・工業・情報産業などの様子と国民生活」から						
12	小学校社会科の授業構成と展開例 6学年①「我が国の歴史上の主な事象」から						
13	小学校社会科の授業構成と展開例 6学年②「我が国の政治の働き、憲法の考え方、国際社会における役割」から						
14	社会科における子どもの内面理解のあり方について理解する。						
15	まとめ：「子どもが主体的に学ぶ社会科学学習の創造」について話し合う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート1 (中間)	30	講義1～5までの授業から、社会科授業をつくっていく上で必要な事柄をまとめることができる。		レポート2 (最終)	30	講義全体を通し、社会科授業をつくっていく上で必要な事柄をまとめることができる。	
協議への参加	20	担当教員による模擬授業やグループディスカッションに積極的に参加している。		講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
現場における社会科の実践（研究授業、実践記録）から、積極的に学んでほしい。 【60分】				対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。 レポートは、2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。			
受講生に望むこと	普段から社会の動向や時事問題、歴史等の社会事象に関心をもち、問題意識をもって学ぶ姿勢を大切にほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説社会科編』文科省、東洋館出版社、2008年、978-4-491-02372-4		
指定図書参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE215U 家庭		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	金丸 洋子					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>小学校教諭免許取得のための必須科目である。『小学校学習指導要領解説家庭編』をもとに、小学校家庭科の果たすべき役割や指導内容について学ぶ。指導内容に関わる教えるための基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。家庭科は実践的態度を育てることが教科のねらいであり特徴である。授業を通して、受講生自身の日常生活における自立や家庭・社会の一員としての自分自身の生活を振り返る。</p>			<p>①教科の目標や各領域の基礎的・基本的知識を理解している。 ②調理や布を使った製作の基礎的技能を習得している。 ③家庭生活や家族についての現状と課題について理解している。 ④自分の日常生活を振り返り実践につなげようとしている。</p>			
教授方法	講義 グループ活動 実習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業概要説明：授業内容の概略・進め方・成績評価方法の説明を基に授業への見通しをもつ。「衣食住」「生活の自立」「家庭科」の密接な関係について考え理解する。					
2	子どもの家庭生活の実態：アンケート結果から実態を読み取りその背景を考える。グループ活動					
3	家庭科の目標：家庭科の目標及び内容構成について理解する。					
4	A領域「家庭生活と家族」：ねらいや指導内容・指導にあたっての留意点について理解する。					
5	手作りおやつと団らん：実習を通して基礎的技能を習得すると共に団らんの大切さや工夫する楽しさを体験的に理解する。自分と家庭・家族とのかかわりについて考える。グループ活動					
6	B領域「日常の食事と調理の基礎」：ねらいや指導内容・指導にあたっての留意点について理解する。					
7	栄養を考えた食事：調和のとれた食事について理解し1食分の献立をたてることのできる。自分自身の食生活を振り返ることが出来る。					
8	調理実習：調理の基礎的知識や技能を習得する。調理実習指導の配慮事項について体験的に理解する。グループ活動					
9	C領域「快適な衣服と住まい」：ねらいや指導内容・指導にあたっての留意点について理解する。					
10	快適な衣服：衣服の着用と手入れについて実験や実習を通して基礎的知識・技能を習得する。日々の実践に活かす。					
11	快適な住まい方：快適な住まい方の基礎的な知識・方法を理解し自分の生活を工夫できる。エネルギー問題や生活環境の見直しに関心をもつ。					
12	生活に役立つ物の製作：布を用いる製作物を考え製作計画立案し、製作の仕方の見通しをもつことのできる。					
13	生活に役立つ物の製作：製作物に応じた縫い方を考えて製作し、基礎的・基本的な知識や技能を習得する。製作に必要な用具の安全な取扱いができる。					
14	D領域「身近な消費生活と環境」：ねらいや指導内容・指導にあたっての留意点について理解する。					
15	家庭生活や地域での課題：これからの家庭や社会生活の課題を考える。自分自身の家庭生活を振り返り実践への心構えをもつ。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習や製作物	30	・積極的、主体的に実習に参加しているか。 ・製作計画や提出期限を遵守しているか。 ・製作方法や仕上がりが良いか、工夫があるか。		定期試験	50	筆記試験 基礎的基本的知識を理解しているか。自分の家庭生活を振り返っているか。
事後レポート	20	理解したことや課題についてまとめているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
事前学習 次時の課題についてテキストを読んだり調べたりする。製作や実習の準備をする。 事後学習 授業で学んだ事柄や考えをまとめレポートを提出する。製作計画に基づき課外で仕上げる。				事後レポートにはコメントをつけて返却する。 製作物を評価し返却する。手直し再提出を求める場合がある。		
受講生に望むこと	家庭科は日々の生活の科目であり、「家庭科の基礎・基本」は「生活の基本」と言える。しかし、現代の消費生活主流の中で「衣・食・住」のほとんどが、他に依存するようになり、生活の基本がゆらいできている。家庭科の基礎基本を学び、できる・教える力をつけてほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説家庭編』文部科学省 東洋館 2008年 ISBN978-4-491-02374-8C3037 『家庭科の基本』流田直監修 Gakken 2012年 ISBN978-4-05-405222-2C2037	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	実習費徴収 製作物材料費は個人負担	

授業科目名	EE310U 算数科教育法		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	下村 岳人						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義では、算数科の授業を構成するうえで必要とされる、教材の見方、指導計画、指導法について実践的に学ぶ。具体的な内容としては、個人で実際に指導案の作成を行い、模擬授業を実施するまでを行う。また、学習指導要領にも明記されており、算数科授業に求められる算数的活動のあり方についても、学修者自身が実際に体験し、実感を伴いながら理解を深めることも目標である。何より、本講義を通して、何のための算数教育かを学修者自身が深く検討する機会としてもらいたい。</p>			<p>①小学校算数科の指導方法や目標、評価等に関する基本的な事項を理解する。 ②小学校算数科の授業設計（学習指導案の作成等）ができ、実践することができる。</p>				
教授方法	講義と模擬授業						
履修条件	「算数」を履修した者または「算数」を履修中の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業概要、進め方、成績評価の説明。何のための算数教育か					下村	
2	数学的な考え方と算数的活動					下村	
3	算数科の目標、内容構成とその概観					下村	
4	低学年の内容（数と計算）とその指導					下村	
5	低学年の内容（量と測定、図形、数量関係）とその指導					下村	
6	中学年の内容（数と計算）とその指導					下村	
7	中学年の内容（量と測定、図形、数量関係）とその指導					下村	
8	高学年の内容（数と計算）とその指導					下村	
9	高学年の内容（量と測定、図形、数量関係）とその指導					下村	
10	算数科の授業設計と学習指導案作成上の留意点					下村	
11	算数科にみるICT機器の効果的な活用					下村	
12	模擬授業の実施と協議(1)【授業観を視点にして】					下村	
13	模擬授業の実施と協議(2)【教材論を視点にして】					下村	
14	模擬授業の実施と協議(3)【方法論を視点にして】					下村	
15	模擬授業の実施と協議(4)【評価論を視点にして】					下村	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	明確なねらいをもち、授業案を立案することができたか。		模擬授業	40	丁寧な学習指導計画を立て、実践することができたか。	
授業参加態度	10	積極的に授業に参加し、適切な発言ができたか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①講義では、受講者によるマイクロティーチングを行う。授業までに指導案を作成し、講義に持参すること。[60分]②講義後は、授業の感想を見にレポートとして提出すること。[20分]				毎回のレポートは、採点及びコメントを付けて返却する。			
受講生に望むこと	これからの時代に求められる算数科教育のあり方について、考えながら受講してください。そして、実践するための知識や考え方を確実に習得してください。そのためには、授業への積極的な参加が不可欠です。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説算数科編』 文部科学省 東洋館出版社 2008年 ISBN 978-4-491-02373-1		
指定図書参考書等	なし/『何のための算数教育か（シリーズ 算数の力を育てる①）』、長崎栄三、滝井章編 東洋館出版社 2007年 ISBN 978-4-491-02258-1			その他・特記事項	算数科を主とした研究会や、公開授業に自ら足を運び、多くの授業を参観してもらいたい		

授業科目名	EE315U 理科教育法		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	下村 岳人					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
小学校理科の目的・目標、内容、授業デザインなどについて概説し、授業実践のための基礎的な知識の理解を図るとともに、模擬授業の実践を通して、問題解決の方略について、自ら会得していくことを目的としている。			①小学校理科の目標、内容、方法、評価を理解している。②模擬授業を通して、問題解決の主要な部分である、課題把握、予想実験、考察、まとめの流れについて実感を持った理解が図られている。			
教授方法	講義と模擬授業					
履修条件	「理科」を履修した者または「理科」を履修中の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：なぜ理科を学ぶのか、到達目標、授業の進め方、成績評価の方法等を知る。理科教育を学ぶ目的と意義・小学校理科の目標と内容					
2	実験することの意義、実験の実際①					
3	実験上の注意点、実験の実際②					
4	「粒子」分野に関する指導の留意点、マイクロティーチング					
5	「エネルギー」分野に関する指導の留意点、マイクロティーチング					
6	「生命」に関する指導の留意点、マイクロティーチング					
7	「地球」に関する指導の留意点、マイクロティーチング					
8	ICT機器、デジタル教材の活用、指導案作成方法					
9	授業デザインの構築（授業観察）、授業観察					
10	授業デザインの構築（問題解決）、模擬授業					
11	授業デザインの構築（メディア）、模擬授業					
12	授業デザインの構築（教材論）、模擬授業					
13	授業デザインの構築（方法論）、模擬授業					
14	授業デザインの構築（評価論）、模擬授業					
15	まとめ					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
レポート	50	明確なねらいをもち、授業案を立案することができたか。		模擬授業	40	丁寧な学習指導計画を立て、実践することができたか。
授業参加態度	10	積極的に授業に参加し、適切な発言ができたか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①講義では、受講者によるマイクロティーチングを行う。授業までに指導案を作成し、講義に持参すること。[60分]②講義後は、授業の感想を見にレポートとして提出すること。[20分]				毎回のレポートは、採点及びコメントを付けて返却する。		
受講生に望むこと	理科の授業を楽しくするには、予備実験が大切であることを心得ておいてもらいたいと思います。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説理科編』 文部科学省 大日本図書 2008年 ISBN 978-4477019499	
指定図書参考書等	なし／『理科教育法-理論をふまえた理科の授業実践-』、山田卓三・秋吉博之編、大学教育出版			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EE300U 社会科教育法		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>学習指導要領「社会科」の教科目標には、「社会生活についての理解を図り、わが国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。」とある。小学校3年生から6年生まで、それぞれの発達の段階に応じた社会科の学習指導を行うために必要な技能を身につけることを目指し、実践的に学んでいく。</p>			<p>①小学校社会科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識および技能を身に付ける。 ②社会科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。</p>				
教授方法	講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など						
履修条件	「社会」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	社会系教科の成立と歴史の変遷について理解する。						
3	社会科と生活科・総合的な学習等との関連について理解する。						
4	社会科指導のあり方（教材研究、指導計画立案、評価、授業展開）を理解する。						
5	3・4 学年における社会科教育の目標と内容を理解する。						
6	5・6 学年における社会科教育の目標と内容を理解する。						
7	3 学年における社会科教育の指導計画の作成を理解する。						
8	4 学年における社会科教育の指導計画の作成を理解する。						
9	5 学年における社会科教育の指導計画の作成を理解する。						
10	6学年における社会科教育の指導計画の作成を理解する。（社会科学習指導案①の提出）						
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価①（3学年）						
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価②（4学年）						
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価③（5学年）						
14	学生による模擬授業の実施と反省、評価④（6学年）						
15	全体ふりかえり、まとめ、社会科学習指導案②（修正版）の提出						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
学習指導計画案	25	模擬授業実施のための学習指導計画案を作成する。その際、十分に教材研究をし、創意工夫をおこなっている。		模擬授業	30	授業づくりに積極的に参加することができる。	
修正指導案・期末レポート	25	模擬授業や担当教員による助言を踏まえ、修正版指導案を提出する。また、授業づくりについての学びを簡潔にまとめることができる。		講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>単元計画・指導案の作成、模擬授業の準備のため、授業時間外に積極的に教材研究を行う。【60分】 市内の小学校の学習支援に積極的に参加する。【60分以上】</p>			<p>学習指導計画案は、初回に提出されたものに担当教員が指導助言を行い、いったん返却する。模擬授業等を踏まえて修正を行ったものを期末に再提出するものとする。2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。 対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。</p>				
受講生に望むこと	社会科実践に興味をもって教材研究を進めたり、仲間とともに授業をつくったりすることを大切にしてほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説社会科編』文科省、東洋館出版社、2008年、978-4-491-02372-4		
指定図書参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE320U 生活科教育法		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>戦前戦後の日本における生活科教育思想の系譜、小学校低学年における社会科・理科の廃止と生活科新設の経緯、授業づくりの諸課題等についての理解を深める。</p> <p>1、2年生の発達の段階に応じた生活科の授業づくりや適切な支援を行うために必要な技能を身につけることを目指し、実践的に学んでいく。</p>			<p>①生活科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識および技能を身に付ける。</p> <p>②生活科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。</p>				
教授方法	講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など						
履修条件	「生活」1年次後期2単位の修得者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	生活科新設の経緯と生活科教育思想の系譜について理解する。						
3	教材研究、指導計画立案、評価、授業展開について理解する。						
4	生活科授業づくりの様々な課題について理解する。						
5	生活科授業づくりにおける「気付き」について理解する。						
6	1学年生活科の目標と内容を理解する。						
7	2学年生活科の目標と内容を理解する。						
8	1学年における生活科学習指導計画の作成について理解する。						
9	2学年における生活科学習指導計画の作成について理解する。（生活科学習指導案①の提出）						
10	学生による模擬授業の実施と反省、評価①（1学年）						
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価②（1学年）						
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価③（2学年）						
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価④（2学年）						
14	模擬授業全体を通じてのまとめと改善について考える。						
15	全体ふりかえり、まとめ、生活科学習指導案②（修正版）の提出						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
学習指導計画案	25	模擬授業実施のための学習指導計画案を作成する。その際、十分に教材研究をし、創意工夫をおこなっている。		模擬授業	30	授業づくりに積極的に参加することができる。	
修正指導案・期末レポート	25	模擬授業や担当教員による助言を踏まえ、修正版指導案を提出する。また、授業づくりについての学びを簡潔にまとめることができる。		講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>三小・山周周辺の自然に興味を持ち、生物や暮らしについて学ぶ。【20分】</p> <p>単元計画・指導案の作成、模擬授業の準備のため、授業時間外に積極的に教材研究を行う。【60分】</p> <p>市内の小学校の学習支援に積極的に参加する。【60分以上】</p>				<p>学習指導計画案は、初回に提出されたものに担当教員が指導助言を行い、いったん返却する。模擬授業等を踏まえて修正を行ったものを期末に再提出するものとする。2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。</p> <p>対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。</p>			
受講生に望むこと	生活科実践に興味をもって教材研究を進めたり、仲間とともに授業をつくったりすることを大切にしてほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領生活科』文部科学省、日本文教出版、2008年、978-4-536-59002-0		
指定図書参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE325U 図画工作教育法		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	鷺山 靖					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
1. カリキュラムにおける位置付け ①この科目は資格取得に必要な科目である。 ②この科目は「図画工作」に接続する科目である。 ③この科目は保育内容の表現に関する科目と関連がある。 2. 授業のねらい ①図画工作科教育の理念と歴史を学び、図画工作を教える信念を持つ。 ②図画工作科の学習指導の基本的技術を習得する。 3. 授業の進め方 ①テーマごとに講義・作品制作・評価・鑑賞・ノート作成をおこなう。 ②期末に基礎知識・技能に関する筆記試験をおこなう。			①図画工作科の教育理念及びその歴史を理解している。 ②図画工作科授業の計画・実践に関する基本的な知識・技能を習得している。 ③図画工作科授業の評価に関する基本的な知識・技能を習得している。			
教授方法	スライドによる講義の他、教科書検討・口頭発表・グループ学習による演習をおこない、期末の筆記試験により基礎知識の理解を深める。					
履修条件	「図画工作」を履修した者または「図画工作」を履修中の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の計画、到達目標、成績評価の方法、事前・事後学習を理解する。 基礎知識①：図画工作科の教育理念とその歴史を理解する。					
2	基礎知識②：図画工作科の授業時数・目標・内容・配慮事項について、学習指導要領と学校教育法施行規則を検討し理解する。					
3	基礎知識③：図画工作科の表現・鑑賞指導の共通事項について、学習指導要領及び図画工作科教科書を検討し理解する。					
4	基礎知識④：図画工作科が主に扱う材料・用具とその安全な使い方および表現技法について、図画工作科教科書を検討しを理解する。					
5	基礎知識⑤：児童の描画の発達過程について、図画工作科教科書及び関係資料を検討し理解する。					
6	基礎知識⑥：図画工作科における題材の系統性や道徳・環境問題・人権尊重・国際理解・文化の伝承や文化遺産の尊重との関連について、図画工作科教科書を検討し理解する。					
7	基礎知識⑦：図画工作科授業の成立要件と図画工作科題材の特性について理解する。					
8	授業構想・演習①：図画工作科の年間指導計画の要点・立案方法について、演習を通じて理解・習得する。					
9	授業構想・演習②：図画工作科の学習指導案の要点・立案方法について、演習を通じて理解・習得する。					
10	授業構想・演習③：図画工作科における指導言とその要点を理解する。					
11	授業構想・演習④：図画工作科における発問・説明の要点・方法について理解する。					
12	授業構想・演習⑤：図画工作科における発問・説明の要点・方法について、発表（個人）・相互評価形式による演習を通じて理解・習得する。					
13	授業構想・演習⑥：図画工作科における学習評価の理論と方法を理解する。					
14	授業構想・演習⑦：図画工作科題材の評価規準の要点・作成方法について、演習（グループ）を通じて理解・習得する。					
15	授業構想・演習⑧：図画工作科題材の評価規準に基づく学習評価・評定の要点・方法について、演習（グループ）を通じて理解・習得する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
受講姿勢	40	①疑問点やよく理解できないことを質問している。②講義内容とともに自分の考えをノートしている。③ミニツペーパーや小課題に取り組み、提出している。		定期試験	60	図画工作科教育の視野を広げ、その理論・授業方法を理解することができた。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業内容に対する自分の考えや意見、気付きをノートに書き留める。[10分] ②教科書・テキストを読み直し、授業に関係なく各自読み進む。[30分]			課題（演習）の成果は、担当教員による評価（口頭）に加えて、受講者による相互評価（口頭）をおこなう。			
受講生に望むこと	①スライド進行が早いと感じたら、その事を遠慮なく担当教員に伝えること。 ②考えたこと、思ったことなど気付きをどんどんノートしておくことを勧めます。		教科書・テキスト	①『図画工作1・2上～5・6下』日本文教出版 1.2上 ISBN978-4-536-10016-8 1.2下 ISBN978-4-536-10017-5 3.4上 ISBN978-4-536-10018-2 3.4下 ISBN978-4-536-10019-9 5.6上 ISBN 978-4-536-10020-5 5.6下 ISBN978-4-536-10021-2 ②『小学校学習指導要領解説図画工作編』日本文教出版 ISBN978-4-536-59001-3 ③『評価理論の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校 図画工作』教育出版 ISBN978-4-316-30037-5		
指定図書参考書等	なし/授業時に随時紹介する		その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE330U 音楽科教育法		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	多保田 治江					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>学習指導要領の目標に、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」とある。この授業では、第1学年から第6学年までを通して、発達段階に応じた音楽科指導を行うためには、どのような指導技術が必要とされるかを実践的に学んでいく。</p>			<p>①小学校音楽科について理解を深める。 ②教師としての指導技術や実践力を高めることができる。 ③音楽の技能を高めることができる。 ④子どもたちが身に付ける資質や能力を明確化することができる。 ⑤指導計画を作成することができるようになる。 ⑥校種間連携の必要性について理解を深めることができる。</p>			
教授方法	講義、演習、グループ学習					
履修条件	「音楽」「器楽Ⅰ」「器楽Ⅱ」を履修済が望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価の方法を理解する。					
2	小学校音楽科とは何か（概説）・・・これからの小学校音楽科について考え、理解を深める。					
3	小学校音楽科の意義と目的・・・教科の目標と各学年の目標を通して考える。					
4	小学校音楽科の指導内容「A表現一歌唱」・・・歌唱の学習と指導について理解を深める。共通教材を通して教材研究を行う。					
5	小学校音楽科の指導内容「A表現一歌唱」・・・歌唱の学習と指導について理解を深める。歌唱教材（共通教材以外）を通して教材研究を行う。					
6	小学校音楽科の指導内容「A表現一器楽」・・・器楽の学習と指導について理解を深める。					
7	小学校音楽科の指導内容「A表現一音楽づくり」・・・音楽づくりの学習と指導について理解を深める。 小学校音楽科の指導内容「B鑑賞」・・・鑑賞の学習と指導について理解を深める。					
8	学習指導計画（1）・・・小学校音楽科の指導内容「A表現一歌唱」の教材を通して学習指導計画について考える。					
9	学習指導計画（2）・・・小学校音楽科の指導内容「A表現一器楽」の教材を通して学習指導計画について考える。					
10	学習指導計画（3）・・・小学校音楽科の指導内容「B鑑賞」の教材を通して学習指導計画について考える。 音楽科模擬授業（1）・・・学習指導計画を作成する。手順1-教材を選び、教材研究を行う。					
11	音楽科模擬授業（2）・・・学習指導計画を作成する。手順2-学習指導計画の作成における留意点について考える。					
12	音楽科模擬授業（3）・・・低学年対象の模擬授業を行い、省察と他者評価を受ける。					
13	音楽科模擬授業（4）・・・中学年対象の模擬授業を行い、省察と他者評価を受ける。					
14	音楽科模擬授業（5）・・・高学年対象の模擬授業を行い、省察と他者評価を受ける。					
15	音楽科模擬授業について話し合い、まとめをする。 校種間連携の必要性について考える。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
試験	40	各回の講義内容についての理解度。試験形式等の詳細は授業内に提示する。		小レポート	30	提出状況と内容（①毎回の授業ポイントを押さえまとめられている。②感想だけに終わらない自らの意見が述べられている。③自らの課題が設定されている。）
学習指導計画作成と模擬授業	30	学習指導計画作成において、基本的な要件を漏れなく記載しているかどうか。模擬授業に対して真摯に取り組む姿勢が見られたか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①音楽の技能を高めるための課題に取り組み、発表を行います。[30分] ②講義の内容に対して講義後に自身で振り返り、疑問点や不明点を調べて下さい。[30分] ③学習指導計画作成において、基本的な要件を漏れなく記載することができるように多くの学習指導計画に当たって下さい。[30分]</p>			<p>①毎回の小レポートは、次回冒頭にコメントを付けて返却します。 ②試験については、次学期初めに採点し、コメントを付けて返却します。</p>			
受講生に望むこと	歌うことと、ピアノを演奏することを継続的に学習して下さい。		教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社 2011年 ISBN978-4-87788-383-6／『小学校音楽科教育法』教育芸術社 2015年 ISBN978-4-87788-491-8／プリント		
指定図書参考書等	なし／なし		その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE335U 家庭科教育法		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	荒井 紀子					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>家庭科は、子どもに、現在の暮らしを見つめさせ、さらに将来の生活をどうつくるかを考えさせ、生活力を身につけさせる教科である。ここで扱う「生活」は、自分や家族など人に関わる内容と、衣食住、消費、環境など暮らしの営みに関わる内容からなり、各内容は密接につながっている。本授業では、生活の様々な側面をとりあげながら、子どもの生活自立を促し、暮らしへの興味や関心を高めることのできる家庭科の授業について、理論と実践の両面から学んでいく。講義の前半では、主に、文献や視聴覚資料を用いて、家庭科の歴史やカリキュラムの内容、諸外国の家庭科などについて理論的な理解を深める。後半は、具体的な授業づくりの方法について、授業計画から授業の準備と実践、省察まで、グループ活動も取り入れながら体験的に学んでいく。</p>			<p>①家庭科教育の歴史や教科の目標・内容についての基礎的理解を深める。 ②生徒の生活力を高める学習の構造やカリキュラムについて認識を深める。 ③生徒の意欲を引き出す学習方法を習得し授業づくりの力をつける。</p>			
教授方法	講義、視聴覚教材や文献にもとづくディスカッション、模擬授業などのグループ活動、これらを組み合わせて行う					
履修条件	「家庭」を履修していることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション（学校教育で育みたい力と家庭科との関係について、受講生自身が学んできた家庭科の授業を振り返りながら考える）					
2	家庭科教育とは何か（小学校の家庭科教諭、名取弘文先生の授業実践を読み、生徒の自発性や意欲を引き出す家庭科の特性や可能性について考える）					
3	家庭科の歴史と男女共修（1947年誕生の家庭科の60年の歴史を概観し、時代背景との関係を考える。また家庭科の男女共修の実現の経緯とプロセスについて理解する）					
4	学習指導要領と家庭科の目標・内容（学習指導要領の変遷を理解するとともに、現行の学習指導要領の目標、内容について小・中・高校の段階ごとの特徴と相互の関連をみる）					
5	諸外国の家庭科（米国、ヨーロッパ、アジアの家庭科教育について、カリキュラムや学習内容・方法を各国の教科書や資料、写真をもとに検討する）					
6	家庭科教育の目指すもの（1）（三国清三氏の「ようこそ先輩」のVTRをもとに、地域の食材と自らの五感を生かした食の学習について検討する）					
7	家庭科教育の目指すもの（2）（「家族」の授業実践例をもとに、家庭科において、自分や家族をどのような視点から学んだらよいかについて考える）					
8	新しい家庭科カリキュラムの視点と構造（子どもの自発性や生活自立力を育む家庭科カリキュラムの構造について、テキストをもとに理解する）					
9	授業を読む（1）（テキストに掲載された被服や消費生活にかかわる複数の授業を輪読し、その長所と改善点について検討する）					
10	授業を読む（2）（テキストに掲載された住居や家族にかかわる複数の授業を輪読し、その長所と改善点について検討する）					
11	家庭科模擬授業（1）授業計画を立てる（グループごとに授業テーマを確定し、授業の構想をたてる）					
12	家庭科模擬授業（2）細案を考える（取り組みたい授業テーマに沿って、数時間の単元を設定し、特に模擬授業を実施したい授業について細案をたてる）					
13	家庭科模擬授業（3）授業の準備（細案にかかわる資料や教材、教具を作成したり準備する）					
14	模擬授業（4）授業の実施（グループごとに授業を実施し、生徒役と教師役の両方を体験する）					
15	模擬授業（5）授業の省察（実際に授業をしてみてわかったことを話し合い、さらに良い授業にするにはどうしたらよいかを考える）					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
模擬授業の授業案と実践	30	授業構想がしっかりたてられているか、教材教具が適切に準備されているか、授業実践の子どもへの問いかけは適切か。		課題レポート	30	課題に求められていることを理解し、それを発展させているか、実習や調査を適切に行っているか、まとめ方や表現は適切か。
最終テスト	40	本講義で学んだことを理解しているか、それぞれの問いに対して、自分の言葉でしっかり考察できているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業の中間で、生活の問題解決に関わる課題を出します。				講義期間中に出した課題については、簡単なコメントをつけて返却するとともに、授業でもその中身をクラスで紹介し、学生の授業計画の作成等の参考となるよう配慮する。		
受講生に望むこと	受講前に教科書の「はじめに」「目次」「プロローグ」に目を通しておいて下さい。			教科書・テキスト	『新版 生活主体を育む一探究する力をつける家庭科』 荒井紀子編著、ドメス出版、2013年 ISBN：9784810707878	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EE235U 教育課程編成論		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	石倉 瑞恵					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>①過去の事例から教育課程編成の多様性を学ぶ。それぞれの中心となる理論についても理解し、新しい時代の教育課程を考える上で土台となる知識、思考力を育む。</p> <p>②新しい時代の教育課程は、子どもが未知の状況に対応しつつ「何かができる」ようになることを目的として編成されねばならない。そのような目的を達成するために必要な評価の観点・方法、アクティブ・ラーニングの手法について学ぶ。</p> <p>③最終的には、マクロな視点で現行の教育課程を見つめ、新たな可能性を描くことができるようになる。</p>			<p>①教育課程編成の事例（学習指導要領）を特色付ける教育理論、その事例から発生した問題点について理解する。</p> <p>②これからの時代において育むことが必要とされる能力とそのための教育課程について理解する。</p> <p>③学びに向かう力、問題解決力を測定するための多様な評価方法について理解し、実践することができる。</p> <p>④質の高い学びを導く教育方法について理解することができる。</p> <p>⑤マクロな視点で日本の教育課程編成を理解し、教育課程編成の新たな可能性について提案することができる。</p>			
教授方法	講義。アクティブ・ラーニング（学生の能動的活動）を多く取り入れる。					
履修条件	小学校教員免許課程単独希望者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教育課程とは：本科目の目的と授業計画についての説明。小学校の事例を通して教育課程へのイメージを明確にした後、身近な事例を用いてカリキュラムのイメージを作成する。					
2	教育課程への視点、教育課程の法的根拠：経験カリキュラムと教科カリキュラム、顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラムについて学び、教育課程への理解を深める。学習指導要領の位置づけについて学ぶ。					
3	学習指導要領の誕生：昭和22年、26年学習指導要領を特色付ける経験主義、生活中心のカリキュラム、単元学習やコア・カリキュラムについて学ぶ。					
4	学習指導要領の変遷（1）：経験主義から系統主義への変遷、昭和43年学習指導要領を特色付ける理数教育、それらに影響を及ぼしたブルーナーの教育理論を理解する。					
5	学習指導要領の変遷（2）：昭和52年学習指導要領において教育問題への対応のために生まれた「ゆとり」は、平成元年の学習指導要領においてどのような解釈に至ったのかを学ぶ。					
6	学習指導要領の変遷（3）：平成10年学習指導要領の掲げる「生きる力」とは何か、教育課程にどのように反映されたのか、平成20年学習指導要領はそこから生じた問題点にどのように対処したかを学ぶ。					
7	新学習指導要領に向けて：新しい時代に向けてどのような力を育むのかについて考える。「社会に開かれた教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」について学ぶ。					
8	教育評価方法（1）：学びを課題解決力へと発展させるために評価方法をどのように変えるのかを考える。まずは、戦後から現在に至る評価方法の流れ、相対評価と絶対評価の問題点を理解する。					
9	教育評価方法（2）：ブルームの評価理論を学ぶ。行動目標の達成度を測定するための形成的評価（確認テスト）の手法を学び、実際に作成する。					
10	教育評価方法（3）：カリキュラム全体を網羅するような評価の工夫について学ぶ。KJ法を活用した社会（歴史）の評価に取り組む。					
11	教育評価方法（4）：「思考力・判断力・表現力」を含む高次の学力を測る評価方法を学ぶ。パフォーマンス評価への理解を深め、作成する。					
12	質の高い学びのための教育方法：アクティブ・ラーニングについての理解を深め、主体的・対話的な深い学びを導く教育方法を学ぶ。「生活科」における問題解決型教育方法について考える。					
13	総合的な学習：これからの時代における総合的な学習の意義について考える。イギリスやアメリカの事例を学び、総合的な学習の具体的な運営方法について理解する。					
14	外国の教育課程：教育が目指す方向性、人間形成のねらいは、日本も諸外国もほぼ等しいこと、しかしながら教育課程編成の手法は多様であることを学び、教育課程に対する広い視野を身につける。					
15	教育課程経営とその研究方法：経営という視点から学校と教育課程のサイクルを見る視点を学ぶ。また、教育課程経営の研究方法としての解釈的パラダイムについて学ぶ。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小課題	40	①課題の意図通りに作成、記述されているか。②よくよく練られた提出物であるか。③期日通りに提出できたか。		定期試験	40	論述試験は以下により採点する。①授業での学びを理解し、それを元に深く思考しているか。②適切な表現を用い、他者に伝わるよう努力して記述しているか。
受講意欲	20	聞き方、ノートの取り方、レジメや返却された課題等のファイル状況等から、主体的・意欲的に授業に参加しているか否かを見る。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①資料は数回分まとめて配布するので、予習として次回の分については目を通し、資料では不十分な点を自分で調べておく[40分]。</p> <p>②資料の整理、ノートの整理は事後学習として行い、次回の授業の冒頭で前回の復習として質問されても、素早く明確に返答できるようにしておく[40分]。</p> <p>③多くの小課題が出る。多くは復習（総括）を兼ねているので、授業を振り返りながら取り組む。</p>				提出小課題は数回課す。すべてコメントを記入して次回授業内にて返却するので、返却された課題に目を通し、自分の授業ファイル・ノートの適切な箇所に綴じておく。		
受講生に望むこと	常日頃、新聞等に目を通し、教育に関する記事に関心をもっておくこと。それらの記事をありのままに受け止めるのではなく、批判的に読むように心がける。最新の教育関連記事から授業を展開することもある。			教科書・テキスト	なし	
指定図書参考書等	なし／山崎保寿、黒羽正見『教育課程の理論と実践』学陽書房、2010年（ISBN978-4-313-61136-8） 片上宗二、木原俊行『新しい学びをひらく総合学習』ミネルヴァ書房、2001年（ISBN4-623-03468-2） 田中耕治『教育評価』岩波書店、2012年（ISBN978-4-00-028050-1）			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EE225U 道徳教育指導論		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	辻 直人						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>道徳教育は小中学校において必修と定められている。また、2018年度より小学校で、翌19年度より中学校で「特別の教科」として新たに道徳教育を強調する動きも見られ、様々な新しい試みが導入される傾向にある。しかし、いわゆる一般教科の指導と違い、「心」に関わる領域の指導はいくつかの留意すべき点を含んでいる。本講義では、学校で道徳を教えることの意味や道徳教育の歴史を学び、道徳教育のあり方について多角的に検討できるような視点を養うことを目標とする。また、道徳教育の指導方法についても紹介し、現代社会に求められる道徳教育像を模索したい。既に教育実習を経験した受講生には、自らの経験を踏まえて道徳の授業実践を実際に構想し報告してもらう機会も設ける。</p>			<p>①学校における道徳教育の意義について説明することができる。 ②「学習指導要領」の内容を理解している。 ③道徳教育指導案を作成することができる。</p>				
教授方法	授業中も積極的な発言を求める。毎回授業終了時に、授業にまつわる課題について意見を書いて提出する。自ら作成した指導案に基づいて模擬授業をする機会も設ける。						
履修条件	小学校教員免許課程単独希望者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション、授業内容、成績評価について。道徳教育をめぐる動向について。						
2	道徳教育は何を目指すのか？自ら受けてきた道徳教育を思い出し検討してみる。						
3	道徳教育の歴史 (1) 教育勅語と修身教育						
4	道徳教育の歴史 (2) 社会科の新設と直面した課題						
5	道徳教育の歴史 (3) 道徳の時間「特設」から「特別の教科」へ						
6	日本人の人間関係と道徳教育、主体性をめぐる考察						
7	道徳性の発達について						
8	道徳教育方法・教材論 (1) 『私たちの教育』						
9	道徳教育方法・教材論 (2) 読み物教材、伝達型教育法						
10	道徳教育方法・教材論 (3) 参加型教育法、様々なアクティビティによる道徳教育						
11	道徳の評価について、他教科との連携について						
12	現代社会と道徳教育						
13	道徳教育実践の検討 (1) 各学生による模擬授業 (Aグループ)						
14	道徳教育実践の検討 (2) 各学生による模擬授業 (Bグループ)						
15	道徳教育実践の検討 (3) 各学生による模擬授業 (Cグループ)、まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
中間課題	40	①講義内容を理解している。 ②道徳教育に対する意見を持っている。		模擬授業	40	①適切な授業観、児童観に基づいたテーマ設定、組み立て、教材準備等ができています。 ②教師役として授業を展開し、児童を指導することができる。	
リアクションペーパー	10	①授業を自分の言葉として捉えることができる。 ②与えられた質問や課題に即して解答している。		授業態度	10	①積極的に授業に参加している。	
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
授業で扱う教科書の該当箇所を毎回明示するので、予習復習をすること [30分]。道徳ないし道徳教育に関連ある報道に気を配ること (授業中に報告してもらう) [15分]。			中間課題やリアクションペーパーについては、次の回の授業でコメントを返す。模擬授業についてはその都度コメントする。				
受講生に望むこと	授業時間の中だけでなく、常日頃から、自らが教師として道徳の時間を担当した時の様子や教師が児童と関わる態度について、反省的に検討する姿勢を身に付けて欲しい。			教科書・テキスト	『道徳教育論』辻直人、ヴェリタス書房、2017年4月刊行予定、ISBN未定		
指定図書参考書等	なし/適宜授業中に紹介する			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE230U 特別活動指導論		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	幸 聖二郎						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、学校生活の中での望ましい集団活動を通して、子どものさまざまなコミュニケーション能力を、どのようにして高めていくかを探究するものである。</p>			<p>学校生活の中で、他者とかわるための方法や考え方をどのようにして身に付けさせるかを理解し、よりよい学校生活を創り出す方法を考えることができる。</p>				
教授方法	講義 グループディスカッション						
履修条件	小学校教員免許課程単独希望者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	「好きなことマップ」を作成し、交流し合う。						
2	特別活動の意義と教師に求められる資質、能力について理解する。						
3	望ましい集団とはどんな集団かを理解し、それを創り上げる手立てを話し合いから見つけ出す。						
4	特別活動の変遷を知り、その中の不易と流行を見つける。						
5	「学級活動」及び「児童会活動」の目標と内容を調べ、調べたことを交流し合い、理解を深める。						
6	「クラブ活動」及び「学校行事」の目標と内容を調べ、調べたことを交流し合い、理解を深める。						
7	構成的グループエンカウンターを学級活動に取り入れることの意義や目的について理解し、体験する。						
8	ソーシャルスキルトレーニングを学級活動に取り入れることの意義や目的について理解し、体験する。						
9	アイコンタクトゲーム及び拍手喝采ゲームを学級活動に取り入れることの意義や目的について理解し、体験する。						
10	ブックリスト交流会を学級活動に取り入れることの意義や目的について理解し、体験する。						
11	学級活動における話し合い活動の意義と目的について理解し、体験する。						
12	将来の夢を「宝地図」に表し、紹介し合う。						
13	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点及び特別活動と道徳との関連性について調べたことを交流し、理解を深める。						
14	生徒指導に生かす特別活動とは何かを理解し、予防開発型と問題解決型のアプローチについて理解する。						
15	自分が担任になったつもりで、学級目標を考え、経営案をまとめる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	40	本時の内容を自分の考えを入れてまとめて書けたか。		テスト	50	特別活動の内容を理解できたか。	
授業態度	10	真剣に話し合いに参加していたか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各時間の内容ごとに、事前に自分の在学した学校の活動内容を想起しておく。[30分]				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中以外にもメール等で受け付ける。メールアドレスは、受講者に知らせておく。 ・毎回の授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 			
受講生に望むこと	望ましい集団づくりに日頃から心がけてほしい。他の人とのかわりを大切に。			教科書・テキスト	小学校学習指導要領解説特別活動編 I S B N 9 8 7 - 4 - 4 9 1 - 0 2 3 7 9 - 3		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC200U 国語		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	中島 賢介・幸 聖二郎・金丸 洋子 (代表教員 中島 賢介)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>小学校学習指導要領の国語科の目標である「国語を適切に表現し正確に理解する能力の育成」「伝え合う力を高める」「思考力や想像力および言語感覚を養う」「国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」といった各項の理解や教育内容の基礎的な理解を図るとともに、言語活動例の体験的な学びを通して小学校教員および幼稚園教諭にふさわしい言語感覚や国語力を高める。</p>			<p>①国語を正確に表現し理解する力を体験的に理解している。 ②国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を養う。 ③小学校学習指導要領国語を正しく理解し、教育や保育活動に活用することができる。 ④グループ活動に主体的に参加している。</p>				
教授方法	講義、言語活動、グループ活動、フィールドワーク						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業内容の概要、進め方、方法、課題等の説明を聞き、授業への見通しをもつ。小学校全国学力テスト国語を体験し求められている学力について知る。					全員	
2	学習指導要領改訂の趣旨及び国語科改訂の要点、国語科の目標について理解する。					全員	
3	「話すこと・聞くこと」領域の目標や指導事項、言語活動例について理解する。					全員	
4	諺を用いて自分をプレゼンテーションしよう：「話すこと・聞くこと」を体験的に理解する。					全員	
5	相手の考えを引き出すインタビューをしよう：「話すこと・聞くこと」を体験的に理解する。					全員	
6	「書くこと」領域の目標や指導事項、言語活動例を理解する。					全員	
7	文字を正しくきれいに書こう：「文字や書写に関する事項」の基本事項を理解する。					全員	
8	新聞をつくらうー随筆・意見文・報告文ー：「書くこと」を体験的に理解する。					全員	
9	「読むこと」領域の目標や指導事項、言語活動例を理解する。					全員	
10	金沢市立玉川子ども図書館の見学やレクチャーをもとに、子どもの読書活動の充実を図るための読書指導について考える。					全員	
11	継承されてきた伝統的な言語文化を知ろう：継承されてきた伝統的な言語文化を映像をもとに理解する。					全員	
12	伝統的な言語文化に親しもう：狂言を演じ「伝統的な言語文化」を体験的に理解する。					全員	
13	エクササイズで自分の力を確かめよう：「言葉の特徴やきまりに関する事項」を体験的に理解する。					全員	
14	俳句や短歌を詠んでみよう：語彙を豊かにすることや言語感覚を磨くことの大切さを体験を通して理解する。					全員	
15	句会・歌会を開こう：鑑賞・助言・評価の活動を通して伝え合う力を高める。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
事前事後レポート	30	・事前にこれから学び事項を整理している。 ・事後に学んで理解したこと、考えたことなどについて表現している。		言語運用能力・表現力	20	・授業内容をもとに言語を運用し、体験的理解につなげている。 ・言語感覚が鋭く豊かな表現をしている。	
定期試験	50	・授業内容の基本的な理解や知識を習得しているかを評価する。筆記試験の詳細については授業内で指示する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①事前学習 後記の回では『小学校学習指導要領解説国語編』の特定範囲を読み、レポート1枚にまとめる。2回P1～P8 3回P12～P15 6回P16～P19 7回P47～P49. 73. 74. 99. 100 10回P19～P23 13回P24～P27 ②上記以外の事前・事後学習については、毎回の授業時に具体的に指示する。「マイことわざ集」「マイ歳時記」等の表現活動に伴う準備が主となる。 ③小学校国語教科書に紹介されている本の中から10冊を選びブックリストをつくる。</p>				<p>①事前課題については、提出前に評価のポイントコメントする。 ②課題に関する質問には随時回答する。</p>			
受講生に望むこと	国語はすべての教科の基礎であり、確固たる土台があってそれぞれの学習活動が展開できることを十分に認識して授業に臨んでほしい。（曖昧で消極的な態度は本人の学習のみならず、グループ内の活動を妨げることになる。）また、学習した内容を小学校や幼稚園の現場でどのように活用するかを考えながら授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説国語編』文部科学省 東洋館 2008年 ISBN-4-491-02371-7C3037 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008年 ISBN-978-4-577-81245-7C3037		
指定図書参考書等	なし/『日本語練習帳』大野晋 岩波新書 1999年 ISBN-00-430596-9 『日本語教室』井上ひさし 新潮新書 2011年 ISBN-978-4-10-610410-7/授業時に指示する。			その他・特記事項	日程上可能であれば、幼小連携の観点から小学校の国語科の研究授業を参観することもある。		

授業科目名	EC205U 算数		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	下村 岳人・浅岡 吉宏 (代表教員 下村 岳人)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>小学校学習指導要領をもとに算数の基礎的な知識と技能を身に付けるとともに、具体的に四領域における様々な算数的活動を通して、日常の事象について見通しをもち、筋道立てて考える能力を身に付けるべく、授業では様々な課題を設定して取り組む。さらに、様々な題材を多様な活動の中で取り扱いつつ算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活に生かすことができることを授業を通して学ぶなど、能動的に授業に参加することを求めていく。</p>			<p>①小学校算数科の目標及び内容を理解している。②小学校算数科の各学年の内容を理解している。③指導計画の作成と内容の取扱いについて理解している。④学習指導要領とその具体的表現としての教科書とのつながりを理解している。</p>				
教授方法	講義と演習						
履修条件	幼児保育コース学生						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価の方法等を知る。「何のための算数か」について考える。					下村・浅岡	
2	算数と言語・表現活動					下村	
3	算数と人間の活動					下村	
4	幼児期にみる算数					下村	
5	学習指導要領にみる算数科の内容「A：数と計算」について知り、その系統性を理解する。					下村	
6	学習指導要領にみる算数科の内容「B：量と測定」について知り、その系統性を理解する。					下村	
7	学習指導要領にみる算数科の内容「C：図形」について知り、その系統性を理解する。					下村	
8	学習指導要領にみる算数科の内容「D：数量関係」について知り、その系統性を理解する。					下村	
9	第1学年の算数科の内容を理解し、算数的活動を具体的・実践的に知る。					浅岡	
10	第2学年の算数科の内容を理解し、算数的活動を具体的・実践的に知る。					浅岡	
11	第3学年の算数科の内容を理解し、算数的活動を具体的・実践的に知る。					浅岡	
12	第4学年の算数科の内容を理解し、算数的活動を具体的・実践的に知る。					浅岡	
13	第5学年の算数科の内容を理解し、算数的活動を具体的・実践的に知る。					浅岡	
14	第6学年の算数科の内容を理解し、算数的活動を具体的・実践的に知る。					浅岡	
15	グループ毎に算数的活動を取入れた1時限の授業を構成し討議する。					浅岡	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
テスト	50	小学校算数科の目標及び内容について、キーワードを中心に記述形式で理解度を評価する。		レポート	40	授業感想及び、課題内容に応じたレポートを書くことができるか。	
授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①毎回の授業で出される課題に取り組み、次回の授業開始時に提出すること。[60分] ②授業の感想と振り返りを記入し、次回の授業開始時に提出すること。[20分]</p>				毎回のレポートは、採点及びコメントを付けて返却する。			
受講生に望むこと	できるだけ小学校公開授業週間等の授業や、学校行事（運動会等）を観望したり、教育支援ボランティアしたりして子どもの言動を学んでほしい。毎年4月実施される全国学力テストの問題を一読してほしい。算数・数学を好きになってほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説算数科編』文部科学省、東洋館出版社、2008年 I S B N 978-4-491-02373-1		
指定図書参考書等	なし/『小学校算数教科書1年～6年』東京書籍・啓林館株式会社、2010年 I S B N 978-4-487-10341-6			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC205U 算数		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	下村 岳人						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>小学校学習指導要領にみる、算数科の目標及び学年の目標について理解するとともに、それらの目標達成のために、現在算数科の各学年で実施されている内容に関しての理解を深めていきます。具体的には、算数科に設けられている四領域ごとの、教科書上での内容の取り扱いを概観するとともに、実際にそれらの内容を学習している子どものVTR記録を通して、それぞれの領域における特徴についても理解していきます。また、学習内容の理解を伴った、指導計画を作成することができるようになることを目指します。</p>			<p>①学習指導要領にみる小学校算数科における目標及び内容を理解する。②小学校算数科の指導内容について理解するとともに、その背景にある数学とのつながりについても理解する。③算数的活動を取り入れた指導計画の作成と内容の取り扱いについて理解する。</p>				
教授方法	講義と演習						
履修条件	小学校・児童教育コース学生						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価の方法等を知る。算数科の教科の目標を理解する。						
2	何のための算数教育か						
3	算数と人間の活動						
4	算数と言語・表現活動						
5	数と計算①（数の表し方）						
6	数と計算②（たし算とひき算）						
7	数と計算③（かけ算とわり算）						
8	量と測定①（量の性格、測定の4段階）						
9	量と測定②（面積公式）						
10	図形①（平面図形）						
11	図形②（空間図形）						
12	数量関係①（関数の考え）						
13	数量関係②（資料の整理と読み）						
14	数学的な考え方						
15	まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
テスト	50	小学校算数科の目標及び内容について、キーワードを中心に記述形式で理解度を評価する。		レポート	40	授業感想及び、課題内容に応じたレポートを書くことができるか。	
授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①毎回の授業で出される課題に取り組み、次回の授業開始時に提出すること。[60分] ②授業の感想と振り返りを記入し、次回の授業開始時に提出すること。[20分]</p>				毎回のレポートは、採点及びコメントを付けて返却する。			
受講生に望むこと	「算数なら教えられる」とよく言われます。しかし、本当にそうなのでしょうか。算数の問題を「解ける」からといって、算数を教えるのに必要なことが「わかっている」とは必ずしもいえません。算数を、教える立場からあらためて深く見直してもらいたいと思います。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説算数科編』 文部科学省 東洋館出版社 2008年 ISBN 978-4-491-02373-1		
指定図書参考書等	なし／『初等科数学科教育学序説』 杉山吉茂 東洋館出版社 2008年 ISBN 978-4-491-02308-3			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC220U 音楽		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	多保田 治江・福田 真紀（代表教員 多保田 治江）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
幼稚園教諭や小学校教員として必要な音楽科教育に関する基礎的な知識や能力を養うために、歌や演奏の土台となる音楽理論や楽典、ソルフェージュに加え、簡単な作曲、編曲の技法について学ぶ。また、リズム楽器や旋律楽器を使って簡単な合奏や独唱・重唱・合唱などの様々な表現形態についての理解を深め、豊かな感性を育むことを目的とする。児童教育コースと幼児保育コースの2つのコース別授業を5回行う。			①歌うことや演奏のための基礎知識を習得することによって、読譜することができる。 ②コード進行を学ぶことによって、簡単な作曲や編曲ができる。 ③リズム楽器や旋律楽器の奏法を習得することによって、簡単な合奏ができる。 ④様々な歌唱方法について理解を深める。 ⑤課題を発表する機会を持つことによって、歌や演奏のための準備について考えることができる。				
教授方法	実技指導						
履修条件	「音楽表現Ⅰ」、「音楽表現Ⅱ」、「器楽Ⅰ」の履修済が望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価の方法を理解する。 楽典Ⅰ・・・譜表と音名（楽譜の読み方について理解する。）					多保田	
2	楽典Ⅱ・・・拍子とリズム（楽譜の読み方について理解する。）音楽を聴いて歌ったり、楽譜を見て歌えるようにする。					多保田	
3	楽典Ⅲ・・・音符と休符・音程（楽譜の読み方について理解する。）音楽を聴いて演奏したり、楽譜を見て演奏できるようにする。					多保田	
4	様々な歌唱方法を身に付けるようにする。（1）発声・独唱					福田	
5	様々な歌唱方法を身に付けるようにする。（2）発声・重唱・合唱					福田	
6	様々な歌唱方法を身に付けるようにする。（3）発声・合唱					福田	
7	楽典Ⅳ・・・音階・和音（楽譜の読み方について理解する。）曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、工夫して歌えるようにする。					多保田	
8	楽典Ⅴ・・・楽式（楽曲の構成について理解する。）曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、工夫して演奏できるようにする。					多保田	
9	音楽を作って表現できるようにする。					多保田	
10	児童教育コースⅠ：歌唱教材についてⅠ…低学年の歌唱教材 幼児保育コースⅠ：日本の子どものうた					多保田	
11	児童教育コースⅡ：歌唱教材についてⅡ…中学年・高学年の歌唱教材 幼児保育コースⅡ：世界の子どものうた					多保田	
12	児童教育コースⅢ：器楽教材についてⅠ…低学年・中学年の器楽教材 幼児保育コースⅢ：楽器と音楽					多保田	
13	児童教育コースⅣ：器楽教材についてⅡ…高学年の器楽教材 幼児保育コースⅣ：子どもと音あそび					多保田	
14	児童教育コースⅤ：観賞教材について 幼児保育コースⅤ：聴く活動について					多保田	
15	和楽器に触れる。					特別講師	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	60	受講態度、課題への取り組み。（「受講生に望むこと」欄を参照）		小レポート	40	提出状況と内容（①毎回の授業ポイントを押さえまとめられている。②感想だけに終わらない自らの意見が述べられている。③自らの課題が設定されている。）	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べて下さい。[30分] ②次回授業のための課題について準備をして下さい。[60分]				①課題は、次回に採点して返却します。 ②小レポートは、次回の冒頭にコメントを付けて返却します。			
受講生に望むこと	①毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②個人で行う課題とグループで行う課題があるので、グループワークはチームワークよく課題に臨んでください。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』東京書籍 2014年 ISBN978-4-487-71121-5／『小学校 音楽科教育法』教育芸術社 2015年 ISBN978-4-87788-491-8／プリント		
指定図書参考書等	なし／なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC245U 器楽Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	多保田 治江・加藤 雅子・種池 有美子・土屋 尚子・南部 順子・福田 真紀 (代表教員 多保田 治江)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>器楽Ⅰで身に付けた個々の技能をさらに高める授業である。保育現場や初等教育で用いられている教材等の実践を通して、範唱や範奏ができるような音楽の技能を学ぶ。ピアノやキーボードを用いて、保育現場や小学校の授業で必要とされる弾き歌いや伴奏法等を学び、実践的な知識と技能を身に付けることを目的とする。授業は、グループレッスンと個人レッスンを並行して行う。グループレッスンでは豊かな感性と表現力を養うことをねらいとした課題を通して学ぶ。個人レッスンではコース別(児童教育コース・幼児保育コース)に受講クラスを分け、より適した楽曲を中心に学ぶ。</p>			<p>①ピアノ演奏のための基礎知識を習得することによって、演奏のための表現力を豊かにすることができる。 ②様々な音楽に触れることによって、演奏のための表現力を豊かにすることができる。 ③コードネームを見て伴奏づけをすることができる。 ④児童教育コースでは、小学校音楽科の歌唱教材や子どものうたの弾き歌いとリズム曲が演奏できるようにする。 ⑤幼児保育コースでは、子どものうたの弾き歌いとリズム曲が演奏できるようにする。 ⑥発表をする機会を持つことによって、演奏のための準備について考えることができる。</p>				
教授方法	実技指導						
履修条件	「器楽Ⅰ」の単位を修得済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価の方法を理解する。 演奏の基礎知識Ⅰ・・・音符・休符(楽譜の読み方について楽譜を通して理解する。)					多保田	
2	演奏の基礎知識Ⅱ・・・曲想・奏法に関する用語・記号(楽曲の性格や表情を表示する用語や記号について楽譜を通して理解する。)					多保田	
3	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法Ⅰへ長調入門(コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。) 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅰ					各担当教員	
4	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法Ⅱへ長調(コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。) 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅱ					各担当教員	
5	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法Ⅲへ長調(コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。) 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅲ					各担当教員	
6	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法Ⅳへ長調(コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。) 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅳ					各担当教員	
7	発表Ⅰ					全員	
8	グループレッスン：拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法Ⅰ…4分の4拍子 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅴ					各担当教員	
9	グループレッスン：拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法Ⅱ…4分の2拍子 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅵ					各担当教員	
10	グループレッスン：拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法Ⅲ…4分の3拍子 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅶ					各担当教員	
11	グループレッスン：リズム楽器とその種類 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅷ					各担当教員	
12	グループレッスン：旋律楽器とその種類 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅸ					各担当教員	
13	発表Ⅱ					全員	
14	グループレッスン：身近な素材を用いた手作り楽器 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅹ					各担当教員	
15	グループレッスン：合奏編曲法 個人レッスン：各コースに応じた楽曲?					各担当教員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	40	受講態度、課題への取り組み。(「受講生に望むこと」欄を参照)		発表Ⅰ	30	発表への取り組む姿勢・内容	
発表Ⅱ	30	発表への取り組む姿勢・内容					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①グループレッスンでは、毎回の授業で出される課題を演奏できるように練習して下さい。[30分] ②個人レッスンでは、各コースに応じた楽曲を練習して下さい。[60分] ③各コースに応じて履修曲数が決まっているので、プランを立てて授業準備をして下さい。				課題は、次回に個人指導します。			
受講生に望むこと	①毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②単にピアノを練習するだけではなく、ピアノ作品をCDなどで聞いてみることや楽語でわからない用語や記号は調べて下さい。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』東京書籍 2014年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『RHYTHMS for CHILDREN』北陸学院大学編集 2010年 / 『小学校音楽科教育法』教育芸術社 2015年 ISBN978-4-87788-491-8 / バロックから現代までのピアノ作品 / プリント		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC250U 保育課程論		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	熊田 凡子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>保育課程とは、子ども理解を通じて、子どもの生活に重視した具体的な保育方法を考えることである。本授業では幼稚園や保育所、認定こども園における生活等を理解し、各園があるいは、各々の教育・保育者が子どもにとってふさわしい生活を描き出すことを「保育課程」として学ぶ。保育課程における長期・短期指導計画の意味を理解し、実際の計画を試みる。特に、日本における幼児教育の歴史から鑑み、今日的課題を見出すことにより、保育におけるカリキュラムを通して幼児教育を本質的に理解する。</p>			<p>①日本における幼児教育の歴史の変遷、なかでも幼稚園創設期より保育の根源を理解する。 ②日本における保育カリキュラムの変容を理解し保育の内容・方法の本質を捉える。 ③年間のカリキュラムについて理解し、各年齢の子どもの生活をイメージする。 ④行事等の通常と異なる保育の意味を理解する。 ⑤子ども理解を通じて、保育を計画し、実践し、振り返ることの意味を理解する。 ⑥様々な保育の形態があることの意味を理解する。 ⑦キリスト教保育における保育課程について、子どもを理解する視点を中心に捉える。</p>				
教授方法	講義・ワーク（個人・グループ）						
履修条件	教育学概論・保育原理を履修済、幼稚園教育実習Ⅰを履修中であることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	保育課程とは何か。幼児教育の変遷から考える。						
2	保育課程の変遷（1）明治初期の起源から学ぶ。						
3	保育課程の変遷（2）大正・昭和戦前期のカリキュラムの特徴を学ぶ。						
4	保育課程の変遷（3）戦時下・戦後の保育要領を中心に学ぶ。						
5	保育課程の変遷（4）現行の要領に通底する本質を捉える。						
6	現代の乳幼児の実態から一日の保育を考える。						
7	一日の中で行われる主活動及びお集まり・お片づけ・お帰りの時間とは何か。子どもの立場になって考える。						
8	養護と教育について実感を通して、幼児教育を本質的に理解する。						
9	発達の過程を具体的に考える。生育歴等の意味を理解する。						
10	保育におけるカリキュラムの意義と目的を把握する。						
11	通常以外の保育の（行事を中心に）意味について、子どもの視点になって考える。						
12	保育の評価・要録について、子ども理解の視点を中心に、考える。						
13	保育思潮から世界の保育課程について知る。						
14	現代社会における多様な保育とは、どのようなことか、子どもの・親・教育・保育者の立場で考える						
15	キリスト教保育における保育課程について、子どもを理解することを中心に考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
中間試験	30	①保育課程について歴史の変遷を把握し、本質的な理解ができる。 ②保育課程に関する用語等を理解できる。		授業態度及びレポート	20	①積極的に学ぼうとしている。	
期末試験	50	①保育課程について理解している。 ②子どもの発達過程に関する理解ができています。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各回の授業内容について、事前に情報を収集し提供できるよう準備する。[60分]				レポート及び試験では、採点したものを返却する、あるいは個別に応じ助言する。			
受講生に望むこと	本講義では、まず保育の歴史理解を中心に、幼児教育の起源から学び直します。保育制度等が目まぐるしく変化していく中で、何が大事か常に問う姿勢を持って授業に参加ください。			教科書・テキスト	『現場の視点で学ぶ保育原理』上野恭裕・大橋喜美子編 教育出版 2016年 ISBN978-4-316-80409-5		
指定図書参考書等	なし／『指導計画の作成と保育の展開』文部科学省 フレーベル館 2013年 ISBN978-4-577-81350-8 ・『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館 2008年 ISBN978-4-577-81242-6 ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 2008年 ISBN 9784577812457			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC255U 保育内容総論		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	大井 佳子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>子どもは遊びを通して学ぶ・・・保育では周知のことである。しかし、このことを理解するのは容易ではない。本科目では、様々なテーマで集団場面での遊びのプランを考え、模擬保育として実践（保育者は原則ノンバーバル）することを通じて「総合的に指導する」という幼児期の指導の仕方を理解し習熟を目指す。模擬保育のプラン・指導計画を考え、保育者として準備、実践し、実践を振り返り見直すことを少人数のグループで担当する。また当日の模擬保育担当外の履修者は子ども役で遊びに参加する。保育者としての体験と子どもとしての体験（場合によっては保護者等としての体験）によって、体感を通じて、幼児の目で見ること、幼児の姿を予想して5領域で遊びのねらいを考えること、幼児に響くように遊びを提起すること、保育者仲間と協働することについて習熟する。様々なグループの模擬保育から多様な遊びの可能性とその展開（連続性）を知り、遊びにおける環境の構成と保育者の役割について理解を深める。</p>			<p>①幼児の目で見ること、幼児の姿を予想して5領域で遊びのねらいを考えること、幼児に響くように遊びを提起すること、保育者仲間と協働することについて習熟する。様々なグループの模擬保育から多様な遊びの可能性とその展開（連続性）を知り、遊びにおける環境の構成と保育者の役割について理解を深める。</p> <p>②子どもになって遊ぶ体験によって、幼児が遊びを通じて得る心情・意欲・態度に気づき、生起する学びを考えることができる。</p> <p>③教材について、幼児が使用する姿を想像し、安全を考え、ていねいに製作することができる。</p> <p>④環境の構成において、幼児の動線や視線を想像し、安全とともに幼児の挑戦意欲の喚起に配慮して環境図に書くことができる。</p> <p>⑤各回の模擬保育のテーマについて熟考し、テーマをより深く理解するために資料を参照し、実際にやってみることで材料や教材、環境の構成を工夫するといった様々な教材研究の方法を体験的に知る。</p> <p>⑥指導計画の立案にあたって幼児の姿を予想し、ねらいを考えることができる。</p> <p>⑦模擬保育の遊びの準備と実践において保育者としての協働を経験する。</p> <p>⑧様々なグループの立案した遊びの実践から学び、自らの指導計画立案に生かすことができる。</p>				
教授方法	模擬保育・ロールプレイ・討議・発表						
履修条件	保育内容 健康1・人間関係1・環境1・言葉1・表現1、保育課程論、幼稚園教育実習Ⅰを履修している（履修を含む。単位取得は問わない）ことを原則とする。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：与えられたテーマで模擬保育（チーム保育）し、他の学生は幼児としてロールプレイする本授業の構成と各回のテーマの意味を理解する。写真絵本の制作と教材研究ノートの作成について理解する。						
2	子どもになって遊んでみる。例えば、普段は遊具としては使わない様々な大きな布を用意すると、大人が予想しない新しい遊びや挑戦が子どもたちから生まれる。遊びが生まれる環境について考え、指導計画に書いてみる。						
3	模擬保育①「心情・意欲・態度」例えば、魅力的なシッポを用意し生まれる遊びを多く予想する。子どもの心と身体が動く素材・形・大きさ、提示の仕方、環境の構成を工夫する。						
4	模擬保育②「苦手な子どももしたくなる」例えば、汚れるのがイヤな子どもが汚れるのを気にせず没頭するような遊びの流れを工夫する。						
5	模擬保育③「苦手感を忘れる運動会」運動会を「紐」で構成してみる。運動会という園行事のねらいについても考える。						
6	模擬保育④「通常とは異なる使い方」廃品や家具・道具を使い、「じゃあ、これは！」と子どもの発想が湧き上がるように遊びを提案する。						
7	模擬保育⑤「自然物を使ってするなりきり遊び」遊びに用いることのできる自然物を狭く想定しない。自然物だからこそ生まれる「なりきり遊び」を考える。						
8	模擬保育⑥「子どもの研究心を引き出す」遊びで子どもは何をどのように試し、何をどのように発見しているのかに着目して遊びを考える。2歳児の研究・3歳児の研究・4歳児の研究・5歳児の研究について知る。						
9	模擬保育⑦「ごっこ」子どものふり遊び・みたく遊び・ごっこ遊びについて理解し、実際の子どもの生活体験に基づいて展開する「ごっこ遊び」を設定する。						
10	模擬保育⑧「発表会につながる遊び」音発見から劇づくりをする指導計画のスタートの遊びを考える。						
11	模擬保育⑨「発表会につながる遊び」オノマトペを遊び、オノマトペでの劇・遊戯・合奏に展開する。そもそも「発表会」とは何か、その意味を考える。						
12	模擬保育⑩「空間を遊ぶ」人にとって空間のもたらす安心感は大きく、また何に安心を感じるかの個人差も大きい。空間そのものを遊びの対照として考えてみる。						
13	各自の作成した写真絵本を用いて模擬保育し、一つのものを用いた複数の指導計画を立ててみる。						
14	授業で実践された遊びをヒントにして連続する長期の指導計画に組み立てる。						
15	まとめ：14回までの授業を振り返って生じる質問に答える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	遊びのプラン・指導計画立案課題で教材・環境構成・連続性についての理解、子どもの姿の予想、学びの読み取りとねらいの設定を見る。		模擬保育	20	グループで協働し十分に工夫・準備されていること。言葉で子どもを動かす指導にならないよう環境構成がなされていること。	
指導計画	10	担当模擬保育の指導計画が求められる項目で立案されているか。		教材研究ノート	30	各授業回に示される課題でレポートされていること。工夫した綴りに作成されていること。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
模擬保育の振り返りを中心に各授業回に課題設定されるレポート[1時間程度]。模擬保育のための準備の活動[長時間を要す。早期からの取り組みが必要]。写真絵本・教材研究ノートの制作[各2～10時間程度]。				提出されたレポートの内容を次回授業での講義に反映。			
受講生に望むこと	子どもになって遊べるスタイルで授業に参加すること。保育で身近において用いられることの多い道具は常備していること。教材の材料になるものを身近にみつけ収集しておくこと。「子どもの目」に関心を持ち、生活で出会う子どもたちが何をどのように見ているかをよく観察すること。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008年 ISBN：978-4-577-81245-7 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館2008年 ISBN：978-4-577-81242-6 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2015年 ISBN：978-4-577-81373-7（要領・指針の改訂に伴って発行が予定されている各『解説』が追加される）		
指定図書参考書等	なし/『遊びづくりの達人になろう！子どもが夢中になってグリーンと成長できる ＊歳児の遊び55』（5歳児・4歳児・3歳児の全3巻）竹井 史 編著 明治図書出版 2011年			その他・特記事項	・やむなく欠席した場合は、欠席した授業の内容に応じた課題でレポートにまとめ、当日の配布指導計画とともに教材研究ノートに入れられるようにすること ・履修者の人数によって模擬保育の回数と内容が若干変更されることがある		

授業科目名	EC265U 保育内容・健康 I		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田邊 圭子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>明るく、元気に、のびのびと遊ぶ子供たちの姿から、誰もが「子どもらしさ」を感じるであろう。このように、子どもが子どもらしく心身共に健康な生活を送るために私たちは何をすべきだろうか。この授業では、幼児の心身の発達や安全について理解するとともに、現代の子ども達の実態と照らし合わせながら、健康な子どもに育てる保育の内容と方法について学ぶ</p>			<p>①子どもに向き合う大人の一人として、自らの健康や健康な生活について理解し実践する。 ②授業を通して、子どもの健康について理解している。 ③これまで経験してきた実習場面と授業で学ぶ内容を照らし合わせることで、理論と実践を関連付けて理解している。</p>				
教授方法	講義14回、外部講師による講義1回（石川県健康福祉部少子化対策監室母子保健・食育グループ職員）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要説明；授業の進め方、成績評価の方法について説明し、「健康」とは何か、またそれはなぜ必要なのか、そもそも子ども達にこれから向き合おうとしている自分自身は健康であるか等、子ども達の健康を考える前に自分たちの身近にある「健康」について様々な角度から考える。						
2	幼稚園教育要領「健康」のねらい及び内容；領域「健康」は「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」ではどのようにとらえられているのか。そして、何を指しているのか。他の領域との関係はどのようにとらえればいいのかについて考える。						
3	「健康な子ども、元気な子供の姿」：「子ども」について多角的にイメージを膨らませる						
4	保育現場・教育現場で気になる子どものからだ；現場の教職員が感じている子どものからだのおかしさを取り上げ、現代の子ども達の健康課題について理解する。						
5	子どもの健康を取り巻く現状；乳幼児の健康課題と対応策について理解する。						
6	生活リズムの獲得（睡眠）；生活リズムの獲得について、子どもの睡眠から理解する。						
7	石川県健康福祉部少子化対策監室母子保健・食育グループ職員による講演						
8	「恒温の獲得」；暑さや寒さに対する人間の体の恒温獲得について理解する。						
9	「五感の獲得」；五感の働きと発達のプロセスについて理解する。						
10	子どもの体の発達；子どもの体の発達について理解する。						
11	子どもの心の発達；子どもの心の発達について、特にパーソナリティーの形成を中心に理解する。						
12	子どもの運動の発達；子どもの運動発達と分化と統合のプロセスについて理解する。						
13	子どもの体力；子どもの体力向上について、大人との違いから理解する。						
14	子どもの概念形成；子どもの概念形成について、大人との違いから理解する。						
15	子どもとディスプレイ機器；子どもとディスプレイ機器について、長所、短所両面から考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
小テスト	30	授業内容を理解しているか。	レポート	40	課題に対して独りよがりな思いに終始するのではなく、基本的な内容を踏まえて述べられているか。		
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>①教科書を読み、授業に備える[20分] ②授業で配布した資料を読む[20分] ③子どもの健康に関するニュースや新聞記事に目を通し、考えを深める[60分]</p>			<p>①小テストは次の回に採点及びコメントを付記して返却します。 ②レポートは2週間以内に評価とコメントを付記して返却します。</p>				
受講生に望むこと	子ども達にとって健康であることは、様々な活動に対して積極的に取り組むために必要なことです。受講生各自が描く、健康な子どもの姿のためには何が必要なのか、自分が子どもに向き合った時に何をすべきなのかを考えながら受講してください。		教科書・テキスト	『幼稚園教育要領』、フレーベル館、2008年、ISBN978-4-577-81240-2C3037 『保育所保育指針』フレーベル館、2009年、ISBN978-4-577-81241-9C3037 『演習保育内容 健康—大人から子どもへつなぐ健康の視点』、井符芳子 著、萌文書林、2014年、ISBN978-4-89347-209-0C3037			
指定図書参考書等	関連図書やテレビ番組などは授業の中で随時紹介する。関連記事はプリント配布する。		その他・特記事項	外部講師による講義1回（石川県健康福祉部少子化対策監室母子保健・食育グループ職員）の実施回及び実施日に変更がある場合がある。実施日は事前に連絡する。			

授業科目名	EC270U 保育内容・言葉Ⅰ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	熊田 凡子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
乳幼児期は、言葉を獲得していく時期である。「保育内容・言葉Ⅰ」では、子どもがどのように言葉を獲得していくのかについてを学び、子どもの言葉の育ちとどのようにかかわり豊かな言葉を育てていくのか、保育者の役割と援助について考えていく。次年度の実習Ⅱを見据えて保育実践「語ること」を中心に教材実践研究を行い、「言葉」を中心とする活動内容の工夫と指導計画について学ぶ。			①子どもの育ちと言葉について関心をもつ。 ②言葉のリズムを感じとり、言葉のリズムを意識して話すことができる。 ③「語る」ことの意味を実践を通して理解する。 ④子どもから豊かな言葉を引き出す教材について歴史を学び、実践する。 ⑤「言葉遊び」の指導計画を立案する。 ⑥非言語的なコミュニケーションによって子どもの心情を読み取れる遊びを体験する。 ⑦領域「言葉」における保育者の役割を理解する。				
教授方法	講義・個人でのワーク・グループでのワーク						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	子どもの育ちと言葉：子どもはどのように言葉を身につけていくのだろうか。「幼稚園教育要領の改訂のポイント」（別冊「発達」29ミネルヴァ書房）と「にほんご」（福音館書店）を資料として考える。						
2	言葉のリズム：心地よい言葉のリズムを遊び楽しみながら言葉に対する豊かな感覚を養う。詩の朗読や、擬音語・擬態語を楽しんで学ぶ。						
3	言葉のリズムを表現する：擬音語・擬態語を効果的に使っている素話を語ることで、言葉のリズムのおもしろさや楽しさ、心地よさを感じて表現できる感性を養う。						
4	「語る」ことを通して、感覚的に伝え合うことを身につける。						
5	言葉を豊かにする保育～児童文化財の活用～：子どもの言葉を豊かに育む児童文化財について学ぶ。応答を楽しむオリジナル教材に親しむ。						
6	応答を楽しむ教材実演を通して、保育者の役割を考える。						
7	応答を楽しむ教材実演を通して、保育者の役割を理解する。						
8	言葉の獲得期について理解する。乳児期の遊びについて考える。						
9	言葉遊び（1）：動作をともなう「言葉遊び」と実践						
10	言葉遊び（2）：言葉の意味や仕組みを楽しむ「言葉遊び」と実践						
11	言葉遊び（3）：「言葉遊び」を楽しむ環境の条件・保育者の配慮等についての学びを踏まえて、「言葉遊び」の指導計画を立案する。						
12	幼児期の言葉の世界と保育者の役割（1）：領域「言葉」の視点から、保育者が幼児に働きかけていく際の役割について学ぶ。						
13	言葉以外の表情や身振りについて：子ども理解には、言葉以外の表情や身振りの読み取りが重要であることを学ぶ。子どもとの表情や身振りでやりとりする活動（楽器やボール等）で遊ぶ。						
14	幼児期の言葉の世界と保育者の役割（2）：領域「言葉」の視点から、保育者が幼児に働きかけていく際の具体的な援助について学ぶ。						
15	子どもの生活と文化：領域「言葉」の視点から、子どもの生活と文化について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業参加態度	40	授業への取り組み姿勢	課題	30	課題の実演と内容、提出状況		
臨時試験	30	保育内容「言葉」についての理解					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①子どもの発達とことばについて調べレポートとしてまとめる。[60分] ②素話を暗誦し実践を通して、「語る」ことについてレポートする。擬音語・擬態語に着目した実践を近隣の実習園で行う。（5月中）[90分] ③児童文化財の歴史背景を調べてレポートし、その教材の実演準備をする。[120分] ④応答を楽しむ視聴覚教材を調査し、遊びを計画する。[120分]			授業の中で振り返り、応答し合う中で、理解を深める。教材実演発表に対する助言。				
受講生に望むこと	保育者を目指す者として、常に保育内容を総合的に把握するよう努めてください。		教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ 保育内容総論』開仁志編 保育出版社 2016年 ISBN978-4-905493-19-8 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 2008年 ISBN 9784577812457 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 ルーペ®館 2008年 ISBN978-4-577-81242-6 			
指定図書参考書等	<ul style="list-style-type: none"> 『絵本から擬音語擬態語ぶちぶちーん』後路好章 アリス館 2005年 ISBN978-4-7520-0317-5 『にほんご』安野光雅・大岡信・谷川俊太郎・松居直 福音館書店 1979年 ISBN 978-4-8340-0762-6 ／必要に応じて随時提示する。		その他・特記事項	なし			

授業科目名	EC275U 保育内容・人間関係Ⅰ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	大井 佳子					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>保育における指導とは、幼児の遊ぶ姿から、どのような学びが起こっているのかを読み取り、その学びを支えるように環境（人・モノ・空間・時間）を構成することによって行われる。学びの読み取りと構成のための視点が5領域で、本科目の「領域 人間関係」は2番目に置かれ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として文科省が示す10項目の多くと関連する領域である。本科目では、指針・要領が示す領域 人間関係の諸項目を手遊びや歌遊び、ゲーム等の園生活では馴染みの活動を独自にアレンジした模擬保育を通して理解する。少人数グループで保育者として模擬保育をプランし教材を製作して実践すること、活動に子どもとして参加して感じるということ異なる視点での体感を総合することによって、幼児の心情・意欲・態度に添って指導計画を考えることにつなげていく。また、身の周りの子どもで観察したエピソードと照合し、読み取る力を養う。</p>			<p>①「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」の「領域 人間関係」のキーワードの意味を理解し、具体的な子どもの姿やエピソードを思い描くことができる。 ②子どもの姿を思い浮かべ模擬保育で子ども役で動くことができる。 ③模擬保育で、教材を使って子どもに語りかけ、子どもの姿に応じて応答的にかかわることができる。 ④模擬保育のために、自分らしく独創的な教材を製作し、使い方を工夫することができる。 ⑤環境図を使って遊びのプランを書くことができる。 ⑥乳幼児期の人とのかかわり、コミュニケーションの発達のポイントを把握している。</p>			
教授方法	模擬保育・ロールプレイ・討議・発表・講義					
履修条件	保育原理・発達支援論を履修済（単位の取得は問わない）であり、保育課程論・発達心理学を履修中（済）であることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：「保育内容 人間関係」という領域についての概説。模擬保育とエピソード収集について内容と目的を理解する。模擬保育担当グループの決定。					
2	ノンバーバルで遊んでみて、自分の心の動きを把握する。行動から他者の心の動きを読み取る。 キーワード：「共に過ごす」					
3	ノンバーバルで二人で遊んでみる。三人で遊んでみる。多数で遊んでみる。その違いから子どもの遊びにおける他者の存在について考える。キーワード：「友達」「自己発揮」					
4	お集まりして教材を用いて模擬保育① キーワード：「自分で」（自己主張・自我）					
5	お集まりして教材を用いて模擬保育② キーワード：「やり遂げようとする気持ち」（満足感・達成感）					
6	お集まりして教材を用いて模擬保育③ キーワード：「伝える・気づく」（自己発揮・自己抑制）					
7	お集まりして教材を用いて模擬保育④ キーワード：「協力」（協同）					
8	お集まりして教材を用いて模擬保育⑤ キーワード：「善悪の基準」（自分の視点とは異なる視点）					
9	お集まりして教材を用いて模擬保育⑥ キーワード：「思いやり」（共感・異なる他者の気持ち・立場）					
10	お集まりして教材を用いて模擬保育⑦ キーワード：「きまり・ルール」（規範意識の芽生え）					
11	お集まりして教材を用いて模擬保育⑧ キーワード：「共同の」（公共心）					
12	お集まりして教材を用いて模擬保育⑨ キーワード：生活に関係の深いいろいろな人（親しみ）					
13	お集まりして教材を用いて模擬保育⑩ キーワード：異年齢児					
14	乳幼児期の人とのかかわりの発達：乳児期を中心に未満児のエピソードから考える。					
15	乳幼児期の人とのかかわりの発達：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考に3歳以上児のエピソードから考える。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	40	「領域 人間関係」のキーワードと関連する基礎的概念の理解・エピソードからの読み取り・遊びのプランの作成		模擬保育	30	遊びのプランの作成・遊びの工夫・独創的な教材・提示と展開
レポート	20	収集エピソードを含め、各授業回に示される課題に応じて記載されていること。		研究ノート	10	資料の整理の仕方・魅力的な装丁
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
キーワードについて調べることと模擬保育の振り返りを中心に各授業回に課題設定されるレポート[1時間程度]。エピソードの収集[適宜]。模擬保育のための準備の活動（教材製作を含めて長時間を要す。早期からの取り組みが必要）。研究ノートの製作[2～10時間程度]。				提出されたレポートの内容を次回（以降）の授業での講義に反映。		
受講生に望むこと	子どもになって遊べるスタイルで授業に参加すること。保育で身近において用いられることの多い道具は常備していること。教材の材料になるものを身近にみつけ収集しておくこと。「子どもの目」に関心を持ち、生活で出会う子どもたちの動きや言葉、視線に関心を寄せること。			教科書・テキスト	<p>『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008年 ISBN：978-4-577-81245-7 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館2008年 ISBN：978-4-577-81242-6 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2015年 ISBN：978-4-577-81373-7（要領・指針の改訂に伴って発行が予定されている各『解説』が追加される）</p>	
指定図書参考書等	なし/『遊びづくりの達人になろう！子どもが夢中になってグリーンと成長できる * 歳児の遊び55』（5歳児・4歳児・3歳児の全3巻）竹井 史 編著 明治図書出版 2011年			その他・特記事項	<p>・幼稚園教育実習Ⅰの履修予定者は本科目の履修を前提として幼稚園教育実習指導Ⅰの授業が行われることを了承いただきたい。 ・研究ノート（授業レポート・エピソード綴り）は定期試験の持ち込み資料となる。日常的にノートを作成・整備すること。やむなく欠席した場合も、授業の内容に応じた課題でレポートにまとめて研究ノートに入れること。 ・履修者の人数によって模擬保育の回数と内容が若干変更されることがある</p>	

授業科目名	EC280U 保育内容・表現 I		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田邊 圭子・多保田 治江・向出 圭吾 (代表教員 田邊 圭子)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
この学科目は、幼稚園教諭一種免許取得にかかわる教職に関する科目である。豊かな感性や創造性は、子どもが生活の中で心を動かす出来事に出会い、自分の感情や経験を豊かに表現する機会を持つことにより養われる。さらに、様々な表現方法を子どもなりに獲得し、楽しんでいけるような環境の中で育まれていくものである。そうした子どもの意欲を受け止め、十分に発揮させられるような指導のあり方を学ぶ。			①子どもの表現が生活の中でどのように育まれるかについて理解を深める。 ②子どもの身体表現を保育活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 ③子どもの音楽表現を保育活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 ④子どもの造形表現を保育活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 ⑤表現を支える保育者の役割と支援について理解を深める。				
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：表現全体に関する授業オリエンテーション。今後の授業の流れ、受講方法など。 身体表現オリエンテーション：「身体表現とは何か」について、領域「表現」との関連から考え、理解する。					田邊	
2	身体表現遊び1：「動きの発見」・・・自分の身体が様々な動きことや、外に向かって様々な情報を身体の動きで発信していることに気づく。					田邊	
3	身体表現遊び2：「模倣遊び」・・・他者の動きや人間以外の物の動きを自分の身体を用いて模倣する。					田邊	
4	身体表現遊び3：「物を使って動く」・・・物を使った身体の動きを工夫する。					田邊	
5	身体表現遊び4：「作品発表と鑑賞」・・・グループの作品を発表鑑賞する。					田邊	
6	幼稚園教育要領における領域「表現」について理解を深める。 子どもの発達と音楽表現：子どもの声域について文献を通して理解する。拍の流れを感じ取ってうたいながら遊ぶ。					多保田	
7	保育所保育指針における領域「表現」について理解を深める。 生活の中にある様々な音 (1)：生活の中に様々な音があることに気づく、感じる。					多保田	
8	生活の中にある様々な音 (2)・・・生活の中にある音素材を用いて「音のアンサンブル」を作る。					多保田	
9	作品づくり・・・グループに分かれ課題曲にふさわしい楽器の選択と楽器演奏を考える。					多保田	
10	「作品発表と鑑賞」・・・グループの作品を発表鑑賞する。					多保田	
11	描く：大きな紙いっぱいに思いっきり絵を描く。					向出	
12	粘土でつくる：粘土の感触を味わいながら作品を作る。					向出	
13	紙、空き箱、牛乳パックなどでつくる：身近な素材の特色を生かして作る。					向出	
14	劇遊びをする：道具、小物を一切使わず、身体だけで即興劇を行う。					向出	
15	子どもの表現とは何か：子どもの表現について考える。					向出	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	30	授業への取り組み姿勢		授業で出される課題や発表	50	課題や発表に取り組む姿勢と内容	
レポート	20	・毎回授業の感想・質問等を書く小レポートへの取り組み (多保田) ・授業及び作品制作の感想、身体表現に関するレポート (田邊) ・課題や作品に対するの自分なりの気づき、学びに関するレポート (向出)					
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
①毎回の授業後に自身で振り返り、不明点を調べてくる [60分] ②次回授業のための課題について準備する [60分]			・毎回課す小レポートは次回コメントを付記し返却する (多保田) ・授業最終日に課すレポートは2週間以内にコメントを付記し返却する (多保田、田邊、向出)				
受講生に望むこと	この授業は3名の教員が各5コマ担当するオムニバス科目です。また、演習科目で系統的に授業が展開します。積極的な授業参加を望みます。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領』、フレーベル館、2008年、ISBN978-4-577-81240-2C3037 『保育所保育指針』、フレーベル館、2009年、ISBN978-4-577-81241-9C3037 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 2008年、ISBN：9784577812457 / 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館、2008年、ISBN：9784577812426 『子どもの音楽表現』、石井希子、保育出版、2009年、ISBN978-4-938795-78-8		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EN250U 児童家庭福祉論 I		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	虹釜 和昭						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>児童福祉の変遷、歴史、児童憲章、児童の権利宣言、子どもの権利条約などの基本理念を学ぶ。児童家庭の生活実態とそれを取り巻く社会情勢を理解する。また児童福祉法の理念を理解し、子どもにとって最善の利益とは何か、子どもの権利保障の体系、子ども家庭福祉制度、親権と子どもの権利擁護とは何かを学び、児童福祉施設の基本的機能、子ども家庭福祉の現代的課題を明確にする。少子高齢社会における、社会環境・家族構造の大きな変化をふまえ、児童・家庭分野にかかわる社会問題を考察する。</p>			<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解している。 2. 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解している。 3. 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解している。 4. 児童家庭福祉の現状と課題について理解している。 5. 児童家庭福祉の動向と展望について理解している。 				
教授方法	講義を中心に展開するが、提示課題によるグループディスカッションも含む						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	家族・家庭とは何か、家族・家庭の定義と社会制度としての家族・家庭における子ども観を把握する。少子化の進行、子育て環境を巡る現状、家族の変容と社会的要因を考察し家族・家庭機能の変化、子ども家庭福祉のニーズを理解する。						
2	子ども家庭福祉の原理について、子どもの特性と発達ニーズ、理念、権利保障、児童憲章・児童福祉法の理念、子どもの権利条約について学ぶ。子どもの権利の特徴である受動的権利と能動的権利の二面性、その確立の過程を理解する。						
3	児童福祉の発展の理解。日本の児童福祉の歴史、特に明治期の児童福祉の萌芽から「石井十次」、「留岡幸助」をはじめとした足跡、その思想理念を理解する。欧米の歴史については、イギリスの児童保護から始まる歩みから、アメリカの近代的児童福祉思想を理解する。						
4	児童家庭の権利保障および支援の核となる児童福祉六法（児童福祉法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法、母子保健法、指及び寡婦福祉法、児童手当法）の概要を理解する。また関連法である、児童虐待防止法、DV 防止法、などもあわせて学ぶ。						
5	子ども家庭福祉の実施体制、行政機関と関連機関の機能を理解する。国及び地方自治体、児童福祉の各審議機関の機能、児童相談所、福祉事務所、保健センターの概要を学ぶ。児童福祉施設の種類とその運営内容など基本的機能を理解する。						
6	子ども家庭福祉の専門職を学ぶ。児童相談所・福祉事務所・家庭児童相談室などの関係機関に配置されている職員の資格と職務を理解する。また、児童福祉施設の専門職員と資格について、その具体的な専門的機能を理解する。						
7	母子保健を中心に学ぶ。母子保健の目的、歩み、乳幼児死亡率の傾向、健康診査・健診内容や保健指導・訪問指導などの具体的な制度を理解する。母子健康手帳、予防接種、自立支援医療、小児慢性特定疾患治療研究事業を理解する。育児支援についても理解する。						
8	障害・難病のある子どもと家族への支援を学ぶ。障害児及び家族の愛情とニーズ、障害児の支援に関する制度、障害児教育、特別児童扶養手当・障害児福祉手当などの経済的支援、難病に子どもの支援に関する制度を学ぶ。						
9	児童健全育成を学ぶ。児童健全育成の目的と内容、健全育成施策の現状としての地域組織活動、児童厚生施設、放課後児童健全育成事業の現状と課題、児童手当制度の制度変更の内容などを中心に理解を深める。						
10	保育制度を学ぶ。保育制度の概要と保育の実施体制、保育制度の変遷、保育所の多機能化などを理解する。保育施策の現状について、認可保育所の運営・入所方法・保育内容を理解する。認可保育所の事業内容である、乳児保育・障害児保育・育児相談などを理解する。						
11	子ども子育て支援制度の内容を理解する。幼保連携型認定こども園を中心とする、認定こども園制度の具体的な内容、認可外保育施設の種類と保育サービスを理解する。その他保育サービスとしての、家庭的保育事業（保育ママ）、ファミリーサポートセンター事業、幼稚園の預かり保育の愛情を理解する。						
12	ひとり親家庭の福祉を学ぶ。ひとり親家庭の現代的様相、経済的支援策（児童扶養手当法・母子福祉資金など）、就業支援策、雇用対策、施設による支援としての母子生活支援施設の現状と課題、母子支援員や少年支援員の専門性を理解する。						
13	社会的養護サービスを学ぶ。社会的養護を必要とする児童への具体的な支援策を理解する。代表的施設サービスである、乳児院・児童養護施設・児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設の基本的機能、専門職の働きを理解する。						
14	非行児童・情緒障害児への支援を学ぶ。非行と情緒障害は不可分の関係があること、家族問題としての非行の動向と非行そのものの理解を深める。児童相談所のみならず、非行少年への対応の第一義機関である家庭裁判所の役割を理解する。						
15	児童虐待対策を学ぶ。児童虐待の定義、児童虐待の実態、子どもを虐待から保護する仕組み、子ども虐待の発見と通告、在宅支援と施設における保護などの実態を理解する。児童虐待対策の課題として、関係機関とのネットワーク、発生子防の具体的な施策を理解する。						
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	70	基本的知識を問う問題を中心とする。国の最新の制度政策も内容に含まれるが、その都度資料などを配付し講義されるので、内容などを正確に理解する。		リアクションペーパー	30	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている 自らの課題が設定されている。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
子どもや家庭に関する新聞記事やニュース情報について、日頃から関心・意識を高めていくこと。特に児童虐待をはじめとする社会問題化している時事問題を、自らのこととして取り組む姿勢が必要である。			期末試験を講義最終回直前に実施し、最終回にて試験問題の解説などを行う。				
受講生に望むこと	児童家庭福祉の基本となる内容が教授され、保育のみならず教育においても根幹をなす学科目であるから、確実に専門用語などについては内容理解をすること。			教科書・テキスト	『児童家庭福祉』 新保幸男 小林理編 中央法規 2017年 ISBN 978-4-8058-5203-3		
指定図書参考書等	平成28年版『少子化社会対策白書』内閣府 ISBN 978-4-86579-020			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EN255U 社会的養護			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	側垣 二也						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
現代の家庭基盤の脆弱化によって、児童虐待の増加が象徴する多様で複雑な児童とその家族の問題を生み、社会の養育支援体制の構築、児童養護施設、乳児院、里親といった代替的養育支援などの社会的養護実践がますます重要となってきた。そこで本講義では、保育所や生活型児童施設で働く保育者に求められる知識として、今日の児童と家庭あるいは親子関係の問題などの様々な養護ニーズを理解し、その総合的支援概念である社会的養護の理念、体系、現状、方向性を学ぶ。				<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解している。 2 社会的養護と児童家庭福祉について理解している。 3 社会的養護の制度と実施体系について理解している。 4 施設養護の実際を理解している。 5 社会的養護の課題と展望を理解している。 			
教授方法	講義では、内容をより分かりやすく理解するため、P Pなど視聴覚教材を用い進める。課題を示しレポート作成提出を行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	保育における社会的養護						
2	現代社会における社会的養護の意義－社会的養護の理念と概念						
3	現代社会における社会的養護の意義－社会的養護の歴史の変遷 欧米						
4	現代社会における社会的養護の意義－社会的養護の歴史の変遷 日本						
5	社会的養護と児童家庭福祉－児童家庭福祉と社会的養護の関係性						
6	社会的養護と児童家庭福祉－児童の権利と社会的養護 I						
7	社会的養護と児童家庭福祉－児童の権利と社会的養護 II						
8	社会的養護の制度と実施体系－社会的養護の制度と法体系						
9	社会的養護の制度と実施体系－社会的養護の制度と実施体系 I						
10	社会的養護の制度と実施体系－社会的養護の制度と実施体系 II						
11	社会的養護の実施体系－家庭養護と施設養護と施設で働く専門職						
12	施設養護の実際 ビデオ視聴とレポート						
13	施設養護の実際 養護系、非行系他						
14	小規模ケアと個別化・施設運営						
15	社会的養護の課題と展望						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業出席回数。授業参加態度。	60	既定の授業出席回数に満ちているか。遅刻回数はどうか。熱心に授業に臨み、講義の中での発言、回答が的確か。			課題についてのレポート提出。	40	レポートを以下の要領で提出する。 ・指定の書式にしたがって作成する。 ・自分の考察を加えて記入している。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
社会的養護は、社会における様々な児童と家庭の出来事と密接に関連しています。したがって、特にテレビや新聞のニュースあるいはインターネット情報に関心を示し、現代社会にある児童と家庭の問題、課題は何か、福祉ニーズは何かに関心や興味を普段から持ち、情報収集を行う。[60分]				ビデオ視聴についてのレポート提出後、次の授業で疑問、質問に対する解説を行う。			
受講生に望むこと	社会的養護は、社会における様々な児童と家庭の出来事と密接に関連しています。したがって、特にテレビや新聞のニュースあるいはインターネット情報に関心を示し、現代社会にある児童と家庭の問題、課題は何か、福祉ニーズは何かに関心や興味を普段から持つことを望みます。そのことによって、授業の理解度が違ってきます。また、施設実習に必要な知識と実践方法の学習ですから真剣に授業に臨んでください。			教科書・テキスト	『新保育士講座第5巻 社会的養護』 保育士養成講座編纂委員会編 全国社会福祉協議会 2015 改訂2版 ISBN 978-4-7935-1091-5		
指定図書参考書等	なし／『社会的養護シリーズ2 施設養護実践とその内容』 庄司順一・鈴木力・宮島清編 福村出版 2011 ISBN978-4-571-42511-0			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EN260U 社会的養護内容		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	虹釜 和昭						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会的養護について理解を深めることを主な内容とする。家庭に代わる養育の場としての「児童養護施設」、「乳児院」、「児童自立支援施設」、「情緒障害児短期治療施設」、「母子生活支援施設」における具体的な養護内容を理解する。こうした施設入所に至った要因としての児童虐待や家族問題の背景に焦点をあて、家族病理や社会病理の視点から、現代の社会的養護の課題を明確化するとともに、子どもの権利擁護という視点からその家族再統合（家庭復帰や家族関係の再構築）の方途などについて考察する。</p>			<p>①社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に理解している。 ②施設養護及び他の社会的養護の実際について理解している。 ③個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援方法、治療の支援方法、自立支援等の内容について具体的に理解している。 ④社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法論と及び技術について理解している。 ⑤社会的養護を通して家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉、司法福祉などについて理解している。</p>				
教授方法	ケースを読み込み、そのケースについて、提示課題によるグループディスカッションを中心とした演習とする。						
履修条件	保育士資格取得希望者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	社会的養護の大枠を理解し、社会的養護関係施設にて暮らす子どもの心理的特徴を理解する。						
2	施設養護の特性及びその実際を学び、ホスピタリズム理論と現代の児童養護の課題を検証する。						
3	社会的養護のあゆみ、特に石井十次、留岡幸助の実践からその理念や具体的展開などを学ぶ。						
4	乳児院の養護実践から、その課題とあり方について、事例を通して学ぶ。						
5	児童養護施設の養護実践から、その課題について、事例を通して学ぶ。						
6	児童養護施設の養護実践から、その対応について、事例を通して学ぶ。						
7	児童自立支援施設の養護実践から、その課題とあり方について、事例を通して学ぶ。						
8	情緒障害児短期治療施設の養護実践から、その課題とあり方について、事例を通して学ぶ。						
9	母子生活支援施設の養護実践から、その課題とあり方について、事例を通して学ぶ。						
10	社会的養護と心理治療の関係、その具体的実施などについて学ぶ。						
11	施設保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用を学ぶ。						
12	リービングケア、アフターケアなど、児童の自立へのプロセスを学ぶ。						
13	里親の今日的課題を学び、施設養護との対比からその特徴、問題点を理解する。						
14	被措置児童等虐待（施設内虐待）の現状と発生要因を学び、その対応、予防を学ぶ。						
15	自立支援計画とアセスメントについて、その策定と運用の実際について学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末レポート	70	児童養護施設、乳児院などの社会的養護の実践現場の課題を明確に記載し、その今後のあり方などを論述すること。		リアクションペーパー	30	毎回の演習内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている自らの課題が設定されている。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
社会的養護にかかる児童福祉施設の種別・機能・養育内容について、児童家庭福祉論で学んだ内容を整理しておくこと。[30分]			期末レポートの講評、評価視点などについて、施設実習指導などを通じて総括を行う。				
受講生に望むこと	現代の家族問題から社会的養護の抱える問題を自ら発見する姿勢を期待したい。積極的なディスカッションへの参加と能動的な学びを求める。		教科書・テキスト	『社会的養護とこどものこころ』、虹釜和昭著、北陸学院大学臨床心理学リエゾンブック、2012年 ISBNなし			
指定図書参考書等	『児童養護施設と被虐待児』 森田喜治著 創元社 2009年 ISBN 4-422-11380-1 『児童養護施設児の日常とこころ』 森田喜治著 創元社 2013年 ISBN 978-4-422-11571-9		その他・特記事項	学習に対して望むことなどあれば、伝えてほしい。			

授業科目名	EN265U 子どもの保健 I A			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	津田 朗子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>全ての子どもが健やかに育つことが社会の目指すところであり、そのためには子どもの生命が安全に保たれる必要がある。したがって、保育士は子どもの命を守り、子ども個々の育ちを理解し、適切な環境を整え支援することが重要な役割である。そこで、子どもの保健 I Aでは、子どもの心身の発達や生理的特徴を理解し、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義やその具体的な健康管理と生活援助について学習する。</p>				<p>①子どもを取り巻く環境について理解している。 ②子どもの身体発育や生理機能、運動機能、精神機能の発達とその特徴について理解している。 ③子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解している。</p>			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス、現代の子どもの問題を踏まえ保育士の役割について考える						
2	児童観の変遷①						
3	児童観の変遷②						
4	親子関係と子どもの発達						
5	発達①：形態的発育とその評価						
6	発達②：生理機能の発達と保健（1）						
7	発達③：生理機能の発達と保健（2）						
8	発達④：運動機能の発達と保健（1）						
9	発達④：運動機能の発達と保健（2）						
10	発達の評価と支援①						
11	発達の評価と支援②						
12	子どもの生活習慣と心身の健康						
13	事故と安全対策、児童福祉施設						
14	社会と子ども						
15	子育て支援						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
課題レポート	30	基本的な知識を理解している。自分の考えを述べられる。			期末試験	70	講義の重要点を概ね理解している。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①講義終了時に、次回の講義内容に関連した資料または情報を提示するので、熟読し頭づくりをしておくこと[30分]。 ②講義終了後に講義内容の理解度を確認する小テストを実施する。回答できなかった項目はよく復習しておくこと。</p>				<p>小テストの結果は個別には返却しないが、理解度の把握に活用し、次回講義の中で全体にコメントすることによりフィードバックする。</p>			
受講生に望むこと	真摯な態度で授業に臨むこと			教科書・テキスト	<p>『新 保育士養成講座 第7巻 子どもの保健』（全国社会福祉協議会）ISBN:978-4-7935-1032-8 『新 保育士養成講座 第8巻 子どもの食と栄養』（全国社会福祉協議会）ISBN:978-4-7935-1033-5</p>		
指定図書参考書等	『子どもって・・・ね』木村留美子著 エイデル研究所 ISBN4-87168-393-1			その他・特記事項	テキストのうち、『子どもの食と栄養』は、3年次の「子どもの食と栄養」の授業でも継続して用いる。		

授業科目名	EN270U 子どもの保健 I B			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	津田 朗子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>全ての子どもが健やかに育つことが社会の目指すところであり、そのためには子どもの生命が安全に保たれる必要がある。したがって、子どもの保健 I Bでは疾病や障害を持った子どもも含めたすべての子どもの健全育成を基盤とした家庭、地域、保育の連携の重要性を学習する。具体的には、発達各期に特徴的な病気や怪我とその予防法、発達障害や慢性疾患を持つ子ども、児童虐待などについて基本的な知識を学ぶとともに、疾病や障害を持った子どもも含めたすべての子どもの健全育成に向けた支援・保育のあり方を学習する。</p>				<p>①子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について理解している。 ②子どもの疾病とその予防法、及び適切な対応について理解している。 ③子どもの精神保健とその課題等について理解している。 ④保育における環境、および衛生管理、並びに安全管理について理解している。</p>			
教授方法	講義						
履修条件	前期科目「子どもの保健 I A」履修済みであること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス、現代の親子が抱える心身の問題について						
2	保育保健について：保育環境と保健						
3	我が国の母小児保健とその意義						
4	子どもの生活環境と精神保健						
5	地域における保健活動と児童虐待						
6	子どもの病気・感染症・予防接種①						
7	子どもの病気・感染症・予防接種②						
8	体調不良児の保育（病児・病後児保育）						
9	子どもの食と栄養①						
10	子どもの食と栄養②						
11	食物アレルギーと乳児アトピー性皮膚炎						
12	保育所におけるアレルギー児と保護者への対応						
13	発達障害とその支援①						
14	発達障害とその支援②						
15	子育て支援：心と身体の健康づくりと地域保健活動						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
グループ発表と授業参加度	40	<ul style="list-style-type: none"> 提示された課題について調べたことを分かりやすく伝えられる。 積極的にディスカッションに参加できる。 			期末試験	60	講義の重要点を概ね理解している。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①講義終了時に、次回の講義内容に関連した資料または情報を提示するので、熟読し頭づくりをしておくこと[30分]。 ②講義終了後に講義内容の理解度を確認する小テストを実施する。回答できなかった項目はよく復習しておくこと。</p>				<p>小テストの結果は個別には返却しないが、理解度の把握に活用し、次回講義の中で全体にコメントすることによりフィードバックする。</p>			
受講生に望むこと	積極的に授業に参加する。子どもの健康と発達とその支援に関して自分の考えを持てるようになること。			教科書・テキスト	<p>『新 保育士養成講座 第7巻 子どもの保健』（全国社会福祉協議会）ISBN:978-4-7935-1032-8 『新 保育士養成講座 第8巻 子どもの食と栄養』（全国社会福祉協議会）ISBN:978-4-7935-1033-5</p>		
指定図書参考書等	『子どもって・・・ね』木村留美子著 エイデル研究所 ISBN:4-87168-393-1			その他・特記事項	テキストのうち、『子どもの食と栄養』は、3年次の「子どもの食と栄養」の授業でも継続して用いる。		

授業科目名	EN280U 障がい児保育		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	徳田 茂						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>障害の有無に関わりなくすべての人が共生するインクルーシブ社会の実現のためには、障害のある子とない子が共に活動し育ち合う、インクルーシブ保育がとても重要である。この授業では、新しい障害概念を理解したうえで、障害のある子の育ちの援助について、理論的側面と実践的側面から理解を深められるようにしたい。さらに、障害児の家族への援助、インクルーシブ保育の実践についても理解を深められるようにしたい。</p>				<p>①障害者権利条約や障害者基本法等をベースとして、新しい障害概念を理解する。 ②障害のある子を一人の子どもとして捉えることの大切さを学び、その子とのよりよい関わり方について理解する。 ③障害のある子の育ちの援助の実際について理解する。 ④障害のある子の家族の心理と援助について理解する。 ⑤障害のある子とない子が共に育ち合うインクルーシブ保育の重要性とその実際について理解する。</p>			
教授方法	講義とテーマごとの学生の発表						
履修条件	保育士資格取得希望者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：調べて発表するテーマの分担をする。障害とは何か (1) 自分と障害児の関わりについて振り返る。						
2	障害とは何か (2)：障害者権利条約や障害者基本法等をもとに、新しい障害概念を理解する。						
3	障害とは何か (3)：さまざまな障害について学ぶ。						
4	その子自身を理解することの大切さ：障害児をひとくりにせず、一人ひとりの子どもについて理解することの大切さを学び、一人の子をよく理解するための方法を学ぶ。						
5	障害児保育とコミュニケーション (1)：子どもの育ちの援助には、よりよいコミュニケーションが不可欠である。障害児との関わりにおいては、非言語的コミュニケーションがとりわけ重要である。そのことを念頭に、コミュニケーションについて学ぶ。						
6	障害児保育とコミュニケーション (2)：さまざまな障害のある子のコミュニケーションの特徴を理解する。						
7	見通しをもって実践する：子どもの育ちの援助における見通し・仮説―実践―検証の重要性と、その実際について学ぶ。						
8	障害児保育と遊び (1)：どの子にとっても遊びは育ちの源である。障害児の遊びと育ちについて、特に運動面に焦点をあてて学ぶ。遊びの中での援助の実践についても学ぶ。						
9	障害児保育と遊び (2)：障害児の遊びと育ちについて、手の動きや認知・社会性などの面に焦点をあてて学ぶ。保育者としての援助のあり方等についても学ぶ。						
10	生活習慣獲得の援助：障害児が生活習慣を獲得していくために必要な援助の実際について学ぶ。						
11	親の思いを聴き、共に生きる (1)：実際の例にふれながら障害児の親の心理について理解を深める。						
12	親の思いを聴き、共に生きる (2)：障害児の親への援助の実際と親の心理の変容について学ぶ。						
13	インクルーシブ保育を目指して (1)：インクルージョンの理念を理解し、障害のある子とない子が共に育つ保育の重要性について学ぶ。						
14	インクルーシブ保育を目指して (2)：インクルーシブ保育の実際と、その課題について学ぶ。						
15	よりよい保育者となるために：障害のある子を含め、さまざまな子どもの育ちを援助する保育者として、ぜひ身につけていきたい資質等について学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
調べたテーマについての発表	20	テーマについて、的確な調べとわかりやすい発表ができたかどうかをみる。		テスト	80	各設問について正しく理解し、わかりやすくまとめられているかどうかをみる。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> それぞれ与えられたテーマについて調べる。（調べた内容を授業で発表する。）[2時間] 事後学習としてその日のテーマについて振り返りを行う。[1時間] 				<ul style="list-style-type: none"> 各時間ごとに疑問・質問を提出してもらい、次の時間の冒頭にそれぞれの質問に答える。 テーマについての発表後、発表内容について口頭で評価する。 			
受講生に望むこと	近年、障害概念が大きく変わっています。新しい障害概念をよく理解して下さい。そのうえで、障害児を一人の大切な子どもとして受け止めるための基本的な人間観や保育観を身につけ、さらにその育ちの援助の実際について、できる限り深く学んで下さい。障害のある子とない子が共に育ち合うことを目指すインクルーシブ保育について、理解を深めて下さい。さらに、自分を見つめる姿勢を養って下さい。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし／『知行とともに』徳田茂（川島書店）1994年 『障害と子どもたちの生きるかたち』浜田寿美男（岩波書店）2009年『障害のある子の保育・教育』堀智晴（明石書店）2004年 『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』堀智晴他（ミネルヴァ書房）2014年 『障がい児共生保育論』曾和信一他（明石書店）2015年			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EN285U 児童文化		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	山下 のぞみ						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>伝承の遊びとおはなしに親しみ、それらが子どもの様々な発達といかに関わっているかを考える。さらに、子どもに手渡す際の留意点を探る。また、課題としておはなしをおぼえて語ることを経験する。</p>			<p>①わらべ唄で遊ぶ体験を通して、それぞれのわらべ唄をおぼえている。 ②子どもの発達段階に応じてどのわらべ唄がふさわしいかを知っている。 ③わらべ唄の音楽的特徴を理解している。 ④昔話の特徴を理解している。 ⑤子どもの発達に応じた、おはなしを選ぶことができるようになる。 ⑥ストーリーテリングを体験することによって、お話を聞くことの楽しさを知る。 ⑦ストーリーテリングを実際に経験している。 (他の学生のおはなしを聞き、おはなしをおぼえる練習をする。)</p>				
教授方法	実際に身体を動かしてわらべ唄を体験する。伝承のおはなしである昔話を、語り伝えられたと同じように、耳だけで聞く体験をする。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	わらべ唄とは何か：わらべ唄にはどのような特徴があるか考えたい。地域性、旋律やリズムの特徴について、口伝えであることが深く関わっていることを認識する。						
2	わらべ唄と子どもの成長との関わり：わらべ唄を楽しむ条件として、子どもの身体的・言語的・社会的発達が重要であることを知る。						
3	言語発達とわらべ唄：わらべ唄には、日本語の拍感・リズム感・発音また地域のイントネーションがそのまま入っており、母語の獲得時期にくりかえしうたてることが子どもの言語発達にとって重要であると知る。						
4	運動機能・空間認知の発達とわらべ唄：新生児から学童期まで、子どもの運動発達を粗大運動と微細運動の面からとらえ、どのようなわらべ唄遊びを取り入れられるか考える。						
5	伝統行事の中でのわらべ唄：日本人が行ってきた祭り、年中行事の中で、特に子どもが関わってきた行事に注目し、その中で伝承されてきたわらべ唄を紹介する。						
6	音楽としてのわらべ唄：子どもの音楽的能力の発達とそれに沿った大人の働きかけについて考える。月齢に応じて育てていきたい能力（リズム感・聴感）を意識した課業を考える。						
7	わらべ唄を課業に取り入れるための留意点：わらべ唄遊びを楽しむには、仲間関係や運動発達が大きく関わることをふまえて、一人一人の子どもをよく観て子どもたちに沿った課業案を立てることが大切だと認識する。						
8	昔話とは何か（昔話の分類）：神話、民話、伝説、昔話といった用語を整理し、昔話を定義する。その上で、昔話には語りの特徴が見出されることを知る。						
9	昔話とは何か（昔話の語り口 1）：昔話の文芸学的研究に基づき、語りの特徴（一次元性、孤立性、平面性）について例をあげて解説する。						
10	昔話とは何か（昔話の語り口 2）：引き続き、昔話の語りの特徴（固定性、極端性、抽象的様式）について例をあげて解説する。						
11	昔話とは何か（昔話の残酷性）：なぜ、昔話は残酷だといわれているのか、伝承であるがゆえに残る刑罰と、語り口の面から考察する。						
12	昔話とは何か（昔話に込められたメッセージ）：昔話には民衆の間観・世界観・人生観が込められている。特に子どもに向けて語られた昔話にみられる、主人公の成長する姿について読み解いていきたい。						
13	おはなしに道具を取り入れるための留意点：子どもたちは、自分でも作って遊べる人形や、大人が演じてみせてくれる人形、自分自身も演ずることのできる人形を通して、さらにおはなしの世界を深く体験できる。その際のいくつかの留意点を考える。						
14	即興のおはなしと大人のための練習：昔話の語りの特徴を復習し、子どもが好むおはなしのパターンと結末を整理して、目の前の子どもたちを主人公にしたおはなしを即興で作れるよう練習する。						
15	子どもにとっての文学とは：子どもたちがその発達に応じて求めるおはなしについて知る。また、おはなしを楽しむ中で様々な関係を追体験したり消化したりできることを知る。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題の発表	50	子どもと一緒に楽しみたい詩を、自分が設定した月齢に応じて選んで、発表できているか。おはなしをきちんとおぼえて、語れているか。		授業参加態度	30	演習で、わらべ唄を積極的におぼえようと努めているか、他の学生の発表から学ぼうとしているかを重視する。また、授業内での質問に対する発言も考慮する。	
定期試験	20	授業内容についてどれだけ理解しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>ストーリーテリングの発表はグループで行うため、その分担当や練習などを各グループで行ってもらいます。[1ヶ月以上、各自おぼえられるまで] 各自、子どもの月齢を設定した上で詩を選んで朗読してもらいます。事前に詩集を読み、発表する詩を準備して、授業にのそんで下さい。[90分以上]</p>				<p>①発表の際にコメントします。 ②評価やコメント等に対する疑問・質問の申し出にはいつでも対応します。</p>			
受講生に望むこと	演習形式の授業のため、積極的な参加と出席が望まれます。動きやすい服装で参加してください。			教科書・テキスト	『CD 付き すぐ覚えられる わらべ唄のあそび』 木村はるみ著 成美堂出版 2012年 ISBN：978-4-415-30564-6		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED200U 異文化間コミュニケーション論		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	林 剛司						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
異文化コミュニケーションを円滑に進める上で、他者理解が重要になってくる。映画やドキュメンタリー映像を鑑賞し、人種、ジェンダー、階級等の視点から互いに差異を認め合い尊重する文化的素養について考える。			①異文化コミュニケーションを学ぶ意義・重要性を理解している。 ②異文化への意識を高めると同時に、自文化に対する意識や態度を見直す。 ③異文化コミュニケーションの知識と技能を得ている。 ④文化背景の異なる人々との共生を身近なものとして考えることができる。 ⑤グローバル化とローカル化の二つの視点から世界の様々な課題を認識することができる。				
教授方法	講義、ディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション (映画から異文化コミュニケーションをいかに学ぶか)						
2	『グラン・トリノ』 (Gran Torino, 2008年、アメリカ) ① —アメリカのモン社会 モン族のコミュニケーション						
3	『グラン・トリノ』 (Gran Torino, 2008年、アメリカ) ② のモン社会 モン族のコミュニケーション					—アメリカ	
4	『イブラヒムおじさんとコーランの花』 (Monsieur Ibrahim et les fleurs du Coran, 2003年、フランス) —孤独なユダヤ人少年とトルコ移民の老人の交流						
5	『スパニッシュ・アパートメント』 (L'Auberge Espagnole/Pot Luck, 2002年、フランス・スペイン) ① —国籍や母語の異なる7名の学生たちの共同生活に見るコミュニケーション						
6	『スパニッシュ・アパートメント』 (L'Auberge Espagnole/Pot Luck, 2002年、フランス・スペイン) ② —国籍や母語の異なる7名の学生たちの共同生活に見るコミュニケーション						
7	『家族ゲーム』 (1983年、日本) —日本人家族間のコミュニケーションと現代日本						
8	『マイ・ビッグ・ファット・ウェディング』 (My Big Fat Greek Wedding, 2002年、カナダ、アメリカ) ① —アメリカにおけるギリシャ系の女性と非ギリシャ系の男性との結婚をめぐる文化衝突						
9	『マイ・ビッグ・ファット・ウェディング』 (My Big Fat Greek Wedding, 2002年、カナダ、アメリカ) ② —アメリカにおけるギリシャ系の女性と非ギリシャ系の男性との結婚をめぐる文化衝突						
10	『夏休みのレモネード』 (Stolen Summer, 2002年、アメリカ) ① —カトリックの少年とユダヤ教ラビの対話 アイルランド系労働者階級の家						
11	『夏休みのレモネード』 (Stolen Summer, 2002年、アメリカ) ② —カトリックの少年とユダヤ教ラビの対話 アイルランド系労働者階級の家						
12	『キル・ユア・ダーリン』 (Kill Your Darlings, 2013年、アメリカ) ① —旧態依然たる大学や社会に反抗し、若者はいかにアイデンティティを形成していくか 家族、友情、同性愛						
13	『キル・ユア・ダーリン』 (Kill Your Darlings, 2013年、アメリカ) ② —旧態依然たる大学や社会に反抗し、若者はいかにアイデンティティを形成していくか 家族、友情、同性愛						
14	発表 (プレゼンテーション) と総評 ①						
15	発表 (プレゼンテーション) と総評 ②						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題レポート	50	1500字程度のレポートを課す。テーマ、書き方、メット等は授業にてお知らせする。		参加態度	10	ディスカッションへ積極的に参加し、テーマについて理解を深めようとしているかどうかを評価する。	
発表 (プレゼン)	30	映画と異文化コミュニケーションについて関心のあることをまとめて、発表してもらう。レジュメを用意すること。詳細は授業にてお知らせする。		コメントシート	10	授業で扱った映画についての感想、コメントを短くまとめて提出してもらう。	
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
視聴した映画の簡単なコメントを書いてもらう (コメントシート) ので、必要であれば各自映画を再度視聴するのもよい。【作品により60~120分】 事前に、映画の内容やテーマについて、インターネットや図書で下調べしておく、映画を理解する手助けとなるだろう。【30分】				提出されたレポートは、次回以降の授業で返却をする。質問は授業中、授業の前後およびオフィスアワーに受け付ける。			
受講生に望むこと	さまざまなアクティビティやグループディスカッションの機会を設けるため、受講者には意見交換への積極的な参加を期待する。			教科書・テキスト	なし (プリントを使用する)		
指定図書参考書等	【参考書】 『映画で異文化体験 異文化コミュニケーション講座』 桜木俊行 (著) 近代映画社、2013年 (ISBN:978-4764823891)			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED205U 児童文学		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	中島 賢介						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業では、明治以降の日本における児童文学を、定義、諸分野、歴史的な流れといった視点から概観する。また、「こどものための本」を輪読し、精読することでそれらが持つ特性や魅力について考察し、日本児童文学史上における位置づけと意義を明らかにする。また、受講生が各回のブックトークを通して児童文学をより身近に感じ、親しむ。なお、授業の中で児童文学とキリスト教との関連についても触れる。			①明治以降の児童文学史の流れを理解している。 ②児童文学作品に対する読解力が向上している。 ③児童文学作品の持つ特性や魅力について理解している。 ④ブックトークを通してプレゼンテーション能力が向上する。				
教授方法	講義とブックトーク						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要、成績評価方法などの説明を行った上で、児童文学の定義を理解する。						
2	こどもの本の分類について、形式別、対象年齢別、ジャンル別に分類されることを理解する。						
3	ヨーロッパにおける児童文学の歴史を「こども観」を中心に理解する。						
4	日本における児童文学の歴史を明治期以降を中心に理解する。						
5	神話・伝説・昔話について、口承で語り継がれた作品の特徴を理解する。						
6	ファンタジーについて、作品が持つ虚構性について理解する。						
7	子どもの日常生活を描いたリアリズム作品の特徴を理解する。						
8	日常生活を離れた冒険物語について、物語構造を理解する。						
9	過去に存在した人物や出来事を描いた歴史物語について、時間軸を中心に特徴を理解する。						
10	ノンフィクションについて、子どもと科学との接点を中心に特徴を理解する。						
11	子どものための詩について、わらべうたから現代詩までの流れを理解する。						
12	戦争児童文学について、被害者・加害者両方の側面から特徴を理解する。						
13	絵本について、さまざまな絵本の種類と特徴について理解する。						
14	幼年文学やYA文学について、対象年齢の違いや主題の違いについて理解する。						
15	マンガやアニメについて、国際化産業化と関連づけて理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	20	授業内容理解に努め、毎回指定された作品を読んでいる。(確認問題)		レポート	50	ブックトークで紹介した作品について、各作品の特徴についてレポートにまとめる。	
ブックトーク	30	自分の印象に残った作品を授業内で紹介する。作品のあらすじのみならず、作品の特徴などを自分の言葉で表現する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回担当学生によるブックトークを行う。担当回までに各自周到な準備を行う。ブックトークで紹介した作品について、全員が紹介した後レポートを作成する。[30分]				ブックトーク後には、内容に関する評価とレポートに反映されるべき点について解説する。			
受講生に望むこと	この授業は、「国語」「児童文学」「絵本論」の授業に関連している。これらの授業を履修する学生は可能な限りこの授業を履修すること。これらの授業を履修していない学生、他学科学生の受講も歓迎する。			教科書・テキスト	『児童文学の教科書』川端有子 玉川大学出版部 2013年 ISBN978 - 4 - 472 - 40463 - 4		
指定図書参考書等	なし／『アプローチ児童文学』関口安義編 翰林書房 2008年 ISBN978 - 37737 - 257 - 6			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED215U 郷土の文学を楽しむ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	中島 賢介						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
石川県は、金沢の三文豪をはじめ散文韻文ともに数多くの作家を輩出している。この授業では、小説やエッセイのみならず、短歌・俳句・自由詩なども紹介しながら「郷土文学の楽しみ方」を提案する。ただ、担当教員が地元ゆかりの文学作品を紹介するだけでなく、受講生が金沢市内の文学館・博物館や文学碑を巡るフィールドワーク、朗読会への参加、調査研究や創作発表を通して体験的に郷土の文学を学び、より身近に感じる。			①郷土の文学のさまざまなジャンルの作家や作品に触れる。 ②フィールドワークによって、自分の目標に従って金沢市内の文学館や博物館を巡る。 ③朗読会に参加し、文学活動をより身近に感じる。 ④グループで研究発表することにより、プレゼンテーション力が向上する。				
教授方法	テキストとプリントを併用した講義、フィールドワーク、朗読会、研究発表会						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：「読書する」から「文学」へ 受動的な態度から能動的な態度として文学を考える。						
2	江戸期以前の文学：歌枕として親しまれて、さまざまな古典文学に登場する郷土について理解する。						
3	江戸期の文学：松尾芭蕉や加賀千代女を中心に郷土ゆかりの近世文学について理解する。						
4	金沢の三文豪①：泉鏡花の生涯と作品について理解する。						
5	金沢の三文豪②：徳田秋声の生涯と作品について理解する。						
6	金沢の三文豪③：室生犀星の生涯と作品について理解する。						
7	加賀の作家と作品①：加賀出身ゆかりの作家の生涯と作品を理解する。						
8	加賀の作家と作品②：加賀出身ゆかりの詩人の生涯と作品を理解する。						
9	能登の作家と作品①：能登出身ゆかりの作家の生涯と作品を理解する。						
10	能登の作家と作品②：能登出身ゆかりの詩人の生涯と作品を理解する。						
11	金沢の作家と作品①：金沢出身ゆかりの作家の生涯と作品を理解する。						
12	金沢の作家と作品②：金沢出身ゆかりの詩人の生涯と作品を理解する。						
13	第四高等学校出身の作家たち：第四高等学校出身作家の生涯と作品を理解する。						
14	詩の朗読会：受講生全員で朗読会を開く。						
15	これまでの学びをさらに発展させ、研究成果を発表する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	30	講義内容、感想や考察などをコメントペーパーにまとめる。		課題レポート	50	フィールドワークの成果をレポートにまとめる。	
研究発表会	20	これまでの学びをさらに発展させ研究した成果を発表する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各自、半日から一日かけて金沢市内の文学館・博物館・文学碑を巡るフィールドワークを行う。毎回指定された作品（一部）を読み、その感想をコメントペーパーに記入する。[30分]				コメントペーパーに書かれた内容について毎回授業開始時にコメントする。			
受講生に望むこと	この機会に郷土の文学に触れてほしい。他学科の履修も歓迎する。			教科書・テキスト	『金沢を描いた作家たち』北國新聞社 2011年 ISBN978-4-8330-1827-2		
指定図書参考書等	なし／『ミリアニア 石川の近代文学』金沢近代文芸研究会編 能登印刷出版 2001年 ISBN4-89010-389-9			その他・特記事項	フィールドワークにかかる費用は実費とする。		

授業科目名	ED220U 心理統計学 I		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	木島 恒一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>心理学・社会学が科学として成立するためには、実験・調査等によって得られたデータを統計学的に処理し、実証的に検討していく必要がある。本講義では、統計学の基本的な考え方、基礎的知識を学んだ上で、記述統計学と推測統計学の基礎と主要な分析方法について学ぶ。</p>			<p>①統計学の用語を覚え、適切に使用できる。 ②統計処理の基本的な知識を用いて数量データを集計することができる。 ③集計された表やグラフを正確に読み解くことができる。 ④統計的仮説検定のしくみを理解し、実際に分析することができる。</p>				
教授方法	講義、演習。						
履修条件	表計算ソフト（Excel）を使えること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	統計学の基礎：統計学の基本的な考え方と、演算記号の意味について学ぶ。						
2	標本と母集団：標本から母集団の特徴を推定するという考え方について学ぶ。またデータの尺度の種類についての理解を深める。						
3	データのまとめ方：Excelを用いたデータシートの作成と、度数分布表・ヒストグラムを学ぶ。						
4	代表値と変動の指標：データを代表する値と、変動（バラツキ）を表す値について学ぶ。						
5	理論分布と確率：正規分布を中心に、理論分布と確率についての理解を深める。						
6	正規分布と標準得点：標準得点により大きい面積と確率の関係を理解する。そして「統計的有意性」という考え方の基礎を学ぶ。						
7	検定の基本：帰無仮説と対立仮説、有意水準について学ぶ。						
8	2つの平均の差の検定（1）：対応のないt検定について学ぶ。						
9	2つの平均の差の検定（2）：対応のあるt検定について学ぶ。						
10	分散分析：一元配置分散分析について学ぶ。						
11	相関：正の相関、負の相関、無相関の違いを理解し、相関の強さをみる統計量としての相関係数の計算方法を学ぶ。						
12	回帰（1）：回帰についての基本的な考えを理解する。そして回帰直線の傾きと切片の求め方を学ぶ。						
13	回帰（2）：練習問題によって、回帰直線の傾きと切片の計算法を確認する。						
14	ノンパラメトリック検定（1）：ノンパラメトリック検定についての基本的なことを理解し、ウィルコクソンの順位和検定とU検定について学ぶ。						
15	ノンパラメトリック検定（2）：カイ2乗検定と、順位相関係数について学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	講義で学んだことの理解度をみる。		講義への参加度	30	課題の提出状況と、授業への取り組み姿勢から評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>心理統計学は、基礎から1つずつ学びを積み重ねていく教科である。そこで、授業外でも次のことを心がけてほしい。 ①各回の授業前に、教科書の当該箇所を目を通しておくこと。[30分] ②授業のあった日の内に復習をすること。[30分]</p>				<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</p> <p>提出された課題については、計算の正誤をチェックして返却する。</p>			
受講生に望むこと	<p>①この講義は基礎からの積み重ねで学んでいく教科である。15回の内容は連続していますので、できるだけ欠席せずに講義を受けてほしい。 ②予習・復習を必ず行うこと。 ③電卓を用意する。</p>			教科書・テキスト	『入門 統計学—検定から多変量解析・実験計画法まで』 栗原伸一著 オーム社 2011年 ISBN 978-4-274-06855-3		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED240U 心理統計学Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は社会科学におけるデータ解析を学ぶ体系に位置づけられる科目である。心理統計学Ⅱにおいては、t検定、分散分析といった検定の考え方の理解および習得を目指す。分散分析の基本概念、分析の進め方を理解し、様々なデータで分析が行えるようにする。さらに効果量や検定力分析についても解説を行う。本講義ではコンピュータ等を用いた具体的なデータ処理方法の理解にも重点を置く。</p>			<p>①授業内で紹介する各分析で用いられる用語を覚え、分析の概要を理解している。 ②与えられたデータに対して適切な分析手法を選択し、実施する能力を身につけている。 ③コンピュータを用いた分析方法を身につけている。</p>				
教授方法	講義を中心に演習的内容を取り入れながら授業を進める。						
履修条件	心理統計学Ⅰの履修済が望ましい（単位未修得可）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	心理統計学の基本的概念を振り返る。						
2	t検定についての理解を深める。						
3	相関係数についての理解を深める。						
4	分散分析① 分析の枠組みを理解する：分散分析という分析手法がどのような目的に用いられるのか、どのような考え方に基づいた分析であるのか解説を行う。						
5	分散分析② 1 要因分散分析の計算の実施：1 要因の分散分析について、実際に計算を行いながら分析の概要について理解を深める。						
6	分散分析③ 1 要因分散分析をコンピュータを用いて分析する：1 要因の分散分析をコンピュータを用いてどのように分析を行い、結果を読み取るのか解説する。						
7	分散分析④ 2 要因の分散分析の考え方：2 要因の分散分析について交互作用の概念を中心にその考え方の解説を行う。						
8	分散分析⑤ 交互作用について事例を挙げながら理解をさらに深める。						
9	分散分析⑤ 2要因分散分析の計算：2要因の分散分析がどのように行われるのかについて解説を行う。						
10	分散分析⑥ 参加者内要因の分散分析：参加者内要因について理解を深め、計算過程を知る。						
11	分散分析⑦ 混合計画における分散分析を理解する。						
12	分散分析⑨ 演習課題を用いて、分散分析への理解を深める。						
13	効果量とはどのようなものか、その計算過程を理解する。						
14	推定と検定：信頼区間についての理解を深める。						
15	検定力分析を研究実践に生かす。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	心理統計学について理解し、計算および報告ができるか。		小テスト	15	授業の内容をどれだけ理解できているか。	
講義への参加度	15	授業への取り組み姿勢や課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①講義前にテキストおよびプリントを読んでくる。[30分] ②講義後にテキストおよびプリントを読み、ノートの整理を行う。[45分] ③講義でわからない計算法や用語があれば担当教員に質問したり、テキスト・参考書等を用いるなどして理解を深める。[30分] ④講義にて提示された演習課題に取り組む。[30分]</p>				<p>小テストは終了後に解説を行う。 演習課題は添削を行い、コメントする。</p>			
受講生に望むこと	統計学は特に予習復習が強く求められる科目である。そして、授業内での学びをより深めるために予習復習の中で出てきた疑問点を持って授業に臨み、それらの疑問をひとつひとつ解消するようにしてほしい。			教科書・テキスト	『入門 統計学—検定から多変量解析・実験計画まで』 栗原伸一 オーム社 2011年 ISBN 978-4-274-06855-3		
指定図書参考書等	なし／『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004年 ISBN 978-4-623-03999-9 『心理統計法への招待—統計をやさしく 学び身近にするために—』 中村知靖・松井仁・前田忠彦 サイエンス社 2006年 ISBN 978-4-781-91151-9 『わかる・使える多変量解析』 神宮英夫・土田昌司 ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-779-50246-0			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED225U 心理学研究法A		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	木島 恒一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
学としての心理学は、実証的研究に基づいている。本講義では、科学としての心理学の論理と歴史を概観し、その上で、人の心と行動を科学的に研究するための方法について学ぶ。各研究方法とも、その基本的な考え方を学んだのち、研究の具体例を検討する。			①科学的心理学の特徴と存在意義について習熟する。 ②科学研究にあたってのアプローチ法とそれに伴う難問について習熟し、適切な研究方法を選ぶことができる。 ③心理学研究における実験法の意義と方法を習得し、実験的研究を行うことができる。 ④統計学によるデータ分析と仮説検証の方法を習得し、統計的検定を実行できる。 ⑤質問紙調査法の特徴と方法を習得し、質問紙調査を実際に行うことができる。 ⑥心理尺度の構成法と統計解析法に習熟し、心理尺度を用いた研究計画を立てることができる。 ⑦観察法による研究の仕方と特徴を習得し、この方法を用いた研究計画を立てることができる。 ⑧性格検査と知能検査について、種類、各検査の特徴について学び、検査実施後の分析をすることができる。 ⑨事例研究における面接法の意義と限界について習熟する。 ⑩心理学研究における倫理的問題について議論することができる。				
教授方法	教科書・プリントを用いた講義形式による。						
履修条件	「心理学概論A」「心理学概論B」を履修済みであることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	心理学史：アリストテレスに始まる心理学の歴史をたどることで、現代の科学的心理学の特徴と存在意義について理解する。						
2	科学的考え方と研究方法：科学的法則をどのように見いだし、測定するかを考え、それに伴う難問について検討する。						
3	実験室実験法①：実験法の基本的な考え方を理解する。						
4	実験室実験法②：実験計画とデータ分析について実験例から理解する。						
5	心理データの統計分析：統計分析の基本的な考え方を学ぶ。						
6	質問紙調査法①：質問紙を使った調査法の基本的な考え方を学ぶ。						
7	質問紙調査法②：質問紙調査票の作成方法と、注意点を理解する。						
8	心理尺度の構成法①：心理尺度による心の測定についての基本的な考え方を理解する。						
9	心理尺度の構成法②：尺度構成のための統計的分析について学ぶ。						
10	観察法：行動観察の方法について学習する。						
11	検査法：性格検査と知能検査の種類と、代表的な検査について学ぶ。						
12	面接法：事例研究では面接法が用いられる。この回では、面接法を採用する際の留意点について考察する。						
13	質問紙を用いた調査①：調査票を作成し、調査を実施する。						
14	質問紙を用いた調査②：調査結果をExcelのファイルに入力し、統計的検定を行う。						
15	質問紙を用いた調査③：自分たちが行った調査結果をレポートにまとめる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	70	講義で学んだことの理解度をみる。		レポート	30	科学レポートの書き方についての理解度と、レポート作成能力をみる。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①講義では専門用語がたくさん出てきますので、難しく感じるかも知れないが、どの学問でも専門用語は避けて通ることができない。図書館には数種類の心理学辞典・心理学事典が備えられているので、専門用語について積極的に調べる。[30分] ②それぞれの研究方法を用いた具体的な研究例、統計処理例について、指定図書『実践心理データ解析実践心理データ解析—問題の発想・データ処理・論文の作成—改訂版』の該当箇所を指示するので、講義前に研究例を読み、講義後に研究レポート例の箇所を熟読する。[30分]			毎回リアクションペーパーに回答してもらい、次回の授業でフィードバックする。				
受講生に望むこと	大学の授業は、受動的に聞いていればよい、というものではない。自分から専門用語の意味を再確認し、基礎的な知識を広げておく必要がある。積極的に予習・復習に取り組んでほしい。			教科書・テキスト	『Progress & Application 心理学研究法』 村井潤一郎編著 サイエンス社 2012年 ISBN : 978-4-7819-1307-0		
指定図書参考書等	『実践心理データ解析—問題の発想・データ処理・論文の作成—改訂版』 田中敏 新曜社 2006年 ISBN 978-4-7885-1012-8 / 『誤解から学ぶ心理学』 木島恒一・野瀬 出・山下 雅子（共編） 勁草書房 2013年 ISBN 978-4-3262-5086-8			その他・特記事項	履修条件ではないが、できれば心理統計学Ⅰ、心理学実験実習Ⅰも履修していると、より講義内容の理解が進むことと考える。		

授業科目名	ED245U 心理検査法		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
心理検査法の理論と実践方法について学ぶ。実際に心理検査（知能検査・質問紙法・投影法等）を体験しながら、実施方法、結果の分析、解釈などアセスメントの実施方法について学習し、得られた検査結果から具体的な支援計画を作成する方法までを修得する。アセスメントを通して的確に現状を把握する力を身につけ、支援計画を作成するスキルも高めていく機会とする。			(1) 心理教育的アセスメントとは何かを説明できるようになること (2) 心理検査の信頼性と妥当性を説明できるようになること (3) 心理検査に用いられる統計解析を説明できるようになること (4) 心理検査を実施、採点、解釈できるようになること				
教授方法	講義、演習						
履修条件	心理統計学Ⅰおよび心理学研究法Ⅰないし心理学研究法Aの成績が「S」または「A」であることが望ましい						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	心理検査法とは何か、オリエンテーション						
2	心理測定の基本、データの尺度水準、分布、代表値、正規分布と確率、標準得点						
3	検査の信頼性と妥当性						
4	心理検査と統計解析						
5	質問紙検査、STAIの理論と実施、解釈と所見作成						
6	性格検査、TEGの理論と実施						
7	性格検査、TEGの解釈と所見作成						
8	描画法、投映法、バウムテストの理論と実施						
9	描画法、投映法、バウムテストの解釈と所見作成						
10	知能検査、WAIS-III（言語性検査1回目）						
11	知能検査、WAIS-III（言語性検査2回目）						
12	知能検査、WAIS-III（動作性検査1回目）						
13	知能検査、WAIS-III（動作性検査2回目）						
14	知能検査、WAIS-III（結果の解釈と所見作成）						
15	総括、心理検査法とは何か						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	30	講義中の演習や課題に従事すること、積極的に質問、発言すること、他者の発表や意見を聴くこと		課題と発表	30	出された課題を行うこと、小レポートを作成すること、必要に応じて発表すること	
期末レポート	40	レポートを書式通りに作成し、期日を守り提出すること					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
心理検査の演習を行うために、検査実施方法を予習して修得すること。[120分] 心理検査の所見を宿題として作成すること。[120分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを掲示する。			
受講生に望むこと	心理統計学ⅠおよびⅡ、そして心理学研究法ⅠおよびⅡの知識と技術を十分修得した上で受講すること。修得していない場合は講義の理解が困難なため、自習により統計や研究法の知識を予め必ず獲得しておくこと。			教科書・テキスト	『心理検査の実施の初歩 心理学基礎演習5』 願興寺 礼子・吉住隆弘（編） ナカニシヤ出版 2011年 ISBN-10:4779503876 ISBN-13:9784779503870		
指定図書/参考書等	『心理テスト—理論と実践の架け橋—』 ホーガン、T. P.（著） 繁 樹算男・椎名久美子・石垣琢磨（共訳） 培風館 2010年 ISBN-13: 978-4563052041			その他・特記事項	心理検査の実施は他者とペアあるいはグループを作り実施する。予習を行わない場合は他者に迷惑をかけることになるので、大きな減点になる。		

授業科目名	ED230U 心理学実験実習 I		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	木島 恒一・西村 洋一・松下 健・齊藤 英俊 (代表教員 木島 恒一)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
心理学研究を進める上で、必要とされる各種実験手法について、その基礎的知識獲得から実施までを、実習をとおして学びます。各実験後に実験レポートを作成してもらいます。			①実験計画の方法に習熟している。 ②実験器具の取り扱いを習得している。 ③実験で得られたデータの分析方法に習熟している。 ④実験レポートを的確に書くことができる。			
教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。					
履修条件	なし。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。また、心理学実験についての基礎的な知識を説明する。					木島
2	鏡映描写：鏡に映された図形を見ながら、その図形を描くという課題に取り組む。					松下
3	「鏡映描写」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
4	一対比較法：一対比較法の実験の実習を行う。					木島
5	「一対比較法」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					木島
6	長さの錯視：錯視の実験の実習を行う。					松下
7	「長さの錯視」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
8	YG性格検査：YG性格検査を実施し、結果の判定の仕方を学ぶ。					齊藤
9	「YG性格検査」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					齊藤
10	パーソナル・スペース：パーソナル・スペースの心理的効果についての実験の実習を行う。					松下
11	「パーソナル・スペース」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
12	ストループ効果：ストループ効果の実験の実習を行う。					西村
13	「ストループ効果」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					西村
14	SD法：SD法の実験の実習を行う。					松下
15	「SD法」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実験レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う(計7本)。レポートとして重要な点は授業内に提示する。		授業への参加度	10	実験とデータ処理に取り組む姿勢をみる。
授業外における学習(事前・事後学習等)						
①多様な種目が用意されているので、種目ごとに自分でその分野のテキストや先行研究を当たり、知識を深める。[1時間] ②各実験とも、実験レポートを作成し、次回の授業の時に提出する。[1時間] ③添削されたレポートによって復習する。[30分]				提出された実験レポートを添削した上で返却する。		
受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため、すべての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な態度が求められる。			教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均(編) ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-7795-0237-8	
指定図書/参考書等	『実践心理データ解析—問題の発想・データ処理・論文の作成—改訂版』 田中敏 新曜社 2006年 ISBN 4-7885-1012-X/種目ごとに適宜授業内にて提示する。			その他・特記事項	なし。	

授業科目名	ED250U 心理学実験実習Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一・木島 恒一・松下 健 (代表教員 西村 洋一)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本実習は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。「心理学実験実習Ⅰ」に引き続き、心理学研究を進めるうえで必要とされる実験手法と実験計画の方法を、実習を通して学ぶ。本実習は、基礎的なものからやや応用的なものまで多様な手法を含んだ実習内容となっている。実験の枠組みの理解とともに実験器具の取り扱いの習得も目指す。</p>			<p>①実験計画の方法を理解する。 ②実験器具の取り扱いを習得する。 ③実験で得られたデータの分析方法を習得する。 ④実験レポートの書き方に習熟する。</p>				
教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。						
履修条件	心理学実験実習Ⅰの履修済みが望ましい(単位未修得可)。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	眼球運動の測定：アイマーク・レコーダーを用いて眼球運動を測定する実験の実習を行う。					西村	
2	「眼球運動の測定」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方を指導を行う。					西村	
3	社会的推論：人の持つ社会的認知のありようについて検討する実験の実習を行う。					木島	
4	「社会的推論」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方を指導を行う。					木島	
5	P-Fスタディ：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。					松下	
6	「P-Fスタディ」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方を指導を行う。					松下	
7	面接場面における面談者と来談者の言語行動：面接場面の観察から言語行動を分析する手法を学ぶ。					松下	
8	「面接場面における面談者と来談者の言語行動」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方を指導を行う。					松下	
9	社会的態度：社会的態度を測定するための手法を用いた実験の実習を行う。					木島	
10	「社会的態度」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方を指導を行う。					木島	
11	触二点閾：皮膚感覚のありようを理解するための実験の実習を行う。					松下	
12	「触二点閾」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方を指導を行う。					松下	
13	感情理解：表情からの感情理解のありように関する実験の実習を行う。					西村	
14	「感情理解」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、仮説の立て方、分析の実施方法、レポートの書き方を指導を行う。					西村	
15	「感情理解」 レポート作成指導：分析結果のまとめ方、レポートの書き方について指導を行う。					西村	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業内レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う(計7本)。レポートとして重要な点は授業内に提示する。	実習への参加度	10	実験を行うにあたって担当者の指示を理解し、着実に実行されているかをみる。		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
<p>①種目ごとにテキストや配布されたプリントをよく読み、実験内容の理解を深める。[45分] ②各実験種目のレポートを作成する。[2時間] ③各種目で適用された分析方法を復習する。[30分] ④返却されたレポートを見直し、修正する[30分]</p>			各種目についてのレポートは、添削終了後返却し、コメントを行う。				
受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため全ての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な参加態度が求められる。		教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均(編) ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-7795-0237-8			
指定図書参考書等	『実践心理データ解析—問題の発想・データ処理・論文の作成—改訂版』 田中敏 新曜社 2006年 ISBN 978-4-7885-1012-8/種目ごとに適宜授業内に提示する。		その他・特記事項	なし			

授業科目名	ED235U 人間関係論		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は、心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。人間は社会的な存在であるが、なぜ社会的な存在であると言われるのだろうか。そのことを一つの大きなテーマとしながら、人間関係や集団における心理について理解することを目的とする。また、人間関係において生じる現代的な問題についても考えを進めていく。授業内容としては、進化の観点、親子、友人、恋愛といった親密な関係、集団と個人の心理等を取り上げる。</p>			<p>①「人間関係」を心理学の観点から捉えなおすことができる。 ②人間関係で起こる様々な事象を客観的な視点から捉えることができる。 ③進化や社会的交換の観点から人間関係を捉えることができる。 ④自分の身の回りの人間関係を授業で学んだことを踏まえて見直すことができる。</p>				
教授方法	講義を中心に、実際に体験できる課題なども取り入れて進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	人間関係とは何か? : 自分自身の人間関係のありようを振り返りつつ「人間関係」というものについて考えてみる。						
2	なぜ人間関係を形成するのか? : 進化の観点を踏まえて、人間が他者と関係を形成することの意義を考える。						
3	進化の観点から人間関係をとらえることの利点は何か?						
4	人間関係における「適応」を考える: 他者との関係における「適応」とはいったい何を指しているのか、その意味について改めて考える。						
5	個々の人間関係を理解する 1 親子関係 アタッチメント: 親子関係の中で重要な概念であるアタッチメントを取り上げつつ、親子関係がどのようなものか考える。						
6	個々の人間関係を理解する 2 親子関係 青年期の親子関係: 親子関係のあり方の変容を発達という観点を踏まえて考察する。						
7	個々の人間関係を理解する 3 親子関係 虐待: 親子関係における「虐待」について語られることが多いが、その内容の理解とともに社会に与える影響を考える。						
8	個々の人間関係を理解する 4 友人関係の形成: 友人関係の形成過程とその影響について考える。						
9	個々の人間関係を理解する 5 孤独感について考える: 孤独感という概念がどのようなものであり、人においてどのような意味があるのかを見つめ直す。						
10	個々の人間関係を理解する 6 恋愛関係の形成と発展: 恋愛関係の形成過程と関連する要因についての解説を行う。						
11	個々の人間関係を理解する 7 親密な人間関係の理論的理解: 親密な他者との関係形成について社会的交換の観点から考察を行う。						
12	個々の人間関係を理解する 8 職場の人間関係: 特に集団で働くという場合にどのような影響がありうるのか考える。						
13	社会的スキルとは何か? : 社会的スキルという概念の解説を行い、人間関係形成における位置づけを考える。						
14	人間関係における受容と拒絶: 他者からの受容や拒絶というものが人間に与える影響について考える。						
15	ソーシャルサポートの影響: ソーシャルサポートという概念の解説を行い、人間関係に与える影響について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	試験形式等の詳細は授業内に提示する。		授業内レポート課題	20	課題内容は授業内に提示する。	
講義への参加度	20	授業への取り組み姿勢から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①各回の内容についてプリントや参考書を読んでくる。授業後には授業の内容を振り返りを行う。【30分】 ②講義内で様々な人間関係にまつわる概念を取り上げるが、それらを自分自身や身の回りの人間関係に適用し、具体的に考えてみる。【30分】 ③講義内容を踏まえつつ、人間関係をテーマとした論文あるいは文学作品など広く参照し、友人や家族などと議論を行うこと。【30分】</p>				<p>授業内の小レポートは次回コメントを付けて返却する。 授業内レポートは採点終了後返却し、コメントを行う。</p>			
受講生に望むこと	誰もが程度こそ違えど人間関係を形成しています。しかし、その全体像を捉えることはなかなか難しいものです。それは多様な視点から捉えるべきものであり、本講義ではそのうちのある一つの視点を提供するのみです。単に「人間関係がうまくいく方法」を身につけることにとらわれるのではなく、そのような複雑なものを見る「目」を養うことを目指してください。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし/『対人関係の心理学』和田実・増田匡裕・柏尾眞津子 北大路書房 2016年 ISBN 978-4-7628-2945-1			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED255U 人格心理学		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
人間の心理や行動には個人差が存在する。そのような個人差が生まれるメカニズムに関連しているものの1つとして人格（＝性格、パーソナリティ）があげられる。本講義では、心理学の知見を通して人格を捉えるための多様な観点を概観し、人間理解に向けた1つの基本的知識・視点を身につけることを目指す。			①人格を理解するための諸理論を説明できる。 ②人格を測定する方法と、測定における問題点を答えられる。 ③人格心理学の科学的知見をもとに、人間のパーソナリティについて幅広い視野から考えることができる。				
教授方法	講義を中心に性格検査などのワークも取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：人格（性格、パーソナリティ）とは何か。人の内面の特徴とされるパーソナリティとはどのようなものか概説する。						
2	人格の測定と研究法：人格はどのように測定することができるか考える。方法論（質問紙法、絵画法、投影法、観察法、面接法）を理解し、研究方法について学ぶ。						
3	類型論：人格をとらえる視点の一つである「類型論」をとりあげ、性格をタイプに分けることの利点と欠点について考える。						
4	精神分析的人格論①：フロイトの精神分析的人格論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。						
5	精神分析的人格論②：ユングのパーソナリティ論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。						
6	特性論① その考え方：人格をとらえる視点の一つである「特性論」をとりあげ、人をいくつかの特性からとらえることの利点と欠点を考える。						
7	特性論② Big Five：パーソナリティは5つの主要な性格因子で構成されるとする「Big Five モデル」を学ぶ。						
8	状況論：状況要因や環境要因を重視した「状況論」について学び、人格における状況の影響について考える。						
9	相互作用論：人-状況論争を経て誕生した「相互作用論」をとりあげ、近年の性格研究の動向について学ぶ。						
10	物語論：物語論（ナラティブ）の視点から人格について考える。						
11	遺伝と環境の影響：遺伝や家庭をはじめとする環境が、どの程度、人格の形成に影響しているかを考える。						
12	人格の発達：一度つくられた人格が変わることはあるか、あるとしたらどの程度変化するかについて考える。						
13	人間関係と人格：「対人魅力」に関する研究成果をもとに、相手に好かれる性格とはどういったものかについて考える。						
14	文化と人格：東洋と西洋、日本と米国など、異なった文化環境は人格の形成にどういった影響を及ぼしているかについて考える。						
15	人格の病理：人格における病理にはどのようなものがあるか、またそれらへの対応や治療について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
講義への参加態度	20	授業への取り組み姿勢や出席状況をもとに評価を行う。		コメント・ペーパー	20	講義内容を踏まえて、自らの意見や考えを述べられているかを評価する。	
レポート	60	「人格心理学」の基礎知識が獲得されている。 「人格心理学」のテーマについて、実証的研究の知見を踏まえて論理的考察を加えられる。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業の前にシラバスを読み、授業内容について参考書などで予習しておくこと。 [30分] ②授業の後に各回の講義内容について、関連図書などを用いて復習しておくこと。 [50分] ③普段自分が、自分の性格や他人の性格をどのようにとらえているのか意識して生活してみる。 ④授業内で習った理論に基づいて、自分の性格や他人の性格を分析してみる。				①コメント・ペーパーについては、授業内で振り返りの時間をもちます。 ②レポートについては、授業内や次学期初めに内容に関するコメントを配布します。			
受講生に望むこと	性格は身近なものであり、講義内容と自分の性格など自分自身とを結びつけながら受講してほしい。			教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし/『[改訂版] 人格心理学への招待：自分を知り他者を理解するために』 詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊 サイエンス社 2003年 ISBN:978-4781910444、 『パーソナリティ心理学』 榎本博明・安藤寿康・堀毛一也 有斐閣 ISBN: 978-4641123779、 『パーソナリティ心理学概論：性格理解への扉』 鈴木公啓編 ナカニシヤ出版 2012年 ISBN:978-4779506383			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED260U 臨床心理学			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
臨床心理学は心理学の様々な知見を対人援助に用いることを目的とした、応用的な分野の一つである。その内容は多岐にわたるため、本講義では対象、査定方法、心理療法のモデル、心理療法の理論、心理療法の技法、臨床心理士が活躍する現場に焦点を当てて学習する。臨床心理学では人を理解することが重要であるため、技法や検査を体験することで自己や他者の特徴について理解を深める機会と、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて人とのコミュニケーションの取り方について考える機会を設けたい。				(1) 臨床心理学とは何かを説明できるようになる。 (2) 臨床心理学の対象は何かを説明できるようになる。 (3) 臨床心理学的査定とは何か、具体的にどのような方法があるかを説明できるようになる。 (4) 臨床心理学の理論を説明できるようになる。 (5) 臨床心理学の技法を説明できるようになる。 (6) 臨床心理士が活躍する現場を説明できるようになる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	臨床心理学の定義と歴史：臨床心理学とは何か、その定義と歴史を理解する。						
2	学校臨床心理学（不登校、いじめ、発達）：学校について臨床心理学的観点から理解する。						
3	発達障害：臨床心理学の対象のひとつである発達障害について、どのような特徴があるかを理解する。						
4	統合失調症：臨床心理学の対象のひとつである統合失調症について、どのような特徴があるかを理解する。						
5	気分障害、神経症：臨床心理学の対象である気分障害と神経症について、どのような特徴があるかを理解する。						
6	異常と正常、治療モデルと成長モデル：臨床心理学では異常と正常をどのように考えるのか、また、対象の変化をどのようなモデルに沿って考えるのかを理解する。						
7	心理査定（面接法、観察法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、面接法と観察法に焦点を当てて理解する。						
8	心理査定（投影法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも投影法に焦点を当てて理解する。						
9	心理査定（知能検査、作業検査、質問紙）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも知能検査、作業検査、質問紙に焦点を当てて理解する。						
10	心理面接（受理面接・終結、マイクロカウンセリング）：臨床心理学の面接はどのように行われるのか、面接の開始、面接の終了、面接の技法を理解する。						
11	精神分析の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである精神分析について、その歴史、精神分析理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
12	人間性心理学の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである人間性心理学について、その歴史、人間性心理学理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
13	行動療法・認知療法の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論である行動療法・認知療法について、その歴史、行動療法・認知療法の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
14	遊戯療法、家族療法、森田療法、内観、臨床動作法、自律訓練法：臨床心理学において頻りに利用される様々な心理療法について理解する。						
15	臨床心理士が働く現場（医療、教育、福祉）：臨床心理学を対人援助に実際に利用している臨床心理士がどのような現場で活躍しているのかを理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の考えを記述すること。講義のメモではなく、内容から発展させた自分の考えを記述することが求められる。			講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義内容に関連する内容について、参考図書をはじめとする臨床心理学に関連する学術的な書籍や論文を読み、知識や理解を深める予習が求められる。[60分] 内容の理解や知識の定着のために復習を積極的に行うことが求められる。[30分] グループでプレゼンテーションを行う際には講義以外にも仲間と打ち合わせや発表の準備を行う必要性が生じる場合がある。[60分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを配布する。			
受講生に望むこと	シラバスの内容をよく確認した上で受講すること。 学習に自発的、積極的に取り組むこと。 グループディスカッションの時には他者と協調すること。 プレゼンテーションのために仲間と協力して学習に取り組むこと。			教科書・テキスト	なし。 適宜資料を配布する。		
指定図書参考書等	園田雅代・無藤清子（2011）『臨床心理学とは何だろうか：基本を学び、考える』新曜社 ISBN:478512262 / 岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美（2013）『臨床心理学入門：多様なアプローチを越境する』有斐閣 ISBN：9784641220034			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーをお招きする可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

授業科目名	ET200U 幼稚園教育実習指導 I		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	向出 圭吾・大井 佳子 (代表教員 向出 圭吾)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
幼稚園教育実習 I にかかわる事前事後の実習指導である。1年次の夏休みの預かり保育体験と同じ幼稚園での2、3月における通常保育体験を通して学んだ子どもと保育者のかかわりや2回の体験で見えてくる子どもの成長等をふまえて、2年次9月実施での幼稚園教育実習の意義と目標をはじめ、子どもの動線がわかる環境図の表し方、子どもの姿やかかわりの関係性がわかる実習記録の書き方にポイントをおいて、ディスカッションや質疑応答を通して幼児教育をみる視点をつかむ。また原則同じ幼稚園で行う実習 II への流れを理解し、他の実習指導や授業科目とも連携を取りながら繋がりをもちて考える。			①幼稚園教育実習 I の概要とその意義を理解している。 ②実習園の教育理念・方針を知り、幼児教育におけるその園の特徴をつかむことができる。 ③環境図を活用した記録を書くことができる。 ④子どもが興味をもって参加することができるスキマ遊びを準備する。 ⑤実習園と必要な連絡協議をすることができる。 ⑥実習報告会の準備を通して幼稚園での自身の体験を整理し、報告会でポイントを絞って伝えることができる。 ⑦実習を通して、実習 II に繋ぐ自己課題を明らかにする。			
教授方法	グループディスカッション、演習、発表					
履修条件	1年次に開催のガイダンスに出席、夏休みの預かり保育体験(5日間)・2、3月の通常保育体験(5日間)及び、8、9月と2、3月の放課後等児童クラブ体験(各5日間)に参加「保育内容・環境 I」及び「保育原理」を履修済(単位取得は問わない)、「保育内容・人間関係 I」、「保育内容・言葉 I」及び「保育課程論」を履修している者が望ましい					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	幼稚園教育実習 I の概要について知る。保育体験での事後レポートをもとに気づきと疑問からの振り返りを行う。					全員
2	子どもとのかかわりについての体験的理解(1): Enjoy!ミッションの活動について4年生と合同で行う。					全員
3	子どもとのかかわりについての体験的理解(2): 4年生と合同でグループごとに計画・準備をする。					全員
4	子どもとのかかわりについての体験的理解(3): 子どもとのかかわりを体験的に理解する。					全員
5	保育体験の記録、Enjoy!ミッションでの活動記録から、子どもの捉え方についての理解を深める。					全員
6	記録を補充することを通じて、記録の書き方の理解を深める。					全員
7	各園の教育理念・方針から自身の実習園の特徴を捉え、また各園の環境(園内・周辺)の違いから自身の実習園の特徴を捉えて、実習園の保育の姿を予想する。					全員
8	大学の様々な授業で体験・実践してきた遊び・教材を自分らしくマッピングし、実習園で実践するスキマ遊びのイメージを広げる。					全員
9	マッピングした遊びを組み合わせアレンジし、自分らしいスキマ遊びと設定保育での短時間の実践のプランを考える。					全員
10	身近なものを用いて実践できる遊びを複数プランし、遊びの展開の過程を予想して時系列で書いてみる。					全員
11	設定保育での実践を想定して工夫した教材を用いた遊びをプランし、遊びの展開の過程を予想して時系列で書いてみる。					全員
12	自身の実習の具体的な流れと今後の実習指導についての理解: 記録等の園への提出物と大学への提出物の内容と提出期限の確認、必要な諸連絡と実習ファイルの作成について確認等					全員
13	直前指導: 幼稚園教育実習 I で学ぶことと準備の最終確認。オリジナル教材の提示と模擬実践。					全員
14	幼稚園教育実習 I の振り返り: 実習ファイルの提出、自己評価。					全員
15	実習報告会に向けての準備、幼稚園教育実習 II に繋ぐ自己課題の整理。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
参加姿勢	30	・グループ演習への積極的参加 ・連絡、報告の適応性		事前ワーク	50	・各課題のグループワークを通じての追記 ・遊びのプラン、教材等のグループワークを通じての改善
事後ワーク	20	・事後レポート ・実習報告会の準備の内容				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
・事前ワーク、事後ワークによって学習を進めていく。 ・Enjoy!ミッションの活動において4年生と共に遊びのプランを考え、準備し、実践する。 ・実習園への訪問、ボランティアの意欲的参加。 ・実習報告会の準備をする。				・Enjoy!ミッション当日の子どもとのかかわり、4年生からの学びをグループ演習を活用して様々な観点から振り返る。 ・各授業は前回の提出課題をもとに進めていく。 ・必要な学生に対しては個別に対応する。		
受講生に望むこと	保育にふさわしい身なり(服装、靴、アクセサリ、髪型等)、身丈で授業に参加すること。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008年 ISBN978-4-577-81245-7、『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2015年 ISBN978-4-577-81373-7 (改訂に伴って発行予定の各解説)	
指定図書参考書等	『遊びづくりの達人になろう!〜3歳児の遊び55』竹井史編 明治図書 2011年 ISBN978-4-18-964414-9、『同〜4歳児の遊び55』ISBN978-4-18-964518-4、『同〜5歳児の遊び55』ISBN978-4-18-964612-9 / 必要に応じて随時提示する。			その他・特記事項	・幼稚園教育実習 I の単位を取得しなければ幼稚園教育実習 II を履修することはできない。 ・小学校教員免許取得を目指す者で小学校教育実習 I に該当しない者は、幼稚園教育実習 I の単位取得が小学校教育実習 II 履修の必要条件となる。 ・幼稚園教育実習 I の事前事後指導である本科目は、幼稚園実習 I を履修しない場合、単位取得を認められない。	

授業科目名	ET210U 小学校教育実習指導 I		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	幸 聖二郎・辻 直人・下村 岳人・福江 厚啓 (代表教員 幸 聖二郎)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、北陸学院小学校での5日間の教育実習を実施するに当たり、私立学校と公立学校の違いやキリスト教学校の特色について考え、キリスト教学校における教師としての在り方や態度について学ぶものである。</p>			<p>①北陸学院小学校で教育実習をすることの意義を理解し、準備や見通しをもつ。 ②宗教を教育活動の根幹に据える私立小学校の特色についての理解を深める。 ③北陸学院小学校の教育活動についての理解を深める。 ④実習中における子どもや先生、学級とのかかわり方や配慮すべきことを理解する。 ⑤実習計画や実習日誌の書き方を修得する。 ⑥実習での学びの整理と反省・自己評価ができる。</p>				
教授方法	講義 グループ討議						
履修条件	ガイダンス・プレ実習に参加していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	教育実習の意義と教員に求められる資質能力とは何かを理解する。					幸・辻・福江・下村	
2	公立学校と私立学校の違いについて理解する。					幸	
3	私立学校の特色について理解する。					幸	
4	キリスト教学校の特色について理解する。					幸	
5	キリスト教学校の目指す教師像について理解する。					幸	
6	キリスト教学校が育てようとしている子ども像について理解する。					幸	
7	キリスト教学校の特色ある教育活動について理解する。					幸	
8	キリスト教学校における「聖書」の授業について理解する。					幸	
9	キリスト教学校における「聖書」の授業と公立学校における「道徳」の授業の違いについて理解する。					幸	
10	北陸学院小学校の一日の流れを理解する。					幸	
11	実習中、教師として子どもや教職員、保護者の方々とどのように接したらよいか、また、留意すべき事について理解する。					幸	
12	学級の児童との関わり方で配慮すべきことを理解する。					幸	
13	観察実習・参加実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。					幸	
14	実習日誌の書き方を事例を通して理解する。					幸	
15	実習での学びの整理と反省・自己評価が適切に共有できる。					幸・辻・福江・下村	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業態度	50	真剣に授業に取り組んでいたか。		レポート	50	毎回、学習内容を正確に把握し理解していたか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> 北陸学院小学校での学校支援ボランティアに継続的に参加する。(週1回) 毎時間ごとの気づきや発見、学びをレポートにまとめる。(40分) 				<ul style="list-style-type: none"> 質問は、授業中以外にも、メール等で受け付ける。メールアドレスは、受講者に知らせておく。 毎回の授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 			
受講生に望むこと	・実習校での躓きをなくすため積極的にプレ実習に参加すること。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	その都度指示あり。			その他・特記事項	その都度指示あり。		

授業科目名	ET215U 小学校教育実習 I		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	幸 聖二郎・辻 直人・下村 岳人・福江 厚啓 (代表教員 幸 聖二郎)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>小学校教育実習指導 I で受けた事前指導に従って、北陸学院小学校で5日間の教育実習を行う。それぞれ配属されたクラスで、子どもとふれあったり、授業を参観することで、子ども理解を深め、学級経営、授業づくりについて学ぶ。毎日の実習内容と気付きを指定の書式で記録する。</p>			<p>①子どもや他の教師との積極的なコミュニケーションをとることができる。 ②日々の自分自身の学びを適切に記録することができる。 ③教師としての仕事の魅力や職責に気付く。</p>				
教授方法	実習(5日間)						
履修条件	小学校教育実習指導 I を履修していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	学校長より学校の概要の説明を受け、教育実習期間中の指導計画等を理解する。						
2	各学級に入り、授業を参観することで、学級の実態を知り、子どもたちや指導教諭との意思疎通を図る。						
3	授業を参観し、子どもの実態を知り、各教科の学習進度を把握する。						
4	授業を参観し担任の授業の進め方を学ぶ。休み時間を共有して子どもとの融和を図る。						
5	他学年の授業も参観し、それぞれの学年に応じた指導のあることを知る。						
6	教育実習日誌を整理し、授業の記録、指導された内容を基に、自分の課題に気付く。						
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
コミュニケーション能力	50	子どもたちや学校職員とコミュニケーションがとれていたか。	教育実習日誌	50	日々の記録が適切に記録されていたか。		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
実習校指導教諭等の指導・指示による。			教育実習記録を毎日指導教諭に提出し、指導を受ける。				
受講生に望むこと	小学校実習は受け入れ校においても一大行事である。真剣に小学校教師を目指す学生がこの講座を受講し、実習生であっても子どもにとっては教師であることを自覚して取り組むことを望む。		教科書・テキスト	小学校学習指導要領 文部科学省			
指定図書参考書等	なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	ET220U 保育実習指導Ⅰ（施設）		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	虹釜 和昭・齊藤 英俊（代表教員 虹釜 和昭）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本授業では、保育士資格を得るために必要な保育実習Ⅰ（施設実習 2単位）を行うための事前指導と事後指導からなっている。事前指導では、保育実習の意義と目的、施設現場に対する理解を深める。具体的には、保育士に求められる倫理綱領をはじめ、実習に臨む基本的姿勢、利用者及び入所児童の自立度、家庭問題などに対応する障がい者や子どもも理解、実習日誌の記入方法や指導計画の書き方、保育・養育に必要な知識・技能の確認等、実習に向けた準備を行う。事後指導では、実習で体験したことの意味付けと自己評価を行い、これまでの支援のあり方などの省察を行う。それに基づいて自己課題を明確にし、次のステップである保育実習Ⅲに臨む。</p>			<p>①保育実習（施設）の意義と目的を理解している。 ②実習の内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。 ③実習施設（施設）における利用者及び子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解している。 ④実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解している。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。</p>				
教授方法	講義・演習、ディスカッション、発表						
履修条件	幼児保育コース所属の学生以外は履修できない。「保育実習Ⅰ（施設）」を履修中の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	保育実習の意義 授業概要の説明を行い、保育士の仕事を振り返り、保育士科目における施設実習指導の果たす役割について理解する。個人票を作成する。					虹釜・齊藤	
2	施設実習指導の学びの目的について、到達目標を達成するために必要な事項を理解する。					虹釜・齊藤	
3	実習施設（社会的養護を必要とする児童のための福祉施設、障害のある子ども・成人のための福祉施設）の種別と概要について理解する。					虹釜・齊藤	
4	実習施設の職員構成や職種、役割や連携について学ぶ。福祉施設で勤務する保育士の資質について理解する。					虹釜・齊藤	
5	入所・通所している子ども・利用者の特徴や、日常生活、生活環境、人間関係（対家族、対職員、対利用者）について理解する。					虹釜・齊藤	
6	実習に向けての心構えと基礎理解について、テキストを輪読した後グループ内でディスカッションを行う。					虹釜・齊藤	
7	配属予定の施設（種別）について調べた資料に基づいてグループディスカッションを行い、実習先に関する理解を深める。					虹釜・齊藤	
8	これまで受講してきた授業（児童家庭福祉論Ⅰ、社会福祉、社会的養護、子どもの保健ＡＢ、障がい児保育など）の内容を振り返り、実習との関連についてディスカッションする。					虹釜・齊藤	
9	実習ファイルおよび作成書類（事前オリエンテーション記録、出勤簿、実習日誌、実習日誌ガイドライン、支援計画、自己評価表、実習のまとめ、誓約書など）を配付し、記入上の説明を行う。					虹釜・齊藤	
10	事前オリエンテーションに関する留意事項、オリエンテーション記録作成上の注意を行う。					虹釜・齊藤	
11	実習計画および実習日誌の意義や作成方法について理解する。特に時系列記述とエピソード記述における留意点について理解する。					虹釜・齊藤	
12	事前訪問：実習先施設の養育支援方針、概要を理解する。実習日程・内容など日程を把握する。実習先保育所の保育方針、概要を理解する。実習日程・内容・プレ実習の日程を把握する。					虹釜・齊藤	
13	直前指導：施設実習を行う際の留意事項について、グループごとにテキストを輪読した後整理する。実習中における学びについて理解する。これまで行ってきた実習生の事例をあげながら実習上の注意を促す。					虹釜・齊藤	
14	実習報告会準備：施設実習の振り返り・施設種別毎のグループでの話し合い、報告会の内容を作成する。					虹釜・齊藤	
15	実習報告会：施設実習で学んだことを発表し合い、学びを再確認するとともに、他の実習先での学びを共有する。					虹釜・齊藤	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加姿勢	50	①実習の目的を明確に理解している。②主体的に討議に参加している。③保育士の職務や保育を理解しようとしている。④実習報告会に積極的に参加している。		課題提出	50	①課題を期日までに提出する。②課題内容を理解し、工夫して取り組んでいる。③実習日誌の書き方を理解している。④実習計画を作成することができる。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①事前訪問やホームページを活用して、実習先についての概要をまとめ、レポートを提出する。 ②実習日誌のモデル案にしたがって日誌を書いてみる作業を通し、実習日誌の作成に慣れておく。 ③実習で求められる日常業務などを遂行できるように、日常の家事作業などを十分に体験しておく。 ④実習園に限定せず、社会的養護関係施設における学習支援、障害者支援施設・就労支援施設などのボランティアに参加する。			事後指導において、実習内容などの講評を行う。				
受講生に望むこと	①施設保育士は社会的養護関係施設や障害者支援施設・就労支援施設の入所者・利用者の人権に直接かかわる業務であることを十分に認識して授業に臨むこと。②事前にテキストを熟読し、演習課題に取り組むことが望ましい。③「児童家庭福祉論Ⅰ」「社会的養護内容」の授業と関連付けて理解するように努めること。		教科書・テキスト	『保育の基礎を学ぶ福祉施設実習』小野 澤昇・田中利則・大塚良一編著 ミネルヴァ書房 2014 ISBN 978-4-623-06947-7			
指定図書参考書等	なし		その他・特記事項	①委託費など実習費用約50,000円（保育実習Ⅰ・ⅡまたはⅢ）が必要となる。詳細は、1回目の授業で説明する。 ②無断欠席・遅刻・早退が多い・課題が提出されない場合は、実習を認めない。			

授業科目名	ET225U 保育実習 I (施設)		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭・齊藤 英俊 (代表教員 虹釜 和昭)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>居住型および通所型の児童福祉施設（保育所を除く）もしくは障害者支援施設において、90時間（約11日間）の実習を行う。利用者与生活をともにすることで、施設の社会的意義と支援内容、子ども・利用者の理解、保育士の職務や役割、職場内の他職種との連携の理解、施設内で組み立てられている保育や援助技術の理解と実践、保育士の子ども・利用者とのかかわり方、社会人としてのマナーと職業上の倫理を体験的に学ぶ。</p>			<p>①実習施設について理解している。 ②養護の一日の流れを理解し、主体的に参加する。 ③子ども・利用者の観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解している。 ④支援計画を理解している。 ⑤生活や支援の一部分を担当し、養護技術を習得している。 ⑥職員間の役割分担やチームワークについて理解している。 ⑦施設での生活を通して家庭・地域社会を理解している。 ⑧「子どもの最善の利益」についての配慮を学んでいる。 ⑨保育士としての職業倫理を理解している。 ⑩安全および疾病予防への配慮について理解している。</p>			
教授方法	実習（90時間）					
履修条件	保育実習指導 I を受講していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
	90時間（約11日間）の実習において、次の1～14の内容を行う。					
	1. 施設での一日の流れを理解する。					
	2. 施設の役割と機能について理解する。					
	3. 子ども・利用者を観察し、記録する。					
	4. 子ども・利用者の個々の状態に応じた援助やかかわりについて考え実践する。					
	5. 実習計画に基づき活動し、支援を行う。					
	6. 子ども・利用者の心身の状態に応じた行動に心がける。					
	7. 子ども・利用者の活動と生活の環境を理解する。					
	8. 子ども・利用者の健康管理、安全対策について理解する。					
	9. 支援計画（自立支援計画を含む）について理解する。					
	10. 実習計画に基づき省察し、自己評価を実施する。					
	11. 施設保育士の業務内容を体験的に理解する。					
	12. 他職員間の役割分担や他職種との連携について体験的に理解する。					
	13. 施設保育士の役割と職業倫理について体験的に理解する。					
	14. 施設の年間計画や行事について理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習先の評価	70	実習指導時に配付する評価表における項目ごとに評価する。		巡回時の担当教員の評価	10	実習巡回時における面談内容について評価する。
提出物	20	①事前オリエンテーション記録、実習日誌、事後レポートによって自己評価ができています。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
事前に施設での行事参加・体験学習（プレ実習）などを通して施設を体験的に理解する。				施設実習指導の事後指導において個別に伝達する。		
受講生に望むこと	①実習の目標を理解した上で実習に臨むこと。 ②実習中は担当教員との報告・連絡・相談を徹底すること。			教科書・テキスト	保育の基礎を学ぶ『福祉施設実習』小野 澤昇・田中利則・大塚良一編著 ミネルヴァ書房 2014 ISBN 978-4-623-06947-7	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	実習施設は受講生の配属希望調査を実施した上で実習担当教員が配属する。 交通費については原則実費とする。	

幼児児童教育学科
(3～4年次)

授業科目名	専門ゼミⅠ			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	宮浦 国江・伊藤 雄二・大井 佳子・虹釜 和昭・田邊 圭子・多保田 治江・辻 直人・中島 賢介・永山 亮一・幸 聖二郎・熊田 凡子・齊藤 英俊・下村 岳人・向出 圭吾・高村 真希・福江 厚登（代表教員 宮浦 国江）						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
基礎ゼミ・プロゼミで身につけた学習および研究方法を土台として、各自の問題関心をより深く考察するために、選択したゼミ担当教員のもとで、学習および研究を進める。具体的には、各ゼミで示されるゼミプランに従い、専門分野に関する文献を多く読み、理解に努める。その後、ゼミ担当教員の指導のもとに、各自が設定したテーマに沿って文献・資料検索、データ収集などを行い、ゼミレポート（8000字程度：該年度の1月下旬締切）の完成を目指す。				① ゼミプランに従って専門分野に関する多くの文献に触れている。 ② 各自が設定したテーマに沿って文献・資料検索、データ収集などを行うことができる。 ③ ゼミレポートの作成を通して、設定したテーマをより深く理解し、文章化することができる。 ④ グループディスカッションを通して教員や他のゼミ学生の考えに気付き、自分の知見を広げる。			
教授方法	ゼミごとに指導教員の指示のもと演習形式で行う。						
履修条件	基礎ゼミ・プロゼミを履修し、単位を取得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ゼミ内での自己紹介、ゼミ運営についてのオリエンテーションなどを行う。						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
15	ゼミごとに前期のゼミ活動を総括する。						各担当教員
16	ゼミごとに後期のゼミ運営のオリエンテーションなどを行う。						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員

授 業 計 画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
28	各ゼミ内でレポートの発表を行う。	各担当教員
29	各ゼミ内でレポートの発表を行う。	各担当教員
30	専門ゼミ I の活動総括を行う。	各担当教員

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	50	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②文献等の調査を積極的におこなっているか。 ③課題にまじめに取り組む姿勢があるか。	レポート	50	①指定された字数・書式等が守られているか。 ②内容（課題、論旨の根拠、意見等）が適切か。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
積極的に図書館等を利用するなど、専門分野に関する文献を多く読む。詳細は各ゼミの担当教員の指導に従う。			随時行う。		
受講生に望むこと	2年次後期に配付する「専門ゼミ I・II の登録と卒業研究について」の資料を熟読すること。		教科書・テキスト	ゼミごとの担当教員の指示に従う。	
指定図書／参考書等	なし／ゼミ担当教員の指定による。		その他・特記事項	不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせること。	

授業科目名	専門ゼミⅡ			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	多保田 治江・大井 佳子・虹釜 和昭・辻 直人・中島 賢介・宮浦 国江・田邊 圭子・永山 亮一・幸 聖二郎・熊田 凡子・向出 圭吾・齊藤 英俊・下村 岳人（代表教員 多保田 治江）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>専門ゼミの最終段階として専門ゼミⅠに引き続き、それぞれの専門分野で設定したテーマに沿って研究を深める。具体的には、口頭発表の方法（効果的な発表方法、プレゼンテーション技術等）を身に付け、調査研究、文献研究、ゼミ生相互の検討、意見交換などを通して、レポート執筆などを行う。大学での学びを集約し、その成果を専門ゼミレポートⅡ（16000字程度：該年度の1月下旬締切）としてまとめるとともに、卒業後の課題の探求姿勢を身に付ける。</p>				<p>①各自が設定したテーマに沿って、文献・資料検索やデータ収集などを行うことができる。 ②専門ゼミレポートⅡ（または作品と副レポート）の作成を通して、設定したテーマをより深く理解し、文章化することができる。 ③研究内容をまとめ、効果的に発表することができる。</p>			
教授方法	ゼミごとに指導教員の指示のもと演習形式で行う。						
履修条件	「専門ゼミⅠ」の単位を修得済みの者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	専門ゼミⅡの運営についてのオリエンテーションなどを行う。						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
15	ゼミごとに前期のゼミ活動を総括する。						各担当教員
16	ゼミごとに後期のゼミ運営のオリエンテーションなどを行う。						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員

授 業 計 画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
28	各ゼミないでレポートの発表を行う。	各担当教員
29	専門ゼミⅡレポート発表会で発表を行う。	各担当教員
30	専門ゼミⅡの総括を行う。	各担当教員

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	10	担当教員の指示に従い、ゼミ内における役割を意識して行動している。	レポート作成	70	計画的にレポートを作成し、作成要領に従って期日内に提出している。
レポート発表	20	専門ゼミレポートⅡ発表会において、レポート内容を効果的に発表している。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
設定したテーマに沿って、綿密な研究計画を立てた上で調査研究・文献研究を行い、テーマをより深く理解することができるように準備をして下さい。[90分]			課題については、授業の冒頭部にコメントを付けて返却します。		
受講生に望むこと	4年間の学びの集大成であるので、個別指導をしっかり受け止めて下さい。		教科書・テキスト	ゼミでの指定による。	
指定図書／参考書等	なし／ゼミでの指定による。		その他・特記事項	専門ゼミⅡとともに卒業研究を履修した場合には、卒業研究（卒業論文）の作成により専門ゼミⅡレポートの作成は不要とします。	

授業科目名	卒業研究			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	多保田 治江・大井 佳子・虹釜 和昭・辻 直人・中島 賢介・宮浦 国江・田邊 圭子・永山 亮一・幸 聖二郎・熊田 凡子・向出 圭吾・齊藤 英俊・下村 岳人（代表教員 多保田 治江）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
4年間の学びの集大成として、学習内容を論理的・系統的にまとめ、実社会において科学的・論理的視点から物事を捉えることができるようにする。指導方法としては、担当教員の専門分野に分かれ、個別指導のもとに展開し、卒業論文または卒業作品としてまとめる。				①各自が設定したテーマに沿って、文献・資料検索やデータ収集などを行うことができる。 ②卒業論文や卒業作品（作品と副論文）の作成を通して、設定したテーマをより深く理解し、文章化することができる。 ③学習内容を論理的・系統的にまとめ、効果的に発表することができる。			
教授方法	ゼミごとに指導教員の指導のもと各自の研究課題をまとめる。						
履修条件	「専門ゼミⅠ」を履修し、単位を修得済の者。3年次終了時点で、累積 GPA が 2.5 以上確保していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	卒業研究の運営についてのオリエンテーションなどを行う。						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
15	ゼミごとに前期のゼミ活動を総括する。						各担当教員
16	ゼミごとに後期のゼミ運営のオリエンテーションなどを行う。						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員

授 業 計 画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
28	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
29	卒業研究発表会で発表を行う。	全員
30	卒業研究の総括を行う。	各担当教員

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	10	担当教員の指示に従い、ゼミ内における役割を意識して行動している。	卒業研究（論文または作品と副論文）の作成	70	計画的に卒業研究を作成し、作成要領に従って期限内に提出している。
卒業研究（論文または作品と副論文）の発表	20	卒業研究発表会において、卒業研究の内容を効果的に発表している。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
設定したテーマに沿って、綿密な研究計画を立てた上で調査研究・文献研究を行い、テーマをより深く理解することができるように準備をして下さい。[90分]			課題については、授業の冒頭部にコメントを付けて返却します。		
受講生に望むこと	4年間の学びの集大成であるので、個別指導をしっかり受け止めて下さい。		教科書・テキスト	ゼミの指定による。	
指定図書／参考書等	なし／ゼミの指定による。		その他・特記事項	卒業論文の規定文字数は24000字以上（図表等を含む）とします。作品を提出する場合は、論文に作品を添えて提出します。この場合の論文は16000以上とします。卒業研究の提出は該年度の1月第3週の月曜日16時までで、大学事務室教務課とします。専門ゼミⅡとともに卒業研究を履修した場合は、卒業研究（論文または作品と副論文）の作成により専門ゼミⅡレポートの作成は不要とします。	

授業科目名	教育史		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	辻 直人						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>今を生きる我々が経験してきた教育も、過去の様々な試みや変革を経て現在に至っている。一体、現在の教育はどのような歴史をたどって現在に至ったのだろうか。本講義では西洋及び日本における教育史、中でも学校や幼稚園にまつわる歴史を中心に、過去の人たちがどのように教育と向き合ってきたのかを考察したい。適宜、石川県教育史や北陸学院の歴史にも触れながら、授業を進める。「過去に目を閉ざす者は現在にも盲目となる」という有名な言葉がある。現在を見つめ将来を展望するためには、過去から真摯に学ばねばならない。この講義を通じて、歴史から学ぶことの意味を再認識してほしい。</p>			<p>①西洋及び日本の教育史について、流れと各時代の特徴を説明できる。 ②歴史を学ぶ意味を理解している。 ③自分と関係の深い分野（希望する教育種別、出身校、出身地域など）の教育史を知っている。</p>				
教授方法	講義の他、受講生によるプレゼンテーションや話し合いを多く取り入れる。授業時間外学習（課題）も取り組んでもらう。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション（授業の進め方、成績の付け方）、歴史を学ぶ意味、教育史の種類						
2	義務教育（学校教育）の歴史① 何故義務教育は始まったのか 寺子屋から学校制度へ						
3	義務教育（学校教育）の歴史② 学校制度の定着と進展						
4	義務教育（学校教育）歴史③ 自由教育登場の背景と意味						
5	義務教育（学校教育）の歴史④ 前半：各グループによるプレゼンテーション（1） 後半：講義 戦時教育について						
6	義務教育（学校教育）の歴史⑤ 各グループによるプレゼンテーション（2） 後半：講義 戦後教育の発展						
7	幼児教育の歴史① 幼児教育の始まりについて（西洋）						
8	幼児教育の歴史② 幼児教育の始まりについて（日本）						
9	幼児教育の歴史③ 前半：各グループによるプレゼンテーション（3） 後半：講義 幼児教育の発展						
10	幼児教育の歴史④ 前半：各グループによるプレゼンテーション（4） 後半：講義 戦後幼児教育史						
11	キリスト教教育の歴史① キリスト教教育の目的、宣教師の来日とキリスト教教育の始まり						
12	キリスト教教育の歴史② 幼児教育、女子教育とキリスト教						
13	キリスト教教育の歴史③ 北陸におけるキリスト教教育の発展						
14	キリスト教教育の歴史④ 前半：各グループによるプレゼンテーション（5） 後半：講義 国家政策とキリスト教教育						
15	世界教育史の中の日本						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験（小論文）	50	①授業内容を自分の言葉で説明できる。 ②歴史の流れを、自分と絡めて理解している。		プレゼンテーション	30	①自らの課題（問い）を明確に提示し、自分の言葉で説明できる。 ②報告する際に、分かりやすいような工夫をしている。 ③グループで協力してまとめられている。	
リアクション・ペーパー	15	①授業担当者からの質問内容を適切に理解している。 ②質問内容に対し、自分なりの言葉で回答し意見を述べられている。		授業態度	5	①私語をせず積極的に質問するなど授業に参加している。 ②遅刻、途中退席をしない。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業内容に関連する「問い」を考え、グループで調べた結果等を報告してもらう。そのための準備、話し合いの時間を授業時間外に必然的に持つてもらうことになる。 ②授業中に配布するプリントに関する課題を折に触れ出すので、その課題に対して期日までに仕上げ提出する。[40分]				プレゼンテーションやリアクションペーパーについては、その都度コメントする。期末試験は返却予定なし。			
受講生に望むこと	授業内容に関連した「問い」を受講生自ら考えてもらい、その「問い」をもとに授業を進める。授業内容は受講生みんなで作っていくつもりでほしい。当時の子どもたちや教師の姿、学校や幼稚園現場の様子を想像力豊かに描いてほしい。歴史を学ぶことは自己を振り返ることである。言い換えれば、自己の中に歴史を見出さなければ歴史の学びは深まらない。この授業を通じて、歴史学習の奥深さを知ってほしい。			教科書・テキスト	『新・教職課程シリーズ 教育の理念・歴史』田中智志・橋本美保編、一藝社、2013年、ISBN:978-4-86359-057-1（1年次「教育学概論」で使用したテキストの後半部分を使用する）		
指定図書参考書等	適宜授業中に紹介する。時代の様子が分かる文献資料を配布するので、よく読み、その時代の子どもや教育現場の様子をイメージすること。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	教育学文献講読 I		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	辻 直人						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本年度の教育学文献講読は「経験」を軸に教育を考えてみたい。前期の文献講読 I では、アメリカの教育哲学者ジョン・デューイの『経験と教育』をテキストとして、「経験」が教育においてどのような役割を果たすのか、検討する。デューイはアメリカを代表するプラグマティズム哲学者であり、新教育運動に大きな影響を与えた教育学者で、その言説は日本でも大きく注目されてきた。新教育の特徴を深く理解して、現代的意義を検討していく。</p>			<p>①文献を的確に要約し、報告できる。 ②文献に登場した概念を分析し議論できる。 ③文献の現代的意義について論じることができる。 ④文献で紹介された概念を参考に、自らの教育観を語るすることができる。</p>				
教授方法	演習、担当者による報告と受講生による討論						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション（演習の進め方、成績の付け方について確認）、デューイについての考察						
2	まえがき、はしがきの検討						
3	第一章「伝統的教育対進歩主義教育」の検討						
4	第二章「経験についての理論の必要」の検討						
5	第三章「経験の基準」の検討						
6	第四章「社会的統制」の検討						
7	第五章「自由の本性」の検討						
8	第六章「目的の意味」の検討						
9	第七章「教材の進歩主義的組織化」の検討						
10	第八章「経験—教育の手段と目的」の検討						
11	デューイ研究論文の検討（1）						
12	デューイ研究論文の検討（2）						
13	デューイ研究論文の検討（3）						
14	デューイ研究論文の検討（4）						
15	デューイ教育論の総合的検討						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業態度	30	事前に文献を読んできたか。議論に参加して、積極的に自分の意見を述べたか。		報告内容	30	割り当てられた箇所について適切なレジュメの作成と報告の準備をしてきたかどうか。	
レポート	40	文献をふまえた上で、経験と教育について自分の意見をまとめられたかどうか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>全員が毎週割り当てられるテキストの範囲をしっかりと読み、討論に参加できるように、事前に分からない語句などを調べておくこと。[90分]報告者は議論のできるような適切なレジュメをまとめること。[90分]</p>				<p>報告や質問に対しては適宜対応する。レポートは、後期の文献講読 II も受講する者には後期に返却、その他の学生に対しては希望者に返却する。</p>			
受講生に望むこと	教育学を学問としてしっかり学びたい学生の受講を強く希望する。後期の教育学文献講読 II も継続して受講することを望む。			教科書・テキスト	『経験と教育』デューイ、講談社学術文庫、2004年、ISBN:4-06-159680-2		
指定図書参考書等	なし／適宜紹介する			その他・特記事項	なし		

授業科目名	教育学文献講読 I			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
今年度は思春期の心理に関して取り上げる。思春期は、第2次性徴といった身体的な変化とともに、心理的にも変化が大きく、心身のアンバランスが見られる時期でもある。本授業では、村上春樹の小説を題材に思春期の心理について考察している文献を講読しながら、思春期の心理的特徴や心理的発達における思春期の意味、また現代的特徴について考えてみたい。				①レジュメを作成し、文献の要点を整理し発表することができる。 ②思春期の心理的特徴について理解している。 ③心理的発達における思春期の意味について、自分なりの意見を持てるようになる。			
教授方法	参加者による輪読（レジュメ作成および発表）、ディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の流れ、評価方法について。発表者決め。						
2	第1章 物語の力①：物語の呪縛						
3	第1章 物語の力②：新たな物語のプロローグ						
4	第2章 思春期という異界①：思春期と異界						
5	第2章 思春期という異界②：思春期の記憶						
6	第3章 思春期体験と死①：死の側面とつながる						
7	第3章 思春期体験と死②：生の中にある死						
8	第4章 現実の多層性①：「見える身体」と「見えない身体」						
9	第4章 現実の多層性②：イメージの力						
10	第4章 現実の多層性③：「向こう側」とのかかわり方						
11	第5章 本当の物語を生きる①：物語の共有						
12	第5章 本当の物語を生きる②：物語の行方						
13	思春期に関する論文の検討①自己意識について						
14	思春期に関する論文の検討②友人関係について						
15	思春期に関する論文の検討③親子関係について						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業への参加態度	30	参加状況やディスカッションでの発言等を評価する。			担当回の発表	40	レジュメの完成度、補足的に調べた内容、発表内容を評価する。
最終レポート	30	文献の内容を踏まえて、思春期の心理について自らの意見をまとめられているかを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①事前に各回でとりあげる当該箇所を読んでおく。[30分] ②発表に向けて、担当箇所を読んでレジュメを作成する。必要に応じて、参考書等により補足情報を調べる。[50分]				最終レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを配布します。			
受講生に望むこと	受動的な態度での受講ではなく、積極的な授業参加を期待します。			教科書・テキスト	『増補 思春期をめぐる冒険』 岩宮恵子 創元社 2016年 ISBN:978-4422000633		
指定図書参考書等	なし/『思春期の心の臨床』青木省三 金剛出版 2011年 ISBN:978-4772412292、『思春期学』笠井清登・藤井直敬・福田 正人・長谷川眞理子編 東京大学出版会 2015年 ISBN:978-4130111416			その他・特記事項	受講者の人数や理解度に応じて、授業の内容や進め方を修正する場合があります。		

授業科目名	教育学文献講読Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	辻 直人						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本年度の文献講読は、「経験」を軸に教育を考えることをテーマとしている。後期の文献講読Ⅱでは、日本の哲学者で経験論として有名な森有正の文献を検討する。基本的テキストとして『遙かなノートル・ダム』を取り上げ、「経験」と「体験」の違い、日本の教育を森有正がどうとらえていたのか、その評価は妥当かどうか、日本の教育における「経験」の意義はどうか捉えられるのか考察してみたい。</p>			<p>①文献を的確に要約し、報告できる。 ②文献に登場した概念を分析し議論できる。 ③文献の現代的意義について論じることができる。 ④文献で紹介された概念を参考に、自らの教育観を語るすることができる。</p>				
教授方法	演習、担当者による報告と受講生による討論						
履修条件	教育学文献講読Ⅰを受講していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション、哲学者森有正について、文献の紹介						
2	「霧の朝」の検討 (1)						
3	「霧の朝」の検討 (2)						
4	「ひかりとノートル・ダム」の検討 (1)						
5	「ひかりとノートル・ダム」の検討 (2)						
6	「遙かなノートル・ダム」の検討 (1)						
7	「遙かなノートル・ダム」の検討 (2)						
8	「赤いノートル・ダム」の検討						
9	「ある夏の日の感想」の検討						
10	「バリ生活の一断面」の検討						
11	「ルオーについて」の検討						
12	「思索の源泉としての音楽」の検討						
13	「滞日雑感」の検討						
14	その他森有正の文献検討						
15	総括的検討、文献の意義について討議						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業態度	30	事前に文献を読んできたか。議論に参加していたか。積極的に自分の意見を述べたか。		報告内容	30	割り当てられた箇所について適切なレジュメを作成し、議論をするための的確な報告を行うことができたか。	
レポート	40	文献の内容を踏まえて、自らの教育観を見つめ直し、現代の教育問題を考察することができたか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>報告者だけでなく全員が毎週割り当てられるテキストの範囲をしっかりと事前に読み、議論に参加できるように、分からない語句などを調べて、テキスト本文の理解を深めること。[90分]報告者は議論するための適切なレジュメを作成すること。[90分]</p>				<p>報告や質問についてはその都度対応する。レポートについては、希望者に返却する。</p>			
受講生に望むこと	教育の本質を追究し、教育学を学問として真摯に学びたい学生の受講を強く希望する。前期の教育学文献講読Ⅰから引き続いての受講を希望する。			教科書・テキスト	『遙かなノートル・ダム』森有正 講談社文芸文庫 ISBN:978-4-06-290176-5 あるいは 『森有正エッセー集成』3 二宮正之編 ISBN:4-480-08513-0		
指定図書参考書等	なし/適宜紹介する			その他・特記事項	なし		

授業科目名	教育学文献講読Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本授業では発達障害や人の発達に関する専門書を講読する。現在、発達障害の本質は脳の生物学的異常性であるとする説が主流であり、発達障害と診断される子どもの発達と通常の平均的な発達（定型発達）は全く別のものであるとされることが少なくない。しかし、発達障害の本質を精神発達の相対的な遅れであり、脳の生物学的な不全是発達の足を引っ張る負荷要因の一つであると考えすることはできないだろうか。この授業では、「異常」による区別を推奨せず、発達障害と定型発達の連続性を主張する滝川氏の文献を読む。また、必要に応じて他の心理的発達に関する文献も参照していきながら、子どもの発達や障害をどう考えるか、発達障害の理解を教育にどのように生かせるかを考える。</p>			<p>①専門書を読みとく読解力を獲得している。 ②発達障害に関する様々なとらえ方があることを知る。 ③心理的発達や発達障害の基礎的知識を基にした、発展的な議論に慣れる。</p>				
教授方法	参加者による輪読（レジュメ作成および発表）、ディスカッション						
履修条件	発達障害に関する授業を履修済みであること（単位の修得は条件としない）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の流れ、評価方法について。発表者決め。						
2	精神発達とはなにか①：「精神発達」とはなにか						
3	精神発達とはなにか②：遅れをもつ子のこころの世界						
4	精神発達とはなにか③：ADHD や LD をどう考えるか						
5	精神発達とはなにか④：愛着の障害とそのケア						
6	そだちの見方・考え方①：発達障害再考－診断と脳障害論をめぐって						
7	そだちの見方・考え方②：視聴覚障害とそだち						
8	そだちの見方・考え方③：子育てと児童虐待						
9	そだちの見方・考え方④：大学生における「アスペルガー症候群」の理解と対応						
10	そだちの見方・考え方⑤：子どもはなぜ遊ぶのか						
11	そだちの見方・考え方⑥：発達のおくれとおとなになること						
12	そだちの見方・考え方⑦：学びとそだち						
13	そだちの見方・考え方⑧：病と学び						
14	そだちの見方・考え方⑨：貧しさと子どものそだち						
15	そだちの見方・考え方⑩：子どもの治療とは何か－治療効果をめぐって						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加態度	30	参加状況とディスカッションでの発言等を評価する。		担当回の発表	40	レジュメの完成度、補足的に調べた内容、発表内容を評価する。	
最終レポート	30	文献の内容を踏まえて、発達障害や子どもの発達のとらえ方に対して、自分なりの意見をまとめられているかどうかを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①事前に各回でとりあげる章を読んでおく[30分]。 ②発表に向けて、担当箇所を読んでレジュメを作成する。必要に応じて、他の書籍等により補足情報を調べる[50分]。</p>				最終レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを配布します。			
受講生に望むこと	受動的な態度での受講ではなく、積極的な授業参加を期待します。			教科書・テキスト	『子どものそだちとその臨床』 滝川一廣 日本評論社 2013年 ISBN:978-4535804333		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	・単位を修得しているかどうかは問わないが、本講義の受講前に、子どもの発達障害に関する授業を履修していることが受講条件。 ・受講者の人数や理解度に応じて、授業の内容や進め方を修正する場合があります。		

授業科目名	児童体育		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子（代表教員 永山 亮一）					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>学習指導要領の目標には「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」とある。この授業では、将来保育者及び教員となる学生達がこれらのねらいや目標を踏まえ、実践につなげることが出来る内容を自ら習得し、実践的に学んでいくことをねらいとする。幼稚園あるいは小学校の体育を指導していくために、小学校の学習内容として構成されている運動領域を基に、基礎的な実技能力の習得に主眼を置き指導する。</p>			<p>学習指導要領（体育編）の内容を理解し、実技の実践及び指導ができるようになる。</p>			
教授方法	実技					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス					永山
2	体づくり運動① 「走・跳の運動遊び①」を実践し、指導上の留意事項などを学習する。					永山
3	体づくり運動② 「走・跳の運動遊び②」を実践し、指導法などを学習する。					永山
4	体づくり運動③ 「器械・器具を使つての運動遊び①」を実践し、指導法などを学習する。					永山
5	体づくり運動④ 「器械・器具を使つての運動遊び② ～器械運動①」を実践し、指導上の留意事項などを学習する。					永山
6	体づくり運動⑤ 「器械・器具を使つての運動遊び③ ～器械運動②」を実践し、指導法などを学習する。					永山
7	体づくり運動⑥ 「ゲーム① ボールをあつかう①」を実践し、指導法などを学習する。					永山
8	体づくり運動⑦ 「ゲーム② ボールをあつかう②」を実践し、指導法などを学習する。					永山
9	体づくり運動⑧ 「ゲーム③ ボールをあつかう③」を実践し、指導法などを学習する。					永山
10	体づくり運動⑨ 「ボール運動①」を実践し、指導法などを学習する。					永山
11	体づくり運動⑩ 「ボール運動②」を実践し、指導法などを学習する。					永山
12	体づくり運動⑪ 「ボール運動③」を実践し、指導法などを学習する。					永山
13	水泳① 各種泳法を実践し、指導法などを学習する。（水泳実習における留意事項など理論を中心に。）					田辺・永山
14	水泳② 各種泳法を実践し、指導法などを学習する。（各種泳法など実技を中心に。）					田辺・永山
15	まとめ これまで学習してきた内容を整理する。					田辺・永山
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業 参加 態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか ・他人へ体育実技を指導する上で何が大切なのかを学び取ろうとする姿勢があるか		ミニレポート	20	・指定したフォーマットにて記載されているか ・指定した課題に対して的確に調べられているか
授業外における学習（事前・事後学習等）						
<p>①各講義を振り返り、実技内容と学習指導要領の内容をつなげる。【30分】 ②各講義を振り返り、できない実技に関しては自主練習を行う。【30分】 ③各自の実技実践能力を発達させるとともに、指導する立場となったときのシミュレーションを行い、指導力の向上につなげる。【30分】</p>				<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</p> <p>小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。</p>		
受講生に 望むこと	<p>実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館にて行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。なお、この科目は学習指導要領に則った実技の研修科目です。学ぶ姿勢、及び教える側としての意識を持って参加して下さい。</p>			教科書・ テキスト	なし	
指定図書/ 参考書等	<p>『小学校学習指導要領解説 体育編』文部科学省 東洋館出版社 2008年 ISBN 978-4-491-02375-5 『学習指導要領の解説と展開 体育編』安彦忠彦監修 教育出版 2008年 ISBN 978-4-316-80217-6</p>			その他・ 特記事項	<p>運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）</p>	

授業科目名	教育社会学		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	町田 健一・井上 好人（代表教員 町田 健一）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>人々が生まれ、育ち、学び、働き、自己実現していくプロセスには、彼らを取り巻く多くの人々や社会組織との関わりがある。学校現場の活動も社会との関係性を抜きにしては理解できないのである。本講義では、「教育」と「社会」との関係、社会や集団が人間形成にどのような影響をおよぼしているのか、逆に、教育は社会の存続や発展にどのように貢献しているか、という視点から考察する。具体的には、近代社会が理想とした人材・地位の配分システムであるメリトクラシーをめぐる機能主義理論、葛藤理論の検討、戦後の日本社会の教育機会拡大、P.ブルデューの文化的再生産論、近年の学力低下論争を手がかりに理論的実証的にアプローチしながら、21世紀の学校が取り組むべき教育諸問題を考察していく。</p>			<p>・近代社会において生起する社会移動についての基本的な理論について理解している。 ・能力や業績といった指標によって地位が決定される近代社会の理念と学校の果たす役割や問題点について考察することができる。 ・P.ブルデューの提起した社会的な再生産が起こるメカニズムを「文化」、「資本」概念を用いて説明することができる。 ・近年の教育と社会をとりまく諸問題（社会的排除、学力低下、格差社会化等）についてその概要を理解し、解決にむけての方向性を考えることができる。</p>				
教授方法	講義（ただし、随時受講者に対して、取り上げたトピックに関する質問や意見を求める。）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション。「ワスプとその子弟教育」：ワスプ（WASP）の子弟教育の特徴を、①そのユニークさと ②その普遍性の観点から理解する。					井上	
2	メリトクラシーの社会：近代社会でメリトクラシーが興隆した要因について理解する。					井上	
3	機能主義理論への懐疑：機能主義理論はなぜ疑われたのか、また同理論に代わる「葛藤理論」について理解し、その登場の背景について考察する。					井上	
4	日本社会と社会階層（1）：近代社会においては社会移動(social mobility)が起こるのか、そのメカニズムを理解し、戦後日本の教育機会拡大の過程を概観する。					井上	
5	日本社会と社会階層（2）：「一億総中流意識」時代の終焉と格差社会化への変化の過程を概観する。					井上	
6	社会的排除：社会的排除とは何か、また、社会的に排除された人々を大量に生み出す背景について理解する。					井上	
7	P.ブルデューの文化的再生産論（1）：ブルデューの提示した「資本」概念をもとに、「社会空間」についての理解を深める。					井上	
8	P.ブルデューの文化的再生産論（2）：文化的再生産論の概要を理解し、社会的な格差が再生産されるメカニズムについて考察する。					井上	
9	文化のヒエラルキー～正統文化とサブカルチャー～：大学生自身の文化的活動と階層的属性との関連を実際の調査データをもとに考察する。					井上	
10	学力低下と学力調査：子どもたちの学力低下はどの程度生じているのか、PISA調査などの学力調査がどのような波紋と議論を巻き起こしたのかを考察する。					井上	
11	“ゆとり”教育から学力向上へ：教育施策の変遷について、そのねらいと学習指導要領上の理念を理解する。					井上	
12	ベアレントクラシーの現出：「子どもの学力を規定する要因は何か？」について新しい説明理論（家庭教育の側面）から検討する。					井上	
13	「底力のある学校」づくり：新自由主義的教育施策に代わる学校教育の新たな方向性をどう模索すべきか、21世紀の学校の課題を考察する。					井上	
14	いじめ・不登校問題と社会・学校。「不登校現象生成メカニズム」、「いじめ発生のメカニズム」について考察する。					町田	
15	性の問題と社会・学校：「生き方を問い続ける学び」として、現代社会における青少年の課題を考察する。					町田	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	試験は論述形式が中心である。問いに対して、教育社会学の基本的な用語が適切に用いられているか、論理的な文章が構成されているか、の点から採点する。		レポート	40	テキストを熟読し、その内容を理解しているか、与えられたテーマについて適切に叙述されているか、の点から評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>・教育に関する様々な現象、問題について関心を持ち、時事ニュースに触れる機会を多くもつ。[45分] ・テキストや参考文献だけでなく、多くの書物を読み、社会や人間についての理解や洞察力、批判的思考力を高めるよう努める。[45分]</p>			<p>・毎回の小課題には前時の復習をかねて模範解答を示し、レポートにはテキストの該当箇所を示しながら解説を加えます。</p>				
受講生に望むこと	<p>・講義中は真剣に受講し、主体的に学ぼうとする意欲を示してほしい。</p>			教科書・テキスト	<p>・毎時間プリントを配布して使用します。読み物形式になっているので復習にも役立てること。また、レポート作成用に次の書籍をテキストとして使用する。 ・刈谷剛彦『大衆教育社会学のゆくえ』（中公新書） ・刈谷剛彦・木村涼子・酒井朗『教育の社会学』（有斐閣アルマ）</p>		
指定図書参考書等	<p>なし/ ・柴野昌山・菊池城司・竹内洋 編『教育社会学』（有斐閣）。 ・志水宏吉『公立学校の底力』（中公新書）。</p>			その他・特記事項	なし		

授業科目名	教育方法論		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	辻 直人						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義では、教育を行う上での方法や技術について考察する。教育方法を学ぶ意義は、様々な方法論を知り、それらの利点を理解することで実際の授業実践をより豊かな学びへと深める点にある。特に今後は、児童が参加することで心と体を開き、より主体的に学びへ入っていくスタイルの授業（アクティビティ、アクティヴ・ラーニング）の導入が一層求められるであろう。受講生には、実際に色々なスタイルの授業を体験してもらい、それぞれの方法論についての特徴を学び理解を深めてもらう。また、教材や媒体、ICT機材等を使う上での注意点についても検討する。</p> <p>本講義は幼稚園教諭希望者も受講対象になっているので、幼児教育における方法論や教具についても考察し、実践を創造する力を育成する。単に技術的操作的認識で終わらせず、子どもとの関わり方、子どもの成長を促すための様々な方法や教材研究法などを身に付けることを狙いとする。</p>			<p>①種々紹介される教育方法の特徴について理解している。 ②目的に沿って教材や方法論の選択をし、授業（教育実践）を自ら組み立てることが出来る。 ③教師が担う役割について説明できる。</p>				
教授方法	講義と同時に、実際に様々なスタイルの方法論を体験したり、各自調べた方法論について受講生が説明する機会も設ける。						
履修条件	教諭免許取得希望者						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション、本講義の目的と意義、授業の進め方について、教育方法を学ぶ意味とは何か？						
2	21世紀に求められる教育実践：実践の主体は誰か？受け身の学習から主体的学びへの転換						
3	教材づくり、教材発掘の視点：学習活動において教材の役割とは何か						
4	チョーク&トーク（講義型）方法論の特徴と事例の検討						
5	アクティビティ（参加型）方法論の特徴と事例の検討						
6	幼児教育における活動の深まりと教師の役割（方法、教材、環境、人間関係などの視点から考える）						
7	受講生による様々な方法論、教材論に関するプレゼンテーション（1）						
8	教育実践における演劇的知の可能性について						
9	新教育運動がもたらした教育方法：欧米の教育実践を事例として						
10	問い・関心を育てること：戦後の教育実践から学ぶ						
11	受講生による様々な方法論、教材論に関するプレゼンテーション（2）						
12	新しい時代における教師の役割：「学び」を深めるために						
13	情報化時代の教育方法論：ICT 機器を導入した授業づくり						
14	受講生による様々な方法論、教材論に関するプレゼンテーション（3）						
15	現代社会の教育実践：「学びの共同体」構想について						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
中間課題	40	①自ら調べた内容を、自分の言葉で的確にまとめられている。 ②配付資料、スライドなど聞き手に伝わるような方法・手段が講じられている。		期末試験	50	①授業内容を理解している。 ②授業内容に対し、自分の意見を言える。	
授業態度	10	①積極的に授業に参加している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>参考文献やプリントをよく読み、予習復習をすること[40分]。 自身が幼少期に経験した授業、更には実習等大学入学後に経験した授業を方法論の観点から分類する作業をしてもらうので、自らの経験を振り返り書き出しておくこと。 取り組み時期については、授業中に指示する。 授業中に、実際にある方法論について（パネルシアター、ロールプレイなど）グループで考察し、その特徴について報告する機会を設ける。その準備も授業時間外の課題とする。実施日時は授業内で指示する。</p>				<p>グループディスカッションやプレゼンテーションについては、その都度コメントをする。期末試験の返却は予定しない。</p>			
受講生に望むこと	本講義は、将来教育者・保育者として授業（教育実践）を自ら組み立てていくことのできる力を養うことを目的としている。そのためには、受け身で授業を受けるのではなく、積極的に授業中に紹介するアクティビティにも参加すること。また、授業の組み立て方、方法論の使い分け方、教材の選び方などを教育者の立場から考える意識を持って授業に出席すること。			教科書・テキスト	プリントで対応する。		
指定図書参考書等	なし／『教育の方法』佐藤学 左右社 2010年 ISBN:978-4-903500-34-8、『学習の転換』河内徳子他 国土社 1997年 ISBN:4-337-46019-5、『教育における演劇的知』渡部淳 柏書房 2001年 ISBN:4-7601-1996-5 など（適宜授業でも紹介する）			その他・特記事項	なし		

授業科目名	保育内容・健康Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田邊 圭子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
健康は子どもの生活の基盤である。未来ある子ども達が生涯にわたって心身ともに健康な生活を築くために私たちは何をすべきだろうか。この授業では、「保育内容・健康Ⅰ」での学びを踏まえ、幼児の健康な心身の発達や安全に関する理解を更に深めるとともに、保育活動として進めていくための方法を実践的に学ぶ。			①乳幼児の心身の健康に関する園と家庭のあり方や連携について理解する。 ②安全管理、安全教育について理解する。 ③保育現場において、適切な指導・援助の出来る保育者を目指す。				
教授方法	演習						
履修条件	「保育内容・健康Ⅰ」の単位を修得済みであることが望ましい（単位未修得可）						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	基本的な生活習慣の意味を考える						
2	基本的な生活習慣に関する指導 1: 食事に関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。						
3	基本的な生活習慣に関する指導2: 睡眠に関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。						
4	基本的な生活習慣に関する指導3: 排せつに関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。						
5	基本的な生活習慣に関する指導4: 清潔に関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。						
6	基本的な生活習慣に関する指導5: 衣服の着脱に関する基本的な生活習慣とその指導法について理解する。						
7	基本的な生活習慣に関する模擬授業1: 食事、睡眠、排せつ、清潔など、基本的な生活習慣に関する理解を基に子ども達を想定した模擬授業を行う。						
8	基本的な生活習慣に関する模擬授業2: 模擬授業からの気づきとディスカッションを通して指導法について考える。						
9	子どもの安全な生活1: 安全管理と安全教育の基本的な考え方について理解する。						
10	子どもの安全な生活2: 乳幼児の事故と原因について理解する。						
11	子どもの安全な生活3: 幼児の特性と事故対策について理解する。						
12	子どもの安全な生活4: 幼稚園、保育園の事故						
13	子どもの安全な生活5: 保育環境の安全管理について理解する。						
14	子どもの安全な生活6: 安全教育と安全管理の進め方について理解する。						
15	振り返りとまとめ: 「子どもの健康とは何か」について、これまでの学びを振り返るとともに保育者として何が必要であるかについて考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
模擬保育	30	基本的な生活習慣に関する模擬授業を行う。評価: ①テーマに関する内容を理解しているか②子ども達にわかりやすく伝える工夫がされているか③子ども達が生活の中で実践できるような工夫がされているか	レポート	30	課題に対して独りよがりな思いに終始するのではなく、基本的な内容を踏まえて述べられているか		
小テスト	20	授業内容を理解できているか	授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①教科書を読み、授業に備える[20分] ②授業で配布した資料を読む[20分] ③子どもの健康に関するニュースや新聞記事に目を通し、考えを深める[60分]			①小テストは次の回に採点及びコメントを付記して返却します。 ②レポートは2週間以内に評価とコメントを付記して返却します。				
受講生に望むこと	子ども達にとって健康であることは、様々な活動を積極的に取り組み、楽しむために必要なことです。受講生の皆さんには、授業に限らず常に、子ども達が健康な日々を送るためには何が必要であるかを考えるとともに、現代社会が抱える様々な問題点についても目を向ける姿勢を持っていただきたい。現場の実習で扱った子どもたちとの姿や場面を思い出しながら受講していただければ、授業内容の理解が深まると思います。		教科書・テキスト	『幼稚園教育要領』、フレーベル館、2008年、ISBN978-4-577-81240-2C3037 『保育所保育指針』フレーベル館、2009年、ISBN978-4-577-81241-9C3037 『演習保育内容 健康—大人から子どもへつなぐ健康の視点』、井狩芳子 著、萌文書林、2014年、ISBN978-4-89347-209-0C3037			
指定図書参考書等	関連図書やテレビ番組などは授業の中で随時紹介する。 関連記事はプリントを配布する。		その他・特記事項	なし			

授業科目名	保育内容・人間関係Ⅱ			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	大井 佳子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の「領域 人間関係」の内容を深く考察する演習科目で、その方法として、特にノンバーバル・コミュニケーションと自閉性スペクトラム障害(ASD)に注目し、人間関係が提供する安心・安定と、人間関係を通じて幼児が学ぶことがらについて考える。次のようなワークが含まれる。</p> <p>①ノンバーバルで遊んでみて自らの心の動きと他者の心の動きをつかまえる。②ビデオ映像や園の連絡ノート、園だより、授業参加者から提供される観察エピソード等を材料に、子どもの他者との関係性の発達について知る。③幼児の遊びを計画、実践することを通じて幼児期の学び方と学ぶ内容について体験的に考える。</p>				<p>①エピソード資料(映像を含む)から人の行動の意図を想像し、その意味(背景や効果)を考えることができる。</p> <p>②遊びながら、他者の動きを観察し、その意図を推察できる。遊びながら、自分の心の動きをとらえることができる。</p> <p>③遊びにおいて体験される心情・意欲・態度を「領域 人間関係」の学びとして読み取ることができる。</p> <p>④「領域 人間関係」にかかわるねらいをもった指導計画を考え、そのための環境の構成(モノ・人・空間・時間)を考えることができる。</p> <p>⑤保護者支援や地域との連携など、園生活をめぐる人間関係について広くイメージすることができる。</p>			
教授方法	保育資料を用いた事例検討・遊びの体験・遊びのプラン作成などのワークと、講義による基本的概念の解説						
履修条件	「保育内容・人間関係Ⅰ」「発達心理学」を履修していることが望ましい(単位取得は問わない)。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション: 本科目の性格と授業内容の解説。履修予定者それぞれが深めたいと考える分野を各自のもつエピソード紹介を通じて共有する。						
2	連絡ノートなどの未満児のエピソードから「赤ちゃんはどのように人とかかわるのか」を考える。例えば二項関係から三項関係への移行、共同注意の獲得で乳児の生活はどのように変わるだろう。						
3	連絡ノートなどの未満児のエピソードから「言葉で伝わることと、言葉以外の方法で伝わること」について考える。相手を「理解する」「わかる」について理解を深める。						
4	ノンバーバルでルールのある遊びを遊んでみる。自分の心と周りの人の思いをとらえることの難しさを知る。						
5	ノンバーバルでオモチャを使って遊んでみる。遊びによって他者についての見え方が異なることを知る。						
6	ノンバーバルでの遊びを通じて、「一緒に遊ぶ」ことの意味について深く考える。						
7	伝えることと伝わることの”ずれ”について考える。保育の場面で陥りやすい誤解や思い違いについて知る。						
8	自閉性スペクトラム障害児の事例から考える。彼らにとっての他者の存在は、定型発達児にとっての他者の存在とどのように違うのか、あるいは同じなのだろうか。						
9	発達障害をもつ子の親、家族について考える。保育者・教師は家族に対するどのような支援ができるだろうか。						
10	自閉性スペクトラム障害児の事例から「安心して過ごす」ことについて考える。モノや空間を安心のツールにする子どもの合理的配慮を考える。						
11	安心して遊び、それぞれが自己を発揮できる指導計画を考え、実践する。						
12	実践から、安心して遊んでいると生まれる学びについて考える。						
13	園生活で安心をもたらす人・モノ・空間・時間について考える。親(家族)と保育者のもたらす安心について考える。						
14	屋内と屋外の遊びでは子どもの人間関係にかかわる体験の違いが起こるだろうか。環境や素材が、人と人との関係にもたらすものについて考える。(例えば、雪遊び)						
15	総括: 授業で取り上げたことがらを「5歳児修了時までに育ってほしい姿」(幼小接続)から見直してみよう。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加	40	①想像を膨らませて遊びを準備すること。②真剣に遊んでいること。③討議で積極的に発言すること。		定期試験	40	①領域 人間関係にかかわる保育の場でのできごとに対応を考えることができる。②その判断は保育や発達の基礎的事項の理解に基づいてなされている。	
提出課題	20	与えられたテーマにそっていいいに調べ、考えていること。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>①実習を含む身近な資料からの人間関係にかかわるエピソードの収集</p> <p>②「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説b」の用語を中心として人間関係の発達やコミュニケーションにかかわるキーワードの意味の確認</p> <p>③遊びの準備</p> <p>④指導計画の立案(①②は30分程度。③④は長時間を要す。)</p>				授業内の討議を通じて行う。			
受講生に望むこと	可能ならば、ビデオや連絡ノート、おたよりなど、自身の幼稚園・保育所時代の資料に触れ、子どもの時に感じていたことや考えていたことを思い出しておくこと。授業で遊ぶ際には思いっきり遊べるスタイルで参加すること。			教科書・テキスト	<p>『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008年 ISBN:978-4-577-81245-7</p> <p>『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 2008年 ISBN:978-4-577-81242-6</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2015年 ISBN:978-4-577-81373-7</p> <p>(要領・指針の改訂に伴って発行が予定されている各『解説』が追加される)</p>		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	<p>①保育士・幼稚園教諭免許の取得予定者だけでなく、小学校教員志望者や心理学的関心からの受講も歓迎。「保育内容 人間関係Ⅰ」を履修しない者の履修可</p> <p>②個人情報を含む資料を用いる。取り扱いに注意すること。</p> <p>③履修者の関心によって模擬保育や現場での実践、個人の研究に関連する資料や関係者の授業参加を得ることがあり、授業内容の順序の変更があることを了承されたい。</p>		

授業科目名	保育内容・環境Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	向出 圭吾						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「保育内容・環境Ⅰ」での学びと実習での体験を踏まえて、ディスカッションや演習を中心に進めていく。北陸学院第一幼稚園の園庭を利用して、より豊かな保育を展開するための環境づくりを考えていく。園外活動を想定した保育計画を立案することで、地域や文化の視点を取り入れた環境を構成する。</p>			<p>①実習でのエピソードを、領域「環境」の視点からグループ討議し、今日的な課題としてまとめることができる。 ②自然を取り入れた園庭の保育環境づくりを考えることができる。 ③自分なりの保育環境を立案・構成し、その環境での保育プランを考えることができる。</p>				
教授方法	グループディスカッション・演習						
履修条件	保育内容・環境Ⅰの単位を修得済みであること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	幼児期の子どもたちが生活する園環境について (1) : 実習の体験から事例をあげてディスカッションし、保育の今日的課題を考える。						
2	幼児期の子どもたちが生活する園環境について (2) : 領域「環境」の視点から今日的課題をまとめ、園・家庭・地域の連携についても考える。						
3	子どもと環境の7つの視点から: 「出会う」「感じる」「気づく」「発見する」「好奇心をもつ」「探求する」「表現する」のキーワードを再確認し、園庭の環境について考える。						
4	第一幼稚園での実践 (1) : 自然を取り入れた園庭の保育環境づくりのプランを考える。						
5	第一幼稚園での実践 (2) : プランをもとに素材を選定し、環境づくりの準備を行う。						
6	第一幼稚園での実践 (3) : 実際に環境を設定してみることで、子どもの主体性を引き出す環境構成あり方、遊びの動線の気づき等を具体的に考える。						
7	園外保育活動において、子どもが自分で考え、行動することを刺激するような環境構成とはどのようなものかを、ディスカッションを通して考える。						
8	園外活動の保育計画 (1) : 学外体験活動としての園外保育を行った場合の保育プランを考える。						
9	園外活動の保育計画 (2) : 各自が立案したプランをもとに地域の特性や文化を活かした内容を盛り込みディスカッションし検討する。						
10	園外活動の保育計画 (3) : 見直したプランをもとに各自が環境マップを作成する。						
11	環境を構成するポイントについて: 「どのような環境をつくるのか」「必要な環境を捉える工夫」等の視点から、保育環境を構成する基本を見直し、自分なりの保育環境を考える。						
12	環境構成と保育プラン (1) : 各自プランを立案する。						
13	環境構成と保育プラン (2) : 各自が立案したプランをもとにディスカッションし検討する。						
14	環境構成と保育プラン (3) : 自分なりの工夫を取り入れた保育プランを発表する。						
15	子どもにとっての領域「環境」について: 保育現場での領域「環境」についての理解を深める。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	25	授業への意欲的な取り組み姿勢		課題1	25	「第一幼稚園での実践」の考察に関するレポート	
課題2	25	「園外活動の保育計画」の内容と環境マップの作成		課題3	25	「環境構成の保育プラン」の内容と発表	
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
<p>①第一幼稚園での園庭の遊びの環境を構成するための事前準備と見直し修正を随時加える。[60分] ②園外保育を行う上で、その地域や文化を調査する。[60分] ③これまでの学習の集大成として自分なりの保育環境を構成し、その環境でのプランを考える。[90分]</p>			<p>①第一幼稚園での実践において、事前の作成する課題をもとに、随時見直し、修正を行い、改善を重ね、自分の学びにしていく。 ②園外保育計画は、ディスカッションの中で、他者の考えや工夫を取り入れ、より具体的に現実的な指導計画を作成を目指す。 ③発表という形で、自分の思いや考えをしっかりと他者に伝えることができる。また質疑応答の中で他者も含めて学びを深めていく。</p>				
受講生に望むこと	子どもの生活を総合的に捉える視点から、保育環境への関心をもって授業に臨むこと。		教科書・テキスト	『事例で学ぶ保育内容 環境』無藤隆監修 福元真由美 編者代表 萌文書林 2007年 ISBN978-4-89347-098-0 (保育内容・環境Ⅰで使用したもの)			
指定図書参考書等	なし/ 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008年 ISBN978-4-577-81245-7		その他・特記事項	活動内容によって、土曜日に行われることもあるので注意すること。			

授業科目名	保育内容・言葉Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	熊田 凡子					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
言葉の現代的な課題や具体的な実践内容を考察しながら、総合的に子どもの言葉をとらえる力を培っていく。生活場面や遊び（ごっこ遊びや劇遊び、ストーリープレイ等）の実際を通して、言葉の面白さや表現の多様性について学びを深める。教育・保育者として柔軟に子どもの言葉と向き合い、子どもの「内なる声」を引き出す対応力と感性を養う。			①実体験から「言葉」に関するエピソードを挙げ、グループで問題を討議してまとめることができる。 ②子どもの言葉を通して子どもの心情・意欲・態度を読み取ることができる。 ③言葉を通して総合的な活動（聴く・歌う・演奏する・踊る・手遊び・指遊び・挿絵をみる・メッセージを伝える他）を通して表現の多様性を楽しみ、教育・保育における連続した教育・生活場面を考える。 ④「言葉」とは何かを日本における教育遺産として挙げられる生活綴方教育及び生活教育の実践から、深く考察し議論できる。			
教授方法	講義・個人でのワーク・グループでのワーク					
履修条件	保育内容・言葉Ⅰを履修(単位修得)済みが望ましい					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	乳幼児期の言葉にかかわる問題と援助：実体験から言葉にかかわる問題の事例を取り上げてディスカッションし今日的課題について考える。また、それに求められる教育・保育者の配慮および援助について話し合う。					
2	子どもの言葉が育つ環境について：第1回のディスカッションで話題になった課題を中心に、「子どもの言葉が育つ環境」について各自がまとめ、グループで発表し話し合う。教育・保育者のどのような働きかけで子どもの言葉が豊かになっていくか考える。					
3	子どもの言葉の発達を捉える視点と領域「言葉」における評価：第2回「子どもの言葉が育つ環境」から発展させ、子どもの発達を捉える視点と評価について考える。					
4	遊びと言葉：ごっこ遊びの楽しさを支える言葉の力と劇遊び、ストーリープレイへの発展について					
5	童詩・こどもうた・こどもさんびかから学ぶ：聴く、歌う活動を通して心地よい言葉のリズム・ナンセンス魅力・想像する楽しさを感じる。					
6	童詩・こどもうた・こどもさんびかから学ぶ：聴く、歌う活動を通して心地よい言葉のリズム・ナンセンス魅力・想像する楽しさを味わい表現する。					
7	クリスマスの絵本、聖画、うた等を用いて、クリスマスストーリーに親しみメッセージを感じとる。そのメッセージは、保育の場面ではどのように連続した活動として伝えられるか事例より学ぶ。教育・保育者が子どもにメッセージを伝える方法（音楽効果、教材）を考える。					
8	生活綴方教育について実際から学び、幼児期の心の育ちからつなげて、教育・保育者の役割を考える。					
9	生活教育の実践から学び、子どもの何が育つべきなのかを議論し、乳幼児期から児童期へとつなげて子どもの育ちを考える。					
10	海外の教育・生活・文化と比較しながら、言葉の育ちの基盤は何かを議論する。					
11	「はなし言葉」と「かき言葉」：子どもの思いを綴るとは、どのような意味があるのか、教育・保育の視点からその意義を考える。					
12	子どもの表現について、事例を挙げながら、乳幼児期から児童期をつなげて考える。					
13	子どもの「思い」・「考え」を綴るとはどのようなことか。教育実践事例から捉える。					
14	幼児教育と学校教育の連携、教育・保育者の子ども理解の視点についての課題を見出す。					
15	乳幼児期から児童期への現代的課題と領域「言葉」：教育・保育内容総論としてまとめる。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	40	授業への取り組み姿勢		事例の発表	30	内容と実践（子どもの思いを綴る）
レポート・臨時試験	30	提出状況と内容（「言葉」が育つことについて発達の観点からまとめる。②「言葉」にかかわる今日的課題について問題意識を持つ。）				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①実体験から「言葉」にかかわるエピソードを挙げレポートとしてまとめる。[60分] ②グループで話された「言葉についての今日的課題」についてレポートをまとめる。[60分] ③「言葉」が育つことに関する生活・遊び場面を考え、実演する。[60分] ④テキストを熟読する。[120分]				教育・保育場面演習と具体的な生活の実演、話題提供に対して、コメントする。		
受講生に望むこと	乳幼児の生活と遊びを保育内容として総合的に捉え、児童期につなげて考える視点を持ってください。			教科書・テキスト	・金森俊朗・辻直人著『学び合う教室 金森学級と日本の世界教育遺産』角川書店、2017年4月	
指定図書参考書等	なし/ ・『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーブル館 2008年 ISBN978-4-577-81242-6 ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 2008年 ISBN 9784577812457			その他・特記事項	なし	

授業科目名	保育内容・表現Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田邊 圭子・多保田 治江・向出 圭吾 (代表教員 田邊 圭子)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>子どもの表現の多様性と、子どもの表現を総合的に捉える視点を学ぶ。講義に加え、具体的な実践事例を通して創造的な子どもの表現活動を体験し、豊かな感性や表現する力を養う。「表現Ⅰ」の学びを踏まえて、子どもの表現を支える育む創造性豊かな保育者としての役割と支援についての学びを深めていく。</p>			<p>①子どもの身体表現を総合的な表現活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 ②子どもの音楽表現を総合的な表現活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 ③子どもの造形表現を総合的な保育活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 ④子どもの表現を保育活動の中で総合的に捉える方法について実践を通して習得している。 ⑤表現を支える保育者の役割と支援について理解を深める。</p>				
教授方法	講義と演習						
履修条件	『保育内容・表現Ⅰ』の単位を修得済みであることが望ましい(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：表現Ⅰ全体に関する授業オリエンテーション。今後の授業の流れ、受講方法など。身体表現とは何か：身体表現とは何かについて、領域「表現」との関連から理解する。					田邊	
2	作品創り1：「絵本を用いた動き作り」・・・絵本のストーリーを動きで表現する。					田邊	
3	作品創り2：「音創り」・・・前時の作品に音を加えて動く。					田邊	
4	作品創り3：「作品の完成」・・・作品を完成させ、動きの修正を行う。					田邊	
5	「作品発表と鑑賞」・・・グループの作品を発表鑑賞する。					田邊	
6	音楽表現とは何か：音楽表現とは何かについて、領域「表現」との関連から理解する。					多保田	
7	一緒に動くこと・歌うこと：共有体験を通して得られることは何かを事例を通して考える。					多保田	
8	「表現」と保育の環境構成：表現を生む場をどう捉え、つくるかを考える。					多保田	
9	表現を支える保育者の役割：「表現を支える」とは具体的にどのようなことなのかを事例を通して考える。					多保田	
10	遊びを通しての総合的な指導：様々な表しと受け止めについて考える。					多保田	
11	子どもの造形表現の理解(1)：実際に各自が造形活動を行う。					向出	
12	子どもの造形表現の理解(2)：子どもの造形作品と比較しながら子どもの造形表現を理解するとともに保育者の役割について考える。					向出	
13	子どもの劇遊び(1)：グループに分かれて影絵を使った劇遊びを考える。					向出	
14	子どもの劇遊び(2)：グループごとに影絵による創作劇を発表し、お互いを評価しあうことで子どもの表現について考える。					向出	
15	子どもの表現とは何か：保育現場での表現活動について理解を深める。					向出	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	30	授業への取り組み姿勢		授業で出される課題や発表	50	取り組み姿勢と内容	
レポート	20	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業の感想・質問を書く小レポートへの取り組み姿勢(多保田) ・作品制作の感想、身体表現に関するレポート(田邊) ・課題や作品に対しての自分なりの気づき、学びに関するレポート(向出) 					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べてくる。[30分] ②次回授業のための課題について準備する。[30分]				・毎回課す小レポートは次回コメントを付記し返却する(多保田) ・授業最終日に課すレポートは2週間以内にコメントを付記し返却する(多保田、田邊、向出)			
受講生に望むこと	この授業は3名の教員が5コマずつ担当するオムニバス科目です。演習科目で系統的に授業が展開します。積極的な授業参加を望みます。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーバル館 2008年 ISBN: 9784577812457 / 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーバル館 2008年 ISBN: 9784577812426		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	幼児理解		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	向出 圭吾・熊田 凡子・齊藤 英俊 (代表教員 向出 圭吾)					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>幼児は一人ひとりとは異なった発達を示す。そのため、幼児期における保育には、一人ひとりの幼児に対する理解が必要である。また、保育者には幼児一人ひとりの発達の特性を理解し、幼児が抱える発達の課題に応じた援助を考えることが求められる。</p> <p>本授業では、これから教育・保育の場に向かうために、子ども一人ひとりの内面を理解する意義について、実践的及び理論的な学びを目指す。</p> <p>Enjoy!ミッションでの共通体験を通し、具体的実践的に子どもを理解するとともに、理論的学びを深める方法を考える。</p>			<p>①幼児理解の視点を理解している。</p> <p>②遊びの実践計画を行い、実際に子どもとかわり、幼児を理解している。</p> <p>③幼児を取り巻く環境から幼児を理解している。</p> <p>④幼児を発達の・共感的視点から理解し、実践を理論づけられる。</p> <p>⑤幼児理解の方法(アセスメント)を捉えられる。</p> <p>⑥発達や学びの連続性を確保する視点を理解し、小学校教育へつなげて考えられる。</p> <p>⑦幼児を理解し、保育を評価することを理解している。</p>			
教授方法	講義・演習・グループディスカッション					
履修条件	5月開催のEnjoy!ミッション、7,8月開催のオープンキャンパス、8月開催の私立幼稚園協会主催の「幼稚園ってどんなところ？」で活動できることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	幼児理解の視点について理解する。幼児の生活・発達・問題を捉えた幼児理解の意義について考える。					向出・熊田・齋藤
2	遊びの実践計画を通しての幼児理解(1) : Enjoy!ミッションについて「幼稚園教育実習指導Ⅰ」を履修の2年生と遊びのプランについて考え、子どもの捉え方を指導する。					向出
3	遊びの実践計画を通しての幼児理解(2) : グループごとに遊びのプランを練り直し、準備物を整え環境構成を考える。					向出
4	遊びの実践計画を通しての幼児理解(3) : Enjoy!ミッションにおいて、1年生を指導しながら、遊びにかかわる幼児の内面を理解し、適切な対応の仕方を実践を通して考える。					向出
5	幼児を発達の視点から理解し、実践を理論づける。人格発達として捉える発達観について、実習事例や実際の保育から考える。					向出
6	幼児を共感的視点から理解し、実践を理論づける。受容及び主体性の尊重について、実習事例や実際の保育から考える。					向出
7	幼児を取り巻く状況を理解し、幼児の内面理解を深める。Enjoy!ミッションでの事例を用いて、多面的に学び合う。					向出
8	幼児理解の方法(1) : 実践的理解について学ぶ。実習記録(エピソード記録)にあるエピソードを多面的な見方で幼児理解を深め合う。					齋藤
9	幼児理解の方法(2) : 心理学における研究方法の活用を学ぶ。観察法・評定法・面接法・事例研究法など、実践事例を通して、実際に学び合う。					齋藤
10	幼児理解の方法(3) : 心理学における研究方法の活用を学ぶ。検査法・質問紙調査法を実際に体験し理解する。					齋藤
11	子ども理解の理論と実際について : 共感的理解を中心に捉える。					齋藤・熊田
12	子ども理解を通じた安全管理と危機管理の対応					熊田
13	乳児期から考える : 成育歴からの子ども理解					熊田
14	親子支援を通しての子ども理解及び今日の課題					熊田
15	指導要録の書き方及び保幼小の連携とその意味を理解する。					熊田・向出
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	50	授業への積極的な参加 ディスカッションや保育実践への意欲的な取り組み		課題レポート	50	授業内に出される課題レポートの提出と内容
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> ・現場体験、インターンシップ、ボランティア等に積極的ににかかわり実践を積み重ねる。 ・グループごとに遊びのプランを実践するにあたり、それらに必要な身近な素材(例:段ボール、新聞紙、牛乳パック等)を事前に準備する。そしてEnjoy!ミッション前日及び当日でそれらの素材を使い工夫することで、幼児が楽しく遊べる環境を構成する。また幼児の遊びへのかわり方によっては、遊びのプランを途中修正、変更する臨機応変さ、そのために十分な素材の確保にも努める。[20分] ・遊びのプランの実践を踏まえて、現場での遊びの提供について、様々な観点から捉えた発達に応じた遊びのプランを自分なりに作成する。[60分] 			<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションを重ね、その都度課題の見直し、改善を行い、自分の学びとしていく。 			
受講生に望むこと	現場で働くという自覚と意欲をもって授業に臨むこと。		教科書・テキスト	『幼児理解と評価』文部科学省 ぎょうせい 2010年 ISBN978-4-324-09184-5 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2015年 ISBN978-4-577-81373-7		
指定図書参考書等	なし/ 『子ども理解と援助』高嶋景子・砂上史子・森上史朗編 ミネルヴァ書房 2011年 ISBN978-4623059621 『子ども理解と保育・教育相談』小田豊・秋田喜代美編 みらい 2008年 ISBN978-4860151430		その他・特記事項	・本授業の前半は「幼稚園教育実習Ⅰ」履修の2年生にEnjoy!ミッションにおける指導的役割を担う。 ・行事や外部講師の関係で、日程及び内容が変更される場合がある。		

授業科目名	教職実践演習(幼・小・保)			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	大井 佳子・辻 直人・幸 聖二郎・熊田 凡子・下村 岳人・向出 圭吾・高村 真希・福江 厚啓(代表教員 大井 佳子)						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>小学校教諭・幼稚園教諭・保育士資格取得のための必修科目であり、4年間の学びの集大成として位置付けられる科目である。1年次から記入してきた「履修カルテ(教職カルテ)」や実習ファイルなどをもとに、4年間の大学生活を通しての自己の成長と培ってきた自らの知識・技能・適性について確認する。授業は、今日の教育・保育の場における教師・保育者の役割に対する理解を深め、教師・保育者に求められる今日的技能を自覚できるように用意されるいくつかのワークで構成されており、異なる免許・資格を得て異なる進路に向かう者との協議や協働によって視野が広がるように企画されている。グループディスカッション、プレゼンテーション、協働的実践の連続、保護者を含む広い意味での教育・保育現場との協議に参画し、めざす教師・保育者像と、自身を高め続ける方向での自己課題を得る。</p>				<p>①小学校教諭・幼稚園教諭・保育士資格の取得にかかわる履修と4年間の大学生活を振り返り、教師・保育者としての成長と自己課題を確認している。 ②今までの実習体験や本授業での諸ワークを踏まえて教師・保育者の今日的役割とその責任を把握している。 ③教師・保育者としての使命感や責任感、社会性や協働する力、子どもを理解する力や集団を運営する力、教科や保育内容についての指導力について自身の到達を把握し、高めようとしている。</p>			
教授方法	グループディスカッション・子どもを対象とした実践(あるいは模擬保育・授業)・ロールプレイ・講義						
履修条件	原則として、資格取得に必要な実習の単位を修得し、資格取得見込みであること。(備考欄参照)						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション:「教職実践演習」の目的と授業内容。グループ討議:協働的実践(実践内容については前期にガイダンス)を振り返る。						全員
2	グループワーク:授業を含む体験をカリキュラムマップに作成・・・レポート①学びの連続性から見る自身の学びの軌跡と自己課題						全員
3	グループワーク:カリキュラムマップを用いた発表と討議⇒次の協働的実践に向かう自己課題をマップに補完(補完後提出)						全員
4	グループワーク:再実践(学祭での子ども広場)に向けて、協働して指導計画を作成・・・レポート②二つの実践から得る「見直し」の意義(PDCAの実践)						全員
5	保護者との連携①(グループワーク):保護者の思いを想像し、自分なりの対応を考える。						全員
6	保護者との連携②:発達障害をもつ子どもの保護者の語りから親の心情について考える。						全員
7	保護者との連携③(ロールプレイ):保護者の思いに添う相談や苦情への対応・・・レポート③5回・6回・7回の授業から得る「保護者との連携」						全員
8	グループワーク:保育所見学・学校公開参加からの討議・・・レポート④「保育者・教師に求められる今日的課題」						全員
9	グループワーク:教職の意義・役割・職務内容、子どもへの対応等にかかわる今日的課題について討議。深めたい4つのテーマと各回話題提供者を決定						全員
10	求められる力①(グループワーク):グループで設定した課題A ミニレポート作成						全員
11	求められる力②(グループワーク):グループで設定した課題B ミニレポート作成						全員
12	求められる力③(グループワーク):グループで設定した課題C ミニレポート作成						全員
13	求められる力④(グループワーク):グループで設定した課題D ミニレポート作成						全員
14	ラウンドテーブル・グループ討議:キリスト教教育の視点から、本学での教育・保育についての学びを振り返る。						全員
15	まとめの討議:「私のめざす教師・保育者像」・・・レポート⑤にまとめる。						全員
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	30	①必要な準備をして、積極的に授業に参加している ②希望資格に必要な資質を把握し、演習に取り組んでいる			レポート	50	①各課題レポートの課題意識が明確であり、②学んだことが体験やエピソード、あるいは出典を示して丁寧に整理され、③自らの考察と考察に至る道筋が明確である。
協働的実践	20	グループメンバーとの協働の過程で自身の力を発揮している。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①履修カルテの必要事項の記入。これまでに履修した科目のシラバスの見直し ②実習ファイル・授業レポート等を整理し、必要に応じて参照できるよう準備 ③事前に示される協働的実践(金沢市との包括連携事業・教育プラザ富樫わいわいバザール等での実践)の準備と当日の参加 ④大学祭における「子ども広場(仮称)での協働的実践の準備と当日の参加 ⑤その他、授業で案内される校外活動への参加 ⑥学校公開・保育所参観 ⑦各レポートでは、実践等の記録にとどまらず、具体的な体験エピソードに基づいて自己を問う考察を行うこと(長時間を要する課題が少なくない。グループでの取り組みも含まれるため計画的に行うこと。)				適宜、授業内でコメントする。			
受講生に望むこと	①自身の適性を考え、目指す専門職像を明確にして、それにふさわしい行動を取るよう心がけること ②実践や見学の日程が変わる場合もある。常に連絡に注意し、必要な連絡・報告を即座に行うこと ③グループの協働で取り組む授業外課題が少なくない。日程にゆとりをもって行動すること			教科書・テキスト	使用しない		
指定図書参考書等	授業内で指示する/学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園保育・教育要領の改訂に伴って発行が予定されている各『解説』			その他・特記事項	①実習ファイル・履修カルテ(教職カルテ)・全授業シラバスを用意すること ②4年次に保育実習を行う者は本演習履修時に、保育実習Ⅰ(保育所)・保育実習Ⅰ(施設)・保育実習指導Ⅰの単位を修得している者のみ受講可 ③免許・資格種別にグループを分けて行う回と合同で行う回がある。志望職種別の希望人数に応じて、グループ編成、授業の内容を変更することがある		

授業科目名	絵本論			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	山下 のぞみ						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
様々な絵本を取り上げ、その特徴を探る。また、その絵本を、いつ、どのような子どもたちに手渡せばよいかを考えたい。さらに、絵本論を読み解き、絵本を評価する視点を学ぶ。				①絵本を読んでもらう体験を通し、絵本とは読んでもらうものとの認識を得る。 ②絵本の絵を読むとはどういうことか体験する。 ③月齢や発達段階に応じてどのような絵本がふさわしいかを知る。 ④子どもの興味と絵本の関わりを知る。 ⑤現在の絵本の多様性を知る。			
教授方法	講義とグループディスカッション、さらにグループによる発表も行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	絵本とは：本としての絵本そのものだけでなく、保育者としての視点で、子どもの絵本体験を深めるための絵本とは？という面から、絵本を選んで解説する。						
2	ファーストブックとしての絵本：子どもとのやりとりの道具の一つとしての絵本のあり方について考える。						
3	翻訳絵本：「岩波の子どもの本」シリーズにみられるような、日本で物語絵本が作成される際に参考にされた、世界の古典的絵本について紹介する。						
4	昔話絵本①：エウゲーニー・M・ラチョフ、フェリクス・ホフマン、マーシャ・ブラウンの作品について解説する。						
5	昔話絵本②：赤羽末吉、田島征彦、佐藤忠良の作品について解説する。						
6	科学絵本：「かがくのとも」シリーズを検討する。						
7	詩・ことばあそびの絵本：谷川俊太郎、まどみちおの作品について解説する。						
8	イラストレーターによる絵本：レオ・レオニ、エリック・カール、イエラ・マリの作品について解説する。						
9	写真絵本：『ふゆめがっしょうだん』、『はるにれ』、『イエベはぼうしがだいすき』、『こいぬがうまれるよ』、『みず』を解説する。						
10	絵本論から学ぶ① モーリス・センダック：『かいじゅうたちのいるところ』の作者センダックによる絵本論を読み解く。						
11	絵本論から学ぶ② 松岡享子：『昔話絵本を考える』を参考に、昔話を絵本にすることについてグリム童話「七羽のカラス」を例に考察する。						
12	絵本論から学ぶ③ 松居直：絵本の編集者による絵本論を読み解く。						
13	絵本の絵を読むとは：林明子の作品をとりあげ、絵本の絵を読むとはどういうことか、子どもの視点で体験してみる。						
14	読み聞かせに向く絵本とは：遠目にも絵が見やすいか否かだけでなく、集団で読むことで楽しみの幅が広がる絵本体験について考察する。						
15	読者の広がり絵本の可能性：今、絵本は作者の表現法の一つとしてみなされ、読者を子どもだけに限定しないものも多数見受けられる。そのような絵本を取り上げ、考察する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	40	授業で取り上げた絵本の、適応年齢、どのような子どもたちによんであげたいかなどの視点を入れた絵本リストを作成して提出してもらいます。			グループ発表	40	グループごとに、昔話絵本を4～5冊選び、伝承されてきた昔話との違いや、絵の違いについて検討し発表してもらいます。
授業参加態度	20	授業の中で読み聞かせをしてもらいます。授業への取り組み、他の学生の読み聞かせを聞く姿勢も評価します。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①グループごとの発表では、図書館で絵本を選び、レポートを作成してもらいます。（発表の準備）[1～2週間かけて取り組む] ②授業中に取り上げた絵本のリストを作成してもらいます。[授業終了までに絵本論などを読んで作成する]				①発表の際にコメントします。 ②絵本リストについては、次学期初めまでに、コメントを付けて返却します。			
受講生に望むこと	講義中に紹介した絵本を図書館で借りるなど、手に取ってじっくりと読んでみるようにして下さい。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	心理学研究法Ⅱ			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。本講義では、「心理学研究法Ⅰ」で学んだ心理学における様々な研究法に関する知識を更に拡充していく。具体的には、心理学的な研究を行う一連の流れの各ポイントでどのような点を考慮し、進めていくことが求められるのかについて講義および実践を通して学ぶ。また、応用的な手法を用いた研究も取り上げ、解説を行う。</p>				<p>①現在心理学において用いられている研究手法をより具体的に理解している。 ②研究を実施する際に考慮すべきポイントを理解している。 ③因子分析という手法を理解し、心理学の研究においてどのように用いるかを理解している。 ④授業で身につけた知識、経験を自らの研究実践において生かせるようになる。</p>			
教授方法	講義を中心に、コンピュータや実験器具を使用した体験なども取り入れて進める。						
履修条件	心理学研究法Ⅰの履修済が望ましい（単位未修得可）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	心理学研究法Ⅰの振り返り—調査法を中心に—						
2	心理学の研究における問題設定、仮説構築：問題設定や仮説構築はどのように行われるのかを理解する。						
3	問題設定、仮説構築の実践：2回目に学んだ内容をふまえて問題の設定や仮説の構築を実際に行う。						
4	調査研究の結果の分析法 1 因子分析 1 その理論：因子分析という分析手法がどのようなものであるかを理解する。						
5	調査研究の結果の分析法 2 因子分析 2 実践1：因子分析を実際に行い、理解を深める。						
6	調査研究の結果の分析法 2 因子分析 2 実践2：因子分析についてさらに習熟する。						
7	研究計画の立て方：研究を行うにあたって、どのような点を考慮し、計画を立てればよいかを学ぶ。						
8	問題設定：調査に向けて具体的に自分たちの問題設定を行う。						
9	仮説の構築：先行研究を参照しながら仮説へと落としこむ。						
10	調査における項目作成法：質問紙調査を行う際、項目をどのように作成するかを学ぶ。						
11	調査結果のまとめ方 1 項目分析：調査でデータが得られた際、どのようにまとめ、分析を行うかを学ぶ。						
12	調査結果のまとめ方 2 因子分析の実施						
13	調査結果のまとめ方 3 仮説の検証						
14	調査結果報告の実施法：分析結果をどのようにまとめ、考察を進めるかを学ぶ。						
15	心理学の応用的研究の紹介および体験 認知面、生理面に焦点をあてた実験研究						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
学期末レポート	70	授業内容の理解の度合い			講義への参加度	30	授業への取り組み姿勢から評価を行う。
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>①本講義では仮説構築が一つのテーマとなるので、日常での小さな疑問を意識し、問題意識へと高める作業をしておくこと。 [30分] ②因子分析についてプリントや参考書で予習・復習を行う。さらに心理学における適用事例を調べ理解を深める。 [30分] ③研究の実施にあたっては様々な観点から評価を行う必要があるので多くの心理学研究法に関する書籍を読み、視点を養うこと。 [30分]</p>				<p>授業内の小レポートは、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。</p>			
受講生に望むこと	心理学関連の授業内で示された様々な研究例や自分の興味関心のある分野の研究などに積極的に触れて、自ら研究する際の材料を増やしてほしい。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。		
指定図書／参考書等	なし／高野陽太郎・岡隆（編）（2004）『心理学研究法—心を見つめる科学のまなざし—』有斐閣 ISBN 978-4-6411-2214-7 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）（2001）『心理学研究法入門—調査・実験から実践まで—』東京大学出版会 ISBN 978-4-1301-2035-7			その他・特記事項	なし		

授業科目名	社会心理学 I		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。社会心理学は、人間の心理を理解する上において状況の影響に重点を置き、人間の社会的行動を理解しようとする学問である。社会心理学 I においては、社会の中で個人を理解するために個人内過程に重点を置いて講義を行う。具体的には、自己意識や自己開示、対人認知、対人魅力、原因帰属等が挙げられる。他者との関係という状況の中の個人に着目することにより、人間がいかに社会的な存在であるのかということを理解してもらいたい。</p>			<p>①社会心理学における自己のとらえ方、その概念と機能を理解している。 ②他者を理解する仕組みとそこから生じる問題について理解している。</p>				
教授方法	講義を中心に自分自身について振り返りを行う作業も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	社会心理学とは何か—社会心理学の概要—						
2	自己① 社会心理学における自己						
3	自己② 自己意識：自己意識とはどのようなものであるか、社会的行動への影響について学ぶ。						
4	自己③ 自己概念・自尊感情：自己概念・自尊感情についての研究知見について学ぶ。						
5	自己④ 自尊感情についての近年の理論的展開：自尊感情に関して近年提出されている様々な理論について学ぶ。						
6	自己⑤ 自己開示：自己開示がどのようなものであり、自己、対人関係にどのような影響が見られるかを理解する。						
7	自己⑥ 自己呈示：自己呈示についての理論、研究知見を学ぶ。						
8	自己⑦ 自己と動機づけ：動機づけの中でも特に自己と関わりが深いものを取り上げ、紹介する。						
9	自己⑧ 他者との比較：社会的比較についての理論、および研究知見を紹介する。						
10	対人認知：他者を理解するプロセスについての知見を紹介する。						
11	ステレオタイプ：ステレオタイプとは何か、維持や変容のプロセスについて考える。						
12	原因帰属，社会的推論①：原因帰属，社会的推論に関する理論を紹介する。						
13	原因帰属，社会的推論②：原因帰属，社会的推論におけるエラーやバイアスについての知見を紹介する。						
14	対人魅力①：対人魅力に関わる様々な要因を紹介する。						
15	対人魅力②：外見・容姿が対人魅力に及ぼす影響について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	80	講義内容の理解度		講義への参加度	20	講義中の積極的な発言や課題の提出状況から評価を行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>①各回の内容についてあらかじめプリント、参考書を読んでくる。授業後には授業の内容を振り返りを行う。【45分】 ②講義で学んだ内容を自分自身や他者との関わりに適用し、具体的に理解する。【30分】 ③講義内で行う心理尺度の結果について自分自身だけではなく周りの人たちと議論し、理解を深める。さらに関連の尺度やその概念について調べる。【30分】</p>				<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</p> <p>講義内の小レポートは、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。</p>			
受講生に望むこと	社会心理学 I の対象となるのは自己や他者の理解など比較的なじみやすいものであるが、諸概念を理解し、応用することは必ずしも易しいものではない。講義内容を積極的に自分自身や日常生活に適用していく姿勢が求められる。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントの配布を行う。		
指定図書参考書等	なし／『社会心理学』 池田謙一他 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5375-5 『よくわかる社会心理学』 山田一成他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4812-0			その他・特記事項	特になし		

授業科目名	社会心理学Ⅱ			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本講義は心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。社会心理学Ⅱにおいては、他者とのコミュニケーションと社会的影響を中心に集団やより大きな社会における人間の心理や行動にも着目する。具体的には集団意思決定やそのダイナミクス、マスメディアの影響などが挙げられる。さらに、現代社会での普及が著しいインターネットや携帯電話の影響についてもデータに基づいた議論を行う。</p>				<p>①コミュニケーションとはどのようなものであるか社会心理学の観点から理解している。 ②社会心理学における態度という概念およびその社会的行動への影響について理解している。 ③集団における社会的影響と集団におけるダイナミクスについて理解する。 ④メディアの利用が利用者やその対人関係、そして社会へどのような影響を与えるか理解している。</p>			
教授方法	講義を中心に自分自身について振り返りを行う作業も取り入れながら進める。						
履修条件	社会心理学Ⅰの履修済が望ましい（単位未修得可）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	コミュニケーションとは何か						
2	対人コミュニケーションを概観する。						
3	言語的コミュニケーション：言語的コミュニケーションについての研究知見を紹介する。						
4	非言語的コミュニケーション：非言語的コミュニケーションの分類やその影響について学ぶ。						
5	コミュニケーションと認知の関係						
6	態度と態度変容についての理論：態度変容について提出されている理論を紹介する。						
7	説得のプロセス：説得に関わる要因やそのプロセスがどのように理解されているかを紹介する。						
8	権威への服従：ミルグラムによって行われた研究を中心に考察する。						
9	中間試験とこれまでの内容の振り返り						
10	集団における心理① 同調：集団への同調がどのように生じるのか、そして少数派の影響についてもあわせて考える。						
11	集団における心理② 援助行動：援助行動についての社会心理学的研究で得られた知見を紹介する。						
12	集団意思決定：集団意思決定において見られる現象について考察する。						
13	集団間関係：集団間で生じる葛藤について理解する。						
14	インターネット利用の個人、対人関係への影響						
15	文化と心：文化心理学の考え、得られた知見を紹介する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
中間試験	30	講義内容の理解度			期末レポート	50	問われていることに適確に答えているか、しっかりと構成されているかを中心に評価を行う。
講義へ参加度	20	講義内での発言や課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①各回の内容についてあらかじめプリント、参考書を読んでくる。授業後には授業の内容を振り返りを行う。〔45分〕 ②自ら所属する様々な集団においてどのような影響を受けているか、授業や課外活動で議論を行った際に具体的に考えてみる。〔30分〕 ③メディア利用については多くの議論が行われているので、それらを参照し、講義の内容とあわせ、理解を深める。〔30分〕</p>				<p>授業内の小レポートは、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。 中間試験は採点終了後返却し、解説する。</p>			
受講生に望むこと	社会心理学Ⅱの内容は個人と社会の相互影響過程がより強く打ち出されたものとなっている。自分自身への関心だけでなく、広く社会への興味関心を持って講義に臨み、具体的な社会事象についての理解へと用いてほしい。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし／『社会心理学』 池田謙一他 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5375-5 『よくわかる社会心理学』 山田一成他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4812-0			その他・特記事項	特になし		

授業科目名	認知心理学 I		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。認知心理学とは、人間が周りの環境や社会をどのように認識し、そこから得られた情報をどのように処理しているかを科学的に明らかにしようという学問である。本講義では、認知心理学の諸理論を概観し、人間のこころというものが、どのような仕組みで働いているかについて理解を深めることを目的としている。認知心理学 I においては、感覚過程と知覚過程および感情を中心に取り上げ、解説を行う。</p>			<p>①認知心理学がどのようなものであるのか理解する。 ②感覚・知覚過程がどのような働きをし、どのような障害があるのか理解する。 ③注意という概念や機能について理解する。 ④感情とはどのようなものか理解する。</p>				
教授方法	講義を中心に、実際に体験できる課題を取り入れながら進める。						
履修条件	なし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	認知心理学とは？：認知心理学という領域がどのようにして成立し、どのようなことを目指したものであるのか解説を行う。						
2	感覚 1 視覚：人がものを「見る」プロセスと心理学における研究知見について解説を行う。						
3	感覚 2 聴覚・嗅覚：人が音を「聴く」プロセス、匂いを感じるプロセスと心理学における研究知見について解説を行う。						
4	感覚 3 味覚・皮膚感覚：人が持つ味覚や皮膚感覚におけるプロセスと心理学における研究知見について解説を行う。						
5	知覚 1 知覚の恒常性 運動の知覚：人の知覚の特徴をよく考えさせる知覚の恒常性とモノや自分の動きを捉える知覚プロセスについて解説を行う。						
6	知覚 2 空間の知覚：私たちがなぜ「奥行」を感じることができるのかポイントを取り上げ解説を行う。						
7	知覚 3 錯視：「錯視」という一見不可思議な現象を取り上げ、紹介しながら人の知覚の特徴についてさらに知識を深める。						
8	知覚 4 顔の認識：顔は人にとって重要なものであり、その認識においてもいくつかの特徴がみられる。それらの特徴を理解することで顔認識プロセスについての理解を深める。						
9	知覚 5 知覚における障害：知覚のプロセスにおいてどのような障害が存在するのか、どのような影響がもたらされるのかという点について解説を行う。						
10	注意 1 注意とは何か？：「注意」というものが人の認識のプロセスでどのように機能し、どのように概念化がなされるのか解説を行う。						
11	注意 2 視覚的注意：「視覚的」な注意についてはどのような研究が行われ、理解されているのかについて解説を行う。						
12	注意 3 資源：注意における資源という観点から、人の認識の特徴について論じる。						
13	文化と認知 認知過程に見られる文化による違いについて解説を行う。						
14	感情 1 その理論：感情を理解するための諸理論を概観する。						
15	感情 2 認知との関わり：認知と感情の相互影響について解説を行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	80	試験形式・採点基準等は授業内で提示する。		講義への参加度	20	授業への取り組み姿勢や課題の提出状況をもとに評価を行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>①各回の内容についてあらかじめプリント、参考書を読んでくる。授業後には授業の内容を振り返りを行う。 [45分] ②講義内で行うデモンストレーションを講義後に自分や身の回りの人へ実施し、本を読んだだけでは理解しにくい部分を実感から理解を深める。 [30分] ③感覚・知覚、およびその障害については教科書的なものだけでなく、読み物やテレビ番組などになっているものも多いので、それらも参照すること。 [30分]</p>				<p>授業内の小レポートは、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。</p>			
受講生に望むこと	<p>感覚・知覚は日常行われていることではあるが、あまり意識することのない過程であると思われる。しかし、心の成り立ちを知る上で重要な過程であるので、その意義を踏まえながら積極的に授業に参加することを望む。</p>			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。		
指定図書参考書等	<p>なし／『認知心理学』箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5374-8 『認知心理学—知のアーキテクチャを探る—新版』道又爾・北崎充晃・大久保衛亜・今井久登・山川恵子・黒沢学 有斐閣 2011年 ISBN 978-4-6411-2453-0</p>			その他・特記事項	なし		

授業科目名	認知心理学Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。認知心理学とは、人間が周りの環境や社会をどのように認識し、そこから得られた情報をどのように利用しているかを科学的に明らかにしようという学問である。本講義では、認知心理学の諸理論を概観し、人間のこころというものがどのような仕組みで働いているのかについて理解を深めることを目的としている。認知心理学Ⅱにおいては記憶、思考及び学習過程を中心に解説を行う。</p>			<p>①記憶や思考といったものについて素朴な実感に基づく理解ではなく、認知心理学の観点から捉えなおすことができる。 ②認知心理学の枠組みから日常の記憶、思考にまつわる出来事を解釈できる。 ③批判的思考という概念を理解し、自ら実践できるようになる。 ④学習過程について認知理論の観点から考えることができる。</p>				
教授方法	講義を中心に、実際に体験できる課題も取り入れながら進める。						
履修条件	認知心理学Ⅰの履修済が望ましい（単位未修得可）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	記憶 1 記憶とは？：人の記憶の特徴について概略を述べ、次回以降の内容に道筋をつける。						
2	記憶 2 短期記憶・ワーキングメモリ：二重貯蔵モデルにおける短期記憶の特徴について述べ、さらにその概念を発展させたワーキングメモリの概要とその働きについて解説を行う。						
3	記憶 3 長期記憶：長期記憶の分類やモデルについて説明を行い、どのように概念化がなされているのかについて理解する。						
4	記憶 4 潜在記憶：顕在記憶と潜在記憶の違いを通して潜在記憶の特徴を理解し、その影響について実験例を用いて解説を行う。						
5	記憶 5 忘却とはどのようなことか：人が覚えていたことを「忘れる」ということはどのようなことであるのか、どのように概念化されるのかという点について解説を行う。						
6	記憶 6 忘却に関する種々の現象：忘却には様々なパターンがある。それらについて具体的な研究例や事例を取り上げながら解説する。						
7	記憶 7 自伝的記憶：自分自身についての記憶は、他の物事についての記憶とは異なる特徴がある。それらの特徴、自伝的記憶の影響などについて解説を行う。						
8	記憶 8 目撃証言：記憶が私たちの実生活に影響を及ぼす具体的な事象として、目撃証言が挙げられる。これまでに説明を行ってきた人の記憶の性質を考慮した際、目撃証言をどのようにとらえ、どのような点に注意する必要があるか解説する。						
9	記憶 9 偽りの記憶：私たちが持つ記憶は実際に体験したものだけとは限らない。体験していないことについての記憶を持つこともある。そのような記憶が生まれるプロセスについての解説を行う。						
10	思考 1 推論：演繹推論、帰納推論とはどのようなものであるのかを説明し、人が演繹推論を行う時の特徴について理解する。						
11	思考 2 確率判断：人が行う確率判断はどのような特徴があるのか、そしてそれらが意思決定のプロセスにおいてどのような影響をもたらすのかについて解説を行う。						
12	思考 3 批判的思考：人の思考プロセスの特徴を踏まえた上で、より妥当な、合理的思考を行うための考え方はどのようなものであるかといった点について解説を行う。						
13	思考 4 問題解決：問題が与えられ、ゴールの状態に至るまで人がどのようなプロセスを経ているのかについて解説を行う。						
14	思考 5 創造的思考：これまでにない新しいものを生み出すような思考プロセスはどのようなものであるかの解説する。						
15	学習 認知理論から見た学習過程について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	講義内容をどれだけ理解できているか。試験形式等の詳細は授業内にて提示する。		レポート	30	課題に対し資料を参照しながら筋道立てて意見を述べられているか。	
講義への参加度	20	授業への取り組み姿勢や課題の提出状況をもとに評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①各回の内容についてあらかじめプリント、参考書を読んでくる。授業後には授業の内容を振り返りを行う。〔30分〕 ②講義内で行うデモンストレーションを講義後に自分や身の回りの人に実施し、本を読んだだけでは理解しにくい部分を実感から理解を深める。〔30分〕 ③記憶や思考については教科書的なものだけでなく、読み物やテレビ番組などになっているものも多いので、それらも参照すること。〔30分〕</p>				授業内の小レポートは、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	記憶や思考は皆が日常行っていることであり、十分理解していると思われるかもしれない。しかし、認知心理学はそのような実感と記憶や思考の実際が多岐にわたる場合異なるという知見をもたらしている。そのような知見をただ覚えるだけでなく、積極的に日常生活に生かしていくというような態度で授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし／『認知心理学』箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5374-8 『認知心理学—知のアーキテクチャを探る—新版』道又爾・北崎充晃・大久保衛重・今井久登・山川恵子・黒沢学 有斐閣 2011年 ISBN 978-4-6411-2453-0			その他・特記事項	なし		

授業科目名	人格心理学		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
人間の心理や行動には個人差が存在する。そのような個人差が生まれるメカニズムに関連しているものの1つとして人格(=性格、パーソナリティ)があげられる。本講義では、心理学の知見を通して人格を捉えるための多様な観点を概観し、人間理解に向けた1つの基本的知識・視点を身につけることを目指す。			①人格を理解するための諸理論を説明できる。 ②人格を測定する方法と、測定における問題点を答えられる。 ③人格心理学の科学的知見をもとに、人間のパーソナリティについて幅広い視野から考えることができる。				
教授方法	講義を中心に性格検査などのワークも取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：人格(性格、パーソナリティ)とは何か。人の内面の特徴とされるパーソナリティとはどのようなものか概説する。						
2	人格の測定と研究法：人格はどのように測定することができるか考える。方法論(質問紙法、絵画法、投影法、観察法、面接法)を理解し、研究方法について学ぶ。						
3	類型論：人格をとらえる視点の一つである「類型論」をとりあげ、性格をタイプに分けることの利点と欠点について考える。						
4	精神分析的人格論①：フロイトの精神分析的人格論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。						
5	精神分析的人格論②：ユングのパーソナリティ論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。						
6	特性論①その考え方：人格をとらえる視点の一つである「特性論」をとりあげ、人をいくつかの特性からとらえることの利点と欠点を考える。						
7	特性論② Big Five：パーソナリティは5つの主要な性格因子で構成されるとする「Big Five モデル」を学ぶ。						
8	状況論：状況要因や環境要因を重視した「状況論」について学び、人格における状況の影響について考える。						
9	相互作用論：人-状況論争を経て誕生した「相互作用論」をとりあげ、近年の性格研究の動向について学ぶ。						
10	物語論：物語論(ナラティブ)の視点から人格について考える。						
11	遺伝と環境の影響：遺伝や家庭をはじめとする環境が、どの程度、人格の形成に影響しているかについて考える。						
12	人格の発達：一度つくられた人格が変わることはあるか、あるとしたらどの程度変化するかについて考える。						
13	人間関係と人格：「対人魅力」に関する研究成果をもとに、相手に好かれる性格とはどういったものかについて考える。						
14	文化と人格：東洋と西洋、日本と米国など、異なった文化環境は人格の形成にどういった影響を及ぼしているかについて考える。						
15	人格の病理：人格における病理にはどのようなものがあるか、またそれらへの対応や治療について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
講義への参加態度	20	授業への取り組み姿勢や出席状況をもとに評価を行う。		コメント・ペーパー	20	講義内容を踏まえて、自らの意見や考えを述べられているかを評価する。	
レポート	40	「人格心理学」の基礎知識が獲得されている。 「人格心理学」のテーマについて、実証的研究の知見を踏まえて論理的考察を加えられる。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①授業の前にシラバスを読み、授業内容について参考書などで予習しておくこと。 [30分] ②授業の後に各回の講義内容について、関連図書などを用いて復習しておくこと。 [50分] ③普段自分が、自分の性格や他人の性格をどのようにとらえているのか意識して生活してみる。 ④授業内で習った理論に基づいて、自分の性格や他人の性格を分析してみる。				①コメント・ペーパーについては、授業内で振り返りの時間をもちます。 ②レポートについては、授業内や次学期初めに内容に関するコメントを配布します。			
受講生に望むこと	性格は身近なものであり、講義内容と自分の性格など自分自身とを結びつけながら受講してほしい。			教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし/『[改訂版] 人格心理学への招待：自分を知り他者を理解するために』 訖摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊 サイエンス社 2003年 ISBN:978-4781910444、『パーソナリティ心理学』 榎本博明・安藤寿康・堀毛一也 有斐閣 ISBN:978-4641123779、『パーソナリティ心理学概論：性格理解への扉』 鈴木公啓 編 ナカニシヤ出版 2012年 ISBN:978-4779506383			その他・特記事項	なし		

授業科目名	心理療法			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	佐野 隆子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>近年、相談援助の重要性は、医療、福祉、教育などのさまざまな領域で高まっています。この授業では、心理療法の基礎的な知識や理論を学ぶとともに、医療・福祉・教育の現場でよく用いられているアプローチ（クライエント中心療法、認知行動療法、解決志向アプローチなど）について学習します。また、対人援助の基盤となる他者と自分を尊重する態度を、アサーションなどのグループワークを通して体験的に学びます。</p>				<p>①心理療法の理論と技法についての基礎知識を身につける。 ②カウンセリングの基本的態度を理解する。 ③心理療法を学ぶ過程で、自己理解と他者理解を深める。</p>			
教授方法	講義、グループワーク						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業の概要と成績評価の方法を理解する。心理療法とは何か：心理療法の歴史の概要を理解する。						
2	心理療法の基礎理論：フロイト、ユング、ロジャーズなどの代表的な心理療法家の理論とそれぞれのアプローチについて理解する。						
3	さまざまなこころの病と心理療法：現在行われている心理療法を、さまざまなこころの問題とともに理解する。						
4	治療構造と基本的態度：セラピストに求められる基本的な態度、カウンセリングの過程について理解する。						
5	見立て①：心理検査のそれぞれの特徴を知る。						
6	見立て②：面接による見立てについて学ぶ。 初回面接をロールプレイで体験する。						
7	クライエント中心療法①：傾聴、感情の反射について理解する。						
8	クライエント中心療法②：面接過程をロールプレイで体験する。						
9	表現療法①：描画などの芸術療法、遊戯療法、箱庭療法などの概要を理解する。						
10	表現療法②：コラージュ療法を体験する。						
11	認知行動療法①：「自動思考」について学び、認知行動療法のプログラムを理解する。						
12	認知行動療法②：グループセッション、セルフヘルプの実際を体験する。						
13	解決志向アプローチ：解決志向アプローチの理論と実際を体験的に理解する。						
14	アサーション・トレーニング：対人関係スキルとしてのアサーションをグループワークを通じて理解する。						
15	交流分析とエゴグラム：交流分析の概要を学ぶ。性格検査（エゴグラム）による自己理解と他者理解をグループワークで体験する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	講義全体を通して内容を理解しているか、記述と選択問題などによって評価する。			授業参加状況	50	授業後の感想・ワークシートなどの提出物で、授業の内容を理解しているか、気づきや学びがあるかを評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①授業で出た専門用語などについて、整理し確認するようにしてください。[30分] ②毎回さまざまな心理療法を取り上げます。各療法についての関連図書を積極的に読み、理解を深めることを希望します。[60分]</p>				ワークシートは4週間以内にコメントをつけて返却する。			
受講生に望むこと	4回目以降毎回グループワークを行います。グループワークとは、ロールプレイ・描画・ワークシートを使ったディスカッションなどです。グループワークを有意義なものにするためには、グループ内の信頼関係作りへの努力と、一人一人が自発的に発言することが不可欠です。積極的な態度で参加してください。			教科書・テキスト	資料を配布する		
指定図書参考書等	『やさしく学べる心理療法の基礎』窪内節子・吉武光世 共著 培風館 2003年 ISBN 978-4-563-05669-8 『自己カウンセリングとアサーションのすすめ』平木典子 著 金子書房 2000年 ISBN 978-4-7608-2586-8			その他・特記事項	なし		

授業科目名	臨床心理学			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
臨床心理学は心理学の様々な知見を対人援助に用いることを目的とした、応用的な分野の一つである。その内容は多岐にわたるため、本講義では対象、査定方法、心理療法のモデル、心理療法の理論、心理療法の技法、臨床心理士が活躍する現場に焦点を当てて学習する。臨床心理学では人を理解することが重要であるため、技法や検査を体験することで自己や他者の特徴について理解を深める機会と、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて人とのコミュニケーションの取り方について考える機会を設けたい。				(1) 臨床心理学とは何かを説明できるようになる。 (2) 臨床心理学の対象は何かを説明できるようになる。 (3) 臨床心理学的査定とは何か、具体的にどのような方法があるかを説明できるようになる。 (4) 臨床心理学の理論を説明できるようになる。 (5) 臨床心理学の技法を説明できるようになる。 (6) 臨床心理士が活躍する現場を説明できるようになる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	臨床心理学の定義と歴史：臨床心理学とは何か、その定義と歴史を理解する。						
2	学校臨床心理学（不登校、いじめ、発達）：学校について臨床心理学的観点から理解する。						
3	発達障害：臨床心理学の対象のひとつである発達障害について、どのような特徴があるかを理解する。						
4	統合失調症：臨床心理学の対象のひとつである統合失調症について、どのような特徴があるかを理解する。						
5	気分障害、神経症：臨床心理学の対象である気分障害と神経症について、どのような特徴があるかを理解する。						
6	異常と正常、治療モデルと成長モデル：臨床心理学では異常と正常をどのように考えるのか、また、対象の変化をどのようなモデルに沿って考えるのかを理解する。						
7	心理査定（面接法、観察法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、面接法と観察法に焦点を当てて理解する。						
8	心理査定（投影法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも投影法に焦点を当てて理解する。						
9	心理査定（知能検査、作業検査、質問紙）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも知能検査、作業検査、質問紙に焦点を当てて理解する。						
10	心理面接（受面接・終結、マイクロカウニング）：臨床心理学の面接はどのように行われるのか、面接の開始、面接の終了、面接の技法を理解する。						
11	精神分析の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである精神分析について、その歴史、精神分析理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
12	人間性心理学の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである人間性心理学について、その歴史、人間性心理学理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
13	行動療法・認知療法の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論である行動療法・認知療法について、その歴史、行動療法・認知療法の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
14	遊戯療法、家族療法、森田療法、内観、臨床動作法、自律訓練法：臨床心理学において頻りに利用される様々な心理療法について理解する。						
15	臨床心理士が働く現場（医療、教育、福祉）：臨床心理学を対人援助に実際に利用している臨床心理士がどのような現場で活躍しているのかを理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の考えを記述すること。講義のメモではなく、内容から発展させた自分の考えを記述することが求められる。			講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義内容に関連する内容について、参考図書をはじめとする臨床心理学に関連する学術的な書籍や論文を読み、知識や理解を深める予習が求められる。[60分] 内容の理解や知識の定着のために復習を積極的に行うことが求められる。[30分] グループでプレゼンテーションを行う際には講義以外にも仲間と打ち合わせや発表の準備を行う必要性が生じる場合がある。[60分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを配布する。			
受講生に望むこと	シラバスの内容をよく確認した上で受講すること。 学習に自発的、積極的に取り組むこと。 グループディスカッションの時には他者と協調すること。 プレゼンテーションのために仲間と協力して学習に取り組むこと。			教科書・テキスト	なし。 適宜資料を配布する。		
指定図書参考書等	園田雅代・無藤清子（2011）『臨床心理学とは何だろうか：基本を学び、考える』新曜社 ISBN:478512262 / 岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美（2013）『臨床心理学入門：多様なアプローチを越境する』有斐閣 ISBN：9784641220034			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーをお招きする可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

授業科目名	子ども英語		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	宮浦 国江・伊藤 雄二（代表教員 宮浦 国江）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
この講義は「小学校教諭一種免許状」の「または科目」にあたる科目である。2013年文部科学省は小学校での英語を3,4年生は外国語活動、5,6年生は教科とすることを発表した。このことは、小学校教諭は英語指導者の資質が求められるようになったことを意味する。この授業では、子ども英語（本講義では主に小学生を指す）に必要な英語力と具体的な指導法を指導法を実践的に学ぶ。また学外の実践場面に多く触れることで理解を深める。			①クラスルームイングリッシュを使うことができる。 ②子ども英語に必須のチャンツやフォニックスの意味・内容・意義を知り、効果的に指導することができる。 ③子ども英語は体験的に「学ぶ」ことが重要であることを踏まえた授業実践（指導案作成を含む）ができる。 ④あらゆる場面で見られるこどもの学び・言語習得に対する鋭い観察眼を持つ。 ⑤英語力が現在よりもひとつ上のレベルに到達することができる。最終的には小学校英語教師に必要なとされるCEFR B1（STEP英検2級～準1級、TOEIC 550-600）程度を目指す。				
教授方法	講義・演習・実技（模擬授業・授業外活動）およびディスカッション						
履修条件	①小学校教諭一種免許取得希望者で、小学校教育実習済みであることが望ましい。②英語力がSTEP英検2級相当以上である者が望ましい。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	クラスオリエンテーション、「子ども英語」のねらい、第1章 外国語活動の目的と目標を学ぶ					宮浦・伊藤	
2	授業外実践活動（REDeCセミナー・Halloween 10月の土曜日開催）の準備・運営					宮浦・伊藤	
3	第7章 教材研究①児童が英語に楽しく触れ、慣れ親しむ活動(1)望ましい活動の条件差うクラスルームイングリッシュ小テスト(1)					宮浦・伊藤	
4	第7章 教材研究①児童が英語に楽しく触れ、慣れ親しむ活動(2)具体例クラスルームイングリッシュ小テスト(2)					宮浦・伊藤	
5	第8章 教材研究②児童の興味・関心を惹きつける活動の工夫クラスルームイングリッシュ小テスト(3)					宮浦・伊藤	
6	第9章 指導法と指導技術(1)主な指導法クラスルームイングリッシュ小テスト(4)					宮浦・伊藤	
7	第9章 指導法と指導技術(2)指導技術クラスルームイングリッシュ小テスト(5)					宮浦・伊藤	
8	第10章 教材・教具の活用法クラスルームイングリッシュ小テスト(6)					宮浦・伊藤	
9	第12章 授業家庭と学習指導案の作り方クラスルームイングリッシュ小テスト(7)					宮浦・伊藤	
10	5年生Hi, Friends! 1 Lesson 1-4のねらいに合った活動の模擬授業					宮浦・伊藤	
11	5年生Hi, Friends! 1 Lesson 5-9のねらいに合った活動の模擬授業					宮浦・伊藤	
12	6年生Hi, Friends! 2 Lesson 1-3のねらいに合った活動の模擬授業					宮浦・伊藤	
13	6年生Hi, Friends! 2 Lesson 4-5のねらいに合った活動の模擬授業					宮浦・伊藤	
14	6年生Hi, Friends! 2 Lesson 6-8のねらいに合った活動の模擬授業					宮浦・伊藤	
15	授業の総まとめと4年生での子ども英語教育法への心構えを持つ。					宮浦・伊藤	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
模擬授業・指導案	30	①指導案がねらいに沿った流れで作成されているか ②授業運営が児童やねらいに適した活動をしているか。 ③クラスルームイングリッシュを用いているか。 ④教材・教具を適切に使用しているか。		英語小テスト	20	①語彙や文型が定着しているか。 ②使用する場面や機能を理解ができているか。 ③4技能で使用できるか。	
REDeCセミナーの参加態度およびレポート	10	①準備や運営を適切に行ったか。 ②子どもの学びや運営の仕方を学んだか。 ③「REDeCセミナー活動で学んだこと」レポート		期末テスト	40	「子ども英語」についての基本を修得しているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①学生は必ず予習をして授業に臨むこと。特に発音については辞書・CD等で確認して定着させること。 ②小学校現場での英語・外国語活動の授業をできるだけ多く参観すること。 ③学習支援の際に、小学校英語で培った視点を持って児童・教師を観察しポートフォリオに気付いたことを書きとめること。 ④メディアや図書館等を利用し、知識を増やすこと。 ⑤英語力向上のため英語の授業の履修やメディアを利用し、検定等に挑戦したり英語を頻繁に使用したりすること。 ⑥小学校現場での英語・外国語活動の授業をできるだけ多く参観すること。学習支援は継続的に行うこと。				返却時に行う			
受講生に望むこと	①教師の責任の重さは「外国語活動」も他教科と同じである。他教科同様積極的に学習すること。 ②「小学校英語は楽しければ良い」「母語同様自然に英語を身に付ける」という誤った思い込みを捨て正しい認識を持つこと。 ③英語を取り巻く環境は急激に変化しているので新聞・ニュースなど最新情報を常にチェックすること。 ④英語科目（アクティブイングリッシュを含む）を履修し、英語を通じた異文化交流の実験を持つこと。			教科書・テキスト	①『小学校英語教育入門』樋口忠彦(代表)編著 研究社 2013年 ISBN 978-4-327-41086-5 ②『Hi, friends! 1』文部科学省 2012年 ISBN: 978-4487258833 『Hi, friends! 2』文部科学省 2012年 ISBN: 978-4487258840 『Hi, friends! 1』指導編 文部科学省 2012年ISBN978-4-487-25989-2 『Hi, friends! 2』指導編 文部科学省 2012年 (ISBN: 978-4-487-25990-8) ③適宜配布されるプリント		
指定図書／参考書等	なし/小学校英語に関する書籍一般			その他・特記事項	詳細なクラスルールは1時間目目にハンドアウトを用いて説明をする。REDeCセミナーの準備や実施分は90分を超えるが、授業（事業）の企画運営を学ぶ貴重な機会なので、準備から片付けまで責任を持って行うこと。		

授業科目名	子ども英語教育法		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	宮浦 国江・伊藤 雄二（代表教員 宮浦 国江）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業は小学校教諭一種免許状の「または科目」である。本講義では「子ども英語」で学んだ活動をさらに広く深く学び、子ども（本講義では主に児童を指す）の発達段階に合わせた英語指導に必要な基礎的知識を学ぶ。具体的には、英語指導に関わる理論（言語習得・教授法・授業の構成）などを学ぶ。並行して実際の授業場面を想定して指導案を作り、教材を使って模擬授業を行いながら実践的指導力をさらに高める。英語母語話者と共にティームティーチングも準備から行うことでALTとの協同作業を学ぶ実習も行う。			①子ども英語教育に関する知識（理論や教授法、専門用語）を習得する。 ②学んだ教授法を実践と関連付けて考えることができる。 ③第一言語習得と第二言語習得の違いが分かる。 ④子ども英語指導に必須のチャンツやフォニックスの意味・内容・意義を知り、効果的に指導する態度を持つ。 ⑤あらゆる場面で見られる子どもの学び・言語習得に対する鋭い観察眼を持つ。 ⑥クラスルームイングリッシュを適切に用いて英語母語話者とコミュニケーションを図ることができるか。				
教授方法	講義・演習・実習・ディスカッション						
履修条件	①小学校教諭一種免許取得希望者で「小学校教育実習」と「子ども英語」の単位を履修済みであることが望ましい。②英語力がSTEP英検2級相当以上ある者が望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	①オリエンテーション、小学校英語教育実習（5月中1週間）について説明を受け理解する。 ②「子ども英語」で学んだことを振り返り、重要な点を再確認する。					宮浦・伊藤	
2	第1章 外国語活動の目的と目標を学ぶ					宮浦・伊藤	
3	第13章 授業づくり―事前準備から振り返りまで ①小学校英語教育実習について割り当ての発表および指導案作成について学ぶ。					宮浦・伊藤	
4	第2章 関連分野から見る外国語活動の意義と方向性を学ぶ					宮浦・伊藤	
5	第3章 指導者の役割、資質と研修について学ぶ					宮浦・伊藤	
6	第4章 教材・テキストの構成と内容を学ぶ					宮浦・伊藤	
7	第5章 指導目標、年間指導計画の対方と具体例について学ぶ					宮浦・伊藤	
8	第6章 言語材料と4技能の指導					宮浦・伊藤	
9	北陸学院小学校におけるALTとのティームティーチングに関する準備と最終チェック					宮浦・伊藤	
10	北陸学院小学校におけるALTとのティームティーチング第1回（割り当てられた学年の指導および他クラスの授業参観・支援）					宮浦・伊藤	
11	北陸学院小学校におけるALTとのティームティーチング第2回（割り当てられた学年の指導および他クラスの授業参観・支援）、					宮浦・伊藤	
12	小学校英語教育実習での学びについての振り返り					宮浦・伊藤	
13	第11章 評価のあり方、進め方					宮浦・伊藤	
14	第14章 外国語活動の成果、課題と今後の展望について学ぶ。					宮浦・伊藤	
15	①内容理解テスト ②まとめ：これからの小学校英語教育について考えるとともに各々今後の課題を明確にする。					宮浦・伊藤	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
テスト	50	①専門用語の内容を正しく理解しているか。 ②学習した内容を理解しているか。 ③理論と実践を関連付けているか。		授業実践	30	①ねらいに沿った指導案と授業運営をしたか。 ②ティームティーチングの準備をきちんと行ったか。 ③児童を観察しながら授業を進めたか。 ④日本人教師としての役割を果たし、母語話者の特性も活かしたか。	
授業参加態度・レジュメ	20	①レジュメ：予習として教科書を読み、アンダーラインを引き、ポイントをまとめたか。 ②課題意識を持って意欲的に授業に参加し、質問や発言をしたか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①予復習をしっかり行うこと（50分）。予習ノートは最終テストの際の持ち込みノートとして使用する。 ②クラスルームイングリッシュ・英会話を頻繁に使用し英語運用力の向上を図ること（40分）。 ③担当する小学校の授業を参観し児童理解を深め、授業運営を把握しておくこと。 ④模擬授業の際は十分な時間をかけて準備し、リハーサルをして臨むこと。 ⑤ALTとの打ち合わせは効率よく行うこと。				返却時に行う			
受講生に望むこと	①意欲的に取り組むこと。 ②英語にひるまず英語力を高めるチャンスととらえること。 ③英語力を高めるため、外部検定テストを受験すること。			教科書・テキスト	①『小学校英語教育法入門』樋口忠彦(代表)編著 研究社 2013年 ISBN 978-4-327-41086-5 ②「子ども英語」で配布した資料③適宜配布するハンドアウト		
指定図書/参考書等	なし/子ども英語関連書籍			その他・特記事項	6月の小学校模擬授業(日程は講義内で指示する)合計10時間分は自分の担当以外の授業も全て参加する。この間はアルバイト等自己都合の用事を入れず、実習に集中すること。詳細は1時間目目録にハンドアウトを用いて説明をする。		

授業科目名	教育相談			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状・認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
子どもたちを取り巻く諸問題についての実情を把握し、教育相談の目的や意義を学ぶ。また、教育相談における幼児・児童への関わり方を対象問題別に学ぶとともに、幼児・児童理解及び支援のいくつかのアプローチを学び、教育相談について理解を深める。				教育現場に出る際にどのような教育相談活動を展開すべきかについて十分に考察を深め、自分なりの考えを持てるとともに、教育相談の具体的方法を知り、幼児・児童支援における留意点についても理解することができる。			
教授方法	演習、講義、ディスカッション。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	教育相談とは：教育相談の目的、意義、方法について考える						
2	子どもの貧困：貧困について理解を深める						
3	自閉症：自閉症の特徴について理解を深める						
4	学習障害：学習障害の特徴について理解を深める						
5	注意欠陥多動性障害：注意欠陥多動性障害の特徴について理解を深める						
6	不登校：不登校について理解を深める						
7	いじめ：いじめについて理解を深める						
8	非行：非行について理解を深める						
9	虐待：虐待について理解を深める						
10	自殺：自殺について理解を深める						
11	統合失調症：統合失調症の特徴について理解を深める						
12	気分障害：気分障害の特徴について理解を深める						
13	カウンセリング的態度：教育相談において求められるカウンセリングの知識と技術を理解する						
14	連携・協働：教育相談において求められる多職種の連携や協働について理解を深める						
15	統括。教育相談の目的、意義、方法について改めて考える						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の意見や感想を記述すること。講義内容のメモではなく、内容から発展させた自分の考えなどを記述することが求められる。			講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
与えられたテーマについて予習し、レジュメを作成すること。[90分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[30分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを配布する。			
受講生に望むこと	学習に自発的、積極的に取り組むこと。 他の受講者と協調すること。 毎回、相当量の予習と他者と協力して取り組む演習が不可欠であることを承知の上で受講すること。			教科書・テキスト	なし		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーをお招きする可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

授業科目名	教育課程編成論		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	石倉 瑞恵					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>①過去の事例から教育課程編成の多様性を学ぶ。それぞれの中心となる理論についても理解し、新しい時代の教育課程を考える上で土台となる知識、思考力を育む。</p> <p>②新しい時代の教育課程は、子どもが未知の状況に対応しつつ「何かができる」ようになることを目的として編成されねばならない。そのような目的を達成するために必要な評価の観点・方法、アクティブ・ラーニングの手法について学ぶ。</p> <p>③最終的には、マクロな視点で現行の教育課程を見つめ、新たな可能性を描くことができるようになる。</p>			<p>①教育課程編成の事例（学習指導要領）を特色付ける教育理論、その事例から発生した問題点について理解する。</p> <p>②これからの時代において育むことが必要とされる能力とそのための教育課程について理解する。</p> <p>③学びに向かう力、問題解決力を測定するための多様な評価方法について理解し、実践することができる。</p> <p>④質の高い学びを導く教育方法について理解することができる。</p> <p>⑤マクロな視点で日本の教育課程編成を理解し、教育課程編成の新たな可能性について提案することができる。</p>			
教授方法	講義。アクティブ・ラーニング（学生の能動的活動）を多く取り入れる。					
履修条件	小学校教諭一種免許状を取得しようとする者に限る。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教育課程とは：本科目の目的と授業計画についての説明。小学校の事例を通して教育課程へのイメージを明確にした後、身近な事例を用いてカリキュラムのイメージを作成する。					
2	教育課程への視点、教育課程の法的根拠：経験カリキュラムと教科カリキュラム、顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラムについて学び、教育課程への理解を深める。学習指導要領の位置づけについて学ぶ。					
3	学習指導要領の誕生：昭和22年、26年学習指導要領を特色付ける経験主義、生活中心のカリキュラム、単元学習やコア・カリキュラムについて学ぶ。					
4	学習指導要領の変遷（1）：経験主義から系統主義への変遷、昭和43年学習指導要領を特色付ける理数教育、それらに影響を及ぼしたブルーナーの教育理論を理解する。					
5	学習指導要領の変遷（2）：昭和52年学習指導要領において教育問題への対応のために生まれた「ゆとり」は、平成元年の学習指導要領においてどのような解釈に至ったのかを学ぶ。					
6	学習指導要領の変遷（3）：平成10年学習指導要領の掲げる「生きる力」とは何か、教育課程にどのように反映されたのか、平成20年学習指導要領はそこから生じた問題点にどのように対処したかを学ぶ。					
7	新学習指導要領に向けて：新しい時代に向けてどのような力を育むのかについて考える。「社会に開かれた教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」について学ぶ。					
8	教育評価方法（1）：学びを課題解決力へと発展させるために評価方法をどのように変えるのかを考える。まずは、戦後から現在に至る評価方法の流れ、相対評価と絶対評価の問題点を理解する。					
9	教育評価方法（2）：ブルームの評価理論を学ぶ。行動目標の達成度を測定するための形成的評価（確認テスト）の手法を学び、実際に作成する。					
10	教育評価方法（3）：カリキュラム全体を網羅するような評価の工夫について学ぶ。KJ法を活用した社会（歴史）の評価に取り組む。					
11	教育評価方法（4）：「思考力・判断力・表現力」を含む高次の学力を測る評価方法を学ぶ。パフォーマンス評価への理解を深め、作成する。					
12	質の高い学びのための教育方法：アクティブ・ラーニングについての理解を深め、主体的・対話的な深い学びを導く教育方法を学ぶ。「生活科」における問題解決型教育方法について考える。					
13	総合的な学習：これからの時代における総合的な学習の意義について考える。イギリスやアメリカの事例を学び、総合的な学習の具体的な運営方法について理解する。					
14	外国の教育課程：教育が目指す方向性、人間形成のねらいは、日本も諸外国もほぼ等しいこと、しかしながら教育課程編成の手法は多様であることを学び、教育課程に対する広い視野を身につける。					
15	教育課程経営とその研究方法：経営という視点から学校と教育課程のサイクルを見る視点を学ぶ。また、教育課程経営の研究方法としての解釈的パダライムについて学ぶ。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小課題	40	①課題の意図通りに作成、記述されているか。 ②よくよく練られた提出物であるか。 ③期日通りに提出できたか。		定期試験	40	論述試験は以下により採点する。 ①授業での学びを理解し、それを元に深く思考しているか。 ②適切な表現を用い、他者に伝わるよう努力して記述しているか。
受講意欲	20	聞き方、ノートの取り方、レジメや返却された課題等のファイル状況等から、主体的・意欲的に授業に参加しているか否かを見る。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①資料は数回分まとめて配布するので、予習として次回の分については目を通し、資料では不十分な点を自分で調べておく[40分]。</p> <p>②資料の整理、ノートの整理は事後学習として行い、次回の授業の冒頭で前回の復習として質問されても、素早く明確に返答できるようにしておく[40分]。</p> <p>③多くの小課題が出る。多くは復習（総括）を兼ねているので、授業を振り返りながら取り組む。</p>				提出小課題は数回課す。すべてコメントを記入して次回授業内にて返却するので、返却された課題に目を通し、自分の授業ファイル・ノートの適切な箇所に綴じておく。		
受講生に望むこと	常日頃、新聞等に目を通し、教育に関する記事に関心をもっておくこと。それらの記事をありのままに受け止めるのではなく、批判的に読むように心がける。最新の教育関連記事から授業を展開することもある。			教科書・テキスト	なし	
指定図書参考書等	なし／山崎保寿、黒羽正見『教育課程の理論と実践』学陽書房、2010年（ISBN978-4-313-61136-8） 片上宗二、木原俊行『新しい学びをひらく総合学習』ミネルヴァ書房、2001年（ISBN4-623-03468-2） 田中耕治『教育評価』岩波書店、2012年（ISBN978-4-00-028050-1）			その他・特記事項	なし	

授業科目名	国語科教育法（書写を含む）		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	幸 聖二郎						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「国語」で学んだことを基礎にして、国語科教育の特質や現状、指導のための基礎的知識や技術を学ぶ。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域及び書写の指導事項や発達段階に応じた指導を行うための実践力を、講義やグループ討議、模擬授業などを通して学ぶ。</p>			<p>①国語科教育の実践的指導にあたっての基礎的知識を理解している。 ②発達段階や系統性を踏まえて国語科学習指導計画を立案できる。 ③模擬授業を通して国語科の実践的な指導技術を習得している。 ④子ども・指導者両者の立場から授業を評価できる。</p>				
教授方法	講義 演習 授業参観 グループ討論						
履修条件	「国語」を履修した者または「国語」を履修中の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業概要、進め方、成績評価の方法						
2	学習指導要領における国語科の目標と内容						
3	「話すこと・聞くこと」に関する教材研究						
4	「話すこと・聞くこと」に関する指導法研究						
5	「読むこと」に関する教材研究						
6	「読むこと」に関する指導法研究						
7	「書くこと」に関する教材研究						
8	「書くこと」に関する指導法研究						
9	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についての教材研究						
10	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についての指導法研究						
11	「書写に関する事項」についての教材研究と指導法研究						
12	低学年言語指導単元模擬授業						
13	中学年言語指導単元模擬授業						
14	高学年言語指導単元模擬授業						
15	まとめ：国語科教育の現状と課題						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
学習指導案	40	十分な教材研究がなされている。単元の目標達成や本時の目標達成を明確にした学習指導案がつけられている。	模擬授業の実施	40	十分な事前準備がなされている。ねらい達成のための授業展開ができている。授業者・児童双方の立場を理解した行動や関わりがなされている。客観的な高め合う相互評価をしている。		
課題	20	授業力における自分の課題を理解している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
事前学習 教材研究や模擬授業の指導案を作成する。事後学習・授業で学んだことや各自の課題についてレポートを作成する。[30分]			<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中以外にも、メール等で受け付ける。メールアドレスは、受講者に知らせておく。 ・毎回授業の初めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 				
受講生に望むこと	「国語」で学んだ国語科の目標と内容を想起してほしい。模擬授業で授業力をつけるためにも、事前事後学習や教材研究にしっかり取り組んでもらいたい。子どもの立場に立って授業案を考え、指導を試みる事が大切である。自分の課題や目標をみつめて授業力向上に励んでほしい。		教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説国語編』文部科学省 東洋館 2008年 INBN978-4-491-02371-7-C3037			
指定図書参考書等	なし/『言語活動の充実に関する指導事例集』～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～【小学校版】文部科学省 教育出版 2011年 ISBN978-4-316-300290-0 小学校国語学習指導書1年～6年 光村図書出版株式会社 ISBN978-4-89528-850-7～978-4-89528-861-3		その他・特記事項	なし			

授業科目名	社会科教育法			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>学習指導要領「社会科」の教科目標には、「社会生活についての理解を図り、わが国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。」とある。小学校3年生から6年生まで、それぞれの発達段階に応じた社会科の学習指導を行うために必要な技能を身につけることを目指し、実践的に学んでいく。</p>				<p>①小学校社会科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識および技能を身に付ける。 ②社会科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。</p>			
教授方法	講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など						
履修条件	「社会」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	社会系教科の成立と歴史の変遷について理解する。						
3	社会科と生活科・総合的な学習等との関連について理解する。						
4	社会科指導のあり方（教材研究、指導計画立案、評価、授業展開）を理解する。						
5	3・4 学年における社会科教育の目標と内容を理解する。						
6	5・6 学年における社会科教育の目標と内容を理解する。						
7	3 学年における社会科教育の指導計画の作成を理解する。						
8	4 学年における社会科教育の指導計画の作成を理解する。						
9	5 学年における社会科教育の指導計画の作成を理解する。						
10	6学年における社会科教育の指導計画の作成を理解する。（社会科学習指導案①の提出）						
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価①（3学年）						
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価②（4学年）						
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価③（5学年）						
14	学生による模擬授業の実施と反省、評価④（6学年）						
15	全体ふりかえり、まとめ、社会科学習指導案②（修正版）の提出						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
学習指導計画案	25	模擬授業実施のための学習指導計画案を作成する。その際、十分に教材研究をし、創意工夫をおこなっている。			模擬授業	30	授業づくりに積極的に参加することができる。
修正指導案・期末レポート	25	模擬授業や担当教員による助言を踏まえ、修正版指導案を提出する。また、授業づくりについての学びを簡潔にまとめることができる。			講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>単元計画・指導案の作成、模擬授業の準備のため、授業時間外に積極的に教材研究を行う。【60分】 市内の小学校の学習支援に積極的に参加する。【60分以上】</p>				<p>学習指導計画案は、初回に提出されたものに担当教員が指導助言を行い、いったん返却する。模擬授業等を踏まえて修正を行ったものを期末に再提出するものとする。2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。 対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。</p>			
受講生に望むこと	社会科実践に興味をもって教材研究を進めたり、仲間とともに授業をつくったりすることを大切にしてほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説社会科編』文科省、東洋館出版社、2008年、978-4-491-02372-4		
指定図書参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	体育科教育法		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田邊 圭子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>小学校学習指導要領の体育科の目標には「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」とある。この授業では、この目標をめざしながら、小学校1年生から6年生の発達段階に応じた体育指導について考える。</p>			<p>①自ら積極的に身体を動かすことができるようになる。 ②子供達の手本となるような運動技術を身につける。 ③子供達が運動を楽しめる授業づくりができるようになる。 ④正しい運動を安全に指導できるような指導法を身につける。</p>				
教授方法	講義 + 実技						
履修条件	「児童体育」を履修した者または「児童体育」を履修中の者が望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要説明：授業の進め方、成績評価の方法について説明。 小学校体育科とは何か：概説及び課題と指導の在り方						
2	「体づくりの運動」の内容と指導計画の作成：体づくり運動の特性、単元の目標を理解し、指導計画を作成する。						
3	「体づくり運動」の指導法及び模擬授業：作成した指導計画に基づき、模擬授業を行う。 模擬授業による授業から、授業の進め方や指導法について考える。						
4	「ボール運動」の内容と指導計画の作成：ボール運動の特性、単元の目標を理解し、指導計画を作成する。						
5	「ボール運動」の指導法及び模擬授業：作成した指導計画に基づき、模擬授業を行う。 模擬授業による授業から、授業の進め方や指導法について考える。						
6	「器械運動」の内容と指導計画の作成：器械運動の運動特性、単元の目標を理解し指導計画を作成する。						
7	「器械運動」の指導法及び模擬授業：作成した指導計画に基づき、模擬授業を行う。 模擬授業による授業から、授業の進め方や指導法について考える。						
8	「表現運動」の内容と指導計画の作成：表現運動の運動特性、単元の目標を理解し指導計画を作成する。						
9	「表現運動」の指導法及び模擬授業：作成した指導計画に基づき、模擬授業を行う。 模擬授業による授業から、授業の進め方や指導法について考える。						
10	「陸上運動」の内容と指導計画の作成：陸上運動の運動特性、単元の目標を理解し指導計画を作成する。						
11	「陸上運動」の指導法及び模擬授業：作成した指導計画に基づき、模擬授業を行う。 模擬授業による授業から、授業の進め方や指導法について考える。						
12	「保健」の内容と指導計画の作成：心の健康、けがの防止、病気の予防について理解し、指導計画を作成する。						
13	「保健」の指導法及び模擬授業：作成した指導計画に基づき、模擬授業を行う。 模擬授業による授業から、授業の進め方や指導法について考える。						
14	「水泳」の内容と指導計画の作成：水泳の運動特性、単元の目標を理解し指導計画を作成する。						
15	「水泳」の指導法及び模擬授業：作成した指導計画に基づき、模擬授業を行う。 模擬授業による授業から、授業の進め方や指導法について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	50	授業への取り組み姿勢		模擬授業担当	25	指導案の提出、模擬授業、振り返りレポートで評価	
レポート	25	①授業内容を理解できているか ②「体育とは何か」について考えを論理的に述べる事ができているか					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①ニュースや新聞で報じられている運動や健康に関する情報に接し、その内容について様々な角度から考えてみる[60分] ②授業中に配布した資料を読む[30分] ③模擬授業指導案及び感想文作成[60分]				レポートは採点及びコメントを付記して2週間以内に返却する。			
受講生に望むこと	自分は「運動が得意だから体育が教えられる」、「運動が苦手だから体育が教えられる」と考えないこと。体育は、単に運動技能を高めるためだけでなく、能力差のある子供達が一緒に運動することを通して学びあう科目です。体育の楽しさを教えるためには、運動に関する正しい知識と指導法に加え、授業内容の工夫が必要です。自分自身のこれまでの経験は大切ですが、それが全てとは考えないでください。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 体育編』、文部科学省、2008年、 ISBN978-4-491-02375-5		
指定図書参考書等	授業を進める中で随時提示またはプリント配布する。			その他・特記事項	模擬授業の時間は運動できる服装に着替え、体育館履きに履き替えて受講すること。		

授業科目名	道徳教育の研究		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	辻 直人						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>道徳教育は小中学校において必修と定められている。また、2018年度より小学校で、翌19年度より中学校で「特別の教科」として新たに道徳教育を強調する動きも見られ、様々な新しい試みが導入される傾向にある。しかし、いわゆる一般教科の指導と違い、「心」に関わる領域の指導はいくつかの留意すべき点を含んでいる。本講義では、学校で道徳を教えることの意味や道徳教育の歴史を学び、道徳教育のあり方について多角的に検討できるような視点を養うことを目標とする。また、道徳教育の指導方法についても紹介し、現代社会に求められる道徳教育像を模索したい。既に教育実習を経験した受講生には、自らの経験を踏まえて道徳の授業実践を実際に構想し報告してもらう機会も設ける。</p>			<p>①学校における道徳教育の意義について説明することができる。 ②「学習指導要領」の内容を理解している。 ③道徳教育指導案を作成することができる。</p>				
教授方法	授業中も積極的な発言を求める。毎回授業終了時に、授業にまつわる課題について意見を書いて提出する。自ら作成した指導案に基づいて模擬授業をする機会も設ける。						
履修条件	小学校教諭免許希望者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション、授業内容、成績評価について、道徳教育をめぐる動向について。						
2	道徳教育は何を目指すのか？自ら受けてきた道徳教育を思い出し検討してみる。						
3	道徳教育の歴史 (1) 教育勅語と修身教育						
4	道徳教育の歴史 (2) 社会科の新設と直面した課題						
5	道徳教育の歴史 (3) 道徳の時間「特設」から「特別の教科」へ						
6	日本人の人間関係と道徳教育、主体性をめぐる考察						
7	道徳性の発達について						
8	道徳教育方法・教材論 (1) 『私たちの道徳』						
9	道徳教育方法・教材論 (2) 読み物教材、伝達型教育法						
10	道徳教育方法・教材論 (3) 参加型教育法、様々なアクティビティによる道徳教育						
11	道徳の評価について、他教科との連携について						
12	現代社会と道徳教育						
13	道徳教育実践の検討 (1) 各学生による模擬授業 (Aグループ)						
14	道徳教育実践の検討 (2) 各学生による模擬授業 (Bグループ)						
15	道徳教育実践の検討 (3) 各学生による模擬授業 (Cグループ)、まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
中間試験	40	①講義内容を理解している。 ②道徳教育に対する意見を持っている。		模擬授業	40	①適切な授業観、児童観に基づいたテーマ設定、組み立て、教材準備等ができています。 ②教師役として授業を展開し、児童を指導することができる。	
リアクションペーパー	10	①授業を自分の言葉として捉えることができる。 ②与えられた質問や課題に即して回答している。		授業態度	10	①積極的に授業に参加している。	
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
授業で扱う教科書の該当箇所を毎回明示するので、予習復習をすること [30分] 道徳ないし道徳教育に関連ある報道に気を配ること (授業中に報告してもらう) [15分]。			中間課題やリアクションペーパーについては、次の会の授業でコメントを返す。模擬授業についてはその都度コメントする。				
受講生に望むこと	授業時間の中だけでなく、常日頃から、自らが教師として道徳の時間を担当した時の様子や教師が児童と関わる時の態度について、反省的に検討する姿勢を身に付けて欲しい。			教科書・テキスト	『道徳教育論』辻直人、ヴェリタス書房、2017年4月刊行予定、ISBN:未定		
指定図書参考書等	適宜授業中に紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	特別活動の研究		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	幸 聖二郎					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、学校生活の中での望ましい集団活動を通して、子どものさまざまなコミュニケーション能力を、どのようにして高めていくかを探究するものである。</p>			<p>学校生活の中で、他者とかかわるための方法や考え方をどのようにして身に付けさせるかを理解し、よりよい学校生活を創り出す方法を考えることができる。</p>			
教授方法	講義 グループディスカッション					
履修条件	小学校教諭免許希望者を対象とした科目である					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	「好きなことマップ」を作成し、交流し合う。					
2	特別活動の意義と教師に求められる資質、能力について理解する。					
3	望ましい集団とはどんな集団かを理解し、それを創り上げる手立てを話し合いから見つけ出す。					
4	特別活動の変遷を知り、その中の不易と流行を見つける。					
5	「学級活動」及び「児童会活動」の目標と内容を調べ、調べたことを交流し合い理解を深める。					
6	「クラブ活動」及び「学校行事」の目標と内容を調べ、調べたことを交流し合い理解を深める。					
7	構成的グループエンカウンターを学級活動に取り入れることの意義や目的について理解し、体験する。					
8	ソーシャルスキルトレーニングを学級活動に取り入れることの意義や目的について理解し、体験する。					
9	アイコンタクトゲーム及び拍手喝采ゲームを学級活動に取り入れることの意義や目的について理解し、体験する。					
10	ブックリスト交流会を学級活動に取り入れることの意義や目的について理解し、体験する。					
11	学級活動における話し合い活動の意義と目的について理解し、体験する。					
12	将来の夢を「宝地図」に表し、紹介し合う。					
13	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点及び特別活動と道徳との関連性について調べ、調べたことを交流し、理解を深める。					
14	生徒指導に生かす特別活動とは何かを理解し、予防開発型と、問題解決型のアプローチについて理解する。					
15	自分が担任になったつもりで、学級目標を考え、経営案をまとめる。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
レポート	40	本時の内容を自分の考えを入れてまとめて書けたか。		テスト	50	特別活動の内容を理解できたか
授業態度	10	真剣に話し合いに参加していたか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
各時間の内容ごとに、事前に自分の在学した学校の活動内容を想起しておく。[30分]				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中以外にもメール等で受け付ける。メールアドレスは、受講者に知らせておく。 ・毎回の授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 		
受講生に望むこと	望ましい集団作りに日頃から心がけてほしい。他の人とかかわりを大切に。			教科書・テキスト	学習指導要領 特別活動編 ISBN987-4-491-02379-3	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	生徒・進路指導論		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	幸 聖二郎・町田 健一（代表教員 幸 聖二郎）					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
テキスト・配布プリントをもとに講義を進め、生徒指導・進路指導の基本的な考え方や考え方について学ぶ。小・中接続連携を意識して、教師と児童・生徒という二つの視点から理解するために、自己の成長過程を振り返って課題レポートをまとめ、問題点を把握する。毎回の授業では、テーマに即した具体的な問題を取り上げて講義を行い、「事前の私の主張」をもとに、全体あるいはグループによるディスカッションを行う。多様な視点・価値観に気づくことで生徒理解を深め、講義内容と合わせて、毎回事前・事後の「私の主張」ミニレポートを書くことで、理解の定着を図る。			①「生きる力」に代表される生徒指導や進路指導の意義や目的を理解する。 ②生徒指導や進路指導における生徒理解の方法や、関わる際の留意点について理解する。 ③生徒指導は、すべての児童生徒が対象であることを理解する。 ④教師としての視点、児童生徒の立場の二つに立って、自己の問題として考えることができる。 ⑤生徒指導・進路指導いずれにおいても、地域や保護者、他機関との連携が不可欠であることを理解する。			
教授方法	講義とグループディスカッション					
履修条件	児童教育コースに所属していること。受講までに、プレ実習（学習支援員）などで学校現場を体験していることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：「生きる力」に求められるもの・学習指導要領における生徒指導・進路指導について、概要を把握する。					幸
2	生徒指導とは① 学校教育における生徒指導の意義と機能について理解する。					町田
3	生徒指導とは② 発達の視点から捉える（小学校期・中学校期）					幸・町田
4	生徒指導とは③ 基本的な生活習慣の形成・マナーときまりについて理解する。					幸
5	生徒指導とは④ 子どもの変化、個別的理解と集団理解 好ましい人間関係の構築について理解する。					幸
6	学校における生徒指導上の諸問題① いじめの特質と変化、携帯電話・インターネットの問題について理解する。					幸
7	学校における生徒指導上の諸問題② 学級崩壊・校内暴力・非行について理解する。					幸
8	学校における生徒指導上の諸問題③ 学校不適応・不登校・他機関との連携について理解する。					幸
9	学校における生徒指導上の諸問題④ 校則と懲戒、保護者対応・組織的対応について、理解する。					幸
10	進路指導とは：「生き方を問いつける学び」の助成 学校教育における進路指導の意義と課題を把握する。					町田
11	進路指導の現状と課題① 学校教育におけるキャリア教育とは何かを理解する。（小学校段階・中学校段階におけるキャリア教育を知る）					町田
12	進路指導の現状と課題② 進路選択、職業的発達理論、児童期・青年前期における性格検査・進路適性検査使用に関する諸注意について理解する。					町田
13	進路指導の現状と課題③ 職業観の形成、中途退学・ニート問題、多様な雇用形態の概要について理解する。					町田
14	進路指導の現状と課題④ 価値観形成・生き甲斐形成、キャリア教育の計画と実践（職場体験活動が目指すもの）について、具体的に理解する。					町田
15	進路指導の充実：開発的生徒指導の一環としての進路指導 「総合的な学習の時間」の活用と進路指導、組織的な指導と個別的な指導について、教師の指導性の観点から理解する。					町田
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
受講態度・授業参加状況	10	グループディスカッション参加		ミニレポート	30	毎回の「私の主張」
課題小論文①	30	①指示された書式・字数に従ってまとめている。 ②自分のテーマを設定し、それに沿って書いている。（詳細は授業内で説明）		課題小論文②	30	①指示された書式・字数に従ってまとめている。 ②自分のテーマを設定し、それに沿って書いている。（詳細は授業内で説明）
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①教育問題に関する新聞報道などを注意して読んでおく。[20分] ②授業で紹介した本をできるだけ読んでみる。[20分] ③生徒指導から連想する事例、自分が受けてきた生徒指導に関する小論文を作成する。（詳細は授業で説明する。）[30分] ④進路指導から連想する事例、自分が受けてきた進路指導について小論文を作成する。（詳細は授業で説明する。）[30分]				・質問は、授業中以外にも、メール等で受け付ける。メールアドレスは、受講者に知らせておく。 ・毎回の授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。		
受講生に望むこと	①学習支援員やボランティア活動などで、できるだけ小学生と触れ合う機会を持ち、教員がどのように児童とかかわっているかを観察するなど、学校現場を体験していること。 ②授業で学ぶ内容を意識しながら、学習支援員として参加することが望ましい。			教科書・テキスト	『生徒指導・進路指導の理論と実際』 河村茂雄編著 図書文化 改訂版3刷 2015年 ISBN 978-4-8100-1578-2	
指定図書参考書等	なし／『生徒指導提要』文部科学省 教育図書 2011年 ISBN 978-4877302740 / 『生徒指導資料第3集 規範意識をはぐむ生徒指導体制』東洋館出版社 2012年／『教師を目指す君たちへ』町田健一 キリスト教学校教育同盟 2004年／その他、授業内で提示する。			その他・特記事項	授業では関連資料を配布するので、各自ファイルに保管しておく。	

授業科目名	児童家庭福祉論Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	虹釜 和昭						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>児童家庭福祉の中における、愛着理論を中心に理解を深める。愛着とは人物が特定の他者との間（主に親子関係）に結ぶ情緒的絆とされており、この概念を提示した人物として、ボウルヴィがあげられる。これは特に発達心理学においては重要な概念であり、児童の健全な発達を果たす上において不可欠な要素である。今日の児童家庭福祉における重要課題である、児童虐待問題への対応など、子どもを取り巻く様々な課題について理解を深める。また、愛着理論をはじめとする、精神分析論（親子関係における）などにもふれ、社会的養護にかかる児童福祉施設に暮らす子どもの発達問題、特に環境要因にかかる発達障害についても理解を深める。</p>			<p>①愛着理論のあゆみを理解している。 ②ボウルヴィの愛着理論を理解している（「アタッチメント」と「愛着」の違い）。 ③社会的養護と愛着理論の関係を学ぶ。なぜ、愛着理論を学ぶ必要があるのかを理解している。 ④精神疾患としての愛着と環境要因の愛着を理解する。 ⑤愛着対象を喪失した子どもの心理について理解している。 ⑥発達障害としての児童虐待について、被虐待児の臨床像、脳科学の視点からの虐待児童などについて理解している。</p>				
教授方法	テキストを使用せず、配付資料や映像を用いた講義となるが、愛着について各自が課題を持ち、そのプレゼンテーションなども取り入れる。						
履修条件	「児童家庭福祉論Ⅰ」を履修済みであること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	アタッチメント研究のあゆみについて、フランス精神分析論からフロイトへの系譜を理解し、ホスピタリズム論争からボウルヴィの愛着理論の概要について学ぶ。						
2	ボウルヴィのアタッチメント理論から、愛着行動システム、コントロールシステム理論、愛着行動の発達段階、愛着パターンの個人差など愛着形成と発達について理解を深める。						
3	愛着研究の臨床発達の視点から、養育者自身の愛着外傷体験の未解決と混乱した養育行動の関係、愛着行動システムの崩壊のメカニズムなどについて学ぶ。						
4	社会的養護と愛着理論を学ぶ。社会的養護の現状と課題、我が国におけるホスピタリズム研究、論争、乳児院におけるホスピタリズム理論、愛着理論の受入などについて理解を深める。						
5	反応性愛着障害とアタッチメント障害の概念整理、精神疾患としての愛着と環境要因がもたらす愛着障害の比較、愛着研究の課題と臨床などについて学ぶ。						
6	愛着とトラウマについて学ぶ。トラウマ耐性と生育環境、子どものトラウマの特性、子どものトラウマ反応、外傷性ストレス障害などについて理解を深める。						
7	愛着対象を喪失した子どものころについて学ぶ。子どもの喪失体験が及ぼす心理的傷つき。愛着対象を喪失した子どもへの支援、回復過程などについて理解を深める。						
8	発達障害と愛着の関係について学ぶ。発達障害と愛着障害の複雑な関係、児童虐待の高リスク要因としての愛着障害、アスペルガー症候群と反応性愛着障害、虐待による多動性行動障害などについて理解を深める。						
9	発達障害としての児童虐待について学ぶ。被虐待児の臨床像、脳科学の視点からの虐待児童などについて理解を深める。						
10	発達障害としての愛着障害への治療などについて学ぶ。安全の確保と衝動コントロール、愛着障害を修復するための精神療法などについて理解を深める。						
11	児童虐待を受けた子どもが、社会的養護関係の児童福祉施設において表面化する愛着にかかわる問題行動について、事例などを通じて理解を深める。						
12	社会的養護における被虐待児養育の現状を学ぶ。						
13	社会的養護における被虐待児養育の課題とその要因を学ぶ。						
14	反応性愛着障害をかかえる児童の、生活場面における「治療的關係」の具体的展開について学ぶ。						
15	社会的養護の施設における、生活の中での愛着障害の臨床的理解、及びそのかわり方の実際。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末レポート	50	愛着理論を正確に把握し、児童問題にとって不可欠の理論であることを述べる。愛着理論体系から、その構成要素を明確にしている。		リアクションペーパー	50	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている自らの課題が設定されている。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
基礎となる学問領域は子ども家庭福祉、社会福祉学であるが、福祉実践に不可欠の心理学領域の講義内容も含まれているため、心理学関係学科目の学びと関連づけることが求められる。[30分]			最終講義において、提出課題の講評とより実践的な愛着理論の展開にかかるディスカッションから今後の課題を提示する。				
受講生に望むこと	愛着理論について、総合的に学ぶ。児童家庭福祉や教育を志す学生にとっては不可欠の理論、知識である。自らの力で愛着理論を咀嚼すること。			教科書・テキスト	テキストは使用せず、講義時配布資料を用いる。		
指定図書参考書等	『児童養護施設と被虐待児』 森田喜治著 創元社 2009年 ISBN 4-422-11380-1 『児童養護施設児の日常とこころ』 森田喜治著 創元社 2013年 ISBN 978-4-422-11571-9			その他・特記事項	学習に対して望むことなどあれば、伝えてほしい。		

授業科目名	相談援助技術			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	上野 千恵						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
現在、保育者には「保護者に対して保育に関する指導を行うこと」や「家庭や地域の様々な社会資源との連携」といった取り組みが求められている。こうした場面に対応できる実践力を身に付けることを目的として、社会福祉の直接援助技術並びに理論を学ぶ。				①相談援助の概要について理解する。 ②相談援助の方法と技術について理解する。 ③相談援助の具体的展開について理解する。 ④事例分析を通して、保護者理解ができるようになる。			
教授方法	個人及びグループでの演習と講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：講義内容の説明、保育士を目指す学生が相談援助技術を学ぶ意義を理解する。 (演習)「自分から他者へ一歩を踏み出すヒント」(保護者との気持ちの合わせ方を理解する。)						
2	講義：相談援助とは何か。エンパワーメントの理論や社会資源の利用という視点で学ぶ。 (演習)「人生に触れる重み」(保護者は過去・現在・未来のつながりの中にいることを理解する。)						
3	講義：事例検討「生活保護家庭」「障害児の母」より、保育現場における人権侵害について考察する。 (演習)「ドメスティックバイオレンス」(人権侵害に対する保育者の取り組みを理解する。)						
4	講義：事例検討「子どもの夜泣きに悩む母親」より、母親の思考方法と相談場面との関連性を考察する。 (演習)「他者に与える自分の印象について」(保育者自身を多面的に理解する大切さを理解できる。)						
5	講義：(医学モデル・エコロジカルモデル・ストレングスモデル)3つの相談援助モデルを理解する。 (演習)「コミュニケーション」(保育者の問題理解によって、介入方法も変わってくることを理解する。)						
6	講義：事例検討「虐待疑いの母親」より、相談援助の過程(プロセス)を理解する。学生の考える相談援助と、社会福祉的な観点での相談援助とを比較考察する。(過程(プロセス)を重視した援助の大切さを理解する。)						
7	ケースワーク① (講義・演習)：関係者との情報共有ツールであるマッピング法を学ぶ。(エコマップ・ジェノグラムが書けるようになる。)						
8	ケースワーク② (講義・演習)：事例「虐待疑いの家庭」より、アセスメント方法を理解する。(アセスメントシートを理解する。)						
9	ケースワーク③ (演習)：事例「虐待疑いの家庭」より、プランニングと関係機関との連携方法を理解する。(援助計画の立て方と、他機関との連携方法を理解する。)						
10	講義：感情労働である保育者と、燃え尽き症候群との関連性を学ぶ。 (演習)「ストレスコントロール」(自分の感情を客観視しコントロールする方法を理解する。)						
11	講義：3つの自己主張方法について、特徴や相手の反応、隠された感情などを理解する。 (演習)「私の自己主張方法」(他者と関わる時に不可欠な自己主張について、多面的に理解する。)						
12	講義：自分も相手も大切にしたい自己主張法を理解する。 (演習)「ざわざわした保育室」(保護者の前で自己主張をする時の方法を理解する。)						
13	グループワーク① 講義：相談援助におけるグループとは何か。ワーカーとして求められる姿を理解する。 (演習)「役割評価」(相談援助におけるグループを理解し、グループメンバーの見方を理解する。)						
14	グループワーク② 講義：グループを成長させるグループリーダーの話し方、雰囲気作りについて学ぶ。 (演習)「グループリーダーの話し方」(ワーカーによるメンバーへの傾聴技法の重要性と要点を理解する。)						
15	グループワーク③ 講義：グループ内での葛藤を、個人の成長につなげていく介入方法を学ぶ。 (演習)「話し合いの技法」(メンバー間の葛藤を、一人ひとりの成長につなげるための技術を理解する。)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	50	演習形式のため、遅刻及び授業参加意欲に欠けるとみられる場合は厳しく減点する。			大レポート	30	授業の演習を基に、文章で自己覚知を考察したものを評価する。授業振り返りが薄い、または持論を展開したレポートは評価が低くなる。
小レポート	20	毎回の授業内容が理解できているか、また演習から自己洞察を述べてあるかを評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①授業で学んだコミュニケーション技術を基に、自分が他者とどのようにコミュニケーションをしているかを振り返る。(毎回の授業後、日常生活の中で実践する。) ②授業に関連する部分のテキストを、授業後読んで理解する。[30分]				①大レポートのテーマは、授業中に発表する。 ②小レポートは毎回コメントをつけて返却する。 小レポートは大レポートの資料となる。			
受講生に望むこと	この科目は、保育士を目指す学生を対象とする内容となっており、保育事例検討のグループ討論も多く含まれています。黙って座っている態度は評価が低くなります。事例検討や演習に対して、各人の積極的な参加を強く求めます。			教科書・テキスト	『保育者のための相談援助』小林郁子他共著 萌文書林 2011年 ISBN:978-4-89347-162-8		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	適宜プリント配布。プリントと小レポートは、大レポート作成に必ず必要なので、各自整理しておくこと。		

授業科目名	子どもの保健Ⅱ			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	北川 節子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>保育所や児童福祉施設など子どもの生活を支援する場では、安全な環境と保健的な活動が養護や教育の基本となります。そのため子どもの身近にいる保育士は、保健・安全について確かな知識と技術をもって保育をする必要があります。ここでは「子どもの保健Ⅰ」の知識を基に、保育所や児童福祉施設における保健・安全の活動に関する具体的な対応の方法や管理について学んでいきます。</p>				<p>①保育における保健活動の概要を理解し保健計画立案の基礎的能力を養う。 ②子どもの健康増進のための養護の技術を習得する。 ③子どもの疾病の適切な対応方法を習得する。 ④子どもへの健康・安全教育を考える。 ⑤保育における健康管理、安全管理について理解する。 ⑥災害予防と危機管理の方法を理解する。</p>			
教授方法	講義・演習						
履修条件	「子どもの保健Ⅰ」を履修済みまたは履修中であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 保健活動の計画と評価① 保育保健活動の概要を理解し、保健計画を立案する。						
2	保健活動の計画と評価② 保健に関する個別対応と集団への健康、安全、衛生管理について理解する。						
3	子どもの保健と環境① 保育における保健の位置づけと望ましい保健環境を理解する。						
4	子どもの保健と環境② 健康増進のために生活リズム、排泄、清潔、衣服について考える。						
5	子どもの保健と環境③ 乳児の抱き方、寝かせ方、おんぶの仕方、おむつ交換の方法を習得する。(演習)						
6	子どもの保健と環境④ 乳児の沐浴、衣服の交換の方法を習得する。(演習)						
7	子どもの保健と環境⑤ 調乳、授乳、歯磨き、うがいの方法を習得する。(演習・講義)						
8	子どもの疾病と対応① 手洗いとおう吐物処理の方法を習得する。(演習)						
9	子どもの疾病と対応② 身体の体温、脈拍、呼吸測定、身体各部の計測と包帯法の基礎を習得する。(演習)						
10	子どもの健康・安全教育① 子どもへの健康・安全教育の意義を理解し、指導案を立てる。						
11	事故防止と健康管理・安全管理① 保健活動の実施体制と子どもの救急時の対応を理解する。						
12	事故防止と健康管理・安全管理② 乳幼児の心肺蘇生法と異物除去の方法を習得する。(演習)						
13	事故防止と健康管理・安全管理③ 子どもに起こりやすい事故の応急処置の方法を理解する。						
14	事故防止と健康管理・安全管理④ 保育現場における事故・災害発生時の危機管理の重要性と方法を理解する。						
15	子どもの健康・安全教育② 子どもへの健康・安全教育を共有し、効果的な方法を考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
課題レポート	20	「保健計画」「健康・安全教育」について実施。既習内容を生かしているか、工夫されているか。			定期試験	50	基本的な知識を理解しているか。
演習レポート	30	5,6,7,8,9,12回の演習について記述。使用物品、手技、注意について理解しているか、経験を通して学んだことが書かれているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前学習：指定した範囲の教科書を読む。DVDを授業前に視聴する。演習レポートは演習後、復習を兼ねて記載し、知識・技術を身に付けるようにする。				課題レポート、演習レポートはコメントをつけて返却する。優秀な作品は発表の機会を作り、共有する。			
受講生に望むこと	・「子どもの保健Ⅰ」が履修済みであること。 ・演習活動は保育現場を想定して実施するので、服装、容姿を整えて参加すること。			教科書・テキスト	佐藤益子編「子どもの保健Ⅱ」ななみ書房 2017年2月 ISBN：978-4-903355-63-4		
指定図書参考書等	参考書等「園児の健康教育」「改訂版 親と子の健康教育」「すぐ使える健康教育」「保育のなかの事故」「新・保育のなかの保健」「保育現場のための乳幼児保健年間計画実例集」「やるべきことがすぐわかる 今日から役立つ保育園の保健のしごと」			その他・特記事項	なし		

授業科目名	子どもの食と栄養			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	中村 喜代美・宮丸 慶子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>子どもの食生活は、多様化する社会の中で複雑化し、夜型生活・欠食・孤食・個食など多くの問題を抱えている。幼児期の生活習慣は成人になっても影響することが多く、食事・運動・睡眠のバランスを見直す必要がある。保育にかかわる者は、正しい知識をもち、子どもたちにわかりやすく伝える必要がある。そこで、「食」の大切さを講義・実習・演習をとおして学び、さらに「食育」を理解し、実践へと結びつける。</p>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活を基本とした食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解している。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深めている。 3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのなかのなかで理解している。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解している。 5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解している。 			
教授方法	演習（講義、実習、演習を行う）						
履修条件	2年次までに開講された保育士に関する科目を履修済みであることが望ましい。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	子どもの健康と食生活の意義（子どもの心身の健康と食生活の関わりを理解する。また、子どもの食生活の現状を知り、課題を考える。）						宮丸
2	栄養に関する基本的知識①（基本的な栄養の概念と栄養素の種類、その働きを理解する。）						宮丸
3	講義 調理・栄養の基本的知識を理解する。実習1 調乳（無菌操作法）、冷凍母乳の扱い方を理解する。実習2「授乳・離乳の支援ガイド」における生後5.6ヶ月頃の離乳食の調理形態・食事量の目安を把握し、適した調理法や食材の扱い方を理解する。						中村
4	栄養に関する基本的知識②（食事提供に必要な栄養量や献立、調理の基本を理解する。）						宮丸
5	子どもの発育・発達と食生活（乳児期の授乳・離乳の意義、幼児期、学童期の心身の発達と食生活の関わりを理解する。また、食生活の生涯発達への重要性を理解する。）						宮丸
6	実習3 離乳食7.8ヶ月頃、離乳食9～11ヶ月頃：「授乳・離乳の支援ガイド」における離乳各期の調理形態・食事量の目安を把握し、適した調理法や食材の扱い方を学ぶ。						中村
7	食育の基本と内容①（食育の意義を理解する。特に養護と教育の一体性を学ぶ。また食育の内容と計画及び評価の仕方、環境、諸機関との連携、職員間との連携を考える。）						宮丸
8	食育の基本と内容②（食育と環境の関わり、諸機関との連携、職員間との連携を学び、食生活指導及び食を通じた保護者への支援を考える。）						宮丸
9	実習4 保育所（児童福祉施設）における給与栄養目標量を学び、調理法、切り方、食事量を理解する。また、間食の目的・必要性、適した食物や量、与え方を理解する。また、食育研究発表会に向けてグループ討論を行う。						中村
10	家庭や児童福祉施設における食事と栄養（家庭における食事と栄養、児童福祉施設における食事と栄養を理解し、その関わりを考える。）						宮丸
11	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（疾病及び体調不良の子どもへの対応、食物アレルギーや障害のある子どもへの対応を理解する。）						宮丸
12	実習5 摂食障害児給食（障害者施設）：発達段階を考慮した調理形態を学び、最も適した食物の提供と介助を会得する。また、食育研究発表会に向けてグループ討論を行う。						中村
13	食育計画（1） 前回までのグループ討論での意見や目指す子供の姿を考慮し、食育研究発表会に向けて食育計画をまとめる。						中村
14	食育計画（2） 食育研究発表会に向けて媒体作り、劇の練習、また子供達とのやり取りなどを考える。						中村
15	食育研究発表 A・B、全員で研究発表会を行う。						中村、宮丸
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
単位認定試験	宮丸40	宮丸：授業内容をどれだけ理解しているか。			授業参加状況とレポート提出	宮丸10	宮丸：復習・予習の小レポートはポイントが押さえられているか。授業への取り組み姿勢
授業参加状況とレポート提出	中村30	中村：講義ノート、実習レポート、栽培記録とレポート提出。（テーマに沿ったものであるか。字数不足・書き違反の場合は0点とする。）調理実習の取り組み姿勢（態度・積極性）含む。			食カードと研究発表会の参加レポート提出	中村20	中村：食品カード作成 中村：研究発表会に向けて作った媒体・食育計画・レポートを提出。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<ol style="list-style-type: none"> ① 毎回の講義前には、2年次で履修した「子どもの保健ⅠB」で学んだ箇所をテキストを読んで必ず復習する。〔30分〕 ② 初回授業に「子どもの食と栄養授業の予定表」を配布するので、小レポートを利用して教科書の復習・予習をして授業に臨む。〔40分〕 ③ 実習のレポートは、講義のテーマに則し、指示通り実習を行う事が出来たかを振り返り、また次に生かす事を考えて書く。〔1時間～2時間〕 ④ 家庭では食事の準備（野菜を切る）、食事作り、後片付けを積極的に取り組む。〔週2回〕 				<p>宮丸（講義） 授業開始時に小レポートにより前回の復習を行い、次いで予習部分を取り入れながら授業を展開する。次回に返却する。 中村（実習） プリント（ノート）に講義内容、実習時の振り返りを記載し実習後提出。当日4時頃までに返却（教）。 ・レポートは実習後（木曜）までに提出（教）。実習時に返却する。提出期限は厳守し、返却されたレポートは保管する。食品カード作成、栽培記録等はその都度連絡する。</p>			
受講生に望むこと	① 子どもの食と栄養は将来のある子どもが健やかな成長ができるように学ぶと同時に、保育の仕事に関するとても重要な学びである。まず、自分自身がそれにふさわしい生活管理、食事管理を実践することを希望する。 ② 調理実習では朝食を取って出席し（遅刻厳禁）、グループの仲間と積極的に取り組む。			教科書・テキスト	宮丸：改訂『子どもの食と栄養』新保育士養成講座編集委員会編 全国社会福祉協議会発行 2013年 ISBN978-4-7935-1092-2 中村：プリントによる実習		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	中村：開講前に調理実習費を払うこと。（調理実習費を払っていない者は実習に参加することは出来ない。）		

授業科目名	家庭支援論		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	虹益 和昭						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>子育てと家族・家庭に焦点をあて、子どもが育つ場所としての位置づけを理解する。そのうえで、家族・家庭の動向について、急速な少子高齢化による家族の危機的状況に対する支援方法を理解する。そうした社会環境の中、子育て意識の変化、子育ての困難、負担感、不安感をいなく家庭を支援する「子育て支援機能」が保育所の重要な機能であることを学ぶ。保育所の中心的機能の位置づけられた家庭支援の具体的な展開、保育所の社会的責任を確認し、子育て家庭支援の政策動向を学ぶ。また、特別なニーズを持つ家庭である「育てにくさや障害のある子ども」、「乳幼児虐待対応」、「ひとり親家庭」、「ステップファミリー」、「異文化家族」などへの具体的な支援方法を理解する。地方自治体における子育て支援施策の実践例を理解する。</p>			<p>①家庭の意義とその機能について理解している。 ②子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解している。 ③子育て家庭の支援体制について理解している。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解している。</p>				
教授方法	講義及び提示課題によるグループディスカッション						
履修条件	「児童家庭福祉論Ⅰ」を履修済みであること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	家族・家庭とは何か、家族・家庭の定義と社会制度としての家族・家庭、その意義などを理解する。						
2	現代家族・家庭と社会、家族・家庭の変容と社会的要因を考察し家族・家庭機能の変化の理解する。						
3	現代の家族・家庭関係（夫婦・親子・兄弟など）構造理解と、地域との関わりを考察する。						
4	地域における子育て支援の意義と活動を理解し、保育所の子育て支援実践例を学ぶ。						
5	子育て支援サービスの現状と課題を保育サービスや要保護児童の観点から学ぶ。						
6	子育てに対する相談支援活動を、ソーシャルワークの視点から考察する。						
7	子育て家庭の福祉を図るための社会資源について、その具体的な機関、実践内容などを学ぶ。						
8	家族・家庭支援の意義と目的について、現代の子育て環境と子育て支援の必要性を学ぶ。						
9	次世代育成支援対策について、国の取り組みや地方自治体の取り組みを学ぶ。						
10	子育て支援サービスの展開などについて、諸外国の実践事例を学ぶ。						
11	保育・養護現場と関係機関の専門職とそのネットワークを理解する。						
12	子ども虐待の現状と早期発見など予防策を学ぶ。保育所における虐待を受けた子どもと親への支援事例から、その対応と関係機関との連携を学ぶ。						
13	保育所における「虐待を受けた子ども、親への支援事例」から、その対応と関係機関との連携を学ぶ。						
14	保育所における虐待対応とその具体的方策、留意すべきことなどについて理解する。						
15	家族・家庭支援事例とその考察を行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート課題	50	課題内容を正しく理解し、自らの考え方を理論的に表現できている。家族支援における基本的事項が記載され、今後のあり方などについて言及されている。		リアクションペーパー	50	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている。自らの課題が設定されている。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
保育所・認定こども園における保護者支援を中心に学ぶ学科目である。実習園及び地域の保育所・認定こども園で行われている、具体的な子育て支援サービスについてまとめる。また、子ども・子育て支援法に規定されている「地域子ども・子育て支援事業」を調べ、その内容をまとめる。〔30分〕			期末レポートの講評、評価視点などについて、プリントを配布による伝達を行う。				
受講生に望むこと	自らが保育や教育現場において、家族支援を行うことを想定し、講義を受けていただきたい。		教科書・テキスト	テキストは使用せず、講義時配布資料を用いる。			
指定図書参考書等	なし／家庭支援論、新保幸男・小林理編著、ミネルヴァ書房、ISBN 978-4-8058-5213-2		その他・特記事項	学習に対して望むことなどあれば伝えてほしい。			

授業科目名	乳児保育 I		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	熊田 凡子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
乳児期は、人間形成の基礎ができる重要な時期である。この時期に乳児の個人差に応じて保育できるよう、低年齢児の保育の概念と意義を学び、成長や発達の特徴を理解する。また、乳児保育が担う社会的意味及び保育現場における乳児保育の課題について討議し考察する。			①乳児保育の意義、基本的視点について理解している。 ②乳児期の成長・発達の特徴を理解し、生活のあり方を考えることができる。 ③乳児保育における家庭支援を理解している。 ④実際の関わりを通して、乳児保育の実践計画を立てることができる。				
教授方法	講義、グループワーク						
履修条件	保育士資格取得希望者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	乳児保育の意義、および基本的視点について理解する。						
2	おおむね6ヶ月未満児の発達と保育内容を学び理解する。乳児人形を用いて、関わり方を実践から学ぶ。						
3	おおむね6ヶ月から1歳3ヶ月未満児の発達と保育内容を学び理解する。乳児人形を用いて、関わり方を実践から学ぶ。						
4	おおむね1歳3ヶ月から2歳未満児の発達と保育内容を学び理解する。乳児と実際に触れ合うことによって学ぶ。						
5	おおむね2歳児の発達と保育内容について学び理解する。実際の関わりを通して学ぶ。						
6	乳児の養護にかかわるねらいと内容について学ぶ。「赤ちゃん・サロン」の事例より。						
7	3歳未満児の保育に関わる配慮事項「健康」面について乳児保育の視点から理解する。乳児人形を用いた実践。						
8	3歳未満児の保育に関わる配慮事項「安全」面について乳児保育の視点から理解する。乳児人形を用いた実践。						
9	乳児保育の発展の経緯と保育制度について理解する。「歌遊び」・「触れ合い遊び」の実践。						
10	子育て家庭への支援について学ぶ。(保育所・幼稚園・地域・大学における実際より。)						
11	保育の記録と自己評価について学ぶ。個別記録・デーリープログラムについて考える。						
12	乳児保育の保育方法(担当制、職員間の連携)について理解する。実際について調べる。						
13	乳児と遊びの環境(玩具・絵本・歌)について学び、計画する。						
14	乳児保育の計画と実践を学ぶ。実践に向けての準備を行う。						
15	乳児保育の実践計画を立てる。シミュレーションを行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	40	授業への取り組み姿勢		課題	30	課題の提出状況と内容	
臨時試験	30	乳児保育についての理解(演習・筆記による)					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
乳児保育を計画し、それに応じた教材を作成する。[120分] 歌遊び・ふれあい遊びのバリエーションを考える。[120分]				前回授業の振り返り実演及び、保育場面演習(おむつ替えや散歩)の練習成果、発表に対して助言する。			
受講生に望むこと	保育者を目指す学生として、乳児期を保育の原点として捉えるよう努めてください。			教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『養成校と保育室をつなぐ理論と実践—新訂 見る・考える・創り出す乳児保育』(社)あゆみ福祉会茶々保育園グループ編 明文書林 2016年 ISBN978-4-89374-197-0 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレバ館 2008年 ISBN978-4-577-81242-6 		
指定図書参考書等	なし/授業の中で随時紹介する。			その他・特記事項	「保育実習指導Ⅰ」、「子どもの保健Ⅱ」、「子どもの食と栄養」の授業と関連付けを行う。欠席した場合は、必ず欠席回の授業内容を自己学習し提出する。		

授業科目名	乳児保育Ⅱ			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	熊田 凡子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
乳児期は、人間形成の基礎ができる重要な時期である。この時期に乳児の個人差に応じて保育できるよう、低年齢児の保育の概念と意義を学び、成長や発達の特徴を理解する。また、乳児保育が担う社会的意味及び保育現場における乳児保育の課題について討議し考察する。				①乳児期の発達理解に基づいた保育の実践計画及び記録を考えることができる。 ②乳児保育における子どもの生活と遊びを理解している。 ③乳児期の子育て支援について、今日的課題を考えることができる。 ④実践を通して、乳児保育の今後の展望を見出すことができる。			
教授方法	講義、グループワーク						
履修条件	乳児保育Ⅰを履修(単位修得)済みが望ましい。保育実習Ⅱを履修する学生は、履修しておくことが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	子ども理解に基づいた保育について、保育実習Ⅰ(保育所)の保育記録から考える。ピアジェの理論から学ぶ。						
2	保育所での一日の生活をプランする。「心地よく」を中心に考え、生活場面を実践する。						
3	乳児保育と保健衛生および安全について理解する。乳児人形を用いた実践。						
4	乳児期の食事について理解する。介助の方法を実践を通して学ぶ。						
5	乳児保育実践を生かした子育て支援を学ぶ。大学における実践「赤ちゃん・サロン」より。						
6	乳児と遊び—手作りおもちゃ課題研究の発表を行う。保育場面を設定し実際に学び合う。						
7	乳児と遊び—手作りおもちゃ課題研究の発表を行う。具体的に個々の関わりをシミュレーションする。						
8	乳児の遊びを実践する。「歌遊び」「模倣遊び」「やりとり遊び」「ふれあい遊び」の実践から学ぶ。						
9	乳児保育の計画を実践する。具体的に保育形態や保育場面等を提示した上で、シミュレーションする。						
10	乳児保育の計画を実践する。保育者の配慮に着目し、表情や口調および動作や振る舞い方を捉える。						
11	乳児保育における保育者の配慮とは何か、なぜ必要かを理解する。子ども理解の視点から考える。						
12	乳児保育の計画を改善する。養護と教育の視点を捉える。						
13	実際の保育記録から自己評価を行う。自己の課題を見出す。						
14	乳児保育における現代的課題を考える。保育所・認定こども園等における保育現場の事例より。						
15	乳児保育の今後の展望を見出す。子ども・子育て新制度における乳児保育のあり方について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	40	授業への取り組み姿勢			課題	30	課題の提出状況と内容
臨時試験	30	乳児保育についての理解(演習・筆記による)					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>本学の育児支援活動「赤ちゃん・サロン」に参加し(10月～2月)、保育計画を実践する。[60分]</p> <p>手作りおもちゃ課題研究を行う。乳児保育における遊びを準備する。[120分]</p>				<p>保育場面実演(触れ合い遊び・歌遊び等)に対する助言。</p>			
受講生に望むこと	保育者を目指す学生として、乳児期を保育の原点として捉えるよう努めてください。			教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『乳児保育[新版]新保育ライブラリ保育の内容・方法を知る』増田まゆみ編 北大路書房 2014年 ISBN978-4-8628-2843-0 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館 2008年 ISBN978-4-577-81242-6 		
指定図書参考書等	なし/授業の中で随時紹介する。			その他・特記事項	「保育実習指導Ⅱ」の授業と関連付けを行う。欠席した場合は、必ず欠席回の授業内容を自己学習し提出する。		

授業科目名	保育カウンセリング			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	上野 千恵						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
近年社会情勢の変化と共に、人の生き方が大きく変化し、保育家庭のあり方や抱える問題も多様になってきている。保育者には、そうした保育相談の多様性に対応できる支援技術が求められている。そこで当授業では、「社会福祉」「相談援助技術」での学びを踏まえ、子どもの健やかな育ちを目指した保育相談支援の理論と技術を学ぶ。				①保育相談支援の意義と原則について理解している。 ②保護者支援の基本を理解している。 ③保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解している。 ④保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解している。			
教授方法	個人及びグループでの演習と講義						
履修条件	「相談援助技術」を履修済みであること。「保育実習Ⅰ」、「幼稚園教育実習Ⅱ」を履修中または履修済みであること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：「社会福祉」「相談援助技術」との関係や、保育相談支援の意義を確認する。 (演習)「話を聴く姿勢」(保育相談とカウンセリングとの関係を理解する。)						
2	(事例検討 演習)：「大切にしたい子どもの思い」「保育所で育てる-子どもの生活を支える」(子どもの最善の利益への取り組み方や、特定の家庭に特別な配慮をする場合の注意点を理解する。)						
3	講義：守秘義務について具体的事例より考える。連絡帳の書き方事例を用いて、信頼される保育者のコミュニケーション方法や「信頼を失わせる事故」について解説する。(全国保育士会倫理綱領を再確認する。)						
4	講義：苦情申し立て制度について説明する。事例検討「親の人生シナリオ」「支えられて親も育つ」より、保護者も子育てを通して成長していくことを理解する。(保護者支援の際の保育者のあり方を理解する。)						
5	講義：事例検討「乳児の夜泣き」より、親の性格と育児行動の関わりを理解する。その上で「虐待の世代間伝達」という考え方について全体で考える。(保育者が親を受け入れるということについて理解する。)						
6	講義：(医学モデル ストレングスマodel)について学ぶ。保育者が保護者に共揺れを起こす時の対処法について理解する。 (演習)「保育者自身を活かす」(保育者自身が親の問題解決の道具であることを理解する。)						
7	講義：保育相談を効果的に行える場所の設定方法(場所、日時、相談にかかる時間等)について学ぶ。 (演習)「親とゆっくり話せない時」(忙しい中で保護者の信頼を得る方法について理解する。)						
8	(演習)「先生、うちの子寝ないんです」全体ロールプレイを基に、相談援助の課程(プロセス)を解説する。(保育相談支援のプロセスの中で、保育者が保護者に対して行う具体的な声掛け方法について理解する。)						
9	(講義 演習)：「他機関との連携」連携機関の機能についてグループで再確認し、連携時の注意点を学ぶ。 事例検討「保護者に無視される」(他機関連携を理解する。相談を求めない人への関わり方を理解する。)						
10	(演習)「ノンバーバルコミュニケーション」グループで、お互いの聴く姿勢について観察・評価しあう。(話を聴くときの自分の態度を他者からの意見、他者との比較の中で理解する。)						
11	面接の技術① (演習 講義)：話しやすい雰囲気を作り方を考える。ノンバーバルコミュニケーションの磨くポイントについて解説を聞いた上で、実際にやってみる(ノンバーバルコミュニケーション力を高める。)						
12	面接の技術② (演習 講義)：傾聴の言葉かけの解説を聞く。ノンバーバルコミュニケーションも意識しながら、傾聴の言葉かけをやってみて、グループで観察・評価しあう。(傾聴技法とは何かを理解できる。)						
13	面接の技術③ (演習 講義)：保育相談の教事例の中から、自分が選んだ事例について個人で場面設定を行う。その事例を使って傾聴を行う。(傾聴技法を基にした保育カウンセリングを理解する。)						
14	面接の技術④ 講義：親の要望をどう受け止めるか、苦情解決に向けた取り組み方法を学ぶ。 (演習)「保育者になりきる」自分が実習等で体験した事例を使って、保育カウンセリングを行う。						
15	(演習)「保育相談を受けてみよう」講師が保護者役となり、保育カウンセリングの全体セッションを行う。(授業全体の総括。及び、保育者は「親の人生の同伴者である」ということを理解する)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	50	演習形式のため、遅刻及び授業参加意欲に欠けるとみられる場合は厳しく減点する。			大レポート	30	事例をよく読み、授業のポイントを踏まえてまとめるレポートを評価する。授業に触れず持論を展開するレポートは評価が低くなる。
小レポート	20	毎回の授業内容が理解できているか。又、演習から自己洞察を述べてあるかを評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①授業に関連する部分のテキストを、授業後読んで理解する。[30分] ②授業で学んだ傾聴の技法は実際に使ってみること(授業後、日常生活の中で実践する。)				①大レポートの課題は、後半の授業中に発表する。授業の内容を理解した上で、事例検討を行う内容となる。 ②小レポート全員に対し、毎回返却はしないが、内容について個別にコメントをしたり、授業内容に反映させる等を行う。			
受講生に望むこと	「相談援助技術」に引き続き、演習形式の講義です。「相談援助技術」学んだコミュニケーション技術を、この授業では保育場面に特化して、さらに深化させていきましょう。			教科書・テキスト	『演習 保育相談支援』 小林育子著 萌文書林 2013年 ISBN978-4-89347-186-4		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	適宜プリント配布。プリントは大レポート作成に必要なので、各自で整理しておくこと。		

授業科目名	社会的養護内容			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
社会的養護について理解を深めることを主な内容とする。家庭に代わる養育の場としての「児童養護施設」、「乳児院」、「児童自立支援施設」、「情緒障害児短期治療施設」、「母子生活支援施設」における具体的な養護内容を理解する。こうした施設入所に至った要因としての児童虐待や家族問題の背景に焦点をあて、家族病理や社会病理の視点から、現代の社会的養護の課題を明確化するとともに、子どもの権利擁護という視点からその家族再統合（家庭復帰や家族関係の再構築）の方途などについて考察する。				①社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に理解している。 ②施設養護及び他の社会的養護の実際について理解している。 ③個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援方法、治療の支援方法、自立支援等の内容について具体的に理解している。 ④社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法論と及び技術について理解している。 ⑤社会的養護を通して家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉、司法福祉などについて理解している。			
教授方法	ケースを読み込み、そのケースについて、提示課題によるグループディスカッションを中心とした演習とする。						
履修条件	保育士資格取得希望者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	社会的養護の大枠を理解し、社会的養護関係施設にて暮らす子どもの心理的特徴を理解する。						
2	施設養護の特性及びその実際を学び、ホスピタリズム理論と現代の児童養護の課題を検証する。						
3	社会的養護のあゆみ、特に石井十次、留岡幸助の実践から学ぶ。						
4	乳児院の養護実践から、その課題とあり方について、事例を通して学ぶ。						
5	児童養護施設の養護実践から、その課題について、事例を通して学ぶ。						
6	児童養護施設の養護実践から、その対応について、事例を通して学ぶ。						
7	児童自立支援施設の養護実践から、その課題とあり方について、事例を通して学ぶ。						
8	情緒障害児短期治療施設の養護実践から、その課題とあり方について、事例を通して学ぶ。						
9	母子生活支援施設の養護実践から、その課題とあり方について、事例を通して学ぶ。						
10	社会的養護と心理治療の関係について学ぶ。						
11	施設保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用を学ぶ。						
12	リービングケア、アフターケアなど、児童の自立へのプロセスを学ぶ。						
13	里親の今日的課題を学び、施設養護との対比からその特徴、問題点を理解する。						
14	被措置児童等虐待（施設内虐待）の現状と発生要因を学び、その対応、予防を学ぶ。						
15	自立支援計画とアセスメントについて、その策定と運用の実際について学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末レポート	70	児童養護施設、乳児院などの社会的養護の実践現場の課題を明確に記載し、その今後のあり方などを論述すること。			リアクションペーパー	30	毎回の演習内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている自らの課題が設定されている。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
社会的養護関係施設である「児童養護施設」「乳児院」「児童自立支援施設」「情緒障害児短期治療施設」「里親」の目的・機能・養育内容について、入所児童の特徴、環境の違いなどを比較を行いまとめる。また、厚生労働省が提示している最新の「児童養護施設運営指針」「乳児院運営指針」をインターネットで検索し理解しておく。[30分]				期末レポートの講評、評価視点などについて、施設実習指導などを通じて総括を行う。			
受講生に望むこと	現代の家族問題から社会的養護の抱える問題を自ら発見する姿勢を期待したい。積極的なディスカッションへの参加と能動的な学びを求める。			教科書・テキスト	『社会的養護とこどものこころ』、虹釜和昭著、北陸学院大学臨床心理学リエゾンブック、2012年 ISBNなし		
指定図書参考書等	『児童養護施設と被虐待児』 森田喜治著 創元社 2009年 ISBN 4-422-11380-1 『児童養護施設児の日常とこころ』 森田喜治著 創元社 2013年 ISBN 978-4-422-11571-9			その他・特記事項	学習に対して望むことなどあれば、伝えてほしい。		

授業科目名	幼稚園教育実習指導Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	大井 佳子・向出 圭吾 (代表教員 大井 佳子)						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
幼稚園教育実習Ⅱにかかわる事前・事後の実習指導で、幼稚園教育実習Ⅰを履修後、ガイダンスとプレ実習に参加して本科目を履修する。プレ実習では実習園の保育の流れを知るとともに、自らが用意した遊びのプランと自ら製作した教材で園児とかわることを通じて実習園の環境と遊びの特徴、さらに園児の状況を理解する。その理解を前提に、本科目では、保育内容の各科目等での学びを総合的に活用して15日間の指導計画を作成する。実習園との協議を含めて指導計画を練り、教材をつくりなおす準備の取り組みを通して、園における自身の動きを具体的にイメージする。実習開始前に、実習園より提示された課題を含め、予定される全ての活動について、環境図・時系列表記・教材研究(写真を含む)からなる指導計画に書くことによって実践内容を視覚化し、自らの指導計画を俯瞰してそれぞれの活動のねらい(予想される学びの内容)を明確にして実習に臨む。実習後は自己評価と実習報告会を通して自らの現場での姿を振り返り、保育者としての自己課題を明らかにする。			事前指導 ①実習園の保育の流れと園児の状況をふまえ、対象年齢の発達に合った遊び(活動)を考えることができる。 ②実習開始以前の実習園との事前協議において自らのプランについて伝え、協議することができる。 ③プランを練り直し充実させることができる。 ④「連続した指導計画」の意味を理解し、5日間の指導計画に展開することができる。 ⑤「連続した指導計画」の意味を理解し、指導計画にねらいを設定することができる。 ⑥幼稚園教育要領の提示保育内容を理解し、指導計画にねらいを設定することができる。 ⑦教材研究によって、幼児の心が動く教材を工夫、製作することができる。 事後指導 ①自らの実践を自己評価し、保育者としての自らの課題を明確にすることができる。 ②自らのプランや計画、実践を他者にわかりやすく伝えるために工夫することができる。				
教授方法	グループワーク・グループ協議・発表・実演						
履修条件	幼稚園教育実習Ⅰを単位修得済みで、ガイダンス・プレ実習に参加していること。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	プレ実習記録を用いてグループ協議し、プレ実習を振り返る。幼稚園教育実習Ⅱに向かう自らの目標を明らかにし、実習までの日程を計画する。自らの「こだわりの素材」をみつけ、必要量を確保する計画をもつ。					全員	
2	グループワーク：実習園の園環境と子ども集団をイメージして、工夫のある視聴覚教材を用い、空間の活用を考慮した「お話パフォーマンス」を計画する。その教材を用いた遊びのプランを複数もつ。					全員	
3	グループワーク：用意した視聴覚教材を生かしてグループでEnjoy!ミッションでの「お話パフォーマンス」の指導計画を作成する。					全員	
4	Enjoy!ミッションでの実演で参加者とかかわり、得た気づきから実習園で用いるために教材と指導計画をつくりなおす。					全員	
5	各自が核と考える遊び(から)の15日間の展開を中心にして、お話パフォーマンスや実習園から提示されている実習課題を組み込んだマップを作成する。					全員	
6	個々の指導計画の充実を重ね、活動のねらいを設定する。そのねらいは、園のクラスの目標や個人の目標と齟齬をきたさないかを検討する。					全員	
7	実習園との協議を経て、15日間の連続した指導計画をつくりなおし、あらたな教材やプランの作成など必要な準備物を明らかにする。					全員	
8	それぞれの指導計画を完成させる。実習に必要なことがらをチェックし、足りないことを補う計画を立てる。					全員	
9	直前指導で、事後レポート課題と実習評価について理解し、本実習の自己目標と自己課題を再構成する。					全員	
10	実習期間の土曜日：自らの実習記録からの読み取りを通じて、次週の実習計画を見直し、必要な準備を確認する。					全員	
11	実習期間の土曜日：指導計画を実践しての報告をグループでし、巡回教員からの報告を受けて自らの指導計画の精緻化を図る。必要な次週の準備を確認する。					全員	
12	グループで行う実習報告会に向けて、実習記録と事後レポートに基づく実習の振り返りを行う。					全員	
13	実習報告会準備を通じて、実践を通じての気づきをグループメンバーで共有し、自らの振り返りを深める。					全員	
14	実習報告会(教材展示・実習ファイルの閲覧を含む)：次年度の実習履修者に伝えることを通じて、本実習のみならず、これまでの保育者に向かう自らの学びを振り返る。					全員	
15	履修カルテを用いて、保育実習や小学校実習など、今後それぞれが向かうものに対する自己課題を明確にし、さらに、卒業までの自らの学びを計画する。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
指導計画	30	15日間の実習にふさわしい量と内容の計画が、ねらいをもって、連続した展開で立案されているか。		教材準備	30	遊びの展開と応答性をイメージした教材か。工夫してていねいに作られているか。材料や道具を考え用意しているか。	
参加姿勢	30	グループ協議など授業時間外を含むグループワークに積極的に参加し集団での学びに貢献したか。		事後課題	10	報告会準備と事後提出物に、実習後の振り返りで得た自己課題が反映されているか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
遊び(活動)のプランの作成・Enjoy!ミッションでのパフォーマンスのための準備・指導計画の立案とつくりなおし・教材研究をふまえた教材製作とそのつくりなおし・実習園訪問と実習協議・報告会準備(それぞれ長時間を要する。グループでの取り組みも多く、実習園の都合に合わせる必要がある。高度な段取りが求められる。)				適宜授業内でコメント。必要に応じて個別に面談の時間を設ける。			
受講生に望むこと	①保育できるスタイルで、保育者が身近に常備しているべきものを持って参加する。 ②保育における「つくりなおし」の意味を理解し、厭わない。 ③保育と実習園に対して常に興味をもち、園には可能な限りボランティアとして出向き実習協議につなげる。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーバル館 2008年 ISBN:978-4-577-81245-7(幼稚園教育要領の改訂に伴って発行が予定されている『解説』が追加される)		
指定図書参考書等	『遊びづくりの達人になろう!子どもが夢中になってグリーンと成長できる*歳児の遊び55』(5歳児・4歳児・3歳児版) 竹井史編著 明治図書出版 2011年 ISBN:978-4-18-964612-9 978-4-18-964518-4 978-4-18-964414-9			その他・特記事項	①無断欠席や提出物の期限が守られないことなど参加姿勢に社会人としての問題を認めた場合には、幼稚園教育実習Ⅱを取り下げることがある。②指導計画や教材準備など、実習準備の不足によって、実習を取り下げることがある。③実習Ⅱの取り下げ・中断の場合には、本科目の単位は出ないので注意すること。		

授業科目名	保育実習指導Ⅰ			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	熊田 凡子・虹釜 和昭・齊藤 英俊・高村 真希（代表教員 熊田 凡子）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本授業では、保育士資格を得るために必要な保育実習Ⅰ（保育所実習 2単位、施設実習 2単位）を行うための事前指導と事後指導からなっている。事前指導では、保育実習の意義と目的、保育現場・施設に対する理解を深める。具体的には、保育士に求められる倫理綱領をはじめ、実習に臨む基本的姿勢、年齢・発達段階に応じた子ども理解、実習日誌の記入方法や指導計画の書き方、保育に必要な知識・技能の確認等、実習に向けた準備を行う。事後指導では、実習で体験したことの意味付けと自己評価を行い、これまでの保育観を省察する。それに基づいて自己課題を明確にし、次のステップである保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲに臨む。</p>				<p>①保育実習の意義と目的を理解している。 ②実習の内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。 ③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解している。 ④実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解している。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。</p>			
教授方法	講義・演習、ディスカッション、発表						
履修条件	幼児保育コース所属の学生以外は履修できない。1年次の「幼稚園教育実習Ⅰ」「幼稚園教育実習指導Ⅰ」を履修済の者。「保育実習Ⅰ（保育所）」、「保育実習Ⅰ（施設）」を履修中の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：受講マナー、保育実習の意義（1）保育所実習の意義と目的、保育実習の概要、保育士の責務について理解する。個人票を作成する。プレ実習（富樫子ども広場・実習先保育所）とプレ実習記録作成について理解する。						熊田・虹釜・齊藤・高村
2	保育実習の意義（2）授業概要の説明を行い、保育士の仕事を振り返り、保育士科目における施設実習指導の果たす役割について理解する。個人票を作成する。						熊田・虹釜・齊藤・高村
3	施設実習：施設実習指導の学びの目的について、到達目標を達成するために必要な事項を理解する。						虹釜・齊藤
4	保育所実習：実習の内容（1）年齢別の発達と、保育所の一日の流れを理解する。幼稚園と保育所の違いを理解する。						熊田・高村
5	施設実習：実習施設（社会的養護を必要とする児童のための福祉施設、障害のある子ども・成人のための福祉施設）の種別と概要について理解する。						虹釜・齊藤
6	保育所実習：実習の内容（2）年齢別保育と異年齢保育、統合保育を理解する。実習先保育所のレポートを作成する。						熊田・高村
7	施設実習：実習施設の職員構成や職種、役割や連携について学ぶ。福祉施設で勤務する保育士の資質について理解する。						虹釜・齊藤
8	保育所実習：事前訪問（1）実習先保育所の保育方針、概要を理解する。実習日程・内容・プレ実習の日程を把握する。						熊田・高村
9	施設実習：入所・通所している子ども・利用者の特徴や、日常生活、生活環境、人間関係（対家族、対職員、対利用者）について理解する。						虹釜・齊藤
10	保育所実習：事前訪問（2）実習先保育所での実習内容を確認し、オリエンテーション記録を書いて提出する。						熊田・高村
11	施設実習：実習に向けての心構えと基礎理解について、テキストを輪読した後グループ内でディスカッションを行う。						虹釜・齊藤
12	保育所実習：プレ実習（1）実習先保育所の環境・保育の流れを把握する。担当年齢に即した手遊び・絵本・視聴覚教材を準備する。						熊田・高村
13	施設実習：事前オリエンテーションに関する留意事項、オリエンテーション記録作成上の注意を行う。						虹釜・齊藤
14	保育所実習：プレ実習（2）実習先保育所の担当クラスと子どもたちの様子を把握する。発達・年齢に対応したかかわり方を考える。						熊田・高村
15	施設実習：配属された施設（種別）について調べた資料に基づいてグループディスカッションを行い、実習先に関する理解を深める。						虹釜・齊藤
16	保育所実習：保育園の園長先生による講話。「保育所の機能・保育士に必要な資質・実習生に望むこと」を聞き、実習への準備に活用する。（日程・テーマは、変更することがある。）						熊田・高村
17	施設実習：これまで受講してきた授業（児童家庭福祉論Ⅰ、社会福祉、社会的養護、子どもの保健ＡＢ、障がい児保育など）の内容を振り返り、実習との関連についてディスカッションする。						虹釜・齊藤
18	保育所実習：DVD視聴・保育所保育指針等の解説を通し、保育所における子どもの人権と最善の利益について考える。また、プライバシーの保護と守秘義務、実習生としての心構えを学ぶ。						熊田・高村
19	施設実習：実習ファイルおよび作成書類（事前オリエンテーション記録、出勤簿、実習日誌、実習日誌ガイドライン、支援計画、自己評価表、実習のまとめ、誓約書など）を配付し、記入上の説明を行う。						虹釜・齊藤
20	保育所実習：実習における記録（1）実習日誌の使い分け、記入上の注意、観察・記録・評価について理解する。実際に記録を作成し、個と集団の観点から幼稚園実習との違い・共通点を考える。						熊田・高村
21	施設実習直前指導：実習を行う際の留意事項について、グループごとにテキストを輪読した後整理する。実習中における学びについて理解する。これまで行ってきた実習生の事例を挙げながら実習上の注意を促す。						虹釜・齊藤
22	保育所実習：実習における記録（2）実習日誌の種類と使い分けについて、エピソード記録とエピソード記述の特徴と違いを理解する。DVD視聴による具体的場面から、実際に2種類の記録を作成してみる。						熊田・高村
23	実習計画および実習日誌の意義や作成方法について理解する。特にエピソード記述における留意点について理解する。						虹釜・齊藤
24	保育所実習：実習における計画と実践（1）指導計画の立案と記録、考察について基本を理解する。実習先の保育形態・年齢に合わせた指導計画を作成する。実習における計画と実践（2）個別的なかわりを中心とした部分実習の指導計画を作成し、実演・実践してみる。グループ内で検討したのち、修正を行う。						熊田・高村
25	施設実習直前指導：実習中の諸注意確認。指導計画の修正・再確認後、グループ内で実演してみる。						虹釜・齊藤
26	保育所実習直前指導：実習中の諸注意確認。指導計画の修正・再確認後、グループ内で実演してみる。						熊田・高村
27	施設実習の振り返り・グループでの話し合い。						虹釜・齊藤

授 業 計 画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
28	保育所 実習終了アンケート記入。自分が実習を通して学んだことを振り返る。グループ毎に学んだことや疑問に思ったことを話し合い、多様な保育や子どもの姿を理解する。	熊田・高村
29	施設実習・保育所実習で学んだことを発表し合い、学びを再確認するとともに、他の実習先での学びを共有する。	虹釜・齊藤
30	保育実習Ⅰの評価伝達：自己評価を比較検討しながら実習を振り返り、次の実習への課題を明確にする。保育実習Ⅰ（保育所、施設）を通して学んだことを、教職カルテに記入する。	熊田・高村

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	50	①実習の目的を明確に理解している。②主体的に討議に参加している。③保育士の職務や保育を理解しようとしている。④実習報告会に積極的に参加している。	課題提出	50	①課題を期日までに提出する。②課題内容を理解し、工夫して取り組んでいる。③実習日誌の書き方を理解している。④指導計画を作成することができる。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①ブレ実習に積極的に参加し、様々な子どもの姿を事前に見て理解する。具体的な参加方法は授業で説明する。（実習先保育所、子ども広場）[240分×8] ②事前訪問やホームページを活用して、実習先についての概要をまとめ、レポートを提出する。[120分] ③実習日誌のモデル案にしたがって日誌を書いてみる作業を通し、実習日誌の作成に慣れておく。[60分] ④実習で求められる教材を実演できるように、作成・練習しておく（手遊び、絵本、視聴覚教材、季節に合った歌やゲーム・活動、製作など）[90分] ⑤実習園に限定せず、子育て支援・障がい者支援などのボランティアに参加する。[240分]			個別指導及び授業内での振り返りを行う。		
受講生に望むこと	①「幼稚園教育実習Ⅱ」「幼稚園教育実習指導Ⅱ」も同時に履修することが望ましい。②保育士が子どもの成長、安全にかかわる仕事であることを十分に認識して授業に臨むこと。③事前にテキストを熟読し、演習課題に取り組むことが望ましい。④「社会的養護内容」「乳児保育」「子どもの食と栄養」の授業と関連付けて理解するように努めること。		教科書・テキスト	『保育所保育指針』厚生労働省 平成20年 その他、必要に応じてプリントを配布する。 『保育士のための福祉施設実習ハンドブック』小野 澤昇・田中利則編著 ミネルヴァ書房 2011 ISBN 978-4-623-06003-0	
指定図書／参考書等	なし／『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』小櫃智子他 わかば社 ISBN 978-4-907270-01-8		その他・特記事項	①委託費など実習費用約50,000円（保育実習Ⅰ・ⅡまたはⅢ）が必要となる。詳細は、1回目の授業で説明する。 ②無断欠席・遅刻・早退が多い・課題が提出されない場合は、実習を認めない。	

授業科目名	保育実習Ⅰ（施設）		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭・齊藤 英俊（代表教員 虹釜 和昭）					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>居住型および通所型の児童福祉施設（保育所を除く）もしくは障害者支援施設において、90時間（約11日間）の実習を行う。利用者与生活をともにすることで、施設の社会的意義と支援内容、子ども・利用者の理解、保育士の職務や役割、職場内の他職種との連携の理解、施設内で組み立てられている保育や援助技術の理解と実践、保育士の子ども・利用者とのかかわり方、社会人としてのマナーと職業上の倫理を体験的に学ぶ。</p>			<p>①実習施設について理解している。 ②養護の一日の流れを理解し、主体的に参加する。 ③子ども・利用者の観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解している。 ④支援計画を理解している。 ⑤生活や支援の一部分を担当し、養護技術を習得している。 ⑥職員間の役割分担やチームワークについて理解している。 ⑦施設での生活を通して家庭・地域社会を理解している。 ⑧「子どもの最善の利益」についての配慮を学んでいる。 ⑨保育士としての職業倫理を理解している。 ⑩安全および疾病予防への配慮について理解している。</p>			
教授方法	実習（90時間）					
履修条件	保育実習指導Ⅰを受講していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
	90時間（約11日間）の実習において、次の1～14の内容を行う。					
	1. 施設での一日の流れを理解する。					
	2. 施設の役割と機能について理解する。					
	3. 子ども・利用者を観察し、記録する。					
	4. 子ども・利用者の個々の状態に応じた援助やかかわりについて考え実践する。					
	5. 実習計画に基づき活動し、支援を行う。					
	6. 子ども・利用者の心身の状態に応じた行動に心がける。					
	7. 子ども・利用者の活動と生活の環境を理解する。					
	8. 子ども・利用者の健康管理、安全対策について理解する。					
	9. 支援計画（自立支援計画を含む）について理解する。					
	10. 実習計画に基づき省察し、自己評価する。					
	11. 保育士の業務内容を体験的に理解する。					
	12. 職員間の役割分担や他職種との連携について体験的に理解する。					
	13. 保育士の役割と職業倫理について体験的に理解する。					
	14. 施設の年間計画や行事について理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習先の評価	70	実習指導時に配付する評価表における項目ごとに評価する。		巡回時の担当教員の評価	10	実習巡回時における面談内容について評価する。
提出物	20	①事前オリエンテーション記録、実習日誌、事後レポートによって自己評価ができています。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
事前に施設での行事参加・体験学習（プレ実習）などを通して施設を体験的に理解する。				施設実習指導の事後指導において個別に伝達する。		
受講生に望むこと	①実習の目標を理解した上で実習に臨むこと。 ②実習中は担当教員との報告・連絡・相談を徹底すること。			教科書・テキスト	保育の基礎を学ぶ『福祉施設実習』小野澤昇・田中利則・大塚良一 ミネルヴァ書房 2014年 ISBN 978-4-623-06947-7	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	実習施設は受講生の配属希望調査を実施した上で実習担当教員が配属する。 交通費については原則実費とする。	

授業科目名	保育実習指導Ⅱ			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	熊田 凡子・高村 真希 (代表教員 熊田 凡子)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>保育実習指導Ⅰで学んだ知識及び保育実習Ⅰで体得した学びを土台として保育実習Ⅱを行うための、事前指導・事後指導の授業である。事前指導では、保育実習Ⅰを通して得た学びと自己課題を明確にし、保育実習Ⅱでは保育士の専門性についても理解を深める。保育実習Ⅰと同じ保育所で実習を行うことで、子どもの発達・成長を具体的に把握し、適切な保育・援助を行えるように十分な準備をする。事後指導では、学びの共有となる実習報告会を行った後、実習園からの評価や授業での振り返りをもとに、履修カルテへの記入を行う。</p>				<p>① 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学んでいる。 ② 保育や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を身につけている。 ③ 保育の観察、記録及び自己評価などを踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学んでいる。 ④ 保育士の専門性と職業倫理について理解している。 ⑤ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にしている。 ⑥ 実習日誌の記入や指導計画の作成を適切に行うことができる。</p>			
教授方法	講義、演習、ディスカッション、発表						
履修条件	「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習指導Ⅰ」の単位を修得済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	保育実習Ⅰ（保育所）における自己課題を整理し、実習Ⅱに向けて準備を行う。						全員
2	子どもの最善の利益を考慮した保育について具体的に理解する。						全員
3	子どもの保育と保護者支援について理解する。① 多様な保護者支援のあり方に気づく。保護者支援のレポートを作成する。						全員
4	子どもの保育と保護者支援について理解する。② 実習園での状況とレポート作成の視点を話し合い、考える。						全員
5	保育実習日誌の書き方を理解する。時系列・エピソード記録・エピソード記述を書き分け、作成したものを提出する。						全員
6	保育実習日誌の書き方について、さらに理解を深める。添削後の日誌を修正する。						全員
7	実習先保育所の事前訪問。プレ実習の日程を確認する。						全員
8	保育所事前訪問記録作成と、実習課題の準備を行う。						全員
9	保育士の専門性と職業倫理について考える。現職保育士の講話を聞き、レポートを作成する。						全員
10	保育実習Ⅰの指導計画を振り返り検討したうえで、保育実習Ⅱの部分実習や一日実習に向け指導計画についての理解を深める。指導計画案を作成し、提出する。						全員
11	作成した指導計画を基にグループディスカッションを行い、必要に応じて修正する。また、個々の子どもに応じたかかわりについて考える。						全員
12	実習終了アンケートの作成とグループディスカッション。実習記録・レポートを基に自己の実習を振り返る。						全員
13	グループディスカッションと報告会の準備。保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善について考える。						全員
14	実習報告会に参加し、他の学生の学びを共有する。レポートを作成する。						全員
15	保育士としての自己課題を明確にする。（実習評価の伝達と履修カルテの記入）						全員
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加姿勢	50	①実習の目的を理解している。②主体的に討議に参加している。③表現技術を身につけて実践しようとしている。④保育士の職務や専門性について理解している。⑤実習報告会に積極的に参加している。			課題提出	50	①課題を期日までに提出する。②課題内容を理解し教材や指導計画を工夫して作成している。③実習日誌の書き方を理解し目的に応じて書き分けることができる。④保育の場面に適した指導計画を作成することができる。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①保育実習Ⅰで自分に不足していると思った表現技術を磨く。家でも練習や復習を行う。[240分] ②実習前に実習先でのプレ実習に参加し、プレ実習記録を書く。回数や期間は、授業内で指示をする。[240分] ③子どもの年齢に応じた歌や手遊び、製作などを事前に準備練習しておくこと。[120分] ④指導計画案を作成する。[240分] ⑤授業内で出された実習日誌の作成課題をする。[240分]				指導計画の実演紹介等に対する助言指導。			
受講生に望むこと	①「保育実習Ⅰ」で気づいた自己課題を意識して、授業に参加すること。 ②保育士に求められる技能や知識、資質を自ら高める努力をすること。 ③特に、「保育内容・健康Ⅱ」「保育内容・人間関係Ⅱ」「保育内容・環境Ⅱ」「保育内容・言葉Ⅱ」「保育内容・表現Ⅱ」「児童家庭福祉論Ⅱ」「家庭支援論」「乳児保育」「社会的養護内容」の授業と関連付けて、理解するように努めること。			教科書・テキスト	『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館 2008年 ISBN978-4-577-81242-6 授業でプリントを配布するので、各自A4版のファイルに保管すること。		
指定図書参考書等	なし/なし（授業内で紹介することもある）			その他・特記事項	無断欠席・遅刻・早退が多い・課題が提出されない場合は、実習を認めない。		

授業科目名	保育実習指導Ⅲ			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭・齊藤 英俊（代表教員 虹釜 和昭）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>保育実習Ⅰ（施設）を基礎におき、施設理解を深めるために、自らの課題を考察する。作成した実習テーマ、実習計画、ねらい、課題について指導を受け、また実習に入ってから指導者より受けるスーパービジョンの性格、内容などを理解する。実習終了後の事後学習により、評価できる点、反省点などを整理することにより、専門職としてのあり方を考察する。</p>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学んでいる。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培っている。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解している。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確化できる。 			
教授方法	児童福祉施設の実際について、教員よりの講義、ワークシート作成、グループディスカッションなどにより課題を明らかにする。						
履修条件	保育実習Ⅰ（施設）を終了していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	本学で学ぶ児童福祉関連の各科目と実習の関係を理解する。ボランティアと実習の違い、体験学習と実習の違い、配属実習を行う意味を理解する。						虹釜・齊藤
2	施設や利用者（家族を含む）の、地域や社会との関係理解を深め、施設の機能としての地域社会への働きかけ、地域貢献のあり方を理解する。						虹釜・齊藤
3	子ども・利用者の入所経路（特に、児童相談所・福祉事務所の果たしている役割など）や入所理由など社会的背景を学び、その中で施設の果たしている役割、機能を理解する。						虹釜・齊藤
4	関係機関の役割、施設との関係について深く考察し、関係機関資料の収集方法や課題などを理解する。						虹釜・齊藤
5	子ども・利用者のケーススタディ（ケースの背景を理解し、子ども・利用者の課題に対する援助方法の検討）を行う。これをもとにして、子ども・利用者の支援のあり方を学ぶ。						虹釜・齊藤
6	保育士とソーシャルワークについて学ぶ。施設を利用している子ども・利用者の抱える問題にかかわる家庭的、社会的状況を知り、ソーシャルワーク援助技術についての理解やソーシャルワーカーとの連携を理解する。						虹釜・齊藤
7	児童福祉の専門職資格を学び、保育士資格の意義目的などを理解する。実習前に修得すべき内容を整理し、他の児童福祉分野、他職種との連携を理解する。						虹釜・齊藤
8	実習に望む前の学習計画、実習計画を策定し、それに伴う必要事項を理解する。実習前の事前学習として利用者に関するニーズ、機能を明確にする。						虹釜・齊藤
9	公文書としての実習記録の意味、まとめ方を考察する。逐次記録の作成方法、事実記録（要約）文と感想文及び考察文の書き分け。						虹釜・齊藤
10	事前訪問を行い、施設構造、機能、サービス内容、利用者の特徴、活動状況などを正確に理解し、事前訪問記録を作成する。						虹釜・齊藤
11	事前訪問で学んだことの報告を行なう。他の学生が訪問した施設の現状を学び、再度疑問点、課題などを整理する。						虹釜・齊藤
12	保育士の支援について、その必要性と支援内容を対比して実習で何をどう学ぼうとしているのかなどの課題確認を行う。						虹釜・齊藤
13	ディスカッションを行う。実習内容の疑問、ジレンマ、評価できた点などを相互に、自由に語り、聴いて内容を共有する。そこから学ぶべき点、自らの実習と対比させて実習について自己評価を行う。						虹釜・齊藤
14	多様な実習体験内容を事後学習により、経験知として積み上げる意義や方法を理解する。実習において未解決であった課題を共有し、事後学習の取り組みの中で解決方法を探求する。						虹釜・齊藤
15	事後報告会に参加し、自らの実習と対比させて考察する。						虹釜・齊藤
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	50	①実習の目的を明確に理解している。 ②主体的に討議に参加している。 ③保育士の職務や保育を理解しようとしている。 ④実習報告会に積極的に参加している。			課題提出	50	①課題を期日までに提出する。 ②課題内容を理解して、工夫して取り組んでいる。 ③実習日誌の書き方を理解している。 ④指導計画を作成することができる。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>保育実習Ⅰ（施設）での実習施設とは異なった種別の施設で実習する。そのため、実習施設などにて体験学習としてのボランティア等の活動などから、実習テーマを明確にすること。施設実習先は社会的養護関係施設、障害者支援施設・就労支援施設など多様であるため、各自の実習施設の目的・機能についてまとめる。また、施設実習は「生活を通しての治療」という性格が強く、実習生の日常生活や姿勢・態度など、自らの姿が実習そのものに大きく影響する。</p>				事後指導において、実習内容などの講評を行う。			
受講生に望むこと	実習施設は多岐にわたっているため、保育実習Ⅰ（施設）での内容が経験知として積み上がらない場合がある。保育実習Ⅲ（施設）はより専門性が求められるハードな実習であり、自分の実習配属先施設の情報、テーマに関する先行研究、文献、他のメディアなどを通じて収集する努力が求められる。			教科書・テキスト	保育の基礎を学ぶ『福祉施設実習』小野澤昇・田中利則・大塚良一編著 ミネルヴァ書房 2014 ISBN 978-4-623-06947-7		
指定図書／参考書等	なし			その他・特記事項	事前学習、実習中の学習、事後学習の連続性を理解すること。		

授業科目名	保育実習Ⅲ（施設）		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭・齊藤 英俊（代表教員 虹釜 和昭）					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>実習期間として設定した12月上旬から下旬に、10日間（90時間）の施設実習を行う。実習施設は、大学より実習を依頼した北陸三県における児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設にて実習する。</p>			<p>児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉および社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 保育士としての自己の課題を明確化できる。 			
教授方法	児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設にて実習を行なうとともに実習指導担当職員、および担当教員による巡回指導を受ける。					
履修条件	保育実習Ⅰ（施設）を終了していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	施設種別の理解、提供されているサービス内容を把握する。					
2	職員の役割、業務内容と専門性を理解する。					
3	実習施設にて実践されている保育・養護などの支援体制、技術を理解する。					
4	実習施設の地域における位置づけや地域との関係を理解する。					
5	生活場面における指導のあり方、子どもとの関係性を理解する。					
6	入所児童及び利用者の家族と職員のコミュニケーションについて理解する。					
7	入所児童及び利用者かかえる多様な課題について理解する。					
8	自立支援計画の概要、記入などについて職員の方より指導を受ける。					
9	実習施設の日中活動から、その意義などを理解する。					
10	行事及び活動などの計画を考察し、自らプランを立ててみる。					
11	実習記録の記載について、事実経過の描写・解釈の書き分け及び解釈理由を考察する。					
12	実習前の自らの施設観と実習後半の違いを考察する。					
13	実習のふり返りを行い、基幹的職員、実習指導担当者による反省会から自らの問題点などを考察する。					
14	実習担当者のスーパービジョンの内容を考察し、自己評価を行う。					
15	実習を通じて学んだことより、児童福祉施設等のありかた、将来像を考察する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習先の評価	70	実習指導時に配付する評価表における項目ごとに評価する。		巡回時の担当教員の評価	10	実習巡回時における面談内容について評価する。
実習日誌・レポートなどの提出物	20	<ul style="list-style-type: none"> 日々の実習にめあてをもって臨んでいる。 実習内容について自己評価ができている。 実習することによって、これからの課題が明確になっている。 				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
「経験」としての実習であり、個人と環境を取り巻く相互作用であることを意識する必要がある。				事後指導において、実習内容などの講評を行う。		
受講生に望むこと	保育実習Ⅲ（施設）では、施設の持つ「専門機能」を理解し、社会的役割、使命という視点から考察することが求められる。また、職員の「専門性」である、個々の職員が有する資質・能力、職種として求められる最低限の知識とは何か、について咀嚼されたい。施設機能は未分化の部分（日常性が表出していて、その背景にある専門性が見えにくい）が多くあるが、体系的に施設理解が出来るような努力が求められる。			教科書・テキスト	保育の基礎を学ぶ『福祉施設実習』小野澤昇・田中利則・大塚良一編著、ミネルヴァ書房、2014 ISBN 978-4-623-06947-7	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	事前学習、実習中の学習、事後学習の連続性を理解すること。	

授業科目名	小学校教育実習指導		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	辻 直人・幸 聖二郎・下村 岳人・福江 厚啓（代表教員 辻 直人）					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、小学校教諭一級免許状取得に必須の科目である。教育実習を実施するに当たり、必要な知識や技術だけでなく、教師としてもつべき態度についても学ぶものである。</p>			<p>①実習の意義を理解し準備や見通しをもち 実習校との円滑な関係づくりの知識・理解を深める。 ②小学校について理解を深める。 ③実習中における子どもや先生、学級のかかわり方や配慮すべきことを理解する。 ④観察実習・参加実習・授業実習について理解し、学習指導案を立案できる。 ⑤実習計画や実習日誌の書き方を習得する。 ⑥実習での学びの整理と反省・自己評価ができる。 ⑦実習報告会を計画・運営・実施できる。</p>			
教授方法	講義 グループ討議					
履修条件	各教科の教育法の履修が望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教育実習の意義と教員に求められる資質能力とは何かを理解する。					辻
2	実習までの流れをもとに文部科学省と教育委員会と学校の役割とその関係について理解する。					下村
3	低、中、高 それぞれの学年の発達段階の違いについて理解する。					下村
4	幼・保・小の連携の必要性について理解する。					福江
5	小学校における外国語活動と英語教育のあり方について理解を深める。					宮浦
6	小学校現場の一日の流れを理解する。					下村
7	小学校における特別支援教育について理解する。					福江
8	実習中、教師として子どもや教職員、保護者の方々とのように接したらよいか、また、留意すべきことについて理解する。					辻
9	学級の児童とのかかわり方で配慮すべきことを理解する。					辻
10	実習校への連絡の取り方や事前オリエンテーションの内容について理解する。					下村
11	観察実習・参加実習・授業実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。(1)					下村
12	観察実習・参加実習・授業実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。(2)					下村
13	実習日誌の書き方を事例を通して理解する。					福江
14	実習での学びの整理と反省・自己評価が適切にでき共有できる。(グループ討議) 手紙のマナーをもとに礼状を書くことができる。					全員
15	実習報告会を主体的に計画し実習での学びを伝え合うことができる。履修カルテを記入に自己課題を明確にする。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業態度	50	出席日数を確保し、真剣に授業に取り組んでいたか。		レポート	50	毎回その内容を正確に把握し理解していたか。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
<ul style="list-style-type: none"> 各学校での公開授業に参加する。 実習校で学校支援ボランティアに継続的に参加する。 日程の変更や事前打ち合わせの日程は後日連絡する。 				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 各授業で出されたレポート等への応答は次の授業で行う。また、適宜質問は受け付ける。		
受講生に望むこと	実習校での躓きをなくすため積極的にプレ実習に参加すること。			教科書・テキスト	なし	
指定図書参考書等	その都度指示あり。			その他・特記事項	第14回・15回は教育実習終了後、日程調整の上行う。	

授業科目名	小学校教育実習		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	辻 直人・幸 聖二郎・下村 岳人・福江 厚啓（代表教員 辻 直人）					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	4単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
本実習は、金沢市内または近郊の小学校及び北陸学院小学校において実習するものである。学校現場でのあらゆる活動を経験し、教師としての自覚と責任を実感し、その喜びを経験するものである。			①子どもや他の教師との積極的なコミュニケーションをとることができる。 ②各教科の教材研究や研究授業を通して教師としての基本的な技能とその心構えを身につける。 ③日々の記録を適切に記録することができる。 ④教師としての仕事の魅力や職責に気付く。			
教授方法	実習 参観 研究授業 教材研究 個別指導					
履修条件	小学校教育実習指導を履修していること					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	各学校長より学校の概要の説明を受け、教育実習期間中の指導計画等を理解する。					学校長、教頭 指導教諭
2	各学級に入り授業を参観し学級の実態を知り、子どもたちや指導教諭との意思疎通を図る。					指導教諭
3	授業を参観し、子どもの実態を知り、各教科の学習進度を把握する。					指導教諭
4	授業を参観し担任の授業の進め方を学ぶ。休み時間を共有して子どもとの融和を図る。					指導教諭
5	授業実習の準備をする。12回～15会程度の授業実習を行い、指導教諭の指導を受ける。					指導教諭
6	研究授業案を作成し、担当教諭の指導を受ける。					指導教諭
7	研究授業を実施する。目標を明確にし、板書計画を準備する。					指導教諭・校長・教頭・大学の担当教官
8	研究授業反省会を通して、担当教諭、管理職、他の教諭から指導を受ける。					指導教諭
9	学校行事に参加し、その補助を通して、全体動きを知ることの大切さを知る。					指導教諭
10	学級会活動の計画を立て、児童の主体的な活動を生み出す工夫をする。					指導教諭
11	クラブ活動や委員会活動を参観し、その運営の方法を知る。					指導教諭
12	他学年の授業も参観し、それぞれの学年に応じた指導のあることを知る。					担当教諭
13	教育実習日誌を整理し、授業の記録、指導された内容を基に自分の課題に気付く。					教育実習生
14	学級運営、生徒指導についてなど実習期間中の疑問点を整理し、担当教諭から指導を受ける。					指導教諭
15	実習期間を振り返り、受け入れ学級への感謝の気持ちを学級お別れ会で表す準備をする。					教育実習生
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
コミュニケーション能力	30	子どもたちや学校職員とコミュニケーションがとれていたか。		研究授業	40	教材研究がよくできていて、子どもの把握と指導が適切であったか
教育実習日誌	30	日々の記録が適切に記録されていたか、				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
各実習校指導教諭等の指導・指示による。				実習での反省や改善のための指導は実習指導の事後指導において行う。実習中担当教員の巡回により、適宜指導する。		
受講生に望むこと	小学校実習は受け入れ校においても一大行事である。真剣に小学校教師を目指す学生がこの講座を受講し、実習生であっても子どもにとっては教師であることを自覚して取り組むことを望む。			教科書・テキスト	なし	
指定図書参考書等	小学校学習指導要領 文部科学省 ISBN 978-4-487-28695-9			その他・特記事項	なし	

授業科目名	介護等体験			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	石原 俊彦・田中 早苗						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>デイサービスなどの社会福祉施設において5日間、特別支援学校において2日間の介助・介護・交流・行事補助などの体験活動を行う。そのために必要な各障がい児（者）、高齢者への理解を深め実習施設（学校）について事前事後指導を実施するほか、適宜、開催するガイダンスにおいて、体験施設への書類提出等を含めた事前準備を行う。</p>				<p>この科目は、義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性に鑑み、「教育職員免許法の特例等に関する法律（平成9年法律第90号）」に基づき行われる。学生は介護等体験の意義及び概要を理解したうえで体験に臨み、体験活動から得られた考察からノーマライゼーション、障がい児（者）への理解を深め、教員としての資質向上を図る。</p>			
教授方法	講義・演習・ビデオ視聴 後期に実習を実施						
履修条件	教員免許状取得に必要な科目の履修						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：介護体験を行うにあたって介護職の役割について理解する						石原
2	介護等体験の実際：介護保険制度及び介護保険施設について理解する						石原
3	体験者に臨む基本的姿勢・マナー：服装・挨拶・記録・報告						石原
4	高齢者の理解：高齢者とは身体的、精神的にどのような状態になっているのか理解する						石原
5	高齢者認知症に対する基礎知識：実体・身体的・精神的特性と対応・介護						石原
6	デイサービスなど的高齢者施設での体験①：利用者とのコミュニケーションを図る。						石原
7	デイサービスなど的高齢者施設での体験②：利用者に必要な介護について理解し実践する。						石原
8	デイサービスなど的高齢者施設での体験③：感染の対応						石原
9	障害児（者）に対する基礎知識：知的・身体障害児（者）の特徴理解と個別的対応・介助						田中
10	障害児（者）に対する基礎知識：視覚・聴覚・発達障害児（者）の特徴理解と個別的対応・介助						田中
11	特別支援学校の基礎知識：特別支援教育の制度と実際						田中
12	障害児施設での体験：自ら進んで交流を図りながら障害のある人と共に過ごすとはどういうことか考える						田中
13	児童生徒の学習環境や学習方法、学習内容について学ぶ						田中
14	児童生徒とのかかわりの視点や、児童生徒の自立を支援するために必要なことについて考える						田中
15	障害児施設での体験の振り返り：作成したレポートをもとに、体験を共有する						田中
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業・演習に臨む姿勢、出席状況	10	講義の出席状況、演習等の積極的な取り組み姿勢について		課題レポート	30	石原：認知症の利用者さんに対応する時、どの様な点に注意すべきかまとめる。 田中：課題を十分に理解し自分なりの意見、考察をする。	
実習レポート・実習記録	60	教職をめざす者として高齢者・障がい児（者）に対する受け止めが、実習後にどのように変化したかを中心にまとめること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①高齢者、障がい者と交流する機会が多い地域の行事及びボランティアにできるだけ参加し、高齢者及び障がい児（者）との交流をし理解を深め、ノーマライゼーションの理念を培う。 ②特別支援教育の制度と実際を理解し、障害児への合理的な配慮と適切な支援について実体験する。 ③教員や介護職者は対人援助者と言える。対人援助を行う人は自分は何様な価値観を持っているのか。人と接するときの様な見方をするのか。書き出してみる。[30分] ④自分の住んでいる地域にはどのような介護施設があるか調べる[60分] ⑤特別支援教育の制度と実際を理解し、障害児への合理的な配慮と適切な支援について実体験する。</p>				<p>①提出物に記された関心・疑問を次回以降の授業内容に反映させる。 ②講義の前後に疑問点等の質問を受ける。講義開始時は前回の講義内容等を復習して講義を進める。 ③実習に行っても困らないように最低限度の介護技術を取得する。 ④提出物に記された関心・疑問を次回以降の授業内容に反映させる。</p>			
受講生に望むこと	①地域に居住している高齢者や障害者が増加しているため、行事・ボランティア等を通して積極的に交流するようにする。 ②障害に関する正しい知識を身につけた上で、自分はどう関わるのかを考える。 ③授業の中で、障害のある子どもやその家族の個人情報扱うため、授業で得た情報の取り扱いに注意する。 ④障害に関する正しい知識を身につけた上で、自分はどう関わるのかを考える。授業の中で、障害のある子どもやその家族の個人情報扱うため、授業で得た情報の取り扱いに注意する。			教科書・テキスト	その都度資料を配布する。		
指定図書／参考書等	随時授業内で提示する。			その他・特記事項	なし		

社会学科
(1年次)

授業科目名	SK100U 基礎ゼミ I		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	田中 純一・小林 正史・西村 洋一・竹中 祐二・松下 健 (代表教員 田中 純一)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>大学生としての基本的な学びの姿勢および知的探求の方法を修得することを目的とする。具体的には、①ノートテイキングの基本的技術、②文章読解力の強化と文章作成能力の育成による要約力の強化、③図書資料などをはじめとする情報の収集方法と整理活用術、④レポート作成の基本事項を修得する。また、ゼミ内での共同作業やディスカッションを通じて人間関係のあり方やコミュニケーションについても学ぶ。</p>			<p>①大学で学ぶために必要なスキルを身につけ、それを実践することができる。 ②学びに必要な情報の収集方法を知り集めることができる。 ③ポイントを正確に読み取ることができる。 ④書かれた内容を概要と意見に分けてまとめることができる。 ⑤学び合えるディスカッション方法を身につけ互いに学び合う姿勢を身につける。</p>				
教授方法	演習：毎回レジュメを作り発表・ディスカッションをする形式で進める。						
履修条件	社会学科1年生または社会学科の学生で再履修となった者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ゼミ内自己紹介、履修登録の確認					全員	
2	図書館オリエンテーション：図書館の利用の仕方、ルール					全員	
3	テキスト 第1章 スタディ・スキルズとは 大学での学びに必要な事項 長期目標を立てたうえで、それを実現するための今学期の目標を立てる					全員	
4	テキスト 第2章 ノート・テイキング 「社会学概論」(前回分)のノート持参 ノートを取る意義とコツを学ぶ。実践できているか確認する					全員	
5	テキスト 第3章 リーディングの基本スキル (1) テキストを読むとはどういうことかを学ぶ					全員	
6	テキスト 第3章 リーディングの基本スキル (2) 二度読み方式について学ぶ					全員	
7	テキスト 第4章 より深いリーディングのために (1) 要約の仕方・意義・実践について学ぶ					全員	
8	テキスト 第4章 より深いリーディングのために (2) 感想・意見を持つことの意義とまとめ方について学ぶ					全員	
9	第1回発表：指定された課題についてレポートを作成し発表する					全員	
10	テキスト 第8章 アカデミック・ライティングの基本スキル (1) レポート作成の手順について学ぶ					全員	
11	テキスト 第8章 アカデミック・ライティングの基本スキル (2) 論文作法について学ぶ					全員	
12	テキスト 第9章 効果的なアカデミック・ライティングのために (1) 分かり易い文とはどのようなものか学ぶ					全員	
13	テキスト 第9章 効果的なアカデミック・ライティングのために (2) 分かり易い表現方法とはどのようなものか学ぶ					全員	
14	第2回発表：指定された課題についてレポートを作成し発表する					全員	
15	まとめ 後期の履修登録など					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	60	①指定した書式・字数・枚数になっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文になっているか。		レジュメ作成および発表	20	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。	
授業参加態度	20	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。 ③課題にまじめに取り組んでいるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①基礎ゼミで学んだ事柄・スキルを他の授業でも活かすこと。 ②図書館やインターネットなど様々な文献・情報により視野を広め知識を増やすと共に、集めたものは整理しておくこと。 ③学内外での学びは「社会学」の対象の1つと捉え分析的に観察し気づいたことはノートにメモしておくこと。 上記①～③を踏まえつつ、講義に関するレジュメを事前に配布するので必ず目を通しておくこと。[30分] 学んだことはその日のうちに復習すること [30分]</p>				個々の教員の指導に従うこと			
受講生に望むこと	基礎ゼミ I は大学の学びの最も土台となる科目である。これからの4年間を有意義に過ごすか否かがかかっているとんでも過言ではない。大学およびそれ以降の社会で必要なスキルを中心に学ぶので、この授業で学んだスキルが身につくよう積極的に授業に臨むこと。			教科書・テキスト	『知へのステップ』 学習技術研究会編 4版 くらしお出版 2015年 ISBN: 978-4-87424-650-1		
指定図書参考書等	なし/『大学生のためのリサーチリテラシー入門—研究のための8つの力—』 山田剛史・林創著 ミネルヴァ書房 2011年 ISBN:978-4-623-06045-0			その他・特記事項	課題提出日、発表日などに欠席すると加点されないの注意すること（配慮される欠席理由は要覧を参照すること）。		

授業科目名	SK105U 基礎ゼミⅡ		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	田引 俊和・小林 正史・俵 希實・松下 健・若杉 亮平 (代表教員 田引 俊和)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>大学生としての主体的・自主的な学びの姿勢および知的探求の方法を習得することを目的とする。具体的には、①文献・データの検索と整理、②レポートの文章作成（前期からの継続と発展）、③プレゼンテーションのしかた、④ディスカッションのしかた（11月の「北陸学院セミナーⅡ」でのグループ討論を念頭）に重点をおいて学ぶ。テーマに沿ったレポートを作成し、発表する。</p>			<p>①大学で学ぶために必要なスキルを身につけ、それを実践することができる。 ②文献の調べ方とデータの検索方法を身につける。 ③レポートの書き方を身につける。 ④プレゼンテーションのスキルを身につける。 ⑤新しいアイデアを生み出すためのグループ・ディスカッションのスキルを身につける。</p>				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要を理解する。成績指導を受け、履修登録確認を行う。					全教員	
2	テキスト第6章 インターネットによる情報収集					全教員	
3	レポート課題の選定					各担当教員	
4	テキスト第7章 情報の整理：レポート作成に用いる文献の整理方法と文献リストの作成方法を習得する。					各担当教員	
5	レポートの構想発表					各担当教員	
6	テキスト第8章 アカデミックライティングの基本スキル：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。					各担当教員	
7	テキスト第9章 効果的なアカデミックライティングのために：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。					各担当教員	
8	グループ・ディスカッション：北陸学院セミナーⅡのグループ討論を念頭に置いてディスカッションスキルを学ぶ。					全教員	
9	北陸学院セミナーⅡグループ討議のふりかえり					各担当教員	
10	テキスト第11章 プレゼンテーションの基本スキル：レポート中間発表のために、プレゼンテーションの基本を理解する。					各担当教員	
11	レポート中間発表					各担当教員	
12	テキスト第12章 わかりやすいプレゼンテーションのために：レポート中間発表を踏まえて、改善点を検討する。					各担当教員	
13	パワーポイントによるレポート内容の発表準備					各担当教員	
14	レポート最終発表					各担当教員	
15	履修指導 アンケート調査 プロゼミ説明会					全教員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	60	①指定された書式・字数・枚数になっているか。②ポイントを押さえ、事実・データと意見を分けた文になっているか。		授業参加態度	20	①ディスカッションに積極的に参加したか。②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。③課題にまじめに取り組んでいるか。	
レジュメ作成と発表	20	①わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。②聞き手が理解しやすい発表となっているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①各回の授業で指定された課題（テキスト、サブテキスト、参考図書の指定部分をまとめ、レジュメを作成するなど）を事前に行う。[30分以上] ②レポート作成のための文献・情報の収集と整理を十分に行う。[30分以上] ③レポートの中間発表でのコメントを踏まえて、必要な文献等を読み、内容を改訂する。必要に応じて調査なども行う。 ④図書館やインターネットなどさまざまな文献・情報により視野を広め、知識を増やすとともに、集めたものは整理しておく。 ⑤学内外の学びは社会学の対象の一つととらえ、観察して気づいた点をメモする習慣をつける。</p>				ゼミ・グループ活動、レポート、パワーポイントなど必要に応じて対応します。また、成績評価等の疑問・質問等には随時応じます。			
受講生に望むこと	基礎ゼミⅡは、基礎ゼミⅠとともに大学の学びの土台となる科目である。大学およびそれ以降の社会で必要なスキルを中心に学ぶので、学んだスキルが身につくよう積極的に授業にのぞむこと。			教科書・テキスト	『知へのステップ』第4版 学習技術研究会編 くろしお出版 2015年 ISBN：978-4-87424-650-1		
指定図書参考書等	参考図書 『大学生のためのリサーチリテラシー入門』山田剛史・林創ミネルヴァ書店 2011年 ISBN：978-4-623-06045-0			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SK110U 社会学リ-講義		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	真砂 良則・楠本 史郎・木島 恒一・小林 正史・俵 希貴・西村 洋一・田中 純一・田引 俊和・若山 将実・竹中 祐二・松下 健・若杉 亮平（代表教員 真砂 良則）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
社会学科で学んでいくにあたり、この学科で学ぶことができる研究領域や分野について理解することを目的に、社会学科の専任教員が順番に、毎回、自分の専門分野の内容についてわかりやすく講義する。これによって、学生は、社会学および関連領域の中から興味ある分野や自分が追究したいテーマを見つけ、2年次のプロゼミ選択の際の判断材料とする。			①社会学科で学ぶにあたり、強い好奇心をもって各分野の初歩を学び、向上心を高める。 ②講義で扱う各分野の内容を理解する。 ③各回の授業の内容を整理してレポートにまとめることができる。				
教授方法	社会学科専任教員によるオムニバス講義。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：社会学科での学びの目的、および、本授業の目的と進め方を理解する。					真砂	
2	国内外の自然災害を通し、復旧・復興過程の社会的課題について考える。					田中	
3	友人になるのであれ、恋をするのであれ、私たちはその人に親しみを抱き、惹かれるものを感じる。こうした「対人魅力」の要因について考える。					木島	
4	インターネットや携帯電話などの新しいメディアの普及が著しいが、それらの利用者の特性と利用行動との関係について、研究結果に基づいて考える。					西村	
5	心理学を対人援助に活用する臨床心理学について考える。臨床心理学とその研究方法について理解を深めることが目的である。					松下	
6	「社会病理学」の成り立ちを振り返り、「社会病理」とは何かという問いに向き合うことを通じ、「社会学」の世界への理解を深め、また、私達が生きる「社会」それ自体の在り方への理解を深める。					竹中	
7	地域コミュニティの実情を踏まえつつ、超少子高齢社会における自助・共助・公助のあり方について考える。					田中	
8	私たちが現に生きているこの社会とはどのような社会なのかについて考えるヒントを提供する。現代日本社会において重要だと思われる諸問題を具体的に取り上げ、その実態を把握し、そのような諸問題が生じている原因および解決法について社会学的視点から考える。					俵	
9	食文化比較をとおして、機械に依存する近代的技術に対して、「手作りの伝統的技術」の優れた面を明らかにすることがこの講義の目的である。					小林	
10	「情報とは何か」という情報学の根本的な問について歴史的な議論を踏まえつつ、メディア論を考えていく。					若杉	
11	国政や地元石川県の政治の時事問題を1つ取り上げ、その政治の時事問題がなぜ生じたのかを、政治学的なアプローチによって検討していく。					若山	
12	宗教は、個人の精神的・内面的世界に深く関わると同時に、社会のあり方に影響を与える。聖書に基づき老人施設改革に生涯をささげた一設計者をとおし、社会における宗教の意味を考える。					楠本	
13	心の不調や発達障害などがある人たちについて正しく理解するとともに、互いを認め合える共生社会・ノーマライゼーション理念について学ぶ。					田引	
14	我が国では超高齢社会を迎え、介護問題や高齢者をめぐる福祉ニーズは拡大化、多様化してきている。このような動向を踏まえ、高齢者福祉の意義やあり方について考える。					真砂	
15	これからの社会では、性役割にとらわれない、男女共同参画を実現していくことが大切である。石川県の状況を題材にして、若者の男女共同参画の問題を考える。					俵	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
各回の授業担当者ごとに出される課題レポート	90	①各担当者1回ずつ行われる授業後に課されるレポートの提出（全15回分のレポート提出）。②レポート内容（分量・論理的記述の有無・誤字脱字の有無など）。		受講態度	10	授業への積極的な取り組み姿勢	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
①各回の授業後に、授業で学んだことを整理し確認する。[30分以上] ②授業の中で示された図書や資料について、授業後に読む／調べる。[30分以上] ③講義によっては、事前に関連する資料を配付するので、熟読しておくこと。 ④こころと体の健康、高齢社会などについて、社会のニュースを意識し、考えをまとめる（福祉分野）。				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
提出されたレポートについては、次回以降の授業で総評としてコメントする。							
受講生に望むこと	授業は、教員と学生双方の意欲と態度によって成り立つので、学生の皆さんには、積極的な授業への参加態度（教員の問いかけに答えるなど）を望みます。			教科書・テキスト	各回の担当者がレジュメ・資料を配付する。		
指定図書／参考書等	なし／各回の担当者の指示に従うこと。			その他・特記事項	各回の担当者による課題レポートの提出期日は厳守すること。期限後の提出は、いかなる理由があっても受理しない。課題レポートの提出期限は、課題が出された翌週の月曜13時。提出場所は、社会学研究支援センターの所定ボックス。		

授業科目名	SK115U 社会学概論A		開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	俵 希實					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	社会福祉士			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業では社会学の基本的な理論と概念、そして社会学の基本的な考え方を理解し、現代社会の捉え方を学ぶ。授業では、具体的に社会問題や人々の生活を取り上げ、社会学の視点から解説する。それらを踏まえて社会学とはどのような学問なのか、どのように社会に貢献しているのかについて考える。			①社会学の基本的な理論と概念について理解する。 ②社会学の基本的な考え方ができる。			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。					
2	社会学とはどのような学問なのか①：社会学が対象としている「社会」とは何か、社会と人間との関わりについて考える。					
3	社会学とはどのような学問なのか②：他の社会科学との違いから社会学を捉える。社会学における「前近代」「近代」「脱近代」について理解する。					
4	【人と社会の関係を捉える】 行為論①：行為と行動の違い、行為の種類、行為の4類型について理解する。					
5	行為論②：準拠集団、社会規範について理解する。					
6	行為論③：社会化、個人主義、パーソナリティについて理解する。					
7	相互作用論①：地位と役割、役割の分類、役割葛藤について理解する。					
8	【現代社会への理解を深める】 集団論①：集団とは何かを学び、その上で個人と集団との関係、社会と集団との関係を理解する。					
9	集団論②：内集団と外集団、集団の諸類型について学ぶ。					
10	集団論③：最も大規模な機能集団である官僚制組織の特徴やその組織の構成員に与える影響について理解する。					
11	【生活を理解する】 家族と社会：社会の基礎集団である家族について理解する。					
12	生活と社会：男女共同参画社会に着目して生活時間について考える。					
13	【社会問題を理解する】 現代社会における諸問題の提示：差別、社会的排除など。					
14	発表：現代社会の諸問題を取り上げ、それについて発表する。					
15	改めて社会学とはどのような学問なのかについて考える。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
期末試験	60	授業内容を理解しているか。	提出物	10	①指定された期日に提出しているか。 ②指定された書式にしたがっているか。 ③自分の意見を書くことができていないか。	
発表	15	講義内容との関連で、的確な意見発表ができていないか。	受講態度	15	積極的に授業に参加しているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
発表の準備は授業外で行うこと。授業中に配布するレジュメを事後に確認し、復習すること。講義内容にとどまらず、様々な情報を通じて、現代社会のあり方、諸問題の背景と原因について自己学習すること。[45分]			各グループの発表に対してコメントする。			
受講生に望むこと	意欲的態度を持って授業に参加してください。		教科書・テキスト	レジュメを配布する。		
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	なし		

授業科目名	SK120U 社会学概論B		開講学科	社会学科	必修・選択	選択必修
担当教員名	竹中 祐二					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は社会学科の基幹科目である。社会（集団）に適応して生きていくための思考と行為についての基本的事項、社会学の対象分野や分析方法について講義すると同時に、皆と共に考えていきたい。そうすることで、自立の人間として成長していく基礎力を養成したいと考える。公務員等の試験にも多く出題される内容を含んだ科目なので、幅広く講義する予定である。</p>			<p>①社会学の基本的な理論・概念を適切に説明することができる。 ②社会学の基本的な理論・概念を具体的な事例に当てはめて説明することができる。 ③現代社会を様々な切り口から理解することができる。 ④人間や社会に関わる様々な事柄について自ら問題関心を持って観察することができる。 ⑤自らの問題関心や意見に沿って、他者との意見交換や共有を積極的に行うことができる。</p>			
教授方法	講義・グループディスカッション					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション：社会学とはどういった学問であるのか、何を学ぶことができるのかといったことについて理解する。					
2	社会集団論：一般的な社会集団を例に挙げながら、自己と他者、個人と社会の関係について理解する。					
3	集合行動論：組織・集団という明示化された枠組みを超えた領域における人間行動について、社会というフィルターを通して理解する。					
4	地域社会・都市：生活圏としての地域社会・都市が人々にとって持つ意味を理解すると共に、地域社会・都市をめぐるマクロな変動について理解する。					
5	個人・家族：親密圏としての家族が個人にとって持つ意味を理解すると共に、マクロ社会の変化に伴って家族が持つ意味を再考し、理解する。					
6	ジェンダー論：自己と他者の関係構築や家族の構成といった論点の応用から、現代社会におけるセクシャリティ・ジェンダー問題について理解する。					
7	社会病理現象：時代や文化によって異なる社会病理現象について理解すると共に、病理性を規定する社会という存在そのものについても理解する。					
8	逸脱行動論：逸脱行動と社会病理現象の異同について理解すると共に、代表的な逸脱行動論についても理解する。					
9	医療・看護と社会：「医療・看護」を切り口に感情社会学や臨床社会学について学ぶと共に、現代社会論から価値の変容についても理解する。					
10	少子・高齢化と福祉政策：少子・高齢化現象をマクロな視点から理解し、それらをめぐる福祉政策実践についても理解する。					
11	消費社会論：消費行動の変容を切り口に、マクロ社会の変動と共に自己と他者の関係性の変容についても理解する。					
12	リスク社会論：大規模災害や食中毒事件等の問題を素材としながら、リスク社会論について理解する。					
13	情報社会論：情報技術の発達によってもたらされた現代の情報社会が成立した過程を理解すると共に、それが人々に与えた影響について社会学的観点から理解する。					
14	国際化と多文化共生：情報といった形の無いものだけではなく、実際のヒトとモノの流動性が高まった現代社会のあり様を理解し、それによって我々が直面しなければならない問題・課題について考える。					
15	グループディスカッション：これまでの学習内容を踏まえて、「社会」とは何か、「社会学」とは何か、「社会学的思考様式」とはどういったものであるのかについて、他者との意見交換や共有を通して、自らの考えを深める。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。		グループディスカッション	20	グループディスカッション時の積極的な参加態度等を評価する。
レポート	60	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に分かり易くまとめられているか評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①各回の授業で学習した社会学理論や社会学的視点、社会学用語について、様々な事例に応用できるように、社会学のテキストや事典を活用して復習する。[45分] ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]</p>				<p>・各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、そこでの質問は次回に全体共有する。</p>		
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から社会の様々な事柄に対してアンテナを張り巡らせ、疑問を持つことが望ましい。 ・問題意識を高めること、多様な視点・観点から捉え直すことによって社会学的な思考様式の獲得は大いに進むと思われるが、自分が興味を持っている事柄について考えることをその入り口とするところから始めていただきたい。 			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）	
指定図書参考書等	<p><参考書> 『社会学がわかる事典 ― 読みこなし使いこなし活用自在』 森下伸也 日本実業出版社 2000年 ISBN:978-4534031730</p>			その他・特記事項	<p>・日常的な学習やグループ作業について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。</p>	

授業科目名	SK125U 社会調査論		開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	俵 希實					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	社会調査士・社会福祉士			
授業の概要			授業の到達目標			
社会学の基礎的な知識と関連させながら、学問の方法としての社会調査法を学ぶ。経験的社会学研究の方法論として、社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。社会調査の種類・目的、実例、社会調査の倫理、社会調査の歴史等についての基礎知識を学び、これからの社会調査のあり方について考える。社会調査の方法の概要について、社会調査の全体像と個別作業との結びつきを実際例から把握する。以上によって、社会学を自ら学んでいく基礎を確立することを目指す。			①社会学の基礎的な知識、特に経験的社会学の成果について、説明できるようになる。 ②社会調査の意義、目的、種類について説明できるようになる。 ③現代の社会環境のなかで社会調査を実施する際の、気をつけるべきポイントを理解する。 ④社会調査の全体像と、個別作業の結びつきについて理解する。			
教授方法	講義					
履修条件	学部生であること					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。					
2	社会学の見取り図（理論社会学と経験社会学）と社会調査の位置について理解する。					
3	社会調査の定義と目的について知り、意義を構築する。					
4	統計法と個人情報保護、そして統計リテラシーについて知識を習得し、有効性を考える。					
5	社会調査の種類（質的調査を中心として、社会学調査の実際の例を学ぶ）。					
6	社会調査（量的調査）のプロセスの全体像を把握する。					
7	社会学の理論と、リサーチクエスト（調査課題）、そして問題発見の仕方について理解し、実践的に考察する。					
8	社会調査（量的調査）の実際例を学び、その意義について考え、理解する。					
9	調査課題の設定について実践的に検討する。これまでの内容について 10 分程度の確認テストを行う。					
10	様々な実査の方法の長所と短所について理解する。					
11	調査票の構成について理解する。					
12	質問文の作成と、社会学で使われてきた尺度について、具体例に基づいて理解する。					
13	サンプリングの概念について学び、調査対象者を決めるといふことの意味を理解する					
14	サンプリングの実際の場面を模擬的に経験し、ポイントを理解する。					
15	調査の実施（郵送法）の具体的な手続きと注意点を理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加度	30	積極的に授業に参加しているか（提出物を含む）。		確認テスト	10	そこまでの授業内容についての正確な知識を獲得しているかどうかを評価する。
期末試験	60	各回の講義内容についてどれだけ理解しているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①教科書の該当範囲を事前に読んで、疑問点を考えてくる。 ②配布資料を事後に確認し、復習を行う。[60分]				確認テストについての解説を授業中に行う。		
受講生に望むこと	①講義内容に関して疑問点があれば、積極的に質問する。 ②社会学と社会調査の結びつきについて、常に念頭におくようにする。			教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第3版）轟亮・杉野勇 編 法律文化社 2017年 ISBN：978-4-589-03817-3	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのA科目に準拠していません。	

授業科目名	SK130U 社会調査法		開講学科	社会学科	必修・選択	選択必修
担当教員名	俵 希實					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	社会調査士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>社会調査の基本的な知識と具体的な方法を学ぶ。 構想・計画→準備→実査→データの入力と点検→分析→報告という社会調査（量的調査）の全過程について順を追って解説する。実際に、リサーチ・クエスチョンを立てたり、質問文を作成したりすることで理解を深める。</p>			<p>①社会調査（量的調査）の全過程についての基礎知識を習得する。 ②量的調査に係る実施作業のイメージをつかむことができるようになる。 ③他の人がおこなった調査データや分析結果を適切に読みとることができるようになる。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	学部生であること					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準についての説明					
2	社会調査のデザイン（1）：問いを立てる 仮説を構成する					
3	社会調査のデザイン（2）：誰を対象にするのか					
4	実査の方法：量的調査における方法の選択					
5	調査票の作成（1）：調査票の構成 質問の作成手順					
6	調査票の作成（2）：質問文の形式 質問の作成および配置に関する留意点					
7	サンプリング：ランダムサンプリングがなぜ必要か 標本抽出枠とカバレッジ誤差 実行可能性や利便性への配慮 層化抽出 無作為標本からの乖離					
8	調査の実施：郵送法実査・個別面接法実査の具体的な手順と注意点					
9	データファイルの作成（1）：エディティング コーディング					
10	データファイルの作成（2）：データ入力 データクリーニング					
11	データの基礎的集計（1）：変数の種類 質的変数の要約 量的変数の要約（代表値）					
12	データの基礎的集計（2）：量的変数の要約（散布度）					
13	変数間の関連：相関係数 クロス表の作成					
14	変数間の関連：関連の指標					
15	調査報告とデータの適正管理					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
受講態度	15	積極的に授業に参加しているか。		期末試験	70	授業内容を理解しているか。
提出物	15	①適切な回答が記述されているか。 ②期限内に提出されたか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
事前学習としてテキストの該当箇所を読んでくること。事後学習として授業中に配布したレジュメを確認すること。[60分]				提出されたワークシート（テーマ・仮説・質問文）について、よく考えられた回答を授業中に紹介する。		
受講生に望むこと	粘り強く学習してください。授業で得た知識を他の授業や授業外でも活用するようにしてください。			教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第3版）轟亮・杉野勇 編 法律文化社 2017年 ISBN：978-4-589-03817-3	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのB科目に準拠しています。	

授業科目名	SK135U 統計データの読み方		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	若山 将実						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	社会調査士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会の様々な現象を理解する上で、官庁統計・資料に代表される統計データや調査資料を利用する機会は近年ますます多くなってきています。この授業の目的は、官庁統計・資料や、それを利用した調査報告・研究論文が読めるようになるための基本的知識を学習することにあります。具体的には、(1)単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や算出方法、(2)様々なグラフの読み方やその作成方法、(3)相関係数などの基礎的統計手法や相関関係と因果関係の違い、(4)質的データの読み方と分析のための利用法について学習します。</p>			<p>①単純集計、度数分布、代表値、そしてクロス集計などの記述統計データの読み方や算出方法を習得する。 ②グラフの読み方や特性、さらに作成の仕方について習得する。 ③質的データの読み方と基本的なまとめ方について習得する。 ④日常生活の様々な側面で利用されている統計データの利用のされ方の正誤を判別できるようになる。</p>				
教授方法	基本的に講義形式による授業となりますが、可能な限りExcelやSPSSなどの統計ソフトを利用した実習を行います。						
履修条件	学部生のみ履修可。社会調査論と社会調査法を履修済が望ましい。(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、統計データとは何か、社会調査法とは何か、そしてなぜ社会調査法を学ぶ必要があるのかについて考えます。(統計データの読み方や社会調査法を学ぶ意義を理解する。)						
2	分析とは何か：統計データを「分析する」意味について考えます。(理論・仮説に基づく分析の意味を理解する。)						
3	データの特徴：データにはどのような特徴があるのか、変数と尺度という言葉を用いながら説明します。(統計データの特徴について理解する。)						
4	単純集計：世論調査等の統計データを単純に集計し、それを一覧表にまとめた度数分布表とヒストグラムについて説明した後、その作成法の実習を行います。(度数分布表とヒストグラムについて理解し、それらを作成できるようになる。)						
5	記述統計Ⅰ：データの中心的傾向を見る指標として平均、中央値、そして最頻値について説明した後、それらの算出法の実習を行います。(記述統計データからデータの中心的傾向を把握できるようになる。)						
6	記述統計Ⅱ：データのばらつきの大きさを測る指標として範囲、分散、そして標準偏差について説明した後、それらの算出法の実習を行います。(記述統計データからデータのばらつきの大きさを把握できるようになる。)						
7	クロス集計Ⅰ：二種類のデータの関係を捉える方法として、クロス集計表について説明します。(クロス集計表から2つのデータの関係を捉えることができるようになる。)						
8	クロス集計Ⅱ：世論調査データを使用したクロス集計表を作成する実習を行います。(クロス集計表を作成することで、世論調査における2つの回答の関係性を推測できるようになる。)						
9	相関Ⅰ：二つのデータの直線的な関係を捉える方法として、相関の考え方と相関係数について説明します。(相関関係の基本的な考え方と、それを表す相関係数の算出法について理解する。)						
10	相関Ⅱ：二つのデータの関連性を見極める上で理解しておく必要のある相関関係と因果関係の違いや、擬似相関について説明します。(二つのデータの関連性を見極めることの難しさを理解する。)						
11	相関Ⅲ：実際の統計データを利用し、統計ソフトを使った散布図の描き方や相関係数の算出法などの実習を行います。(散布図の作成法や相関係数の算出法を実習することで、二つのデータの関連性の有無を自身で判断できるようになる。)						
12	質的データの読み方Ⅰ：質的調査と呼ばれる研究方法について説明した後、観察調査の諸類型やまとめ方について紹介します。(質的調査法と量的調査法の違いを理解する。そして観察調査の種類やまとめ方を理解する。)						
13	質的データの読み方Ⅱ：インタビュー調査とその手順について説明し、実際にインタビュー番組を見ながらインタビュー調査の有用性について考えます。(インタビュー調査の意義を理解する。)						
14	質的データの読み方Ⅲ：ドキュメントの諸類型について説明した後、ドキュメント分析の方法を紹介し、その意義について考えます。(ドキュメントを分析することの意義を理解する。)						
15	全体のまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト(毎回)	40	毎回の授業内容を理解できているか。		レポート	50	ポイントを押さえた読みやすいレポートを書くことができているか。	
授業参加状況	10	授業への取り組み姿勢。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>①授業で使用するレジュメ(資料)は、メンソフィアを通じて授業前日までに配布するので必ず目を通してください。[30分] ②毎回の講義後に統計データの読み方に関する練習問題を小テストとして出すので、次回授業前までに提出してください。[50分]</p>				<p>①毎回の小テストおよびそれに付属するリアクションシートは、次回冒頭に採点およびコメントを付けて返却します。 ②レポートは、可能であれば次学期冒頭にコメントを付して返却することを検討します。</p>			
受講生に望むこと	<p>①統計データは、日常生活のあらゆる側面で使われています。日頃からそうした統計データの利用のされ方に注目するようにしてください。 ②教室内での私語や携帯電話の使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。</p>			教科書・テキスト	特に用いません。レジュメ(自作テキスト)を毎回メンソフィアを通じて授業前日までに配布します。		
指定図書参考書等	なし。/『社会調査の基礎—社会調査士A・B・C・D科目対応』篠原清夫・清水 強志・榎本環・大矢根淳著 弘文堂 2010年 ISBN-13: 978-435551338、『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』谷岡一郎 ちくまプリマー新書 2007年 ISBN-13: 978-4480687593、『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』第2版 轟亮・杉野勇(編) 法律文化社 2013年 ISBN-13: 978-4589034892。			その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのC科目「基本的な資料とデータの分析に関する科目」に準拠しています。		

授業科目名	S0100U データ処理基礎		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若山 将実						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
ビッグデータなどが簡単に入手できるようになった現在、社会の様々な現象を理解する上でデータを適切に処理することのできる能力は社会でますます求められるようになっていきます。この授業の目的は、大学で社会調査を学んでいく前に求められるデータ分析に関する基本的な知識を学習することにあります。具体的には、データを実証的に分析する際に求められる方法論や分析を行うに際して求められるデータの基本的な見かた等をグループで学んでいきます。			①データを実証的に分析する方法論を習得する。 ②グラフの読み方や特性、さらに作成の仕方の基本について習得する。 ③日常生活の様々な側面で利用されている統計データの利用のされ方の正誤を判別できるようになる。				
教授方法	講義と演習によって進められます。授業の大部分は課題に主体的に取り組むことが求められるグループ学習を行う予定です。						
履修条件	社会学科の学生（基本的に1、2年生）のみ履修可						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、データ分析を学ぶ意義について検討します。（データ分析を学ぶ意義を理解する。）						
2	データとは何か①：データの定義や基本構造を説明します。（データの定義や基本構造を理解する）						
3	変数の中心を把握する：変数の平均的な傾向を確認する平均値、中央値、最頻値について学びます。（変数の中心を把握する方法を理解する）						
4	変数のばらつきを把握する：変数のばらつきを確認する範囲、分位数、分散、標準偏差について学びます。（変数のばらつきを把握する方法を理解する）						
5	実証分析の基礎①：社会現象をデータによって明らかにするとどうなるか。実証分析の枠組みについて説明します。						
6	課題①：社会問題をテーマに課題を提示します。受講者はグループを結成し、実証的な方法論に基づいてこの課題に取り組んでいきます。						
7	グループ学習：グループで提示された課題①に取り組めます。						
8	グループ発表：提示された課題①に対してグループで取り組んだ成果を発表します。						
9	実証分析の基礎②：因果関係の解明にあたって理論とは何か、仮説とは何かについて説明します。（理論と仮説の意味を理解する）						
10	相関分析の基礎：二つの変数の双方向の関係を分析する相関分析について学びます。（相関分析の基礎を理解・習得する）						
11	回帰分析の基礎：二つの変数の因果関係を分析する単回帰分析について学びます。（回帰分析の基礎を理解・習得する）						
12	課題②の提示：社会問題をテーマに課題を提示します。受講者はグループを結成し、実証的な方法論に基づいてこの課題に取り組んでいきます。						
13	グループ学習：グループで提示された課題②に取り組めます。						
14	グループ発表：提示された課題②に対してグループで取り組んだ成果を発表します。						
15	まとめ：授業全体のふりかえりとして、データ処理を行うにあたって注意すべき点について説明します。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
レポート	40	ポイントを押さえた読みやすいレポートを書くことができるか。	発表	40	課題に対してグループで取り組み、わかりやすい発表ができてきているかを見る。		
小テスト	20	毎回の授業内容を理解できているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①授業で使用するレジュメ（資料）は、メンフィアを通じて授業前日までに配布するので必ず目を通しておいてください。[30分] ②毎回の講義後に統計データの読み方に関する練習問題を小テストとして出すので、次回授業前までに提出してください。[50分] ③グループ学習を進めます。グループ発表の準備はほぼ授業時間外で進めることになります[90分]。			①毎回の小テストおよびそれに付属するリアクションシートは、次回冒頭に採点およびコメントを付けて返却します。 ②期末レポートについては、可能な限り次学期初めに内容に関するコメントを配布することを検討します。				
受講生に望むこと	①統計データは、日常生活のあらゆる側面で使われています。日頃からそうした統計データの利用のされ方に注目するようにしてください。 ②教室内での私語や携帯電話の使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。		教科書・テキスト	特に用いません。レジュメ（自作テキスト）を配布します。			
指定図書参考書等	なし／『社会調査のウソ：リサーチリテラシーのすすめ』 谷岡一郎著 2000年 文春新書 ISBN: 4-16-660110-5。『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』 谷岡一郎著 2007年 ちくまプリマー新書 ISBN: 978-4-480-68759-3。『原因を推論する：政治分析方法のすすめ』 久米都男著 2013年 有斐閣 ISBN: 978-4-641-14907-6。		その他・特記事項	特になし。			

授業科目名	S0105U 文化人類学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	小林 正史						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
米・稲作は日本文化の「核」と言われているが、この講義では、米を中心とした日本の食文化の特色がどのようにして作り上げられたかについて、文化人類学と考古学の方法を用いて検討する。			①単系進化論的見方（複雑な技術ほど優れており、シンプルな技術ほど劣っている）の問題点を理解し、伝統的（＝手作りの）技術の優れた面を理解する。 ②日本、東南アジア、南アジア、欧米という地域間の食文化の違いが、各地域の環境に合わせた工夫の結果であることを理解する。 ③日本における縄文時代から現代までの調理方法や飲食方法の変化が、各時代の環境や食材の変化に合わせた工夫を示すことを理解する。言い換えれば、食材、調理方法、食べ方が相互に関連している（例えば、米調理方法の違いが米品種の違いに対応した工夫である）ことを理解する。				
教授方法	この授業は、①講義による伝統的（薪と土鍋による）調理方法や食べ方の特性の説明、②伝統的技術の優れた面を体験するための調理実験（2回程度）、③埋蔵文化財センターでの先史・古代調理具の観察、④実験や発掘資料観察の結果についてのディスカッション、から構成される。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	文化人類学の目的と方法： 文化人類学の目的と調査方法を理解する。						
2	日本人が米を主食とする理由： 小麦文化圏と米を主食とする文化圏の違いを生み出した理由を解する。						
3	中国の食文化： 多様な環境による多様な食材と調理方法が統合された結果、現在の中華料理が成立したことを理解する。						
4	東南アジア島部の食文化： 伝統的には手食である理由を理解する。						
5	東南アジア大陸部の食文化： 他地域で主食の豆・イモ・瓜類が少ない、といった独自性を理解する。						
6	日本と南アジアの食文化比較： カレーの比較を通して、日本と南アジアの違いを理解する。						
7	炊飯実験： 薪と土鍋による調理の特徴を体験を通して理解する。						
8	調理実験のまとめ： 薪と土鍋による調理の特徴を理解する。						
9	炊飯方法とオカズ調理方法の結びつき： 米の粘り気度とオカズの特徴（汁気の多さ）が結びついていることを理解する。						
10	弥生・古墳時代の調理方法： 東南アジア民族誌と共通する米の種類と調理方法が用いられたことを理解する。						
11	古代の米蒸し調理： 弥生・古墳時代の粘り気の弱い米から中世の粘り気の強い米への交代期に「ウルチ米を蒸す」調理が用いられた理由を理解する。						
12	米飯の食べ方の変化： 手食から箸食への変化を生み出した要因を理解する						
13	和食の成立過程： 「1汁〇菜」「粘り気の強い米飯を箸食」「食材自体の味を味わう」などの特徴の成立過程を理解する。						
14	調理実験をもとにしたレポート作成の仕方の説明						
15	レポート作成についての質疑応答						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	40	・自分自身の見方でレポートを作成する。 ・自分の考えをわかりやすく発表できるようになる。 ・必要な参考資料にできるだけ多く目を通す。		課題提出と小テスト	40	・実験のまとめや授業で出された課題の達成状況。	
授業参加態度	20	・ディスカッションに活発に参加する。 ・授業中に行うワーク（課題）の達成状況					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
・調理実験を行う。授業時間前後に時間が取れない場合は週末に行う。 ・指定された参考文献（PDF ファイルを共通フォルダーに保存）をしっかりと読んで、授業に臨む。場合によってはレジュメを作成する。（毎週1時間以上） ・講義内容でわからない部分があったら、講義後に復習して調べる。				6回以上、授業中に小課題行い、提出する。			
受講生に望むこと	食文化史は分らないことが多い分野なので、食文化史のなぞに対して自主的・積極的に調べることを希望します。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	課題文献は共通フォルダーにPDFで保存されているので、各自がプリントして目を通しておく。		

授業科目名	S0110U 現代社会と福祉 I		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>現代社会において、人々の生活問題は拡大化し、多様化している。この生活問題を解決・緩和し、さらには予防していくのが社会福祉である。授業では、現代社会における生活問題と福祉制度の意義や理念、福祉の原理をめぐる理論と哲学等について学ぶ。さらに、福祉制度の発展過程や福祉政策の課題等について学ぶ。</p>			<p>①現代社会に求められるソーシャルワーカーについて理解できる。 ②生活問題と社会福祉について理解できる。 ③現代社会における福祉制度と福祉政策について理解できる。 ④福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解できる。 ⑤福祉制度の発展過程について理解できる。 ⑥福祉政策の課題について理解できる。 ⑦福祉政策におけるニーズと資源について理解できる。</p>				
教授方法	テキストによる講義を中心に、必要に応じグループディスカッションを取り入れる。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	現代社会に求められるソーシャルワーカーについて学ぶ。						
2	生活問題と社会福祉について学ぶ。						
3	現代社会における福祉制度と福祉政策について学ぶ。						
4	福祉の原理をめぐる理論と哲学：社会福祉の目的と自立生活のとらえ方について学ぶ。						
5	福祉の原理をめぐる理論と哲学：「社会の制度」としての救済制度と社会福祉思想について学ぶ。						
6	福祉制度の発展過程：わが国における福祉制度の発展（前近代社会と福祉）について学ぶ。						
7	福祉制度の発展過程：わが国における福祉制度の発展（近代社会と福祉）について学ぶ。						
8	福祉制度の発展過程：わが国における福祉制度の発展（現代社会と福祉）について学ぶ。						
9	福祉制度の発展過程：欧米における福祉制度の発展について学ぶ。						
10	福祉政策の課題：福祉国家の国際比較（「福祉の生産」モデルと社会福祉政策等）について学ぶ。						
11	福祉政策の課題：福祉国家の国際比較（日本モデルの特徴等）について学ぶ。						
12	福祉政策の課題：社会福祉政策の新しい動向（ワークフェア等）について学ぶ。						
13	福祉政策の課題：社会福祉政策の新しい動向（ディーセントワーク等）について学ぶ。						
14	福祉政策におけるニーズと資源：社会生活ニーズについて学ぶ。						
15	福祉政策におけるニーズと資源：サービス・ニーズについて学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	80	・毎回の講義内容についてどれだけ理解しているか。		授業参加状況	20	・授業への積極的な取り組み ・ワークシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持ったことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③日頃から社会福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。				毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の冒頭に解説を行う。			
受講生に望むこと	受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。			教科書・テキスト	『現代社会と福祉』 第2版 大橋謙策・白澤政和 編 (株) ミネルヴァ書房 2014年 ISBN978-4-623-06964-4		
指定図書参考書等	なし/授業において紹介			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0115U 現代社会と福祉II		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>現代社会において、人々の生活問題は拡大化し、多様化している。この生活問題を解決・緩和し、さらには予防していくのが社会福祉である。授業では、社会福祉政策の策定過程、社会福祉制度、福祉サービスの供給やサービス利用について学ぶ。また、福祉政策と関連政策（医療政策、教育政策、住宅政策、労働政策等）の関係や海外の社会福祉等について学ぶ。</p>			<p>①社会福祉政策の策定過程について理解できる。 ②社会福祉制度について理解できる。 ③福祉サービスの供給について理解できる。 ④サービス利用について理解できる。 ⑤福祉政策と関連政策について理解できる。 ⑥海外の社会福祉について理解できる。 ⑦これからの社会福祉理論とソーシャルワークについて理解できる。</p>				
教授方法	テキストによる講義を中心に、必要に応じグループディスカッションを取り入れる。						
履修条件	現代社会と福祉Iの履修済が望ましい。（単位未修得可）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	社会福祉政策の策定過程：政策決定過程について学ぶ。						
2	社会福祉政策の策定過程：政策評価について学ぶ。						
3	社会福祉制度：社会福祉の法律と社会福祉基礎構造について学ぶ。						
4	社会福祉制度：社会福祉関係法制の展開について学ぶ。						
5	社会福祉制度：福祉サービスの供給とソーシャルワーカー等について学ぶ。						
6	社会福祉制度：ソーシャルワークと社会福祉制度の活用について学ぶ。						
7	福祉サービスの供給：福祉サービスの供給主体について学ぶ。						
8	福祉サービスの供給：福祉供給システムの多元化と財政について学ぶ。						
9	サービス利用：福祉サービスの利用主体について学ぶ。						
10	サービス利用：福祉サービスの利用過程について学ぶ。						
11	福祉政策と関連政策：医療政策とソーシャルワークについて学ぶ。						
12	福祉政策と関連政策：教育政策・住宅政策とソーシャルワークについて学ぶ。						
13	福祉政策と関連政策：労働政策・権利擁護政策とソーシャルワークについて学ぶ。						
14	海外の社会福祉について学ぶ。						
15	これからの社会福祉理論とソーシャルワークについて学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	80	・毎回の講義内容についてどれだけ理解しているか。		授業参加状況	20	・授業への積極的な取り組み。 ・ワークシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持ったことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③日頃から社会福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。</p>				<p>毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の冒頭に解説を行う。</p>			
受講生に望むこと	受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。			教科書・テキスト	『現代社会と福祉』 第2版 大橋謙策・白澤政和 編 (株) ミネルヴァ書房 2014年 ISBN978-4-623-06964-4		
指定図書参考書等	なし/授業において紹介			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0120U 心理学概論A		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	木島 恒一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
心理学は「こころ」を科学的に解明することを目指す学問です。その領域は多岐にわたっており、またそれぞれがさらに専門化されています。この講義では、心理学の基礎的な領域を取り上げて、その領域の基本概念と理論、研究を学びます。具体的には、私たちがどのように世界を受けとめるかを理解するために感覚・知覚、感情について学びます。そして心理学から見た自己理論とパーソナリティ(性格)を学びます。また、私たちの行動、人となりなどがどのように形成されるかを理解するために学習、発達を学びます。			①科学的心理学の考え方、研究方法、研究分野について理解している。 ②視知覚を中心に、私たちの知覚のメカニズム、認知のメカニズムに習熟している。 ③心理学における自己理論を理解し習熟している。 ④性格と知能についての理論を理解している。また、個人の性格特徴を測定する方法を習得している。 ⑤古典的条件づけとオペラント条件づけを理解し、これらの学習理論に基づいて自分自身や他者の行動を説明できるようになる。 ⑥感情が生じる起源、感情と表情の関係を習得する。 ⑦人の発達についての代表的な理論を習得し、理論間の違いを深く考察できるようになる。				
教授方法	教科書、参考図書、プリントを用いた講義形式による。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：心理学という学問の概要（歴史、分野、研究方法）を学ぶ。						
2	感覚・知覚(1)：視知覚を中心に、感覚・知覚がどのように成立するのかを考える。						
3	感覚・知覚(2)：錯覚という現象をとおして知覚の働きについて考察する。						
4	心理学的自己理論①：ジェームズとミードの自己理論をとおして心理学からみた「自己」について考察する。						
5	心理学的自己理論②：最近の自己研究について学ぶ。						
6	パーソナリティ①：性格の類型論について学ぶ。						
7	パーソナリティ②：性格特性論と知能について学ぶ。						
8	パーソナリティ③：性格検査と知能検査を学ぶ。						
9	学習①：古典的条件づけについて学ぶ。						
10	学習②：オペラント条件づけについて学ぶ。						
11	学習③：社会的学習について学ぶ。						
12	感情①：感情の生まれる心理的メカニズムについての理論を学ぶ。						
13	感情②：感情の過程について考察する。						
14	発達①：発達の要因について学ぶ。そしてピアジェの発達理論を学ぶ。						
15	発達②：人の一生を通じての発達を取り上げたエリクソンの発達理論を学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	70	授業で学んだことをどのくらい身につけたかを重視する。		小レポート(3回くらい)	30	教科書の指定箇所の要約が求められる。インターネットからのコピー&ペーストは0点とする。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①心理学に限らず、どの学問にも専門用語があります。授業中に定義などを明記しますが、皆さんも心理学辞典などを使って積極的に復習して、専門用語の意味を理解するように努めてください。 ②授業の終わりでは、次回の講義テーマとそれに該当するテキストの箇所を提示しますので、事前に読んで、予習しておいて下さい。【①②合わせて30分】 ③3回ほど小レポートを提出してもらいますが、これは自分できちんと調べて予習する、という意味があります。必ず小レポートを書いて下さい。【30分】			小レポートの内容については、提出後の講義の中で解説します。				
受講生に望むこと	大学の授業は、受動的に聞いていればよい、というものではありません。自分から専門用語の意味を再確認し、基礎的な知識を広げておく必要があります。予習が難しかったら、せめて復習だけでもいいですから、取り組んでいただきたいと思います。		教科書・テキスト	『誤解から学ぶ心理学』 木島恒一・野瀬 出・山下 雅子（共編） 勁草書房 2013年 ISBN 978-4-3262-5086-8			
指定図書参考書等	なし／『はじめてまなぶ心理学（第二版）』 木村 裕 編著 アートアンドプレーン 2000年 ISBN 978-4-901016-15-5		その他・特記事項	授業中の私語を禁止します。携帯電話・スマートフォンもマナーモードにしてカバンにしまってください。			

授業科目名	S0125U 心理学概論B		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	木島 恒一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
心理学は「こころ」を科学的に解明することを目指す学問です。その領域は多岐にわたっており、またそれぞれがさらに専門化されています。この講義では、まず、人を行動へと駆り立てる欲求と動機づけについて学び、次いで社会との関わりの中での対人認知、対人行動について学びます。また、思考（特に創造的思考）について学んだ後、記憶のメカニズムについて考察します。最後に臨床心理の基本的知識を学び、また応用心理学が扱うテーマの代表的なものを考察します。			①欲求・動機づけについて習得し、人の行動を説明できる。 ②社会的認知（対人知覚、帰属理論、認知的斉合性理論など）の諸理論を習得し、自分や他者の行動を説明できる。 ③対人行動、集団の中での行動の特徴について習熟する。 ④思考の種類、創造的思考、記憶について習得する。 ⑤臨床心理の基本的知識を習得する。 ⑥心理学の知見を現実社会の諸現象に適用し、分析できるようになる。				
教授方法	教科書、参考図書、プリントを用いた講義形式による。						
履修条件	「心理学概論A」の履修済みが望ましい。（単位未修得可）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	欲求と動機づけ①：一次的欲求と二次的欲求について学ぶ。次に欲求階層説について考察する。						
2	欲求と動機づけ②：動機づけの種類、特徴について学ぶ。また、フラストレーションと葛藤について学ぶ。						
3	社会的認知①：他者についての知覚（対人認知）について学ぶ。						
4	社会的認知②：他者の行動の原因、出来事の生じた原因についての帰属理論を学ぶ。						
5	社会的認知③：対象に対する認知に矛盾が生じると、人はその矛盾をなくして、認知が整合したものとなるようにする傾向がある。認知的不協和理論を中心に、この問題について考察する。						
6	社会的認知④：社会的態度と態度変化について学ぶ。						
7	社会的行動①：他者が側にいることの効果として社会的促進、同調行動を学ぶ。						
8	社会的行動②：他者との関係の中で私たちがとる行動について学ぶ。						
9	思考①：問題解決と創造的思考について考える。						
10	思考②：集団での意思決定について学ぶ。						
11	記憶：記憶がどのような種類に分類されるかを学ぶ。また、記憶が歪曲されるメカニズムについても考察する。						
12	臨床心理①：カウンセリング・心理療法の基本的な考え方について学ぶ。						
13	臨床心理②：精神分析理論について考察する。						
14	応用心理①：心理学の理論や方法、知見を応用した諸分野の研究について考察する。						
15	応用心理②：心理学の理論や方法、知見を応用した諸分野の研究について考察する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	70	授業で学んだことをどのくらい身につけたかを重視する。		小レポート (3回くらい)	30	教科書の指定箇所の要約が求められる。インターネットからのコピー&ペーストは0点とする。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①心理学に限らず、どの学問にも専門用語があります。授業中に定義などを明記しますが、皆さんも心理学辞典などを使って積極的に復習して、専門用語の意味を理解するように努めてください。 ②授業の終わりでは、次回の講義テーマとそれに該当するテキストの箇所を提示しますので、事前に読んで、予習しておいて下さい。【①②合わせて30分】 ③3回ほど小レポートを提出してもらいますが、これは自分でいろいろ調べて予習する、という意味があります。必ず小レポートを書いて下さい。【30分】			小レポートの内容については、提出後の講義の中で解説します。				
受講生に望むこと	大学の授業は、受動的に聞いていればよい、というものではありません。自分から専門用語の意味を再確認し、基礎的な知識を広げておく必要があります。予習が難しかったら、せめて復習だけでもいいですから、取り組んでいただきたいと思います。		教科書・テキスト	『誤解から学ぶ心理学』 木島恒一・野瀬 出・山下 雅子（編） 勁草書房 2013年 ISBN 978-4-3262-5086-8			
指定図書参考書等	なし／『はじめてまなぶ心理学（第二版）』 木村 裕 編著 アートアンドブレイン 2000年 ISBN 978-4-901016-15-5		その他・特記事項	授業中の私語を禁止します。また、携帯電話・スマートフォンはマナーモードにしてカバン等にしまっておいて下さい。			

授業科目名	SL105U 経営学入門		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>私たちの生活は、企業およびその経営と密接な関係がある。身近な事例を通じて、企業に関するさまざまなテーマが、私たちの身の回りに存在していることを理解する。さらに企業行動の基本的な原理と、その社会生活とのかかわりについて学ぶ。授業を通じて、「経営についての視点」を修得することを目的としている。</p>			<p>①授業で設定されたテーマを理解する。 ②授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。 ③授業で学んだ基本的な専門用語を使って、短い文章を作成できる。 ④授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。</p>				
教授方法	講義（毎回配布する資料に「書き込み」を行いながら、理解を深める形式をとる）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーションー生活の中で企業（経営）や社会との関わりを考えてみようー						
2	どんな会社があるか : 会社の種類や業界について理解する						
3	会社はだれのものか : 「株式会社」の仕組みについて学ぶ						
4	会社の一生 : 事例をもとに、会社の誕生から成長、衰退、倒産までを理解する						
5	会社の仕組み : 会社にはどんな組織があるのか、その構造がどうなっているかを学ぶ						
6	会社で働くこと : 労働とそのマネジメント、また労働組合について理解する						
7	会社を動かす（経営戦略1） : 会社のミッション（経営理念）や経営戦略の3つのレベルについて学ぶ						
8	会社を動かす（経営戦略2） : 経営戦略のうち「競争戦略」について理解する						
9	ものが売れる仕組み : 身近な事例をもとに、マーケティングの基本について学ぶ						
10	経済社会の動きと企業経営 : 日本経済の歴史をもとに、企業経営との関係について学ぶ						
11	経済社会の動きと企業経営 : 日本経済の歴史をもとに、企業経営との関係について学ぶ						
12	企業の社会的責任（CSR）と企業倫理 : 企業不祥事の事例から、企業の社会的責任や企業倫理について考える業について学ぶ						
13	新しい企業と経営のあり方 : NPOや近年注目されている社会的企業について学ぶ						
14	グローバル化時代の企業と経営のあり方 : 企業のグローバル化とそれに伴う経営課題について学ぶ						
15	まとめー全体を振り返り、今後の学びや進路選択に向けて考えてみようー						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	授業の配布資料から、穴埋めおよび論述問題を出題し、理解度を評価する		小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。(2回実施)	
授業参加状況	10	授業態度を評価対象とする。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと [30分] ②授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語と財務諸表のルールを理解し覚えること [60分]</p>				小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。			
受講生に望むこと	教室の中だけが学ぶ場所ではない。普段の生活の中で接する会社やお店、あるいはテレビ・雑誌広告などを通じ、会社の経営について興味・関心を持つことを期待する。			教科書・テキスト	なし(毎回資料を配布する)		
指定図書参考書等	なし/『はじめの一步 経営学(第2版)』守屋貴司・近藤宏一 ミネルヴァ書房 2012年 ISBN978-4-623-06331-4			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW100U 地域福祉論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
地域福祉の基本的考え方について理解を深めるとともに、地域福祉を推進する組織・機関・専門職の役割やボランティア・NPO・地域住民等の活動、また、具体的な連携方法について学ぶ。また、具体的事例を検討することにより、求められる地域福祉のあり方について考察する。			①講義を通して地域福祉の発展過程と現状、今後求められる方向性について理解する。 ②地域の現状や生活課題、その解決方法を学ぶことにより、地域福祉の必要性を認識する。 ③事例を通して、専門職や地域住民・ボランティア、専門機関・団体、行政等の具体的な役割・取り組み・支援の視点を学ぶ。				
教授方法	講義・グループワーク						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス						
2	地域福祉の基本理念 地域福祉の考え方、概念・理念について学ぶ						
3	人びとの暮らしの実際と課題（1） 具体的事例を題材に地域福祉の意義について学ぶ。						
4	地域福祉計画 地域福祉推進の背景と必要性について学ぶ。						
5	コミュニティソーシャルワークとはなにか コミュニティソーシャルワークと専門職の役割について学ぶ。						
6	地域福祉と住民参加 地域福祉推進における住民参加の意義、参加の形態などについて学ぶ。						
7	ソーシャルサポートネットワークとは ソーシャルサポートネットワークの概念と展開方法について学ぶ。						
8	社会福祉協議会とは 社会福祉協議会の歴史的展開と役割について学ぶ。						
9	人びとの暮らしの実際と課題（2） 具体的事例を題材に地域福祉の意義について学ぶ。						
10	人びとの暮らしの実際と課題（3） 具体的事例を題材に地域福祉の意義について学ぶ。						
11	自然災害と地域福祉（1） 復旧・復興過程における社会福祉的諸課題について学ぶ。						
12	自然災害と地域福祉（2） 災害時要配慮者について学ぶ。						
13	グループワーク 過去の災害の実際の事例についてグループで検討する。						
14	自然災害と地域福祉（3）事前復興・減災と地域福祉の関係性について学ぶ。						
15	まとめ・総括						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	10	講義への積極的参加		レポート	30	提出状況と内容（課題に対する意見・提案の的確さ）	
小テスト	10	講義で学んだことの理解度		期末試験	50	講義で学んだことを理解できているか	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義に関するレジュメを事前に配布するので必ず目を通しておくこと。[30分] ミニテスト等を実施するので学習内容を復習すること [30分]				講義内で適宜ミニテストを実施し、理解度を確認する。			
受講生に望むこと	世の中で起きていることに関心を持つこと。			教科書・テキスト	新・社会福祉士養成講座9『地域福祉の理論と方法』 第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編集、中央法規出版、 2015年、ISBN978-4-8058-5105-0 その他、必要に応じてレジュメ・資料を配布する。		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW105U 児童福祉論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業では、歴史の変遷を踏まえた本質的な理解を大切にしながら、児童福祉の制度や実践に関する幅広い知識を学習する。また、児童福祉から子ども家庭福祉への展開、子どもの権利擁護、少子高齢社会における社会環境・家族構造の大きな変化といった現代的課題についても掘り下げて考えていく。			①児童福祉という領域が設定されることの意義や目的について、適切に理解することができる。 ②児童福祉の歴史について正しく理解することができる。 ③児童福祉に関する諸制度の目的と現状について、歴史的経緯を踏まえながら正しく理解することができる。 ④児童福祉に関わる様々な組織・機関・主体について、正しく理解することができる。 ⑤児童福祉に関わる現代的な諸問題について、正しく理解することができる。 ⑥児童福祉に関する知識を土台として、社会福祉における各領域に活用可能な知識を正しく理解することができる。 ⑦児童福祉に関する知識を土台として、社会のあり方・社会における連帯のあり方について、自らの考えを明らかにすることができる。				
教授方法	講義（一部、映像教材の視聴や個人ワークを採り入れることもある。）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：「児童福祉」から「子ども家庭福祉」への展開を意識しながら、児童福祉の意義について考え、本科目の意義や目標を整理する。						
2	児童福祉の歴史①：総論的な社会福祉史を踏まえつつ、児童福祉の理念を捉え、その歴史を概観する。						
3	児童福祉の歴史②：児童福祉の主体／客体に注目しながら、我が国における児童福祉の歴史を理解する。						
4	児童福祉の制度①：基本法である児童福祉法を中心に、児童福祉に関わる法制度、ならびに児童福祉に関わる機関・専門職について学ぶ。						
5	児童福祉の制度②：権利擁護をキーワードとしながら、子どもの権利条約について学ぶ。						
6	小括：ここまでの学習内容を範囲とする小テストを実施する。						
7	生育段階に応じた児童福祉①：家庭への支援の意義を意識しながら、母子保健を中心に学ぶ。						
8	生育段階に応じた児童福祉②：子ども・子育て支援新制度や幼保一体化といった新しい問題を押さえつつ、保育制度について学ぶ。						
9	生育段階に応じた児童福祉③：少子化や子育て環境の変化を踏まえつつ、児童の健全育成について学ぶ。						
10	困難を抱えた児童・家庭への支援①：今日の社会情勢を踏まえつつ、ひとり親家庭への支援について学ぶ。						
11	困難を抱えた児童・家庭への支援②：理念や社会的反応の変化を押さえながら、障害・難病のある子どもと家庭への支援について学ぶ。						
12	困難を抱えた児童・家庭への支援③：社会／心理の両側面を意識しながら、非行や情緒障害、発達障害について連続的に学ぶ。						
13	児童福祉と養護①：児童虐待の定義、実際、対策について学ぶ。						
14	児童福祉と養護②：社会的養護サービスについて、社会的意義と制度・実践について学ぶ。						
15	総括：本科目を通じて学習した内容について振り返り、それぞれの立場からの「児童福祉」への関わりについて考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。		試験①	20	第1回～第5回の学習内容について、用語や概念、歴史等についての基本的な理解度を確認する筆記試験を行う。	
試験②	60	主に第7回～第15回の学習内容について、学習内容を正しく理解した上で、自らの態度・意見を表明することができるような、記述を中心とする筆記試験を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①各回の授業で学習した児童福祉に関わる用語や概念を正しく理解・暗記できるように復習する。[45分] ②各回の授業で学習した児童福祉に関わる用語や概念を、社会福祉全般の中で正しく位置付ける、あるいは他の各論領域と比較することができるように理解を深める。[45分] ③各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]				・各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、そこでの質問は次回に全体共有する。			
受講生に望むこと	・福祉の支援は決して一面的なものではないので、多様な視点から問題を切り取ることが大切である。そのため、自らの価値観は大切にしつつ、様々な知識と理解を吸収しようとする姿勢を持つことが望ましい。			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）		
指定図書参考書等	＜参考書＞ 『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度（第6版）』 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2016年 ISBN:978-4805853023 ※同種のテキストでも特に問題はないが、法制度の改正に合わせて適宜版が改められ、内容が更新されることに注意が必要である。 ※資格取得に向けたテキスト以外の基本書・概説書を含めて読み込むことで、価値・理念を掘り下げて理解することが望ましい。			その他・特記事項	・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。		

授業科目名	SB100U 生涯学習概論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	高橋 律子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「生涯学習」とは「生涯にわたって学ぶこと」である。今日では当たり前のように受け止められている「生涯学習」であるが、自主的な「学び」は、「学ぶことのできる社会」の支援により豊かさを増す。「学ぶ」ことは「よりよく生きる」ことでもある。それぞれが、これまでの人生を振り返り、将来の生き方も見据えながら、「生涯学習」の意義とあり方について考えることを授業の目的とする。講義中心だが、施設見学等も含め具体的な学習支援の方法と内容の理解を深め、実質のある「生涯学習論」の習得を期待する。</p>			<p>①それぞれの人生を振り返りながら、生涯学習のあり方を考えることができる。 ②生涯学習に関わる政策の知識を持つ。 ③レポート作成を通じて、自分の考えをまとめることができる。</p>				
教授方法	講義と見学						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価についての説明 生涯学習とは何か：自分や家族の「学び」について振り返り、生涯にわたる学習の多様性について理解します。						
2	生涯学習の役割：生涯学習が個々の人生においてどのような役割を果たしているか、また社会における役割についても考えます。						
3	生涯学習に関わる政策の展開：生涯学習が政策においてどのように進められてきたか学びます。						
4	芸術文化活動と生涯学習：美術館での生涯学習を例に、芸術文化と生涯学習がどのように関わりをもっているか考えます。						
5	生涯学習施設について：生涯学習施設とはどのような施設をさすか、またどのような活動がされているかについて学習します。						
6	生涯学習施設見学：複数の生涯学習を見学し、比較することで、どのような活動が行われ、どのような工夫がなされているか、発見することを目的とします。						
7	生涯学習施設見学：複数の生涯学習を見学し、比較することで、どのような活動が行われ、どのような工夫がなされているか、発見することを目的とします。						
8	生涯学習施設見学：複数の生涯学習を見学し、比較することで、どのような活動が行われ、どのような工夫がなされているか、発見することを目的とします。						
9	学習支援の方法：生涯学習を支援する方法としてどのような方法があるのか具体的に説明します。						
10	学習者のニーズ：学習支援をしていく上で、学習者のニーズをつかむ必要があります。年齢層等に配慮しながら、求められる学習内容について考えていきます。						
11	学習プログラムの作成について：生涯学習の学習プログラムがどのように作られているか、具体的に説明します。						
12	学習プログラムの作成演習：実際に学習プログラム案を作成し、必要な知識、態度などを理解します。						
13	現代社会における学習課題：生涯学習の場において、現代社会ではどのような課題に取り組んでいくべきか考えます。						
14	これからの生涯学習のあり方：新しいメディアを活用し、どのように生涯学習は進められていくか理解し、考えます。						
15	全体のまとめ、レポート作成。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	50	<p>積極的な授業参加態度を重視する。 ・生涯学習に対する理解を深めようとする意識。 ・他の意見に耳を傾け、積極的に発言する。</p>		課題レポート	50	<p>各レポートの詳細は授業で説明を行うが、下記評価基準による。 ・課題に沿っている。 ・授業での学びをもとに作成している。 ・自分の考察を加えて記入している。</p>	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>① 授業に参加する前に自分がこれまでどのように「学習」（学校内、学校外とも）してきたか、振り返っておいてください。[30分] ② 家族のなかから一人選び、その人の「学習」経験についてインタビューしておくこと。[60分]</p>			<p>・授業内で提出するレポートはコメントを付けて返却します。</p>				
受講生に望むこと	<p>①意見発表の場を多くもうけます。積極的な態度で授業に臨みましょう。 ②提出物の期限は必ず守ること。</p>		教科書・テキスト	鈴木眞理・永井健夫・梨本雄太郎『生涯学習の基礎 [新版]』学文社、2011 ISBN:978-4762021431			
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			

社会学科
(2年次)

授業科目名	SK200U プロゼミA		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	小林 正史・木島 恒一・俵 希實・田引 俊和・若山 将実・松下 健 (代表教員 小林 正史)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
1年次では、大学での学習に必要な基本的技術や作法（これをアカデミック・スキルといいます）を基礎ゼミⅠ・Ⅱにおいて学んできました。2年次では、3年生から始まる専門ゼミの予行演習の位置づけとして設定されているプロゼミにおいて、自分の興味関心のある分野を選び、それを専門とする教員の指導の下にやや専門性の高い内容について学びます。			①指定テキストの内容を理解する。 ②指定テキストの担当部分のレジュメを作成できる。 ③自分が担当する部分について、レジュメにもとづき発表できる。 ④他者の発表を聞いて、自分の考えをもちディスカッションに参加できる。 ⑤プロゼミにおいて学んだ内容についてレポートにまとめることができる。				
教授方法	ゼミごとによる演習。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ゼミ内での自己紹介、各ゼミのゼミ運営についての説明など。					各担当教員	
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
14	プロゼミ A の活動のまとめ（ゼミごとに半期のゼミ活動を総括する）					各担当教員	
15	後期科目の履修指導、プロゼミB選択についての説明、その他諸連絡（合同）					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・文字数・枚数になっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文になっているか。		レジュメ作成と発表	30	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。	
ゼミへの参加態度と意欲	30	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。 ③課題にまじめに取り組む姿勢があるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
ゼミごとに求められる内容が異なるので、自分の所属するゼミの担当教員の指導にしたがうこと。 ・ゼミで指定されたテキスト、参考図書、資料等をよく読み考えをまとめる。 ・日頃から新聞を読み、社会の事象を意識するように努める。				各担当教員から説明する。			
受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミの学びへとつながっていくので、指導教員の指示にしたがって指導を受けるのはもちろんのこと、自ら学ぶという強い意欲と授業への積極的な参加態度を望みます。			教科書・テキスト	ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。		
指定図書／参考書等	ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。			その他・特記事項	ゼミ単位で指導を行うので、不明な点は自分の所属するゼミ教員に問い合わせること。		

授業科目名	SK205U プロゼミB		開講学科	社会科学	必修・選択	必修	
担当教員名	田中 純一・西村 洋一・真砂 良則・竹中 祐二・若杉 亮平 (代表教員 田中 純一)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
1年次では、大学での学習に必要な基本的技術や作法（これをアカデミック・スキルという）を基礎ゼミⅠ・Ⅱにおいて学んできた。2年次では、3年生から始まる専門ゼミの予行演習の位置づけとして設定されているプロゼミにおいて、自分の興味関心のある分野を選び、それを専門とする教員の指導の下に、やや専門性の高い内容について学んでいく。			①指定テキストの内容を理解する。 ②指定テキストの担当部分のレジュメを作成する。 ③自分が担当する部分について、レジュメに基づき発表する。 ④他者の発表を聞いて自分の考えを持ち、ディスカッションに参加する。 ⑤プロゼミにおいて学んだ内容について、レポートにまとめることができる。				
教授方法	各ゼミごとによる演習						
履修条件	「プロゼミA」を履修した者（単位未履修者可）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	前半：実習Ⅱ関わる成績についての指導（合同）、後半：ゼミ内での自己紹介、各ゼミ運営についての説明、成績指導					全員	
2	各ゼミ担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
3	各ゼミ担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
4	各ゼミ担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
5	各ゼミ担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
6	北陸学院セミナーⅡについての説明・テーマに沿ったディスカッションと発表					各担当教員	
7	各ゼミ担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
8	各ゼミ担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
9	各ゼミ担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
10	各ゼミ担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
11	各ゼミ担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
12	各ゼミ担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
13	プロゼミBのまとめ（ゼミごとに半期のゼミ活動を総括する）					各担当教員	
14	4年生卒業研究・卒業レポートに参加し、簡単なレポートにまとめる（※特記事項参照）					全員	
15	3年前期履修説明・指導、専門ゼミⅠについての説明と選択、その他諸連絡（合同）（※特記事項参照）					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
ゼミへの参加姿勢	30	①議論への積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。 ③課題にまじめに取り組み学ぼうとする姿勢があるか。		レジュメの作成と発表	30	①わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。	
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・字数・枚数になっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文章になっているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の購読など。 ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、レポートの準備をする。 上記①及び②を踏まえつつ、講義に関するレジュメを事前に配布するので必ず目を通しておくこと。[30分] 学んだことはその日のうちに復習すること [30分]				各担当教員の指導にしたがう。			
受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミの学びへとつながっていくので、指導教員の指示にしたがって指導を受けるのはもちろんのこと、自ら学ぶという、強い意欲と授業への積極的な参加が望まれる。			教科書・テキスト	各ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。		
指定図書／参考書等	各ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。			その他・特記事項	①卒業研究・専門ゼミⅡレポート報告会については、2月の試験期間後に行われる。具体的な日程は別途知らせるので、必ず参加すること。 ②専門ゼミⅠの説明会および単位履修指導については、上記報告会後に行われる。必ず出席すること。		

授業科目名	SK210U 質的研究法		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	俵 希實						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	社会調査士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会調査法における質的なアプローチを学ぶ。質的調査の歴史、考え方、特徴、仮説と理論についての説明、さらに事例を示しつつ、さまざまな質的データの収集方法や分析方法についての解説を行う。研究目的に適合した調査手法の選び方、調査設計の仕方、実査の進め方、調査結果の解釈の仕方を学ぶ。そして、学んだことをもとにグループで調査を行い、実践的な知識とノウハウを習得する。</p>			<p>①質的研究法の基本的な考え方を理解する。 ②質的研究法を用いた研究事例について、分析手法の選択および研究手続きの妥当性が判断できるようになる。 ③質的調査を行うための実践的な知識および技術を習得する。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	学部生であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	イントロダクション：自分の日常生活を再発見することから質的調査のイメージをつかむ。						
3	質的調査の歴史と考え方：これまでの質的調査の歴史はどのように展開されてきたのか。調査を実際に進める中でうみだされてきた考え方について学習する。						
4	質的調査の特徴・魅力・難しさ：質的調査と量的調査の違い、質的調査と量的調査の関係、質的調査の難しさと魅力を理解する。						
5	仮説と理論：仮説とは何か、理論とは何か、基本的なことを理解する。						
6	リサーチ・クエスチョンを考える：リサーチ・クエスチョンの導き方を学ぶとともに、実際に考えてみることで理解を深める。						
7	観察法①：事例をもとに観察法の進め方を理解する。						
8	参与観察法：事例をもとに参与観察法の進め方を理解する。						
9	観察法②：グループワーク。実際にインタビュー法を用いた調査を行い、その結果を発表する。						
10	インタビュー法①：事例1をもとにインタビュー法の進め方を理解する。						
11	インタビュー法②：事例2をもとにインタビュー法の進め方を理解する。						
12	インタビュー法③：グループワーク。実際にインタビュー法を用いた調査を行い、その結果を発表する。						
13	文化資料分析法①：事例をもとに文化資料分析法の進め方を理解する。						
14	調査倫理：社会的行為としての社会調査であることを理解する。						
15	文化資料分析法②：グループワーク。実際に文化資料分析法を用いた調査を行い、その結果を発表する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	15	積極的に授業に参加しているか。		発表	35	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②論理的な構成となっているか。 ③聴衆にとってわかりやすい発表となっているか。 ④他のグループ発表に対して質問しているか。	
定期試験	50	授業内容を理解しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>調査課題を出すので、グループで計画し、それに従って調査を実施、その結果をまとめ、パワーポイントでの発表の準備を行うこと。事前学習として、テキストの該当箇所を読んでくること。事後学習として、授業中に配布したレジュメの内容を確認し、復習すること。（60分）</p>				各グループの発表に対してコメントする。また、総評を述べる。			
受講生に望むこと	授業で得た知識やスキルを他の授業や授業以外でも活用するようにしてください。			教科書・テキスト	工藤保典・宮垣 元・寺岡伸悟編『質的調査の方法—都市・文化・メディアの感じ方』法律文化社、2016年 ISBN 978-4-589-03805-0		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのF科目に準拠していません。		

授業科目名	S0200U 心理統計学 I		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	木島 恒一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・社会調査士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>心理学・社会学が科学として成立するためには、実験・調査等によって得られたデータを統計学的に処理し、実証的に検討していく必要がある。本講義では、統計学の基本的な考え方、基礎的知識を学んだ上で、記述統計学と推測統計学の基礎と主要な分析方法について学ぶ。</p>			<p>①統計学の用語を覚え、適切に使用できる。 ②統計処理の基本的な知識を用いて数量データを集計することができる。 ③集計された表やグラフを正確に読み解くことができる。 ④統計的仮説検定のしくみを理解し、実際に分析することができる。</p>				
教授方法	講義、演習。						
履修条件	表計算ソフト（Excel）を使えること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	統計学の基礎：統計学の基本的な考え方と、演算記号の意味について学ぶ。						
2	標本と母集団：標本から母集団の特徴を推定するという考え方について学ぶ。またデータの尺度の種類についての理解を深める。						
3	データのまとめ方：Excelを用いたデータシートの作成と、度数分布表・ヒストグラムを学ぶ。						
4	代表値と変動の指標：データを代表する値と、変動（バラツキ）を表す値について学ぶ。						
5	理論分布と確率：正規分布を中心に、理論分布と確率についての理解を深める。						
6	正規分布と標準得点：標準得点により大きい面積と確率の関係を理解する。そして「統計的有意性」という考え方の基礎を学ぶ。						
7	検定の基本：帰無仮説と対立仮説、有意水準について学ぶ。						
8	2つの平均の差の検定（1）：対応のないt検定について学ぶ。						
9	2つの平均の差の検定（2）：対応のあるt検定について学ぶ。						
10	分散分析：一元配置分散分析について学ぶ。						
11	相関：正の相関、負の相関、無相関の違いを理解し、相関の強さをみる統計量としての相関係数の計算方法を学ぶ。						
12	回帰（1）：回帰についての基本的な考えを理解する。そして回帰直線の傾きと切片の求め方を学ぶ。						
13	回帰（2）：練習問題によって、回帰直線の傾きと切片の計算法を確認する。						
14	ノンパラメトリック検定（1）：ノンパラメトリック検定についての基本的なことを理解し、ウィルコクソンの順位和検定とU検定について学ぶ。						
15	ノンパラメトリック検定（2）：カイ2乗検定と、順位相関係数について学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	講義で学んだことの理解度をみる。		講義への参加度	30	課題の提出状況と、授業への取り組み姿勢から評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>心理統計学は、基礎から1つずつ学びを積み重ねていく教科である。そこで、授業外でも次のことを心がけてほしい。 ①各回の授業前に、教科書の当該箇所を目を通しておくこと。[30分] ②授業のあった日の内に復習をすること。[30分]</p>				提出された課題については、計算の正誤をチェックして返却する。			
受講生に望むこと	①この講義は基礎からの積み重ねで学んでいく教科である。15回の内容は連続していますので、できるだけ欠席せずに講義を受けてほしい。 ②予習・復習を必ず行うこと。 ③電卓を用意する。			教科書・テキスト	『入門 統計学—検定から多変量解析・実験計画法まで』 栗原伸一著 オーム社 2011年 ISBN 978-4-274-06855-3		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0205U 社会学理論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田邊 浩						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>多くの人々は社会のことを「当たり前だ」と思っている中にも、不思議なこと、けれども、よく考えてみると、「当たり前だ」と思っていることの中にも、不思議なことはいっぱいあります。実はわたしたちが生活している社会はたまたまそのような社会としてあるだけで、決して「当たり前」のものではないし、必然でもないのです。でも、ふだん生活している時にはそのことにはなかなか気づきません。社会を違った目で見ると、有効な道具が社会学の理論です。理論を使えば、さまざまな社会現象がパッサリと切れて、社会の出来事がスッキリみえてきます。社会学理論はやや抽象的で、その意味で多少難しいですが、それらを理解することができれば、これほど頼りになる道具はありません。みなさんにも、社会学理論の切れ味を確かめてみてほしいと思います。</p>			<p>①社会的行為、コミュニケーション、地位と役割、社会制度、社会システムと社会構造など、社会学理論の基礎的な概念を理解する。 ②デュルケム、ヴェーバー、ジンメルなど、社会学を確立した古典的理論を理解する。 ③ハーバースマールマン、ギデンズ、ブルデューなど、近年影響力のある社会学理論を理解する。 ④これらをつづいて、社会を理解するための道具として、社会学理論を使えるようになる。 ⑤社会学理論を通じて、自分自身や自分のまわり、日常生活について、理解を深める。 ⑥社会学理論を通じて、私たちがいま生活している社会（モダンティ）を理解する。</p>				
教授方法	講義形式で行いますが、講義中に意見を求めることがあります。パワーポイントを使用します。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	社会とは何か：社会学は「社会」に関する学問です。では、社会とは何でしょうか。社会という言葉を知らない人はいないでしょうが、社会とは何かという問いに答えることは、難しいことです。社会学理論の出発点として、社会とは何かという問題について考えます。						
2	近代社会と社会学：社会学の研究対象である近代社会とはいかなる社会であるのか。社会学はどのように誕生したのか、社会学はどのような役割を担っているのかなど、社会学を学ぶことの意義について考えます。						
3	社会学の古典 (1) : E. デュルケムの社会学：社会学という学問の基礎を確立したのは3人の社会学者ですが、そのうちの一人デュルケムは、社会は個人の外に実在し、個人を拘束するものだと考えました。そうした彼の社会学的方法について考察します。						
4	社会学の古典 (2) M. ヴェーバーの社会学：ヴェーバーはデュルケムと並ぶ重要人物です。ヴェーバーは社会は実在するものではなく、個人の社会的行為からなっていると考えました。デュルケムと対比しながら、ヴェーバーの理論について紹介します。						
5	社会学の古典 (3) G. ジンメルの社会学：G. ジンメルは、社会学の研究対象は、人と人、人と集団、集団と集団の「相互作用」にあると考えました。ジンメルはそれら相互作用の形式について考察しました。こうした「形式社会学」について検討します。						
6	社会的行為とはなにか：社会学理論の基礎概念は行為です。人びとのふるまいを表す言葉として、行動という言葉もありますが、行為はこれとどう区別されるのか、行為が社会学の中でなぜ中核概念となるのか、行為にはどのようなタイプがあるのかについて考察します。						
7	地位と役割：私たちはさまざまな集団に所属しています。そして、その集団の中では、ある地位が与えられ、その地位とセットになった役割を遂行するのにふさわしい行為をすることが求められます。この地位と役割の概念について理解を深めます。						
8	社会システムと社会構造：社会システムと社会構造は、社会学理論において、きわめて重要な役割を担う概念です。これらの概念を理解することなくしては、社会学を研究することはおぼつきません。具体例を交えながら、それらの概念を理解します。						
9	機能主義の社会学：機能主義は社会学理論においてきわめて大きな影響力をもったアプローチです。その代表的存在はT. パーソンズですが、機能主義はその名のとおりに、社会システムの「機能」ということに注目するのがその特徴です。機能主義の考え方を理解します。						
10	意味学派的理論：機能主義社会学に対抗して、人間が「意味」をやりとりする、そしてそのことによって社会が成り立っていることに注目するさまざまな理論が現れました。現象学的社会学、象徴的相互作用論、エスノメソドロジーといった理論について紹介します。						
11	J. ハーバースマールのコミュニケーションの行為理論：ハーバースマールは相互行為の中でもとくにコミュニケーションの行為に注目して、独自の理論を作り上げました。人びとのコミュニケーションによる合意が社会を成り立たせているという意味について考えます。						
12	N. ルーマンの社会システム理論：パーソンズの遺産を受け継ぎながらも、それを批判的に消化して、さらに大胆に社会システム理論を革新した、ルーマンのオートポイエティック・システム理論について検討します。						
13	P. ブルデューの実践の理論：ブルデューは、行為と構造がハビトゥスによって媒介されていると考えました。ハビトゥスとは、人びとの慣習的行動を生み出す基盤になるような、ある種の性向の体系です。ハビトゥスとはなにかを中心に検討します。						
14	A. ギデンズの構造化理論：ギデンズは、行為と構造が相互に規定しあう関係にあると考えました。構造によって私たちの行為は拘束されている。けれども、構造によって私たちの行為は可能にもなっているということです。このことに意味について考えます。						
15	再び、社会学の理論とは：14回までの授業を振り返りながら、社会学をするうえでいかに理論というものが重要なものであるのか、大切なものであるのかを再確認します。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
学期末レポート	60	<p>論述式のレポートです。 ①基礎的な知識を習得していることが明確であること。 ②矛盾がなく、論理的であること。 ③自分なりの視点で構成されていること。</p>		小レポート	30	毎回、リアクション・ペーパーを配布し、受講して考えたこと、疑問に思ったことを記述してもらいます。自分なりの考えが含まれていることを重視します。	
授業参加状況	10	授業への取り組み姿勢を評価します。特に、講義中の質問に対する回答状況が重要です。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①自分で考えてみるのが大切です。講義で学んだことを自分の身の回りを例にして具体的に考えてみましょう。（20分） ②毎回の講義で学んだことがテキストのどの部分に書かれているかを指示します。講義の後で、指示された部分のテキストを丁寧に読んでみましょう。（60分） ③テキスト、参考書以外の文献も適宜紹介します。それらを図書館などで探し、実際に手にとってみましょう。（100分）</p>				リアクション・ペーパーに関して、参考になる質問や意見を次の講義開始時に取り上げて、それらに対してコメントする。			
受講生に望むこと	<p>①講義中に受講者のみなさんに質問することがあります。正解があるような質問ではないので、あなたの考えを聴くことなく回答してください。 ②パワーポイントに映し出されたことをすべてノートする必要はありません。重要なポイントのみ、きちんとノートを取りましょう。 ③著しく講義の進行の妨げになるような行為がある場合、退室してもらうなどの処置をすることがあります。</p>			教科書・テキスト	『社会学ベーシック 別巻 社会学的思考』井上俊・伊藤公雄編 2011年 ISBN-13: 978-4-7907-1525-2		
指定図書参考書等	なし/『社会学ベーシック 2 社会の構造と変動』井上俊・伊藤公雄編 2008年 ISBN-13: 978-4-7907-1349-4			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0210U 家族社会学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	俵 希實						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
現代の社会変動の中で、家族の形態と社会的機能、および個人にとっての家族の意味は大きく変わってきた。過去および現在における日本の家族にかんする様々な現象を取り上げ、その実態とメカニズムを解説する。さらに、家族社会学の基本的な概念や理論をふまえながら、現代社会における家族の諸相について考える。授業の前半はグループ発表とそれについての討議、後半は講義を行う。			①家族社会学に関する基本的な用語や概念を理解する。 ②現代日本における家族の動向を知る。 ③家族について、常識にとられない見方・考え方ができるようになる。				
教授方法	講義						
履修条件	学部生であること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する						
2	家族社会学の基礎（1）：家族の類型						
3	家族社会学の基礎（2）：家族の機能						
4	主婦の誕生：近代化と女性の主婦化						
5	家事の誕生：家事とは何かを「主婦論争」から考える						
6	結婚の動向（1）：恋愛結婚 婚姻率 離婚率 初婚年齢 結婚への志向についてのデータを読む						
7	結婚の動向（2）：収入と結婚 できちゃった婚 事実婚 国際結婚についてのデータを読む						
8	近代化と子どもの数の減少：経済的要因と社会的要因						
9	子どもの誕生：「子ども」の概念とその価値						
10	母の誕生：「母親」という役割は重要か						
11	核家族化：人口学的特殊性から考える						
12	子育て：親はだめになったのか						
13	高齢化社会と家族（1）：実態と見通し						
14	高齢化社会と家族（2）：家制度の崩壊						
15	多様化する家族：個人単位の社会へ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
発表	20	①テーマ選択は適切か。 ②論理的な構成となっているか。 ③質疑への応答ができているか。		提出物	20	①指定された期日に提出しているか。 ②指定された書式にしたがっているか。 ③自分の意見を書くことができているか。	
期末試験	60	授業内容について理解しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
グループ発表を課すので、グループでテーマを決め、それについて調べ、ディスカッションを重ねながら発表準備を行うこと。配布資料を事後に確認し、復習を行うこと。[60分]				各グループの発表に対してコメントする。			
受講生に望むこと	授業に関連するニュース等に関心を持ち、それについて考えるようにしてください。授業中の討議では、積極的に発言するように心がけてください。			教科書・テキスト	レジュメを配布する。		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0215U 都市社会学			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	俵 希實						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
現代社会は、一般に総都市化社会と言われる。社会学は、都市に住む人々の社会関係や生活様式の変化―都市化―を説明する。この講義では、都市化がコミュニティに及ぼす影響に関する研究を中心にあげ、背景となる都市そのものの変化に目を配りながら、学説的に理解するとともに、近年のグローバル化にともなう都市の変容について考える。				①都市社会学の基本的な概念を説明することができる。 ②自分たちが住んでいる実際の場（多くは都市社会）を、客観的に観察することができる。 ③より快適な都市社会を創造するための基礎的な分析を行うことができる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	村落的環境から都市的環境へ：村落的環境における生活様式から都市的環境における生活様式への変化を理解する。						
3	都市的環境の出現とシカゴ学派：アメリカの都市シカゴの発展と都市社会学の原型をつくったシカゴ学派との関連について理解する。						
4	シカゴ・モノグラフ：シカゴ学派の具体的な研究に触れ、シカゴ学派の研究課題や研究方法を理解する。						
5	都市の空間構造：E. W. バージェスの同心円地帯論と、都市の空間構造の生成過程を論じたR. E. パークの人間生態学について理解する。						
6	同心円地帯論への批判：E. W. バージェスとは異なる主張を展開している社会文化生態学について学び、空間構造をもたらす「要因」についての考察を深める。						
7	生活様式としてのアーバニズム：L. ワースのアーバニズム論について理解する。						
8	アーバニズム論への批判：L. ワースとは異なる主張が展開されている研究について学ぶ。						
9	コミュニティ喪失論とコミュニティ存続論：都市の人間関係をめぐる議論を整理し、考察する。						
10	コミュニティ解放論：都市の人間関係をめぐる議論において新しい視点を含んだB. ウェルマンのコミュニティ解放論について学ぶ。						
11	アーバニズムの下位文化理論：都市の人間関係をめぐる議論においてシカゴ学派の主張を修正したC・S・フィッシャーの都市下位文化理論について学ぶ。						
12	日本型コミュニティの形成：日本におけるコミュニティ喪失論、コミュニティ存続論、そして社会目標としてのコミュニティについて理解する。						
13	グローバル化と都市再編：都市コミュニティ論と外国人居住者研究について理解する。						
14	都市とエスニシティ①：都市エスニシティ研究における都市類型化を試みる。						
15	都市とエスニシティ②：都市エスニシティ研究の課題である「共生と統合」について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
受講態度	30	積極的に授業に参加しているか。			レポート	60	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②定められた期限内に提出しているか。 ③指定された書式、字数にしたがっているか。
提出物	10	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②定められた期限内に提出しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前学習については、授業中に発言を求めた際、適切な意見を述べるができるよう、日ごろから都市環境についての情報をメディア等からキャッチしておくこと。事後学習については、当日の講義内容について、ポイントを整理すること。専門用語は授業中に説明するが、事典等で調べること。[60分]				提出物の記述について授業中にコメントする。			
受講生に望むこと	「集団や行為」についての社会学概論での基礎的知識を理解し、社会で生じている諸事象を客観的に把握・分析しようとする意欲をもって、講義に参加してください。			教科書・テキスト	レジュメを配布する。		
指定図書参考書等	講義の中で紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0220U 環境社会学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>受益圏・受苦圏の分離を特徴とする公害問題とは異なり、受益圏・受苦圏の重なりやトレードオフが今日の環境問題の特徴である。本講義では、われわれが直面する諸課題を事例として取り上げつつ、これらの問題の特徴、構造的課題、解決策について考えていく。</p>			<p>①身近な環境問題がなぜ問題なのかについて説明できるようになる。 ②問題の原因及び解決のためのアプローチについて、環境社会学の分析視角を用いて説明できるようになる。</p>				
教授方法	講義、グループワーク						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス 環境社会学とは、環境社会学の概要について学ぶ。						
2	環境社会学の分析視角 被害論、加害・原因論、解決論について学ぶ。						
3	生活環境主義とは 環境社会学の重要な分析視角である生活環境主義について学ぶ。						
4	自然の道具的価値と内在的価値 アメリカの環境保護思想の歴史的展開を参考に、自然と人間との関係について学ぶ。						
5	土地倫理 レオポルドの土地倫理について学ぶ。						
6	世代間倫理とは 環境倫理学の基本主張のひとつである世代間倫理の考え方について「持続可能性」「予防原則」などの概念を通して学ぶ。						
7	ローカルな環境倫理 鬼頭によるアメリカ環境倫理批判を軸に、わが国の自然と人間との関係を捉える視点について学ぶ。						
8	社会的ジレンマ論 身近な生活問題であるごみとリサイクルを事例に、社会的ジレンマのメカニズムと解決策について学ぶ。						
9	豊かさとは何か アメニティ概念を中心に、豊かさの意味についてグループワークを通して学ぶ。						
10	野生生物との共存 獣害問題を事例に、今日の里山がおかれている現状と課題について学ぶ。						
11	海は誰のものか 伝統的な入会慣行や入浜慣行を題材に、コモンズとの今日的意義について学ぶ。						
12	超過疎高齢化と地域社会 過疎集落の生活実態から、暮らし続けるために必要な視点について学ぶ。						
13	交通システムとまちづくり 欧米の公共交通政策を検討しつつ、わが国の交通システムが抱える構造的課題及び解決策について学ぶ。						
14	持続可能性とは 今日さまざまな領域で使用される持続可能性概念について学ぶ。						
15	まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業への参加及び意欲	10	授業への積極的参加	レポート	30	講義で学んだ知識を適切に用いて問題を考察し、要求されたレベルの解答をしているか。		
期末試験	50	講義内容について理解度	小テスト	10	講義で学んだことの理解度		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
講義に関するレジュメを事前に配布するので必ず目を通しておくこと。[30分] ミニテスト等を実施するので学習内容を復習すること [30分]			講義内で適宜ミニテストを実施し、理解度を確認する。				
受講生に望むこと	わからない専門用語等はその日のうちに調べ解決する癖をつけること。		教科書・テキスト	講義内で適宜紹介する。			
指定図書参考書等	特になし		その他・特記事項	特になし			

授業科目名	S0225U 心理統計学Ⅱ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は社会科学におけるデータ解析を学ぶ体系に位置づけられる科目である。心理統計学Ⅱにおいては、t検定、分散分析といった検定の考え方の理解および習得を目指す。分散分析の基本概念、分析の進め方を理解し、様々なデータで分析が行えるようにする。さらに効果量や検定力分析についても解説を行う。本講義ではコンピュータ等を用いた具体的なデータ処理方法の理解にも重点を置く。</p>			<p>①授業内で紹介する各分析で用いられる用語を覚え、分析の概要を理解している。 ②与えられたデータに対して適切な分析手法を選択、実施する能力を身につけている。 ③コンピュータを用いた分析方法を身につけている。</p>				
教授方法	講義を中心に演習的内容を取り入れながら授業を進める。						
履修条件	心理統計学Ⅰの履修済が望ましい（単位未修得可）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	心理統計学の基本的概念を振り返る。						
2	t検定についての理解を深める。						
3	相関係数についての理解を深める。						
4	分散分析① 分析の枠組みを理解する：分散分析という分析手法がどのような目的に用いられるのか、どのような考え方に基づいた分析であるのか解説を行う。						
5	分散分析② 1 要因分散分析の計算の実施：1 要因の分散分析について、実際に計算を行いながら分析の概要について理解を深める。						
6	分散分析③ 1 要因分散分析をコンピュータを用いて分析する：1 要因の分散分析をコンピュータを用いてどのように分析を行い、結果を読み取るのか解説する。						
7	分散分析④ 2 要因の分散分析の考え方：2 要因の分散分析について交互作用の概念を中心にその考え方の解説を行う。						
8	分散分析⑤ 交互作用について事例を挙げながら理解をさらに深める。						
9	分散分析⑤ 2要因分散分析の計算：2要因の分散分析がどのように行われるのかについて解説を行う。						
10	分散分析⑥ 参加者内要因の分散分析：参加者内要因について理解を深め、計算過程を知る。						
11	分散分析⑦ 混合計画における分散分析を理解する。						
12	分散分析⑨ 演習課題を用いて、分散分析への理解を深める。						
13	効果量とはどのようなものか、その計算過程を理解する。						
14	推定と検定：信頼区間についての理解を深める。						
15	検定力分析を研究実践に生かす。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	心理統計学について理解し、計算および報告ができるか。		小テスト	15	授業の内容をどれだけ理解できているか。	
講義への参加度	15	授業への取り組み姿勢や課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①講義前にテキストおよびプリントを読んでくる。[30分] ②講義後にテキストおよびプリントを読み、ノートの整理を行う。[45分] ③講義でわからない計算法や用語があれば担当教員に質問したり、テキスト・参考書等を用いるなどして理解を深める。[30分] ④講義にて提示された演習課題に取り組む。[30分]</p>				<p>小テストは終了後に解説を行う。 演習課題は添削を行い、コメントする。</p>			
受講生に望むこと	統計学は特に予習復習が強く求められる科目である。そして、授業内での学びをより深めるために予習復習の中で出てきた疑問点を持って授業に臨み、それらの疑問をひとつひとつ解消するようにしてほしい。			教科書・テキスト	『入門 統計学—検定から多変量解析・実験計画まで』 栗原伸一 オーム社 2011年 ISBN 978-4-274-06855-3		
指定図書参考書等	なし／『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004年 ISBN 978-4-623-03999-9 『心理統計法への招待—統計をやさしく 学び身近にするために—』 中村知靖・松井仁・前田忠彦 サイエンス社 2006年 ISBN 978-4-781-91151-9 『わかる・使える多変量解析』 神宮英夫・土田昌司 ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-779-50246-0			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SC200U 宗教と社会		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	楠本 史郎						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>旧・新約聖書は、古代から現代に至るまでキリスト教社会の形成に大きな影響を与えてきた。近代以降、キリスト教社会の法や制度はグローバル化し、世界全体に及んでいる。宗教と社会との関係を見る方法論を整理しつつ、聖書が科学技術や法制度の発展に与えた影響を歴史的に追う。その上で、聖書翻訳の歴史が職業観や「らい」観に与えた影響の積極的側面と否定的側面を考察する。さらに宗教的理念が社会を変えたケースとして、米国におけるM.L. Kingによる人種差別撤廃の戦いを取り上げる。</p>			<p>・宗教がたんに個人に安心立命を与えるだけでなく、社会を形成する上で、重要な役割を担っていることを理解することができる。 ・そのなかでもとくにキリスト教社会においては、聖書解釈という形で宗教が社会に影響を及ぼすことを理解することができる。 ・その場合、宗教が社会に対して、積極的もしくは否定的な効果をもたらすことを、歴史的・客観的に理解することができる。</p>				
教授方法	毎回配布するレジュメに基づく講義、および講義内容から示された主題について考え、振り返り、その内容をミニレポートにまとめ、毎回提出する形で進める。						
履修条件	「キリスト教概論Ⅰ」および「キリスト教概論Ⅱ」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	序論 大塚久雄『社会科学の方法』から、K. MarxとM. Weberのそれぞれの方法論を学び、本講義の方法論を確定する（社会科学が社会現象をどのような方法で取り扱うのか、上部構造と下部構造に着目して理解する）						
2	宗教と科学技術 宗教は非科学的かという問題意識から、聖書の自然観と科学の芽生えとの関係を科学的に概観し、科学技術への宗教の影響を確認する（一神論が自然科学的思考を生んだ歴史的経緯を理解し、宗教と科学技術との基本的な関係を理解する）						
3	宗教と法 1) イスラエルの律法の意味を問ひ、2) 新約における律法と福音との関係を知り、3) 福音から律法へと展開する過程を追う。そこから、社会制度・法への宗教の影響の基本的枠組みを確認する（旧約律法がイスラエル共同体の形成原理となったことを理解し、宗教が社会形成を担うことを確認する）						
4	聖書翻訳と職業観① 古代から中世の聖書解釈と職業観の変遷を辿る（中世までの職業観の歴史の変遷、およびそのなかで聖書の職業観がどう変わってきたかを理解する）						
5	聖書翻訳と職業観② 宗教改革による職業観の転換(1)としてM. Lutherを取り上げ、その画期性と限界を知る（ルターの聖書翻訳が当時の社会、とくに職業観に与えた影響を確認し、自らの職業観を問う）						
6	聖書翻訳と職業観③ 宗教改革による職業観の転換(2)としてJ. Calvinを取り上げ、その社会的影響を学ぶ（ピューリタニズムの職業観を理解し、現代の職業観と比較する）						
7	聖書翻訳と職業観④ 18世紀以後のピューリタン職業思想の世俗化の経過を追う（宗教改革期と近代産業革命期以後の職業観の相違と継続性を理解し、労働することの意味を問う）						
8	聖書翻訳と職業観⑤ 明治期以降の「和魂洋才」思想を検討し、現代日本の問題を確認する。職業観と使命missionについて考える（近代以降の日本の職業観の特徴と問題性を理解し、自分が働く意味を考える）						
9	聖書翻訳と「らい」① 「らい」史の概要を理解し、その差別の問題性を知る（「らい」史の概略およびその差別の問題性を理解する）						
10	聖書翻訳と「らい」② 旧約におけるツアラアトがハンセン病を意味したのか、これを「らい病」と翻訳したことが妥当であったか検討する（旧約のツアラアトがハンセン病を意味しないことを理解し、かつての聖書翻訳の問題性を確認する）						
11	聖書翻訳と「らい」③ 新約におけるレブラがハンセン病であったのかを検討し、その翻訳の妥当性を検討する（新約におけるレブラがハンセン病ではないことを確認し、なぜ「らい」と訳されるに至ったかを理解する）						
12	聖書翻訳と「らい」④ 聖書翻訳におけるツアラアトとレブラの翻訳史を追い、それらが「らい病」と訳された経緯を確認する（聖書翻訳の重大性を「らい」の例により理解する）						
13	人種差別と宗教① 聖書解釈による人種差別合理化の歴史を確認し、M. L. Kingが登場した歴史的意味を学ぶ（現代米国社会における人種差別問題が聖書解釈によって根拠づけられた経緯を理解する）						
14	人種差別と宗教② マタイによる福音書5章のイエスの言葉をM. L. Kingがどう解釈し、それに基づきどう戦ったかを追う（キングの公民権運動が聖書解釈のとらえ直しから始まり、米国社会に大きな影響を与えたことを理解する）						
15	総論とまとめ M. L. Kingの戦いについてまとめ、本講義の総括をする。さらに日本社会の課題について考える（聖書の翻訳や解釈が社会を変える可能性を持つことを理解し、現代日本における職業観のあり方、および偏見や差別との戦いについて、聖書の中心的使信は何を語っているか、聞き取る）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加度・理解度	50	毎回の講義およびまとめの内容をミニレポートにまとめ提出。 ①授業内容を理解している。②それを自分の言葉で個々で表現している。③疑問や質問など、問題意識を持っている。		リーディングレポート	50	M. L. キング『自由への大いなる歩み』を9回にわたり各章ごとに要約し、レポートする。①各章の概要が要約されている。②それに対する自分の考えを整理して述べている。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①講義のなかで紹介した参考図書を手にとって内容を見る。[15分] ②前回授業のレジュメを確認し、振り返りを行ったうえで、次の授業に臨む。[15分] ③M. L. キング『自由への大いなる歩み』を読み、各章ごとに概要をまとめる。[90分]			毎回の授業で、前回のミニレポートについて、またリーディングレポートについて、必要なコメントをする。				
受講生に望むこと	①受け身ではなく、主体的に授業に参加すること ②聖書を持参すること ③遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること			教科書・テキスト	『新共同訳・旧新約聖書』		
指定図書参考書等	『自由への大いなる歩み』M. L. キング 岩波新書 1959年 ISBN4-00-415003-5、『科学者とキリスト教』渡辺正雄 講談社ブルーバックス 1987年 ISBN978-4-06-132686-6、『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』M. ゴッペー 岩波文庫 1955年 ISBN4-00-007091-6 C0336、『社会科学の方法』大塚久雄 岩波新書 1966年 ISBN4-00-411062-9。			その他・特記事項	①毎回の授業ミニレポートを丁寧に記し、提出すること。提出しないと欠席扱いとする。 ②レポートは必ず指定された期限内に提出すること		

授業科目名	SC205U 若者文化論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>時代を映す鏡として、若者のライフスタイルや考え方が引き合いに出されることがある。社会の活性化を促すとして肯定的に捉えられる場合もあれば、「最近の若い者は…」と否定的に捉えられることもある。この授業では、戦後日本社会の若者を取り巻く社会状況や文化的背景も踏まえて、当時から現代の若者たちがどういった文化に親和性を感じ、行動していたのかを考えていく。</p>			<p>①若者文化の変遷について、社会背景を踏まえて適切に理解することができる。 ②社会にとって若者文化が有する意味について、時代・年代・世代によって変わるもの／不変であるものを区別しながら理解することができる。 ③若者文化を素材として、社会学における基本的概念を正しく理解することができる。</p>				
教授方法	講義・グループ報告・グループディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：対象としての「若者」や「若者文化」について簡単に触れ、本科目で学ぶ内容について整理する。						
2	問題対象の設定①：世代論と比較しつつ、若者文化について学ぶ意義を考える。						
3	問題対象の設定②：「若者」と「青年」という語を対比し、その異同について考えると共に、若者／青年に対する社会の「まなざし」について考える。						
4	問題対象の設定③：単なる「若者論」と違いを考えることを糸口として、本科目で学ぶべき内容について再考する。						
5	小括：この授業が目指す社会学的な若者文化論と何か、ここまでの学習内容を振り返る。／次週以降のグループ報告における分担を話し合う。						
6	グループワーク：各グループに分かれたディスカッションによって課題に沿った問題設定を行い、必要な資料を収集し、レジュメとスライドを作成する。						
7	グループ報告①：概ね戦前から戦後混乱期における若者文化についてのグループ報告を行い、その後各グループごとにディスカッションを行う。						
8	グループ報告②：概ね1970年代までの若者文化についてのグループ報告を行い、その後各グループごとにディスカッションを行う。						
9	グループ報告③：概ね1980年代から現代までの若者文化についてのグループ報告を行い、その後各グループごとにディスカッションを行う。						
10	現代社会における若者文化①：高度情報社会における若者のコミュニケーションや友人関係について理解する。						
11	現代社会における若者文化②：歴史的な変化や、現代の生育環境・教育環境を踏まえつつ、現代の若者の逸脱行動について理解する。						
12	現代社会における若者文化③：サブカルチャーや「オタク」文化を素材として、若者像、若者同士の社会関係、若者文化の変遷について考える。						
13	若者文化の今後①：グローバル化に特徴付けられる現代社会において、若者文化が果たすであろう積極的役割について中心に考える。						
14	若者文化の今後②：日本の伝統文化との比較の中から、若者文化が果たすであろう積極的役割について中心に考える。						
15	総括：本科目を通じて学習した内容について振り返り、それぞれにとって「若者文化」について学ぶ意義を考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業への参加度	15	日常的な授業態度を評価する。	担当回の発表	15	担当回における発表とレジュメの正確さ、分かり易さ等を評価する。		
グループディスカッション	15	グループディスカッション時の積極的な参加態度等を評価する。	レポート	55	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に分かり易くまとめられているか評価する。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>①各回の授業で学習した社会学理論や社会学的視点、社会学用語について、様々な事例に応用できるように、社会学のテキストや事典を活用して復習する。[45分] ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]</p>			<p>①各回の授業でコミュニケーションの提出を求め、そこでの質問は次回に全体共有する。 ②グループワークならびにグループディスカッション時には自己評価シートの提出を求め、必要に応じて個別にコメントを行う。</p>				
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> 「社会学的思考様式」をベースにした若者文化の理解を目指すため、社会学一般の教養を十分に修めることが望ましい。 一方で、本科目の射程を超える心理学をはじめとするその他の学問的視点についても、それぞれの興味に応じて繋がっていくことを期待したい。 		教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）			
指定図書／参考書等	なし		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な学習やグループ作業について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。 			

授業科目名	SC215U 多文化共生論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	俣 希實						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>外国籍居住者の増加とともに、「多文化共生」概念が注目されるようになってきた。家族関係、教育など、外国籍居住者の現状と課題を把握し、「多文化共生」と呼ばれる経験、努力が今の日本でどこまでできているかを総括する。また、オーストラリアやアメリカなど多文化主義の考え方を導入している国の歴史や社会的背景を学ぶことから、日本社会における多文化共生の未来に向けての条件と課題を考察する。</p>			<p>①多文化共生の基礎知識を身につけ、意味を理解する。 ②日本における外国籍居住者の現状と課題についてまとめ、考察することができるようになる。 ③多文化共生のパースペクティブを身につけ、異文化に理解を示すことができるようになる。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する						
2	グローバル化と多文化共生：「グローバル化」という社会変動と「多文化共生社会」の意味を理解する						
3	多文化共生のパースペクティブ：多文化共生社会に向けて求められる視点について考える。						
4	アメリカにおける多文化主義：移民社会アメリカの成り立ちについて理解する。						
5	ヨーロッパ諸国における多文化主義：社会的背景とその潮流について理解する。						
6	オーストラリアにおける多文化主義：白豪主義からの転換について理解する。						
7	外国人労働者から住民、市民へ：日本における定住外国人に対する受け入れ施策を検討する。						
8	外国籍居住者たちの文化の権利：母国語が英語圏の居住者とそれ以外の居住者、それぞれについて考える。						
9	多文化共生とアイデンティティ：外国籍居住者の家族成員の文化変容のズレおよびアイデンティティの変容による家族内葛藤を考える。						
10	多文化共生と子どもの権利：外国籍居住者の家族関係と家族問題を子どもの権利の観点から考える。						
11	多文化共生と学校教育：文化伝達の観点からマイノリティ児童生徒への学校教育を、母国語が英語圏の児童生徒とそれ以外の児童生徒、それぞれの場合について考える。						
12	多文化共生と第二言語教育：第二言語として日本人児童生徒が英語を学ぶ環境と、外国人児童生徒が日本語で学ぶ環境と意義について考える。						
13	多文化共生と壁：「制度の壁・心の壁・言葉の壁」から生じる外国籍児童生徒の「不就学」の構造について考える。						
14	国際比較調査からみた多文化共生：日本・アメリカ・オーストラリア・ヨーロッパ諸国における調査法の違いから多文化社会を考える。						
15	まとめ：改めて多文化共生社会の未来と課題について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	40%	参加態度・意欲		期末レポート	60%	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②定められた期限内に提出しているか。 ③指定された書式、字数にしたがっているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
授業中に関連テーマでグループディスカッションをおこなうことを指示するが、その際、意見を述べるができるよう、普段から日本における外国籍居住者についてのニュースや国際的なニュースに関心を持つこと。事後学習として、授業中に配布したレジュメを確認すること。専門用語は授業中に説明するが、復習を兼ねて事典等で調べること。[45分]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
受講生に望むこと	授業で学んだことと社会情勢を常にリンクさせて自分なりの意見を持つように心がけてください。			教科書・テキスト	レジュメを配布する。		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	中学校教諭一種免許状（英語）		

授業科目名	SC310U 犯罪社会学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>辞書的な観点から理解すると、社会的に有害、あるいは危険である行為・現象を犯罪・非行として定義することができる。しかし、一面的な視点からだけでは、犯罪・非行の本質を理解することはできない。この授業では、社会との関わりを重点を置いて犯罪・非行現象にアプローチし、犯罪・非行を多面的に理解すると共に、犯罪・非行の取り扱い方/取り扱われ方を通して、私達の社会のあり様それ自体を考えていく。</p>			<p>①犯罪・非行の量的・質的変遷について、社会背景を踏まえて適切に理解することができる。 ②犯罪・非行の処遇について、制度の目的と現状について正しく理解することができる。 ③逸脱行動論の観点から、社会的に犯罪・非行の発生ならびに予防のメカニズムを理解することができる。 ④定義を含む、犯罪・非行に対する社会的反応について、時代背景を踏まえて適切に理解することができる。 ⑤以上の事柄に関連して、社会学の基本的概念や理論について正しく理解することができる。</p>				
教授方法	講義・グループ報告・グループディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：犯罪学・社会学というそれぞれの大領域の中での位置付けを考える作業を通して、犯罪社会学の意義・目的について理解する。						
2	犯罪・非行に関する基礎知識①：犯罪・非行に関わる法・政策・制度・機関等についての基礎知識を学習する。						
3	犯罪・非行に関する基礎知識②：犯罪・非行にまつわる統計を通して、その量的・質的変遷について学ぶと共に、当該現象に接近・観察することの難しさについて学習する。						
4	犯罪者処遇①：成人を対象とし、犯罪者処遇の制度や意義、現状や課題について学習する。						
5	犯罪者処遇②：少年を対象とし、成人との比較を通して、非行少年処遇の制度や意義、現状や課題について学習する。						
6	逸脱行動論①：初期の犯罪学理論と合わせて、アノミー論や社会解体論等の、主としてマクロ領域における逸脱行動論について学習する。						
7	逸脱行動論②：分化的接触理論や非行サブカルチャー論等の、主としてメゾ領域における逸脱行動論について学習する。						
8	逸脱行動論③：コントロール理論等の、主としてミクロ領域における逸脱行動論について、またそれとの関連から環境犯罪学について学習する。						
9	犯罪・非行への社会的反応①：各種逸脱行動論への理解を踏まえて、また犯罪・非行に接近・観察することの難しさとも合わせて、ラベリング論や逸脱の相互作用性について学習する。						
10	犯罪・非行への社会的反応②：犯罪報道と世論の関係について、また被害者の視点から社会における犯罪・非行を再理解することについて学習する。						
11	小括：この授業が目指す社会的な理解という点に基づいて、ここまでの学習内容を振り返る。/次週以降のグループ報告における分担を話し合う。						
12	グループワーク：各グループに分かれたディスカッションによって課題に沿った問題設定を行い、必要な資料を収集し、レジュメとスライドを作成する。						
13	グループ報告①：グループ報告を行い、その後報告内容に沿って各グループごとにディスカッションを行う。						
14	グループ報告②：グループ報告を行い、その後報告内容に沿って各グループごとにディスカッションを行う。						
15	総括：本科目を通じて学習した内容について振り返り、それぞれにとって「犯罪社会学」について学ぶ意義を考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業への参加度	15	日常的な授業態度を評価する。	担当回の発表	20	担当回における発表とレジュメの正確さ、分かり易さ等を評価する。		
グループディスカッション	15	グループディスカッション時の積極的な参加態度等を評価する。	試験	50	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に理解しているか評価する。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>①各回の授業で学習した犯罪社会学の理論や知識について復習し、日常的に新聞等を通して実際の社会との関わりを意識する。[60分] ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]</p>			<p>①各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、そこでの質問は次回に全体共有する。 ②グループワークならびにグループディスカッション時には自己評価シートの提出を求め、必要に応じて個別にコメントを行う。</p>				
受講生に望むこと	<p>・社会現象への関わり方や理解の仕方は多様であるが、犯罪・非行へのそれらはとりわけセンシティブでデリケートなものとなる。そのことを踏まえてなお、積極的に社会における包摂のあり方について、日頃から関心を持って、考えていただきたい。</p>		教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）			
指定図書参考書等	<p><参考書> 『よくわかる犯罪社会学入門（改訂版）』 矢島正見・山本功・丸秀康著 学陽書房 2009年<ISBN:978-4313340183> 『犯罪・非行の社会学―常識をとらえなおす現座』 岡邊雄著 有斐閣 2014年<ISBN:978-4641184183> 『ピキナース犯罪学』 守山正・小林寿一著 成文堂 2016年<ISBN:978-4792351830></p>		その他・特記事項	<p>・日常的な学習やグループ作業について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。</p>			

授業科目名	SC315U 社会病理学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業では、病理や問題とされる諸現象の発生要因や対応等について、社会との関わりから考えていく。また、逆に、病理現象が発生する社会のあり様それ自体を、私達の生活する現代社会とは一体どのようなものかについて、考えていく。			①正常／異常、一般／特殊といった比較対象の設定という、社会病理学的社会観について理解することができる。 ②社会病理現象の相対性について理解することができる。 ③現代の社会病理現象における具体的な動向について理解することができる。 ④社会病理学に固有の概念や理論について正しく理解することができる。 ⑤社会病理現象を理解するのに有用な社会学の基本的概念や理論について正しく理解することができる。 ⑥社会病理現象への介入・実践のあり方について、自分なりの考えや態度を明確にすることができる。				
教授方法	講義・グループディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：社会学の成り立ちへの理解や、関連領域との比較を通して、社会病理学という研究領域、およびこの授業の意義・目的について理解する。						
2	社会病理学の歴史①：社会有機体説やマルクス主義をはじめとする、初期の社会病理学的視点について学習する。						
3	社会病理学の歴史②：デュルケムの業績を中心に、社会病理学的視点について学習する。						
4	社会病理学の歴史③：シカゴ学派の業績やミルズによる社会病理学批判について学習する。						
5	社会病理学の基本的視座①：社会病理学的視点の相対性について学習する。						
6	社会病理学の基本的視座②：主に機能主義について学習する。						
7	社会病理学の基本的視座③：社会病理現象への対応について、逸脱統制の観点から学習する。						
8	社会病理学の基本的視座④：社会病理現象への対応について、実践・介入・臨床の観点から学習する。						
9	社会病理学の基本的視座⑤：社会構築主義について学習する。						
10	小括：この授業が目指す社会的な理解という点に基づいて、ここまでの学習内容を振り返る。						
11	社会病理学各論①：貧困をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。						
12	社会病理学各論②：親密圏で発生する暴力（虐待・DV等）をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。						
13	社会病理学各論③：いじめ問題をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。						
14	社会病理学各論④：不登校およびひきこもり問題をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。						
15	総括：本科目を通じて学習した内容について振り返り、それぞれにとって「社会病理学」について学ぶ意義を考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。		グループディスカッション	20	グループディスカッション時の積極的な参加態度等を評価する。	
試験	60	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に理解しているか評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①各回の授業で学習した社会病理学の理論や知識について復習し、日常的に新聞等を通して実際の社会との関わりを意識する。[60分] ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]				①各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、そこでの質問は次回に全体共有する。 ②グループワークならびにグループディスカッション時には自己評価シートの提出を求め、必要に応じて個別にコメントを行う。			
受講生に望むこと	・この授業は主として講義形式を採り、多種多様な知識と情報の伝達に努める。したがって、どちらかと言えば双方向ではなく一方向的な学習となる。そのため、この授業で獲得した内容を活用して、日常的な学習の中で、あるいはその他の科目の中で、自らの意見や態度をアウトプットする習慣を身に付けていただきたい。			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）		
指定図書／参考書等	<参考書> 『新版 非行と社会病理学理論』 高原正興 三学出版 2011年<ISBN:978-4921134518> 『社会病理学的想像力―「社会問題の社会学」論考』 矢島正見 学文社 2011年<ISBN:978-4762021374>			その他・特記事項	・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。		

授業科目名	SL315U 政治学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若山 将実						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業の目的は、日本を中心とした民主主義諸国における有権者、政治家、官僚、そして利益団体などの様々な個人・組織の政治行動の特徴、要因、そして影響を考察することにあります。授業では、民主主義国家における有権者、政治家、官僚、そして利益団体などの個人・組織の政治行動に関する理論と実際を学んでいきます。まず、政治行動に関する政治学の理論について紹介します。そして、政治行動の実際として民主主義諸国の事例を取り上げることで、政治行動の特徴、要因、そして影響について理解できるようになることを目指します。また、最新の政治に関する時事問題についても説明する機会を設けたいと思います。			①個人・組織の政治行動について学ぶことで、社会のなかで政治が果たす役割を理解する。 ②民主主義社会における政治制度が有権者、政治家、官僚そして利益団体などの個人・組織の政治行動に与える影響を理解できるようになる。 ③民主主義社会における将来の有権者の一人として適切に政治へ参加できるようになる。 ④日本や世界の政治に関する時事問題について理解できるようになる。 ⑤日本や世界の政治現象を分析する手法を習得する。				
教授方法	授業はパワーポイントなどを使った講義形式を中心にしますが、学生が主体的に学ぶことのできるアクティブラーニングの機会を設ける予定です。						
履修条件	社会学科の学生のみ履修可。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要説明：授業の進め方や成績評価の方法とともに、そもそも「政治」とは何か、そしてそれを対象とする「政治学」とは何かという点について考えます。（政治を学ぶ意味を理解する。）						
2	国家とは何か：現在では当たり前のように存在している国家について、国家の定義から近代国家が成立した理由、国家の役割、国民の定義、そして国家破綻がもたらす影響について考察します。（国家が存在する意義を理解する。）						
3	政治体制：世界各国の多くが現在では民主主義の政治体制となっていますが、他方で非民主的な体制下にある国も厳然と存在しています。この回は、民主主義体制と非民主主義体制の特徴について検討します。（比較を通じて民主主義の特質を理解する。）						
4	民主化：非民主主義体制から民主主義体制への移行はどのような要因によって生じるのでしょうか。民主化についてその歴史を振り返りながら比較政治学の理論的な検討を行います。（政治体制の変動を促す要因についての理論と仮説を理解する。）						
5	アクティブラーニング1：現代政治に関する課題を提示します。受講者はグループでその課題に取り組み、発表を行います。						
6	有権者の投票参加：有権者はなぜ投票するのでしょうか、この疑問について政治学が考えてきた理論を参考にしながら、世界各国の選挙を事例に考えます。（投票参加の理論と実際を理解する。）						
7	有権者の投票行動：有権者による特定の政党・候補者への投票は、どのような動機に基づかれているのかを、政治学理論を紹介しながら考えます。（有権者の投票行動についての理論から、その有権者の多様性を理解する。）						
8	選挙制度：世界各国の様々な選挙制度の特徴について簡単に紹介した後、選挙制度が民主主義体制の安定にどのような影響を与えているのかを考察します。（代表を選ぶための選挙制度が民主主義の安定性に大きな影響を与えていることを理解する。）						
9	アクティブラーニング2：現代政治に関する課題を提示します。受講者はグループでその課題に取り組み、発表を行います。						
10	執行府・議会関係：世界各国の執行府と議会制度の特徴について紹介した後、議院内閣制・大統領制・半大統領制等に代表される執行府・議会関係の違いがそのような政治的帰結をもたらすのかを検討する。（本人・代理人関係のパターンが政治的帰結に与える影響を理解する。）						
11	指導者：民主主義国家における執政制度の特徴と影響について説明した後、日本の首相のリーダーシップについていくつかの事例から検討します。（例えば、安倍首相の政権運営が前任時とどのように違うのかについてなど。）						
12	官僚制：世界各国の官僚制の特徴について紹介した後、官僚の自律性の程度が政策の内容にどのような影響を与えているのかを検討します。（国家における官僚制の役割について理解する。）						
13	政策：民主主義国家において政策はどのように作られるのでしょうか。近年における日本の各政権が実行している政策をいくつか取り上げ、その政策が作られる過程について検討します。（政策過程の理論と実際を理解する。）						
14	アクティブラーニング3：現代政治に関する課題を提示します。受講者はグループでその課題に取り組み、発表を行います。						
15	まとめと民主主義の未来：授業全体のまとめとともに、民主主義国家における政治の姿は今後どのように変容することが予測できるのかについて、e-デモクラシーの可能性などを例に考察していきます。（民主主義の変容の可能性について理解する。）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	試験形式は論述形式を予定している。政治行動の理論や実際についてどの程度まで理解して自分のものとしているかどうかを評価の基準とする。		アクティブ・ラーニング	30	課題に対してグループで取組み、わかりやすい発表ができているかを見る。	
ワークシート・リアクションシート	20	毎回の授業の理解度を確認するワークシートやそれに付随する感想・質問を書くリアクションシートへの取り組み姿勢。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①講義で使用するレジュメ（資料）は、メソフィアを通じて授業前日までに配布するので必ず目を通してください。[30分] ②毎日、新聞・ニュース等に目を配り、政治に関する様々なニュースに触れること。毎回の小レポートで今週はどのような政治ニュースに注目したかを記入してもらいます。[60分]				毎回のワークシートおよびそれに付随するリアクションシートは、次回冒頭に採点およびコメントを付けて返却します。			
受講生に望むこと	①政治は、日々動いています。日頃から可能な限り世界や日本の様々なニュースに目を配るようにしてください。 ②教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。		教科書・テキスト	特に用いません。レジュメ（資料）を毎回メソフィア等を通じて配布します。			
指定図書参考書等	なし。『政治行動論：有権者は政治を変えられるのか』飯田健・松林哲也・大村華子共著 有斐閣 2015年 ISBN-13:978-464115-294。『政治学 (New Liberal Arts Selection)』久米 郁男・川田 良枝・古城 佳子・田中 愛治・真淵 勝共著 補訂版 有斐閣 2011年 ISBN-13: 978-4641053779。『比較政治学』スティーブン・P・リーター著 ミネルヴァ書房 2006年 ISBN-13:978-4623044986。『はじめて出会う政治学—構造改革の向こうに—』北山俊哉・真淵勝・久米郁男共著 有斐閣 第3版 2009年 ISBN-13: 978-4641123687。		その他・特記事項	なし。			

授業科目名	SL320U 地域社会政策論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この講義では災害によって被災した地域や住民の生活復旧・復興過程で生じる諸課題を検討することにより、被害の不平等性の実態を理解し、必要な社会政策を考えていく。			①災害を巡る諸課題について理解する。 ②被災者支援に係る法律や条文等を理解している。 ③災害時要配慮者に不可欠な視点について、自らの考えを論じられるようになる。				
教授方法	講義、グループディスカッション						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス						
2	高齢化の現状と将来 日本の高齢化の特徴、高齢社会に対応した社会経済政策について						
3	超少子高齢社会の社会政策 人口政策、財政政策、社会保障政策、セーフティネットにちやうて						
4	東日本大震災の被害概要 広域複合災害、津波被災地の実態からわかること						
5	被災地復興の課題 東日本大震災の社会経済的影響について						
6	能登半島地震の被害と課題 超過疎高齢社会における災害復旧・復興に向けた課題と対応						
7	被害の不平等性と復興 避難所運営から考える平時の地域課題（1）						
8	被害の不平等性と復興 避難所運営から見える平時の地域課題（2）						
9	住宅再建と住み続ける権利 被災者住宅再建に係る現状と課題						
10	自主防災組織 自主防災活動の組織化と展開、公助・共助・自助						
11	防災まちづくり 減災や・レジリエンスの視点による災害に強いまちづくりについて						
12	地域防災計画とは何か タイムラインに基づくボトムアップ的な地域計画づくりについて						
13	日本におけるボランティアと参加 日本における市民活動とボランティアの歴史について						
14	ボランティアと公共性 公共性の課題と新しい参加としてのボランティアについて						
15	まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	10	講義、グループディスカッション等への積極的参加		レポート	20	講義で学んだ知識を適切に用い問題を考察し、要求されたレベルの解答をしているか。	
期末試験	50	講義内容の理解度		小テスト	20	講義で学んだことの理解度	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義に関するレジュメを事前に配布するので必ず目を通しておくこと。[30分] ミニテスト等を実施するので学習内容を復習すること [30分]				事前・事後学習の進捗を確認するためのミニテストを適宜実施し、理解度を確認する。			
受講生に望むこと	災害に関する新聞記事や書籍等に関心を持って読み進めること。			教科書・テキスト	特になし（レジュメを配布する）		
指定図書参考書等	特になし。講義中に適宜紹介する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目名	SL200U 社会貢献論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義では「災害ボランティア」を中心的なテーマとする。1995年の阪神淡路大震災では1年間で137万人ものボランティアが全国から掛け付け「ボランティア元年」とも言われた。災害の規模等によっては行政（公助）による対応に限界があることから、復旧・復興過程においてボランティアはいまや不可欠な存在となっている。そこで、本講義ではボランティア活動の歴史的展開、ボランティアの役割、課題等について災害ボランティアを多角的に捉えていく。</p>			<p>災害ボランティア活動の歴史と課題について理解する。受講者自身が地域の社会的課題に関心を持ち、その解決に役立てるための知識を獲得すること。</p>				
教授方法	講義、グループディスカッション						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス						
2	リスクの拡大と社会の変容 地域社会のトレンドを概観しつつ、自然災害と社会との関係について学ぶ。						
3	ボランティアと公共性 新しい公共の担い手としてのボランティアの可能性について学ぶ。						
4	誰が、なぜボランティアをするのか ボランティア活動を実践する主体の特徴、参加動機などについて学ぶ。						
5	災害発生時の救護・救援の展開 災害発生初期段階におけるボランティアの役割について学ぶ。						
6	グループディスカッション 過去の災害教訓を活かす						
7	生活復興過程とボランティア 復旧・復興過程におけるボランティアの役割について学ぶ。						
8	被災者に寄り添う支援とは 大学生による足湯ボランティアの実践活動から、被災者の自立を支える支援のあり方について学ぶ。						
9	事例からの検討① 能登半島地震						
10	事例からの検討② 東日本大震災						
11	事例からの検討③ フィリピン台風						
12	グループディスカッション 避難所運営疑似体験						
13	避難所運営をめぐる課題 実際に発生した諸課題を検討し、解決・改善策を検討する。						
14	減災社会とは 減災概念について学ぶ。						
15	まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	10	授業への積極的参加 グループディスカッションでの積極的発言と運営		レポート	20	講義で学んだ知識を適切に用いて問題を考察し、要求されたレベルの解答をしているか	
期末試験	50	講義で学んだことの理解度		小テスト	20	講義で学んだことの理解度	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義に関するレジュメを事前に配布するので必ず目を通しておくこと。[30分] ミニテスト等を実施するので学習内容を復習すること [30分]				事前・事後学習の進捗度を確認するためのミニテストを適宜実施し、理解度を確認する。			
受講生に望むこと	講義は「災害」が中心テーマだが、環境、福祉、まちづくり、人権など各自の関心領域に照らし合わせつつ受講して欲しい。			教科書・テキスト	特になし（レジュメを配布する）		
指定図書参考書等	特になし（講義の中で適宜紹介する）			その他・特記事項	特になし		

授業科目名	SL205U 高齢者福祉論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>老いや高齢者の問題は、とかく否定的なイメージでとらえられがちである。確かに、介護問題等は深刻な社会問題ともなっている。しかし一方では、さまざまな形で社会参加し意欲的に暮らしている高齢者や、介護が必要になってもその人らしく生き生きと暮らしている高齢者も見受けられる。授業では、超高齢社会を乗り切っていくために、高齢者や老いの問題について理解を深めていく。さらに、支え合っていく仕組みの問題や豊かな老後等、高齢者福祉のあり方について考えていく。</p>			<p>①高齢者の特性、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解できる。 ②高齢者保健福祉制度の発展過程について理解できる。 ③介護保険制度について、目的と理念、制度の概要等を理解できる。 ④高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解できる。 ⑤介護の概念や対象及びその理念、介護過程、介護の技法、介護予防、終末期ケアのあり方について理解できる。</p>				
教授方法	テキストや資料等をもとに講義形式で行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要の説明。高齢化の進展とその特徴について学ぶ。						
2	高齢者を取り巻く社会情勢・福祉・介護需要について学ぶ。						
3	高齢者の特性や生活実態について学ぶ。						
4	高齢者保健福祉制度の発展過程について学ぶ。						
5	介護保険制度：介護保険制度創設の背景、介護保険制度の目的と理念について学ぶ。						
6	介護保険制度：介護保険制度の仕組みの概要について学ぶ。						
7	介護保険制度：介護保険制度の動向について学ぶ。						
8	介護保険制度：介護保険制度等サービス（居宅・介護予防・地域支援サービス）の体系について学ぶ						
9	介護保険制度：介護保険制度等サービス（施設サービス）の体系について学ぶ。						
10	高齢者を支援する組織と役割、専門職の役割と実際について学ぶ。						
11	高齢者支援の関係法規（老人福祉法、高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、高齢者の居住の安定確保に関する法律等）について学ぶ。						
12	介護実践に関連する諸制度（個人の権利を守る制度、保健医療福祉に関する施策の概要）について学ぶ。						
13	介護の概念と対象、介護予防、介護過程について学ぶ。						
14	認知症ケア、終末期ケアについて学ぶ。						
15	介護と住環境について学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	80	・毎回の講義内容についてどれだけ理解しているか。		授業参加状況	20	・ワークシートや振り返りシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）により評価する。 ・授業への積極的な取り組み。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復讐するとともに、興味関心を持ったことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③日頃から高齢者福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。</p>				<p>毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の冒頭に解説等を行う。</p>			
受講生に望むこと	講義中心の授業となるが、受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。			教科書・テキスト	『新・エッセンシャル老人福祉論』第3版 石田一紀編（株）みらい 2015年 ISBN978-4-86015-339-7		
指定図書参考書等	なし／『平成28年版厚生労働白書』厚生労働省編 2016年 ISBN978-4-905427-58-2 『平成28年版 高齢社会白書』内閣府編 2016年 ISBN978-4-86579-051-1			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL210U 障害者福祉論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>1. ころの不調や発達障害などを含め、現代社会における障害者福祉の諸問題、支援制度等を正しく理解する。</p> <p>2. 社会福祉士実習で必要となる基礎知識の獲得、および社会福祉士国家試験の関連科目に関する知識を身につける。</p> <p>3. 障害がある人たちの諸問題は社会全体の問題としてとらえ、専門職を目指すもの以外にも理解できる講義を展開する。</p>			<p>1. 障害の概念を把握するとともに、障害者福祉の社会的背景について理解する。</p> <p>2. 現代社会における障害者福祉の理念として、リハビリテーションやノーマライゼーション等の考え方や意義について理解する。</p> <p>3. 障害者の生活実態やこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解する。</p> <p>4. 障害者福祉制度の発展過程、および障害者総合支援法や障害者の福祉に係る法制度について理解する。</p> <p>5. 障害者福祉の現状と課題、および障害者の生活とそれらに対する援助サービスについて学ぶ。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	障害概念、および障害の基礎的理解						
2	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢						
3	障害者の福祉・介護需要						
4	障害者福祉制度の発展過程						
5	障害者自立支援制度 (1) 障害者総合支援法の概要						
6	障害者自立支援制度 (2) 障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際						
7	障害者自立支援制度 (3) 障害者総合支援法における専門職の役割と実際						
8	障害者自立支援制度 (4) 障害者総合支援法における多職種連携、ネットワークと相談支援事業所の役割と実際						
9	障害者福祉関連施策 (1) 身体障害者福祉法、(2) 知的障害者福祉法						
10	障害者福祉関連施策 (3) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律						
11	障害者福祉関連施策 (4) 発達障害者支援法、(5) 障害者基本法						
12	障害者福祉関連施策 (6) 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行なった者の医療及び観察等に関する法律						
13	障害者福祉関連施策 (7) 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律						
14	障害者福祉関連施策 (8) 障害者の雇用の促進等に関する法律						
15	障害者福祉に関わる専門職						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト・レポート等	50	授業内容の理解		授業参加状況	50	出席、受講態度、提出物等	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>1. 障害がある人たちの社会生活を意識する。</p> <p>2. 社会における福祉サービスの意味を理解する。</p> <p>3. 国民福祉の動向、および障害者白書等で最新の情報を確認する。</p> <p>4. 社会福祉士国家資格取得を目指すものはテキストや資料等を繰り返し学習する。</p> <p>5. 社会における障害者福祉に関する事象について考え、まとめる。[30分以上]</p>				小テスト等は内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。			
受講生に望むこと	ころの不調や発達障害などを含め、障害について正しく理解するとともに、社会全体の問題としても関心を持ってください。			教科書・テキスト	新・社会福祉士養成講座14『障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第5版』中央法規出版。ISBN:978-4-8058-5107-4		
指定図書参考書等	必要な資料を講義毎に配布する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL215U 障害者スポーツ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>1. 障害がある人たちのスポーツ活動について、活動状況の実態と特徴を理解し、障害がある人たちの生涯スポーツに貢献できる基礎知識を身につける。</p> <p>2. 具体的には、それぞれの障害の概念や生活の状況を学ぶとともに、社会的背景や関連諸制度を理解し、本人のみならず家族や支援スタッフなど周囲までを含めてスポーツ活動に対する目的や意義について考える。</p> <p>3. 加えて、人的、経済的、あるいは設備・環境といった障害がある人たちのスポーツ活動に必要なマネジメントの視点を学習する。</p>			<p>1. 初級障がい者スポーツ指導員に求められる基本的な知識を学ぶ。</p> <p>2. 障害の基本内容を理解し、スポーツの導入・支援に必要な基本的知識、技術を身につける。</p> <p>3. スポーツ活動の実施、支援における健康や安全管理に関する基礎知識を理解する。</p> <p>4. 広くスポーツ活動の喜びや楽しさを学ぶ。</p> <p>5. 健康を維持、増進する手段としてのスポーツ活動を理解する。</p>				
教授方法	講義（一部演習）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	障害者福祉施策と障害者スポーツ①（施策の体系）						
2	障害者福祉施策と障害者スポーツ②（今後の動向）、ボランティア精神と活動の基本姿勢①						
3	ボランティア精神と活動の基本姿勢②						
4	障害者スポーツの意義と理念、効果①						
5	障害者スポーツの意義と理念、効果②、障害の理解とスポーツ（身体障害①）						
6	障害の理解とスポーツ（身体障害②）						
7	障害の理解とスポーツ（知的障害①）						
8	障害の理解とスポーツ（知的障害②）、障害の理解とスポーツ（精神障害）						
9	スポーツを実施する際の安全管理						
10	障がい者スポーツ指導員の役割、組織						
11	全国障害者スポーツ大会の概要、目的						
12	障害に応じたスポーツの工夫・実施①						
13	障害に応じたスポーツの工夫・実施②						
14	障害当事者のスポーツ支援・交流、または障害者スポーツ大会等の運営参加①						
15	障害当事者のスポーツ支援・交流、または障害者スポーツ大会等の運営参加②						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
講義中のレポート・小テスト等	50	授業内容の理解	授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等		
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>1. 障害者スポーツやスポーツボランティアの社会的意義を考える。</p> <p>2. 実際の障害者スポーツ体験、または関係者の体験談等をまとめる。</p> <p>3. 2020年東京パラリンピックに向けた社会の動向に関心を持ちまとめる。30分以上</p>			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 小テスト・小レポート等は内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。				
受講生に望むこと	<p>1. 障害がある人たちのスポーツ活動だけでなく、社会生活にも関心を持ってください。</p> <p>2. 自分自身の健康、生涯スポーツなどにも関心を持ってください。</p>		教科書・テキスト	適宜、授業中に資料を配付する。			
指定図書参考書等	適宜、授業中に資料を配付する。		その他・特記事項	なし			

授業科目名	SL100U 図書館概論		開講学科	社会科学	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目であり、現代における図書館の意義と役割について、その法的基盤や国民の知る権利を保障する理念を理解することをねらいとする。図書館種別にそれぞれの制度と機能について、その歴史的展開を含めて理解することを目指す。また、一般的な教養として図書館を理解してもらおうことも目指すため、司書資格取得を希望しない学生の履修を歓迎する。			①図書館の意義・役割について理解する ②これまでの図書館の歴史を振り返り、今日における図書館の理念の成立について理解する ③公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館、国立国会図書館の制度と機能を理解する ④図書館関係機関、図書館関係団体について理解する ⑤今日の図書館の課題と今後の展望について主体的に考えることができる				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	現代社会と図書館 (1) 図書館とは何か						
2	現代社会と図書館 (2) 図書館の種類と図書館の役割						
3	現代社会と図書館 (3) 司書の役割とは何か						
4	図書館の理念 (1) 図書館の自由						
5	図書館の理念 (2) 図書館員の倫理綱領						
6	図書館関係法規について						
7	公共図書館の制度と機能 (1) 図書館法						
8	公共図書館の制度と機能 (2) 公共図書館の機能						
9	公共図書館の制度と機能 (3) 管理運営						
10	学校図書館の制度と機能						
11	大学図書館の制度と機能						
12	専門図書館の制度と機能						
13	国立国会図書館の制度と機能						
14	外国の図書館について						
15	図書館関係団体について						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	筆記試験（持ち込み不可）において 60 %以上の得点を獲得する必要がある。なお小テストで扱った範囲は試験対象外とする。		小テスト	20	筆記試験を授業内で行う。	
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
教科書を指定しているため、教科書を活用した予習復習を授業ごとに最低30分程度は行うこと。図書館を日常的（できれば毎週1回以上）に活用することを心がける。また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	この科目は司書資格取得のための科目です。ただし、図書館に興味がある学生の履修も歓迎します。資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『図書館概論』塩見昇編著. 日本図書館協会, 2015. (JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3; 1) ISBN:978-4820414179		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL220U 情報技術論		開講学科	社会科学	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義では、情報の表現・伝達方法である文字・画像情報を中心に、記録媒体である情報メディアおよびそれらを取り扱う多様な情報機器の歴史、種類、特性、機能、利用法、等について概説し、様々な情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。			図書館などの情報サービスにおける情報技術の活用に必要な基礎知識を習得し、多様な実践に対応しうる見識を身につける。コンピュータやネットワーク、インターネットなどの基礎知識の習得する。さらに携帯情報端末や電子資料、電子書籍など多様に進歩する情報技術についての知識を深めていく。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	情報と情報技術 授業の進め方, 情報とは何かを考える						
2	情報の表現方法と蓄積媒体						
3	情報技術と情報メディア その種類と歴史						
4	図書館と記録技術 視覚メディアと電子メディア						
5	情報処理技術とコンピュータ						
6	コンピュータの歴史						
7	現代のコンピュータ						
8	コンピュータとソフトウェア						
9	携帯情報端末						
10	図書館サービスと電子資料・電子書籍						
11	データベースとは						
12	コンピュータネットワークとは						
13	インターネットの仕組み						
14	インターネットと検索エンジン						
15	図書館と情報技術 まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	筆記試験（持ち込み不可）を行う。		小テスト・授業内課題	20	授業内で筆記の小テスト、小レポートを出題する。	
授業参加度	20	授業への参加度、発言などの積極性を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
日常的に情報技術に興味を持ち、ニュースなどで伝えられる情報技術関連の話題に関心を持ってください。基本的なPCについての知識があることが望ましいため、PCなどを活用することを心がけてください。配布資料を用いて復習を30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	この科目は司書資格のための科目ですが、情報技術一般について興味がある学生の履修を歓迎します。司書資格取得を目指す場合は、図書館における情報技術の意味について考えながら受講をしてください。			教科書・テキスト	なし（授業内で資料配布）		
指定図書参考書等	なし／『図書館情報技術論』杉本重雄 [ほか] 編 樹村房 2014 ISBN : 978-4883672035			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP200U 心理学実験実習 I		開講学科	社会科学	必修・選択	選択
担当教員名	木島 恒一・西村 洋一・松下 健・齊藤 英俊 (代表教員 木島 恒一)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
心理学研究を進める上で、必要とされる各種実験手法について、その基礎的知識獲得から実施までを、実習をとおして学びます。各実験後に実験レポートを作成してもらいます。			①実験計画の方法に習熟している。 ②実験器具の取り扱いを習得している。 ③実験で得られたデータの分析方法に習熟している。 ④実験レポートを的確に書くことができる。			
教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。					
履修条件	なし。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。また、心理学実験についての基礎的な知識を説明する。					木島
2	鏡映描写：鏡に映された図形を見ながら、その図形を描くという課題に取り組む。					松下
3	「鏡映描写」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
4	一対比較法：一対比較法の実験の実習を行う。					木島
5	「一対比較法」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					木島
6	長さの錯視：錯視の実験の実習を行う。					松下
7	「長さの錯視」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
8	YG性格検査：YG性格検査を実施し、結果の判定の仕方を学ぶ。					齊藤
9	「YG性格検査」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					齊藤
10	パーソナル・スペース：パーソナル・スペースの心理的効果についての実験の実習を行う。					松下
11	「パーソナル・スペース」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
12	ストループ効果：ストループ効果の実験の実習を行う。					西村
13	「ストループ効果」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					西村
14	SD法：SD法の実験の実習を行う。					松下
15	「SD法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実験レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う(計7本)。レポートとして重要な点は授業内に提示する。		授業への参加度	10	実験とデータ処理に取り組む姿勢をみる。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
①多様な種目が用意されているので、種目ごとに自分でその分野のテキストや先行研究を当たり、知識を深める。[60分] ②各実験とも、実験レポートを作成し、次回の授業の時に提出する。[60分] ③添削されたレポートによって復習する。[30分]				提出された実験レポートを添削した上で返却する。		
受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため、すべての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な態度が求められる。			教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均(編) ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-7795-0237-8	
指定図書参考書等	『実践心理データ解析—問題の発想・データ処理・論文の作成—改訂版』 田中敏 新曜社 2006年 ISBN 4-7885-1012-X/種目ごとに適宜授業内にて提示する。			その他・特記事項	なし。	

授業科目名	SP205U 心理学実験実習Ⅱ		開講学科	社会科学	必修・選択	選択
担当教員名	西村 洋一・木島 恒一・松下 健 (代表教員 西村 洋一)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本実習は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。「心理学実験実習Ⅰ」に引き続き、心理学研究を進めるうえで必要とされる実験手法と実験計画の方法を、実習を通して学ぶ。本実習は、基礎的なものからやや応用的なものまで多様な手法を含んだ実習内容となっている。実験の枠組みの理解とともに実験器具の取り扱いの習得も目指す。</p>			<p>①実験計画の方法を理解する。 ②実験器具の取り扱いを習得する。 ③実験で得られたデータの分析方法を習得する。 ④実験レポートの書き方に習熟する。</p>			
教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。					
履修条件	心理学実験実習Ⅰの履修済みが望ましい(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	眼球運動の測定：アイマーク・レコーダーを用いて眼球運動を測定する実験の実習を行う。					西村
2	「眼球運動の測定」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方を指導を行う。					西村
3	社会的推論：人の持つ社会的認知のありようについて検討する実験の実習を行う。					木島
4	「社会的推論」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方を指導を行う。					木島
5	P-Fスタディ：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。					松下
6	「P-Fスタディ」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方を指導を行う。					松下
7	面接場面における面談者と来談者の言語行動：面接場面の観察から言語行動を分析する手法を学ぶ。					松下
8	「面接場面における面談者と来談者の言語行動」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方を指導を行う。					松下
9	社会的態度：社会的態度を測定するための手法を用いた実験の実習を行う。					木島
10	「社会的態度」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方を指導を行う。					木島
11	触二点閾：皮膚感覚のありようを理解するための実験の実習を行う。					松下
12	「触二点閾」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方を指導を行う。					松下
13	感情理解：表情からの感情理解のありように関する実験の実習を行う。					西村
14	「感情理解」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、仮説の立て方、分析の実施方法、レポートの書き方を指導を行う。					西村
15	「感情理解」レポート作成指導：分析結果のまとめ方、レポートの書き方について指導を行う。					西村
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
授業内レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う(計7本)。レポートとして重要な点は授業内に提示する。	実習への参加度	10	実験を行うにあたって担当者の指示を理解し、着実に実行されているかをみる。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>①種目ごとにテキストや配布されたプリントをよく読み、実験内容の理解を深める。[45分] ②各実験種目のレポートを作成する。[2時間] ③各種目で適用された分析方法を復習する。[30分] ④返却されたレポートを見直し、修正する[30分]</p>			各種目についてのレポートは、添削終了後返却し、コメントを行う。			
受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため全ての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な参加態度が求められる。		教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』西口利文・松浦均(編)ナカニシヤ出版2008年ISBN 978-4-7795-0237-8		
指定図書参考書等	『実践心理データ解析—問題の発想・データ処理・論文の作成—改訂版』田中敏 新曜社 2006年 ISBN 978-4-7885-1012-8/種目ごとに適宜授業内に提示する。		その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP210U 心理学研究法A		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	木島 恒一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
学としての心理学は、実証的研究に基づいている。本講義では、科学としての心理学の論理と歴史を概観し、その上で、人の心と行動を科学的に研究するための方法について学ぶ。各研究方法とも、その基本的な考え方を学んだのち、研究の具体例を検討する。			①科学的心理学の特徴と存在意義について習熟する。 ②科学研究にあたってのアプローチ法とそれに伴う難問について習熟し、適切な研究方法を選ぶことができる。 ③心理学研究における実験法の意義と方法を習得し、実験的研究を行うことができる。 ④統計学によるデータ分析と仮説検証の方法を習得し、統計的検定を実行できる。 ⑤質問紙調査法の特徴と方法を習得し、質問紙調査を実際に行うことができる。 ⑥心理尺度の構成法と統計解析法に習熟し、心理尺度を用いた研究計画を立てることができる。 ⑦観察法による研究の仕方と特徴を習得し、この方法を用いた研究計画を立てることができる。 ⑧性格検査と知能検査について、種類、各検査の特徴について学び、検査実施後の分析をすることができる。 ⑨事例研究における面接法の意義と限界について習熟する。 ⑩心理学研究における倫理的問題について議論することができる。				
教授方法	教科書・プリントを用いた講義形式による。						
履修条件	「心理学概論A」「心理学概論B」を履修済みであることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	心理学史：アリストテレスに始まる心理学の歴史をたどることで、現代の科学的心理学の特徴と存在意義について理解する。						
2	科学的考え方と研究方法：科学的法則をどのように見いだし、測定するかを考え、それに伴う難問について検討する。						
3	実験室実験法①：実験法の基本的な考え方を理解する。						
4	実験室実験法②：実験計画とデータ分析について実験例から理解する。						
5	心理データの統計分析：統計分析の基本的な考え方を学ぶ。						
6	質問紙調査法①：質問紙を使った調査法の基本的な考え方を学ぶ。						
7	質問紙調査法②：質問紙調査票の作成方法と、注意点を理解する。						
8	心理尺度の構成法①：心理尺度による心の測定についての基本的な考え方を理解する。						
9	心理尺度の構成法②：尺度構成のための統計的分析について学ぶ。						
10	観察法：行動観察の方法について学習する。						
11	検査法：性格検査と知能検査の種類と、代表的な検査について学ぶ。						
12	面接法：事例研究では面接法が用いられる。この回では、面接法を採用する際の留意点について考察する。						
13	質問紙を用いた調査①：調査票を作成し、調査を実施する。						
14	質問紙を用いた調査②：調査結果をExcelのファイルに入力し、統計的検定を行う。						
15	質問紙を用いた調査③：自分たちが行った調査結果をレポートにまとめる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	70	講義で学んだことの理解度をみる。		レポート	30	科学レポートの書き方についての理解度と、レポート作成能力をみる。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①講義では専門用語がたくさん出てきますので、難しく感じるかも知れないが、どの学問でも専門用語は避けて通ることができない。図書館には数種類の心理学辞典・心理学事典が備えられているので、専門用語について積極的に調べる。[30分] ②それぞれの研究方法を用いた具体的な研究例、統計処理例について、指定図書『実践心理データ解析実践心理データ解析—問題の発想・データ処理・論文の作成—改訂版』の該当箇所を指示するので、講義前に研究例を読み、講義後に研究レポート例の箇所を熟読する。[30分]			毎回リアクションペーパーに回答してもらい、次回の授業でフィードバックする。				
受講生に望むこと	大学の授業は、受動的に聞いていればよい、というものではない。自分から専門用語の意味を再確認し、基礎的な知識を広げておく必要がある。積極的に予習・復習に取り組んでほしい。		教科書・テキスト	『Progress & Application 心理学研究法』 村井潤一郎編著 サイエンス社 2012年 ISBN : 978-4-7819-1307-0			
指定図書参考書等	『実践心理データ解析—問題の発想・データ処理・論文の作成—改訂版』 田中敏 新曜社 2006年 ISBN 978-4-7885-1012-8 / 『誤解から学ぶ心理学』 木島恒一・野瀬 出・山下 雅子（共編） 勁草書房 2013年 ISBN 978-4-3262-5086-8		その他・特記事項	履修条件ではないが、できれば心理統計学Ⅰ、心理学実験実習Ⅰも履修していると、より講義内容の理解が進むことと考える。			

授業科目名	SP215U 心理検査法		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
心理検査法の理論と実践方法について学ぶ。実際に心理検査（知能検査・質問紙法・投影法等）を体験しながら、実施方法、結果の分析、解釈などアセスメントの実施方法について学習し、得られた検査結果から具体的な支援計画を作成する方法までを修得する。アセスメントを通して的確に現状を把握する力を身につけ、支援計画を作成するスキルも高めていく機会とする。			(1) 心理教育的アセスメントとは何かを説明できるようになること (2) 心理検査の信頼性と妥当性を説明できるようになること (3) 心理検査に用いられる統計解析を説明できるようになること (4) 心理検査を実施、採点、解釈できるようになること				
教授方法	講義、演習						
履修条件	心理統計学Ⅰおよび心理学研究法Ⅰないし心理学研究法Aの成績が「S」または「A」であることが望ましい						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	心理検査法とは何か、オリエンテーション						
2	心理測定の基本、データの尺度水準、分布、代表値、正規分布と確率、標準得点						
3	検査の信頼性と妥当性						
4	心理検査と統計解析						
5	質問紙検査、STAIの理論と実施、解釈と所見作成						
6	性格検査、TEGの理論と実施						
7	性格検査、TEGの解釈と所見作成						
8	描画法、投映法、バウムテストの理論と実施						
9	描画法、投映法、バウムテストの解釈と所見作成						
10	知能検査、WAIS-III（言語性検査1回目）						
11	知能検査、WAIS-III（言語性検査2回目）						
12	知能検査、WAIS-III（動作性検査1回目）						
13	知能検査、WAIS-III（動作性検査2回目）						
14	知能検査、WAIS-III（結果の解釈と所見作成）						
15	総括、心理検査法とは何か						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	30	講義中の演習や課題に従事すること、積極的に質問、発言すること、他者の発表や意見を聴くこと		課題と発表	30	出された課題を行うこと、小レポートを作成すること、必要に応じて発表すること	
期末レポート	40	レポートを書式通りに作成し、期日を守り提出すること					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
心理検査の演習を行うために、検査実施方法を予習して修得すること。[120分] 心理検査の所見を宿題として作成すること。[120分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを掲示する。			
受講生に望むこと	心理統計学ⅠおよびⅡ、そして心理学研究法ⅠおよびⅡの知識と技術を十分修得した上で受講すること。修得していない場合は講義の理解が困難なため、自習により統計や研究法の知識を予め必ず獲得しておくこと。			教科書・テキスト	『心理検査の実施の初歩 心理学基礎演習5』 願興寺 礼子・吉住隆弘（編） ナカニシヤ出版 2011年 ISBN-10:4779503876 ISBN-13:9784779503870		
指定図書/参考書等	『心理テスト—理論と実践の架け橋—』 ホーガン、T. P.（著） 繁 樹算男・椎名久美子・石垣琢磨（共訳） 培風館 2010年 ISBN-13: 978-4563052041			その他・特記事項	心理検査の実施は他者とペアあるいはグループを作り実施する。予習を行わない場合は他者に迷惑をかけることになるので、大きな減点になる。		

授業科目名	SP220U 人間関係論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は、心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。人間は社会的な存在であるが、なぜ社会的な存在であると言われるのだろうか。そのことを一つの大きなテーマとしながら、人間関係や集団における心理について理解することを目的とする。また、人間関係において生じる現代的な問題についても考えを進めていく。授業内容としては、進化の観点、親子、友人、恋愛といった親密な関係、集団と個人の心理等を取り上げる。</p>			<p>①「人間関係」を心理学の観点から捉えなおすことができる。 ②人間関係で起こる様々な事象を客観的な視点から捉えることができる。 ③進化や社会的交換の観点から人間関係を捉えることができる。 ④自分の身の回りの人間関係を授業で学んだことを踏まえて見直すことができる。</p>				
教授方法	講義を中心に、実際に体験できる課題なども取り入れて進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	人間関係とは何か? : 自分自身の人間関係のありようを振り返りつつ「人間関係」というものについて考えてみる。						
2	なぜ人間関係を形成するのか? : 進化の観点を踏まえて、人間が他者と関係を形成することの意義を考える。						
3	進化の観点から人間関係をとらえることの利点とは何か?						
4	人間関係における「適応」を考える: 他者との関係における「適応」とはいったい何を指しているのか、その意味について改めて考える。						
5	個々の人間関係を理解する 1 親子関係 アタッチメント: 親子関係の中で重要な概念であるアタッチメントを取り上げつつ、親子関係がどのようなものか考える。						
6	個々の人間関係を理解する 2 親子関係 青年期の親子関係: 親子関係のあり方の変容を発達という観点から踏まえて考察する。						
7	個々の人間関係を理解する 3 親子関係 虐待: 親子関係における「虐待」について語られることが多いが、その内容の理解とともに社会に与える影響を考える。						
8	個々の人間関係を理解する 4 友人関係の形成: 友人関係の形成過程とその影響について考える。						
9	個々の人間関係を理解する 5 孤独感について考える: 孤独感という概念がどのようなものであり、人においてどのような意味があるのかを見つめ直す。						
10	個々の人間関係を理解する 6 恋愛関係の形成と発展: 恋愛関係の形成過程と関連する要因についての解説を行う。						
11	個々の人間関係を理解する 7 親密な人間関係の理論的理解: 親密な他者との関係形成について社会的交換の観点から考察を行う。						
12	個々の人間関係を理解する 8 職場の人間関係: 特に集団で働くという場合にどのような影響がありうるのかを考える。						
13	社会的スキルとは何か? : 社会的スキルという概念の解説を行い、人間関係形成における位置づけを考える。						
14	人間関係における受容と拒絶: 他者からの受容や拒絶というものが人間に与える影響について考える。						
15	ソーシャルサポートの影響: ソーシャルサポートという概念の解説を行い、人間関係に与える影響について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	試験形式等の詳細は授業内に提示する。		授業内レポート課題	20	課題内容は授業内に提示する。	
講義への参加度	20	授業への取り組み姿勢から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①各回の内容についてプリントや参考書を読んでくる。授業後には授業の内容を振り返りを行う。【30分】 ②講義内で様々な人間関係にまつわる概念を取り上げるが、それらを自分自身や身の回りの人間関係に適用し、具体的に考えてみる。【30分】 ③講義内容を踏まえつつ、人間関係をテーマとした論文あるいは文学作品など広く参照し、友人や家族などと議論を行うこと。【30分】</p>				<p>授業内の小レポートは次回コメントを付けて返却する。 授業内レポートは採点終了後返却し、コメントを行う。</p>			
受講生に望むこと	誰もが程度こそ違えど人間関係を形成しています。しかし、その全体像を捉えることはなかなか難しいものです。それは多様な視点から捉えるべきものであり、本講義ではそのうちのある一つの視点を提供するのみです。単に「人間関係がうまくいく方法」を身につけることにとらわれるのではなく、そのような複雑なものを見る「目」を養うことを目指してください。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし/『対人関係の心理学』和田実・増田匡裕・柏尾眞津子 北大路書房 2016年 ISBN 978-4-7628-2945-1			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP225U 発達心理学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学研究の具体的な成果をもとに、乳幼児期および児童期を中心に、人間の発達のしくみについて学ぶ。			①発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。 ②各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。 ③発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期および児童期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。				
教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解する。						
2	「発達」を考える①：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。						
3	「発達」を考える②：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。						
4	胎児期～乳児期①：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。						
5	胎児期～乳児期②：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。						
6	胎児期～乳児期③：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着（アタッチメント）」について考える。						
7	幼児期①：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。						
8	幼児期②：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して、子どもにおける遊びの重要性について考える。						
9	幼児期③：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。						
10	児童期①：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に、学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。						
11	児童期②：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子どもの「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。						
12	青年期①：「人は二度生まれる」の二度目の誕生とは。青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。						
13	青年期②：「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性（アイデンティティ）」について考える。						
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。						
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害を正しく理解し、適切な関わりを考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
各回のミニ・レポート	30	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。		定期試験	70	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の当該箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③発達心理学の下位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。				①毎回のレポートについては、次回の授業のときに内容に関する振り返りを行います。 ②試験については、次学期初めに解答や内容に関するコメントを配布します。			
受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かしていくことができるかを考え、主体的に受講することを望みます。			教科書・テキスト	『問いからはじめる発達心理学』坂上裕子・山口智子・林 創・中間玲子 有斐閣 2014年 ISBN:978-4641150133		
指定図書参考書等	なし/ 『保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』本郷一夫編 建帛社 2015年 ISBN:978-4767950358、『発達心理学で読み解く保育エピソード』若尾良徳・岡部康成 北樹出版 2010年 ISBN:978-4779302510、『エピソードでつかむ生涯発達心理学』岡本 祐子・深瀬 裕子編 ミネルヴァ書房 2013年 ISBN:978-4623065318、『エピソードでつかむ児童心理学』伊藤亜矢子編 ミネルヴァ書房 2011年 ISBN:978-4623058259			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP230U 教育心理学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
教育心理学における主要な領域（発達、学習、評価、集団・適応）について講義する。本講義では、教育活動について心理学の視点から理解を深め、効果的な学びを促すにはどうすればよいかについて考える。			①子どもの心身の発達過程を答えられる。 ②学習過程で生じる心理学的法則について答えられる。 ③集団の心理と集団への適応に関して正しい知識を答えられる。 ④教育活動の評価の意義および役割を答えられる。				
教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：教育心理学は、どのような学問なのか。教育心理学の主な領域である「発達」「学習」「評価」「集団・適応」の枠組みと、教育心理学の研究法を理解する。						
2	発達と教育①「発達の要因」：人間の発達と教育の関連について、遺伝環境論争を通して学ぶ。人間の発達に影響を及ぼす要因について考える。						
3	発達と教育②「発達における教育の役割」：ピアジェやヴィゴツキーの発達理論を通して、発達における教育の役割を考える。						
4	学習①「学習理論①」：学びはどのようにして生じるか。条件づけ理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。						
5	学習②「学習理論②」：学びはどのようにして生じるか。学習に関する様々な理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。						
6	学習③「学習と教授理論」：どのような教え方が効果的だろうか。さまざまな教授理論を比較しながら各教授法の特徴を考える。						
7	学習④「動機づけ」：やる気はどこから生じるか。動機づけに関する研究を通して、学ぶ意欲について考える。						
8	学習⑤「記憶」：学びの基礎になる記憶の理論を学ぶ。記憶に関する研究成果を紹介し、学習においてどのように活用できるか考える。						
9	学習⑥「学習指導と個人差」：すべての子どもに同じ教え方でよいだろうか。教授方法と個人差との関係を通して、学習指導について考える。						
10	評価①「知能」：知能とは何だろうか、どのように測定できるだろうか。知能に関する様々な理論と測定方法を学び、「知能が高い（低い）」とはどのようなことか考える。						
11	評価②「教育評価」：教育評価とは何か、誰が誰の何を評価するのだろうか。教育評価の意義を理解し、教育における評価の役割を考える。						
12	集団・適応①「学級集団」：学級は単なる個人の集まりだろうか。集団心理や成員間の相互作用などを通して、学級集団について考える。						
13	集団・適応②「不登校・いじめ」：不登校やいじめの問題を通して、学校や学級集団への適応を考える。						
14	集団・適応③「発達障害・精神障害」：発達障害や精神障害を抱えた子どもの学校や学級集団への適応を考える。						
15	集団・適応④「学校カウンセリング」：学校や家庭において、子どもの心の問題にどのように取り組んでいくことができるだろうか。学校現場での心理支援活動について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
各回のミニ・レポート	30	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。		定期試験	70	教育心理学の主要な内容（発達、学習、評価、集団・適応）に関する基礎知識が獲得されていることが評価基準。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の当該箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、教育心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③教育心理学と関連の深い「発達心理学」「学習心理学」「認知心理学」「学校心理学」などの関連書籍にあたり、知識を深める。			①毎回のレポートについては、次回の授業のときに内容に関する振り返りを行います。 ②試験については、次学期初めに解答や内容に関するコメントを配布します。				
受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望みます。			教科書・テキスト	『教育心理学』 服部環・外山美樹編 サイエンス社 2013年 ISBN: 4781913253		
指定図書参考書等	なし/『教育心理学Ⅰ』大村彰道編 東京大学出版会 1996年 ISBN: 978-4130520720、『教育心理学Ⅱ』下山晴彦編 東京大学出版会 1998年 ISBN: 978-4130520744			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP235U 人格心理学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
人間の心理や行動には個人差が存在する。そのような個人差が生まれるメカニズムに関連しているものの1つとして人格（＝性格、パーソナリティ）があげられる。本講義では、心理学の知見を通して人格を捉えるための多様な観点を概観し、人間理解に向けた1つの基本的知識・視点を身につけることを目指す。			①人格を理解するための諸理論を説明できる。 ②人格を測定する方法と、測定における問題点を答えられる。 ③人格心理学の科学的知見をもとに、人間のパーソナリティについて幅広い視野から考えることができる。				
教授方法	講義を中心に性格検査などのワークも取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：人格（性格、パーソナリティ）とは何か。人の内面の特徴とされるパーソナリティとはどのようなものか概説する。						
2	人格の測定と研究法：人格はどのように測定することができるか考える。方法論（質問紙法、絵画法、投影法、観察法、面接法）を理解し、研究方法について学ぶ。						
3	類型論：人格をとらえる視点の一つである「類型論」をとりあげ、性格をタイプに分けることの利点と欠点について考える。						
4	精神分析的人格論①：フロイトの精神分析的人格論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。						
5	精神分析的人格論②：ユングのパーソナリティ論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。						
6	特性論① その考え方：人格をとらえる視点の一つである「特性論」をとりあげ、人をいくつかの特性からとらえることの利点と欠点を考える。						
7	特性論② Big Five：パーソナリティは5つの主要な性格因子で構成されるとする「Big Five モデル」を学ぶ。						
8	状況論：状況要因や環境要因を重視した「状況論」について学び、人格における状況の影響について考える。						
9	相互作用論：人-状況論争を経て誕生した「相互作用論」をとりあげ、近年の性格研究の動向について学ぶ。						
10	物語論：物語論（ナラティブ）の視点から人格について考える。						
11	遺伝と環境の影響：遺伝や家庭をはじめとする環境が、どの程度、人格の形成に影響しているかを考える。						
12	人格の発達：一度つくられた人格が変わることはあるか、あるとしたらどの程度変化するかについて考える。						
13	人間関係と人格：「対人魅力」に関する研究成果をもとに、相手に好かれる性格とはどういったものかについて考える。						
14	文化と人格：東洋と西洋、日本と米国など、異なった文化環境は人格の形成にどういった影響を及ぼしているかについて考える。						
15	人格の病理：人格における病理にはどのようなものがあるか、またそれらへの対応や治療について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
講義への参加態度	20	授業への取り組み姿勢や出席状況をもとに評価を行う。		コメント・ペーパー	20	講義内容を踏まえて、自らの意見や考えを述べられているかを評価する。	
レポート	60	「人格心理学」の基礎知識が獲得されている。 「人格心理学」のテーマについて、実証的研究の知見を踏まえて論理的考察を加えられる。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業の前にシラバスを読み、授業内容について参考書などで予習しておくこと。 [30分] ②授業の後に各回の講義内容について、関連図書などを用いて復習しておくこと。 [50分] ③普段自分が、自分の性格や他人の性格をどのようにとらえているのか意識して生活してみる。 ④授業内で習った理論に基づいて、自分の性格や他人の性格を分析してみる。				①コメント・ペーパーについては、授業内で振り返りの時間をもちます。 ②レポートについては、授業内や次学期初めに内容に関するコメントを配布します。			
受講生に望むこと	性格は身近なものであり、講義内容と自分の性格など自分自身とを結びつけながら受講してほしい。			教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし/『[改訂版] 人格心理学への招待：自分を知り他者を理解するために』 詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊 サイエンス社 2003年 ISBN:978-4781910444、 『パーソナリティ心理学』 榎本博明・安藤寿康・堀毛一也 有斐閣 ISBN: 978-4641123779、 『パーソナリティ心理学概論：性格理解への扉』 鈴木公啓編 ナカニシヤ出版 2012年 ISBN:978-4779506383			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP240U 臨床心理学		開講学科	社会科学	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
臨床心理学は心理学の様々な知見を対人援助に用いることを目的とした、応用的な分野の一つである。その内容は多岐にわたるため、本講義では対象、査定方法、心理療法のモデル、心理療法の理論、心理療法の技法、臨床心理士が活躍する現場に焦点を当てて学習する。臨床心理学では人を理解することが重要であるため、技法や検査を体験することで自己や他者の特徴について理解を深める機会と、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて人とのコミュニケーションの取り方について考える機会を設けたい。			(1) 臨床心理学とは何かを説明できるようになる。 (2) 臨床心理学の対象は何かを説明できるようになる。 (3) 臨床心理学的査定とは何か、具体的にどのような方法があるかを説明できるようになる。 (4) 臨床心理学の理論を説明できるようになる。 (5) 臨床心理学の技法を説明できるようになる。 (6) 臨床心理士が活躍する現場を説明できるようになる。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	臨床心理学の定義と歴史：臨床心理学とは何か、その定義と歴史を理解する。						
2	学校臨床心理学（不登校、いじめ、発達）：学校について臨床心理学的観点から理解する。						
3	発達障害：臨床心理学の対象のひとつである発達障害について、どのような特徴があるかを理解する。						
4	統合失調症：臨床心理学の対象のひとつである統合失調症について、どのような特徴があるかを理解する。						
5	気分障害、神経症：臨床心理学の対象である気分障害と神経症について、どのような特徴があるかを理解する。						
6	異常と正常、治療モデルと成長モデル：臨床心理学では異常と正常をどのように考えるのか、また、対象の変化をどのようなモデルに沿って考えるのかを理解する。						
7	心理査定（面接法、観察法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、面接法と観察法に焦点を当てて理解する。						
8	心理査定（投影法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも投影法に焦点を当てて理解する。						
9	心理査定（知能検査、作業検査、質問紙）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも知能検査、作業検査、質問紙に焦点を当てて理解する。						
10	心理面接（受理面接・終結、マイクロカウンセリング）：臨床心理学の面接はどのように行われるのか、面接の開始、面接の終了、面接の技法を理解する。						
11	精神分析の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである精神分析について、その歴史、精神分析理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
12	人間性心理学の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである人間性心理学について、その歴史、人間性心理学理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
13	行動療法・認知療法の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論である行動療法・認知療法について、その歴史、行動療法・認知療法の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
14	遊戯療法、家族療法、森田療法、内観、臨床動作法、自律訓練法：臨床心理学において頻りに利用される様々な心理療法について理解する。						
15	臨床心理士が働く現場（医療、教育、福祉）：臨床心理学を対人援助に実際に利用している臨床心理士がどのような現場で活躍しているのかを理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の考えを記述すること。講義のメモではなく、内容から発展させた自分の考えを記述することが求められる。		講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。	
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義内容に関連する内容について、参考図書をはじめとする臨床心理学に関連する学術的な書籍や論文を読み、知識や理解を深める予習が求められる。[60分] 内容の理解や知識の定着のために復習を積極的に行うことが求められる。[30分] グループでプレゼンテーションを行う際には講義以外にも仲間と打ち合わせや発表の準備を行う必要性が生じる場合がある。[60分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを配布する。			
受講生に望むこと	シラバスの内容をよく確認した上で受講すること。 学習に自発的、積極的に取り組むこと。 グループディスカッションの時には他者と協調すること。 プレゼンテーションのために仲間と協力して学習に取り組むこと。			教科書・テキスト	なし。 適宜資料を配布する。		
指定図書参考書等	園田雅代・無藤清子（2011）『臨床心理学とは何だろうか：基本を学び、考える』新曜社 ISBN:478512262 / 岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美（2013）『臨床心理学入門：多様なアプローチを越境する』有斐閣 ISBN：9784641220034			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーをお招きする可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

授業科目名	SW200U 相談援助の基盤と専門職		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
講義をとおして、ソーシャルワーカーの役割と意義を学び、ソーシャルワークの概念と範囲、理念について理解する。また、ソーシャルワーカーの専門性と専門職倫理を学び、総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。 社会福祉士実習、および国家試験を意識した内容を展開する。			①ソーシャルワーカーの役割と意義について理解する。 ②ソーシャルワークの概念と範囲、理念について理解する。 ③ソーシャルワーカーの専門性と専門職倫理について理解する。 ④総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	相談援助のきっかけ（問題はどのような状況で発生するかを理解する）						
2	ソーシャルワーカーの役割と意義について						
3	相談援助の概念（相談援助とはどのようなことをいうのかを理解する）						
4	相談援助の範囲						
5	相談援助の理念①（人権と社会正義について理解する）						
6	相談援助の理念②（利用者本位と尊厳の保持について理解する）						
7	相談援助の理念③（自立支援について理解する）						
8	ソーシャルワークにおける権利擁護の意義						
9	相談援助に係る専門職の概念と範囲（相談援助の専門職とは何かを理解する）						
10	福祉行政における専門職						
11	民間施設と組織における専門職						
12	専門職倫理の概念（専門職の倫理とはなぜ必要か、どのようなものがあるかを理解する）						
13	ソーシャルワーカー倫理綱領について（ソーシャルワーカーの倫理綱領を理解する）						
14	倫理的ディレンマ（ソーシャルワーカーの抱える倫理的ディレンマについて理解する）						
15	総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容（ソーシャルワーカーに求められる援助方法について理解する）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	50	出席状況と授業への取り組み姿勢、提出物等		確認テスト・ミニレポート	50	授業内容の理解（毎回の確認テスト）	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
①社会のなかで起こっている福祉に関する問題について感心をもつ。 ②相談の基盤となる人間関係についてさまざまな機会をとおして学ぶ。 ③社会問題に関する新聞記事を読み、自分なりに考察を行ないまとめる。30分以上				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
				確認テスト等は、毎回、結果とともに内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。			
受講生に望むこと	社会のなかで発生しているさまざま問題に関心を持ち、なぜそのような問題が起こるのか、その問題の解決にはどのような方法があるのか、自分なりに問題意識をもちながら授業に臨んでください。 授業は、社会福祉士実習、および国家試験を意識した内容です。			教科書・テキスト	『新・社会福祉士養成講座6（相談援助の基盤と専門職第3版）』中央法規。 ISBN:978-4-8058-5102-9		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW205U 相談援助の理論と方法 I		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会福祉士にとって必要な社会福祉援助技術のシステム理論における全体像を理解し、将来、社会福祉サービスの利用者を援助するソーシャルワーカーとして実践することを想定し、連絡調整等のソーシャルワーク実践についての理論と技術についての基本を習得するとともに、相談援助の構造、機能、展開過程を通じた総合的かつ包括的なあり方とその実際の意義や具体的概念を理解し、真に求められるソーシャルワークの基礎を学ぶ目的で授業を進める。講義と課題レポートなどを通してソーシャルワークの基礎及び全体像を身につけることができる。</p> <p>社会福祉士実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。</p>			<p>①毎回の講義を通して、相談援助の基礎的知識を身につけることができる。 ②社会福祉士の役割と意義を理解する。 ③ソーシャルワークの歴史を理解する。 ④総合的かつ包括的な相談援助体制と機能を理解する。 ⑤専門職倫理と価値、ジレンマについて理解する。 ⑥課題レポートを通して相談援助の全体像を習得する。 ⑦確認テスト等を通して基礎的知識の習得を確認する。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」の単位修得済の者、または同時履修の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	科目を学ぶ意義、到達目標、授業の流れを把握し、社会福祉士の役割と意義について理解する。						
2	相談援助の定義と構成要素について理解する。						
3	相談援助の形成過程の中のソーシャルワークの源流、基礎確立期について理解する。						
4	相談援助の形成過程の中のソーシャルワークの発展期、展開期、統合化について理解する。						
5	相談援助理念としてのソーシャルワーカーと価値について理解する。						
6	相談援助理念としてのソーシャルワーク実践と価値について理解する。						
7	相談援助理念としてのソーシャルワーク実践と権利擁護について理解する。						
8	相談援助理念としてのクライアントの尊厳と自己決定について理解する。						
9	相談援助理念としてのノーマライゼーションと社会的包摂について理解する。						
10	専門職倫理と価値、ジレンマについて理解する。						
11	総合的かつ包括的な相談援助の全体像について理解し、レポート課題を通して主体的に習得する。						
12	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論について理解する。						
13	相談援助にかかる専門職の概念と範囲について理解する。						
14	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能としての予防機能、多様なニーズ対応について理解する。						
15	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能としての総合支援、権利擁護、社会資源について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等		確認テスト・ミニレポート	50	授業内容の理解（毎回の確認テスト）	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>①毎回の授業後に、自身で振り返り、疑問点や不明な点を調べる。[30分以上] ②社会の事象に関心を持ち、とくに福祉領域の特徴、問題等をまとめる。 ③社会福祉士の国家試験と関連したポイントを整理する。</p>				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
				確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。			
受講生に望むこと	①相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するように期待します。 ②疑問点や深い洞察も含めた知識の探求について意識し学んで下さい。			教科書・テキスト	新・社会福祉士養成講座7『相談援助の理論と方法 I 第3版』中央法規。 ISBN:978-4-8058-5103-6		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW210U 相談援助の理論と方法Ⅱ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会福祉士がソーシャルワーカーとして個人、家族、小集団・組織、地域社会をクライアント・システムとして捉え、いかに対応していくかを学ぶ。特に利用者主体の尊重と援助活動への利用者自身の参加、すなわちソーシャルワークにおける援助関係はソーシャルワーカーと利用者の協働関係であることを基本的な理解として、相談援助の展開過程と面接の技術、およびその活動の測定、評価等について学ぶ。</p> <p>社会福祉士実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。</p>			<p>①相談援助における価値と倫理に関する意識を深めることができる。 ②相談援助におけるソーシャルワーカーと利用者の援助関係を理解することができる。 ③相談援助の展開過程の流れと各段階の目的や内容を理解できるようになる。 ④福祉援助を必要とする人の生活課題とニーズへの向き合い方を理解できるようになる。 ⑤相談援助に必要な基礎的面接技術を習得することができる。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法Ⅰ」の単位修得済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	「相談援助とは」 相談援助の姿勢と専門職の価値を理解する。						
2	「相談援助の構造と機能」 ソーシャルワークの枠組みを理解する。						
3	「人と環境の相互作用」 システム理論（家族療法）について事例から理解する。						
4	「相談援助における援助関係」 バイステック7原則から相談援助の基本姿勢を理解する。						
5	「相談援助の展開過程Ⅰ」 相談援助のプロセス（インテーク、アセスメント）について理解する。						
6	「相談援助の展開過程Ⅱ」 相談援助のプロセス（援助計画、モニタリング）について理解する。						
7	「相談援助のためのアウトリーチの技術」 アウトリーチの必要性を理解する。						
8	「相談援助のための契約の技術」 社会福祉の契約の意義を理解する。						
9	「相談援助のためのアセスメントの技術」 アセスメントの重要性を理解する。						
10	「相談援助のための介入の技術」 多様な実践モデル・アプローチについて理解する。						
11	「相談援助のためのモニタリング、効果測定、評価の技術」 モニタリングのポイントと評価の方法を理解する。						
12	「相談援助のための面接の技術Ⅰ」 相談面接技術の構造と面接環境について理解する。						
13	「相談援助のための面接の技術Ⅱ」 面接を展開する技法について理解する。						
14	「相談援助のための面接の技術Ⅲ」 感情に接近する技法について理解する。						
15	「相談援助の実際」 社会福祉施設など実践現場での事例から支援の方法を理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等		確認テスト・ミニレポート	50	授業内容の理解（毎回の確認テスト）	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>①毎回、テキスト・資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上] ②社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。 ③福祉現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。</p>				<p>確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。</p>			
受講生に望むこと	<p>①相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的姿勢で学び習得するように期待します。 ②現代社会において福祉のニーズは多様化し、範囲も広がっています。テレビや新聞などで日頃から関連するニュースには関心を持つようになしてください。</p>			教科書・テキスト	<p>新・社会福祉士養成講座7『相談援助の理論と方法Ⅰ第3版』中央法規出版。 ISBN:978-4-8058-5103-6 ※前期と同じもの</p>		
指定図書参考書等	なし/『対人援助のための相談面接技術－逐語で学ぶ21の技法－』岩間伸之、中央法規。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW215U 社会保障論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	河野 すみ子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
私たちの生活と社会保障の関係を説明し、社会保障の理念、歴史、体系、財源などについて解説する。ついで、わが国の医療保険、年金保険、介護保険、労働者災害補償保険、雇用保険の基本的な内容について説明する。			1. 社会保障の理念、歴史、体系、財源、諸外国の動向などについて学び、社会保障の基本的な内容について理解する。 2. わが国の医療保険、年金保険、介護保険、労働者災害補償保険、雇用保険の基本的な内容について理解する。 3. 社会保険と民間保険とのちがいについて理解する。				
教授方法	講義形式。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	現代社会と社会保障を学ぶ						
2	社会保障の歴史を知る						
3	社会保障制度の体系について理解する						
4	社会保障の財源と費用について学ぶ						
5	医療保険制度の沿革と体系について理解する						
6	医療保険制度の概要を学ぶ						
7	医療保険制度の現状と課題						
8	年金保険制度の沿革と体系について理解する						
9	年金保険制度の概要を学ぶ						
10	年金保険制度の現状と課題						
11	介護保険制度創設の経緯と概要について理解する						
12	介護保険制度の現状と課題						
13	労働者災害補償保険制度の概要を学ぶ						
14	雇用保険制度の概要を学ぶ						
15	民間保険の概要について学び、社会保険との違いを理解する						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
試験	70	試験範囲、形式について後日掲示する。	毎回のミニッツペーパー	30	授業を聞いて、質問、疑問、感想などを記載する。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
新聞・ニュースなどに目を配り、社会保障に関するニュースに触れること。[30分] テキストを読んで予習して授業に臨むこと。[30分] 授業中に紹介する参考書なども読むことにより、理解を深めること。[30分]			授業で出された質問・疑問について次回の授業で答えます。				
受講生に望むこと	現在の社会保障をめぐる動向について関心をもち、考えてほしい。		教科書・テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会『社会保障』第5版（新・社会福祉士養成講座12）、中央法規出版 ISBN：978-4805853009			
指定図書参考書等	唐鎌直義編『格差と貧困』新日本出版社、2016年 ISBN：978-4-406-06004-2		その他・特記事項	テキストは必ず準備すること。			

授業科目名	SW220U 相談援助演習 I		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、具体的な援助場面を想定したロールプレイング等を中心とする演習形態により、実践的に習得する。			①ケースワーク及びグループワークについて、理論や技術を演習し、基礎能力を習得する。 ②演習を通じて、利用者・家族とのコミュニケーションの実際が理解できる。 ③記録による情報の共有化、報告・連絡・相談、会議の実際が理解できる。				
教授方法	個人及びグループでの演習と講義。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、受講の注意点、演習形態の重要性を理解する。利用者との関係形成の重要性について理解する。						
2	関係形成のための自己理解、自己覚知について学ぶ。						
3	価値観と他者理解について学ぶ。						
4	関係形成のための原則について学ぶ：バイステックの7原則の理解						
5	基本的なコミュニケーション技術の習得：言語的、非言語的コミュニケーションの理解						
6	基本的なコミュニケーション技術の習得：観察、傾聴、伝達等の技術の習得						
7	基本的な面接技術の習得：基本的応答技法の体験的な理解						
8	基本的な面接技術の習得：基本的応答技法の活用						
9	ケースワーク：インテーク、アセスメントについて理解する。						
10	ケースワーク：プランニングについて理解する。						
11	ケースワーク：モニタリング、事後評価について理解する。						
12	ケースワーク：終結とアフターケアについて理解する。						
13	グループワーク：リーダーシップとリーダーの役割を理解する。						
14	グループワーク：グループリーダーとしての話し方、グループにおける話し合いの方法を理解する。						
15	記録の意義、方法について理解する。講義の振り返りとまとめ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
定期試験	60	各回の講義内容についてどれだけ理解しているか。	講義参加態度	40	・演習の目的を理解し、積極的に自ら学びとろうとする姿勢。 ・ワークシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の後に講義と演習内容を復習し、毎回の授業のねらい達成を確実なものとする。[30分以上] ・授業の後に課された課題に取り組み、次の授業に備える。[30分以上] ・分からない語句や興味を持ったことに関して、自分で調べて理解を深める。 			<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。 				
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は社会福祉士を目指す専門的な内容となっているので、この点を理解した上で受講して欲しい。 ・相談援助の知識と技術に係る他の科目（相談援助の理論と方法等）と関連づけて学ぶ。 		教科書・テキスト	なし。レジュメを毎回配布する。			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	SW225U 相談援助演習Ⅱ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
社会福祉の専門援助技術のひとつであるケアマネジメントについて、事例や援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により、相談援助に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。			①ケアマネジメントについて、その誕生の背景、基本理念、目的、援助の視点を理解することができる。 ②介護保険制度と障害者総合支援法による制度としてのケアマネジメントの位置づけや児童福祉領域などの領域におけるケアマネジメントを理解することができる。 ③ケアマネジメントの展開過程であるアセスメント、プランニング、モニタリング等について、基本的な技法を習得することができる。				
教授方法	ワークシート等を用いて演習形式で行う。						
履修条件	相談援助演習Ⅰを履修済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ケアマネジメントの基本的理念、意義について学ぶ。						
2	ケアマネジメントの目的、機能等について学ぶ。						
3	ケアマネジメントのプロセス、社会資源等について学ぶ。						
4	ケアマネジメントの制度と施策について学ぶ。						
5	ケアマネジメントにおけるアセスメントの意義について学ぶ。						
6	ケアマネジメントにおけるアセスメントの方法について学ぶ。						
7	介護保険制度におけるケアマネジメント：居宅サービス計画の目的・意義について学ぶ。						
8	介護保険制度におけるケアマネジメント：居宅サービス計画のアセスメントについて学ぶ。						
9	介護保険制度におけるケアマネジメント：居宅サービス計画のプランニングについて学ぶ。						
10	介護保険制度におけるケアマネジメント：居宅サービス計画のモニタリングと評価について学ぶ。						
11	介護保険制度におけるケアマネジメント：施設サービス計画のアセスメントについて学ぶ。						
12	介護保険制度におけるケアマネジメント：施設サービス計画のプランニングについて学ぶ。						
13	介護保険制度におけるケアマネジメント：施設サービス計画のモニタリングと評価について学ぶ。						
14	介護保険制度におけるケアマネジメント：介護予防サービス計画の概要について学ぶ。						
15	障害者や児童福祉領域におけるケアマネジメントについて学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
定期試験	60	毎回の授業内容についてどれだけ理解しているか。	授業参加状況	40	・授業への積極的な取り組み。 ・ワークシート等の提出物。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①授業の前にあらかじめ指示されたテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義と演習内容を復習し、毎回の授業のねらい達成を確実なものとする。[30分以上] ③テキストの事例を読み込み、ケアマネジメントへの理解を深める。			・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。				
受講生に望むこと	演習形式の授業であるため、毎回、遅刻せずに出席し、積極的に取り組むこと。		教科書・テキスト	『対人援助職をめざす人のケアマネジメント』 太田貞司 他編（株）みらい 2007年 ISBN978-4-86015-109-6			
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	SB200U 図書館サービス概論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目であり、図書館の中心的機能である情報提供について、その意義・種類・方法について理解を深めるとともに、多様な図書館サービスの形態を学ぶ。またそれぞれの図書館サービスの本質を理解することを旨とする。			①図書館サービスの意義・構造について理解する ②資料提供サービスの基本について理解する ③様々な情報提供サービスの形態と機能について理解する ④図書館ネットワークについて理解する ⑤障害者サービス、高齢者サービス、など利用対象に応じたサービスについて理解する ⑥図書館と著作権について問題意識を持って理解する				
教授方法	講義						
履修条件	「図書館概論」を履修した者または履修中の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	図書館サービスの意義 (1) 図書館の構成要素とサービスの役割						
2	図書館サービスの意義 (2) 図書館サービスの類型化						
3	図書館サービスとマネージメント (1) 計画の立案と評価						
4	図書館サービスとマネージメント (2) 図書館の「望ましい基準」						
5	来館者へのサービス						
6	利用空間の整備						
7	貸出サービスの構造						
8	資料提供の展開 (1) リクエストサービス						
9	資料提供の展開 (2) 資料収集の方針						
10	情報提供サービス						
11	利用対象に応じたサービス (1) 障害者サービス、高齢者サービス						
12	利用対象に応じたサービス (2) 児童サービス						
13	利用対象に応じたサービス (3) 多文化サービス						
14	情報提供と著作権						
15	これからの図書館サービスのあり方について (ディスカッションとまとめ)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	筆記試験 (持ち込み不可) において60%以上の得点を獲得する必要がある。受験に当たり、評価項目 3 で指定するレポートが受理されていることが必要である。		授業内課題	20	授業内での作業・ディスカッションなどの成果を評価する。	
レポート	20	①授業で指定した内容をまとめ、②同一内容を扱う別の文献を探し、内容をまとめる。③双方の見解に基づいて意見をまとめ、④期限までに指定書式にて提出する。		授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。	
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
教科書を指定しているため、教科書を活用した予習復習を推奨する。図書館を日常的 (できれば毎週1回以上) に活用することを心がける。また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。図書館利用の際は図書館がどのようなサービスを実施しているのか注目し、機会があれば積極的にサービスを利用すること。各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『図書館サービス論』小田光宏編著. 日本図書館協会, 2010. (JLA 図書館情報学テキストシリーズ 2 ;3) ISBN:978-4-8204-0917-5		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	レポートは未提出の場合は単位認定を行わない。		

授業科目名	SB205U 情報サービス論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目である。図書館における情報サービスの歴史や理念をふまえ、図書館情報サービスを形成する情報検索や各種のサービス（レファレンスサービス、カレントアウェアネスサービス、レフェラルサービス、利用者教育、SDIなど）について解説する。また各種情報源の種類や利用・検索方法について、文字情報、数値情報、映像・音声情報などの種類別やメディア別に解説する。			①図書館の理念を理解し、利用者サービスの重要性を理解する ②資料提供サービスと情報提供サービスの違いを理解する ③図書館サービスの中における情報サービスの位置づけを理解する ④各種情報源の特性を知り、情報源の利用について知識を身に付ける				
教授方法	講義、スライドを使用した形式で実施						
履修条件	「図書館概論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	情報サービスの概要：情報サービスの意義を理解する						
2	情報サービスの基礎：レファレンスサービスとはなにか						
3	情報サービスの展開：利用指導、レフェラルサービスとはなにか						
4	多様な情報サービス：読書相談、地域情報の発信、専門的な情報提供のあり方						
5	デジタルレファレンスサービス：デジタル環境でのレフェラルサービスとは						
6	情報源整備の実際：印刷メディアと電子メディアの特徴、レファレンス情報源の構築と評価						
7	利用者の情報利用に対する理解：情報ニーズと情報探索行動						
8	レファレンス質問への対応：レファレンスプロセスの理解						
9	情報の検索と回答：検索戦略構築と情報検索を行うには						
10	情報検索のしくみ：レファレンスブックの構造、データベースの検索機能						
11	情報サービスの管理：情報サービスの組織化、人的な資質と能力						
12	情報源の特質：事実検索と文献検索、データベースの種類内容						
13	事実情報の検索の実際：言葉、統計、地理、人名などの調べ方						
14	文献情報の検索の実際：図書雑誌、雑誌記事などの調べ方						
15	情報サービスの実際：まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	記述式の筆記試験を行う。図書館における情報サービスの基本的な位置づけを理解できている必要がある。		授業内課題	20	授業中に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見を記述してもらう。	
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかななどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業内で紹介した各種情報源について、図書館やWebで実際に確認すること。図書館のOPACなどデータベースを日常的に活用すること。各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をしてください。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をしてください。			教科書・テキスト	『情報サービス論』小田光宏編著、日本図書館協会、2012。（JLA図書館情報学テキストシリーズ3；5）ISBN：978-4-8204-1211-3		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB210U 情報資源組織論		開講学科	社会科学	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源の組織化と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用などについて理解することを目的とする。			①資料組織化の意義、書誌コントロールについて理解する ②記述目録法について学び、書誌記述法を理解する ③主題分析・分類法・索引法について理解する ④日本目録規則にもとづく目録法を理解する。				
教授方法	講義						
履修条件	「図書館概論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	資料組織化の意義について						
2	書誌コントロール (1) 書誌とは何か						
3	書誌コントロール (2) 全国書誌・OPACとは						
4	書誌情報の作成・流通・管理						
5	記述目録法の基礎一概要と記述の範囲						
6	記述の単位と順序、記述ユニット方式と区切り記号						
7	記述目録法作成の実際 (1) タイトルと責任表示、版表示に関する事項						
8	記述目録法作成の実際 (2) 出版頒布・形態に関する事項						
9	記述目録法作成の実際 (3) シリーズ・注記・標準番号・入手条件に関する事項						
10	記述目録法作成の実際 (4) 標目と排列						
11	主題分析と分類法・索引法						
12	分類法の実際 (1) 分類総論						
13	分類法の実際 (2) 日本十進分類法						
14	分類法の実際 (3) その他の分類法						
15	ネットワーク情報源の組織化とメタデータ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	筆記試験(持ち込み不可)において60%以上の得点を獲得する必要がある。		小テスト	20	目録の知識を確認するため筆記の小テストを授業内で行う。	
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。特に目録を活用し、OPACは日常的に利用すること。 履修までに大学図書館だけでなく、公共図書館のOPAC利用を経験しておくこと。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『情報資源組織論』柴田正美著、日本図書館協会、2012。(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3 ; 9) ISBN:978-4-8204-1202-1		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

社会学科
(3 ~ 4 年次)

授業科目名	専門ゼミ I			開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	小林 正史・木島 恒一・俣 希貴・西村 洋一・真砂 良則・田中 純一・田引 俊和・若山 将実・竹中 祐二・松下 健・若杉 亮平 (代表教員 小林 正史)						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>担当する教員の専門分野のなかから自分の興味関心のあるテーマについての知見を深める。ゼミごとに文献を設定し、演習形式で文献の輪読と担当者によるレジュメの作成と発表、内容についてのディスカッションをおとして、専門的な文献の読解力と内容の把握の方法を身につける。自分のテーマを追究するのに適した理論や方法論を見出し、ゼミレポートの作成を目指す。</p>				<p>①専門分野に関する文献を読んで理解する。 ②専門分野に関するディスカッションを通して自分のテーマを見出す。 ③ゼミレポートを作成する。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	1年生必修科目およびプロゼミを履修していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員

授 業 計 画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
28	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
29	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
30	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
受講態度	50	①課題にまじめに取り組んでいるか。 ②積極的にディスカッションに参加しているか。	レポート	50	①指定された書式にしたがっているか。 ②適切な内容となっているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
ゼミレポートの作成やゼミ発表の準備を進める（週平均90分以上）。 詳細は各ゼミの担当教員の指導にしたがう。			各ゼミの担当教員の指導にしたがう。		
受講生に望むこと	研究課題に主体的に取り組んでください。		教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。		その他・特記事項	なし	

授業科目名	専門ゼミⅡ			開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	木島 恒一・小林 正史・俵 希實・西村 洋一・真砂 良則・田中 純一・田引 俊和・若山 将実・竹中 祐二・松下 健 (代表教員 木島 恒一)						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>専門ゼミⅠで学んだ研究方法を土台に、それぞれの専門分野で設定したテーマに沿って研究レポートを作成する。具体的には、先行研究の検討、研究上の仮説の構築、適切な方法論の構築などを行った上で、データ収集、分析、解釈を実施し合理的な結論を導く。この過程をゼミ担当教員の指導の下で行う。レポートを作成するとともに、その成果を成果報告会で報告する。</p>				<p>①各自の問題関心を深めてテーマを設定し、それについて論理的に考えることができるようになる。 ②設定したテーマについて、研究レポートを作成することができる。 ③レポート内容について、成果報告会で効果的な報告ができる。 ④専門分野について自分の考えを持ち、ディスカッションに参加できるようになる。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	「専門ゼミⅠ」の単位を修得済の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業の目的、流れ、方針と評価方法等について説明する。						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
16	後期オリエンテーション：ゼミごとに今後の方針を確認する。						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員

授 業 計 画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
28	専門ゼミⅡ成果報告会での報告準備。	各担当教員
29	専門ゼミⅡ成果報告会での報告。	全教員
30	全体のふりかえり。	各担当教員

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
受講態度	30	①授業にまじめに取り組んでいるか。 ②積極的にディスカッションに参加しているか。	レポート	60	①期限内に提出しているか。 ②指定された字数、書式にしたがっているか。 ③適切な内容となっているか。
成果報告	10	①卒業レポートの内容を効果的に伝えることができているか。 ②報告態度は適切か。 ③質疑への応答ができているか。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
レポートの作成および成果報告会の準備は、ほぼ授業外で行う。[120分以上]			成果報告会において行う。		
受講生に望むこと	レポートの作成は、早目に着手し、主体的に進めて欲しい。		教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。		その他・特記事項	不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせをすること。	

授業科目名	卒業研究			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	木島 恒一・小林 正史・俵 希實・西村 洋一・真砂 良則・田中 純一・田引 俊和・若山 将実・竹中 祐二・松下 健 (代表教員 木島 恒一)						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>大学での学びの集大成として、これまでの専門分野での学習を総合的に生かし、自ら研究テーマを設定し、その研究テーマの探究を通して、研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。具体的には、研究方法の選択、先行研究の検討、研究上の仮説の構築、適切な方法論の構築などを行った上で、データ収集、分析、解釈を実施し合理的な結論を導き、卒業論文を執筆する。また、研究成果報告会で研究成果を報告する。</p>				<p>①現代社会が抱える様々な問題に対するの関心を高め、テーマを設定し、それについて論理的に考えることができるようになる。 ②専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ③既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できるようになる。 ④研究内容について、論文執筆および口頭発表という形で的確に表現することができ、さらに他者と討論ができるようになる。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	3年次終了時点で累積GPAが2.5以上であること。3年次までに開講されている全必修科目の単位を修得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：卒業研究の概要および注意事項等について説明する。						全教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
16	後期オリエンテーション：ゼミごとに今後の方針を確認する。						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員

授 業 計 画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
28	卒業研究成果報告会での報告準備	各担当教員
29	卒業研究成果報告会での報告	全教員
30	卒業研究の総括	各担当教員

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
受講態度	10	①研究にまじめに取り組んでいるか。 ②ディスカッションに積極的に参加しているか。	卒業論文	80	①期限内に提出しているか。 ②指定された字数、書式にしているか。 ③適切な内容となっているか。
成果報告	10	①卒業研究の内容を効果的に伝えることができているか。 ②報告態度は適切か。 ③質疑への応答ができているか。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
卒業論文の作成および成果報告会の準備は、ほぼ授業外で行う。 [120分以上]			卒業研究成果報告会において行う。		
受講生に望むこと	卒業論文の作成は、早めに着手し、主体的に進めて欲しい。		教科書・テキスト	担当教員の指示にしたがう。	
指定図書／参考書等	担当教員の指示にしたがう。		その他・特記事項	不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせること。 履修条件についての詳細は、『学生要覧』『VI 評価と学習指導』の「3,卒業研究履修条件」を参照のこと。	

授業科目名	社会調査実習 A		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	俵 希實・若山 将実・竹中 祐二 (代表教員 俵 希實)					
標準履修年次	3・4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「社会調査論」「社会調査法」「統計データの読み方」「心理学統計Ⅰ」などで学んできたことを基礎とし、調査の構想・計画→準備→実査→データの入力と点検→分析→報告という社会調査の全過程を体験的に学び、社会調査士資格に相応の、社会調査に関する実践能力を習得することを目的とする。同時に、調査組織のつくり方、運営していくためのコミュニケーション能力、マネジメント能力、作業のダブル・チェックの徹底、資料の保管方法、作業記録の作り方など、社会で働くために必要な基本的スキルを獲得することを旨とする。</p>			<p>①社会調査の全過程を知る。 ②社会で働くために必要な基本的スキルを獲得する。</p>			
教授方法	実習					
履修条件	「社会調査論」「社会調査法」「統計データの読み方」「心理学統計Ⅰ」を履修済、もしくは現在履修していることが望ましい。履修していない場合は要相談。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準についての説明					俵・若山・竹中
2	共通テーマ、年間スケジュールに関する説明					俵・若山・竹中
3	テーマ別調査研究班の編成と役割分担の決定					俵・若山・竹中
4	調査枠組（対象者、調査方法など）の決定					俵・若山・竹中
5	調査テーマに関する先行研究論文の発表					俵・若山・竹中
6	調査テーマに関する先行研究論文の発表					俵・若山・竹中
7	調査テーマに関する先行研究論文の発表					俵・若山・竹中
8	調査テーマに関する先行研究論文の発表					俵・若山・竹中
9	調査テーマに関する仮説の構成					俵・若山・竹中
10	調査テーマに関する仮説の構成					俵・若山・竹中
11	調査テーマに関する仮説の構成					俵・若山・竹中
12	調査テーマに関する仮説の構成					俵・若山・竹中
13	質問文の作成					俵・若山・竹中
14	質問文の作成					俵・若山・竹中
15	質問文の作成					俵・若山・竹中
16	調査票の作成					俵・若山・竹中
17	調査票の作成とプリテスト					俵・若山・竹中
18	サンプリング					俵・若山・竹中
19	対象者リストの作成					俵・若山・竹中
20	調査票の配布準備					俵・若山・竹中
21	エディティング・コーディング					俵・若山・竹中
22	エディティング・コーディング					俵・若山・竹中
23	データクリーニング					俵・若山・竹中
24	分析についての説明：相関分析 クロス表 カイ二乗検定など					俵・若山・竹中
25	単純集計表作成					俵・若山・竹中
26	調査データの分析：各自の分析					俵・若山・竹中
27	調査データの分析：各自の分析					俵・若山・竹中

授 業 計 画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
28	調査データの分析:各自の分析	俵・若山・竹中
29	報告書の作成	俵・若山・竹中
30	報告書の作成	俵・若山・竹中

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業態度	60	①授業にまじめに取り組んでいるか。 ②自分の役割を遂行しているか。	レポート	40	①期限内に提出しているか。 ②指定された書式・分量にしているか。 ③適切な内容となっているか。 ④図表が適切に使用されているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
仮説の構成、質問文の作成、分析などは主に授業外で進めること。調査票配布および回収、エディティングやコーディング作業など、受講生で協力して授業外で進めること。[120分]			各自の仮説の構成や質問文の作成にあたり、完成するまで継続的にコメントする。		
受講生に望むこと	着手から最終報告まで受講生が主体となるため、主体的に考え、他のメンバーに迷惑をかけないよう責任を持って行動してください。		教科書・テキスト	轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法』（第2版）法律文化社、2013年 ISBN-13: 978-4589034892	
指定図書/参考書等	授業中に紹介する。		その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムの6科目に準拠しています。	

授業科目名	社会学理論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田邊 浩					
標準履修年次	3・4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>多くの人々は社会のことを「当たり前だ」と思っている中にも、不思議なことだけれども、よく考えてみると、「当たり前だ」と思っていることの中にも、不思議なことはいっぱいあります。実はわたしたちが生きている社会はたまたまそのような社会としてあるだけで、決して「当たり前」のものではないし、必然でもないのです。でも、ふだん生活している時にはそのことにはなかなか気づきません。社会を違った目で見ると、有効な道具が社会学の理論です。理論を使えば、さまざまな社会現象がパッサリと切れて、社会の出来事がスッキリみえてきます。社会学理論はやや抽象的で、その意味で多少難しいですが、それらを理解することができれば、これほど頼りになる道具はありません。みなさんにも、社会学理論の切れ味を確かめてみてほしいと思います。</p>			<p>①社会的行為、コミュニケーション、地位と役割、社会制度、社会システムと社会構造など、社会学理論の基礎的な概念を理解する。 ②デュルケーム、ヴェーバー、ジンメルなど、社会学を確立した古典的理論を理解する。 ③ハーバースマールマン、ギデンズ、ブルデューなど、近年影響力のある社会学理論を理解する。 ④これらをつづいて、社会を理解するための道具として、社会学理論を使うようになる。 ⑤社会学理論を通じて、自分自身や自分のまわり、日常生活について、理解を深める。 ⑥社会学理論を通じて、私たちがいま生きている社会（モダンティ）を理解する。</p>			
教授方法	講義形式で行いますが、講義中に意見を求めることがあります。パワーポイントを使用します。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	社会とは何か：社会学は「社会」に関する学問です。では、社会とは何でしょうか。社会という言葉を知らない人はいないでしょうが、社会とは何かという問いに答えることは、難しいことです。社会学理論の出発点として、社会とは何かという問題について考えます。					
2	近代社会と社会学：社会学の研究対象である近代社会とはいかなる社会であるのか。社会学はどのように誕生したのか、社会学はどのような役割を担っているのかなど、社会学を学ぶことの意義について考えます。					
3	社会学の古典 (1) : E. デュルケームの社会学：社会学という学問の基礎を確立したのは3人の社会学者ですが、そのうちの一人デュルケームは、社会は個人の外に実在し、個人を拘束するものだと考えました。そうした彼の社会学的方法について考察します。					
4	社会学の古典 (2) M. ヴェーバーの社会学：ヴェーバーはデュルケームと並ぶ重要人物です。ヴェーバーは社会は実在するものではなく、個人の社会的行為からなっていると考えました。デュルケームと対比しながら、ヴェーバーの理論について紹介します。					
5	社会学の古典 (3) G. ジンメルの社会学：G. ジンメルは、社会学の研究対象は、人と人、人と集団、集団と集団の「相互作用」にあると考えました。ジンメルはそれら相互作用の形式について考察しました。こうした「形式社会学」について検討します。					
6	社会的行為とはなにか：社会学理論の基礎概念は行為です。人びとのふるまいを表す言葉として、行動という言葉もありますが、行為はこれとどう区別されるのか、行為が社会学の中でなぜ中核概念となるのか、行為にはどのようなタイプがあるのかについて考察します。					
7	地位と役割：私たちはさまざまな集団に所属しています。そして、その集団の中では、ある地位が与えられ、その地位とセットになった役割を遂行するのにふさわしい行為をすることが求められます。この地位と役割の概念について理解を深めます。					
8	社会システムと社会構造：社会システムと社会構造は、社会学理論において、きわめて重要な役割を担う概念です。これらの概念を理解することなくしては、社会学を研究することはおぼつきません。具体例を交えながら、それらの概念を理解します。					
9	機能主義の社会学：機能主義は社会学理論においてきわめて大きな影響力をもったアプローチです。その代表的存在はT. パーソンズですが、機能主義はその名のとおりに、社会システムの「機能」ということに注目するのがその特徴です。機能主義の考え方を理解します。					
10	意味学派的理論：機能主義社会学に対抗して、人間が「意味」をやりとりする、そしてそのことによって社会が成り立っていることに注目するさまざまな理論が現れました。現象学的社会学、象徴的相互作用論、エスノメソドロジーといった理論について紹介します。					
11	J. ハーバースマールのコミュニケーションの行為理論：ハーバースマールは相互行為の中でもとくにコミュニケーションの行為に注目して、独自の理論を作り上げました。人びとのコミュニケーションによる合意が社会を成り立たせているという意味について考えます。					
12	N. ルーマンの社会システム理論：パーソンズの遺産を受け継ぎながらも、それを批判的に消化して、さらに大胆に社会システム理論を革新した、ルーマンのオートポイエティック・システム理論について検討します。					
13	P. ブルデューの実践の理論：ブルデューは、行為と構造がハビトゥスによって媒介されていると考えました。ハビトゥスとは、人びとの慣習的行動を生み出す基盤になるような、ある種の性向の体系です。ハビトゥスとはなにかを中心に検討します。					
14	A. ギデンズの構造化理論：ギデンズは、行為と構造が相互に規定しあう関係にあると考えました。構造によって私たちの行為は拘束されている。けれども、構造によって私たちの行為は可能にもなっているということです。このことに意味について考えます。					
15	再び、社会学の理論とは：14回までの授業を振り返りながら、社会学をするうえでいかに理論というものが重要なものであるのか、大切なものであるのかを再確認します。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
学期末レポート	60	<p>論述式のレポートです。 ①基礎的な知識を習得していることが明確であること。 ②矛盾がなく、論理的であること。 ③自分なりの視点で構成されていること。</p>		小レポート	30	毎回、リアクション・ペーパーを配布し、受講して考えたこと、疑問に思ったことを記述してもらいます。自分なりの考えが含まれていることを重視します。
授業参加状況	10	授業への取り組み姿勢を評価します。特に、講義中の質問に対する回答状況が重要です。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①自分で考えてみるのが大切です。講義で学んだことを自分の身の回りを例にして具体的に考えてみましょう。[20分] ②毎回の講義で学んだことがテキストのどの部分に書かれているかを指示します。講義の後で、指示された部分のテキストを丁寧に読んでみましょう。[60分] ③テキスト、参考書以外の文献も適宜紹介します。それらを図書館などで探し、実際に手にとってみましょう。[100分]</p>				リアクション・ペーパーに関して、参考になる質問や意見を次の講義開始時に取り上げて、それらに対してコメントする。		
受講生に望むこと	<p>①講義中に受講者のみなさんに質問することがあります。正解があるような質問ではないので、あなたの考えを聴くことなく回答してください。 ②パワーポイントに映し出されたことをすべてノートする必要はありません。重要なポイントのみ、きちんとノートを取りましょう。 ③著しく講義の進行の妨げになるような行為がある場合、退室してもらうなどの処置をすることがあります。</p>		教科書・テキスト	『社会学ベーシック 別巻 社会学的思考』井上俊・伊藤公雄編 2011年 ISBN-13: 978-4-7907-1525-2		
指定図書参考書等	なし/『社会学ベーシック 2 社会の構造と変動』井上俊・伊藤公雄編 2008年 ISBN-13: 978-4-7907-1349-4		その他・特記事項	なし		

授業科目名	文献講読Ⅰ（社会学）		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	3・4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業の目的は、社会学の学習に必要なとなる、資料を批判的に読み解く力、すなわちクリティカル・リーディング力を培うことにある。そのため、専門書や論文等の内容を正確に読み取り、自分なりの問題提起を論理的に行うことができるようになることを目標とする。また、この授業では英語文献を読み進めることで、分析・考察を行う態度の面でも、対象とする資料の面でも、自らの研究関心をより一層広げ、またより一層深めるための力を養うことも、合わせて目標とする。			①指定文献の内容について、社会学的な概念を適切に活用し、また社会背景を踏まえた上で、正確に理解することができる。 ②指定文献の自分の担当部分について、他者にわかりやすくレジюмеにまとめることができる。 ③指定文献の自分の担当部分について、他者にわかりやすく発表することができる。 ④指定文献の内容について、自分の意見を持ち、授業でのディスカッションに参加することができる。 ⑤学んだ内容についてレポートにまとめることができる。 ⑥英語の専門的な文章・論文に慣れる。				
教授方法	講義・担当者による発表・ディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション①：文献講読という科目の意義、一般的なクリティカル・リーディングの意義、授業の進め方、評価等についての説明を行う。						
2	オリエンテーション②：社会学におけるクリティカル・リーディングの意義について説明を行う。／指定文献の概要について説明を行う。／指定文献の分担について話し合う。						
3	日本語による指定文献の講読①：担当者の作成したレジюмеに基づく発表を行う。／レジюмеを基にディスカッションを行う。						
4	日本語による指定文献の講読②：担当者の作成したレジюмеに基づく発表を行う。／レジюмеを基にディスカッションを行う。						
5	日本語による指定文献の講読③：担当者の作成したレジюмеに基づく発表を行う。／レジюмеを基にディスカッションを行う。						
6	日本語による指定文献の講読④：担当者の作成したレジюмеに基づく発表を行う。／レジюмеを基にディスカッションを行う。						
7	日本語による指定文献の講読⑤：担当者の作成したレジюмеに基づく発表を行う。／レジюмеを基にディスカッションを行う。						
8	小括：指定文献の内容、クリティカル・リーディング力の獲得について、授業の到達目標に即して振り返り、それぞれの自己評価を基にディスカッションを行う。						
9	英語文献講読の基礎トレーニング①：英語文献を講読するにあたって必要となる基本的な単語や文法について学習する。						
10	英語文献講読の基礎トレーニング②：短めの文章を素材として、英語文献を講読する実践的なトレーニングを行う。						
11	英語による指定文献の講読①：担当者の作成したレジюмеに基づく発表を行う。／レジюмеを基にディスカッションを行う。						
12	英語による指定文献の講読②：担当者の作成したレジюмеに基づく発表を行う。／レジюмеを基にディスカッションを行う。						
13	英語による指定文献の講読③：担当者の作成したレジюмеに基づく発表を行う。／レジюмеを基にディスカッションを行う。						
14	英語による指定文献の講読④：担当者の作成したレジюмеに基づく発表を行う。／レジюмеを基にディスカッションを行う。						
15	総括：指定文献の内容、クリティカル・リーディング力の獲得、英語文献の読み方について、授業の到達目標に即して振り返り、それぞれの自己評価を基にディスカッションを行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加度	20	日常的な授業態度やディスカッションへの積極的な参加態度等を評価する。		担当回の発表	15	担当回における発表とレジюмеの正確さ、分かり易さ等を評価する。	
小課題	15	適宜課されるテーマ学習や英文和訳等の小課題の質を評価する。		レポート	50	指定文献の内容や他の受講生の意見を踏まえ、自らの意見をまとめられているか評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①事前に各回で講読する箇所について読み込み、疑問点や意見等を抽出しておく。[60分] ②英語文献講読においては、適宜課される課題に取り組む。[90分] ③自らの担当回にあたっては、分かり易いレジюмеを作成する。[90分]				①各回の授業で挙がった質問等については、別途資料を作成して次回に共有することがある。 ②適宜課される課題については、採点の後に返却する。			
受講生に望むこと	・事前の予習と共に、ディスカッション時の積極的な発言を求める。 ・英語文献の講読や社会学学習の点で、他の受講科目を通じても基本的な知識の蓄積を求める。			教科書・テキスト	『排除型社会——後期近代における犯罪・雇用・差異』ジョック・ヤング著 青木秀男・村澤真保呂・伊藤泰郎・岸政彦訳 洛北出版 2007年 ISBN:978-4903127040		
指定図書参考書等	・英語文献については必要な箇所を印刷し、配付するが、原著を購入する場合には下記を参照のこと。 “The Exclusive Society” Jock Young SAGE Publications 1999 ISBN-13:978-0803981515			その他・特記事項	・必ずしも完全なる独力で仕上げなくとも、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。		

授業科目名	文献講読 I (政治学)		開講学科	社会科学	必修・選択	選択
担当教員名	若山 将実					
標準履修年次	3・4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業の目的は、政治学の学習に必要な(専門書・論文等)を批判的に読み解く(クリティカル・リーディング)力を培うことにあります。批判的に読み解くとは、文献を正確に読んで自分なりの問題提起を論理的に行うことを意味します。そこで本講義では比較政治学の分野では教科書として著名な英語文献を読み進め、そしてその内容を理解し論じる力を養います。			①指定文献の内容を理解する。 ②指定文献の担当部分のレジュメを作成することができる。 ③指定文献の自分の担当部分について、他者にわかりやすく発表することができる。 ④指定文献に書かれている内容について自分の意見を持ち、授業でのディスカッションに参加することができる。 ⑤学んだ内容についてレポートにまとめることができる。 ⑥英語の専門的な文章・論文に慣れる。			
教授方法	基本的に演習形式で行う。					
履修条件	社会科学の学生のみ履修可。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション: 文献を読むことの意義、講義の進め方、評価の仕方についての説明を行う。					
2	Introduction to comparative Politics (比較政治学への招待)					
3	Chapter 1: The evolution of comparative politics (比較政治学の発展)					
4	Chapter 2: Approaches in comparative politics (比較政治学におけるアプローチ)					
5	Chapter 3: Comparative research methods (比較研究法)					
6	Chapter 4: The nation-state (国民国家)					
7	Chapter 5: Democracies (民主主義諸国)					
8	Chapter 6: Authoritarian regimes (権威主義体制)					
9	Chapter 7: Legislatures (立法府)					
10	Chapter 8: Governments and bureaucracies (政府と官僚制)					
11	Chapter 9: Constituitions and judicial power (憲法と司法)					
12	Chapter 10: Elections and referendums (選挙とレファレンダム)					
13	Chapter 11: Federal and local government institutions (連邦制と地方政府制度)					
14	Chapter 12: Political Parties (政党)					
15	Chapter 13: Party systems (政党システム)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
講義への参加度	50	自身の担当部分を訳してレジュメを準備するのみではなく、それ以外の箇所も積極的に読み、内容を理解しようとしているか。		レポート	50	講読文献をふまえたレポート内容が書けているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)						
①指定された課題、担当個所の準備作業を行うこと。[90分] ②自分の担当箇所以外も読んでくること。[60分] ③授業内で読んだ部分の復習を行うこと。[30分]				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
				①担当個所については、授業内でコメント等によりフィードバックを行う。 ②レポートは、可能であれば次学期冒頭にコメントを付して返却することを検討する。		
受講生に望むこと	専門的な文献を英語で「読む」ことは簡単にできることではない。概要で述べたように、深く読み、意味のあるものとするためには、相応の覚悟を持って受講することが求められる。ただ漫然と出席することはこの授業については不可能に近いので、積極的に授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	Comparative Politics. Caramani, Daniele. 編著 Oxford University Press. Fourth Edition (2017). ISBN : 978-0198737421	
指定図書参考書等	なし。			その他・特記事項	英語文献を講読するため、電子辞書があると良い。	

授業科目名	文献講読 I (心理学)		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	3・4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本授業の目的は、心理学の研究・学習に必要な英語文献・論文を読むトレーニングを行うことである。その培った力を研究実践等に生かせるようにする。さらに、ただ英語文献に触れるだけでなく、批判的に読み解く(クリティカル・リーディング)力を培うことも目指す。</p>			<p>①指定文献の内容を理解する。 ②心理学の英語の専門用語を身につける。 ③英語の専門的な文章・論文に慣れる。 ④指定文献に書かれている内容について自分の意見を持ち、授業でのディスカッションに参加することができる。 ⑤学んだ内容についてレポートにまとめることができる。</p>				
教授方法	演習形式で進めていく。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：文献を読むことの意義、講義の進め方、評価についての説明を行う。					全教員	
2	心理学の英語の文章を読む① 短めの文章を読むことで慣れる。					各担当教員	
3	心理学の英語の文章を読む② 短めの文章を読むことで慣れる。					各担当教員	
4	心理学の英語の文章を読む(社会、パーソナリティ)① 長い文章を読み、内容を理解する。					各担当教員	
5	心理学の英語の文章を読む(社会、パーソナリティ)② 長い文章を読み、内容を理解する。					各担当教員	
6	心理学の英語の文章を読む(社会、パーソナリティ)③ 長い文章を読み、内容を理解する。					各担当教員	
7	心理学の英語の文章を読む(臨床)① 長い文章を読み、内容を理解する。					各担当教員	
8	心理学の英語の文章を読む(臨床)② 長い文章を読み、内容を理解する。					各担当教員	
9	心理学の英語の文章を読む(臨床)③ 長い文章を読み、内容を理解する。					各担当教員	
10	心理学の短い英語論文を読む① 短めの論文を読み、表現や言葉遣いになれる。					各担当教員	
11	心理学の短い英語論文を読む② 短めの論文を読み、表現や言葉遣いになれる。					各担当教員	
12	心理学の英語論文を読む① 「問題」部分					各担当教員	
13	心理学の英語論文を読む② 「方法・結果」部分					各担当教員	
14	心理学の英語論文を読む③ 「考察」部分					各担当教員	
15	心理学の英語論文を読む④ 全体について議論する。					各担当教員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
講義への参加度	50	英語の翻訳、内容の把握、議論での意見を評価する。		レポート	40	授業内で読んだ論文に関連するテーマをレポートにまとめる。	
単語テスト	10	毎回の単語テストの得点					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>①指定された課題、担当個所の翻訳・発表準備を行う。[90分] ②自分の担当箇所以外も読んでくる。[45分] ③授業内で読んだ部分の復習を行う。[45分]</p>				演習形式であるので、発表された内容について随時フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	英語の文章に慣れるには、少しずつで良いので日々取り組むことが大事である。しっかりと予習をした上で授業に臨むことではじめて得られるものがある。また、英語ではあるが、内容はあくまで心理学であるので、心理学についての他の講義で得られた知識を生かして、内容についてもしっかりと理解してもらいたい。			教科書・テキスト	テキストは指定しない。英語論文については希望を踏まえて授業内に指定する。		
指定図書参考書等	なし/参考書は授業内に適宜紹介する。			その他・特記事項	電子辞書があると良い(心理学)。		

授業科目名	文献講読Ⅱ（社会学）		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	3・4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業の目的は、社会学の学習に必要な資料を批判的に読み解く力、すなわちクリティカル・リーディング力を培うことにある。そのため、専門書や論文等の内容を正確に読み取り、自分なりの問題提起を論理的に行うことができるようになることを目標とする。また、この授業では英語文献を読み進めることで、分析・考察を行う態度の面でも、対象とする資料の面でも、自らの研究関心をより一層広げ、またより一層深めるための力を養うことも、合わせて目標とする。			①指定文献の内容について、社会学的な概念を適切に活用し、また社会背景を踏まえた上で、正確に理解することができる。 ②指定文献の自分の担当部分について、他者にわかりやすくレジюмеにまとめることができる。 ③指定文献の自分の担当部分について、他者にわかりやすく発表することができる。 ④指定文献の内容について、自分の意見を持ち、授業でのディスカッションに参加することができる。 ⑤学んだ内容についてレポートにまとめることができる。 ⑥英語の専門的な文章・論文に慣れる。				
教授方法	講義・担当者による発表・ディスカッション						
履修条件	「文献講読Ⅰ（社会学）」を履修済であることが望ましい。（単位未修得可）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション①：文献講読という科目の意義、一般的なクリティカル・リーディングの意義、授業の進め方、評価等についての説明を行う。						
2	オリエンテーション②：社会学におけるクリティカル・リーディングの意義について説明を行う。／指定文献の概要について説明を行う。／指定文献の分担について話し合う。						
3	日本語による指定文献の講読①：担当者の作成したレジюмеに基づく発表を行う。／レジюмеを基にディスカッションを行う。						
4	日本語による指定文献の講読②：担当者の作成したレジюмеに基づく発表を行う。／レジюмеを基にディスカッションを行う。						
5	日本語による指定文献の講読③：担当者の作成したレジюмеに基づく発表を行う。／レジюмеを基にディスカッションを行う。						
6	日本語による指定文献の講読④：担当者の作成したレジюмеに基づく発表を行う。／レジюмеを基にディスカッションを行う。						
7	日本語による指定文献の講読⑤：担当者の作成したレジюмеに基づく発表を行う。／レジюмеを基にディスカッションを行う。						
8	小括：指定文献の内容、クリティカル・リーディング力の獲得について、授業の到達目標に即して振り返り、それぞれの自己評価を基にディスカッションを行う。						
9	英語文献講読の基礎トレーニング①：英語文献を講読するにあたって必要となる基本的な単語や文法について学習する。						
10	英語文献講読の基礎トレーニング②：短めの文章を素材として、英語文献を講読する実践的なトレーニングを行う。						
11	英語による指定文献の講読①：担当者の作成したレジюмеに基づく発表を行う。／レジюмеを基にディスカッションを行う。						
12	英語による指定文献の講読②：担当者の作成したレジюмеに基づく発表を行う。／レジюмеを基にディスカッションを行う。						
13	英語による指定文献の講読③：担当者の作成したレジюмеに基づく発表を行う。／レジюмеを基にディスカッションを行う。						
14	英語による指定文献の講読④：担当者の作成したレジюмеに基づく発表を行う。／レジюмеを基にディスカッションを行う。						
15	総括：指定文献の内容、クリティカル・リーディング力の獲得、英語文献の読み方について、授業の到達目標に即して振り返り、それぞれの自己評価を基にディスカッションを行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加度	20	日常的な授業態度やディスカッションへの積極的な参加態度等を評価する。		担当回の発表	15	担当回における発表とレジюмеの正確さ、分かり易さ等を評価する。	
小課題	15	適宜課されるテーマ学習や英文和訳等の小課題の質を評価する。		レポート	50	指定文献の内容や他の受講生の意見を踏まえ、自らの意見をまとめられているか評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①事前に各回で講読する箇所について読み込み、疑問点や意見等を抽出しておく。[60分] ②英語文献講読においては、適宜課される課題に取り組む。[90分] ③自らの担当回にあたっては、分かり易いレジюмеを作成する。[90分]			①各回の授業で挙がった質問等については、別途資料を作成して次回に共有することがある。 ②適宜課される課題については、採点の後に返却する。				
受講生に望むこと	・事前の予習と共に、ディスカッション時の積極的な発言を求める。 ・英語文献の講読や社会学学習の点で、他の受講科目を通じても基本的な知識の蓄積を求める。		教科書・テキスト	『後期近代の眩暈—排除から過剰包摂へ』 ジョック・ヤング著 木下ちがや・中村好孝・丸山真央 訳 青土社 2008年 ISBN:978-4791764334			
指定図書参考書等	・英語文献については必要な箇所を印刷し、配付するが、原著を購入する場合には下記を参照のこと。 “The Vertigo of Late Modernity” Jock Young SAGE Publications 2007 ISBN:978-1412935746		その他・特記事項	・必ずしも完全なる独力で仕上げなくとも、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。			

授業科目名	文献講読Ⅱ（政治学）		開講学科	社会科学	必修・選択	選択
担当教員名	若山 将実					
標準履修年次	3・4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業の目的は、政治学の学習に必要な（専門書・論文等）を批判的に読み解く（クリティカル・リーディング）力を培うことにあります。批判的に読み解くとは、文献を正確に読んで自分なりの問題提起を論理的に行うことを意味します。そこで本講義では前期の文献講読Ⅰ（政治学）に引き続いて比較政治学の分野では教科書として著名な英語文献を読み進め、そしてその内容を理解し論じる力を養います。			①指定文献の内容を理解する。 ②指定文献の担当部分のレジュメを作成することができる。 ③指定文献の自分の担当部分について、他者にわかりやすく発表することができる。 ④指定文献に書かれている内容について自分の意見を持ち、授業でのディスカッションに参加することができる。 ⑤学んだ内容についてレポートにまとめることができる。 ⑥英語の専門的な文章・論文に慣れる。			
教授方法	演習形式で進めていく。					
履修条件	社会科学の学生のみ履修可。文献講読Ⅰ（政治学）を履修していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：前期の講読文献の箇所を振り返りながら、文献を読むことの意義、講義の進め方、評価についての説明を行う。					
2	Chapter 14: Interest groups (利益団体)					
3	Chapter 15: Regions (地域主義)					
4	Chapter 16: Social movements (社会運動)					
5	Chapter 17: Political Culture (政治文化)					
6	Chapter 18: Political Participation (政治参加)					
7	Chapter 19: Political Communication (政治コミュニケーション)					
8	Chapter 20: Policy-making (政策過程)					
9	Chapter 21: The welfare state (福祉国家)					
10	Chapter 22: The impact of public policies (公共政策の効果)					
11	Chapter 23: The EU as a new political system (新しい政治システムとしてのEU)					
12	Chapter 24: Globalization and the nation-state (グローバル化と国民国家)					
13	Chapter 25: Supporting democracy (民主主義を支持する)					
14	授業全体のまとめ①：前期・後期で講読した英語文献の内容を振り返り、比較政治学の基本トピックを最近の時事問題に触れながら概観する。					
15	授業全体のまとめ②：前期・後期で講読した英語文献の内容を振り返り、比較政治学の基本トピックを最近の時事問題に触れながら概観する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
講義への参加度	50	自身の担当部分を訳してレジュメを準備するのみではなく、それ以外の箇所も積極的に読み、内容を理解しようとしているか。		レポート	50	講読文献をふまえたレポート内容が書けているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
①指定された課題、担当個所の準備作業を行うこと。[90分] ②自分の担当箇所以外も読んでくること。[60分] ③授業内で読んだ部分の復習を行うこと。[30分]			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック ①担当個所については、授業内でコメント等によりフィードバックを行う。 ②レポートは、可能であれば次学期冒頭にコメントを付して返却することを検討する。			
受講生に望むこと	専門的な文献を英語で「読む」ことは簡単にできることではない。概要で述べたように、深く読み、意味のあるものとするためには、相応の覚悟を持って受講することが求められる。ただ漫然と出席することはこの授業については不可能に近いので、積極的に授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	Comparative Politics. Caramani, Daniele. 編著 Oxford University Press. Fourth Edition (2017). ISBN : 978-0198737421	
指定図書参考書等	なし。			その他・特記事項	英語文献を講読するため、電子辞書があると良い。	

授業科目名	文献講読Ⅱ（心理学）		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	木島 恒一						
標準履修年次	3・4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>今年度は、アメリカの心理学者ミルグラム (Milgram) の「服従実験」についての著作を取り上げる。この講読を通して、心理学における実験計画の立て方と実験の進め方、考察の仕方について学ぶことになる。その上で、文献を批判的に読み解く（クリティカル・リーディング）力を身につけたい。</p>			<p>①文献の内容を理解する。 ②文献の担当部分のレジュメを作成することができる。 ③文献の自分の担当部分について、他者にわかりやすく発表することができる。 ④文献に書かれている内容について、自分の意見を持ち、授業でのディスカッションに参加することができる。 ⑤学んだ内容についてレポートにまとめることができる。</p>				
教授方法	担当者による発表と全員によるディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：文献を読むことの意義、講義の進め方、評価の仕方についての説明を行う。						
2	第1章（1～12ページ）服従のディレンマ						
3	第2章（13～26ページ）研究の方法						
4	第3章（27～31ページ）行動の予測、および第4章（32～43ページ）被害者との近接性						
5	第5章（44～54ページ）権威に直面した個人						
6	第6章（55～72ページ）追加実験と検証						
7	第7章（73～88ページ）権威に直面した個人Ⅱ						
8	第8章（89～112ページ）役割の交替						
9	第9章（113～122ページ）集団効果						
10	第10章（123～134ページ）なぜ服従するかについての一分析						
11	第11章（135～152ページ）服従の過程						
12	第12章（153～164ページ）緊張と不服従、および第13章（165～168ページ）別の理論についての考察						
13	第14章（169～178ページ）方法の諸問題						
14	第15章（179～189ページ）エピソード						
15	Appendix I・II（193～205ページ）研究の倫理的問題点						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
講義への参加度	30	ディスカッションでの発言を評価する。	担当会の発表	30	レジュメの完成度、発表内容を評価する。		
レポート	40	講読した文献の理解度と、批判的考察を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①指定された課題、担当箇所の前準備作業を行うこと。[120分] ②自分の担当箇所以外も読んでおくこと。[60分] ③授業内で読んだ部分の復習を行うこと。[30分]			演習内におけるディスカッションの中で行う。				
受講生に望むこと	テキストをただ受動的に漫然と読んでおくのではなく、批判的に読んで、内容の疑問点を列挙したり、関連するその他の文献を自ら探して読むなど、積極的に授業に参加することを求めます。		教科書・テキスト	Obedience to Authority. Milgram, Stanley著 Harper & Roe, Publishers. 1974(2004) ISBN : 978-0-06-176521-6(pbk.)			
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項	電子辞書を持参する			

授業科目名	公的扶助論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	堂田 俊樹						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要				授業の到達目標			
我が国における公的扶助の代表的制度である生活保護制度の理念と内容を、ソーシャルワーク実践を踏まえて理解する。また、近年行われている生活保護制度の改正と制度の目指す方向性を考える。その上で、社会保障制度における生活保護制度の役割と社会的意義について考える。				<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。 ・公的扶助制度の歴史を理解する。 ・貧困・低所得者の動向と課題について理解する。 ・生活保護制度とその関連制度の仕組みについて理解する。 ・生活保護の実施と関係専門職の役割について理解する。 ・低所得者の支援に関する社会保障制度について理解する。 ・コミュニティソーシャルワークと生活保護ケースワークとの関連を理解する。 			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション。本講義の概要と国家試験の内容について説明する。						
2	公的扶助の意義と役割。公的扶助とは何か、国民の生活とどのように関連しているか、国民的議論の渦中にある制度について理解する。						
3	公的扶助の歴史（主にイギリス）。公的扶助制度はどのように萌芽したのか、世界に影響を与えた流れ、貧困観を理解する。						
4	公的扶助の歴史。我が国の歴史を中心に理解する。現在のコミュニティソーシャルワークの観点から実践的な社会資源として捉えることを理解する。						
5	公的扶助のしくみ（社会保険との違い）。社会保障制度の基本である制度設計について、民間保険との関係性も含め理解する。						
6	生活保護制度Ⅰ（原理原則）。生活保護法を中心に、国家試験対策と絡めて理解する。						
7	生活保護制度Ⅱ（保護の種類、範囲、方法）。生活保護法及び運用規定等を含め、国家試験対策と絡めて理解する。						
8	生活保護ケースワークの概要。実践のソーシャルワークでの事例を通して、理解する。						
9	生活保護基準（扶助費等）。生活保護受給額や具体的内容について理解する。						
10	低所得者対策（ホームレス自立支援の施策等）。低所得者対策は、生活保護制度だけでなく、ホームレス対策も含まれる。ソーシャルワーカーの実践活動も紹介する。						
11	生活保護の実施体制（福祉事務所の業務と組織）。生活保護ケースワーカーは地方自治体職員であり、組織体制も含めて理解する。						
12	低所得者に対するソーシャルワーク。更に進めて、ソーシャルワーク実践に踏み込む。						
13	生活保護における自立支援。生活保護と自立支援の関係を理解する。						
14	生活保護における自立支援。具体的な自立支援制度、職業的自立、社会的自立等を理解する。						
15	生活保護制度Ⅲ（不服申立と制度の運用）。講義のまとめとして、公的扶助とは何か、国民の生活とどのように関連しているか、国民的議論の渦中にある制度について議論する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	70	レポートを事後に提出。評価基準は、レポートの体裁を取っていること、自分の考察があること、字数を満たしていること、授業と関連ある内容である。			講義中に出された課題に答えること。	30	講義では、各々に課題を与え、ディスカッションを行いながら進める。したがって、問題意識を持っているか、積極的に講義に参加しているかを評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①購入したテキストは、全体を一読すること。[60分] ②低所得者に対する公的扶助制度の知識を日常的な問題意識と照らし合わせること。[20分] ③低所得者に対する社会福祉援助とは、地域、施設の社会福祉援助と常に関連している身近な場所での貧困問題を考えること。[40分]				レポートは、1500字程度でテーマを講義中に提示する。各講義中にディスカッションを行いながらフィードバックする。			
受講生に望むこと	①人と環境について、理性的に見る力を養って欲しい。生活保護制度を取り巻く世論の実態とナショナルミニマムについて深く考える機会と捉えてください。 ②ソーシャルワーカーとして、クライアントに関わる場合、公的扶助を理解していないとどの分野においても丁寧なソーシャルワークはできません。			教科書・テキスト	新・社会福祉士養成講座（第3版）16巻『低所得者に対する支援と生活保護制度』社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2014年 ISBN：978-4-8058-3934-8		
指定図書参考書等	なし / なし			その他・特記事項	番号順に座席を指定する。		

授業科目名	法学 (国際法を含む)		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	稲角 光恵					
標準履修年次	3・4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	高等学校教諭一種免許状 (公民)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>法学と政治学の基礎を概括した上で、国内社会と国際社会の構造とともに、それぞれの法体系を学ぶ。法学共通の基本理念・原則、裁判制度をはじめとする法制度全体を習得する。また、現代社会においては国内社会と国際社会は密接に関連しており、現代社会の国内問題を考える上でも、国際法の知識は欠かせない。そこで、本講義では、現代社会構造と法体系に関する包括的な理解を進めるため、日本の法に加えて国際法を学ぶ。これらの知識を深めて、社会と法の役割について考えてみよう。</p>			<p>①法学および政治学全般にかかわる基礎知識の修得 ②国際法を理解する ③国内法と国際法の基礎知識を踏まえて、国内社会と国際社会がかかえる現代的問題を理解する ④上記の知識を基に法的問題について説明し議論することができる</p>			
教授方法	講義を主体とする。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	法と政治の基礎①：社会と法の役割 — 自分と社会と法との関係を考えよう					
2	法と政治の基礎②：国家と法の歴史 — 人は平等でしょうか？					
3	法と政治の基礎③：法と正義 — 何が正しい？現代問題を考えよう					
4	日本の社会と法①：憲法 — 国家権力から守ってくれるもの					
5	日本の社会と法②：民法 — 契約、財産、家族の法					
6	日本の社会と法③：刑法 — これも犯罪だ。犯罪と刑罰					
7	日本の社会と法④：裁判制度 — 裁判はどのように進む？					
8	国際社会と法①：国際社会の構造 — 国家とは何？					
9	国際社会と法②：国家の権利義務 — 国は国をさばけない？					
10	国際社会と法③：国際連合 — 国連の目的は？					
11	国際社会と法④：戦争の禁止 — 戦争はどうすればなくなる？					
12	国際社会と法⑤：国際的な人権の保護 — 女性差別禁止や難民保護					
13	国際政治と法① (時事問題や受講者の関心が高いテーマを取り上げる)					
14	国際政治と法② (時事問題や受講者の関心が高いテーマを取り上げる)					
15	法学まとめの論議					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	80	講義で学んだ知識に基づき設問に的確に答えているか。		授業での参加態度	20	授業内で行うディベートへの参加態度。
授業外における学習 (事前・事後学習等)						
<p>①毎回の授業で次回の予習として求められることを発表するので準備すること。 (例：皆とのディスカッションに向けて自分の意見をまとめること。「死刑制度について賛成か反対か?」「核の使用についてどう思うか」など。)[20分] ②授業では時事問題の中でも法律や政治に関わる社会問題を取り上げることがあるので日頃から新聞・ニュース等をチェックし社会的問題に関心を持ち、自らの意見を形成することをやること。[20分] ③授業内で配布されたレジュメや資料を読み返し、授業の復習を行うこと。その際、解らない所や疑問点などがあつた場合には、すぐ教員にメール又は次回授業の時に知らせること。[30分]</p>			<p>毎回授業終了後、授業内容が理解できたかアンケートで確認し、毎回の授業の冒頭で前回授業についてのアンケートをもとにして理解の確認や学生からの疑問・質問に答える。また、授業内容やディベートや試験問題の解答等に対してメールでも学生からの質問に対応する。</p>			
受講生に望むこと	新聞等で日頃から現代の社会問題に興味を持って学ぶ姿勢を持つこと。			教科書・テキスト	なし (毎回資料を配布する)	
指定図書参考書等	授業内で指定する。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	権利擁護と成年後見制度		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	山黒 修						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会福祉専門職としてとても重要な「権利擁護」について、その重要性を相談援助活動を通して学ぶとともに、法や制度との関連性及び特に昨今その活用が求められている「成年後見制度」や「日常生活自立支援事業」について、概要や具体的事例の中から理解を深めるとともに、現代社会におけるさまざまな権利擁護活動の実際について、具体的かつ専門的な活動の実際を学び、権利擁護活動を総合的に習得する。</p>			<p>①毎回の講義を通して、権利擁護に関する基礎的知識を身につけることができる。 ②相談援助と法との関係を理解する。 ③成年後見制度全般について理解する。 ④日常生活自立支援事業について理解する。 ⑤成年後見及び権利擁護活動における実際と専門職の役割について理解する。 ⑥試験を通して基礎的知識の習得を確認する。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	科目を学ぶ意義、到達目標、授業の流れを把握し、権利擁護活動と実際についての重要性を理解する。						
2	相談援助の活動と法（日本国憲法・行政法）について理解する。						
3	相談援助の活動と法（民法・社会福祉関連法）について理解する。						
4	成年後見制度（後見・保佐・補助の概要）について理解する。						
5	成年後見制度（任意後見制度・成年後見人の義務責任及び最近の動向）について理解する。						
6	日常生活自立支援事業について理解する。						
7	成年後見制度利用支援事業について理解する。						
8	権利擁護にかかわる組織・団体について理解する。						
9	権利擁護にかかわる専門職の役割について理解する。						
10	成年後見活動の実際（認知症高齢者・消費者被害を受けた者）についての対応を理解する。						
11	成年後見活動の実際（障害児者・市町村長申立てのケース）についての対応を理解する。						
12	権利擁護活動の実際（被虐待児・高齢者虐待）への対応について理解する。						
13	権利擁護活動の実際（アルコール等依存症・非行少年）への対応について理解する。						
14	権利擁護活動の実際（ホームレス・多問題重複ケース）への対応について理解する。						
15	権利擁護と成年後見制度について課題を整理する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	講義受講の態度を重視する ①聴く姿勢をもって授業に臨んでいる。 ②主体的に学ぶ姿勢をもって授業に臨んでいる。		課題レポート	20	権利擁護と成年後見制度の課題を ①指定された書式で作成する。 ②自らの考察を必ず盛り込み記載する。	
試験	50	講義の内容について、どれだけ基礎的知識を理解しているかを、記述と選択問題他を組み合わせた筆記試験を実施する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①毎回の授業後に、自身で振り返り、疑問点や不明な点を調べてくる。[15分] ②社会福祉士国家試験と関連したポイントを整理する。[15分] ③課題レポート作成にあたっては、参考図書を必ず活用し作成する。[90分]				①課題レポートは、2週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する			
受講生に望むこと	聴く姿勢、主体的に学ぶ姿勢をもって、絶えず問題意識や関連性を捉えながら授業に臨んでもらいたい。			教科書・テキスト	『権利擁護と成年後見制度』 社会福祉士養成講座編集委員会＝編 中央法規出版 2014年 ISBN-978-4-8058-3936-2		
指定図書参考書等	なし / 必要な資料をその都度講義毎に配布する。			その他・特記事項	授業では関係教材・パワーポイント等を適宜使用します。		

授業科目名	経済学（国際経済を含む）		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	川島 哲・瀬尾 崇					
標準履修年次	3・4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	高等学校教諭一種免許状（公民）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>経済学の基礎を講義する。前半10回は経済学、後半5回は経済学史を扱い、担当者2名のオムニバス形式の講義である。前半の経済学は、経済学を初めて学ぶ学生が経済学の基本的な考え方を理解し、さらに経済学の魅力を知る手助けとなることを目的としています。後半の経済学史は、代表的な経済学者の主張を理解することによって、それらを現代の経済社会の諸問題に適用して考察します。</p>			<p>【経済学（第1回～10回）】経済学とはどういう学問なのかを理解することをその目標としています。第一に、経済学の基礎的な知識を身に付ける。第二に、経済ニュースに興味を持ち、授業で学んだことと結び付けて理解しようとする習慣を身に付ける。それらをもとに経済学とはどういう学問なのかを考えていきます。</p> <p>【経済学（第11回～15回）】過去の経済学者の主張は、単なる過去のものではなく、現代の具体的な経済問題を考える際にも有益であることを理解し、講義を通じて実際に具体的な問題に適用して考える。</p>			
教授方法	講義形式					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	日常生活を経済学で考える：モノ・サービスの値段を理解する。					川島
2	経済学的な考え方：経済循環フロー図と絶対優位・比較優位を理解する。					川島
3	需要曲線と供給曲線：需要曲線と供給曲線、曲線上の移動と曲線のシフトの違いを理解する。					川島
4	市場の価格調整メカニズム：市場の分類と市場均衡を理解する。					川島
5	消費者余剰と生産者余剰：財やサービスの市場取引による利益を理解する。					川島
6	需要・供給分析と価格弾力性：供給曲線のシフト、需要曲線のシフト、需要・供給の価格弾力性を理解する。					川島
7	労働市場の均衡：労働市場のメカニズム、賃金格差はなぜ生じるのかを理解する。					川島
8	独占と寡占：独占市場と寡占市場を理解する。					川島
9	公共財と外部性：公共財と外部性を理解する。					川島
10	情報の役割：逆選択とモラルハザードを理解する。					川島
11	アダム・スミス：道徳哲学と自由主義的な市場経済の基礎理解する。					瀬尾
12	K. マルクス：資本主義経済を冷静かつ批判的に考えるための方法を理解する。					瀬尾
13	新古典派経済学：市場メカニズムを中心とした現代の経済学のメインストリームの枠組みを理解する。					瀬尾
14	J. M. ケインズ：現代のマクロ経済学につながる基本的な考え方（消費・投資・資産・政策）を理解する。					瀬尾
15	M. フリードマン：現代の自由主義的な経済観についてケインズとの比較を通じて理解する。					瀬尾
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
学期末テスト	50	講義内容に関する学期末テストの素点		小テスト等	50	【経済学（第1回～10回）】中間テスト等 【経済学史（第11回～15回）】毎回の課題（4回分）
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>【経済学（1～10回）】教科書に基づき、やさしくわかりやすい講義をしていきたいと思います。日常生活の中における経済の仕組みなども盛り込みながら講義していきます。みなさんには、経済学の基本的な思考を身に付けてほしいと思います。各章末に課題があるのでこれを予習・復習に活用してください。この科目は予習復習が必須です。大学の専門科目ではありますが暗記等が必要となるからです。毎回予習復習は各1時間くらいを行ってください。</p> <p>【経済学（11～15回）】予習段階でテキストの該当する章を必ず読んできてください。その際、わかりにくい専門用語が出てきます、それを講義を聞いて意味を理解してください。復習段階で、各回で適用できそうな現代の具体的な問題を考えてもらって、次回の授業の冒頭で出席者どうしで共有する作業を短時間でおこないます。予習・復習それぞれ1時間あれば可能です。</p>			<p>【経済学（1～10回）】課題は随時行います。フィードバックに関しては次の回に行います。中間試験等についても同様に実施した次の回にフィードバックを行います。</p> <p>【経済学（11～15回）】最近のニュース等で大きく取り上げられるような経済問題を毎回1つ提示し、講義で取り上げた経済学者の主張を適用して考えてきてもらいます。それを次回の講義の冒頭で共有しながら考察を深めます。</p>			
受講生に望むこと	日ごろから新聞の経済面やテレビの経済ニュースに関心を持ち、理解を深める努力をしてほしい。			教科書・テキスト	【経済学（1～10回）】二本杉剛・中野浩司・大谷咲太『プレスステップ経済学 経済実験で学ぶ』弘文堂、ISBNコード978-4-335-00088-1 【経済学（11～15回）】坪井賢一『これならわかるよ！経済思想史』ダイヤモンド社。	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	都市社会学			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	俵 希實						
標準履修年次	3・4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
現代社会は、一般に総都市化社会と言われる。社会学は、都市に住む人々の社会関係や生活様式の変化―都市化―を説明する。この講義では、都市化がコミュニティに及ぼす影響に関する研究を中心に取上げ、背景となる都市そのものの変化に目を配りながら、学説的に理解するとともに、近年のグローバル化にとともなう都市の変容について考える。				①都市社会学の基本的な概念を説明することができる。 ②自分たちが住んでいる実際の場（多くは都市社会）を、客観的に観察することができる。 ③より快適な都市社会を創造するための基礎的な分析を行うことができる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	村落的環境から都市的環境へ：村落的環境における生活様式から都市的環境における生活様式への変化を理解する。						
3	都市的環境の出現とシカゴ学派：アメリカの都市シカゴの発展と都市社会学の原型をつくったシカゴ学派との関連について理解する。						
4	シカゴ・モノグラフ：シカゴ学派の具体的な研究に触れ、シカゴ学派の研究課題や研究方法を理解する。						
5	都市の空間構造：E. W. バージェスの同心円地帯論と、都市の空間構造の生成過程を論じたR. E. パークの人間生態学について理解する。						
6	同心円地帯論への批判：E. W. バージェスとは異なる主張を展開している社会文化生態学について学び、空間構造をもたらす「要因」についての考察を深める。						
7	生活様式としてのアーバニズム：L. ワースのアーバニズム論について理解する。						
8	アーバニズム論への批判：L. ワースとは異なる主張が展開されている研究について学ぶ。						
9	コミュニティ喪失論とコミュニティ存続論：都市の人間関係をめぐる議論を整理し、考察する。						
10	コミュニティ解放論：都市の人間関係をめぐる議論において新しい視点を含んだB. ウェルマンのコミュニティ解放論について学ぶ。						
11	アーバニズムの下位文化理論：都市の人間関係をめぐる議論においてシカゴ学派の主張を修正したC. S. フィッシャーの都市下位文化理論について学ぶ。						
12	日本型コミュニティの形成：日本におけるコミュニティ喪失論、コミュニティ存続論、そして社会目標としてのコミュニティについて理解する。						
13	グローバル化と都市再編：都市コミュニティ論と外国人居住者研究について理解する。						
14	都市とエスニシティ①：都市エスニシティ研究における都市類型化を試みる。						
15	都市とエスニシティ②：都市エスニシティ研究の課題である「共生と統合」について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
受講態度	30	積極的に授業に参加しているか。			レポート	60	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②定められた期限内に提出しているか。 ③指定された書式、字数にしたがっているか。
提出物	10	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②定められた期限内に提出しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前学習については、授業中に発言を求めた際、適切な意見を述べるができるよう、日ごろから都市環境についての情報をメディア等からキャッチしておくこと。事後学習については、当日の講義内容について、ポイントを整理すること。専門用語は授業中に説明するが、事典等で調べること。[60分]				提出物の内容について授業中にコメントする。			
受講生に望むこと	「集団や行為」についての社会学概論での基礎的知識を理解し、社会で生じている諸事象を客観的に把握・分析しようとする意欲をもって、講義に参加してください。			教科書・テキスト	レジュメを配布する。		
指定図書参考書等	講義の中で紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	福祉行財政と福祉計画			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若山 将実・虹釜 和昭（代表教員 若山 将実）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要				授業の到達目標			
現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向を示すものの、市町村をベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民および事業者が参加して立案計画に基づいて実施することが求められるようになった。そのため、現代の社会福祉専門職には、行財政を含む福祉の制度的な仕組みと計画の意義についての理解が求められる時代となっている。このような社会福祉の動向を踏まえ、住民参加のもとに、当事者、事業者、行政担当者、福祉の専門家などで福祉計画を策定していく意義や策定過程について理解を深める。				1. 福祉行財政の実施体制について理解させる。 2. 福祉行財政の実際について理解させる。 3. 福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解させる。			
教授方法	講義を中心に展開するが、提示課題によるグループディスカッションも含む。						
履修条件	「福祉サービスの組織と経営」を履修済みであること。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	国の福祉計画、都道府県の福祉計画、市区町村の福祉計画、及び民間計画としての福祉計画について理解し、また福祉計画以前の総合計画の中での福祉計画の位置づけ、個別計画の意義・目的について学ぶ。						虹釜
2	個別福祉計画の種類と特徴①：個別の福祉計画の基本的視点を理解したうえで、老人福祉計画と介護保険事業計画について理解する。						虹釜
3	個別福祉計画の種類と特徴②：障害者福祉計画、次世代育成支援行動計画、そして保育計画について理解する。						虹釜
4	地域福祉に関する計画を理解する。地域福祉計画、地域福祉支援計画、地域福祉活動計画の法的根拠、特徴などを理解する。特に住民参加型の特徴を、作成プロセスなどを学ぶ。						虹釜
5	具体的な計画書からその内容を読み取り、実際上の施策展開に生かされたのかなどを検証する。福祉計画を行政施策の中で生かしていくべきか、その中で住民参加をどのようにとらえるかを理解する。						虹釜
6	社会福祉の体系：社会保障の中における社会福祉の位置づけと社会福祉の実施体制を学ぶ						若山
7	国と地方の政府間関係①：国と地方自治体の基本的枠組みを学ぶ。						若山
8	国と地方の政府間関係②：戦後の地方分権改革の展開を学ぶ。						若山
9	国と地方の政府間関係③：地方分権一括法成立以降の地方分権改革の進捗状況を理解する						若山
10	福祉行政の組織運営システム：地方自治体において福祉行政機関がどのように位置付けられているのかを学ぶ。						若山
11	福祉行政における専門職の役割：福祉行政における専門職の役割を説明し、その課題と展望を検討する。						若山
12	自治体の福祉財政と財源確保：地方自治体の財政の全体像とそれに占める福祉財源について説明する。						若山
13	国家予算と社会福祉関係費：国家予算の成立過程と社会保障財源について理解する。						若山
14	ローカルガバナンスと福祉行財政：日本社会が抱える課題について論じ、国家体系がガバメントからガバナンスに変化しつつあることを説明する。						若山
15	福祉行財政の新たな動向：福祉行財政の基本的な問題に対し、近年の動向について議論する。						若山
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	70	福祉行財政と福祉計画の関係を理解し、行財政組織を国・地方公共団体・都道府県・市区町村で作成された福祉計画を総合的に理解している。			リアクションペーパー	30	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている。自らの課題が設定されている。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①今日の社会福祉制度政策の転換点になった「社会福祉基礎構造改革」の歴史的意義をまとめる。[20分] ②国、都道府県、市区町村の「福祉行財政の役割分担」の現状について、教科書、参考図書、厚生労働省のホームページなどより情報を入力しまとめる。[20分] ③「福祉行財政で働く専門職の役割」について、教科書（第4章：福祉行政における専門職の役割）などからリスト化を行なう。特に専門諸機関、地域の相談システム、専門職に分類してまとめる。[20分] ④高齢者・障害者・地域福祉など、各福祉計画の種類と特徴を理解し、自分の居住地の評価レポートを作成する。市区町村のホームページに各福祉計画が掲載されているので、参考にすること。[40分] ⑤福祉計画策定手順を理解し、教科書第11章「福祉計画の策定プロセスとその手法」を参照・事例資料などを活用し、地域福祉計画を策定する。[40分] ⑥介護保険事業計画について、策定体制や策定の経過を調べ、介護給付等対象サービスの種類毎の、サービス量の見込み策定の留意点をまとめる。[20分]				①リアクションペーパーは、次回の冒頭にコメントを付けて返却します。 ②期末レポートについては、可能であれば次学期初めに内容に関するコメントを付けて返却することを検討します。			
受講生に望むこと	行財政組織を国・地方公共団体・都道府県・市区町村の福祉計画について常に意識・検証する姿勢を求めたい。特に自らの地域の福祉計画を読み込み、一住民として福祉計画のあり方を考察することにより、理解が深まる。			教科書・テキスト	新・社会福祉士養成講座10『福祉行財政と福祉計画』社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規、第5版、2017年、ISBN 978-4-8058-5430-3		
指定図書参考書等	平成28年版『厚生労働省白書』 ISBN 978-4-86579-066-5 平成28年版『地方財政白書』 ISBN 978-4-86579-042-9 「日本の財政関係資料」財務省ホームページ			その他・特記事項	学習（予復習を含む）について、望むこと、疑問点などを伝えていただきたい。		

授業科目名	環境社会学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田中 純一					
標準履修年次	3・4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	高等学校教諭一種免許状（公民）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>受益圏・受苦圏の分離を特徴とするこれまでの公害問題と異なり、受益圏・受苦圏の重なりやトレードオフが今日的な環境問題の特徴である。本講義では、環境や災害などわれわれが直面する諸課題を事例として取り上げつつ、これらの問題の特徴、構造的課題、解決策について考えていく。</p>			<p>①身近な環境問題がなぜ問題なのかについて説明できるようになる。 ②問題の原因及び解決のためのアプローチについて、環境社会学の分析視角を用いて説明できるようになる。</p>			
教授方法	講義、グループワーク					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス・環境社会学とは 環境社会学の概要について学ぶ。					
2	環境社会学の分析視点 被害論、加害・原因論、解決論について学ぶ。					
3	生活環境主義とは何か 環境社会学の重要な分析視角である生活環境主義について学ぶ。					
4	自然と道具的価値と内在的価値 アメリカの環境保護思想の歴史的展開を参考に、自然と人間との関係について学ぶ。					
5	土地倫理 レオポルドの土地倫理について学ぶ。					
6	世代間倫理とは 環境倫理学の基本主張のひとつである世代間倫理の考え方について、「持続可能性」「予防原則」などの概念を通して学ぶ。					
7	ローカルな環境倫理 鬼頭によるアメリカの環境倫理批判を軸に、わが国の自然と人間との関係を捉える視点について学ぶ。					
8	社会的ジレンマ論 身近な生活問題であるごみとリサイクルを事例に、社会的ジレンマメカニズムと解決策について学ぶ。					
9	豊かさとは何か アメニティ概念を中心に、豊かさの意味についてグループワークを通して学ぶ。					
10	野生生物との共存 獣害問題を事例に、今日の里山がおかれている現状と課題について学ぶ。					
11	海は誰のものか 伝統的な入会慣行や入浜慣行を題材、にコモンズの今日的意義について学ぶ。					
12	超過疎高齢化と地域社会 能登の過疎集落の生活実態から、暮らし続けるために必要な視点について学ぶ。					
13	交通システムとまちづくり 欧米の公共交通政策を検討することにより、わが国の交通システムが抱える諸課題及びその解決策について学ぶ。					
14	持続可能性とは 今日さまざまな領域で使用される持続可能性概念について学ぶ。					
15	まとめ					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加及び意欲	10	授業への積極的参加		レポート	30	講義で学んだ知識を適切に用いて問題を考察し、要求されたレベルの解答をしているか。
期末試験	50	講義内容についての理解度		小テスト	10	講義で学んだことの理解度
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
講義に関するレジュメを事前に配布するので必ず目を通しておくこと。〔30分〕 ミニテスト等を実施するので学習内容を復習すること。〔30分〕				講義内で適宜ミニテストを実施し、理解度を確認する。		
受講生に望むこと	わからない専門用語等はその日のうちに調べる癖をつけること。			教科書・テキスト	講義内で適宜紹介する。	
指定図書参考書等	特になし			その他・特記事項	特になし	

授業科目名	NPO/NGOの社会学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	3・4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	高等学校教諭一種免許状（公民）				
授業の概要			授業の到達目標				
環境、災害、国際、福祉、まちづくりなどの諸分野においてNPO（非営利組織）やNGO（非政府組織）の活躍が注目されている。本講義では、NPO・NGOの台頭理由、具体的活動内容、組織運営上の課題などについて理解しつつ、組織の社会的役割および限界・課題について考えていく。			①NPO/NGOの社会的役割について理解する。 ②NPO/NGOの活動内容、会計、組織運営上の課題について理解する。				
教授方法	講義、ディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス						
2	NPO・NGO台頭の社会的背景 NPOやNGOは何をする組織なのか。市場や政府との関係性から、NPO/NGOの社会的役割について理解する。						
3	NPO/NGOの行動基盤（1）人権						
4	NPO/NGOの行動基盤（2）平和						
5	新しい公共とは；新しい公共概念の担い手としてのNPOの可能性と課題について学ぶ。						
6	地球環境問題とNPO・NGO 地球温暖化などグローバルな環境問題解決に向けた合意形成におけるNPO/NGOの政治的・社会的役割について学ぶ。						
7	欧米におけるNPO/NGO活動 NPO/NGOの台頭の歴史的経緯について学ぶ。						
8	NPO/NGOとボランティア NPO/NGOとボランティアと組織との関係性について学ぶ。						
9	行政とのパートナーシップ 行政とNPO/NGOが協働することの意義について、信頼されるNPO/NGOの条件とはどのようなものかについて学ぶ						
10	非営利組織の法制・税制 資金調達、会計の観点からNPO/NGO組織について学ぶ。						
11	石川県のNPO/NGO 石川県内で活躍するNPO/NGOの特徴について学ぶ。						
12	具体的活動からの考察 開発問題						
13	具体的活動事例からの考察 災害						
14	具体的活動事例からの考察 福祉						
15	まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業態度	10	講義への積極的参加		レポート	30	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの解答をしているか	
期末試験	60	講義で学んだことの理解度					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義に関するレジュメを事前に配布するので必ず目を通しておくこと。[30分] ミニテスト等を実施するので学習内容を復習すること [30分]				講義内で適宜ミニテストを実施し理解度を確認する。			
受講生に望むこと	社会で起こるさまざまな事象に関心を持ち、新聞やニュースなどに目を通すこと。			教科書・テキスト	適宜参考文献を紹介する。		
指定図書／参考書等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目名	地域福祉論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	後出 建司・九田 繁雄（代表教員 後出 建司）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
地域福祉の基本的考え方について理解を深めるとともに、地域福祉を推進する組織・機関・専門職の役割やボランティア・NPO・地域住民等の活動、また、具体的な連携方法について事例を通して学ぶ。また、社会福祉協議会活動、障害がある人や生活課題がある人への支援活動について実際の取り組みを学ぶとともに、事例検討等を通して「地域福祉」のあり方について様々な角度から考察する。			①講義を通して、地域福祉の発展過程と現状、今後求められる方向性について理解する。 ②地域の現状や生活課題、その解決方法を学ぶことにより、地域福祉の必要性を認識する。 ③事例検討を通して、専門職や地域住民・ボランティア、支援機関・団体、行政等の具体的な役割・取り組み・支援の視点を学ぶ。 ④コミュニティソーシャルワーカーに必要とされる基本的な視点を習得する。				
教授方法	講義・演習。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	地域の現状と生活課題を知る。－なぜ地域福祉の理論と実践が必要なのかを考える－					後出	
2	地域福祉の基本的考え方について理解を深める。－事例から学ぶ（限界集落）－					九田	
3	地域福祉の基本的考え方について理解を深める。－概念・理念・発展過程から学ぶ－					後出	
4	地域福祉の主体と福祉教育について理解を深める。－地域福祉の主体形成における福祉教育の概念と内容を学ぶ－					九田	
5	行政組織と民間組織の役割と実際について学ぶ。－地域福祉推進における様々な組織の役割を学ぶ－					後出	
6	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割・住民の参加と方法について理解を深める。－事例から学ぶ（限界集落）－					九田	
7	地域における社会資源の調整・開発、福祉ニーズの把握方法と実際について学ぶ。					後出	
8	障害のある人の支援の実際から地域福祉の必要性を学ぶ。－自立生活支援の実践から学ぶ－					九田	
9	被災地支援の取り組みから学ぶ地域福祉の展開。					九田	
10	社会福祉協議会活動の実際から地域福祉の必要性を学ぶ。－①地区社会福祉協議会・民生委員児童委員・ボランティア・事業者組織等の取り組みから学ぶ－					後出	
11	地域トータルケアシステムの構築と実際について学ぶ。－地域トータルケアシステムの必要性と考え方・展開方法を学ぶ－					九田	
12	社会福祉協議会活動の実際から地域福祉の必要性を学ぶ。－②高齢者や障害のある人の権利擁護・生活困窮者への支援の実践から学ぶ－					後出	
13	地域における福祉サービスの評価方法と実際について学ぶ。－評価を必要とする背景や考え方、方法等について学ぶ－					九田	
14	地域福祉の現場で求められる専門職とは①－グループワーク等を通して、専門職に求められる役割や資質を考察する－					後出	
15	地域福祉の現場で求められる専門職とは②－グループワーク等を通して、専門職に求められる役割や資質を考察する－					九田	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	講義・事例検討・グループワークでの姿勢及び出席状況を重視（問題意識をもち事前学習や考察、提案等ができたか。事例検討等で積極的に役割を担ったか）		レポート	50	提出状況と内容（課題に対する意見・提案の的確さ）	
小テスト	20	4回実施					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①初回授業前に、自分が現在住んでいる地域（または、これまでに育った地域）の人口や高齢化率・地域の成り立ち・特性・社会資源等について調べておく。[50分] ②毎回、授業終了後に、理解できなかったこと、疑問に思ったことを整理し、次の授業に確認する。[20分]				①小テストは、次回の冒頭に採点を返し、ポイントを説明します。 ②レポートは、次期初めまでに内容に関するコメントを配布します。			
受講生に望むこと	理論や制度だけではなく、「一人の人間が地域で生活する。」という生活者の視点を忘れず授業に臨んでいただきたい。			教科書・テキスト	新・社会福祉士養成講座9『地域福祉の理論と方法』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編集、中央法規出版、2015年、ISBN978-4-8058-5105-0 その他、必要に応じてレジュメ・資料を配布する。		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	社会心理学 I		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	3・4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・高等学校教諭一種免許状（公民）				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。社会心理学は、人間の心理を理解する上において状況の影響に重点を置き、人間の社会的行動を理解しようとする学問である。社会心理学 I においては、社会の中で個人を理解するために個人内過程に重点を置いて講義を行う。具体的には、自己意識や自己開示、対人認知、対人魅力、原因帰属等が挙げられる。他者との関係という状況の中の個人に着目することにより、人間がいかに社会的な存在であるのかということを理解してもらいたい。</p>			<p>①社会心理学における自己のとらえ方、その概念と機能を理解している。 ②他者を理解する仕組みとそこから生じる問題について理解している。</p>				
教授方法	講義を中心に自分自身について振り返りを行う作業も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	社会心理学とは何か—社会心理学の概要—						
2	自己① 社会心理学における自己						
3	自己② 自己意識：自己意識とはどのようなものであるか、社会的行動への影響について学ぶ。						
4	自己③ 自己概念・自尊感情：自己概念・自尊感情についての研究知見について学ぶ。						
5	自己④ 自尊感情についての近年の理論的展開：自尊感情に関して近年提出されている様々な理論について学ぶ。						
6	自己⑤ 自己開示：自己開示がどのようなものであり、自己、対人関係にどのような影響が見られるかを理解する。						
7	自己⑥ 自己呈示：自己呈示についての理論、研究知見を学ぶ。						
8	自己⑦ 自己と動機づけ：動機づけの中でも特に自己と関わりが深いものを取り上げ、紹介する。						
9	自己⑧ 他者との比較：社会的比較についての理論、および研究知見を紹介する。						
10	対人認知：他者を理解するプロセスについての知見を紹介する。						
11	ステレオタイプ：ステレオタイプとは何か、維持や変容のプロセスについて考える。						
12	原因帰属，社会的推論①：原因帰属，社会的推論に関する理論を紹介する。						
13	原因帰属，社会的推論②：原因帰属，社会的推論におけるエラーやバイアスについての知見を紹介する。						
14	対人魅力①：対人魅力に関わる様々な要因を紹介する。						
15	対人魅力②：外見・容姿が対人魅力に及ぼす影響について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	80	講義内容の理解度		講義への参加度	20	講義中の積極的な発言や課題の提出状況から評価を行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>①各回の内容についてあらかじめプリント、参考書を読んでくる。授業後には授業の内容を振り返りを行う。【45分】 ②講義で学んだ内容を自分自身や他者との関わりに適用し、具体的に理解する。【30分】 ③講義内で行う心理尺度の結果について自分自身だけではなく周りの人たちと議論し、理解を深める。さらに関連の尺度やその概念について調べる。【30分】</p>				<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</p> <p>講義内の小レポートは、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。</p>			
受講生に望むこと	社会心理学 I の対象となるのは自己や他者の理解など比較的なじみやすいものであるが、諸概念を理解し、応用することは必ずしも易しいものではない。講義内容を積極的に自分自身や日常生活に適用していく姿勢が求められる。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントの配布を行う。		
指定図書参考書等	なし／『社会心理学』 池田謙一他 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5375-5 『よくわかる社会心理学』 山田一成他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4812-0			その他・特記事項	特になし		

授業科目名	社会心理学Ⅱ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	西村 洋一					
標準履修年次	3・4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・高等学校教諭一種免許状（公民）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義は心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。社会心理学Ⅱにおいては、他者とのコミュニケーションと社会的影響を中心に集団やより大きな社会における人間の心理や行動にも着目する。具体的には集団意思決定やそのダイナミズム、マスメディアの影響などが挙げられる。さらに、現代社会での普及が著しいインターネットや携帯電話の影響についてもデータに基づいた議論を行う。</p>			<p>①コミュニケーションとはどのようなものであるか社会心理学の観点から理解している。 ②社会心理学における態度という概念およびその社会的行動への影響について理解している。 ③集団における社会的影響と集団におけるダイナミクスについて理解する。 ④メディアの利用が利用者やその対人関係、そして社会へどのような影響を与えるか理解している。</p>			
教授方法	講義を中心に自分自身について振り返りを行う作業も取り入れながら進める。					
履修条件	社会心理学Ⅰの履修済が望ましい（単位未修得可）。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	コミュニケーションとは何か					
2	対人コミュニケーションを概観する。					
3	言語的コミュニケーション：言語的コミュニケーションについての研究知見を紹介する。					
4	非言語的コミュニケーション：非言語的コミュニケーションの分類やその影響について学ぶ。					
5	コミュニケーションと認知の関係					
6	態度と態度変容についての理論：態度変容について提出されている理論を紹介する。					
7	説得のプロセス：説得に関わる要因やそのプロセスがどのように理解されているかを紹介する。					
8	権威への服従：ミルグラムによって行われた研究を中心に考察する。					
9	中間試験とこれまでの内容の振り返り					
10	集団における心理① 同調：集団への同調がどのように生じるのか、そして少数派の影響についてもあわせて考える。					
11	集団における心理② 援助行動：援助行動についての社会心理学的研究で得られた知見を紹介する。					
12	集団意思決定：集団意思決定において見られる現象について考察する。					
13	集団間関係：集団間で生じる葛藤について理解する。					
14	インターネット利用の個人、対人関係への影響					
15	文化と心：文化心理学の考え、得られた知見を紹介する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
中間試験	30	講義内容の理解度		期末レポート	50	問われていることに適確に答えているか、しっかりと構成されているかを中心に評価を行う。
講義へ参加度	20	講義内での発言や課題の提出状況から評価を行う。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①各回の内容についてあらかじめプリント、参考書を読んでくる。授業後には授業の内容を振り返りを行う。〔45分〕 ②自ら所属する様々な集団においてどのような影響を受けているか、授業や課外活動で議論を行った際に具体的に考えてみる。〔30分〕 ③メディア利用については多くの議論が行われているので、それらを参照し、講義の内容とあわせ、理解を深める。〔30分〕</p>				<p>授業内の小レポートは、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。 中間試験は採点終了後返却し、解説する。</p>		
受講生に望むこと	社会心理学Ⅱの内容は個人と社会の相互影響過程がより強く打ち出されたものとなっている。自分自身への関心だけでなく、広く社会への興味関心を持って講義に臨み、具体的な社会事象についての理解へと用いてほしい。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。	
指定図書参考書等	なし／『社会心理学』 池田謙一他 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5375-5 『よくわかる社会心理学』 山田一成他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4812-0			その他・特記事項	特になし	

授業科目名	認知心理学 I		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	西村 洋一					
標準履修年次	3・4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。認知心理学とは、人間が周りの環境や社会をどのように認識し、そこから得られた情報をどのように処理しているかを科学的に明らかにしようという学問である。本講義では、認知心理学の諸理論を概観し、人間のこころというものが、どのような仕組みで働いているかについて理解を深めることを目的としている。認知心理学 I においては、感覚過程と知覚過程および感情を中心に取り上げ、解説を行う。</p>			<p>①認知心理学がどのようなものであるのか理解する。 ②感覚・知覚過程がどのような働きをし、どのような障害があるのか理解する。 ③注意という概念や機能について理解する。 ④感情とはどのようなものか理解する。</p>			
教授方法	講義を中心に、実際に体験できる課題を取り入れながら進める。					
履修条件	なし。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	認知心理学とは？：認知心理学という領域がどのようにして成立し、どのようなことを目指したものであるのか解説を行う。					
2	感覚 1 視覚：人がものを「見る」プロセスと心理学における研究知見について解説を行う。					
3	感覚 2 聴覚・嗅覚：人が音を「聴く」プロセス、匂いを感じるプロセスと心理学における研究知見について解説を行う。					
4	感覚 3 味覚・皮膚感覚：人が持つ味覚や皮膚感覚におけるプロセスと心理学における研究知見について解説を行う。					
5	知覚 1 知覚の恒常性 運動の知覚：人の知覚の特徴をよく考えさせる知覚の恒常性とモノや自分の動きを捉える知覚プロセスについて解説を行う。					
6	知覚 2 空間の知覚：私たちがなぜ「奥行」を感じることができるのかポイントを取り上げ解説を行う。					
7	知覚 3 錯視：「錯視」という一見不可思議な現象を取り上げ、紹介しながら人の知覚の特徴についてさらに知識を深める。					
8	知覚 4 顔の認識：顔は人にとって重要なものであり、その認識においてもいくつかの特徴がみられる。それらの特徴を理解することで顔認識プロセスについての理解を深める。					
9	知覚 5 知覚における障害：知覚のプロセスにおいてどのような障害が存在するのか、どのような影響がもたらされるのかという点について解説を行う。					
10	注意 1 注意とは何か？：「注意」というものが人の認識のプロセスでどのように機能し、どのように概念化がなされるのか解説を行う。					
11	注意 2 視覚的注意：「視覚的」な注意についてはどのような研究が行われ、理解されているのかについて解説を行う。					
12	注意 3 資源：注意における資源という観点から、人の認識の特徴について論じる。					
13	文化と認知 認知過程に見られる文化による違いについて解説を行う。					
14	感情 1 その理論：感情を理解するための諸理論を概観する。					
15	感情 2 認知との関わり：認知と感情の相互影響について解説を行う。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	80	試験形式・採点基準等は授業内で提示する。		講義への参加度	20	授業への取り組み姿勢や課題の提出状況をもとに評価を行う。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
<p>①各回の内容についてあらかじめプリント、参考書を読んでくる。授業後には授業の内容を振り返りを行う。 [45分] ②講義内で行うデモンストレーションを講義後に自分や身の回りの人に実施し、本を読んだだけでは理解しにくい部分を実感から理解を深める。 [30分] ③感覚・知覚、およびその障害については教科書的なものだけでなく、読み物やテレビ番組などになっているものも多いので、それらも参照すること。 [30分]</p>				<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</p> <p>授業内の小レポートは、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。</p>		
受講生に望むこと	<p>感覚・知覚は日常行われていることではあるが、あまり意識することのない過程であると思われる。しかし、心の成り立ちを知る上で重要な過程であるので、その意義を踏まえながら積極的に授業に参加することを望む。</p>			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。	
指定図書参考書等	<p>なし／『認知心理学』箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5374-8 『認知心理学—知のアーキテクチャを探る—新版』道又爾・北崎充晃・大久保衛亜・今久久登・山川恵子・黒沢学 有斐閣 2011年 ISBN 978-4-6411-2453-0</p>			その他・特記事項	なし	

授業科目名	認知心理学Ⅱ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	3・4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。認知心理学とは、人間が周りの環境や社会をどのように認識し、そこから得られた情報をどのように利用しているかを科学的に明らかにしようという学問である。本講義では、認知心理学の諸理論を概観し、人間のこころというものがどのような仕組みで働いているのかについて理解を深めることを目的としている。認知心理学Ⅱにおいては記憶、思考及び学習過程を中心に解説を行う。</p>			<p>①記憶や思考といったものについて素朴な実感に基づく理解ではなく、認知心理学の観点から捉えなおすことができる。 ②認知心理学の枠組みから日常の記憶、思考にまつわる出来事を解釈できる。 ③批判的思考という概念を理解し、自ら実践できるようになる。 ④学習過程について認知理論の観点から考えることができる。</p>				
教授方法	講義を中心に、実際に体験できる課題も取り入れながら進める。						
履修条件	認知心理学Ⅰの履修済が望ましい（単位未修得可）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	記憶 1 記憶とは？：人の記憶の特徴について概略を述べ、次回以降の内容に道筋をつける。						
2	記憶 2 短期記憶・ワーキングメモリ：二重貯蔵モデルにおける短期記憶の特徴について述べ、さらにその概念を発展させたワーキングメモリの概要とその働きについて解説を行う。						
3	記憶 3 長期記憶：長期記憶の分類やモデルについて説明を行い、どのように概念化がなされているのかについて理解する。						
4	記憶 4 潜在記憶：顕在記憶と潜在記憶の違いを通して潜在記憶の特徴を理解し、その影響について実験例を用いて解説を行う。						
5	記憶 5 忘却とはどのようなことか：人が覚えていたことを「忘れる」ということはどのようなことであるのか、どのように概念化されるのかという点について解説を行う。						
6	記憶 6 忘却に関する種々の現象：忘却には様々なパターンがある。それらについて具体的な研究例や事例を取り上げながら解説する。						
7	記憶 7 自伝的記憶：自分自身についての記憶は、他の物事についての記憶とは異なる特徴がある。それらの特徴、自伝的記憶の影響などについて解説を行う。						
8	記憶 8 目撃証言：記憶が私たちの実生活に影響を及ぼす具体的な事象として、目撃証言が挙げられる。これまでに説明を行ってきた人の記憶の性質を考慮した際、目撃証言をどのようにとらえ、どのような点に注意する必要があるか解説する。						
9	記憶 9 偽りの記憶：私たちが持つ記憶は実際に体験したものだけとは限らない。体験していないことについての記憶を持つこともある。そのような記憶が生まれるプロセスについての解説を行う。						
10	思考 1 推論：演繹推論、帰納推論とはどのようなものであるのかを説明し、人が演繹推論を行う時の特徴について理解する。						
11	思考 2 確率判断：人が行う確率判断はどのような特徴があるのか、そしてそれらが意思決定のプロセスにおいてどのような影響をもたらすのかについて解説を行う。						
12	思考 3 批判的思考：人の思考プロセスの特徴を踏まえた上で、より妥当な、合理的思考を行うための考え方はどのようなものであるかといった点について解説を行う。						
13	思考 4 問題解決：問題が与えられ、ゴールの状態に至るまで人がどのようなプロセスを経ているのかについて解説を行う。						
14	思考 5 創造的思考：これまでにない新しいものを生み出すような思考プロセスはどのようなものであるかの解説する。						
15	学習 認知理論から見た学習過程について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	講義内容をどれだけ理解できているか。試験形式等の詳細は授業内にて提示する。		レポート	30	課題に対し資料を参照しながら筋道立てて意見を述べられているか。	
講義への参加度	20	授業への取り組み姿勢や課題の提出状況をもとに評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①各回の内容についてあらかじめプリント、参考書を読んでくる。授業後には授業の内容を振り返りを行う。 [30分] ②講義内で行うデモンストレーションを講義後に自分や身の回りの人に実施し、本を読んだだけでは理解しにくい部分を実感から理解を深める。 [30分] ③記憶や思考については教科書的なものだけでなく、読み物やテレビ番組などになっているものも多いので、それらも参照すること。 [30分]</p>				授業内の小レポートは、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	記憶や思考は皆が日常行っていることであり、十分理解していると思われるかもしれない。しかし、認知心理学はそのような実感や記憶や思考の実際が多岐にわたるといえるという知見をもたらしている。そのような知見をただ覚えるだけでなく、積極的に日常生活に生かしていくというような態度で授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし／『認知心理学』箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5374-8 『認知心理学—知のアーキテクチャを探る—新版』道又爾・北崎充晃・大久保衛垂・今井久登・山川恵子・黒沢学 有斐閣 2011年 ISBN 978-4-6411-2453-0			その他・特記事項	なし		

授業科目名	心理学研究法Ⅱ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	3・4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。本講義では、「心理学研究法Ⅰ」で学んだ心理学における様々な研究法に関する知識を更に拡充していく。具体的には、心理学的な研究を行う一連の流れの各ポイントでどのような点を考慮し、進めていくことが求められるのかについて講義および実践を通して学ぶ。また、応用的な手法を用いた研究も取り上げ、解説を行う。</p>			<p>①現在心理学において用いられている研究手法をより具体的に理解している。 ②研究を実施する際に考慮すべきポイントを理解している。 ③因子分析という手法を理解し、心理学の研究においてどのように用いるかを理解している。 ④授業で身につけた知識、経験を自らの研究実践において生かせるようになる。</p>				
教授方法	講義を中心に、コンピュータや実験器具を使用した体験なども取り入れて進める。						
履修条件	心理学研究法Ⅰの履修済が望ましい（単位未修得可）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	心理学研究法Ⅰの振り返り—調査法を中心に—						
2	心理学の研究における問題設定、仮説構築：問題設定や仮説構築はどのように行われるのかを理解する。						
3	問題設定、仮説構築の実践：2回目に学んだ内容をふまえて問題の設定や仮説の構築を実際に行う。						
4	調査研究の結果の分析法 1 因子分析 1 その理論：因子分析という分析手法がどのようなものであるかを理解する。						
5	調査研究の結果の分析法 2 因子分析 2 実践1：因子分析を実際に行い、理解を深める。						
6	調査研究の結果の分析法 2 因子分析 2 実践2：因子分析についてさらに習熟する。						
7	研究計画の立て方：研究を行うにあたって、どのような点を考慮し、計画を立てればよいかを学ぶ。						
8	問題設定：調査に向けて具体的に自分たちの問題設定を行う。						
9	仮説の構築：先行研究を参照しながら仮説へと落としこむ。						
10	調査における項目作成法：質問紙調査を行う際、項目をどのように作成するかを学ぶ。						
11	調査結果のまとめ方 1 項目分析：調査でデータが得られた際、どのようにまとめ、分析を行うかを学ぶ。						
12	調査結果のまとめ方 2 因子分析の実施						
13	調査結果のまとめ方 3 仮説の検証						
14	調査結果報告の実施法：分析結果をどのようにまとめ、考察を進めるかを学ぶ。						
15	心理学の応用的研究の紹介および体験 認知面、生理面に焦点をあてた実験研究						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
学期末レポート	70	授業内容の理解の度合い		講義への参加度	30	授業への取り組み姿勢から評価を行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>①本講義では仮説構築が一つのテーマとなるので、日常での小さな疑問を意識し、問題意識へと高める作業をしておくこと。[30分] ②因子分析についてプリントや参考書で予習・復習を行う。さらに心理学における適用事例を調べ理解を深める。[30分] ③研究の実施にあたっては様々な観点から評価を行う必要があるので多くの心理学研究法に関する書籍を読み、視点を養うこと。[30分]</p>				<p>授業内の小レポートは、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。</p>			
受講生に望むこと	心理学関連の授業内で示された様々な研究例や自分の興味関心のある分野の研究などに積極的に触れて、自ら研究する際の材料を増やしてほしい。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。		
指定図書／参考書等	なし／高野陽太郎・岡隆（編）（2004）『心理学研究法—心を見つめる科学のまなざし—』有斐閣 ISBN 978-4-6411-2214-7 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）（2001）『心理学研究法入門—調査・実験から実践まで—』東京大学出版会 ISBN 978-4-1301-2035-7			その他・特記事項	なし		

授業科目名	心理療法		開講学科	社会科学	必修・選択	選択
担当教員名	佐野 隆子					
標準履修年次	3・4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>近年、相談援助の重要性は、医療、福祉、教育などのさまざまな領域で高まっています。この授業では、心理療法の基礎的な知識や理論を学ぶとともに、医療・福祉・教育の現場でよく用いられているアプローチ（クライエント中心療法、認知行動療法、解決志向アプローチなど）について学習します。また、対人援助の基盤となる他者と自分を尊重する態度を、アサーションなどのグループワークを通して体験的に学びます。</p>			<p>①心理療法の理論と技法についての基礎知識を身につける。 ②カウンセリングの基本的態度を理解する。 ③心理療法を学ぶ過程で、自己理解と他者理解を深める。</p>			
教授方法	講義、グループワーク					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の概要と成績評価の方法を理解する。心理療法とは何か：心理療法の歴史の概要を理解する。					
2	心理療法の基礎理論：フロイト、ユング、ロジャーズなどの代表的な心理療法家の理論とそれぞれのアプローチについて理解する。					
3	さまざまなこころの病と心理療法：現在行われている心理療法を、さまざまなこころの問題とともに理解する。					
4	治療構造と基本的態度：セラピストに求められる基本的な態度、カウンセリングの過程について理解する。					
5	見立て①：心理検査のそれぞれの特徴を知る。					
6	見立て②：面接による見立てについて学ぶ。 初回面接をロールプレイで体験する。					
7	クライエント中心療法①：傾聴、感情の反射について理解する。					
8	クライエント中心療法②：面接過程をロールプレイで体験する。					
9	表現療法①：描画などの芸術療法、遊戯療法、箱庭療法などの概要を理解する。					
10	表現療法②：コラージュ療法を体験する。					
11	認知行動療法①：「自動思考」について学び、認知行動療法のプログラムを理解する。					
12	認知行動療法②：グループセッション、セルフヘルプの実際を体験する。					
13	解決志向アプローチ：解決志向アプローチの理論と実際を体験的に理解する。					
14	アサーション・トレーニング：対人関係スキルとしてのアサーションをグループワークを通じて理解する。					
15	交流分析とエゴグラム：交流分析の概要を学ぶ。性格検査（エゴグラム）による自己理解と他者理解をグループワークで体験する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	講義全体を通して内容を理解しているか、記述と選択問題などによって評価する。		授業参加状況	50	授業後の感想・ワークシートなどの提出物で、授業の内容を理解しているか、気づきや学びがあるかを評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
①授業で出た専門用語などについて、整理し確認するようにしてください。[30分] ②毎回さまざまな心理療法を取り上げます。各療法についての関連図書を積極的に読み、理解を深めることを希望します。[60分]				ワークシートは4週間以内にコメントをつけて返却する。		
受講生に望むこと	4回目以降毎回グループワークを行います。グループワークとは、ロールプレイ・描画・ワークシートを使ったディスカッションなどです。グループワークを有意義なものにするためには、グループ内の信頼関係作りへの努力と、一人一人が自発的に発言することが不可欠です。積極的な態度で参加してください。			教科書・テキスト	資料を配布する	
指定図書参考書等	『やさしく学べる心理療法の基礎』窪内節子・吉武光世 共著 培風館 2003年 ISBN 978-4-563-05669-8 『自己カウンセリングとアサーションのすすめ』平木典子 著 金子書房 2000年 ISBN 978-4-7608-2586-8			その他・特記事項	なし	

授業科目名	保健医療サービス			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	石原 俊彦						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要				授業の到達目標			
保健医療サービスを構成する要素を理解し、医療法改正における保健医療サービスの今日的課題、保健医療チームを支える社会福祉士、精神保健福祉士その他の職種等の機能と役割を理解する。併せて保健医療サービスを提供する保健医療政策による医療施設、診療報酬による医療施設の機能・類型・システムを学ぶ。また、保健医療サービスを提供する医療保険制度と診療報酬制度の概要を学び、高齢者が増加する現在における介護保険と介護保険制度の概要についても理解する。				①保健医療のサービスの变化と提供する施設とそのシステム及び社会福祉専門職（社会福祉士、精神保健福祉士）の役割について理解する。 ②医療保険制度、介護保険制度、公費負担医療制度の概要について理解する。 ③保健医療サービスにおける専門職の連携と実践地域の社会資源との連携及び実践について理解する。			
教授方法	講義とグループによるディスカッション。						
履修条件	「公的扶助論」を同時に履修することが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	保健医療のサービスの变化：保健医療サービスの構成要素、保健医療サービスの整備・拡充、住民及び患者視点の尊重						
2	医療法改正に見る保健医療サービスの今日的課題、医療連携チームと社会福祉士と精神保健福祉士の役割						
3	医療法による医療施設の機能・類型、保健医療政策による医療施設の機能・類型						
4	診療報酬における医療施設の機能、介護保険における施設の機能・類型						
5	在宅支援のシステム：医療と介護の連携、地域包括ケアシステムの必要性						
6	医療ソーシャルワーカーの業務内容、経済的問題への支援、退院援助・社会復帰援助						
7	通院援助、組織における地域の窓口、保健医療サービスの専門職の概観、基本的姿勢						
8	保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割：チームアプローチの実際						
9	医療保険制度と診療報酬制度の概要：保険料の負担と給付、診療報酬における在宅医療・終末期医療						
10	介護保険制度と介護報酬及び公的扶助の概要						
11	保健医療の専門職との連携方法：保健医療チームとの連携、多職種チームとの連携						
12	チームケア実現のための制度や連携機関：チームケアの基本となる制度、行政・社会福祉協議会・地域包括支援センター等との連携						
13	社会福祉協議会、職能団体、ボランティア、地域産業、学校と教職員						
14	保健医療の専門職との連携の実際：チームケアの類型、疾病・障害別のチームケア、クリティカルパスの実践と活用						
15	地域の保健医療ネットワーク構築のための連携方法：地域連携とネットワークとその原則						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	福祉の専門職を目指す者として、保健医療サービスについてどの程度、理解し自分なりの関心、知識を深めているかを把握する。			課題レポート	20	自分が住んでいる地域の中でどのような介護サービスがあるか。どのような介護施設があるかまとめる。
授業の取り組み態度、出席状況	30	授業の態度及びグループディスカッションへの取り組み姿勢					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前学習では、誰にも自分及び家族が医療機関（病院・診療所）を受診した経験があると思うが、その時抱いた疑問や問題点、不快に思った事等をまとめておくこと。[30分]各自が体験した内容をもとにグループディスカッションを行い、問題箇所を探し出し、その関連する要因及び対策について検討する。できたら患者の権利についても考える。[30分]終了後は、①保健医療サービスに対する住民の意識②医療体制のサービス提供上の課題について各自まとめる。（マスコミ等の意見を参考にしても良い）更にグループで①②について質疑応答し深める。例えば社会環境要因からの生活習慣病の予防を促すために住民の意識を高め、保健医療サービスの提供、健康診断・教育はどうあるべきかを考察する。				講義の前後に疑問点等の質問を受ける。講義開始時は前回の講義内容を復習して講義を始める。社会福祉士の国家試験に対応できるような過去の問題等を講義の中で説明する。			
受講生に望むこと	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験の共通受験科目であるので、しっかり取り組んで欲しい。医療保険制度、診療報酬については日ごろから受診や健康診断で医療機関を利用しているにも関わらず関心が薄いので関心を持つようにすること。苦手意識が強い学生が多いので、家族の受診時や祖父母の介護保険利用時等に支援を通してこの科目の学習を深めて欲しい。			教科書・テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編、「保健医療サービス」中央法規、2016年、ISBN：978-4-8058-5432-7		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	相談援助の理論と方法Ⅲ			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>社会福祉士がソーシャルワーカーとして、個人、家族、小集団・組織、地域社会をクライアントシステムとして捉え、どのような対象者であろうとも一つのソーシャルワーク過程で対応できるように、理論と方法を学ぶ。また、ケースマネジメントやネットワークング等についても、社会福祉士が実施する業務の必要性に対応して、理論と方法を学ぶ。相談援助実習および国家試験を意識した専門的内容を展開する。</p>				<p>①「社会福祉における相談援助とは何か」、その本質と相談援助の意義を理解する。 ②ケースマネジメント及びソーシャルワークの関係について理解する。 ③グループワークの意義、グループを活用した相談援助の展開について理解する。 ④連携や協働の考え方をケースマネジメントの中核的技術であるコーディネーションとして学ぶ。 ⑤社会資源の種類とその活用について学び、クライアントのニーズ充足との関係を理解する。 ⑥ソーシャルワーカーがクライアント個人に働きかける、環境に働きかける、個人と環境の調整を図ることを通じてクライアントを支援する方法について学ぶ。 ⑦ソーシャルワーカーの支援環境を整えるためのスーパービジョンやコンサルテーションについて学ぶ。 ⑧ケースカンファレンスや相談援助における個人情報保護について理解する。</p>			
教授方法	講義						
履修条件	相談援助の理論と方法Ⅰ、Ⅱを履修済みの者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	相談援助活動の概念と定義および対象をどうとらえるかについて理解する。						
2	システム理論による全体的、包括的な対象理解について学ぶ。システム理論を背景とした社会福祉援助活動の対象理解を踏まえて、個人、家族をどうとらえるかについて理解する。						
3	システム理論を背景とした社会福祉援助活動の対象理解を踏まえて、集団、地域をどうとらえるかについて理解する。新たなソーシャルワークの展開と社会福祉士認定制度について理解する。						
4	ケースマネジメントの目的、構成要素、過程について理解する。						
5	アセスメントについて理解する。また、パートナーシップやストレングスの視点の必要性を理解する。						
6	ケアプランの作成および実施について理解する。またケースマネジメントとソーシャルワークの関係について理解する。						
7	グループを活用した相談援助について理解する。						
8	自助グループを活用した相談援助について理解する。						
9	コーディネーションの目的と意義、コーディネーションの方法・技術・留意点等について理解する。						
10	ネットワークングの意義と目的、方法について学習する。ネットワークの形成とシステム化について理解する。						
11	相談援助における社会資源の活用・調整・開発について理解する。						
12	スーパービジョンとコンサルテーションの意義、目的、方法等について理解する。						
13	ケースカンファレンスの意義・目的・運営と展開過程等について理解する。						
14	相談援助における個人情報の保護について理解する。						
15	相談援助における情報通信技術（ICT）の活用について理解する。まとめ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	80	・毎回の講義内容についてどれだけ理解しているか。			授業参加状況	20	・ワークシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。 ・授業への積極的な取り組み。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①毎回、テキストを読んで予習・復習をする。[それぞれ30分以上] ②テキストで理解が難しい社会福祉用語については、社会福祉に関する書籍や社会福祉用語辞典等を参考にする。 ③相談援助演習や相談援助実習等の科目と関連づけて学ぶ。</p>				<p>毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の冒頭に解説等を行う。</p>			
受講生に望むこと	・受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んで欲しい。			教科書・テキスト	『相談援助の理論と方法Ⅱ』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版（株） ISBN978-4-8058-5104-3		
指定図書参考書等	なし/『相談援助の基盤と専門職』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版（株）2015年 ISBN978-4-8058-5102-9 『相談援助の理論と方法Ⅰ』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版（株）2015年 ISBN978-4-8058-5103-6			その他・特記事項	なし		

授業科目名	相談援助の理論と方法Ⅳ			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>ソーシャルワークは、クライアントが抱える生活課題を解決し、社会的機能の改善・維持・向上を具体的目標に、利用者の「最善の利益」を確保する展開過程である。そのため、クライアントが抱えている生活課題を正確に把握・理解していくためにさまざまな実践モデル・アプローチについて学習し、現場実践の中で活用できるようにする。実践モデル・アプローチについては、その基盤となる理論、適用対象・課題、支援展開などを学習し、ソーシャルワーカーとしてより高いレベルの知識・技術・価値、そして実践力を身につける。また、相談援助に係る事例分析の方法や相談援助の実際等について理解する。</p> <p>相談援助実習および国家試験を意識した専門の内容を展開する。</p>				<p>①医療モデル、生活モデル、ストレングスモデルについて理解する。 ②ジェネラリスト・ソーシャルワークについて理解する。 ③「実践モデル」と「アプローチ」をそれぞれ「課題認識への類型」と「課題解決への方法」として峻別する。 ④「心理社会的」「機能的」「問題解決」「課題中心」「危機介入」「行動変容」の6つのアプローチについて、起源と基盤理論、支援焦点、支援展開などを理解する。 ⑤「エンパワメント」「ナラティブ」「フェミニスト」「解決志向」の「新興アプローチ」について理解する。 ⑥アプローチをめぐる課題について理解する。 ⑦事例分析の方法等について理解する。</p>			
教授方法	講義						
履修条件	相談援助の理論と方法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修済みの者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	さまざま実践モデルとアプローチⅠ：実践モデルとその意味を理解する。						
2	さまざま実践モデルとアプローチⅠ：治療モデル、生活モデル、ストレングスモデルについて学習する。						
3	さまざま実践モデルとアプローチⅠ：ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデルについて理解する。						
4	さまざま実践モデルとアプローチⅡ：心理社会的的アプローチについて理解する。						
5	さまざま実践モデルとアプローチⅡ：機能的アプローチについて理解する。						
6	さまざま実践モデルとアプローチⅡ：問題解決アプローチについて理解する。						
7	さまざま実践モデルとアプローチⅡ：課題中心アプローチについて理解する。						
8	さまざま実践モデルとアプローチⅡ：危機介入アプローチについて理解する。						
9	さまざま実践モデルとアプローチⅡ：行動変容アプローチについて理解する。						
10	さまざま実践モデルとアプローチⅡ：事例考察によるアプローチ理解。						
11	さまざま実践モデルとアプローチⅢ：エンパワメントアプローチについて理解する。						
12	さまざま実践モデルとアプローチⅢ：ナラティブアプローチについて学習する。						
13	さまざま実践モデルとアプローチⅢ：実存主義アプローチとフェミニストアプローチについて理解する。						
14	さまざま実践モデルとアプローチⅢ：解決志向アプローチについて理解する。アプローチをめぐる課題について理解する。						
15	事例研究・事例分析の意義・目的・方法等について理解する。相談援助の実際（権利擁護活動を含む）を理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	80	・毎回の講義内容についてどれだけ理解しているか。			授業参加状況	20	・ワークシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。 ・授業への積極的な取り組み。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①毎回、テキストを読んで予習・復習をする。[それぞれ30分以上] ②テキストで理解が難しい社会福祉用語については、社会福祉に関する書籍や社会福祉用語辞典等を参考にする。 ③相談援助演習や相談援助実習等の科目と関連づけて学ぶ。</p>				<p>毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の冒頭に解説等を行う。</p>			
受講生に望むこと	・受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んで欲しい。			教科書・テキスト	『相談援助の理論と方法Ⅱ』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版（株）2015年 ISBN978-4-8058-5104-3		
指定図書参考書等	なし/『相談援助の基盤と専門職』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版（株）2015年 ISBN978-4-8058-5102-9 『相談援助の理論と方法Ⅰ』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版（株）2015年 ISBN978-4-8058-5104-3			その他・特記事項	なし		

授業科目名	相談援助演習Ⅳ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	岡田 文貴						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>ソーシャルワークは、ソーシャルワーカーとクライアントとの専門的援助関係を機軸に展開される。そして、ソーシャルワーカー自身が援助資源の1つであることを強く認識しなければならない。そのため、ソーシャルワーカーは自らの存在を援助的に機能させるため、自分自身や自分の価値について十分理解する必要がある。また他者（クライアント）を理解するためコミュニケーション能力を高めることも必要である。この授業では、自己及び他者理解を促進させる知識・技術・価値について、演習を通して学習していく。特に、ソーシャルワークの技術・知識の根底に存在する価値・倫理を意識した学習を行っていく。</p>			<p>①自分がどんな価値観（心のメガネ）をもっているのか気づく。また、権利が侵害されている人々を支援するためには、エンパワメントが必要なことを知る。 ②自己決定は必要な情報の提供が前提にあり、秘守義務を果たすことはクライアントに大きな信頼感・安心感を与えることを理解する。 ③組織が倫理的な環境になれば、それだけ利用者の利益が優先されやすい。だから地域に倫理を浸透させることが大切であることを理解する。 ④ディレンマを感じることは、価値と倫理を理解している証であることを理解する。</p>				
教授方法	演習						
履修条件	相談援助演習Ⅰ、相談援助演習Ⅱ、相談援助演習Ⅲを履修済の者。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	価値について知る：「減びゆく地球からの脱出計画」、「ライフストーリーの作成と振り返り」、「ライフストーリーの語らい」について演習。人それぞれ価値を持っていて、それを理解し合うことが大切である。						
2	人間の平等と尊厳、個性の尊重：「伝道師と老人、少年の物語」、「路上死した男の物語」について演習。相談を受け、援助する者にとって必要な価値とはどんなものかを考える。						
3	自己実現と社会正義：「難病患者の選挙参加」、「知的障害者のグループホーム開所と反対運動」について演習。インクルージョン（共生社会）を考える。また、クライアントの利益の優先と社会正義とは、密接不可分の関係である。						
4	受容・利益の優先・自己決定：受容、共感、傾聴は、面接技術の基本であり、その重要性を理解するとともに、相談援助者の価値・倫理を理解する。						
5	プライバシーと秘密保持：ソーシャルワークは、個人情報を取り扱い活動をしている。それをどう保護し、またどのような時に開示するかを考える。						
6	組織への倫理責任：社会福祉事業現場実践での適切な支援とは何だろうか。不適切な支援を行っていることが分っているのに黙っているのは、適切な支援なのか、考えよう。						
7	地域社会への倫理責任：ミクロ（個人）、メゾ（集団）、マクロ（地域）の中で、マクロの視点での相談援助の実践を考える。地域と連携する技術を考える。						
8	「倫理的ディレンマ」：第1回目レポート提出。「倫理的ディレンマ」について、テキストの項目に沿ってグループで話し合う。						
9	「物語の全体像を創作する」「相手の立場になって理解する」：受容、傾聴、共感について理解する。基本的なコミュニケーション技法について学習する。						
10	「言葉の二面性に気づく」などについての演習。メッセージの裏に隠れているクライアントの感情を理解することの重要性と、理解した後に発する援助者の言葉を意識する。相手の気持ちを引き出す支援を学ぶ。						
11	クライアント理解—ストレングス視点：「違った視点でクライアントを理解する」「ストレングス視点と価値と倫理との比較」について演習。医学モデル、生活モデル、ストレングスモデルなど複眼的視点で事例を捉える。						
12	クライアント理解—ストレングス視点：「クライアントのライフストーリーにストレングスを見出す」について演習。リフレーミングの技法も用いて、クライアントのストレングスを見出していく。						
13	クライアント理解—エコロジカル視点：第2回目レポート提出。「アセスメントを完成させる」「ソーシャルワーカーの動きを決める」に関し、レポート（課題）提出。						
14	「働きかけと振り返り」と「支援の終結」について理解する。介入する際は、いくつかの方法を考え、そのメリット、デメリットを考え、最終的に介入方法を決定する。「いくつかの方法」が思い浮かべられるよう学習する。						
15	提出されたレポート（課題）に関する振り返り。第1回目のレポートと第2回目のレポートについて、提出されたレポートの内容をまとめた資料を提示し、2つの課題について振り返りを行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	40	演習時の参加態度を重視。グループ討議での発言状況や他のメンバーへの受容、傾聴、共感の状況。グループ内での役割が果たしているか。		2回のレポート（課題）提出	60	・課題が作成されている。SWの価値・倫理に沿った上で、自分の考えが示されている。字数不足、書式違反、考察が不足していないか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①予習として、テキストを読んで授業に出席してください。基本的に授業計画に沿って進んでいきますので、授業計画に沿ってテキストを読んでから授業に出席してください。[週に30～60分] ②テレビや新聞等の情報により、社会的支援が必要な人々の生活問題に気づくことができます。どのような支援が必要か、提供できるかを想像してください。クライアントの利益の優先、自己決定、社会正義など社会福祉の価値と倫理に根づいた実践を想像してください。[その都度数分] ③参考書などの社会福祉に関する書籍を読むことで、社会福祉の理念・価値や援助技術についてより理解を深めることができます。[週に30分] ④実習やボランティアなど、社会福祉の対象者に直接関わる機会を作り、プロセスリコードを作成してみましょう。自分の考え方の傾向、価値観、コミュニケーションに関する力などに気づくことができます。[その機会ごとに60分]</p>				<p>授業の予習のための課題を出した場合は、授業の中でフィードバックします。2回のレポートについては、15回目の授業でフィードバックします。</p>			
受講生に望むこと	演習事例は、必ず前もって読み、授業に参加するようにしてください。グループ討議を中心に演習を行っていきます。積極的にグループ討議に参加しましょう。			教科書・テキスト	『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』川村隆彦 中央法規 2002年 ISBN978-4-8058-2163-3		
指定図書参考書等	なし／『逐語で学ぶ21の技法 対人援助のための相談面接技術』岩間伸之 中央法規出版 2008年 ISBN978-4-8058-3073-4			その他・特記事項	なし		

授業科目名	相談援助演習 V			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	前川 直樹						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>演習のねらいは、相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得させるとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することにあります。この授業では、地域福祉の基盤整備と開発に係る事例等を活用した演習により、地域で展開されている援助技術の実践について学び、具体的実践能力の習得をめざします。</p>				<p>①地域で展開されている援助技術について、具体的なレベルで理解する。 ②各理論・概念、技術や価値について、実践に適用する方法を理解できるようになる。 ③実習での体験や学習、日々の実践について、一般化・理論化する方法を理解できるようになる。</p>			
教授方法	講義と個人、グループでの演習。						
履修条件	相談援助演習 I、相談援助演習 II、相談援助演習 III、相談援助演習 IV を履修済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	演習実施のための枠組み（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握）：アウトリーチの概念とニーズ整理の方法について知る。						
2	相談援助事例（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握①）：アウトリーチ、ニーズ把握の実践について知る。						
3	相談援助事例（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握②）：アウトリーチの具体的実践について考える。						
4	演習実施のための枠組み（チームアプローチ）：チームアプローチの概念と実際について知る。						
5	相談援助事例（チームアプローチ）：チームアプローチを促進するコーディネーションの技術について考える。						
6	演習実施のための枠組み（ネットワーキング）：ネットワーキングの概念と実際について知る。						
7	相談援助事例（ネットワーキング①）：ソーシャルサポート・ネットワークの具体的実践について考える。						
8	相談援助事例（ネットワーキング②）：地域福祉を推進するための総合的なネットワーク形成について考える。						
9	演習実施のための枠組み（社会資源の活用・調整・開発）：社会資源の概要と活用・調整の方法について知る。						
10	相談援助事例（社会資源の活用・調整・開発①）：社会資源開発の具体的展開について考える。						
11	相談援助事例（社会資源の活用・調整・開発②）：ソーシャルアクションの具体的展開について考える。						
12	演習実施のための枠組み（サービスの評価）：サービスの評価の概念と実際について知る。						
13	相談援助事例（サービスの評価）：福祉サービスの評価制度の概要について知る。						
14	演習実施のための枠組み（地域福祉の計画）：コミュニティソーシャルワークの概念、地域福祉計画の概要について知る。						
15	相談援助事例（地域福祉の計画）：地域福祉の計画化、住民の主体化と住民参加について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	45	授業に対する取り組み姿勢を評価します。 ・講義、個人での演習時の学習態度 ・グループでの演習への参加態度			課題レポート	20	指定する書式にて期日までに提出し、自身の考察を加えてまとめていることを評価します。
期末試験	35	講義、演習内容の理解を筆記試験で評価します。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①事前学習として、各回の内容を他の科目のテキスト、またはその他のテキスト（例：『新・社会福祉士養成講座』社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版）等を参考にして確認しておく。[30分] ②事後学習として、テキスト（社会福祉士 相談援助演習）にある各回の内容に関連する他の演習課題にも各自取り組む。[60分]</p>				レポートは2週間を目安に評価とコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	他の科目で習得した内容や実習での体験、学習等と関連づけながら、積極的に各作業や討議に参加して下さい。			教科書・テキスト	『社会福祉士 相談援助演習 第2版』社団法人日本社会福祉士養成校協会監修、中央法規出版、2015年、ISBN978-4-8058-5123-4		
指定図書参考書等	なし／『新・社会福祉士養成講座』社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版（第7巻～第9巻等）			その他・特記事項	なし		

授業科目名	相談援助実習指導Ⅱ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士			
授業の概要			授業の到達目標			
相談援助実習Ⅰで学んだ「専門知識」「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要となる資質・能力・技術を習得する。実習を行う分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について学ぶ。個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に学び実践的な技術等を体得する。			①相談援助実習Ⅰを振り返り、実習Ⅱに向けた課題について改めて把握することができる。 ②実習を行う分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解できる。 ③個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、実践的な技術等を体得することができる。			
教授方法	テキストをもとにした講義の他、実習ガイドブック、ワークシート等を用いた演習、DVDの視聴を行う。					
履修条件	相談援助実習指導Ⅰ、相談援助実習Ⅰを履修済の者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理					
2	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえたレポートの作成（テーマ設定・アウトライン）					
3	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえたレポートの作成（資料・データ整理）					
4	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえたレポートの発表（第1グループ）					
5	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえたレポートの発表（第2グループ）					
6	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ分野）					
7	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ施設）					
8	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（概況表）					
9	実習目的と実習課題について（個人票）					
10	実習目的と実習課題について（実習計画）					
11	実習生に求められる姿勢					
12	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解（実習記録の目的・内容）					
13	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解（記述方法）					
14	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成					
15	巡回指導					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・課題への取り組み状況		提出物	50	・実習レポートやワークシート等の提出物の内容等
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①相談援助実習Ⅰについて、学びと課題を再確認しておく。 ②授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ③授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上]			・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。			
受講生に望むこと	・実習では、社会人としてのマナーも問われる。挨拶や身だしなみなどに日頃から気をくばること。規律のある態度で授業に臨むこと。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということに常に意識すること。 ・相談援助実習Ⅱでは、Ⅰに比べ実習期間が長くなる。実習の良い準備が出来るよう、意欲的な姿勢で授業に臨むこと。		教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第2版 早坂聡久 他編（株）弘文堂 2014年 ISBN978-4-335-61165-0		
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		

授業科目名	相談援助実習指導Ⅲ			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要				授業の到達目標			
相談援助実習Ⅱで学んだ「専門知識」「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要となる資質・能力・技術を習得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。				①相談援助実習Ⅱを振り返り、実習課題の達成状況の評価が適切にできる。 ②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的な能力を習得することができる。 ③具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立ててレポートにまとめることができる。			
教授方法	テキストをもとにした講義の他、ワークシート等を用いた演習、レポート作成を行う。						
履修条件	相談援助実習指導Ⅱ、相談援助実習Ⅱを履修済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	実習の価値と事後学習の意義						
2	相談援助実習Ⅱにおける実習課題の達成状況の評価						
3	相談援助実習Ⅱにおける課題や疑問点の言語化と整理						
4	実習評価と自己評価（相談援助実習と評価）						
5	実習評価と自己評価（スーパービジョン）						
6	相談援助実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（テーマ設定）						
7	実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（アウトライン）						
8	実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（資料・データ収集・整理）						
9	実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（レポート作成）						
10	実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（見直し、プレゼン準備）						
11	実習総括レポートの発表とディスカッション（第1グループ）						
12	実習総括レポートの発表とディスカッション（第2グループ）						
13	実習報告会における実習総括レポート発表と指導者からの助言（第1グループ）						
14	実習報告会における実習総括レポート発表と指導者からの助言（第2グループ）						
15	実習指導のまとめ、総括						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・課題への取り組み状況			提出物	50	・実習レポートやワークシート等の提出物の内容等
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①相談援助実習Ⅱについて、学びと課題を再確認しておく。 ②授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ③授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上]				・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。			
受講生に望むこと	・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・実習全体のまとめ・整理を行って、今後の学びにつなげていく。			教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第2版 早坂聡久 他編（株）弘文堂 2014年 ISBN978-4-335-61165-0		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	相談援助実習Ⅱ			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	3単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要				授業の到達目標			
1.6日間(12.8時間)にわたる相談援助実習Ⅱを通して、相談援助に係る専門的な知識と技術について具体的かつ実際に学び、実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に学ぶ。				①実習施設・機関の機能・役割や利用者のニーズ等について理解できる。 ②社会福祉士の業務内容について実際に理解できる。 ③ソーシャルワークの知識や技術について、総合的に対応できる能力が習得できる。			
教授方法	実習施設の指導者による指導、担当教員による巡回指導等。						
履修条件	相談援助実習Ⅰの単位を修得済の者。相談援助実習指導Ⅱを履修した者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成						実習指導者、担当教員
2	利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成						実習指導者、担当教員
3	利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との援助関係の形成						実習指導者、担当教員
4	利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価						実習指導者、担当教員
5	多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践						実習指導者、担当教員
6	社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解						実習指導者、担当教員
7	施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実践						実習指導者、担当教員
8	当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解						実習指導者、担当教員
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習施設の指導者による評価	60	・実習の態度 ・専門的知識、技術の習得の状況			担当教員による評価	40	・実習記録の内容等
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①実習の前に事前学習や実習計画、実習プログラム等の内容を再確認しておく。[30分] ②実習の後に実習課題に関する自己評価や内省を行うとともに疑問点等を調べ次に備える。[60分]				・実習記録等をもとに、実習指導者から指導を受ける。 ・巡回訪問時等の面接により、担当教員から気づきを促していく。 ・実習を終えての内省や自己評価を実習指導Ⅲに繋げていく。			
受講生に望むこと	・相談援助実習Ⅰの学びを踏まえ、より良い実習となるよう意欲的に取り組む。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・社会福祉士の具体的なイメージを掴む。			教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第2版 早坂聡久 他編 (株)弘文堂 2014年 ISBN978-4-335-61165-0		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	教育相談		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	高等学校教諭一種免許状（公民）・認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
子どもたちを取り巻く諸問題についての実情を把握し、教育相談の目的や意義を学ぶ。また、教育相談における幼児・児童への関わり方を対象問題別に学ぶとともに、幼児・児童理解及び支援のいくつかのアプローチを学び、教育相談について理解を深める。			教育現場に出る際にどのような教育相談活動を展開すべきかについて十分に考察を深め、自分なりの考えを持てるとともに、教育相談の具体的方法を知り、幼児・児童支援における留意点についても理解することができる。				
教授方法	演習、講義、ディスカッション。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	教育相談とは：教育相談の目的、意義、方法について考える						
2	子どもの貧困：貧困について理解を深める						
3	自閉症：自閉症の特徴について理解を深める						
4	学習障害：学習障害の特徴について理解を深める						
5	注意欠陥多動性障害：注意欠陥多動性障害の特徴について理解を深める						
6	不登校：不登校について理解を深める						
7	いじめ：いじめについて理解を深める						
8	非行：非行について理解を深める						
9	虐待：虐待について理解を深める						
10	自殺：自殺について理解を深める						
11	統合失調症：統合失調症の特徴について理解を深める						
12	気分障害：気分障害の特徴について理解を深める						
13	カウンセリング的態度：教育相談において求められるカウンセリングの知識と技術を理解する						
14	連携・協働：教育相談において求められる多職種の連携や協働について理解を深める						
15	統括。教育相談の目的、意義、方法について改めて考える						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の意見や感想を記述すること。講義内容のメモではなく、内容から発展させた自分の考えなどを記述することが求められる。		講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。	
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
与えられたテーマについて予習し、レジュメを作成すること。[90分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[30分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを配布する。			
受講生に望むこと	学習に自発的、積極的に取り組むこと。 他の受講者と協調すること。 毎回、相当量の予習と他者と協力して取り組む演習が不可欠であることを承知の上で受講すること。			教科書・テキスト	なし		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーをお招きする可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

授業科目名	中等教育実習指導		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	高 一男					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	高等学校教諭一種免許状（公民）			
授業の概要			授業の到達目標			
教育実習は実習までの学びの総仕上げとして位置づけられる。大学で学んださまざまな成果を、学校という教育の現場で生かし、その理解を一層深める重要な機会である。本授業は、教育実習の意義を十分理解するとともに、事前学習として、高校教師として求められる資質・能力、実践的指導力を身に着けるために学校現場の実務の内容、指導案作成や模擬授業そして演習などを行う。また、事後学習では、研究授業の振り返りや、実習記録簿の作成・発表を通じて教員としての責任と自覚を確立する。			①教育実習の意義と責任を理解する。 ②学校現場における様々な職務内容を理解できる。 ③学習指導案が作成できるようになる。 ④学習指導案に基づいて授業ができるようになる。 ⑤実習記録簿の記載方法を習得する。			
教授方法	講義と演習。					
履修条件	高等学校教諭免許状資格科目を修得または履修し、実習要件を満たしている者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：教師に求められる資質と能力について理解する。					
2	教育実習の意義と目的：大学の教職課程での学習と教育実習との関連性について理解する。					
3	教育実習と教育法規：教育実習を行う際に注意すべき基本的教育法規を再確認する。（体罰、守秘義務、政治的・宗教的中立性など）					
4	教育実習の準備と心得①：服装、髪型、持ち物、化粧、挨拶や態度、言葉遣いなどについての留意点を理解する。					
5	教育実習の準備と心得②：実習中の勤務心得（実習校での服務規定や教職員や生徒との人間関係上の注意点や留意点など）を理解する。					
6	教育実習の形態と内容①：観察実習の視点について理解する。					
7	教育実習の形態と内容②：参加実習（ホームルーム活動、部活動、清掃活動など）の形態や内容・留意点について理解する。					
8	教育実習の内容と形態③：教壇（授業）実習事前実習の内容と留意点について理解する。					
9	学習指導案（公民科）作成のポイント：「公民科教育法Ⅰ・Ⅱ」で学んだ指導案作成の方法を確認する。					
10	「現代社会」の「(2)現代社会と人間としての在り方生き方」の内容から指導案を作成する。					
11	作成した指導案に基づいて直前模擬授業を行う。					
12	模擬授業の反省会：模擬授業全体についての反省点・改良点などについて討議する。また、実習校での反省会に臨むにあたっての留意点を理解する。					
13	「実習記録簿」の役割と記載方法について理解する。					
14	教育実習事後指導：実習記録簿の作成と実習校への対応について理解する。					
15	教育実習総括と今後の対応を理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習記録簿	40	実習記録簿の内容がきちんと書かれているか		課題レポート	30	実習前と実習後の課題レポートの内容がポイントを押さえているか
模擬授業	20	指導案、模擬授業、反省会における内容や姿勢・態度		授業の参加姿勢	10	取り組む関心・意欲・態度
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①実習においては、教科に関する専門的知識や、広く豊かな教養が必要となる。事前に、公民科の教科書などを通じてきちんと勉強しておくこと。[50分] ②また、これまで教職課程で学んできた学習内容をきちんと点検し、教育実習に万全の態勢で臨むようにすること。[30分] ③学外での公開授業などがあれば積極的に参観し、生徒理解を深めること。				①課題レポートについては評価し、講義時にコメントする。 ②実習記録簿は、実習終了後点検しコメントをつけて返却する。 ③模擬授業は終了時コメントする。		
受講生に望むこと	教育実習の不安を少しでも解消できるよう真剣に、そして積極的に授業に参加すること。また、実習後は、教師に対する情熱や生徒に対する愛情や責任感を高め、教育という仕事に対する使命感や誇りを持つようになることを希望する。			教科書・テキスト	なし/レジュメなどを適宜配布する 教育実習記録簿	
指定図書参考書等	なし/『教育実習総説 第3版』池田稔他編著 学文社 2011年 ISBN: 978-4-7620-2121-3			その他・特記事項	無断欠席、遅刻、早退などをした場合不認定になることがある。	

授業科目名	中等教育実習		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	高 一 男					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	高等学校教諭一種免許状（公民）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>教育実習の形態は、観察実習、参加実習、教壇（授業）実習で行われる。観察実習では、高等学校の現場で行われる授業などを観察することを通じて、教師の授業力や生徒の実態を知り、自らの教壇実習の参考とする。参加実習では、学校で行われるさまざまな教育活動に可能な限り参加し、学校の教育活動の全体的把握に努める。特に、ホームルーム活動や清掃活動、部活動への自主的・主体的参加が望まれる。教壇実習では、事前に入念な教材研究を行い、指導教諭と連携を密にし、事前指導を受ける。授業終了後には指導教諭や参観してくれた教員から事後指導を受け、今後の授業に生かすようにする。</p>			<p>①実習生として基本的な心構えができるようになる。 ②生徒、教職員とのかかわりにおいて、適切にコミュニケーションが取れるようになる。 ③観察、参加実習によって学校現場の実態を理解する。 ④指導案を作成し、それに基づいて研究授業がきちんとできるようになる。 ⑤実習記録簿を毎日作成し、指導教諭より指導と助言を受けることができるようになる。</p>			
教授方法	観察実習、参加実習、教壇実習。					
履修条件	高等学校教諭免許状資格科目を履修または習得し、実習要件を満たしていること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	学校長または教頭より学校の概要、教育目標、実習期間中の心得などの説明を受ける。教科指導教諭、配置クラスの担任と実習計画を作成する。					関係教員
2	実習期間中の課題設定と観察実習（地歴科や公民科の先生の授業観察）や参加実習（ショートホーム参加や清掃監督など）を始める					関係教員
3	総務・教務の先生から学校の実態についての説明を受ける。観察実習、参加実習の継続。					関係教員
4	進路、生徒指導の先生より説明を受ける。観察実習、参加実習の継続。指導教諭と研究授業についての基本的な打ち合わせを行う。					関係教員
5	担当クラスのLHRで生徒に話をする。生徒会担当や教育相談の先生から説明を受ける。					関係教員
6	観察実習と参加実習の継続。指導教諭と相談の上指導案のためのテーマ設定と資料収集の打ち合わせを行う。					関係教員
7	指導教諭の指導と助言のもと指導案の原案を作成する。					指導教諭
8	指導案を完成させ、教材や教具の準備を行う。授業担当クラスの生徒の実態を調べる。					指導教諭、担任
9	学習指導案を印刷し、教職員に配布し、研究授業への参加をお願いする。					関係教員
10	研究授業と授業後の反省会をおこなう。					高校・大学教員
11	研究授業や反省会での講評や課題などを整理し、実習記録簿に記載する。					指導教諭
12	観察実習と参加実習を積極的に行い、生徒とのコミュニケーションを積極的にとるよう努力する。					関係教員
13	教科外活動（部活動や生徒会活動など）に担当教員の指導で積極的に参加する。					関係教員
14	指導教諭や関係教員とで実習総括を行う。					指導教諭・関係教員
15	実習記録簿の整理や教職員、担当クラスの生徒への挨拶や、礼状の原案作成を行う。					関係教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習講評点	60	実習期間中での実習校の評価		研究授業	20	研究授業の内容の大学教員の評価
実習記録簿	20	日々の実習記録の内容				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①教育実習を迎える前に、これまで大学で履修してきた教育課程の学習内容を点検するとともに、担当する教科・科目に関する知識を確認すること。[60分] ②実習校の実態を知るためにホームページなどを通じて事前学習をしておくこと。[30分]</p>				<p>①研究授業は終了後当該高校の先生と大学側、本人とで反省会を行いコメントする。 ②実習記録簿は、本人が提出後点検しコメントをつけて返却する。</p>		
受講生に望むこと	実習期間中は健康に十分注意し、万全の態勢で臨むこと。実習期間中は実習生の本分を忘れず生徒、教職員と接すること。何事にも積極的に行動し、教職に対する使命感や自己の教職に対する能力や適性について自覚するようにすること。			教科書・テキスト	実習校使用公民科教科書 教育実習記録簿	
指定図書参考書等	なし/『教育実習安心ハンドブック』小山茂喜編著 2010年 ISBN978-4-7619-1756-2			その他・特記事項	無断欠席・遅刻・早退があった場合は不認定となる。 なし	

授業科目名	教職実践演習 (高)		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	高 一男					
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	高等学校教諭一種免許状 (公民)			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、高等学校教諭 (公民) の免許取得を目指す学生が、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程以外での様々な活動を通じて身に付けた資質能力が、教職員として必要な資質・資格と適切に融合しているかを認める科目である。いわば4年間を通じての「学びの集大成」と位置付けられるものである。個々の学生は、この科目の履修を通じて、教員としての使命感や責任感、教育に対する情熱や愛情をより高め、また自己の教員としての課題を自覚し、不足している知識や技能などを補い、定着化を図っていく。			①教員としての使命感や責任感を理解し、教育に対する愛情を持つことができるようになる。 ②教職に対する自己の適性を認識し、社会性や対人関係能力を習得する。 ③生徒理解や学級経営に関する基本的知識を修得する。 ④教科 (公民) 等の内容を理解し、授業実施のための知識・技術を習得する。			
教授方法	講義・グループディスカッション・模擬授業。					
履修条件	原則として、教育実習を始め教職課程のすべての科目を単位修得済であること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：教職履修カルテの確認、「教育実践演習」の目的・ねらいを理解する。					
2	教育実習での課題と反省：実習記録簿から教育実習期間中の課題・問題点を提示し、意見交換を通じて自己の教員になる上での課題を自覚する。					
3	教職の意義と教員の役割、職務内容等：教育関連法規などを通して理解する。					
4	教員の資質・能力と生徒理解：教員としての社会性・コミュニケーション能力の育成と生徒との信頼関係の構築・生徒理解の技法を身につける。					
5	特別活動・学校行事：文化祭期間中や学校公開の時期に高校を訪問し、教職員や生徒の活動状況を観察し、レポートにまとめ、そのレポートに沿ってディスカッションする。					
6	校務分掌の機能と役割：主に教務・進路・生徒指導を中心に校務分掌の機能と役割について理解する。					
7	学級経営の推進：学級担任の仕事・役割を理解し、教育実習経験をもとに事前に学級経営案を作成し発表する。また、臨床場面における様々な事例の対応策について解決方法を考えていく。					
8	学校授業参観：県の教育ウィーク期間中開催される学校公開に参加し、授業参観を行いその内容や感想等をレポートにまとめ発表し、その後ディスカッションを行う。					
9	今日的教育課題の対応：いじめ・不登校・中途退学などや反社会的問題行動の実態を把握し、その背景や個々の生徒の特性や状況に応じた対応の習得方法を理解する。					
10	教科内容等の指導力育成と指導案作成：基本的授業技術の習得と教科書の内容を理解し、実習校での生徒の学習の定着状況に応じた現代社会の学習指導案を作成する。					
11	模擬授業と反省会：前回の指導案に基づき模擬授業を行い、その後ディスカッションで課題や問題点を話し合う。					
12	指導案作成：政治・経済、倫理の科目からそれぞれ指導案を作成する。その際、教具・教材、学習形態、評価等を工夫した指導案を作るよう工夫する。					
13	模擬授業と反省会：前回の指導案のうち一つを選び模擬授業を行う。其の後の反省会を通じて、学習指導の基本的事項の確認を行い、一層の指導力向上を図る。					
14	学習評価と指導要録：評価の目的や評価の方法、指導要録の記入や取扱上の留意点などを理解する。					
15	総括ディスカッション「魅力ある教師を目指して」：「接遇」、「資質・能力」、「教師としての自覚と責任」などをキーワードに、魅力ある教師像を討論し、後日レポートを提出する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
指導案と模擬授業	50	①指導案の体裁や内容 ②模擬授業の評価 (話し方、板書、内容など)		レポート	30	学校訪問やディスカッション後のレポートの期限内提出と内容
授業参加姿勢	20	①ディスカッションでの参加姿勢 ②授業中の態度や意欲・関心				
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック		
①教育実習記録簿を振り返り、実習中に指摘されたり自覚をした教員としての自己の課題を確認しておくこと。 ②可能な限り休業等を利用して学校を訪問したり、高校生と接するように努めること。 ③講義の場合はレジュメを事前に配布するので必ず目を通しておくこと。[50分] ④学習指導案作成は授業時間内では困難なので、学校や家庭の空き時間を使って作成すること。[120分]				①指導案と模擬授業は終了後コメントする。 ②レポートは、提出後コメントし次回に返却する。		
受講生に望むこと	①教職を目指す学生としての自覚を持ち、日常生活や学校生活を過ごすこと。 ②指定された様々な課題に真摯に、かつ積極的に取り組むこと。			教科書・テキスト	なし/必要に応じてレジュメを配布する	
指定図書/参考書等	なし/随時紹介する			その他・特記事項	教職課程の総仕上げの科目であるため、今までの教職課程の講義に配布されたレジュメや資料、実習記録簿、履修カルテなどをきちんと整理し、必要に応じて講義に持参すること。	

教職員録

職名	氏名
学長	町田 健一
宗教主事	楠本 史郎
図書館長	富岡 和久
地域教育開発センター長	田中 純一
事務長代理	佐々木浩幸

人間総合学部

学部長	真砂 良則
子ども教育学科長	中島 賢介
社会学科長	俵 希實

子ども教育学科

教授	朝倉 秀之
〃	伊藤 雄二
〃	大井 佳子
〃	虹釜 和昭
〃	田邊 圭子
〃	多保田治江
〃	辻 直人
〃	中島 賢介
〃	町田 健一
〃	宮浦 国江
准教授	永山 亮一
〃	幸 聖二郎
講師	熊田 凡子
〃	齊藤 英俊
〃	下村 岳人
〃	向出 圭吾
助教	高村 真希
〃	福江 厚啓

社会学科

教授	木島 恒一
〃	楠本 史郎
〃	小林 正史
〃	俵 希實

職名	氏名
教授	西村 洋一
〃	真砂 良則
准教授	田中 純一
〃	田引 俊和
〃	若山 将実
講師	竹中 祐二
〃	松下 健
〃	若杉 亮平

兼任教員(短期大学部専任教員)

兼任教員	クリスタル ランキート
〃	坂井 良輔
〃	須田久美子
〃	田中 弘美
〃	俵 万里子
〃	富岡 和久
〃	中谷 智一
〃	新澤 祥恵
〃	西 正人
〃	野林 晴彦
〃	林 剛司
〃	三田 陽子
〃	村上 吉春

非常勤講師

非常勤講師	浅岡 吉宏
〃	荒井 紀子
〃	アンソニー タガン
〃	石倉 瑞恵
〃	石原 俊彦
〃	稲角 光恵
〃	井上 好人
〃	今井 竜也
〃	上野 千恵
〃	後出 建司
〃	岡田 文貴

職名	氏名
非常勤講師	カーラ カリー
〃	加藤 雅子
〃	川島 哲
〃	北川 節子
〃	木藤 由麻
〃	キャサリン シュリープズ
〃	九田 繁雄
〃	河野すみ子
〃	佐野 隆子
〃	清水 實
〃	芝口 翼
〃	瀬尾 崇
〃	側垣 二也
〃	高 一男
〃	高橋 律子
〃	竹下 正弘
〃	田中 早苗
〃	田邊 浩
〃	種池有美子
〃	張 榮涓
〃	津田 朗子
〃	土屋 尚子
〃	坪内 啓子
〃	堂田 俊樹
〃	徳田 茂
〃	中村喜代美
〃	南部 順子
〃	野崎 卓道
〃	濱西 和子
〃	福田 真紀
〃	前川 直樹
〃	松岡 香
〃	宮丸 慶子
〃	山黒 修
〃	山下のぞみ
〃	鷺山 靖

職名 氏名
助手(実験実習補助)
 教材室 瀬戸 美江 (子ども教育学科)
 助 手 加藤 真衣 (食物栄養学科)
 ヶ 久保 夕貴 (ヶ)
 ヶ 畠山 千穂 (ヶ)

教職相談支援室
 金丸 洋子
 金森 俊朗
 戸田 教一

事務局
 事務局長 岩田 喜弘
 事務長代理 佐々木浩幸

【学長室】
 学長室長(兼) 佐々木浩幸
 課 長 瀧 浩輔
 主 任 安部 玲子
〈IR推進係〉
 係 長 本丹 直哉
 室 員 大棗 睦美

【総務財政課】
 課長代理 宮本真紀子
〈総務係〉
 課 員 川村 快
 ヶ 竹内 朝子
 ヶ 小島 妙子

職名 氏名
〈財政係〉
 課 員 鷹野香奈子
 ヶ 宮下 光謹
 ヶ 酢馬ひかる

【広報企画課】
 課長代理 西野 拓哉
〈広報企画係〉
 (地域教育開発センター事務兼務)
 課 員 小島 美紀

〈大学入試広報係〉
 主 任 中島 貴史
 課員(兼) 小島 美紀
 課 員 瀬戸 佳子

【教務課】
 課長代理 今井 誠一
〈教務係〉
 主 任 山口絵美子
 課 員 酒井 大輔
 ヶ 瀬戸 康代
 ヶ 平岡 明
 清水 啓子

〈教務助手係〉
 課 員 多田 昌生
 ヶ 近岡 尚美
【学生支援課】
 課 長 北川 裕樹

職名 氏名
〈学生支援係〉
 係 長 源野 雄介
 課 員 三木 香奈
 ヶ 森田 康子
 ヶ 田川由美子
 カウンセリング 井口 彰子

〈営繕係〉
 係 長 吉野 誠
 課 員 作本真太郎
 ヶ 山田 元気

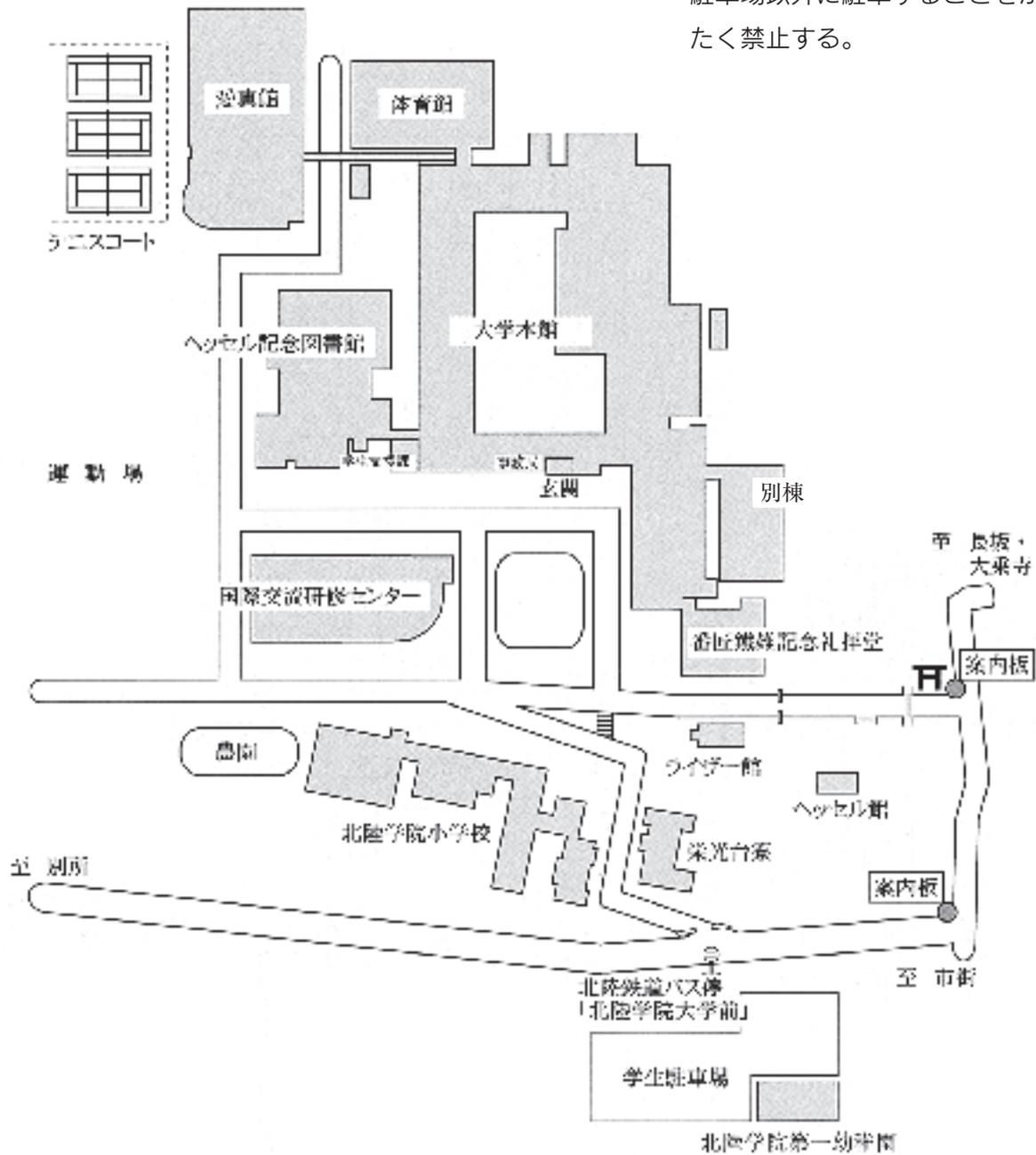
【図書館】
〈図書館事務〉
 司 書 飯野 昌子
 ヶ 大音師華子
 ヶ 黒杉 茂子

保 健 室
 校 医 野口 隆俊
学 寮(栄光台寮)
 金沢市三小牛町イ11番地
 寮 監 富岡 和久
地域教育開発センター
 センター長 田中 純一

キャンパス案内図

北陸学院三小牛キャンパス案内図

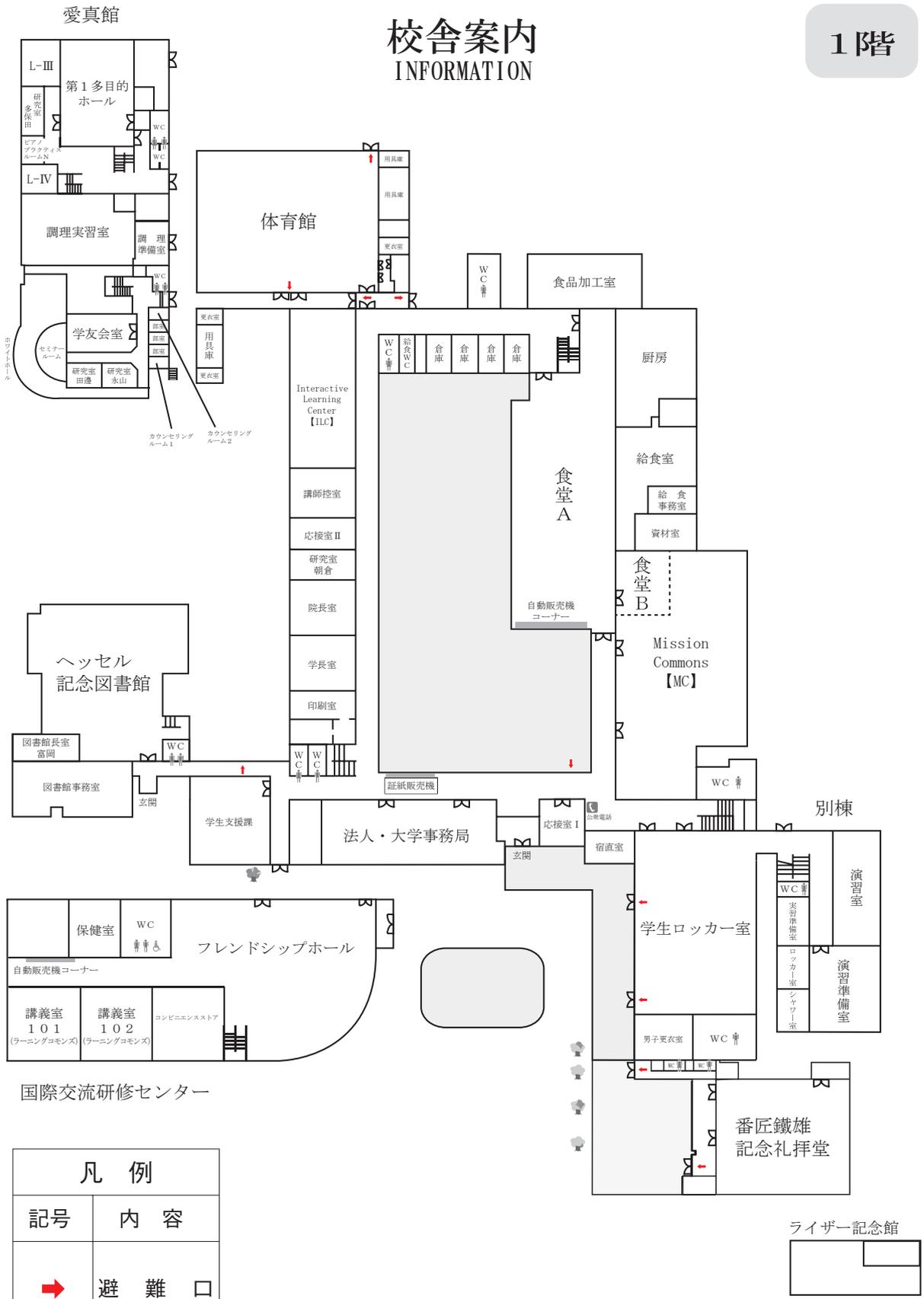
学生に関しては決められた学生
駐車場以外に駐車することをか
たく禁止する。



学内案内図

校舎案内 INFORMATION

1階

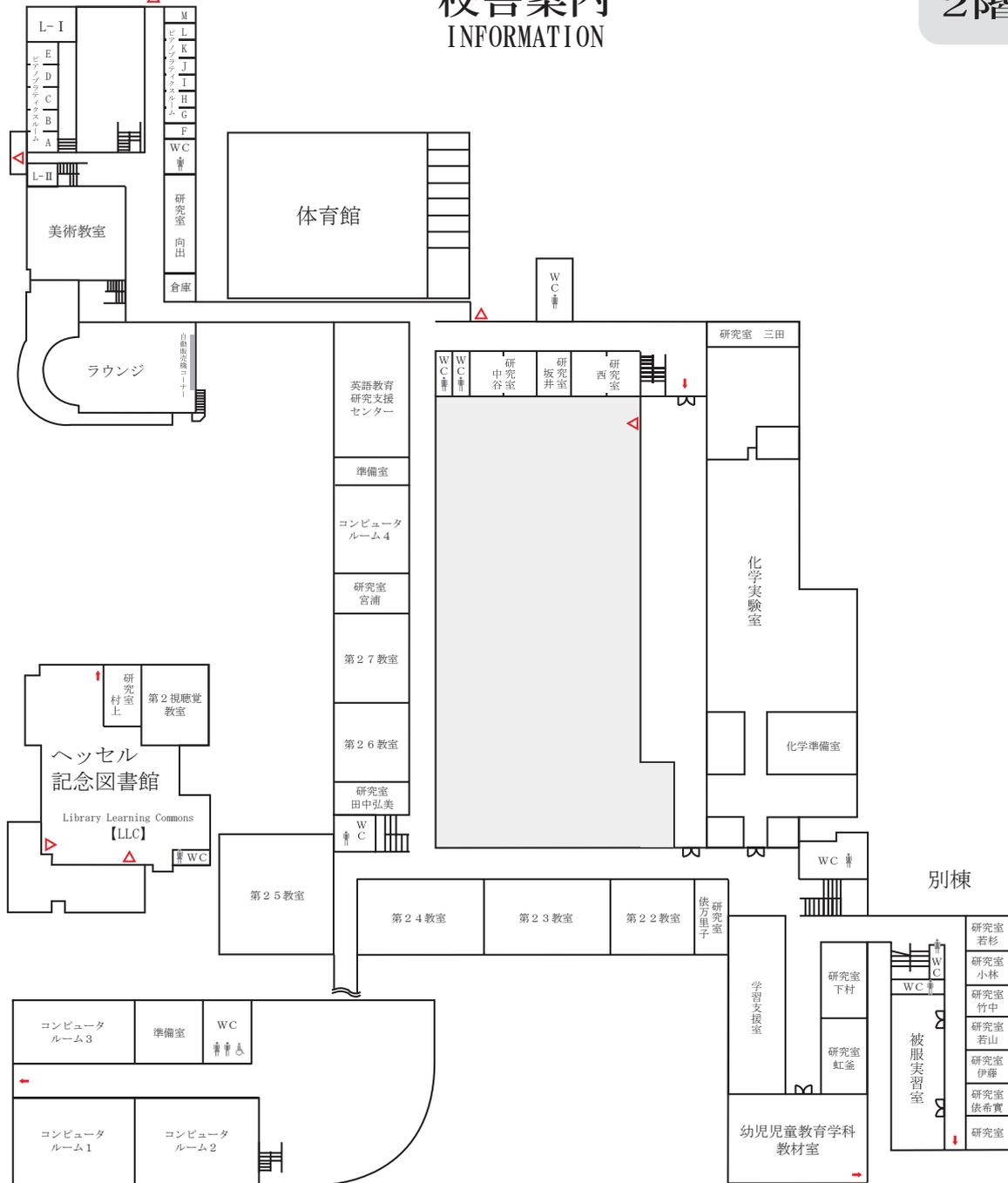


凡例	
記号	内容
➡	避難
△	避難はしご

愛真館

校舎案内 INFORMATION

2階



国際交流研修センター

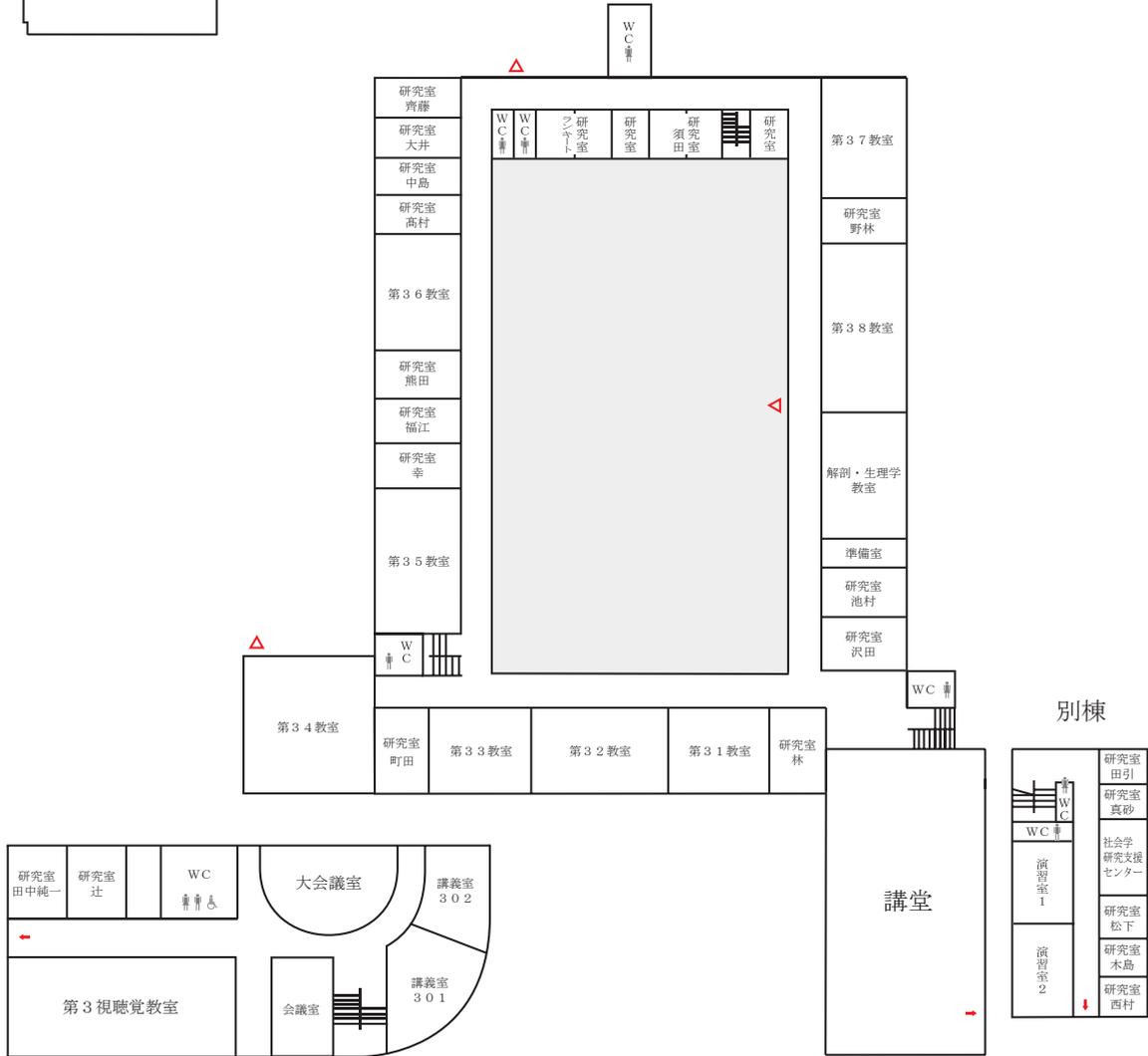
凡 例	
記号	内 容
➡	避 難 口
△	避 難 は し ご

愛真館



校舎案内
INFORMATION

3階



国際交流研修センター

凡 例	
記号	内 容
➡	避 難 口
△	避 難 は し ご

